

多摩川流域における 魚類民俗に関する研究

1996年

秋篠宮 文仁

(財)山階鳥類研究所総裁

目 次

1. 緒言 (秋篠宮文仁)	1
2. 多摩川 — その概観と歴史 — (宮田満・秋道智彌)	2
I 多摩川の概観	2
II 原始社会と多摩川	2
III 古代社会と多摩川	3
IV 中世社会と多摩川	4
V 近世社会と多摩川	4
VI 近代社会と多摩川	5
VII 引用文献	7
VIII 図	8
3. 多摩川の魚相 (多紀保彦)	9
I 出現魚種	9
II 生態区分と魚相	9
III 淡水魚相の変遷	11
IV おわりに	16
V 引用文献	17
VI 表	20
4. 魚名 (秋篠宮文仁)	30
I はじめに	30
II 多摩川中上流域に生息する魚類の標準和名についての語源と語意	32
III 多摩川中上流域に生息する魚類の東京都における呼称	41
IV 多摩川中上流域に生息する魚類の地方名 (聞き取りより)	47
V 地方名ハヤについて	48
VI おわりに	50
VII 引用文献および参考文献	50
VIII 表	53
5. 漁具と漁法 (漆戸登宇世)	59
I はじめに	59
II 漁具の分類	59
III 多摩川におけるウケの特徴	62
IV 漁 法	64
V 毒流し漁法	71
VI おわりに	72
VII 引用文献	73
VIII 図 表	74

6. 多摩川にまつわる民話・伝承（緒方喜雄）	91
I はじめに	91
II 調査地域	91
III 調査方法	91
IV 収集したサンプルの分類法	91
V モチーフ分類	92
VI 考察	94
VII おわりに	96
VIII 引用文献	97
IX 図	99
X 資料	104
7. 魚食文化（安藤達彦）	107
I はじめに	107
II 魚の処理と保存	108
III 日常生活と魚食習慣	109
IV 魚類に関するアンケート調査について	113
V 結果 — 多摩川をめぐる人と魚 —	114
VI 諸行事と魚食習慣	118
VII おわりに	120
VIII 引用文献	120
IX 図表	121
X 資料	138
8. 江戸期文書資料よりみた秋川の漁業（石井道郎）	139
I はじめに — 江戸期の秋川流域と文書資料の概要 —	139
II 御用鮎	141
III 鮎運上	144
IV 「御成り御用」と鵜漁	145
V 鮎出入	146
VI 引用文献	148
VII 図表	149
9. 謝辞	151
付録 1	153
2	347
3	397

1. 緒 言

日本人は古来より魚食の民族であり、縄文・弥生時代の貝塚からは約80種、古典にも約50種の魚類が登場する。これらの魚類はおもに食用にされたと思われるが、魚は食生活以外にも民間信仰、民話、伝承、祭事、絵画そして工芸などのごく一般的な対象物となっている。日本の文化や民俗を語るとき、魚はさけて通ることのできない事柄といっても過言ではあるまい。

しかし、これだけ私たち日本人の身近にある魚も「魚類民俗」という視点から覗いてみると、かならずしも十分な研究と資料の吟味がなされていない。まして淡水魚となると、アユ以外は断片的な資料があるのみである。急速に都市化や社会経済的変化が進む現代においては、淡水魚にまつわる伝承、口碑、魚食文化などは、残念ながら消滅しつつあるのが現状である。このような状況を目のあたりにすると、魚名方言や漁撈習俗をもふくめた民俗学的資料の採録・整理がいかに必要であるかを認識せざるをえない。本研究はそれら魚類民俗研究の一環として、都市化の急速な進展とともに魚をふくむ河川環境の変化がいちじるしい「多摩川」を対象地域として選定した。そして、河川流域住民と魚とのかかわりを民俗学および生物学の双方の立場より明らかにすることを目的とした。

本報告はとうきゅう環境浄化財団の研究助成をうけて 1992～1994年度に調査研究を実施した成果をまとめたものである（代表研究者：秋篠宮文仁、「多摩川流域における魚類民俗に関する研究」）。

幸いにして、魚名、漁法、魚食文化においていくつかの新たな知見を得ることができた。また、川にまつわる民話・伝承については、いままで散逸していたものを書籍、文献そして聞き取り調査から、その大半をひとつに収録することができた。これらの資料は、さしたる分析を施しているものではないが、将来の魚類民俗の研究に多少なりとも貢献できるのではないかと思われる。

おわりに、今次調査を礎として、日本国内はもとより近隣各国諸民族がはぐくんできた魚類民俗の比較研究をおこなうことを今後の課題としていく所存である旨をここに記しておきたい。

秋 篠 宮 文 仁

2. 多摩川 -その概観と歴史-

I 多摩川の概観

多摩川は山梨県と埼玉県の間境に位置する秩父山地の笠取山（標高1,941m）に発してほぼ南東へと流れ、神奈川県川崎市と東京都大田区の境に位置する羽田で東京湾にそそぐ。多摩川本流の最上流部は丹波川と呼ばれ、上流部から下流にかけて日原川、秋川、残堀川、浅川、野川などの支流をあわせもつ。全長は約123km、流域面積は約1,235km²である。

河川の断面図をみてもわかるように（図1）、笠取山源流部から中流域の青梅付近までは河川の勾配が急峻であるが、そのあたりから下流部は流れがゆるやかになる。

上流部が急峻であることを多摩川の河川次数から検討してみた。河川次数のきめかたは、最上流部の河川次数を1とし、同一次数の河川の合流地点より下流で河川次数が1つ増すものとする。異なった次数の河川合流点より下流では次数は大きいほうのまま変化しないものとする。このようにして、ひとつの水系のあらゆる支流を数値化し、その水系の特徴を示すことができる。

そこで、縮尺2万5千分の1の地形図（国土地理院発行）をもとに多摩川水系の河川次数を計算した。その結果、河川次数1の最上流部からすでに山梨県塩山市と北都留郡の境界周辺で4次河川となることがわかった。奥多摩湖下流部や青梅、羽村の河川次数は依然として4であり、支流の秋川との合流点よりはじめて5次河川となる。浅川との合流点より下流部も5次河川のままであり、そのまま東京湾まで河川次数は変化しない（図1）。このように多摩川水系では、上流部において多くの枝谷が存在し河川が急峻な勾配を流れ落ちていること、中流域より平坦になることが明らかになる。この点がかつて流量の季節的な変化をもたらし、洪水の大きな要因になったのである。

こうした水量の変化を克服し、水を下流部へ安定的に供給するための人為的な河川改変がおこなわれた。ひとつは中流域の羽村における羽村堰であり、玉川上水（1654年完成）を通じて江戸期以来、東京への水供給源となっている。

もうひとつは、多摩川上流部における小河内ダムの建設である。ダムによって面積4.3km²の人造湖である奥多摩湖ができ（1957年完成）、下流域への水道水と電力の供給源となって現在にいたっている。

以上のような自然的な特徴をもつ多摩川と流域の人々のかかわりを、時代的な変遷として原始、古代、中世、近世、近代別にふれることにする。

II 原始社会と多摩川

多摩川上流域および秋川流域の遺跡分布を概観すると、奥多摩湖底や御前山や浅間尾根などの標高の高い尾根などに遺跡が点在しており、山梨県方面との交流があったことがわかる（東京都教育委員会、1993）。奥多摩湖底遺跡群（奥多摩町原）は小河内ダムの建設に先立って実施された調査によって発見された15ヶ所の遺跡で、ほとんどが縄文時代の遺跡である。また、東京都内でもっとも標高の高い遺跡

として中之平遺跡（檜原村藤原）があるが、この遺跡から縄文時代早期の石鏃と捕獲した獲物を解体するときに用いた石匙が多く出土しており、ここが狩猟活動のキャンプ地であったことを想像させる（東京都教育委員会、1985）。

いっぽう、武蔵野台地は青梅市の東部あたりから広がっている。その南縁部を流れる多摩川の河岸段丘上に連なる遺跡は、圧倒的に縄文時代中期のものが多い。とくに羽村市より国立市あたりまでの左岸には2～5 kmくらいの間隔で集落遺跡が点在している。なかでも、山根坂上、羽ヶ田上遺跡（羽村羽東）、長沢遺跡（福生市福生）は、縄文時代中期の大集落遺跡である。山根坂上遺跡では、大型の河原石を弧状に配列した祭祀遺構が発見されている。また、長沢遺跡も縄文時代中期の勝坂期および加曾利期の集落であるが、段丘崖下の湧水を生活用水にしたものと思われる（和田、1993）。このような集落の隣接するありかたは、この時期の多摩川左岸の縄文人が恵まれた資源環境のもとにあったことを示すものであろう。

ところで、原始社会における多摩川の漁撈活動を実証的に示す資料が出土している遺跡としては、前田耕地遺跡（秋川市）と龍津寺東遺跡（昭島市）が注目される。前田耕地遺跡は、多摩川の支流・秋川と平井川に挟まれた秋留台地の東端に位置する縄文草創期の遺跡で、竪穴住居址内からサケの顎歯7,200点が検出されている（宮崎、1988）。このことから約1万年前、多摩川中流域にもサケが溯上し、人々が食料にしていたことがわかる。いっぽう、龍津寺東遺跡は縄文時代後期の遺跡で漁網用のおもりと考えられる石錘が多数出土し、後期になって多摩川での網漁法が盛んになったことを示している。

Ⅲ 古代社会と多摩川

多摩川下流、田園調布の台地一帯には、亀甲山古墳、宝来山古墳という全長100mを超えるふたつの大前方後円墳を中心に30基以上の古墳が集中している（東京都教育委員会、1993）。これらの古墳の築造は4世紀から5世紀ころのもので、多摩川下流のこの地域の、大和政権に服属した大豪族の存在を示すものである（東京都教育委員会、1985）。大和政権は渡来系技術集団をこの地域に送りこみ、多摩川中流域の沖積微高地に移住させ、高度な土木技術を駆使して、大規模な治水工事をおこない、広い水田を確保した。その後、大和政権は、6世紀前半に南武蔵の地域を完全に支配下にいれ、多摩川流域のほとんどの地を手にいれた。

武蔵国府のおかれた府中市、武蔵国分寺のおかれた国分寺市域やその近辺、さらに少し上流の国立市、立川市、昭島市そして多摩川右岸の日野市でも奈良・平安時代の住居址が数多く発見されている。このように、多摩川中流域では平安期に沖積地上の微高地への集落進出がみられる。そのなかでも右岸沖積地に発見された落川遺跡（日野市）は、4世紀末から11世紀末ごろまでにおよぶ多摩川流域でも最大の集落遺跡である（福田、1983）。現在も発掘調査がおこなわれているが、これまでの調査から古代、つまり7世紀から11世紀を通じて他国よりこの地に須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器、さらに舶載品である青磁・白磁が搬入され、また、文字が書ける階層の者が住んでいたことが判明しており、武蔵国の政治動向

と密接にかかわった集落と考えられている（福田，1988）。

IV 中世社会と多摩川

多摩川中流域の右岸にある南広間地遺跡（日野市）は、奈良・平安時代以降、さらに中世そして近世の水田遺構が発見されている。多摩川と浅川に挟まれた沖積地の微高地上には12世紀後半から14世紀代の大型の掘立柱建物をふくむ建物群があり、その建物群の南側の旧流路内に、同時期と思われる灌漑水利用の水田が存在している。水田は旧流路内に全面的に開発されていたようである。古代には水田に適さなかった土地も中世になると開田され流路内全面に展開するのである。

このような長い用水路を引き小区画水田を造るには、土木技術と大きな労働力が必要で、そこには人間の集団、つまり集落の存在が前提となる（梶原，1991）。さらに、この集団の労働力を統制するかなりの権力、たとえば武士団がこの地域には発生していたと考えられる。

武蔵国多摩郡は、多摩川流域をほとんどその郡域にふくむ（ただし、下流域は 橘樹、荏原両郡にふくまれる）広い地域である。そのため中世（近世にもおよぶ）には「多東郡」、「多西郡」に分郡されている。12世紀半ばの資料（中山白山神社（八王子市由木）所蔵如法経奥書、仁平 4（1154）年）には「多西郡」という郡名を確認することができる、これは公的にも私的にも広域名称として定着しているのである。そして、この両郡の名称の記された資料を現行の地図上におくと、多東郡は多摩川左岸に、多西郡は右岸に分布する（しかし、右岸の地域に多東郡と記された資料もみられる）ことが指摘できる。多摩川は多摩郡を多東と多西に分ける境界としての役割をもっていた（久保田，1993）といえるが、これは中世における関東の政治的中心である鎌倉の防衛にあたって、多摩川が第一線となる軍事上の意味をもつものであったと思われる。

V 近世社会と多摩川

徳川家康は天正 18（1590）年に江戸城に入城すると、すみやかに城下町の建設と、領国の整備に努める。多摩川の沿岸地域は、本格的には慶長 8（1603）年の徳川幕府の開設によって、日本の政治的中心地江戸の後背地となり、江戸の発展と密接な関係をもちつつ生産力を高めた地域である。

江戸は急激な発展をとげ、市域の拡大や人口の急増によって市民の水需要を満たすことが次第に困難となり、あらたな上水源の開発に迫られた。そこで多摩川より引水し、江戸市中に配水するために開削されたのが玉川上水で、多摩川中流左岸の羽村（現、羽村市）より取水し、江戸四谷大木戸まで掘り渡し完成したのが承応 3（1654）年といわれる。

玉川上水は江戸市民の飲用水として、大切に管理されたが、さらに、江戸町人はこの流れを利用して江戸と多摩川上流域の物資輸送をも考えている。これが実現したのは明治初期である。近世において多摩川上・中流で、河川舟運がおこなわれていた形跡は資料上ほとんどみいだせない。江戸湾よりの川舟

は是政村（現、府中市）あたりが終点であった。多摩川上・中流域の物資を江戸市中に輸送するには、多摩川が江戸市中より南に遠く離れてしまい、そうとうの迂回路となってしまうため、物資の輸送は青梅街道、五日市街道、甲州街道などの街道を利用していた。

しかし、江戸市中への舟運の計画は存在していた（多仁，1985）。この舟運は多摩川中流の玉川上水取水口に近い福生村（現、福生市）から江戸芝新堀まで、玉川上水に沿って新たに堀を開削するというものである。玉川上水は江戸市中への物資輸送の最短ルートであった。ところが、元文3（1738）年7月、野中新田を始めとする武蔵野の村々は、町人による通船を目的とする新堀計画に反対している（「玉川上水沿舟堀開鑿に対する願書」）。しかし、翌、元文4（1739）年12月には熊川村（現、福生市）と江戸の町人・五島屋次郎右衛門、熊沢屋市郎兵衛は契約書を取りかわしている（「入置申相対証文之事」）。その内容は「通船」のための新堀の開削にあたり、堀の川敷・土手敷となる土地の年貢などの公租負担を控除されるまでは計画者のほうで負担する。また、堀のため潰地となる土地の補償金は着工以前に支払う。もちろん、堀のために取りこわされる家居、諸施設についても補償ないしは造りかえをするというものである。その後、この計画がどのような経緯をたどったのかは不明であるが、結果としては成功しなかった。

享保年間（1716～35）八代将軍吉宗が幕府経済の窮状を克服するためにおこなった享保改革の主要政策のひとつは年貢増徴策であるが、その実施目標に新田開発がある。多摩川沿いの河原地もその対象となり、享保11（1726）年、代官岩手藤左衛門によって河原新田の開発が多摩川沿岸一帯で始まったといわれている（高崎，1993）。沿岸の村々は競って河原新田の開発に着手した。しかし、開発が活発化すると、河川の明確な境界とりきめがなかったことから、村々の間に地境争論が頻発した。また、河原新田の開発が推進され、新田用地として認められるようになった河原内の芝地は課税の対象地となった。開発期間中は低額ではあったが、負担する村財政には重くのしかかった。

さらに、河原芝地が株場としてさほど重要性のない村では、開発にたいする意欲はみられなかったが、自村で開発の意志がないのなら、他村へ開発を命じることも辞さないとする幕府の様子に、村々は開発にのりださざるをえなかった。これらの村々では新田開発に要する莫大な費用のねん出のために、村内の有力百姓たちによる開発を進めることによって、他村への河原芝地の引き渡しをくい止めた。このように村により河原地の新田開発に取り組む姿勢は異なるが、多摩川沿いの河原地の新田開発は進んだのである。

VI 近代社会と多摩川

首都東京の発展のあゆみは、水源確保のための水道拡張の歴史でもある。1926（昭和元）年、東京市会は「将来大東京実現ノ場合ヲ予想シ、本市上水道事業上百年ノ長計ヲ樹テラレタシ」との希望を表示しているが、昭和初年、東京に残された水源としては多摩川のみであった。しかし、すでに多摩川は玉川上水をはじめ各水道の用水として広く利用されており、流量の平均利用率（羽村地点における水道取

水口)は平均流量の6割にも達し、さらに給水量を得るには大きな容量の貯水池を設ける必要があった。そこで1931(昭和6)年に計画されたのが多摩川上流小河内村(現、奥多摩町)の河内に有効貯水量185,400,000m³の大貯水池を設置する案である(社団法人奥多摩湖愛護会,1982)。

ところが、小河内貯水池の新設計画にたいしては利害のおよぶ関係からさまざまな陳情書が東京府に提出された。田用水として利用している多摩川下流18ヶ町村長(西多摩郡福生村熊川村組合村長、南多摩郡日野町長外5村長、北多摩郡府中町長外9町村長)よりの田用水確保の陳情書、そして、とくに稲毛・川崎二ヶ領用水組合との水利上の係争はこの計画に大きな障害をもたらした。この稲毛・川崎二ヶ領用水組合とは、慶長2(1597)年に稲毛・川崎二ヶ領の代官小泉次太夫吉次によって開削工事がおこなわれ、多摩川右岸の稲毛領中之島村と宿河原村(現、川崎市)から取りいれ、稲毛領37ヶ村、川崎領23ヶ村、あわせて60ヶ村の耕地約2,000町歩をうるおす全長30kmの用水路で、享保年間(1716~35)に完成したといわれるものである(小林,1992)。

これら60ヶ村農民の水利権確保のための貯水池建設反対の主張は強硬で、結局、この交渉は東京府と神奈川県との交渉となり、協議は回を重ねた。しかし、両者の意見は対立したままで交渉はまったく進退きわまってしまった。このような状態の打開の斡旋にのりだしたのは内務省であるが、内務省のしめした裁定案にそって両者が再び協議を重ね、その結果、両者があゆみより協議が整い、申合書を取りかわし、調印したのはそれから4年後の1936(昭和11)年3月2日のことである。

この申合書の内容は「貯水池完成ノ上東京市ハ毎年5月20日ヨリ9月20日ニ至ル間、羽村堰ヨリ毎秒2立方米ヲ常時溢流セシムルモノトス(略)」、また、「東京府ヨリ両府県関係用水路ノ改修費トシテ、金2,300,000円ヲ支出セシムルモノトス、但シ右金額ノ内3分ノ2ハ神奈川県、3分ノ1ハ東京府ノ分トス」というものである。

貯水池の工事が始まったのは1938(昭和13)年である。しかし、おりから戦局は太平洋戦争へと突入しており、ダムコンクリートの打ちこみができるまでに工事は進んではいたものの、ついに1943(昭和18)年10月5日に工事は一時中断となった。そして、戦後、工事再開には反対もあったが1948(昭和23)年には東京都議会は貯水池工事再開を議決し、やがて工事を再開し、ついに1957(昭和32)年に完成した。計画より実に26年の月日を数えたのである(奥多摩町教育委員会,1964)。

Ⅶ 引用文献

- 奥多摩町郷土教育研究委員会（編）. 1964. 奥多摩郷土小誌, 奥多摩町教育委員会.
- 梶原 勝. 1991. 多摩川中流域における古代の水田開発. 「開発」と地域社会, 雄山閣出版.
- 久保田昌希. 1993. 多摩の東と西. 福生市史上巻, 福生市.
- 小林 孝雄. 1992. 近代川崎の民衆史, けやき出版.
- 社団法人奥多摩湖愛護会（編）. 1982. 湖底の村記録, 社団法人奥多摩湖愛護会.
- 多仁 照広. 1985. 江戸時代の熊川村と石川酒造文書の性格. 多満自慢石川酒造文書第一巻, 霞出版社.
- 高崎 勇作. 1993. 河原新田の開発と村境. 福生市史上巻, 福生市.
- 東京都教育委員会（編）. 1985. 東京の遺跡, 東京都教育委員会.
- 東京都教育委員会（編）. 1993. 多摩の遺跡展－発掘物語, 東京都教育委員会.
- 福田 健司. 1983. 日野市落川遺跡. 多摩のあゆみ vol. 31, 多摩中央信用金庫.
- 福田 健司. 1988. 日野市落川遺跡. 多摩のあゆみ vol. 52, 多摩中央信用金庫.
- 宮崎 博. 1988. 秋川前田耕地遺跡. 多摩のあゆみ vol. 52, 多摩中央信用金庫.
- 和田 哲. 1993. 原始・古代. 福生市史上巻, 福生市.

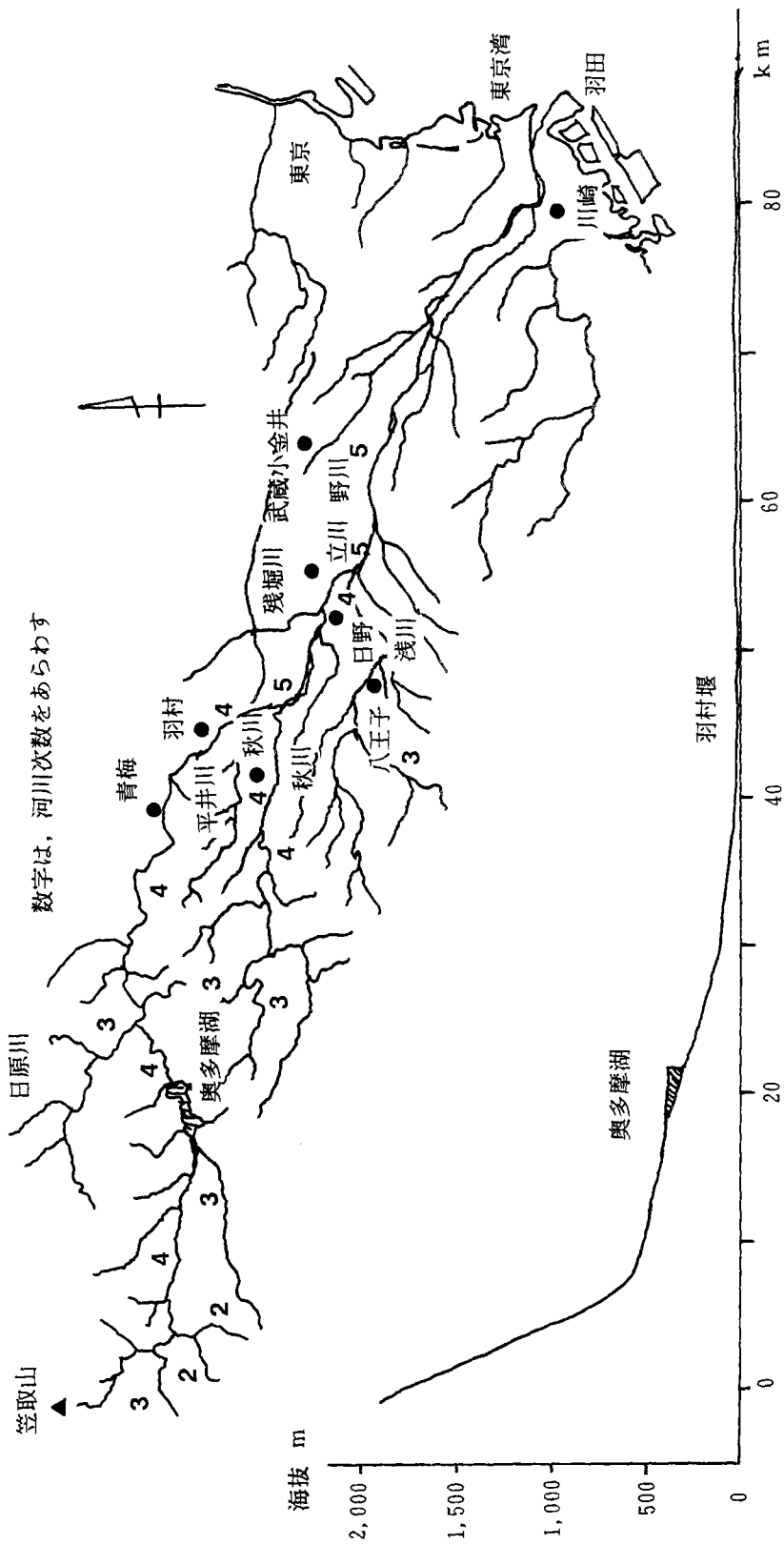


図1 多摩川の河川断面図と水系図

3. 多摩川の魚相

I 出現魚種

既往の文献（引用文献参照）にもとづく、源流部から河口域の羽田州・京浜運河周辺までの多摩川水系からこれまで報告された魚類は、無顎類のヤツメウナギ科をふくめ、120種・亜種である（表1）。この表では、記録はあるが同定が疑問なタカハヤとシナイモツゴの2種と、1930年の観察例が後年に発表されたのみのカワマス、および便宜上キンギョを除外し、他方、ヤリタナゴのように現在水系での存続が不明である在来種や、ヒメマスのように放流されたが定着しなかったことが確実な移植種をふくめて、これまでに出現が確認された魚種を、現在の生息状況のいかんにかかわらず、すべて列記してある。なお、ヒガイ類には現在カワヒガイ *Sarcocheilichthys variegatus variegatus*、ビワヒガイ *S. v. microoculus*、アブラヒガイ *S. biwaensis* の3種・亜種が認められている（Hosoya, 1982）が、多摩川水系における既往の報告ではほとんどが種を区別せず「ヒガイ」とのみ記載してあるので、ここではヒガイ類としてまとめ1種として数えた。また、ヨシノボリ類には、分類学的には未記載ではあるが数種・亜種の存在がいっばんに認められ、筆者らも多摩川でトウヨシノボリ、オオヨシノボリの2種類を確認しているが、ここではヨシノボリ類としてまとめた。

多摩川水系に出現するこれらの魚種のうち、半数以上の63種（コイ科のマルタをふくむ）は河口部あるいは下流域から記録された海産もしくは汽水性の魚類である。採集標本は仔稚魚期の個体が多い。淡水魚と呼ぶ魚種（第1次・第2次淡水魚、代理性淡水魚、遡河・降海性魚類）は、57種・亜種にとどまる。さらに、これらの淡水魚のうち多摩川流域の原産種と考えられるものは26種にすぎず、残余の魚種のうち14種は外国産種、17種は国内他地域の原産種である。

これらの淡水魚類を分類学的にみると、国内の他の水域と同様にコイ目とくにコイ科が優越し、原産26種のうちコイ科10種（マルタは汽水魚に分類）、ドジョウ科3種と、コイ目魚類が全体の半数をしめている。他は円口類のヤツメウナギ科1種、ウナギ科1種、サケ目3種（サケ科2、アユ科1）、ナマズ目2種（ギギ科1、ナマズ科1）、メダカ科1種、トゲウオ科1種、ハゼ科3種、カジカ科1種である。

II 生態区分と魚相

山地が多く平野の狭い日本の河川は一般に規模が小さく、大陸の河川と比較すると上・中流域に比して下流域が短い。多摩川もその例にもれず、その流程規模からみても河川形態からいっても、標準的な日本の川といえることができる。いま、多摩川を河川の性状と魚相その他の生物相によって生態的に区分すると（多紀, 1980をもとに一部変更・追加）、以下ようになる。

奥多摩湖：奥多摩湖とその流入河川

上流域：羽村取水堰より上流の多摩川本流（奥多摩湖を除く）、秋川・日原川全域

中流域：羽村取水堰から浅川合流点付近までの多摩川本流と浅川全域

下流域：浅川合流点付近から大師橋までの多摩川本流と、その間の流入支流

河口域：大師橋より下流の多摩川本流，海老取川，京浜運河

いま、これらの区域での魚種の出現をみると、表2のようになる。出現魚種がもっとも多いのは河口域であるが、前述のようにここでは海産・汽水産魚種が多く、記録された64種のうち、淡水魚のカテゴリーに入り得るものは、原産種のアユ、ウキゴリと外来種のナイルティラピアの3種のみである。

奥多摩湖からは、これまでに22種・亜種が記録されている。すべて淡水魚であるが、そのうち3種は外国産移植種であるニジマス、ハクレン、オオクチバス、8種はアマゴ、ワカサギなどの国産移入種で、原産種と考えられるのは半数の11種・亜種である。奥多摩湖は本来は上流域にふくまれる水域であるが、本流の最上流部がダムによって隔離されて出現した止水主体の水域であるため、在来種の魚種構成は貧弱であり、また外来種の放流がさかんにおこなわれてきたため、上流域とは魚相の特徴をやや異にしている。

上流域は溪流的な性格をもち、水生昆虫相も溪流性で複雑度が高い。区間内の上流部では陸封型のサケ科魚類（在来種のイwana、ヤマメ、移植種のアマゴ、ニジマスなど）やカジカなど溪流性・冷水性淡水魚が優越する。下流に向かうにしたがってウグイやアブラハヤ、フナ・コイ類などの多数のコイ科魚類や、ドジョウ科、ギギ科、ナマズ科などの魚種が出現して、多彩な魚相を呈するようになる。アユもこの区域の下流部にまで溯上する。上流域からは35種・亜種が記録されており、当然ながらすべてが淡水魚で、うち22種・亜種は原産種である。サケ科以外の外来種には、ヒガイ類、ムギツク、ゼゼラなどの日本産のコイ科魚種が多い。

羽村取水堰より下流は中流域に区分されるが、取水堰直下の本流では取水により水量が減少する。そのため堰の直下では、伏流水が湧出する場所に生息する魚類、水生昆虫、付着藻類は上・中流性を示すが、それ以外の場所では魚相はきわめて貧弱かつ下流的である。秋川合流点から下流では水量が回復し、調布堰付近までの本流と秋川では、サケ科、コイ科、ドジョウ科、ギギ科、メダカ科、ハゼ科など多数の魚種が出現し、豊富・多彩な魚相が展開する。中流域から記録された魚種は31種・亜種で上流域よりやや少ないが、ウナギなど当然出現すべき魚種の記録がないことと、つぎに述べるように、河川相からはより下方まで中流域的であることから、本水域の魚相は本来上流域下部と同等あるいはそれ以上の多彩性をもつものと考えられる。記録された在来種数は22種で、ウナギをくわえれば上流域と同数になる。水生昆虫相と付着藻類相の多様性・生産性も高い。

浅川合流点付近から大師橋までの下流域のうち、調布堰までの本流は河川形態ではあるていど中流的性格をもつ。しかし、この区間に入ると水生昆虫相と付着藻類相は極度に単純化し、下流の様相を呈するので、本報告では浅川合流点以下を下流域とした。ここでは、淡水魚類にくわえて、ニシン科（サッパ、コノシロ）、ボラ科（ボラ、メナダなど）、スズキ、ハゼ科（マハゼ、アベハゼ、ビリングなど）その他の海産・汽水産魚種がかなり多数（計18種）出現するようになる。淡水魚相では陸封型サケ科魚類が姿を消すが、主力をなすコイ科魚相は中流域と強い共通性を示す。

大師橋より下流の河口域では、マルタ以外のコイ科魚類は生息せず、多数の海産・汽水産魚類が出現するようになる。海産・汽水産魚種としては、ハゼ科魚類19種をふくむ計63種（マルタをふくむ）が記録されている。このなかには、エドハゼ、ヒモハゼなど水質が良好な砂泥底水域に生息する魚種がみられ、多摩川河口域の魚類生息環境がよくなっていることを示唆している（河野ほか、1994a）。また、この水域では各種の仔稚魚が採集され、砂泥底の州や葦原の岸が存在するこのような水域が、多くの魚種にとって仔稚魚の生育場所を提供しているものと考えられる（河野ほか、1994a）。

Ⅲ 淡水魚相の変遷

1. 概 観

日本の淡水魚相は、西日本とくに琵琶湖を中心とした本州中西部で種数が多くかなりの数の固有種が出現し、関東、東北、北海道と東・北に向かうにしたがって貧弱となる（多紀、1983ほか）。多摩川の淡水魚相もその例にもれず、古くから分布している在来魚種は多くない。過去の記録にもとづく今回の調査によれば、多摩川流域に分布する淡水魚類（マルタをのぞく）は計57種・亜種を数えるが、そのうち原産種と考えられるものは26種・亜種にすぎない。他の31種・亜種は移入種である。移入魚には、日本原産ではあるが東日本には分布しなかった種と、本来日本には分布していない外国産種がある。

後述するように、原産種のなかには、ヤリタナゴやイトヨのように、最近ほとんど採集されず絶滅が危惧される種がある。国産の移入種のなかにも、前述のヒメマスのように、放流したが繁殖・定着しなかった種類がかなりふくまれている。同様に、外国産移入種の場合も、チョウセンブナのように一時は定着・増加したがその後激減したものや、ソウギョやハクレンなど水系内では繁殖していないものがある。

外来魚の移入経路は、積極的な放流、無意識な放流、他の移植種苗への混入などさまざまであるが、近年では琵琶湖のアユ種苗に混じっての移入が顕著である。では、多摩川水系ではいつごろから移入種が多く生息するようになったのであろうか。

中村（1972）は、1927～1935（昭和2～10）年ごろの多摩川（羽村～丸子）に出現したと記憶される魚種として15種・亜種をあげているが、すべて原産種で移入種はふくまれていない（表3）。戦後比較的はやい時期の大島（1957）の報告をみると、多摩川下流から記録された20種（種分類は中村、1976により整理されたもの；フナ類は亜種を区別していないので1種とする）には、国産移入種であるツチフキとヒガイ（類）、外国産移植種であるカムルチーが報告されている。その後1975年までの記録（中村、1973；梶川、1974；東京都水産試験場、1975；中村、1976）をみると、国産の移入種では7種・亜種（アマゴ、カワムツ、ハス、タモロコ、ゲンゴロウブナ、シロヒレタビラ、ワカサギ）、外国産移入種では6種・亜種（ニジマス、ブラウントラウト、コクレン、ハクレン、タイリクバラタナゴ、カダヤシ）がくわわっている（表3）。1970年代にはいつて外来種が増加したことが読み取れる。外来種はその後増加し、最近ではオオクチバス（ブラックバス）の進出などが問題となっている。

2. 在来種

これまでに多摩川水系から報告された在来種と考えられる淡水魚種は、下記の26種・亜種である。出現魚種の項で述べたように、ヨシノボリ類は将来数種・亜種に正式に分類されるはずである。また、ヤリタナゴとイトヨは本水系ではすでに絶滅した可能性が強い。なお、在来種といっても、必ずしもすべてが自然の分散機構によって分布したものはかぎらず、なかには水田耕作の伝播といった人間の営為にもなって分散をとげた種がふくまれているものと思われる。

ヤツメウナギ科	スナヤツメ
ウナギ科	ウナギ
サケ科	イワナ、ヤマメ
アユ科	アユ
コイ科	ウグイ、アブラハヤ、オイカワ、カマツカ、モツゴ、ニゴイ、キンブナ、ギンブナ、コイ、ヤリタナゴ
ドジョウ科	ドジョウ、シマドジョウ、ホトケドジョウ
ギギ科	ギバチ
ナマズ科	ナマズ
メダカ科	メダカ
トゲウオ科	イトヨ
ハゼ科	ヨシノボリ（類）、ジュズカケハゼ、ウキゴリ
カジカ科	カジカ

いま、多摩川の在来淡水魚相を近隣の相模川と荒川のそれ（環境庁，1987にもとづく）と比較すると、魚種構成は類似しており、種・亜種数も、相模川で23種・亜種、荒川で24種・亜種と、ほぼ同レベルである。

3. 日本産移入種

前述のように、移入種の由来は、意図的・公的な移植、個人によるひそかな放流、他の移植魚への混入などさまざまであり、移入経路がよくわかっていない魚種が少なくない。また、移入したのち繁殖・定着にいたったものもあれば、定着せず移入時にのみ観察された魚種もある。

1) 意図的に移植がおこなわれ、水系内で再生産をおこなっている国産移入魚種

ワカサギ：1928（昭和3）年、霞ヶ浦からの授精卵を瀬田で孵化・放流したのが放流の始まりといわれる。奥多摩湖では、1958年以降、諏訪湖産の発眼卵の移植が毎年おこなわれており、流入河川では小規模ながら産卵が確認されている（東京都水産試験場，1982，1986）。

ホンモロコ：琵琶湖・淀川水系の固有種。多摩川水系では、1958年に琵琶湖産種苗が奥多摩湖に放流され、以後この湖で急激に増加したが、近年はやや減少傾向にある（東京都水産試

験場, 1977, 1979~1988, 1990~1993). 奥多摩湖以外では, 多摩川中流の拝島橋付近から記録されている(東京都水産試験場, 1986b).

タモロコ: 中部以西に原分布. 1939年~1950年の間, 滋賀・大阪産の種苗が東京府水産試験場によって放流されているが(中村, 1955, 1969ほか), 関東地方にはそれ以前から本種が生息しているところから, 関東のタモロコの分布起源は不明である.

ゲンゴロウブナ: 琵琶湖・淀川水系の原産だが, 関東地方に移植された歴史は古く, 黒田(1955; 中村, 1955により引用)によれば, 万治元年(1658年)にすでに滋賀県産のものが神田川に移植されている. フナ類はむかしは「フナ」と総称されることが多かったため, 本種の移植記録を特定することは困難であるが, 奥多摩湖では1958年に「ゲンゴロウブナ」が放流されており, 繁殖も確認されている(東京都水産試験場, 1960a, b). 多摩川水系では現在も種苗放流がおこなわれており, 奥多摩湖から下流域にまで広く出現している.

2) 意図的に移植されたが定着しなかった, あるいは定着が疑問な魚種

アマゴ: 中部地方以西に原分布. 奥多摩湖の湛水以前から丹波川などに放流されている(東京都水産試験場, 1982). 1971年以降も奥多摩湖, 多摩川本流, 日原川に放流されているが, 再生産がおこなわれているかどうかは疑問(加藤, 1979)である.

ヒメマス: ベニザケの陸封型で, 日本では北海道に原分布. 国内各地に移植され, 奥多摩湖にも1959, 1961, 1964年に本栖湖などからの稚魚が放流されたが, 生き残らなかった(東京都水産試験場, 1982a).

ヒガイ類: 前述のように3種・亜種に分類されるが, すべて中部以西に原分布している. ヒガイ類は, 関東地方へはまず1918(大正7)年に霞ヶ浦に移植され, 以後二次的に各地に移植され(中村, 1955), 多摩川水系からは大島(1957)によりはじめて報告された. 奥多摩湖には1963年に1度霞ヶ浦から移植されたが, 同年の釣獲記録以後は報告がない(東京都水産試験場, 1982). 産卵床となる淡水二枚貝がみられなくなっている本水系では, 繁殖は困難と思われる.

3) おそらく他魚種, とくに琵琶湖産アユの放流種苗への混入に由来し, 多摩川水系に定着した魚種

カワムツ: 中部以西の原産. 多摩川水系では1973年に初めて採集され, 主として秋川で再生産がおこなわれているもようである(水野・御勢, 1972; 東京都水産試験場, 1986). 本種にはA, Bの2型が識別されており(渡辺・水口, 1988). 東京都内では両型がみられるが, 現在のところ多摩川ではB型のみが採集されている.

ハス: 琵琶湖とその周辺の固有種. 多摩川水系では, 1972年にはじめて奥多摩湖から記録され, 同湖では再生産がおこなわれているもようである(中村, 1975; 東京都水産試験場, 1982a, b, 1986).

ツチフキ: アユ種苗のほか, タモロコやコイの種苗にも混入して西日本から移入したものと考え

られている（中村，1955）。砂・砂礫の河床が少なくなるにつれ，減少しつつある（東京都環境保全局水質保全課，1993）。

シロヒレタビラ：琵琶湖・淀川水系と濃尾平野に原分布。多摩川水系からは中村（1973）によりはじめて確認された。

スジシマドジョウ：西日本の原産。1981年以来奥多摩湖から採集されている（東京都水産試験場，1982，1988，1990，1992，1993）ので，繁殖しているものと思われる。移入経路は定かではない。

4) 移入はしたが経路・再生産の有無が不明な魚種

ゼゼラ：西日本に分布し，少なくとも琵琶湖・淀川水系と濃尾平野のものは原分布。秋川（加藤，1979；東京都水産試験場，1986）と奥多摩湖（東京都水産試験場，1982）から記録されているが，その後の記録はない。

ムギツク：西日本の原産。最近（1986，1988）平井川で生息が確認された（東京都環境保全局水質保全課，1988，1990）。

スゴモロコ：琵琶湖周辺の固有亜種。関東地方に移植されたが，多摩川水系では調布堰付近で1個体の採集記録があるのみである（東京都環境保全局水質保全課，1993）。

以上，多摩川水系に移入した国産種は圧倒的にコイ科が多く，その出現は意図的な放流とアユ種苗への混入に由来する場合が多い。なお，多摩川本流ではサケの孵化稚魚の放流もおこなわれており，ときに成魚の溯上もみられる。

4. 外国産移入種

1) 意図的に移植がおこなわれ，水系内で再生産をおこなっている外国産移入魚種

ニジマス：多摩川上流では1918年より放流がおこなわれており（西村，1979），その後も奥多摩湖などに毎年かなりの数量が放流されている。上流部では再生産も確認されている（加藤，1985）。

オオクチバス：奥多摩湖では1977年にはじめて採集され，その後繁殖が確認されている（東京都水産試験場，1982）。本流部からも採集されることがあるが，繁殖の記録は見当たらない。移植記録はなく，また他魚種への混入も考えにくいところから，何者かがひそかに移植したものと思われる（東京都水産試験場，1982，1986）。

2) 意図的に移植されたが，定着状態が不明な外国産移入魚種

ブラウントラウト：漁業協同組合などによって1988年に多摩川本流，1989年にフィッシングセンターに試験放流され（東京都水産試験場，1990，1991），生態系への影響が懸念されている（東京都環境保全局水質保全課，1990）。なお，過去にはカワマスも放流されたが，定着しなかった。

3) 意図的に移植されたが、再生産をおこなっていない外国産移入種

ソウギョ：中国原産。日本への移植の歴史は古く、明治・大正時代にさかのぼり（丸山ほか，1987），利根川水系で繁殖している。多摩川水系では，1962年に利根川産の稚魚が奥多摩湖に放流されたのが最初で，その後断続的な採集記録はあるが，繁殖・定着していない（東京都水産試験場，1982，1986）。

コクレン：中国原産。多摩川水系では1報告例（梶川，1974）があるのみである。

ハクレン：中国原産。ソウギョと同時期に江戸川産の稚魚が放流されたが，その後の経過はソウギョと同様である（東京都水産試験場，1982）。

4) 分布経路は不明だが，再生産をおこなっている外国産移入魚種

カダヤシ：中米を中心に分布。大正時代から日本に導入されているが（丸山ほか，1987），東京近辺では中村（1955）によってはじめてその生息が確認された。多摩川水系への移入時期はあきらかではないが，1973年には丸子橋付近とその下流域で採集され（東京都水産試験場，1974），以後連続的に報告されている。

カムルチー：アジア大陸東北部の原産。大正末期に日本に運ばれ，現在では国内各地，とくに利根川水系に多い（丸山ほか，1987）。多摩川水系からは，1957年（Oshima, 1957）以来断続的に報告されている。

チョウセンブナ：中国・朝鮮半島の原産。やはり大正時代に日本へもたらされ，昭和の初期にかけて分布を広げたが，現在の生息地はごく限られている（丸山ほか，1987）。

5) 移入経路・再生産の有無ともに不明な外国産移入種

タイリクバラタナゴ：1942年に中国から運ばれたソウギョ，ハクレンを主とする種苗のなかではじめて発見された（中村，1955）。関東平野への移入時期はそのころと推測される。多摩川水系では Oshima（1957，バラタナゴと記載）以来断続的に報告されているが，水系内には産卵床となる淡水二枚貝類がみられなくなっているところから，繁殖は困難であると思われる（君塚・多紀，1985）。

グッピー：おそらく飼育魚が逸脱したものであろう。2例の報告があるのみである（東京都水産試験場，1987b；東京都環境保全局水質保全課，1993）。

ナイルティラピア：わずかに2例の報告があるのみである（多紀，1980；東京都水産試験場，1986a）。

カワズメ：1例のみの報告がある（東京都環境保全局，1982）。

ブルーギル：1例の報告があるのみである（東京都水産試験場，1987b）。

5. 奥多摩湖（小河内ダム）の出現による魚相の変化

小河内ダムは1938（昭和13）年に着工され1958（昭和33）年に完成，1960（昭和35）年5月に満水となった。このダムの出現による下流部での魚類の生息環境と生息状況の変化について，東京都水産試験

場（1982b, 1986b）の調査にもとづいて概観してみたい。

ダムの出現によって顕著に変化した水質要因は水温と濁度であり、魚類の生息に大きな影響を与えているのは前者である。このダムで常時使用されている発電用取水管（発電に使用された水は水道用として放出）は、有効水深73.5mに位置している。取水口と放水口付近の水温は7～14℃で、湖の表層水や付近の河川にくらべてみると、とくに夏季の水温が著しく低い。そのためダム下の河水の水温低下が起こり、その影響はかなり下流にまでおよんでいる。たとえば羽村取水堰付近では、ダムの構築前は水温が24℃まで上昇していた（8月下旬）が、構築後は夏季でも16～18℃で横ばい状態になるという。ダムの影響は水温の低下ばかりでなく、著しい水温変動をももたらしている。最近では冷水対策として表層水の放流が試験的におこなわれているが、すべてを解決することは困難と思われる。

水温という生息環境の変化は、魚類の分布にも影響する。多摩川上流部（昭和橋～羽村取水堰）におけるダムの湛水前と湛水後の生息魚種を比較すると、以下ようになる。

- 1) 湛水後新たに出現した魚種：アマゴ、コイ、フナ、タモロコ、モツゴ
- 2) 湛水後みられなくなった魚種：ギバチ、ナマズ
- 3) 湛水後分布域が下流へ移行した魚種：オイカワ、カマツカ、ドジョウ
- 4) 湛水前後で分布域があまり変化していない魚種：スナヤツメ、ウナギ、ヤマメ、アユ、ウグイ、シマドジョウ、カジカ

上記の区分のうち、1)の魚類は放流魚あるいはそれに混入して移入したものであり、水温変化と直接の関連性はない。4)の魚種は比較的上流の低水温域にまで生息が可能な種類である。これにくらべ、2)と3)の魚種は、一般により水温の高い水域に生息するものである。つまり、小河内ダムの出現とそれにともなう水温低下によって、上流域では冷水性の魚類が優先し、より温水性の魚種は下流に移動したものと結論されよう。

IV おわりに

むかしの多摩川にはあまり多くの種類の淡水魚は生息していなかった。東日本の典型的な中規模河川として、その比較的単純な淡水魚相を代表する魚はアユであった。

その後、多摩川水系の魚種は次第に増えていった。淡水魚の分散は、本来は河川の争奪、氾濫など自然の変化によってもたらされるものであるが、人間社会が出現してからのちは、ときには意図的に、またあるときは非意図的に、人の営為によって分布が広がるようになった。前述のように、淡水魚は西日本に多く東日本で少ない。地質学的にみれば、西日本の淡水魚要素は現在でも東進中ということができようが、西日本の魚の東日本への進入は人間の時代になってから急激に進行している。

多摩川では、おそらく大正中期あるいは昭和の初期までは、ゲンゴロウブナやヒガイ類は生息していなかった。両者とも移植起源の魚種である。積極的な移植や、移植魚への混入によって多摩川水系に生息するようになった魚種は、ほかにも多数ある。この水系から記録された淡水魚57種・亜種のうち、在

来種は半数以下の26種・亜種にとどまり、残りの31種・亜種は国内他地域あるいは国外からの移入種である。ただし、多摩川水系からの出現が報告されたこれらの魚種が、すべてこの水系に定着したわけではない。たとえば上記のヒガイ類の最近の出現記録は少なく、1988年以降は報告がない。産卵床となる二枚貝がなくなったため、繁殖が不可能になったものと考えられる。在来種のヤリタナゴもおそらく同様の運命をたどって水系内では激減し、絶滅が危惧されている。湧水など生息場所の激減のため、イトヨも激減あるいは消滅のおそれが強い。外国産種でも、ソウギョのように水系内では繁殖できず定着していない魚種や、チョウセンブナのように、再生産はしていても生息量がごく少ない種類が少なくない。他方、移入種のなかには、生態的地位を確立して在来魚相を圧迫している魚種もある。奥多摩湖のオオクチバスはその典型例である。

このようにして、いっぼうでは在来種と外来種を減少あるいは消滅させ、他方では外来種を定着させながら、多摩川水系の淡水魚相は変貌をとげていった。ここでやや心休まることは、近隣の他の河川にくらべ、勢力を広げている外来種が多くないことである。これには、純下流的な様相をもつ水域が短いという多摩川の特徴がかかわっているものと考えられる。

他方、多摩川の河口域には多数の海産・汽水産魚類の仔稚魚が生息している。東京湾は、一般に考えられている以上に豊かな海であるとよくいわれる。この豊かな仔稚魚相は、多摩川下流域・河口域から東京湾内湾にかけての魚類生息環境が、一時からくべて大幅に良化したことを物語っているものと思われる。

V 引用文献

- Oshima, M. 1957. Note on the fishes collected in the down stream of Tama River, with descriptions of two new species. Japan. J. Ichthyol., 6: 14 -19.
- 梶川謙三. 1973. 府中市の魚類. 府中市自然調査報告. 第4次調査. 東京都府中市教育委員会, 70-73.
- 加藤憲司・飯村利男. 1981. 多摩川の現況. 河川生態に関する研究. 川の生物と都民とのかかわりあいに関する研究 (多摩川水系). 東京都水産試験場奥多摩分場・東京都総務局, pp. 142 -183.
- 加藤憲司・飯村利男. 1981. 平井川の水生物とその生息環境に関する研究. 多摩地域における自然環境と動植物生態との関連に関する調査研究. 東京都総務局, pp. 90-117.
- 加藤憲司. 1985. 多摩川水系上流部におけるニジマスの自然産卵. 日水誌, 51: 1947-1954
- 環境庁. 1987. 第3回自然環境保全基礎調査. 河川調査報告書. 関東版. 環境庁, (通しページなし).
- 君塚芳輝・多紀保彦. 多摩川下流の魚類相. 大田区の生物. 大田区自然環境保全基礎調査報告書, pp. 7
- 君塚芳輝・多紀保彦. 大田区の河川域に出現する魚類. 水生物調査結果報告書. 東京都大田区環境部環境保全課, pp. 1-18.
- 建設省河川局治水課. 1992. 平成2・3年度河川水辺の国勢調査結果 (魚介類調査編), 292 pp.

- 河野 博・渋川浩一・多紀保彦. 1994a. 多摩川河川域の魚類相－Ⅰ. 河口域. 水生生物調査結果報告書. 東京都大田区環境部環境保全課, pp. 19-46.
- 河野 博・渋川浩一・多紀保彦. 1994b. 多摩川河川域の魚類相－Ⅱ. 洗足池・丸子川河口域. 水生生物調査結果報告書. 東京都大田区環境部環境保全課, pp. 47-54.
- 後藤 晃. 1989. カジカ類. 川那部浩・水野信彦(編). 日本の淡水魚, pp654-668. 山と溪谷社.
- 佐々木真一. 1982. 魚類. 多摩川の水生物. 福生市文化財調査報告(14): 19-29.
- 鈴木幹朗. 1970. 府中市の魚類. 府中市自然調査報告春秋編. 府中市教育委員会, pp. 67-70, pls.
- 鈴木幹朗. 1971. 府中市の魚類. 府中市自然調査報告第2次調査. 府中市教育委員会, pp. 39-44, pls.
- 多紀保彦. 1980. 多摩川水系における水生生物生産システムの解析と生産力のアセスメント－多摩川水系のありうべき魚類の生産力－. とうきゅう環境浄化財団, 33pp.
- 多紀保彦. 1982. 日本の淡水魚. 環境庁. 日本の自然環境, p. 67.
- 東京都. 1979. 第2回自然環境保全基礎調査報告書. 東京都, 49pp.
- 東京都環境保全局. 1982. 魚類. 昭和55年度水生生物調査結果(中間報告). 東京都環境保全局水質保全部水質監視課, pp. 188-211.
- 東京都環境保全局. 1983. 魚類. 昭和56年度水生生物調査結果(中間報告その2). 東京都環境保全局水質保全部水質監視課, pp. 72-75, 164-171.
- 東京都環境保全局水質保全部. 1988, 1989, 1990, 1991, 1992, 1993, 1994. 昭和61~63, 平成1~4年度水生生物調査結果報告書.
- 東京都水産試験場. 1960, 1962~1964, 1971 a, b, 1972, 1974a, c, 1975 a, 1976, 1977, 1978, 1979, 1980, 1981, 1982a, 1983, 1984, 1985, 1986a, 1987a, 1988, 1990 a, 1991, 1992, 1993, 1994. 昭和34, 36~38, 44~63, 平成1~4年度事業報告.
- 東京都水産試験場. 1974 b. 多摩川の魚類生態調査Ⅰ. 昭和48年及び昭和49年冬における調査結果について. 東水試調査研究要報(112), 10pp.
- 東京都水産試験場. 1975 b. 多摩川の魚類生態調査Ⅱ. 昭和49年の調査結果及び総合解析について. 東水試調査研究要報(118), 131pp.
- 東京都水産試験場. 1982 b. 移植魚を中心とした奥多摩湖の魚類相について. Ⅰ. 東水試調査研究要報(157), 42pp.
- 東京都水産試験場. 1986 b. 多摩川水系中・上流域における魚類の分布からみた汚濁指標魚種の検討. 東水試調査研究要報(189), 111pp.
- 東京都水産試験場. 1987 b. 多摩川におけるアユの遡上生態等についてⅡ. 東水試調査研究要報(194), 76pp.
- 東京都水産試験場. 1990 b. 東京都内湾生息環境調査報告書(都内湾における底生性稚魚の出現と生息環境). 東水試調査研究要報(201), 102pp.

- 東京都多摩川公害事務所. 1976. 多摩地域における中小河川の魚類調査結果. 東京都多摩川公害事務所
監視課, 38pp.
- 中坊徹次. 1993. カジカとウツセミカジカ. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 — 全種の同定 — ,
p. 1301. 東海大学出版
- 中村守純. 1955. 関東平野に繁殖した移植魚. 日本動物地理学会会報, 16-19:333-337.
- 中村守純. 1969. 日本のコイ科魚類. 資源科学シリーズ4. 緑書房, viii+iv+455 pp., pls.
- 中村守純. 1973. 魚類. 多摩川流域自然環境保全調査報告書. 資源保護財団, pp16-29, pls.
- 中村守純. 1976. 多摩川水系魚相調査. 多摩川流域自然環境保全調査報告書, 第2次調査. とうきゅう
環境浄化財団, pp. 27-74, pls.
- 長峯嘉之・安原健允. 1982. 多摩川の河口域で採取された魚類について. 三島生物(6): 1-6.
- 西村和久. 1979. 昔の多摩川. 河川生態に関する研究 — 川の生物と都民とのかかわりあいに関する研
究 — (多摩川水系). 東京都水産試験場奥多摩分場, 東京都総務局, pp129-135.
- 野口光世. 1982. 奥多摩湖を中心とした多摩川上流における淡水魚類の生態について. とうきゅう環境
浄化財団, 19 pp., pl.
- 日野市. 1979. 日野の動物ガイドブック. 日野市, 205 pp.
- 平山南見子・古塩英世・大嶋道孝・山田茂. 1985. 多摩川及び鶴見川系における魚類分布の調査研究
(第3報). 川崎市公害研究所年報(12): 56-70.
- 府中市. 1984. 府中の野鳥・動物ガイドブック. 府中市, 225 pp.
- Hosoya, K. 1982. Classification of the cyprinid genus *Sarcocheilichthys* from Japan,
with description of a new species. Japan. J. Ichthyol., 29: 127-138.
- 細谷和海. 1989. タモロコ, スゴモロコ. 川那部浩・水野信彦(編). 日本の淡水魚, pp 298-299.
山と溪谷社.
- 真山紘. 1989. サケ. 川那部浩・水野信彦(編). 日本の淡水魚, pp 210-225. 山と溪谷社.
- 松尾清考・平山南見子・山田茂. 1980. 多摩川及び鶴見川系における魚類分布の調査研究(第3報).
川崎市公害研究所年報(8): 83-90.
- 丸山為蔵・藤井一則・木島利通・前田弘也. 1987. 外国産新魚種の導入経過. 水産庁研究部資源課・水
産庁養殖研究所, 157 pp., pls.
- 水野信彦・御勢久右衛門. 1972. 河川の生態学. 生態学研究シリーズ-2. 築地書館, 245pp.
- 渡辺昌和・水口憲哉. 1988. カワムツ *Zacco temminckii* の2型について. I形態. 昭和63年度日本魚
類学会年会講演要旨.

VI 表

表1 多摩川水系からこれまでに記録された魚種

カワマス、キンギョをのぞく。複数種があるが文献では種を識別していない魚種は類として記載した。

ヤツメウナギ目	
ヤツメウナギ科	
(1) スナヤツメ	<i>Lethenteron reissneri</i> (Dybowski)
エイ目	
トビエイ亜目	
アカエイ科	
(2) アカエイ	<i>Dasyatis akajei</i> (Mukker & Henle)
カライワシ目	
カライワシ科	
(3) カライワシ	<i>Elops hawaiiensis</i> Regan
ウナギ目	
ウナギ亜目	
ウナギ科	
(4) ウナギ	<i>Anguilla japonica</i> Temminck & Schlegel
アナゴ科	
(5) マアナゴ	<i>Conger myriaster</i> (Brevoort)
ニシン目	
ニシン亜目	
カタクチイワシ科	
(6) カタクチイワシ	<i>Engraulis japonicus</i> (Houttuyn)
ニシン科	
(7) マイワシ	<i>Sardinops melanostictus</i> (Temminck & Schlegel)
(8) サッパ	<i>Sardinella zunasi</i> (Bleeker)
(9) コノシロ	<i>Konosirus punctatus</i> (Temminck & Schlegel)
サケ目	
キュウリウオ亜目	
キュウリウオ科	
(10) ワカサギ	<i>Hypomesus transpacificus nipponensis</i> McAllister
サケ亜目	
サケ科	
(11) イワナ	<i>Salvelinus leucomaenis</i> (Pallas)
(12) ヤマメ	<i>Oncorhynchus masou masou</i> (Brevoort)
(13) アマゴ	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i> Jordan & McGregor
(14) サケ	<i>Oncorhynchus keta</i> (Walbaum)
(15) ヒメマス	<i>Oncorhynchus nerka nerka</i> (Walbaum)
(16) ニジマス	<i>Oncorhynchus mykiss</i> (Walbaum)
(17) ブラウントラウト	<i>Salmo trutta</i> Linnaeus

表1 つづき

アユ科		
(18) アユ		<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i> Temminck & Schlegel
コイ目		
コイ科		
(19) ウグイ		<i>Tribolodon hakonensis</i> (Gunther)
(20) マルタ		<i>Tribolodon brandti</i> (Dybowski)
(21) アブラハヤ		<i>Phoxinus lagowskii steindachneri</i> Sauvage
(22) オイカワ		<i>Zacco platypus</i> (Temminck & Schlegel)
(23) カワムツ		<i>Zacco temminckii</i> (Temminck & Schlegel)
(24) ハス		<i>Opsarichthys uncirostris uncirostris</i> (Temminck & Schlegel)
(25) ヒガイ類		<i>Sarcocheilichthys</i> spp.
(26) ムギツク		<i>Pungtungia herzi</i> Herzenstein
(27) カマツマ		<i>Pseudogobio esocinus esocinus</i> (Temminck & Schlegel)
(28) ツチフキ		<i>Abbottina rivularis</i> (Basilewsky)
(29) ゼゼラ		<i>Biwia zezera</i> (Ishikawa)
(30) タモロコ		<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i> (Temminck & Schlegel)
(31) ホンモロコ		<i>Gnathopogon caeruleus</i> (Sauvage)
(32) スゴモロコ		<i>Squalidus chankaensis biwae</i> (Jordan & Snyder)
(33) デメモロコ		<i>Squalidus japonicus japonicus</i> Sauvage
(34) モツゴ		<i>Pseudorasbora parva</i> (Temminck & Schlegel)
(35) ニゴイ		<i>Hemibarbus labeo barbatus</i> (Temminck & Schlegel)
(36) ソウギョ		<i>Ctenopharyngodon idellus</i> (Valenciennes)
(37) コクレン		<i>Aristichthys nobilis</i> (Richardson)
(38) ハクレン		<i>Hypophthalmichthys molitris</i> (Valenciennes)
(39) ギンブナ		<i>Carassius auratus langsdorfii</i> Cuvier & Valenciennes
(40) キンブナ		<i>Carassius auratus</i> subsp.
(41) ゲンゴロウブナ		<i>Carassius cuvieri</i> Temminck & Schlegel
(42) コイ		<i>Cyprinus carpio</i> Linnaeus
(43) ヤリタナゴ		<i>Tanakia lanceolata</i> (Temminck & Schlegel)
(44) シロヒレタビラ		<i>Acheilognathus tabira tabira</i> Jordan & Thompson
(45) タイリクバラタナゴ		<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i> (Kner)
ドジョウ科		
(46) ドジョウ		<i>Misgurnus anguillicaudatus</i> (Cantor)
(47) シマドジョウ		<i>Cobitis biwae</i> Jordan & Snyder
(48) スジシマドジョウ		<i>Cobitis</i> sp.
(49) ホトケドジョウ		<i>Lefua echigonia</i> Jordan & Richardson
ナマズ目		
ギギ科		
(50) ギバチ		<i>Pseudobagrus tokiensis</i> Doderlein

表1 つづき

ナマズ科	
(51) ナマズ	<i>Silurus asotus</i> Linnaeus
ダツ目	
メダカ亜目	
メダカ科	
(52) メダカ	<i>Oryzias latipes</i> (Temminck & Schlegel)
ダツ亜目	
ダツ科	
(53) ダツ	<i>Strongilura anastomella</i> (Valenciennes)
サヨリ科	
(54) クルメサヨリ	<i>Hyporhamphus intermedius</i> Cantor
カダヤシ目	
カダヤシ亜目	
カダヤシ科	
(55) カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i> (Baird & Girard)
(56) グッピー	<i>Poecilia reticulata</i> Peters
トゲウオ目	
トゲウオ亜目	
トゲウオ科	
(57) イトヨ	<i>Gastrosteus aculeatus</i> (Linnaeus)
ヨウジウオ亜目	
ヨウジウオ科	
(58) ヨウジウオ	<i>Syngnathus schlegeli</i> Kaup
トウゴロウイワシ目	
トウゴロウイワシ科	
(59) トウゴロウイワシ	<i>Hypoatherina valenciennesi</i> (Bleeker)
ボラ目	
ボラ科	
(60) ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i> Linnaeus
(61) メナダ	<i>Chelon haematocheilus</i> (Temminck & Schlegel)
(62) セスジボラ	<i>Chelon affinis</i> (Gunther)
(63) ナンヨウボラ	<i>Moolgarda persuii</i> (Valenciennes)
スズキ目	
キノボリウオ亜目	
ベロンティア科	
(64) チョウセンブナ	<i>Macropodus opercularis</i> (Linnaeus)
タイワンドジョウ亜目	
チワンドジョウ科	
(65) カムルチー	<i>Channa argus</i> (Cantor)

表1 つづき

スズキ亜目

アジ科

(66) アジ *Trachurus japonicus* (Temminck & Schlegel)

(67) ロウニンアジ *Caranx ignobilis* (Forsskal)

ウミタナゴ科

(68) ウミタナゴ *Ditrema temmincki* Bleeker

スズキ科

(69) スズキ *Lateolabrax japonicus* (Cuvier)

ヒイラギ科

(70) ヒイラギ *Leiognathus nuchalis* (Temminck & Schlegel)

クロサギ科

(71) クロサギ *Gerres oyena* (Forsskal)

タイ科

(72) クロダイ *Acanthopagrus schlegeli* (Bleeker)

サンフィッシュ科

(73) オオクチバス *Micropterus salmoides* (Lacepede)

(74) ブルーギル *Lepomis macrochirus* Rafinesque

カワスズメ科

(75) ナイルティラピア *Oreochromis niloticus* (Linnaeus)

(76) カワスズメ *Oreochromis mossambicus* (Peters)

キス科

(77) シロギス *Sillago japonica* Temminck & Schlegel

シマイサキ科

(78) シマイサキ *Rhynchopelates oxyrhynchus* (Temminck & Schlegel)

(79) コトヒキ *Terapon jarbua* (Forsskal)

ニベ科

(80) ニベ *Nibea mitsukurii* (Jordan & Snyder)

(81) シログチ *Arygrosomus argentatus* (Houttuyn)

ハゼ亜目

ハゼ科

(82) サツキハゼ *Parioglossus dotui* Tomiyama

(83) スジハゼ *Acentrogobius pflaumi* (Bleeker)

(84) ヒメハゼ *Favonigobius gymnauchen* (Bleeker)

(85) アベハゼ *Mugilogobius abei* (Jordan & Snyder)

(86) マサゴハゼ *Pseudogobius masago* (Tomiyama)

(87) ゴクラクハゼ *Rhinogobius giurinus* (Rutter)

(88) ヨシノボリ類 *Rhinogobius* spp.

(トウヨシノボリ, オオヨシノボリは生息確認)

(89) チチブ *Tridentiger obscurus* (Temminck & Schlegel)

(90) ヌマチチブ *Tridentiger brevispinis* Katsuyama, Arai & Nakamura

表1 つづき

(91) アカオビシマハゼ	<i>Tridentiger trigonocephalus</i> (Gill)
(92) シモフリシマハゼ	<i>Tridentiger bifasciatus</i> Steindachner
(93) ドロメ	<i>Chasmichthys gulosus</i> (Guichenot)
(94) ビリンゴ	<i>Chaenogobius castaneus</i> (O' Shaughnessy)
(95) ジュズカケハゼ	<i>Chaenogobius laevis</i> (Steindachner)
(96) ニクハゼ	<i>Chaenogobius heptacanthus</i> (Hilgendorf)
(97) ウキゴリ	<i>Chaenogobius urotaenia</i> (Hilgendorf)
(98) エドハゼ	<i>Chaenogobius macrognathus</i> (Bleeker)
(99) マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i> (Temminck & Schlegel)
(100) アシシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i> (Hilgendorf)
(101) ヒモハゼ	<i>Eutaeniichthys gilli</i> Jordan & Snyder
(102) ミミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i> Gill
(103) ボウズハゼ	<i>Sicyopterus japonicus</i> (Tanaka)
ゲンゲ亜目	
ニシキギンボ科	
(104) ギンボ	<i>Pholis nebulosa</i> (Temminck & Schlegel)
ギンボ亜目	
イソギンボ科	
(105) ナベカ	<i>Omobranchus elegans</i> (Steindachner)
(106) トサカギンボ	<i>Omobranchus fasciolatoiceps</i> (Richardson)
ネズッポ亜目	
ネズッポ科	
(107) ネズミゴチ	<i>Repomucenus richardsonii</i> (Bleeker)
(108) ハタタテヌメリ	<i>Repomucenus valenciennesi</i> (Temminck & Schlegel)
カサゴ目	
アイナメ亜目	
アイナメ科	
(109) アイナメ	<i>Hexagrammos otakii</i> Jordan & Starks
コチ亜目	
コチ科	
(110) イネゴチ	<i>Cociella crocodila</i> (Temminck & Schlegel)
(111) コチ	<i>Platycephalus</i> sp.
カサゴ亜目	
フサカサゴ科	
(112) メバル	<i>Sebastes inermis</i> Cuvier
(113) ムラソイ	<i>Sebastes pachycephalus pachycephalus</i> (Temminck & Schlegel)
(114) カサゴ	<i>Sebasticthys marmoratus</i> (Cuvier)
ホボウ科	
(115) ホウボウ	<i>Cheilodanichthys spinosus</i> (McClelland)

表1 つづき

カジカ亜目	
カジカ科	
(116) カジカ	<i>Cottus pollux</i> Gunther
カレイ目	
カレイ亜目	
ヒラメ科	
(117) ヒラメ	<i>Paralichthys olivaceus</i> (Temminck & Schlegel)
カレイ科	
(118) マコガレイ	<i>Pleuronectes yokohamae</i> (Gunther)
(119) イシガレイ	<i>Kareius bicoloratus</i> (Basilewsky)
フグ目	
フグ亜目	
フグ科	
(120) フ グ	<i>Takifugu niphobles</i> (Jordan & Snyder)

表2 多摩川水系における水域別の魚類出現記録(●)

サケ, ヒメマス, キンギョをのぞいてある。

魚 種	水 域 区 分				
	奥多摩湖	上流部	中流部	下流部	河口部
スナヤツメ		●			
アカエイ					●
カライワシ					●
ウナギ		●		●	
マアナゴ					●
カタクチイワシ					●
マイワシ					●
サッパ				●	●
コノシロ				●	●
イワナ		●			
ヤマメ	●	●	●		
アマゴ	●	●			
ニジマス	●	●	●		
ブラウントラウト		●			
アユ	●	●	●	●	●
ワカサギ	●			●	
ウグイ	●	●	●	●	
マルタ				●	●
アブラハヤ		●	●	●	
オイカワ	●	●	●	●	
カワムツ		●	●	●	
ハス	●			●	
ヒガイ類		●			
ムギツク		●			
カマツカ		●	●	●	
ツチフキ		●	●	●	
ゼゼラ	●	●			
タモロコ		●	●	●	
ホンモロコ	●		●		
スゴモロコ				●	
デメモロコ	●				
モツゴ	●	●	●	●	
ニゴイ		●	●	●	
ソウギョ		●			
コクレン			●		
ハクレン	●			●	

表2 つづき

魚 種	水 域 区 分				
	奥多摩湖	上流部	中流部	下流部	河口部
ギンブナ	●	●	●	●	
キンブナ	●	●	●	●	
ゲンゴロウブナ	●	●	●	●	
コ イ	●	●	●	●	
ヤリタナゴ			●		
シロヒレタビラ			●		
タイリクバラタナゴ			●	●	
ドジョウ		●	●	●	
シマドジョウ		●	●	●	
スジシマドジョウ	●				
ホトケドジョウ		●	●	●	
ギバチ	●	●	●		
ナマズ		●	●	●	
メダカ			●	●	
ダ ツ					●
クルマサヨリ					●
カダヤシ					●
グッピー					●
イトヨ		●			
ヨウジウオ					●
トウゴロウイワシ					●
ボ ラ				●	●
メナダ				●	●
セスジボラ				●	●
ナンヨウボラ					●
チョウセンブナ					
カムルチー				●	
マアジ					●
ロウニンアジ					●
ウミタナゴ					●
スズキ				●	●
ヒイラギ				●	●
クロサギ					●
クロダイ					●
オオクチバス	●			●	
ブルーギル				●	

表2 つづき

魚種	水域区分				
	奥多摩湖	上流部	中流部	下流部	河口部
ナイルティラピア				●	●
カワスズメ				●	
シロギス					●
シマイサキ					●
コトヒキ					●
ニベ					●
シログチ					●
サツキハゼ					●
スジハゼ					●
ヒメハゼ					●
アベハゼ				●	●
マサゴハゼ				●	●
ゴクラクハゼ					●
ヨシノボリ類	●	●	●	●	
トウヨシノボリ					
オオヨシノボリ					
チチブ類*				●	●
ヌマチチブ					
チチブ					
シマハゼ類*				●	●
アカオビシマハゼ					
シモフリシマハゼ					
ドロメ					●
ビリンゴ				●	●
ジュズカケハゼ		●	●		
ニクハゼ					●
ウキゴリ	●		●	●	●
エドハゼ				●	●
マハゼ				●	●
アシシロハゼ				●	●
ヒモハゼ					●
ミミズハゼ					●
ボウズハゼ					●
ギンボ					●
ナベカ					●
トサカギンボ					●

表2 つづき

魚 種	水 域 区 分				
	奥多摩湖	上流部	中流部	下流部	河口部
ネズミゴチ					●
ハタタテヌメリ					●
アイナメ					●
イネゴチ					●
コチ					●
メバル					●
ムラソイ					●
カサゴ					●
カジカ		●	●		
ホウボウ					●
マコガレイ					●
イシガレイ					●
ヒラメ					●
クサフグ					●

*ヨシノボリ類, チチブ類, シマハゼ類には現在それぞれ2種の生息が認められているが, 既往の記録は種を区別していないので, 本表では「類」の出現記録を表示した。

表3 多摩川における出現淡水魚種の変化(1927~1975) (キンギョをのぞく)

年	種・亜種数			水 域	文 献
	在来種	日本産移入種	外国産移入種		
1927~1935頃	15			羽村~丸子	中 村 (1955)
1957	17	2	1		大 島 (1957)
1972	15	5	1	羽村~六郷	中 村 (1972)
1973~1974	20	7	4	水系一帯	都水試 (1975)*
1974	11	4	2	府中市	梶 川 (1974)
1975	23	5	4	水系一帯	中 村 (1976)

*東京都水産試験場

4. 魚 名

I はじめに

一般的に、魚に関する名称を魚名と表現することができようが、魚名と一言にいてもそのなかには、学名、和名そして地方名などいくつかの表現方法がふくまれている。

学名とは、言うまでもなく国際動物命名規約で規定された万国共通な名称である。1758年にスウェーデン人科学者 Carl von Linné によって提唱された属名と種小名からなる2命名法で、ラテン語ないしラテン化した語のいずれかによって示されている（日本学術会議，1980）。コイを例にあげるならば、コイの属名は *Cyprinus* であり種名（種小名）は *carpio* である。したがって、コイに付与された学名は *Cyprinus carpio* ということになる。

いっぽう、和名は読んで字のごとくわが国における名称のことで、現在全国で統一的に用いられているものである。したがって標準和名と呼ばれることも多々あり、本章においては他の地方名（俗名、異名ともいう）と区別するために、この語を使用することとしたい。

さて、標準和名は先に記した地方名のひとつともいえるが、このことについて榮川省造は「淡水魚の和名は琵琶湖周辺の呼名を主としてとり、地方の魚の呼名を和名としているものは、その魚の多産する地方の魚の呼名を和名としている。他に魚類学者の命名による和名も多い」としている（榮川，1982）。したがって、比較的最近になって付されたものは地方名とは何ら関係をもつことがないが、古くからある名称については、その成立や語源などにさまざまな過程や意味合いがふくまれていると考えられる。

澁澤敬三の魚名の研究はつとに有名であるが、彼は魚名を以下のように分類し説明している（澁澤，1959）。なお、（ ）内は筆者の注記である。

1. 標準和名と方言（本章でいう地方名）

このふたつのうち、とくに後者は魚名研究の中心となるものである。

2. 形式上の分類

魚名をひとつの符号としてみると、これを形式的にみて一次的魚名と二次的魚名とに分類することができる。

一次的魚名とは、かつて魚に名称がつけられた当時は、それぞれ意味があったかもしれないが、現在ではその名称をみてただちに意味のとれない魚名をさす。淡水魚を例にあげると、コイ、アユ、ナマズ、ウグイ、ウナギなどがそれである。

二次的魚名とは、一次的魚名を土台として、それに各種の形容詞を前置して魚の種類をさらに細かく類別したと考えられる魚名をさす。マダイ、チダイ、マハゼ、カワハゼ、ダボハゼなどがその例である。

なお、一次的魚名の中には一次的から二次的へと発展関連しているものと、まったく単独に独立し

ているものがある。

3. 魚名をその表示している語の意味を観点として分類する方法。具体的には、以下の2通りがあげられる。

1) 魚類自体（形態、色彩、生息場所など）を観察して命名する。

たとえばイワナやカワムツなどは生息場所に由来する名前であるし、アカメなどは色彩に由来する名前である。

2) 魚類自体の直接観察からはなれて、社会事象にたいしての連想または比喩をもとにして命名したもの。すなわち、魚類のもつ特異性から伝説説話や民間信仰とむすびついたもので、常民間における軽妙な諧謔的（ユーモラスな）命名またはあだ的な魚名などがふくまれる。

4. 魚名の通用力の上からみて優勢魚名と劣勢魚名とに分類する。すなわち、ある魚名が通用する地域の広狭と歴史上の時間的長さとのふたつの角度からみて、それ自身個々に有する通用力と固定力とを比較し、強いものを優勢魚名、弱いものを劣勢魚名として分けて考える。

たとえば、多数あるメダカの地方名は、それぞれ使われている地域が狭く通用力としては弱いと考えられるため、劣勢魚名であるといえる。いっぽう、アユのことをアイと呼ぶ地域はかなり広範囲におよんでいる。このような魚名は優勢魚名として扱うことができる。そしてこれに属する魚種は、古来より日本民族と深いかかわりを持ち、また一次的魚名が多いのが特徴といえる。コイ、フナ、ウナギなどがその例である。

ここに記した魚名分類なるものがいかほどの意味をもつかについての詳しい議論は別にして、現在までに澁澤の著書『日本魚名の研究』ほど魚名（語源や語意はのぞく）について詳細に分析しているものではなく、一読の価値があると思われる。

さて澁澤は、標準和名（澁澤の言葉では和学名）と地方名についての言及もしている。それによると、ハゼやアジなどは同系統魚類数種の包括的総称であり、一般に通用する魚名ではあるが標準和名ではないとしている。すなわち標準和名は、ひとつの種ごとに与えられた名称をさし、重複した同魚名はなく、1種1名で、併称はないのが原則となっている。いっぽう地方名については、魚種に比べると地方名（方言）をもつ種類数は少なく、むしろ1種類の魚についての方言数が多い。言い換えれば地方名をもととして魚をみれば、無名の魚が多く、有名の魚には併称数が多い。そして標準和名は和名の基準になるものではあるが、先の4.でふれた通用力としては必ずしも優勢であるとは限らないのである（澁澤、1959）。

以上は、澁澤の魚名分類そして魚類の標準和名と地方名に関する研究のごく一部ではあるが、魚名を調べる上で今後なんらかの手がかりになるかもしれない。本章はこれに引きつづく第Ⅱ項（多摩川に生息する魚類の標準和名についての語源および語意）、第Ⅲ項（多摩川に生息する魚類の東京都における

呼称), 第IV項(多摩川流域における魚類の地方名)ならびに第V項(地方名ハヤについて)にわかれている。第III項と第IV項については若干重複する部分があるかと思われるが, 第IV項については筆者等が現地を訪れたおりの聞き取り調査からのみの資料を記載している。これらの項についても, 上述の方法論を用いてさらなる分析をおこなう必要があると考えられる。

II 多摩川中上流域に生息する魚類の標準和名についての語源と語意

現在, 多摩川には約36種類の淡水魚類が生息している。これら36種の内訳は表1に示したとおりである。約としたのは, 今回の調査が主として中上流域のものであり, 河口域の汽水性の魚およびカムルチーやオオクチバスなどの外来魚をのぞいたためである。またチチブについては, 河口域のものはチチブ(*Tridentiger obscurus*)であるが, 中上流域のものについてはヌマチチブ(*Tridentiger brevispinis*)である。したがって本調査において報告されているチチブは, 正確にはヌマチチブのことをさしているものと思われる。

わが国における標準和名は学名と対比される名称である。そして, 先にもふれたように, 学者が命名したもの(比較的新しく付与されたものが多い)以外はたいていが地方名の一種である。したがって, これらの語源や語意については古くから日本に伝わる書物などに記載されていることが多々ある。そこで筆者は多摩川産の魚類について, 現在のところ名称の由来がわかっているものを可能なかぎり記すことにした。しかし, これら語源や語意などは確定的なことを言うことが頗る難しいため, その大半は書籍に記載された事実のみを紹介することにとどめることにしたい。

なお, 魚種の順序は表1に準拠し, 不明なものについては標準和名のみを記した。ただ, ギンブナやヤリタナゴのようなものは, 具体的な名称であり語源や語意を調べることは困難なために, 一般的に通用しているフナ, タナゴとして記述した。また, 原著に当たれない部分については, 榮川(1982)および日本大辞典刊行会(1989; 1990)から引用したことを付記しておきたい。

スナヤツメ

ウナギ

ウナギという名称で記載されているのは江戸時代以後のことのようであり, 1,600年以前のものにはムナギという名において書かれているという。そのムナギについては, 『日本釈名』に, 「ムとウの音通ずる故にウナギといい, ムナギは棟なり, その形まるく長くして家の棟に似たり」と記されている。このことから考えると, ムナギにはおそらく棟木の字が当てられたのだろうが『本朝食鑑』には「過去のものは無奈木(ムナギ), 現在のものは宇奈岐(ウナギ)」と書かれており, また『万葉集』の大伴家持の歌では, 瘦せた人を笑うた歌として「石磨(いはまる)に我物申す。夏瘦せによしといふものぞ鰻(むなぎ)とり食(め)せ」そして「瘦す瘦すも生けらばあらむを。はたやはた, 鰻(むなぎ)を取

ると、川に流るな」が詠われている（折口，1983）。この歌は、おそらくウナギが書き物のなかに登場する最古のものではないだろうか。そして、現在使われているウナギという言葉は、先にもふれたように江戸時代以降のことで、その細長い形（曼という字には長く引くとか長いという意がある）とぬらりくらししている体から「鰻」の字が当てられたといわれている。

つぎにウナギの語源であるが、これは諸説もろもろであり、どれが正しいのかについては皆目検討がつかない。『日本釈名』については前述のとおりであるが、その他いくつかをとりあげると「ムナギとは、空しき義にて、諸虫を殺すに効あり、＜空しき義＞の＜し＞欠けて＜ムナギ＞となる」「胸に鰓が開いているからムナアキ転じてムナギとなる」（以上、『和訓義解』）。「蛇状の魚は皆ムナキと称えられたのであろう。ハム（鱧）もまたその形蛇ににているが故にヘミ（ハブ）から轉じた語で『東雅』、之からムナキ（ハムノコ）という名称を分派したことは極めて有べきである」（『日本古語大辞典』）。「ウナギの胸部がやや黄色身を帯びていることから＜胸黄＞の名がつけられ、転訛して、＜ウナギ＞」（『大言海』）。「滋養に富み精力のつく動物であり、食物でもある。それがキでありギであるとみるのはどうであろうか。ひどくぬめぬめしており、うねり泳ぐ性質は、接頭語の＜ウナ＞で示されたものではないか。この特徴と精力源とが結びついているとみたい。」（『日本人と植物』）。「皮をムク（剥）から」（『名語記』）。「＜ム＞は身を表す語。＜ナギ＞は長いものを表し蛇類の総括名称。＜ム＞の子音が脱落して母音のみの＜ウ＞となったもの」（『南島叢考』）。「身長（むなが）しの義」（『日本語源学』）。「魚長きか」（『和句解』）。「蛇行することを＜ウネル＞というから、それが転じて＜ウナギ＞の呼名となったかもしれない。＜ギ＞は、魚を表す接尾語」（榮川，1982）。この場合は、字を当てるとするならば＜湘魚＞ということになるだろう（榮川，1982）。

わかり得るかぎりのウナギの語源について紹介したが、一般的には『日本釈名』による「ウナギ＝棟木」説が有力のようである。

ワカサギ

榮川（1982）によると、ワカサギの語源は「辞典などには、若鷺・公魚・鰯などの字をもって＜ワカサギ＞にあててあるが、いずれも呼名の語意を表していない。＜ワカサギ＞は、＜ワカ＝幼い・清新＞と＜サギ＝細魚（さぎ）・小魚（さぎ）＞の合成語であり、その語意は、＜清新な小魚＞ということ。＜ギ＞は、＜ミ＞と同義語で魚介の総称。魚名語尾（魚名を表す接尾語）。」としている。

アユ

この魚についても諸説があり、『日本古語大辞典』には、「アユは神前に贄として供え、占に用いた。それで餐（アヘ）とよんでいたのが＜アエ・アイ＞の発音に変化したものとせねばならぬ」としている。その他「アユというのは＜あゆる＞意なり、＜あゆる＞は落つるなり。秋には川を降るものなり。」（『日本釈名』）。「アユとはアは小也。其形小しくして色白きをいひしなるべし。古語に小しきをアといひ。白きをユといひし義」（『東雅』）。「アユの原語は、＜アヒ＞であり、アヒ→アイ→アイオ→

アイヨ→アヨ→アユ、の形で転訛したもので、各地にその異名は残っており、いずれも愛称語の<ア>と魚名語尾<イ>の二語の合成語である。アユの語意は、「<愛らしく味佳き魚>」の意（榮川，1982）などがある。

ところで、何故にアユのことを鮎と書くのであろうか。『日本書紀』には「吾今當に^{いっへ}嚴釜を以て、丹生之川に沈めむ。如し魚大きなり小しと無く、^{ふつく}悉に酔ひて流れむこと、^た譬へば^{まき}椀の葉の浮き流るるが猶くあらば、吾必ず能く此の国を定めてむ。如し其れ爾らずは、終して成る所無けむ」とのたまひて、乃ち^{いっへ}釜を川に沈む。其の口、下に向けり。頃ありて、魚皆浮き出でて、水の随に^{あきと}唼ふ。」というくだりがある。すなわち、神武天皇が即位する前、奈良県吉野川（丹生之川）を巡行した際に、嚴釜（イツへ；神酒を盛り、祭祀に用いる壺）に水を用いずに作った*飴（「飴即ち自づからに成りぬ」）を入れて丹生川に沈め、もし大小の魚が木の葉の流れるように浮けば、日本国を平定でき、浮かばなかったら失敗するだろうという夢のお告げがあり、早速に神をまつり壺を沈めると、アユが口をパクパクして浮いてきた。そして、橿原宮で天皇の地位についたという建国神話である。そのため、天皇の即位礼に用いられる^{ばんざいばた}萬歳幡にはアユをかたどった、5尾の魚形がついている（矢野，1985）。また、仲哀天皇9年夏4月に肥前国で神功皇后が三韓遠征に出掛ける際に、「朕、西、財の国を求むと欲す。若し事を成すこと有らば、河の魚鉤飲へ（われ西方にある^{たから}財の国（新羅）を求めんと欲す。もし事を成すことができるなら、この鉤に川の魚よかかれ。）」と占いをしたところ、細鱗魚すなわちアユがかかったのだという（『日本書紀』）。そのため、魚偏に占と書くのだという。もっとも中国においては鮎はナマズのことである。アユとナマズの関係はおそらく別起源であろう。しかし、後述のナマズのところでもふれるが、発音はいずれも Nian（ニエン）である。

このほか『延喜式』に、各地からのアユが献上された記録が載っていたり、伊勢神宮において神饌に用いられ、江戸時代までは鮎饗という祭儀もあった（矢野，1989）というから、古来より人々に名が知れ、また特殊な魚であったことは確かだろう。

*ここに記されている飴は植物性の毒物といわれている（神社新報，1990）。

イワナ

「溪谷の岩陰や、大きな岩のある淵にすむ魚ということからイワナ（岩魚）の呼名がでている。イワナの<ナ>は魚名を表す接尾語で、食用に用いる魚のことをいっている。」（榮川，1982）。

ヤマメ

榮川（1982）は、「ヤマメとは<山魚>の意である。<メ>は、魚介の総称。清楚な魚形や美味なことから<山女・独身女>と解される」としている。ここでは、ヤマメの<メ>のことを魚介の総称としているが、先にもふれた魚名を表す接尾語と理解したほうがよいのだろう。

アマゴ

タナゴ

榮川（1982）によると、タナゴの古名は<タヒラ>・<タヒラコ>、<平魚（たひらこ）>の意で、扁平型をしたバラタナゴ、ゼニタナゴ、アブラボテなどを対象とした呼名であるという。ほかに、水田付近にすむことから<田な魚（たなご）>とよび、また、掌型（てのひら）の魚の意で<掌魚>という説もある。

シロヒレタビラ

ヒガイ

琵琶湖周辺の呼名<ヒガイ>をとっている。榮川（1982）によれば、ヒガイの原語は東京地方の呼名となっている<ヒガイス>だそうである。ヒガイスとは痩せた小児の俗語である。

ツチフキ

カマツカ

「草刈り鎌の柄（つか）に似た体型と体色からでている。」（榮川，1982）。

ニゴイ

『大言海』では、「体形が鯉に似ているために、<似鯉>の意でよばれるが、<ミゴヒ（白魚）>の転訛であろうとも言われる」としている。『和名抄』および『本朝食鑑』では、「古名は<ミ>であり、<ミゴヒ>ともよんだ」としている。また、『広辞苑』には、「ミゴヒ<白魚>ニゴイの古名」となっているが、語意についてはいまひとつ明瞭ではない。

モロコ（モロコはモロコ類の総称）

榮川（1982）によると、モロコの呼称について、さまざまな辞典で<諸子=子が多い意味>の字を当てており、『大言海』にも「<諸子。子多ければ、その名とす>」としている。しかし魚名の語尾に<子>の字を当てるのは誤りであり、<魚>の字を当てるべきであると指摘している。そして、<魚>は漢字の呉音においても<ゴ>と発音し、魚名語尾の<コ>は魚を意味するとしている。したがって、モロコの呼名は<子多ければ>ではなく、群棲する魚であるから、<群魚（むれこ）>か<諸魚（もろこ）>が語源であるとしている。

モツゴ

『広辞苑』などには<持子>という字を当てているが、榮川（1982）はつぎのように記している。「高知地方の呼名をとって和名、モツゴとしている。辞典には、呼名の発音にしたがって<持子>の字

を当てているが、呼名の語意を現す(まま)まい。〈モツ〉は〈脂っこいこと〉であり、〈ゴ〉は魚のことであるから、モツゴとは〈脂っこい魚〉の意味で、〈カワムツ〉の〈ムツ〉と同義語であろう。或いは、鱗の後縁が黒くて斑点に見えることと、体側に暗青色の縦帯があることから、〈斑魚(モツゴ)〉とよぶのかもしれない。〈斑〉は、〈モツ、モト、モド、モドロ、ムツ、フ、ブチ〉その他多くの方言でいう。ここで言うモツゴの〈ゴ〉は、魚名語尾でモロコの〈コ〉と同義語である。

ウグイ

『大言海』では、「ウグイ。〈ウグヒ〉の転訛か。和訓栞・出雲風土記に見ゆ。伊具比。今いうウグイ>か。鵜の食うもの、アユの異名」となっており、この出雲風土記にでてくる記載が「意宇(おう)川源は郡家(こほりのみやけ)の正南一十八里なる熊野山より出で、北に流れ、東に折れ流れて入海(いりうみ)に入る。年魚・伊具比あり。」である(『風土記』)。いっぽう榮川(1982)は、「ウグイは常に水底を離れて、水面近くを遊泳しているから〈浮いている魚〉の意味で〈浮魚(うくい)〉とよばれたのではなかろうか。〈ウクイ〉の〈イ〉は、魚を表す接尾語。〈ヒ〉も同じ」と記載している。

アブラハヤ

オイカワ

『大言海』の「追川。水中で互いに尾を追いて闘う」と『和漢三才図会』の「この魚。京洛の大井川に多し、京にて俗に〈オイカワ(乎井加波)〉という。大井川の略言なり」の2説があるが、榮川(1982)では、「オイカワの語源は〈大井川〉であろう」という『和漢三才図会』と同様の考えをのべている。ただし、大井川は正確には大堰川である。

カワムツ

「海水魚に和名・ムツがあり、それと区別して〈川ムツ〉とよぶのであろうか。〈ムツ〉とは〈脂っこい〉のこと。また〈斑〉を〈ムツ〉とも言うから、体表に鮮明な斑(縞)のあることにより〈縞のある川魚〉の意でよぶのかもしれない」(榮川, 1982)。

ハス

「鱗ふりゆくこといと早し故に早子(はず)というにや」(『湖魚考』)。これによれば、速く泳ぐ魚のことが語源である。いっぽう、榮川(1982)は「体表がカサカサ(ザラザラ)しているとか、斑点斑文などがあり、痘痕のような状態を方言で〈ハス〉という(『全国方言辞典』)ことから、ハスの呼名も繁殖期には魚体の各所に多数の〈追星〉が見られることからではなかろうか」としている。

フ ナ

『大言海』では、「ふな。鮒魚（ふな）の音訓合呼」とあり、『日本古語大辞典』は「フナの〈フ〉は産地を意味する語で、狭義には田圃を意味する語である。フナとは養魚池の魚ということであろう」としている。このことから、榮川（1982）は「フナが日本最古の養殖魚である可能性を指摘している。そして、中国でもフナを表す字は鮒・鮒魚を用いるから〈フナ〉の呼名は漢和折衷語ということになるのだろう。」と示唆している。

フナのなかでも、キンブナやギンブナなどはおそらくその体色が名の由来と考えられるが、ゲンゴロウブナについて若干書かれていることがあるので紹介することにする。

よく言われていることは、権五郎という人物が鮒（いり）でフナを大漁し富をなしたという口碑や、夏のころ多くでてくるフナの意味で夏頃鮒（げごろぶな）転じてゲンゴロウブナといった話であるが、どれもいささか眉唾的なところがある。これにたいし、榮川（1982）では、「〈ゲンゴロオ〉とは〈玄黒（げんぐろ）・黒いこと〉の意である。〈玄〉は〈黒い〉意味。〈ゴロ〉は〈クロ・黒〉の転呼。〈ゲンゴロウブナ〉とは〈黒フナ〉の意で、キンブナ・ギンブナにたいする呼名であり、人名とは何の関係もない」としている。

コ イ

コイの語源に関しても、種々の説がある。以下に2例ほど紹介するが、榮川はその両者とも信頼性のないものだとしている。『大言海』は「コヒは恋の義にて、景行記に、鯉を池に放ちて……これは付会なり」と結んでいる。すなわち『大言海』も鯉は恋からという説を否定はしているが、その語源についてはふれていない。『日本古語大辞典』では「或いは、清水魚の意を以て〈クヒノウオ〉と呼ばれたのを略して、〈コヒ〉としたのではないか、〈クヒ〉とは〈水〉の意である」としている。

ところで、この2説を「信ずるに足るものではない」としている榮川自身の解釈はつぎのようなものである。「仮に、〈クヒ〉を〈清水〉と解しないで、〈ク〉を〈黒〉を意味する語、〈ヒ〉を、〈魚〉の意、〈イ〉の古語とみると、〈クヒ〉とは、〈黒い魚〉と解することができよう。もし〈クヒ〉が、〈コヒ〉の原語であるならば、〈コイ〉の語意は〈黒い魚〉と言うことになろう」。ちなみに〈ヒ〉は〈イ〉の古い音であり、ここでは魚名を表す接尾語と解釈したのである。

ドジョウ

「本性はすぐれて強健で動き廻ることを好み、大変すなおである（曾とはすぐれているという意）」（『和漢三才図会』）。「泥之魚（ドロツオ）の義なり。泥のなかにて、チョロチョロするより起きたる呼名」（『大言海』）。「土の中から生まれる、土の中で生きている、その意味で〈土生（ドジョウ）〉という」（榮川、1982）。などいくつかの説がある。そして、榮川は「中国での呼称〈泥鱮・泥鰌〉の字音に由来する」としている。

シマドジョウ

ホトケドジョウ

ギバチ

ギバチはギギ (*Pelteobagrus nudiceps*) 同様、背鰭と胸鰭に有毒の刺をもち刺されると非常に痛い。『本朝食鑑』などによると、かつてはギギ (標準和名は琵琶湖沿岸付近の呼称) とギバチは同じ魚と解されていたようであり、ギバチに関する記載は少ない。したがって名称の語源も定かではないが、内田 (1966) が指摘するように「ギーギー鳴いてハチのように刺す」という行動の特徴に由来していると考えるのが妥当であろう。

ナマズ

この魚も、アユ同様人間と非常に密接な関係をもった魚であり、日本文学における最初の記録は、12世紀前半に成立したといわれる『今昔物語』であると考えられている。もっとも、アユが神饌に用いられるなど、かなり高級な魚として扱われたのに比べると、人のかかわりといっても安政2 (1855) 年におこった大地震以降にでまわった「鯰絵」に登場するなど、非常に大衆的な魚であったといえるだろう。「地震鯰」については、機会をあらためることにするが、この魚の語源についてはつぎにあげる2説が考えられる。

ひとつはよく言われている説で、なめらかな魚という意味である。「ナマズの原語は<ナマツ・ナマツ>であり、その語意は<体表の滑らかな、大きな頭の魚>ということか。または、<体表の滑らかな魚>ということであろう。<ナマツ>の<ツ>は、古語では<ツ>であり、<ツ>は、領格を表す語で、主領・首すじ・頭などの意味をもち、後に<ツ>となって、頭を表す語となっている。<ナマ>は、滑らかな意。また、<ツ・ス・ツ・ズ>は魚名語尾であり、<ナマツ・ナマズ>は、<滑らかな魚>と解される」(榮川, 1982)。

もうひとつは、歴史愛好家のHから聞いたもので、Hが自ら思いついたものであるという。非常に興味深い話であり、掲載の許可も得たので以下にその説を紹介する。

ナマズという言葉の成立の過程は、中国では鮎と書いてナマズのことをいうことから始まる。この鮎に接尾字の子をつけた<鮎子>の発音は [Nian Zi (ニエンツ)] となる。まずこの [Nian] に注目すると、[i] という音は音韻学的になくなってしまふことがよくある。そして [n] と [m] は、この字がかつてどのように読まれていたかにもよるが、変換が可能になる。すると [Nian] は [Nam] にと変化していく。さらに [Nam] の後に [a] をつける。このように [a] をつけるのは、<天>を単音では<あめ>と発音するが、たとえば<天照>を<あまてらす>と読むように、その後を修飾するときにはよく使われている。ここまでくると先ほどの [Nian] は [Nama] になり、接尾字の<子>をつけて [Nama zi (ナマツ)] になる。過程をもう一度ふりかえると [Nian] → [Niam] → [Nam] → [Nama], [Nama]

+ [zi] = [Namazi] という形になる。

さて、このようにしてできあがったナマズであるが、その語意については前述の〈滑らかな魚〉とはかなり意の異なる〈ねばねばした魚〉ということである。その過程は、[a] と [e] の変換から始まる。この変換は、先の〈鮎 [Nian] 〉を〈ニエン〉と読むことでもわかるように比較的よくおこる変換である。また [m] と [b] の変換も〈さみしい→さびしい〉のごとく、よくおこることである。そのようにしてみると、[Nama] から [Neba] へと変化することは自然である。また、Hは〈占〉は現在では [Zhan] と発音するが、元来は [Niam] などという読みかたではなかったかと指摘している。さらに、〈占〉には粘着性があるという意味があるという。したがって、人間が口にするものでは、米偏に〈占〉がついて〈粘〉となり、魚偏に〈占〉がつけば魚で〈ねばねばしたもの〉ということになる。すなわち、意味の〈ねばねば〉と音韻変換による〈ねばねば〉が見事に一致する結果となるわけである。また、これを実証するかのように『和漢三才図会』には「涎はねばり滑っている、それで鮎(ねん)という」という記述がなされている。このことから考えても、ナマズの語意は〈滑らかな魚〉ではなく〈ねばねばした魚〉と解釈したほうが無難なように考えられる。

このほかにも『言元梯』には「魚不味 ナマツ」というのが載っているが、ナマズがまずい魚、もしくは苦い魚ならいざ知らず、淡水魚としてはかなり美味な部類にはいることを考慮にいれると、信ずるに足る話ではない(もっともその容姿から想像していたのではないことが前提となる)。

メダカ

おそらく、その名のとおり頭上に高く目がでていることからついた呼称であろう。そのほかの説としては「〈細い雑魚(こまいご)〉というから、〈コメザコ・メザコ・メザカ・メダカ〉と転訛してメダカの呼称となった」(『語源を探る』)などがある。榮川は「メダカの地方名には、可憐なこと・大きな目・水面を群泳する習性などによるものが多いが、語意不明のものも少なくない。それは命名者が子供達であったからかもしれない」としている。

ヨシノボリ

「〈ヨシノボリ〉の語意は、腹鰭の吸着力で、芦(よし)の根元にも登ることができるということであろう」(榮川, 1982)。

チチブ

「和名チチブは高知付近の呼名をとっている。〈チチ〉は俗語で〈チンコ〉、陰茎のこと。〈ブ〉は魚を表す接尾語。呼名の語意は、〈ハゼ〉と同義であるが、あるいは〈チチカブリ〉の縮語かもしれない。おそらく、川遊びをする子供らの付けた呼名であろう」(榮川, 1982)。

ジュズカケハゼ

ウキゴリ

「成魚は低層にも棲むが、水底からやや離れ、浮き上って静止状態であることが多い。この習性からウキゴリの呼名が生まれている。〈ゴリ〉とは〈ゴロ・グロ・グリ・グレ〉と同義で、黒色を意味する語。魚名の場合は特に、ハゼ型の魚をよぶために多く使われる」（榮川、1982）。

マハゼ（ハゼ類の総称）

『和漢三才図会』には「彈塗魚、俗にいう〈波世〉なり。鯨はカナビシヤ・シンゾクとよぶ川ハゼの類なり」とあり、また『大言海』には「沙魚・彈塗魚・鯨、自らはじくるの義。」とある。他方、榮川は「古名は、当然〈ハセ〉であった筈である。古語には、濁音がなかったから。ところが、陰茎を古語では〈ハセ・オハセ〉といった。現在でも、ハゼまたは、ハゼに似た魚の地方名には、陰茎または、それに関するものが多い。その多くは、幼小（まま）の陰茎の形に似ているための呼名である。ハゼの呼名は陰茎を表わす古語の〈ハセ〉が語源で、形の相似からの、実に、素朴な発想によるものであって、おそらく、その命名者は、川遊びの好きな、腕白どもであっただろう。ほかに、漢名〈彈塗魚〉から、〈ハゼル〉義だとか、〈すばやく水中を馳せることからいう〉などの妙説もある」と記している（榮川、1982）。

カジカ

榮川（1982）に「カジカの語源」という項があるので、そこから引用すると、「通常は〈河鹿〉の2字を以って表わしているが、これは〈蛙のカジカ〉と〈魚のカジカ〉との共通呼称にたいする字音による当字である。

『大言海』では「かじか。鯪。ちかちかかぶりヲ上下略したる語なるべし、—中略—古名チカカブリ。」として、〈チカチカカブリ〉の上音〈チ〉と下音〈カブリ〉を略した〈カチカ〉が〈カジカ〉の原語であろうとしているが、〈チカチカカブリ〉などという魚名の存在するとは奇矯で頷き難い。

上記のような一般的通念とは別に、〈カジカ〉の呼称を〈カジ〉と〈カ〉の二語による合成語と見て検討すると、〈カジカ〉の語意は従来の解釈とは全く異質なものとなり、「痘痕の動物」ということになる。

〈カジ〉は「痘痕」を意味する東北・北陸地方の方言であり、ゲンゲ科・ギンポ科の魚名語尾ともなっている。

〈カ〉は、食用動物（勿論、魚類もふくめて）を表わす語であって、動物を表わす語の接尾語でもある。（『日本古語大辞典』による）」としている。

Ⅲ 多摩川中上流域に生息する魚類の東京都における呼称

本項においては多摩川に生息する36種の魚類について、東京ではどのような呼称があるのかについて紹介したい。これら地方名についての資料には、澁澤敬三の著書である『日本魚名集覧』、内田恵太郎著『さかな異名抄』、そして日本魚類学会編『日本産魚名大辞典』などがある。本項では主として、『日本魚名集覧』および『日本産魚名大辞典』をもとにした。

なお、各々の名称に漢字を当てることのできるものについては（ ）内にそえ、漢字を当てているもののうち魚の字が語尾につくもの（魚名語尾）、およびその解釈は可能なものについてのみ、おもに榮川の『新釈魚名考』（1982）の解釈にしたがって付記した。また、本項において記す地方名は東京のもので限定したが、上記ふたつの書において該当する地域が「全国」「関東」「各地」「一般」となっている場合については、東京がふくまれる可能性があるために記載することにした。

魚類の順序については、表1にしたがった。

スナヤツメ（砂八目）

メク：武蔵多摩川。

メクラ：関東。

ヤツメ：東京付近（カワヤツメと混称）。

ヤツメウナギ（八目鰻）：東京付近（カワヤツメと混称）。

ウナギ（鰻・洺魚）

ア オ：東京（二等品）。

イケノハタウナギ：江戸千住尾久。

ウナギ：一般。

エドマエ：東京（一等品）。

カニクイ：東京（一等品）。

カニクライ：東京（一等品）。

ゲエタ：東京（四等品）。

ゴ マ：東京（四等品）。

サ ジ：東京（一等品）。

フカガワウナギ：江戸深川。

メ ソ：東京。

ワカサギ（公魚・若鷺・鰈・若小魚）：各地。

アユ（鮎・年魚・香魚・愛魚）

ア イ（甘魚）：一般。

ア ヒ (甘魚) : 一般 (アイの古称) ; 「ア」は愛称語で, 旨い魚の意と考えられる.

ア ユ (愛魚) : 各地 ; 原語は「アヒ」「アイ」であり, 上記同様に旨い魚の意.

イワナ (岩魚・嘉魚) : 東京 (川の上流に産するもの).

ヤマメ (山女・山女魚・山魚) : 全国 (河川生活のもの).

ギンケ : 全国 (降海直前のも).

サクラマス : 全国 (降海後のも).

ホンマス : 東京, 全国 (降海後のも).

マ ス : 全国 (降海後のも), 一般 (海に入るもの).

ヤマベ : 全国.

ヤマメ : 全国 (河川生活のもの), 武蔵国一円, 東京付近 (マスの降河型の幼魚と混称).

ヤマモ : 東京都山間部.

ヤ モ : 東京都山間部 (河にのこされた, マスの降河型).

ヤモメ : 東京付近山間部.

ヤリタナゴ

タナゴ (鯽・掌魚) : 関東 (混称), 関東平野一円 (他のタナゴ類を含む) ; 手のひらの形をした魚の意でこの字が当てられる.

ニガブナ : 関東 (混称).

マタナゴ : 関東 (混称).

シロヒレタビラ (白鱧田平, 別名 ; タナゴ, タビラ)

タナゴ : 関東 (混称), 東京.

ニガフナ : 関東.

ニガブナ : 全国 (混称).

ヤリタナゴ : 内地各地.

ヒガイ (鯉) : 東京.

ヒガイス : 東京.

ツチフキ (別名 ; スナモロコ, ドロモロコ).

カマツカ (鎌柄) : 武州多摩川二子村.

オコト : 東京.

オコトウ (オコトオ) : 西多摩郡西多摩村, 同郡多西村.

コチジャコ : 江戸.

スナクジリ : 全国.

スナホリ：全国。
スナムグリ：東京多摩川，東京付近駒場。
スナモグリ：東京多摩川。
ドンチ：東京荒川。

ニゴイ（似鯉）

サ イ：関東，東京付近。
サイゾウ：東京付近。
サ ヒ（狭魚）：一般（古称）。
サヒチ（細イ魚）：一般（古称，ウグイとの混称）；「サヒ」は古語で細いものの意。
サヒヂ（細イ魚）：一般（古称，ウグイとの混称）；上記に同じ。
ス イ：東京。
セ イ：東京。
セイタッポ：東京。
セエタッポ：東京。
セイクロ：東京。
セ エ：東京。
セータ：東京付近。
セータッポ：東京付近。
ミゴイ（白魚）：各地。

タモロコ（田諸子・田諸魚，別名；ナガタナゴ）

モロコ（諸子・諸魚，群魚 ぐんこ）：関東地方一帯（モロコ類の総称）；群集する魚の意。

モツゴ（持子？）

クチボソ（口細）：東京。
ハ ヤ：東京。
ヤ キ：東京。

ウグイ（鰻・石斑魚・浮魚）：関東大半。

アイス：東京。
アカハラ：武州立川。
ウクイ（浮魚）：古称；浮いている魚の意。
ウクヒ（浮魚）：古称；上記に同じ。「ヒ」は「イ」とともに魚名語尾。
ウゴイ：東京。
グ イ：東京および東京付近。

ク キ：関東。

サヒチ（細イ魚）：ニゴイとの混称（古称）；ニゴイの欄参照。

サヒヂ（細イ魚）：ニゴイとの混称（古称）；ニゴイの欄参照。

ハ ヤ：関東，多摩川中流域以上。

ホンバヤ：東京，多摩川中流域以上。

マルタ（丸魚）：東京，多摩川河口およびその付近，武蔵立川；胴体の丸い魚の意。

アブラハヤ（油鮠）

ニガバヤ（苦鮠）：関東。

オイカワ（追川・追河）

アカハラ：八王子。

イワナ：武蔵荒川。

オニヤマベ：関東。

ジョロブナ：関東。

チゾーコ：江戸関口ノ下，江戸川。

ハ エ：関東地方の大半。

ハ ヤ（葉魚）：東京，各地；葉形の魚の意。

ヤマベ：東京および東京付近。

カワムツ（川鯉・河鯉）

ハス（鱒・葉魚・歯魚）：現在では利根川・多摩川などからの記録がみられるが，元来関西地方からの移入のために，関東地方での呼名ではない。字の由来としては，木の葉型の魚または歯に特徴のある魚から来ていると考えられる。

フナ（鮒・付魚） — キンブナ，ギンブナ，ゲンゴロウブナをふくむ — ：全国一般；漢字の鮒に付魚（フナ）という字を当てて読み書きするという説がある。キンタロウ：東京その他関東近県。

キンタロウブナ（金太郎鮒）：東京その他関東近県（東京の釣り師がよく用いる）。

キンブナ：東京その他関東近県。

ギンブナ：関東（キンブナと区別するための名称，東京の釣り師が用いる）。

ゴマブナ（胡麻鮒）：関東，東京（吸虫類の一種が体表に寄生したもの，東京の釣り師が用いる）。

ジツキブナ（地付鮒）：東京（東京の釣り師が用いる）。

ジブナ：全国（ゲンゴロウブナと区別するための名称）。

センジュブナ：東京千住。

ヒラブナ：東京および東京付近（キンブナと区別するための名称）。

ヘラ：関東その他の移植地（遊漁者が好んで用いる）。

ヘラブナ：関東，各地（遊漁者が好んで用いる）。

マツカワ：東京（鱗が堅く黒い小斑点のあるもの）。

マブナ：関東。

マルフナ：東京および東京付近。

マルブナ：関東。

コイ（鯉・黒魚）：全国共通。

クヒ（黒魚）：一般（コイの古称）；黒い魚の意。

コヒ（黒魚）：一般（コイの古称）；黒い魚の意。

ジゴイ：各地（野生のもの）。

ノゴイ：各地（野生のもの）。

ハネツカエリ：東京（18～21cm）。

ハネツカエリブシロー：東京。

ヒゴイ：一般（赤色変種のもの）。

ホオリュウ：各地（養殖のもの）。

ホウリュウモノ：各地（養殖のもの）。

マゴイ：各地（野生のもの）。

ドジョウ（泥鰌・鰌）：一般。

オドリコ：関東，東京。

タドジョウ（タドジョオ）：全国。

ヌマドジョウ（ヌマドジョオ）：全国。

マドジョウ：全国。

ヤナギハ：東京（幼魚）。

ヤナギバ：東京。

シマドジョウ

カワドジョウ（カワドジョオ）：全国。

ホトケドジョウ

オバッコ：武蔵浅川。

オババアス：東京西多摩郡多西村。

オバメドジョウ：多摩川稲田登戸。

ホトケ：一般。

ギバチ（義蜂）：東京および東京付近。

ガバチ：関東。

ギギ：全国（同じ科のギギとの混乱があると考えられる）。

ゲバチ：東京および東京付近。

ナマズ（鯰・滑魚）：全国共通。

チンコロ：東京および東京付近（小さいもの）。

ナマズ：全国。

ナマダ（滑魚）：関東。

メダカ（目高）：東京府東京市，東京都北多摩郡武蔵野町吉祥寺。

コメンジャコ：全国。

ザコ：東京都日野村。

ザッパ（細魚・笹葉 まは）：東京都；雑魚とか細い魚の意かもしれないが定かではない。

ハヤッコ：東京都西多摩郡箱根崎村，北多摩郡拝島村，北多摩郡村山村。

ハヤッコ：東京都北多摩郡拝島村，北多摩郡砂川村，北多摩郡村山村。

ハヤメ：東京南多摩郡。

ハヤメッコ：東京都西多摩郡一円，西多摩郡青梅村，西多摩郡霞村，西多摩郡成木村，西多摩郡調布村，西多摩郡吉野村。

ハヤメドッコ：東京都西多摩郡一円，南多摩郡由井村，南多摩郡元八王子村，南多摩郡加住村，南多摩郡小宮村，南多摩郡由木村。

ハリメド：東京都北多摩郡砂川村。

メザカ：東京都，東京市北多摩郡狛江村小川。

メザカッコ：東京都北多摩郡狛江村小川。

メタカ：東京都，東京府東京市。

メタカコ：東京府西多摩郡氷川村。

メデカ：東京府南多摩郡七生村，北多摩郡狛江村小川。

メド：東京府西多摩郡青梅村，西多摩郡霞村，西多摩郡成木村，西多摩郡調布村，西多摩郡吉野村，南多摩郡小宮村。

ヨシノボリ（葦登）

ヌマチチブ（チチブ 知知武・陰莖魚；多摩川の中上流域の分布を鑑みると，ヌマチチブのみが生息していると考えられるが，名称の混称が考えられるためチチブ・ヌマチチブの双方から引用した）。

ゴロ：関東（混称）。

ダボハゼ：東京，関東。

ハラフクレ：関東（混称）。

ジュズカケハゼ

ウキゴリ（浮吾里・浮鯨）

ゴリ：全国（混称）。

マハゼ

グズ（愚魚・痘痕魚）：各地（カジカとの混称）；カジカの欄参照のこと。

ゴロ（黒魚）：各地（混称）；黒い魚の意。「ゴリ」「グレ」「グロ」などと同義語。

ゴロウ（黒魚）：各地（混称）；黒い魚の意。

ダボ（駄魚）：各地（混称）；下級魚の意。ハゼ一般に使われる傾向あり。

デキハゼ：関東。

ドボ（奴魚）：各地（混称）；下級魚の意。

ドンボ（鈍魚）：各地（混称）；下級魚の意。

ハゼ（鯨・沙魚・蝦虎魚）：全国。

カジカ（河鹿・痘痕魚）：東京，各地；「カジ」「カシ」は痘痕の方言であり体表の斑紋をさす。

カヂグロ：江戸武蔵；現在のところ，方言としてこの名称が使われている形跡はないが『享保・元文諸国産物帳集成』によれば武蔵国多摩郡産物絵図帳に「かぢぐる川魚なり，四季ともに石の下に居申候，長式寸位有之，薄鼠に少し赤く腹白し，油はぜ杯に似たる魚也」という記録が残されている。

グズ（愚魚・痘痕魚）：各地（ハゼとの混称）；その模様から，愚魚よりも痘痕魚の方がその意を表している。

IV 多摩川中上流域における魚類の地方名（聞き取りより）

今回おこなった魚類の地方名の調査においては，18魚種で47例の地方名を収集することができた。詳細は表2にしめたとおりである。このなかで先にあげた澁澤の『日本魚名集覧』および『日本産魚名大辞典』の，「東京における魚類の地方名」との完全重複はスナヤツメのヤツメとヤツメウナギ，アユのアイ，ニゴイのサイ，ウグイのハヤとホンバヤ，オйкаワのヤマベのわずか7例であった（表2）。したがって47例中の約85%が，今回の調査で東京において新たに判明したことになる。また，全国の地方名（東京をふくむ）との完全重複をみても13例であり約72%の名称が新記載になる。この結果は，澁澤などの仕事が全国津々浦々にわたり，また魚種も日本に存在する魚類すべてを対象にしたため，個々

の限られた地域までは手が回らなかったことによるものと推察される。しかし、非常に不思議なことに全国に5,000近くあるといわれるメダカの地方名(幸川・柴田, 1980)については、今回調査した範囲においては皆無であった。この理由については、憶測の域を脱し得ないが筆者にはふたつの理由が考えられると思う。その第1は、急速な都市化現象にともない、従来よりの居住者がすでにいなくなってしまうこと。そして第2は、澁澤の魚名分類にあったようにメダカの地方名が劣勢魚名であったために、現在ではすでに標準和名のメダカに追いやられてしまい、その名を残していないのではないだろうか。もっとも、東京における地方名数の16は全体の0.32%にあたり、もともと東京にメダカの方が少なかったことをうかがわせる。そして、1951年に中田喜直の作曲である「めだかのがっこう」がNHKからラジオ放送され全国に普及していったのも、その一因になっているのかもしれない(上野, 1987)

いずれにしても、早急に結論をだせる問題ではなく、今後さらに検討をすすめていく必要があると思われる。なお、参考のために多摩川に生息する魚類の全国的地方名を付録に記載した。

また、上記ではカジカの東京での呼称は、わずかにカチグロとグズだけが記されている。そして標準和名にもなっているカジカは、全国各地で共通するということになっているが、筆者の調査において(非常に狭い範囲ではあるが)「カジカ」という表現はできておらず、常に「カジッカ」(青梅, 五日市, 福生, 秋川)ないしは「カジッカー」(羽村)であった。このことについて地元の古老たちに話を聞くと、カジカとはカエルのカジカのことをさし、それと区別して魚の方のカジカをカジッカないしカジッカーと呼んでいるということであった。これなどは微細な違いではあるが、偶然に同名をもつ2種類の動物の音韻表記上の問題として大変興味深い話と考えられる。

V 地方名ハヤについて

多摩川に生息する淡水魚の地方名については表2に示したとおりであるが、数としてコイ科魚類の方言が非常に多いことがわかる。また、なかでもハヤの呼称をもつ種類をかなり多くみることができる。本項においては、この「ハヤ」の名称に着目して若干の考察をおこないたい。

ハヤ、— ハヤ(ハヤの前に修飾語がつく)もしくはハヤ—(ハヤの後に何らかの言葉がつく)の名称および全国的分布を表3に示し、今回の多摩川における調査においてのみ収集することのできたものを表4に示した。この表からわかることとして、まず既存の資料にないものに多摩川中上流域ではツチフキおよびヨシノボリについてそれぞれマルタッパヤ, チョコバヤという呼称がある。ヨシノボリについてはコイ科ではなくハゼ科であること、形態的にハヤの呼称をもつことに疑問がある。またチョコバラという地方名があり、それとの混同が考えられる。いっぽう、ツチフキについてもその形態からハヤの名称が付されたことにたいして違和感がある。

つぎに、ハヤにつく修飾語について考えてみたい。意味の不明なものもかなりあるが、おおまかに色彩的または生態的特徴をもつものと味によるものに分けることが可能である。たとえばウグイやオイカワにおけるアカ, クキ, ジンジ, ゼンゴ, などの修飾語は産卵期の雄個体の婚姻色を表し、ウグイのス

りは擦り場、すなわち川魚が産卵のさいに腹を川底に擦りつける場所からついた呼称である（尚学図書編、1989）。また、オイカワのシラッパヤ、シラハヤ、シロバヤは産卵期ではない雄もしくは雌の色彩を表現した呼称といえよう。これらもまた、色彩的特徴をもった修飾語である。いっぽう、味を表現したもとしてタモロコのダゴ（肥桶の意）、ウグイ、アブラハヤそしてオイカワのクソ、ニガ、バカ、ネギをあげることができる。これらは、その味の不味さゆえに付された修飾語、つまり食用には適していないことの表れであると考えられる。そこで今回の聞き取り調査において考えられるクソッパヤとバカッパヤの名称について若干ふれてみることにする。

クソッパヤの名称は、表4よりタモロコ、ウグイ、アブラハヤにみられる。クソッパヤの名称は上記のとおり食用として使いものにならない魚という意味であろうが、ウグイはかなり美味である。このことから考えると、元来クソッパヤの呼称はタモロコとアブラハヤにつけられたもので、その後婚姻色（クキ）のでていない雌のウグイが混同されて呼ばれるようになったと推測できる。いっぽうのバカッパヤは、アブラハヤとオイカワに付されている呼称であるが、双方の魚種とも不味い魚とされている。やはり使いものにならない魚の意味でバカッパヤという名称が用いられているのだろうが、色彩的には地味な色をしているアブラハヤと美しい婚姻色のであるオイカワの雄ではかなり異なる。したがって、この呼称についても先述のクソッパヤと同様に、アブラハヤとオイカワの雌が混称されたことが考えられる。

さて、本項の最後として、アブラハヤとタカハヤの地方名における混称ならびにハヤという呼称のもっとも多いオイカワについてふれておきたい。

表4においては、タモロコの方言でタカハヤの名称がでていますが、元来タカハヤ（*Phoxinus oxycephalus jouyi*）はタモロコではなくアブラハヤにつけられた名称であると思われる。というのもその形態的特徴からみて、あきらかにタモロコよりもアブラハヤに近いと思われることである。そしてそれを裏づけるかのように表3において、静岡県の大井川水系ではアブラハヤとタカハヤが共存している地域では、その名称に混称がある（河端、1978）。実際、先にも記したように、この両種は形態的にかなり類似しており、修飾語の特徴としてもクソ、ノメ、ノメラの接頭語がつくことで共通している。したがって、多摩川においてタカハヤと称されるタモロコはアブラハヤとの見間違えであり、さらにタカハヤの生息している地域の人が多摩川流域に移りすみ、形態的によく似ているアブラハヤのことをタカハヤと誤認したのではないだろうか。

終わりに、ひとつの問題提起としてオイカワにおけるハヤの呼称について若干記すことにする。表3をみると、オイカワにハヤの名称を付けている地域がかなりあることがわかる。オイカワをふくむ属 *Zacco* は自然分布の東限が静岡あたりであるという（板井、1982:44）。このことを考慮すると、関東地方においてオイカワに付されている呼称ハヤはその分布からみて元来アブラハヤをさしていた可能性がでてくる。そのように考えると、先にもふれたアブラハヤとオイカワの混称は比較的容易に説明がつくのではないだろうか。

VI おわりに

多摩川の中上流域は、都心の喧騒をはなれ一見非常に鄙びた印象をうける。しかし、それらの地域へも近年における急速な都市化の波は影響を及ぼしているようである。第6章と第7章における各々の事柄が、今回の調査からは非常に乏しい量の情報しか得ることができなかったことも、その裏づけのひとつといえるだろう。科学的根拠はなにもないが、あと10年ないし20年はやく今回の調査をおこなっていたのならば、得られる情報量もかなり多かつたのではないかというのが筆者の感じた印象である。いっぼう、そのようななかで魚類の地方名について全魚種からではないにしても、47例の名称を18魚種から得られたことは大変意義深い調査であったのではないだろうか。機会があるならば、今後ともさらに多摩川流域における魚名の調査をすすめるとともに、他の地域と比較をし、魚種の生息分布と魚名方言の分布の関係などについての調査もおこなっていく必要があると考えている。

VII 引用文献および参考文献

引用文献

- 秋本吉郎（校注）．1958．風土記．日本古典文学大系 2：119，岩波書店．
- 新井白石．1906．東雅．市島謙吉（編輯兼校訂），新井白石全集第四：356，東京活版株式会社．
- 板井隆彦．1982．静岡県の淡水魚類－静岡県の自然環境シリーズ－，第一法規出版株式会社．
- 内田恵太郎．1966．さかな異名抄，朝日新聞社．
- 上野一郎（編）．1987．めだかのがっこう（中田喜直選集），現代こどもの歌秀作選，河合楽器製作所出版部．
- 榮川省造．1982．新釈魚名考，青銅企画出版．
- 大石千引．天保5（1834）．言元梯．
- 大槻文彦．1956．（新編）大言海，富山房．
- 折口信夫．1983．万葉集（下），日本古典文庫3，河出書房新社．
- 貝原益軒．1973．日本積名．益軒全集八卷之一，国書刊行会．
- 辛川十歩（柴田武）．1980．メダカ乃方言－5,000の変種とその分布－，未央社．
- 河端政一（板井隆彦・谷田一三・丸山隆・池谷修・大塚善弘・山田辰美）．1978．大井川水系の河川動物の生息状況と河川環境Ⅱ（大井川動植物生態調査第二次報告書，p.19-84，別刷），建設省中部地方建設局静岡河川工事事務所．
- 北野 克（写本筆写）．1983．名語記，勉誠社．
- 小林義兄．文化3（1806）．湖魚考．
- 坂本太郎（家永三郎・井上光貞・大野晋）（校注）．1967．日本書紀 上．日本古典文学大系 67：202－203；332－334，岩波書店．

- 澁澤敬三. 1959. 日本魚名の研究, 角川書店.
- 澁澤敬三. 1986. 日本魚名集覧, 日本常民生活資料叢書第三卷水産篇 (2), 三一書房.
- 尚学図書 (編). 1989. 日本方言大辞典, 小学館.
- 神社新報. 1990, 4. 9. 食と日本人, 神社新報.
- 寺島良安 (編). 1970. 和漢三才図会, 東京美術.
- 寺島良安 (編). 1987. 島田勇雄・竹島淳夫・樋口元巳 (訳), 和漢三才図会 7, 平凡社.
- 中坊徹次 (編). 1993. 日本産魚類検索—全種の同定—, 東海大学出版会.
- 日本学術会議 (訳). 1980. 国際動物命名規約, 北隆館.
- 日本魚類学会 (編). 1981. 日本産魚名大辞典, 三省堂.
- 日本大辞典刊行会 (編). 1989. 日本国語大辞典第八卷, 小学館.
- 日本大辞典刊行会 (編). 1990. 日本国語大辞典第一卷, 小学館.
- 新村出 (編). 1991. 広辞苑, 岩波書店.
- 林 武. 1975. 日本語源学, 講談社.
- 人見必大. 1978. 島田勇雄訳, 本朝食鑑 3, 平凡社.
- 平塚市博物館 (編). 1978. 相模川の魚と漁 — 相模川流域漁撈習俗調査報告書 —, 平塚市書籍商組合.
- 前川文夫. 1973. 日本人と植物, 岩波書店.
- 益田 一 (尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫) (編). 1988. 日本産魚類大図鑑, 東海大学出版会.
- 松岡静雄. 1937. 日本古語大辞典 (語誌), 刀江書院.
- 松永貞徳. 元禄 9 (1696). 和句解.
- 盛永俊太郎 (安田健) (編). 1985. 享保・元文諸国産物帳集成第 II 卷, 科学書院.
- 矢野憲一. 1985. 魚の文化史, 講談社.
- 矢野憲一 (監修). 1989. 魚の日本史. シリーズ自然と人間の日本史 1, 新人物往来社.

参考文献

- 新井白石. 1906. 東雅. 市島謙吉 (編輯兼校訂), 新井白石全集第四: 356, 東京活版株式会社.
- 荒俣 宏. 1992. 世界大博物図鑑 2 [魚類], 平凡社.
- 神宮司庁 (編纂). 1980. 古事類苑 (動物部十六), 吉川弘文館.
- 東 光治. 1986. 萬葉動物考, 有明書房.

中村守純. 1979. 原色淡水魚類検索図鑑, 北流館.

馬渡峻輔. 1994. 動物分類学の論理 — 多様性を認識する方法 —, 東京大学出版会.

正宗敦夫 (編纂)・校訂. 1977. 倭名類聚鈔, 風間書房.

矢野憲一. 1981. 魚の民俗. 日本の民俗学シリーズ5, 有山閣.

VIII 表

表 1 多摩川中上流域に生息する魚類

科名、標準和名ならびに分類順については益田ほか(1988)にしたがい、学名については中坊(1993)にしたがった。また*は他水系からの移入魚を示す。

科名	標準和名	学名
ヤツメウナギ	スナヤツメ	<i>Lethenteron reissneri</i>
ウナギ	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>
キュウリウオ	*ワカサギ	<i>Hypomesus trarsapacificus nipponensis</i>
アユ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>
サケ	イワナ	<i>Salvelinus leucomaenis</i> ssp.
	ヤマメ	<i>Oncorhynchus masou masou</i>
	*アマゴ	<i>Oncorhynchus masou ishikawae</i>
コイ	ヤリタナゴ	<i>Tanakia lanceolata</i>
	シロヒレタビラ	<i>Acheilognathus tabira tabira</i>
	ヒガイ	<i>Sarcocheilichthys variegatus variegatus</i>
	*ツチフキ	<i>Abbottina rivularis</i>
	カマツカ	<i>Pseudogobio esocinus esocinus</i>
	ニゴイ	<i>Hemibarbus barbus</i>
	*タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus elongatus</i>
	モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>
	ウグイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>
	アブラハヤ	<i>Phoxinus lagowskii steindachneri</i>
	オイカワ	<i>Zacco platypus temminckii</i>
	*カワムツ	<i>Zacco</i> sp.
	*ハス	<i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i>
	フナ	<i>Carassius auratus</i> ssp.
	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>
ドジョウ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>
	シマドジョウ	<i>Cobitis biwae</i>
タニノボリ	ホトケドジョウ	<i>Lefua echigonia</i>
ギギ	ギバチ	<i>Pseudobagrus tokiensis</i>
ナマズ	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>
メダカ	メダカ	<i>Oryzias latipes</i>
ハゼ	ヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i> sp.
	ヌマチチブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>
	ジュズカケハゼ	<i>Chaenogobius laevis</i>
	ウキゴリ	<i>Chaenogobius urotaenia</i>
	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>
カジカ	カジカ	<i>Cottus pollux</i>

表2 聞き取り調査による多摩川中上流域に分布する淡水魚の地方名

地方名を収集できなかったものについては本表からはぶいた。また()内に漢字を当てることが可能なものには漢字を、そして魚の特徴などを記した。*は東京における地方名と完全に重複しているもの、**は全国的地方名(東京をふくまない)との完全重複を示した。魚種の順序は表1にしたがった。

標準和名	地方名	地域
スナヤツメ	ヤツメ*	五日市
	ヤツメウナギ*	青梅, 羽村
ウナギ	ゴマウナギ〔腹部に胡麻状の斑点のあるもの〕**	五日市
アユ	アイ*	多摩川各地
	トオス(越年魚)	五日市
タナゴ	イタブナ	立川, 福生
	キンギョブナ(真にタナゴを指しているのかは定かではない)	立川
ツチフキ	マルタ	五日市
	マルタツパヤ	五日市
カマツカ	コト	青梅
	コトウ	五日市, 福生, 羽村
ニゴイ	サイ*	福生
タモロコ	クソツパヤ(糞鮠)	五日市
	タカハヤ	五日市
ウグイ	カンバヤ(寒の時期のもの)	五日市
	クキツパヤ(群来鮠 ¹⁾ ; 婚姻色がでるとき「クキがでる」という。3~5月, 産卵期のもの)	羽村
	クキバヤ**	福生
	クソツパヤ(糞鮠)	秋多町(現秋川市)
	コトウ	羽村
	ハヤ(鮠)*	福生, 立川, 五日市
	ハヤメドッコ(稚魚の呼称)	五日市
アブラハヤ	ホンバヤ*	福生, 羽村, 檜原村
	アブラツパヤ	羽村
	クソツパヤ(糞鮠)	五日市, 檜原村
	バカツパヤ(馬鹿鮠)	立川
	マグソツパヤ(馬糞鮠)	青梅, 檜原村
オイカワ	マグソンバヤ(馬糞鮠)	梅郷
	オコゼ	秋川, 五日市, 羽村, 青梅
オイカワ	オコゼツパヤ	羽村
	バカツパヤ(馬鹿鮠)**	五日市, 福生, 羽村, 立川
フナ	ヤマベ*	五日市
	ザッコ ²⁾ (雑魚)**	立川

表2 つづき

標準和名	地方名	地域
シマドジョウ	スナモグリドジョウ	立川
ホトケドジョウ	オババ	五日市
	オババドジョウ	福生, 羽村
	スナメ	青梅
	スナモグリ	立川
ギバチ	ギンギョ**	秋多町(現秋川市), 青梅
	ギンギョバチ	羽村, 青梅
	ギンタバチ	青梅
	ゲバチ**	福生, 五日市, 立川
ヨシノボリ	チョコカジカ	五日市
	チョコッカジカ	檜原村
	チョコバラ	福生
	チョコバヤ	羽村
カジカ	カジッカ	青梅, 五日市, 福生, 秋多町 (現秋川市), 立川, 羽村, 檜原村
	カジッカー	羽村

- 1) クキは上記のとおり, 婚姻色のでてきた個体についての表現といわれている。ここで「クキ」を「群衆」と表したのは, テレビ放映(NHK)のものを引用したにすぎず, 確証は得ていない。
- 2) ザッコは一般的に, あまり使いものにならない魚のことをさす。福生では, ウグイ, ウナギ, ナマズの稚魚, 立川では, フナをはじめとする小魚のことを言うそうであるが, ウグイやウナギが稚魚とは若干考えにくい。それ以外のハゼなどもさしていたのではないだろうか。

表3 多摩川に生息する魚類のうち, 「ハヤ」の地方名をもつ魚種およびそれらの分布

多摩川における聞き取り調査のものはふくまれていない。魚種の順序は表1にしたがった。

aは板井(1982), bは平塚市博物館編(1978), cは河端ほか(1978), 印のないものは日本魚類学会編(1981)からの引用である。

標準和名	地方名	地域
タモロコ	カキバヤ	静岡県, 静岡, 静岡県原
	ダゴバヤ	久留米
	ハヤ	水戸
ウグイ	アカツバヤ	^b 相模川水系平塚市須賀付近
	クキバヤ	群馬県館林町
	スリツバヤ	^b 相模川水系城山町小倉
	ハヤ	東京, 関東, 信州上田, 多摩川中流域以上, 松本平, 栃木県藤岡, 棚倉町, 武蔵東京霞ヶ浦, 岡山, 箱根, 長野, 佐賀, 常陸霞ヶ浦

表3 つづき

標準和名	地方名	地域
ウグイ		^b 相模川水系上野原町松留，同相模湖町千木良 ^a 同城山町小倉，厚木市下依知 ^a 同平塚市須賀付近 静岡県磐田郡井通村（雄） 東京，多摩川中上流以上
アブラハヤ	ブドバヤ ホンバヤ マルタッパヤ アブラッパヤ	^b 相模川水系相模湖町千木良 ^b 相模川水系大月市小篠 ^c 大井川水系とその近隣河川（タカハヤと混称） ^a 静岡県各地，鮎沢川，狩野川（一部） ^a 稲生沢川，興津川，安倍川（タカハヤと混称） ^a 瀬戸川（タカハヤと混称） ^a 太田川（太田川・原野谷川〈タカハヤと混称〉）
	アブラハヤ アブラバヤ イシバヤ イナッパヤ クソッパヤ	^b 相模川水系山中湖村 ^a 原野谷川 長野 ^b 相模川水系大月市小篠 ^c 大井川水系とその近隣河川（タカハヤと混称）
	クソンバヤ タゴバヤ ニガッパヤ	^b 相模川水系厚木市下依知 筑後中流 ^b 相模川水系山中湖村，大月市小篠
	ニガハヤ ニガバヤ ノメッパヤ ノメラッパヤ	下野地方 関東 ^a 瀬戸川（タカハヤと混称） ^c 大井川水系とその近隣河川（タカハヤと混称） ^a 瀬戸川（タカハヤと混称）
	バカッパヤ ハヤ	^b 相模川水系大月市小篠 筑後川，駿河内浦 ^a 東部各地，伊東松川，青野川，土肥山川 ^a 狩野川，富士川（芝川・稲瀬川〈後山〉由比川，波多打川）
オイカワ	アカハヤ	^a 天竜川沿岸（雄）， ^a 菊川（小鮎川）

表3 つづき

標準和名	地方名	地域
オイカワ	アカバヤ	静岡県中泉, 福岡, 佐賀
	アカンバヤ	群馬県邑楽群伊奈良(雄)
	アサヒバヤ	福岡県朝倉郡, 浮羽郡
	オショッパヤ	^a 原野谷川
	クソンバヤ	山口県厚狭郡吉部
	ザラッパヤ	群馬県
	シラッパヤ	^a 興津川
	シラハヤ	信州, ^a 巴川(長尾川)
	シロバヤ	中泉(雄)
	ジンジッパヤ	^a 興津川, 巴川, 安倍川, 瀬戸川, ^a 志太平野諸河川, 大井川
	ジンジパヤ	^a 興津川, 巴川, 安倍川, 瀬戸川 ^a 志太平野諸河川, 大井川
	ジンジバヤ	^a 大井川
	ジンダバヤ	^a 瀬戸川
	スリッパヤ	神奈川県津久井郡(産卵期)
	ゼンゴッパヤ	静岡県安倍郡(産卵期)
	ドロンバヤ	山口県厚狭郡吉部
	ナンテンバヤ	^c 大井川水系とその近隣河川 ^a 大井川(千頭)
	ニガツバヤ	群馬県渋川
	ニガハヤ	静掛塚町
	ネギバヤ	静岡県中泉, 天竜川沿岸, ^a 気田川
	パカッパヤ	群馬県
	ハヤ	東京(雌・雄), 琵琶湖(雌), 群馬県, 兵庫県, 近江粟太郎, 松本平, 広島県, 群馬県邑楽郡 三野谷, 西谷田, 群馬県邑楽郡 伊奈良高島, 群馬県渋川, 熊本 県阿蘇郡北小国村(雌), 近江 粟太郎常盤村, 信川, 丹波竹野 (雄), 兵庫県竹野島(雄・雌), 長野, 広島 ^a 鮎沢川, 伊東松川, 稲生沢川, 青野川 ^a 富士川(稲瀬川), 巴川, 安倍 川, 瀬戸川 ^a 大井川, 新野川, 菊川 ^a 太田川(太田川・原野谷川)

表3 つづき

標準和名	地方名	地域
オイカワ		*天竜川（天竜川・阿多古川・気田川・相川）
	ハヤンボ	*都田川
	ブトバヤ	丹波加佐郡東雲村上東 静岡県天竜川沿岸，二俣（雄）
	ベンバヤ	*天竜川 静岡県三井郡御原村
	ホンバヤ	*朝比奈川（玉取）

表4 多摩川における魚名ハヤの呼称

聞き取り調査において収集することのできた「ハヤ」の呼称をもつ魚類およびそれらの収集地。魚種の順序は、表1にしたがった。

標準和名	ハヤの呼称	地域
ツチフキ	マルタッパヤ	五日市
タモロコ	クソッパヤ	五日市
	タカハヤ	五日市
ウグイ	カンバヤ	五日市（寒の時期のもの）
	クキッパヤ	羽村（3～5月の産卵期の雄）
	クキバヤ	福生
	クソッパヤ	秋多町（現秋川市）
	ハヤ	福生，立川，五日市
	ハヤメドッコ	五日市（稚魚の呼称）
	ホンバヤ	福生，羽村，檜原村
アブラハヤ	アブラッパヤ	羽村
	クソッパヤ	五日市，檜原村
	バカッパヤ	立川
	マグソッパヤ	青梅，檜原村
	マグソンバヤ	梅郷
オイカワ	オコゼッパヤ	羽村
	バカッパヤ	福生，立川，五日市，羽村
ヨシノボリ	チョコバヤ	羽村

5. 漁具と漁法

I はじめに

人類の歴史をふりかえってみると、農耕や牧畜などの「食料資源管理経済」がはじまってからまだ、1万年ほどしか経過しておらず、それ以前の大半期間は狩猟、漁撈、採集によって自然界にちらばる生物を食料とし獲得する「自然経済」の時代であった（小山，1992）。

今回、調査をおこなった多摩川中流・上流域からそれら自然経済時代の遺物である石錘、土錘そして土器片錘などの漁具をいくつかの博物館、郷土資料館などでみる事ができた。これらの出土品は、多摩川中流・上流域で縄文時代、古墳時代から漁業がおこなわれていた証拠となるものである。

さて、多摩川流域の漁具や漁法については、安斎（1985a, b）、立川市教育委員会（1980）ほか、それぞれの市町村より発行されている刊行物にかなり詳しく記載されている。今回、筆者らがおこなった調査において収集できた情報は、表1-1から1-3（漁具の分類）および、表2-1から2-3（漁法の分類）に示したとおりであるが、これらは前出の記載ないし研究の成果を何らこえるものではない。

しかし、聞き取り調査ならびに東京の隣接地域との比較によって、多少の知見を得ることができたのでここに報告したい。

II 漁具の分類

多摩川流域で、川漁をするときの漁具は、「ウケ（筥）漁具」、「網漁具」、「釣り漁具」、「突き刺し具」の4種類に大別することができる（表1-1, 1-2）。そして漁をサポートし、より効率よく効果的におこなうために、先人があみだした「補足具」が存在する（表1-3）。

1. ウケ（筥）漁具

ウケ漁具を使った漁撈は、日本以外にも、東南アジア、アフリカそして中南米諸国などのいたるところにその分布をみる事ができ、形や材料もさまざまである。一例をあげると、タイ国のメーコーン流域の一部で使われている「トゥム・ヤイ」というウケは、割り竹を箆編みにし、大きいものでは長さが約9mもあり、直径は1.5mほどで、ウケには強度をもたせるため、周囲を4本の竹竿で補強してある。補強した4本の竹竿は、ウケの口の部分よりも0.5mほど長く、これを縦にして川底に突き刺すようにして沈める。このウケによって捕獲される魚のほとんどが、底生性のナマズ類である（図1）。

神野（1982）の報告によると、日本国内でも山梨県富士川の大モジリは、長さが6.2mで口の部分の短径（高さ）は1.25m、長径（横幅）が2.33mほどの大きさのものがあ、これはタイ国のトゥム・ヤイにひびてくる大きさである（図2）。

このように、各地で使われているウケにも、河川の規模や漁獲する魚の種類、仕掛ける場所の地形などにより、形や大きさに多様性があり、また、呼び名にもいろいろなものがある。

多摩川のウケには、表1-1に示したように、漁獲対象となる魚種や、材料、形そして構造の違いによって呼び名も異なり、全部で8種類が存在する。特徴や使用方法などの詳細については後述する。

2. 網漁具

表1-2に示したように、網漁具の材料には繊維と竹の2種類がある。化学繊維（ナイロン）が使われる以前は、絹や麻、木綿繊維などが用いられた。これらの繊維は柿の渋に漬けることにより、強度をもたせるとともに、漁をするときに白地だと魚が驚くのをそれを防止する役割もはたしている。また、このような処理により水のなかで水切れがよく、扱いが楽になり長もちする利点がある。

これら網のなかには、投網、ハネ網（図3）、刺し網、ヒックテ網、ザッコ（雑魚）網などがふくまれる。なかでもハネ網は4～5mの2本の竹竿に幅1m強の網をつけた巨大な網である。また、竹を材料にしたものには、タケス（竹簧）やブツタイがある（図4）。タケスは竹を細く割ったものをすだれ状に編み、漁撈中の魚の逃走を防止したり、仕切り用の網として漁の補助的な役目をする道具である。ブツタイは、細く割った竹をすだれ状に編んだ竹簧の一辺をふたつ折にし、交差した部分を支点にし竹竿で強度をもたせたものであり、小川や農業用水路そして池などにおいて小魚をすくう道具として用いられた（安齋, 1985a, b）。

3. 釣漁具（表1-2）

1) ヒッカケ竿（図5）

2mほどの竿の先に30～40cmの道糸をつけ、その先に返しのない釣り鉤1～5本を放射状に束ねたものを竿の先に引っ掛けておき、魚が掛かると釣り鉤がはずれる仕組みになっている。箱メガネで対象となるアユを探しながら用いるガンキョウ（眼鏡）釣りに使われる。

2) ジゴク（地獄）針（図6）

竿は長さ1mほどの篠竹を使い1.5～2cmの長さに切った木綿針や針金の中ほどを道糸で結ぶ。鉤は竿の先につけ、餌となるミミズと一緒に刺す。

4. 突刺具（表1-2、図7）

1) ヤス

ザッコ（雑魚）突き用のモリの1種で、穂先は竹竿の先につけるが1～2本のものから、5～6本のものであり、使用する人が各々が使いやすいように工夫して作った。穂先にはそれぞれ小さな返しがついており、魚が逃げないような仕組みになっている。また鉄が手にはいらぬ子供たちは、自分で竹を削って作ったという。

2) アユツキ（鮎突き）ヤス

1～5もしくは6本の木綿針を1列にならべて板に刺し、柄の部分に取りつける。このヤスはアユを専門に捕る道具で、なるべくアユに傷をつけないように返しはつけられていない。これもやは

り使用者がそれぞれ工夫して作ったものである。

3) ドジョウツキ（泥鰌突き）

木綿針10数本を柄にたいし直角になるように1列にならべ、櫛状にしたもので、これも各人が使いやすいよう工夫をこらして作った。

5. 補足具（表1-3）

1) ハコメガネ（箱眼鏡）

ハコメガネは、ウケ漁法のひとつである瀬張漁のときに、仕掛けてあるモジにアユが入っているかどうかを確認したり、ガンキョウ（眼鏡）釣り、突刺漁や手づかみ漁などで、水中での魚の動きをみるときに使う。かつては、水の中では裸眼で魚を探したりしていたが、明治以降になって、欧米からのガラスの導入にともなって急速に発達した道具である。

2) 威し具

主としてアユ漁に用いることが多い。ウラジロ^{註1}、ヤナギ、ヨモギ、ヨシ、ササ、クマザサなどの植物の葉を利用するもののほか、ペラ（IV-2参照）そして稲藁で作られたオカザリ（お飾り）などがある。

これらの道具は、魚が水中で銀白色に光るものに驚く習性を利用したもので、最終捕獲場所となるモジやハネ網に追いこむために有効である。

3) シラタ

寄せ網漁、鶴飼漁、追いこみモジ漁などアユを威しながら最終捕獲場所に集めるときに使う網である。他の網漁具との違いは、材料が少し太めの麻や木綿糸を用い、柿渋での処理をおこなわず白地のままで使用することである。これは、先にふれたようにアユが白銀色のものに驚く習性を利用したものであるいっぽう、錘が川底の石にあたるときの振動や音にたいしてもアユが敏感であることも考慮に入れている。

大きさは、幅が1.5mほどで、長さが10~20mもあり、場合によっては2枚をつなぎ合わせて使うこともある。

4) 罟アユ

罟のアユを使ったトモ（友）釣りは日本特有な釣り漁法である。アユは石の上につく藻類を餌とし、そこを自分の縄張りにしている。自分の縄張りに別のアユが侵入してくると本能的に追いだそうとするため、罟アユに仕掛けてある釣り鉤に掛かる。

5) 照明具（図8）

夕方から夜にかけておこなわれる火振り漁や、ドジョウ刺し漁などの漁のときに使われる明かりで、ガンドウ、カンテラ、カーバイトランプ、懐中電灯、ヨトボシ（夜灯）などがある。この明かりには、灯油、ローソク、アセチレンガスなどが使われた。

6) その他

川のなかでの漁撈中に水垢などで足をとられないために足半（藁草履の踵部分のないもの）や草鞋などが危険防止のために使われた（図9）。

Ⅲ 多摩川におけるウケの特徴

1. 材 料

1) モジ（アユモジ）（図10）

材料は、ヒゴ状に削った竹を多摩川および秋川流域でカナトヅル^{註2}と呼ばれる植物の蔓で螺旋状に編み上げたものであり、ふたつのモジを合体させた双胴型のものが一般的である。しかし、近隣の荒川や利根川水系では、アユの入口を小判型にし、真んなかを仕切ったものや、双胴型ではなく単独で用いるものもある。これらアユモジは「返し（舌）」をつけない無舌型が特徴といえるが、これはアユが後ろ向きに下がることができない性質を利用している。

多摩川水系のモジは江戸時代から大きさが決められており、その理由としては、多摩川のアユは幕府に差しだす「献上鮎」として、幕府が一定の規格を決めたためである。また、モジには大きさが2種類あり、上げアユよりも、落ちアユのときのほうが若干大きめにできている。そのできばえは、まことに美しく、まさに芸術品ともいえる見事なもので、近隣水系のモジと比べても格段の差があるといえよう。

2) ザッコドウ（雑魚笥）（図11）

この種類のウケには、大小さまざまな大きさがあり、大きいものでは長さが1m前後、直径で約50cmほど、小さいものだと長さが約50cmで、直径が10数cmくらいのもまであり、形もドウのなかほどが少しくびれているものなどがある。これらのウケは細く割った竹をシュロ縄で竹簧編みにし、返しの型は単舌型と複舌型の2種類があり、漁をする魚の種類や設置場所によって使い分けることができる。

3) ウナギドウ（鰻笥）（図12）

このウケはウナギを専門に捕るウケで、ウナギの習性を考慮して、長さはザッコドウより少し短めで、ドウの直径も10cm前後とだいぶ細くできており、竹で作られている。また、編みかたには「箆編み」と、「竹簧編み」とがあり、返しも箆編みしたものは単舌型で、竹簧編みのものは複舌型になっている。

4) ドジョウドウ（泥鰌笥）（図13）

水田の水口など狭い場所に仕掛ける関係で、ウナギドウよりひと回り小さく、長さは50cm以内で直径も10cm以内の大きさである。これも竹を材料とし、編みかたもウナギドウと同様の箆編みと竹簧編みとがあり、返しは単舌型である。

5) テンノウドウ (天王笈) (図14)

このウケは、主材料の木(板)を箱型に組み立て、返し部分とその反対側(水の入排水部)は細く割った竹を簀子状にしている。また、なかにはドウの上側の一部も竹簀子状にしたものもあり、返しは単舌型で形は長方形の箱型をしている。

6) オケドウ (桶笈) (図15)

これもテンノウドウと同様に、主材は木で古い桶や樽をそのまま利用し、上部のふたの部分に木綿の網や布地をつけ、その部分を魚が入りやすいように使用者が工夫し、穴の大きさを決めた。返しも単舌型か何も付けない無舌型である。

7) ヤマメドウ (山魚笈) (図16)

長さ50~100cmの真竹の節を取りのぞき、約3分の2のところを15~18分割し、漏斗状にひらきタガで固定しただけのまことに簡素なウケである。これは、モジと同様に返しのない無舌型である。

近隣の水系で、これと同じようなウケは、荒川の上流部と栃木県下の上流水域で使われていた報告がある(安斎, 1985a)。

2. 使用方法

ウケ漁具であるモジや各種のドウおよびヤナ(梁)は漁獲する魚の生態を利用し、それぞれに合った方法で設置し仕掛ける(後述、漁法の項で詳しく述べる)。そしてウケ漁法には、仕掛けてから魚が入るのを待つという、時間的余裕があるのがひとつの特徴かと思われる。

3. 呼 称

多摩川流域では、ウケ漁具の呼称を「モジ」と「ドウ」とに区別している。アユを専門に捕る無舌のウケを「モジ」または、頭にアユをつけて「アユモジ」と呼びそのほかのウケを「ドウ」と呼んでいる。

神野(1982)のによれば、多摩川流域以外で「モジ」の名称を用いている地域は、三重、岡山、広島、島根の各県と四国地方、そして長野県北部、岐阜県西部、京都府北部のそれぞれ一部に分布しており、関東周辺で「モジ」の呼称をもつ地域は多摩川流域以外にはない。

このようにしてみると、なぜ多摩川流域だけが「モジ」または「アユモジ」と呼ぶようになったのか、非常に興味深いところである。

いっぽう、「ドウ」もしくはそれに関連した呼称である「ド」を用いている地域は、東北地方全域をはじめ、山梨県東部、埼玉、群馬両県の一部に分布している。そして多摩川流域で用いられている「ドウ」は、頭に魚の名前や制作に用いた材料の名前をつけて「ウナギドウ」、「オケドウ」などのようにして呼ばれているのが特徴といえよう。

ちなみに、近隣の利根川水系や栃木県下では「モジ」や「ドウ」の名称はみられず、「ウケ」と称している。この呼称は、九州の北部と南部、長野県全域そして静岡県内の狩野川水系に分布している。

IV 漁 法

かつて多摩川は「母なる川」と流域住民に呼ばれ、親しまれてきた。水は清らかで水量も豊富な流れで清冽なる都市型の河川であったが、首都を東京に移してから今日にいたるまで、東京は人口増加にともない水不足問題を抱えるようになった。この問題を解決するために現在の羽村取水堰（玉川上水）を承応2～3（1653～54）年に、そして小河内ダム（奥多摩湖）を1957年に構築した（立川市教育委員会、1980）。

戦前には、立川の飛行場建設が始まり、小河内ダムとこの飛行場建設には多摩川の砂利が使われた。また、東京の都市化が進みビルの建設資材として、やはり砂利が大量に使われ、河川床が低下した。小河内ダムの完成にともない、このダムの構造上、底からの放水がおこなわれるため、夏場の水温低下や水量不足、夏から秋にかけての台風シーズンの増水がなくなった。その反面、大水による川床の大掃除ができなくなる弊害も生じるようになった。

また、戦後の急速な都市化にともない、家庭の生活排水や新しい農薬の散布がおこなわれるようになり、水質汚染が進み水生生物をふくむ河川の生態系が大きく攪乱された。

このような背景から、アユの餌となる藻類や、ウグイ、カジカ、シマドジョウなどの餌になる水生昆虫が減少し、これらの魚の生活に大きな影響を与えた。そのほかにも10ヶ所ほどの堰が、河川を上下に移動するアユやマスなどの溯上に大きな障害となった。

羽村や福生に、昔から居住している古老は「夏のアユの溯上期に川に行くとアユが群れをなして溯上するのをよく目撃した。そして、あのアユ独特な香りがした。」と話していた。また、「最近ではカジカやシマドジョウがまったく捕れなくなった」とも話していた。

これらを総合すると、河川環境の悪化により漁法や漁獲量が変わるとともに、川漁そのものにも変化があったと考えられる。

つぎに、多摩川でおこなわれていた代表的な漁法について紹介することにしたい。

1. ウケ漁法（表2-1）

1) モジ（アユモジ）

モジを使った漁法には「瀬張（せばり）漁」、「シラ漁」、「追いこみモジ漁」がある。これらは、あらかじめ所定の場所にモジを設置し、それぞれの漁法にあった威し具でアユをモジのなかに追いこむ方法である。

①瀬張漁（図17）

稲藁で作ったオカザリ（お飾り）と呼ばれる威し具を川の流れてたいして直角に張り、その両端に流れにそって平行に仕切り網を張る。川岸と仕切り網とで長方形になるようにしたこの場所を通称「部屋」と呼び、部屋の上流部はアユが入りやすいように開けておき、下流部にはアユの逃走を妨げるためにオカザリを張る。モジはこの仕切り網の底の部分に5～6個設置するが、モジが流さ

れたり、網の下からアユが逃げ出さないように、石などでしっかりと固定する必要がある。ちなみに、部屋を両端に作った場合には「両部屋」といい、片側のみの場合は「片部屋」という。

このオカザリは、上げアユにはあまり影響がなく、アユの溯上に障害にはならない。また、片部屋のときには、枝つきのササの葉も同時に使うことがある。

なお、この漁法は川の水が「ヤナギッパ」または「ササニゴリ」と呼ばれるような薄く濁っているときにはあまり効果がなく、水が澄んでいる早朝がもっともよいとされている。

②シラ（修羅）漁

瀬張漁とほぼ同様であるが、おもに7月下旬から11月の落ちアユのころまでおこなわれ、威し具にはヨシ、タケ、ササなどの葉を使う。産卵のために川を下りはじめたアユは成熟して夏よりひと回り大きく成長しているため、モジも魚体に合わせて少し大きめのものを用いた。

なお、名称の由来は威し具のことをシラと呼ぶことによっている。

③追いこみモジ漁

上げアユを対象にしておこなわれた漁法である。流れにたいして直角に「仕切り網」、または「竹簧」を張り、張られた仕切り網や竹簧の下に、瀬張漁と同じようにしっかりとモジを設置し、数人が竹棒で水面を叩き、アユを威しながらモジに追いこむ。時期は6月から9月ころまでおこなわれた。

2) ドウを用いた漁法

ドウを使った漁法には、「ドンドン漁」、「追いこみ漁」などがあり、使用するドウにもザッコドウや「ナマズドウ」など各魚種にあわせたドウがある。また、地形や場所などによってもドウの大きさや型を選び設置する必要がある。

①ドンドン漁（図18）

多摩川や秋川水系の本流で、春から初夏にかけておこなわれた漁法で、水の流れが大きな石や何かの抵抗を受け、流れが急速に早まる状態を「ドンドン」という。そのドンドンを人工的に作るために、杭を打ちそこに板や石を積み上げ、その横に上りドウ（ドウの口を下流に向ける）の形でザッコドウを仕掛ける。なかに入る魚はシマドジョウが多いが他の魚もよく捕れた。この方法は水の落ち口にシマドジョウを始めとする小魚が集まる習性を利用した漁法であった。

安斎（1985a）によると、荒川水系や那珂川水系でも同じような方法で漁をしていたという。

②追いこみ漁

本流の川岸が湾状になった溜りを「ワンド」と呼び、このワンドの入り口を竹簧や網または川砂利で封鎖する。ドウの口をワンドに向けて仕掛け、ワンドのなかの魚が本流に移動するのをウケで捕獲する。河川の改修工事や護岸工事をおこなうようになってからは、このワンドが少なくなり追いこみ法もすたれていった。

③ザッコドウ

おもに老人や子供が用いたドウである。本流、支流、細流または農業用水路など、あらゆる場所

に仕掛け、捕れる魚は種類を問わず何でも捕獲したためにこの名称がついた。

一例をあげるならば、ナマズを目的とした場合は支流や農業用水路で、春から秋にかけておこなわれた。水路などに木杭を打ち、流れにたいして竹箆を横切るように張り、そこに大型で返しが単舌のものを流れの中央に下りドウ（ドウの口を上流に向ける）の形で仕掛ける。仕掛けは夕方におこない早朝に引きあげる。

3) ウナギドウ

このウケを仕掛ける場所は、川岸に近い水のよどんだところである。餌になるミミズを入れ、夕方に仕掛け早朝に引きあげる。この漁は老人や子供そして農業従事者の副業としておこなわれていた。

4) ドジョウドウ

ウケのなかに餌になるタニシをくだし、煎り糠と田泥をそれぞれ等量に混ぜた団子を作り、2～3個入れる。仕掛け場所は農業用水路の水田への入り口に、上りドウの形で、昼間に仕掛けて夕方に引きあげる（図19）。この方法は、流域一帯の水田で春から秋にかけて、子供や老人そして農業従事者の副業としておこなわれた。

「昔は田植えを終えたところから夏にかけて、この辺一帯にはたくさんのドジョウが生息しており、俗に‘田んぼの蛆’ともいわれるほどいたが、近ごろは農薬のせいでドジョウもいなくなってしまった」と羽村在住の古老が嘆いていたのを聞いたが、ドジョウが減っていったのにもない、ドジョウドウもすたれていったのだろう。

5) テンノウドウとオケドウ

一般的にウグイやオイカワなどを捕るためのウケで、蚕の蛹粉や魚粉などを土などと混ぜ団子状にしたものを餌として入れる。仕掛ける場所は、魚が集まる大きい淵の上流で水深が腰ぐらいの瀬に口を下流に向けて置く。また、水深が浅く明るいところでは、ウグイやオイカワがよく入る。とくに川筋が曲がったところでよく捕れ、多い時には1回の漁で4kgくらいは捕れたという。

6) ヤマメドウ

青梅より上流とその支流の山間部には、ヤマメやイワナが多数生息しており、10月中旬から11月上旬にかけてヤマメは産卵期に入る。この時期のヤマメは川を下りながら移動する。このヤマメは一般に「瀬すりヤマメ」といわれ、ときには浅瀬にもでてくる。このような習性を利用し、川瀬（水深10～15cm）に逆八の字型に川石を積み堰を設け、細くなったところにヤマメドウを下りドウの形で仕掛け、ウケのまわりを石で固定する。流れにそって下ってきたヤマメは、ウケの入り口から入り竹の隙間にはさまって捕れる。

近隣の水系では、荒川の上流部と栃木県下の上流水域でこのヤマメドウが使われていたという報告がある（安斎，1985a）。

7) ヤナ（梁）漁（図20）

明治以降から昭和初期にいたるまで、羽村や福生では小規模ではあるが、8月から10月にかけて

落ちアユを対象にヤナ漁がおこなわれていた。

秋川水系では、かつては水量も現在の2.5～3倍もあり、上流の檜原村や五日市から、ヒノキの丸太を組んだ筏流しが盛んにおこなわれていた。そのためヤナを仕掛けると、筏流しの通行に障害をきたすためにヤナ漁をおこなうことができなくなった。そしてそのかわりに、五日市では「留め川制度」を漁業組合が設けて流域住民に提供した。

ちなみに、五日市における聞き取りによると、この制度は川の上流から下流の間、長さ50～100mを漁業権利としていた。1回の漁を1日30円（明治後期から大正年間）で漁業組合から買い、上流と下流とを網で仕切り、そのなかにいる魚は全部捕ることができた。捕獲されたアユやヤマメは、川原で調理され、金もちが東京などからきた客の接待用として振る舞った。そしてこの制度は漁業組合がすべてをコントロールしていた。

大石（1969）『地方（じかた）凡例録』には、大川（現在の隅田川）筋ではアユ、コイやそのほかの川魚を捕るのに、ヤナを設けることが許され、江戸幕府はこのヤナを仕立てる者より、ヤナ運上金を徴収した旨が記してある。すなわち、かつては隅田川でもヤナ漁がおこなわれていたことになる。

2. 網漁法（表2-2）

網漁には2通りの方法がある。投網や地引き網、刺し網などのように1枚の網を使う方法と、魚を威し具で最終漁獲場所に集め、そこでウケやハネ網、すくい網または投網などで捕獲する方法である。なお、投網に関してはどちらの方法にも用いられる。

羽村における聞き取りによると、ハネ網漁、寄せ網漁、ペラ漁などは、1961年ころまでおこなわれていたが、その後はおこなわれていないという。

1) ハネ網漁（図21）

アユは水中で光るものにたいし、敏感に反応する習性がある。そこで、威し具であるウラジロの葉を束ね、縄に等間隔におもりと一緒に吊り下げようにつけ、これを川幅いっぱいに数人で広げて水中でヒラヒラさせながら川を下る。その背後には、ハネ網をもった数人が水中から驚いて飛び出すアユを受け取るという大掛りな漁である。

威し具には、このほかヤナギ、ヨモギ、カラマツソウなどの植物の葉が用いられるが、ウラジロの葉がもっとも適しているという。

2) 寄せ網漁（図22）

Ⅱ-2でふれた「シラタ」という網を用いた漁である。これは刺し網より太い木綿糸で編み、柿渋で処理をしていない長い網である。これを数人が川幅いっぱいに広がって引き、魚を威しながら1ヶ所に集め、叉手網やすくい網、投網などで捕獲する。また、あらかじめザッコドウを仕掛けておく場合もある。アユを捕るのが主目的であるがその他の小魚も一緒に捕れる。

必要人数が10人を越すこともある非常に大がかりな方法である。

3) ペラ漁

ペラと呼ばれる威し具は、長さ30~40cm、幅が3cmほどの薄く削った檜の板を4分の3ほどのところを火であぶり、糸を使って木を弓状に曲げたものを等間隔に縄に結びつける。あらかじめ漁獲場所をきめておき、そこに刺し網を張っておき、2人が縄の両端をもつ。そこにアユを追いこむようにしてペラを引いて捕獲する。この発想は、ペラが水面を叩く音や、ペラの影、細かい水流をアユが水鳥と誤認して驚き、逃げることにあるといふ。

4) マサ網漁

アユを目的にした漁法で、漁期は夏から冬にかけておこなわれる。流れがほとんどない、ゆるやかな深み(150cm前後)のある場所を選び、網は柿渋に漬けた絹製のものをを用いる。上側に浮子を、下には錘をつけ、流れにたいして直角になるように網を張る。夕方に網を仕掛けて翌朝引きあげるとアユのほかにカワマス(ヤマメ)が掛かるときもある。この漁法は一種の刺し網漁に分類される。

5) セツケ(瀬付)漁(図23)

ウグイの産卵生態を利用した漁法で、産卵期(5月ごろ)に流れの緩やかな瀬を選び、川底を深さ30~50cm、直径1~2mほど掘りさげ、そこに川原のきれいな砂利(直径2~4cm)を敷き詰め、人工的に産卵場所を作る。そこへ産卵のために集まったウグイを投網やすくい網などで捕る漁法。最初は大型のウグイが集まるが、次第に小型のものが多くなる。漁の期間は約1ヶ月ほどである。

ちなみに産卵期のウグイを「クキバヤ」または「クキがついた」といい、産卵場所のことを一般に「ツキバ(付き場)」, 青梅あたりでは「クキ場」と呼んでいる。

6) 投網漁

投網の使いかたには2通りがある。それらは、投網そのものを魚のいそうな場所に投げて捕る方法と、魚を威し具や網などで1ヶ所に集めて、そこに投網を広げて捕る方法である。

投網は対象となる魚の種類によってサイズが異なる。たとえばアユ用、ウグイ用などがあり、網目の大きさや、網の長さが違っている。

7) ブツタイ

ブツタイは支流・細流や用水路など狭い場所で使用され、水が冷たくなった冬、魚の動きが鈍い時期に川下にブツタイをあてて、石の下に潜んでいるカジカなどを石ごとかき回して追いこんだり、先述したような場所で、魚を追いこむようにして捕獲する。この方法は、おもに子供の遊びを兼ねた道具でもあった。

3. 釣り漁法(表2-2)

1) ガンキョウ(眼鏡)釣り

箱メガネを使いながらおこなう。おもに秋の落ちアユを対象にした漁法であるが、ヤマメなどにも適用が可能である。約1.5~2mの竿の先に道糸(50~100cm)をつけ、その先に返しのない釣り鉤1~5本を放射状に東ねて竿の先に引っ掛けておき、川の上流から下流へ流されるようにして潜

り、箱メガネ（眼鏡）でのぞきながら、アユやヤマメを引っ掛けて捕る。また、魚が掛かると鉤は竿から抜ける仕組みになっている（図5参照）。ただし大きいものが掛かると、つなぎ竿が抜けそうになることもあるという。

2) ドブ釣り

春から初夏にかけて、流れの緩やかな淵の深場などで、アユを対象に擬餌鉤で釣る方法である。この淵のことを釣り人は「ドブ」と呼んでいる。

3) トモ（友）釣り

アユが縄張りを作る習性を利用した漁法で、夏はこの方法がアユを釣る人たちの主流である。なお、詳細はⅡ－5. 罎アユを参照。

4) タタキ（叩き）釣り

多摩川中流域周辺は、かつては養蚕が盛んな地域であったためにサナギが豊富にあった。ウグイを対象に、流れの緩やかなところに、サナギ粉をまいて餌づけをする。馴れたところを見計らって、最後のコマセ（魚を集めるためにまく餌）をまき、竿に返しのない鉤をつけて水面を叩くようにしながら魚を引っ掛けて捕る。

5) アンマ（按摩）釣り

釣るときの姿が、按摩さんが杖をついて歩く姿に似ているところから、この呼び名がついた。水深が膝から少し上の本流の瀬（ジャラ）で釣る。水生昆虫のトビゲラやカゲロウの幼虫を餌にして上流から下流へゆっくりと歩き、竿を腰のあたりで前後に振りながら釣るとウグイなどがよく釣れたという。

6) サクリ釣り

道糸の先端に5～6本の釣り鉤（餌はつけない）とおもりをつけ、アユのいる場所にそっと降ろして釣りあげる。なお、このときに竿をしゃくりあげるようにしてあげることが名称の由来となっている。

7) コロガシ釣り

サクリ釣りとはほぼ同様の釣りかたで、川瀬（ジャラ）で鉤を流して釣る。

4. 置き鉤漁法（表2－2）

アナ（穴）釣り

昔は護岸を補強するために竹や太い針金を編み、そのなかに大きめの石（約30cm）を入れたジャカゴ（蛇籠）を積み重ねて使用していた（図24）。そのジャカゴのすきまや大きな石のすきまを利用し、ウナギやナマズを対象に、ジゴク（地獄）針に餌となるドジョウやミミズを針がみえないように取りつけ、竿の先に針を縦に刺して仕掛ける。針はウナギやナマズの口のなかで横になり外れないような仕組みになっている。漁は夕方に仕掛けをし、朝早くに引きあげる。

5. ハエナワ（延縄）漁法（表2-2）

流し釣漁ともいう。仕掛けは、幹糸（木綿糸をよって作った糸）に40～50cmの間隔で道糸（枝糸）を取りつけ、その先に鉤をつける。道糸の数は5～6本から多いものでは10数本である。餌にはミミズやドジョウなどの生き餌をつけるが、対象魚によっては餌の種類をかえる。この仕掛けを本流の瀬に幹糸の両端に錘（石）をつけ、川にたいして直角になるように沈める。ウナギやナマズ、ギバチなどの夜行性魚類を捕獲するのが目的で、夕方に仕掛けて早朝に引きあげる。

6. 刺突漁法（表2-3）

1) ヒブリ（火振り）漁

夏の夜におこなう刺突漁で、ヤスを片手に照明具（表1-3参照）で水面を照らし、箱メガネで覗きながら水中の魚を突いた。対象にする魚はとくに決まっていない。

この夜間の漁には川床の石に水垢が付着しているため、滑りやすい。そのため危険防止を目的として足半や草鞋をはく。川の形態を知りつくした大人の漁で、流域農民の遊びと実益を兼ねた漁法であった。

2) ドジョウ（泥鰌）刺し漁

方法は火振り漁とほぼおなじである。田植えの終わった後の水田や用水路で、夕方から夜にかけて照明具を使っておこなわれた漁である。この時刻になるとドジョウは「くの字」になって休んでおり、照明を当てても動こうとしない。このようなドジョウを、敵づたいにつぎからつぎへと刺して捕った。漁獲量はきわめて多く、ときにはウナギやナマズ、フナなども捕れたという。

3) ザッコ（雑魚）突き

箱メガネとヤスをもち、水中の魚を突き刺して捕る方法をザッコ突きと呼んだ。かつては夏の炎天下に、子供たちが本流や支流、田んぼの用水路または小川でザッコ突きをする姿がよくみられたという。

7. その他（表2-3）

1) イシクラ（石倉）漁

川の中に直径20～30cmの石を積み、そのなかに餌のサナギ粉を袋に詰めたものを入れて魚を誘き寄せる。20日から1ヶ月ほど放置して、その後に周囲を竹箆で囲い、なかの石を取りのぞき投網やすくい網などで魚を捕る。ウグイ、ウナギ、ナマズ、カジカなどがよく捕れた。

2) 手掴み漁

単純に魚を手で掴んで捕るというもっとも原始的な漁法である。対象となる魚は特定されていないが、ヤマメは腹の下からそっと手を入れると逃げないという。

3) 川ボシ（干し）漁

この方法も手掴み漁と同じく、古くからある漁法である。川や水田などの用水路を塞ぎ止め、溜

った水を掻いだしてなか中に残った魚を捕る。川の本流部では、ザッコドウも併用して仕掛けた。

立川における聞き取りによれば、昔から水路などには、たとえば「一水路」などの名称がついており、周辺の住民はこの水路で誰にとがめられることもなく、自由に魚を捕ることができたという。

4) イシブチ（石打ち）漁

石の下など魚が潜んでいそうな場所で、直径30cmほどの石を上から落とす。これによって石の下にいる魚は気絶し、浮いてくるため容易に捕獲することができた。

5) 鵜飼（うがい）漁

1889（明治22）年に新宿、立川間に甲武鉄道（現在の中央線）が開通して、東京方面から多摩川へ川遊びにくる人が多くなり、鵜飼もひとつのショーとして盛んにおこなわれるようになった。そして、立川周辺に丸芝館、玉川亭、立川亭のような鵜飼漁をみせながらアユ料理を食べさせる料亭がふえた（立川市教育委員会、1980）。

鵜飼いで有名な岐阜県の長良川では、夕方から夜にかけて篝火を焚き、鵜匠が舟の上から鵜をあやつるが、多摩川の鵜飼は、徒鵜（かちう）といって、昼間にとりおこなわれる。3名が1組になり川のなかに入り、1人が2～3羽の鵜を操り、あとの2人がシラタを使いアユを集める勢子（せこ）の役目をする。ちなみに、長良川では鵜をあやつる人を「鵜匠（うしょう）」といい、多摩川では「鵜使い」と呼んだ。

多摩川の鵜飼いは長良川の鵜飼にくらべると、けっして晴れ晴れしいものでなく、庶民の娯楽であったと言えよう。しかし、この鵜飼い漁も1935（昭和10）年ころを境にしておこなわれなくなっていった。

なお、檜原では鵜飼によるアユ漁は、見せ物や金持ちの道楽としておこなわれており、鵜は戸倉や五日市から借りてきていた。また、1907（明治40）年ころまではヤマメを鵜飼い用の鵜の餌として養殖していたといわれ、養殖用の池跡が現在でもわずかにその形を残している（図25）。

V 毒流し漁法

多摩川流域では、むかしから毒流しによる漁法は全面的に禁止されていた。しかし福生における聞き取りによれば、「ゲラン」と呼ばれる乾燥させた蔓植物をぬるま湯でもどし、それをつぶし、川に流して魚を捕ったことがあるという。

このゲランは被調査者の知人が、広島に旅行したときに農協で殺虫剤として売られているものを買ってもち帰ったものであり、下流 500～1000m くらいでまで有効であったという。

ゲランはマメ科に属する植物で、和名を「ハイトバ」、学名は *Derris elliptica* である。この植物は蔓性で、インドからインドネシアを原産地とし、ロテノン（Rotenone）が3～8%もふくまれており、熱帯アジアでは毒流し漁や毒矢として広範囲で使われている（湯浅ほか、1987）。

また、ゲランという名前は、シンガポール東南に、ゲーラン (Geylang) というかつてのデリスの産地があり、それに由来してつけられた名称であろうと思われる。ちなみに1935年の統計では、日本に120tの乾燥したデリスの根を輸出していた記録が残っている (鈴木・百瀬, 1943)。

同様に福生における聞き取りでは、エゴの実やサンショウの樹皮を用いていたこともわかった。多摩川中流域付近の山にはエゴノキ^{註3} がたくさんあり、農家では堅い材質のために麦を脱穀するときの道具である「くるり棒」の材料として用いていた。そのエゴノキの実をすりつぶして、川に流すと魚毒としての効果があったようである。また、サンショウの樹皮は、石で叩いてつぶし川の流れにのせると、効果があったという。そのほか昭島付近では、ツバキの実をつぶして毒流し用に使ったこともあったという。しかし、これらは先述したように、すべてが非合法的な漁法であったために、人里離れた山間の場所でおこなわれていたようである。

ちなみに秋道 (1995) によると、毒流し漁は全国的にみると内陸部の山あいでは、秘かにおこなわれていたようである。また、吉野川流域では年に1度、8月の盆の時期に村落住民が盆行事の一環としての共同行事としておこなっていたという (御勢, 1967)。このように宗教的な行事としての合法的な毒流しは、他の地域にもあるのではないだろうか。

VI おわりに

今回、多摩川流域の調査をおこない、改めて多摩川が東京という大都会に隣接する河川であることを認識した。ひとつには、漁法の章の冒頭で述べたような要因により、多摩川本来の河川環境が維持できず生態系がかわり、それにともない、漁法にも変化が生じたことである。きれいな水を好むシマドジョウやカジカなどの数が減少したためにシマドジョウを対象にするドンドン漁がおこなわれなくなったこともその一例であろう。今後、次代を担う人たちへ多摩川本来の姿をどのようにのこすか、もう一度考える必要があるように思われる。

註1: クスノキ科に属するシロダモ (*Neolitsea sericea*) のこと。葉の裏側が白いためにウラジロという地方名がついたと考えられる (倉田, 1977; 林ほか, 1987)。

註2: クロウメモドキ科に属する植物であるクマヤナギ (*Berchemia racemosa*) の地方名 (倉田, 1976)。

註3: エゴノキの果皮にはエゴサポニンが含有されており、魚毒として用いられた (倉田, 1980)。

VII 引用文献

- 秋道智彌. 1995. 魚毒漁の分布と系譜. 吉田集而(編), 生活技術の人類学, 79-80, 平凡社.
- 安斎忠雄. 1985a. 多摩川水系における川漁の技法と習俗, 財団法人とうきゅう環境浄化財団.
- 安斎忠雄. 1985b. 立川民俗シリーズ第五集-多摩川中流域の漁撈具, 立川市教育委員会.
- 大石慎三郎(校訂). 1969. 地方凡例録上巻, 近藤出版.
- 神野善治. 1982. 釜漁の研究(上)-狩野川水系を中心として-. 沼津市歴史民俗資料館紀要, 6: 56~150.
- 倉田 悟. 1976. クマヤナギ. 北村四郎・本田正次・佐藤達夫(総監修), 週刊朝日百科 世界の植物 37: 867, 朝日新聞社.
- 倉田 悟. 1977. シロダモ. 北村四郎・本田正次・佐藤達夫(総監修), 週刊朝日百科 世界の植物 73: 1705, 朝日新聞社.
- 倉田 悟. 1980. エゴノキ. 北村四郎・本田正次・佐藤達夫(総監修), 朝日百科 世界の植物 2: 453-456, 朝日新聞社.
- 小山修三(編). 1992. 狩猟と漁労 — 日本文化の源流をさぐる —, 雄山閣出版.
- 御勢久右衛門. 1967. 奥吉野の自然と生活. 森下正明・吉良竜夫(編), 今西錦司博士還暦記念論文集 自然 — 生態学的研究, 249 — 283, 中央公論社.
- 鈴木梅太郎(百瀬静雄). 1943. 南方有用植物図説, 成美堂書店.
- 立川市教育委員会(編). 1980. 多摩川と生活-魚と伝統漁法-, 立川市教育委員会.
- 田村道夫. 1977. カラマツソウ. 北村四郎・本田正次・佐藤達夫(総監修), 週刊朝日百科 世界の植物69: 1646-1650, 朝日新聞社.
- 林弥栄(古里和夫・中村恒雄)(監). 1987. 原色樹木図鑑, 北隆館.
- 湯浅浩史・前川文夫(編). 1987. 近藤典生(監修), マメ科資源植物便覧, (財)日本科学協会.

Ⅷ 図表

表1-1 漁具の分類【ウケ(筥)漁具】

分類/名称	材 料	返しの構造*	用途(対象魚)	呼称地域
ウケ(筥)漁具				
モジ 別名; アユモジ	竹・カナトヅル	× ×	アユ	五日市 五日市
ザッコドウ 別名; バカドウ ホンドウ	竹・棕櫚縄	○◎	ザッコ・カジカ (奥多摩)	奥多摩・羽村・福生 羽村・福生 福生
ウナギドウ	竹=箆編み 竹簧編み	○ ◎	ウナギ	羽村・福生・立川 奥多摩・羽村・福生
ドジョウドウ	竹=箆編み 竹簧編み	○ ○	ドジョウ	羽村・福生・日野・立川 羽村・福生
テノウドウ	板・竹	○	ウグイ	青梅・羽村・日野
オケドウ 別名; ハチブセ	桶・網	○×	ウグイ	羽村 羽村
ヤマメドウ	真竹	×	ヤマメ・イワナ	奥多摩・青梅
ヤナ	真竹	-----	落ちアユ	羽村・福生

* 返し部分の構造; ◎印=複舌返し, ○印=単舌返し, ×印=無舌返しをしめす。

表1-2 漁具の分類【網漁具・釣漁具・突刺具】

分類/名称	材 料	用途(対象魚)	呼称地域
網漁具			
投網	絹(柿渋)・ナイロン・錘	全魚種	全域
ハネ網	竹棒・木綿・ナイロン	アユ	羽村・福生・日野・立川
刺し網	絹(柿渋)・錘・浮子	全魚種	青梅・羽村・福生・日野・立川
ヒッタテ網			五日市
ザッコ網	絹・麻・木綿・柿渋	カジカ	五日市・羽村・福生
タケス 別名; ス	真竹・棕櫚縄	仕切網用	羽村・福生・日野・立川
ブツタイ 別名; ブツテイ ブツテー ブツテ ザッコ網 ブツチャウ	真竹・棕櫚縄	全魚種	檜原・五日市・福生・立川 五日市・羽村・福生・立川 福生 羽村 檜原
釣漁具			
ヒッカケ竿 別名; ヒッカキ竿	釣り鉤(返し無し)	アユ	羽村・福生 羽村・福生・檜原

表1-2 (続く)

分類/名称	材 料	用途 (対象魚)	呼称地域
ジゴク針	木綿針・針金	ウナギ	羽村・福生・立川
突刺具			
ヤス 別名; ヤ ツキ	鉄	ザッコ	羽村・福生 羽村・福生 檜原
アユツキヤス	鉄・木綿針	アユ	青梅・羽村・福生
ドジョウツキ 別名; ドジョウブッサシ ドジョウウチ	木綿針	ドジョウ	青梅・羽村・福生 日野

表1-3 漁具の分類【補足具】

分類/名称	材 料	目的 (漁法)	用途 (対象魚)	呼称地域
補足具				
箱メガネ 別名; ハコメン カクメン	板・ガラス	瀬張漁・ザッコ突き・ 火振漁・ガンキョウ釣り	全魚種	羽村 檜原
威し具				
	ペラ (檜製) ウラジロの葉 ヤナギの葉 ヨモギ ヨシの葉 笹の葉 熊笹の葉 カラマツソウ ^{*)} 稲藁(オカザリ ^{*)}) 竹棒 木綿(柿渋無処理)・ 錘・浮子	ペラ漁 ハネ網漁 ハネ網漁 ハネ網漁 シラ漁 シラ漁 シラ漁 ハネ網漁 瀬張漁 追込みモジ漁 寄せ網漁・鵜飼漁・ 追込みモジ漁	アユ 上げアユ 上げアユ 上げアユ 落ちアユ 落ちアユ 落ちアユ 上げアユ 落ちアユ アユ アユ・ウグイ	羽村・福生・日野 青梅・羽村・福生 羽村・福生 羽村・福生 羽村 羽村・福生 羽村・福生 立川 羽村・福生 羽村・福生 羽村・福生
シラタ				
罟アユ	-----	トモ釣り	アユ	全域
照明具				
		火振り漁・ ドジョウ刺し漁	全魚種	青梅・羽村・福生 ・日野・立川
ガンドウ カンテラ カーバイトランプ 懐中電灯 ヨトボシ	ブリキ製・ローソク 灯油・ローソク カーバイト+水=アセチレンガス 古土瓶・灯油			
足半	稲藁	川での滑り止め	-----	羽村・福生
ワラジ	稲藁	川での滑り止め	-----	羽村・福生

^{*)} カラマツソウ (*Thalictrum aquilegifolium* L. var. *intermedium* NAKAI) はキンポウゲ科の植物 (田村, 1977)。

^{*)} 神仏の前に飾り付けるしめ飾りに似ているところからこう呼ばれた。

表 2 - 1 漁法の分類 【ウケ（筥）漁法】

分類／名称	漁 期	対象魚	補足具	最終漁獲具	漁 場	呼称地域
ウケ（筥）漁法						
瀬張魚	6月～11月	落ちアユ	威し具 (オカザリ) 箱メガネ	モジ	本流	羽村・福生・日野
別名：瀬網 部屋網漁 アウドウ モジ漁 鮎瀬張網漁 瀬張網 モジヅキ						福生 羽村 中流域 ⁺⁾ 中流域 ⁺⁾ 府中 ⁺⁾ 南秋川 ⁺⁾ 浅川，平山 ⁺⁾
シラ魚	7月下旬～11月	落ちアユ	威し具(ヨシ・ 笹・熊笹)	モジ	本流	羽村・福生
別名：堰止め漁						羽村
追込みモジ漁	6月～9月	アユ	威し具(竹棒) シラタ	モジ	本流	羽村・服生
ドンドン魚	春～初夏	シマドジョウ	-----	ザッコドウ	本流	羽村・福生・ 秋川
追込み魚	通年	ウグイ・ オイカワ	-----	ザッコドウ	本流 (ワンド)	羽村・福生
ザッコドウ	通年	ウグイ・ ザッコ	-----	ザッコドウ	本流・支細流	青梅・羽村・ 福生
ウナギドウ	春～9月	ウナギ	-----	ウナギドウ	本流・支細流 ・水田用水路	青梅・羽村・ 福生・五日市
ドジョウドウ	6月～10月	ドジョウ	-----	ドジョウドウ	水田の水口	羽村
テンノウドウ	初夏～12月	ウグイ	-----	テンノウドウ	本流	青梅・羽村・ 福生・五日市
オケドウ	9月～12月	ウグイ	-----	オケドウ	本流	青梅・羽村・ 福生・五日市 羽村
別名：ハチブセ						
ナマズドウ	春～秋	ナマズ	-----	ザッコドウ (大型で 返しが単舌)	本流・支流と 水田用水路	羽村・福生
ヤマメドウ	10月～11月	ヤマメ	-----	ヤマメドウ	山間部の 本流・支流	青梅・檜原・ 五日市
ヤナ漁 ^{*)}	8月～10月	落ちアユ	-----	ヤナ	本流	羽村・福生

^{+) 安斎 (1985 a).}

^{*) 秋川水系では筏流しのため，ヤナ（梁）漁はおこなわれず，代わりに「留め川制度」があった（五日市）。}

表2-2 漁法の分類【網漁法・釣り漁法・置き鉤漁法・延縄漁法】

分類/名称	漁期	対象魚	補足具	最終漁獲具	漁場	呼称地域
網漁法						
ハネ網漁	初夏～夏	上げアユ	威し具 (ウラジロ)	ハネ網	本流	羽村・福生・ 日野・立川
寄せ網漁	夏	全魚種	シラタ	サッコドウ・ 掬い網・投網	本流	福生・日野
別名：ヨセカウ オウリョウ						福生 福生
ペラ漁	夏	アユ	威し具 (ペラ)	刺し網	本流	羽村・福生・ 日野
マサ網漁	夏～11月	アユ			本流	福生
アガリ漁		アユ			本流	福生
ヒルテン漁	冬	ウグイ・ カマツカ			本流	福生
セヅケ漁	5月頃の産卵期	ウグイ	人工産卵床	投網	本流	青梅・羽村・ 福生・日野
投網漁	通年	全魚種	-----	投網	本流・支流	全域
四つ手網漁			-----	四つ手網	本流・支流	五日市
ブツタイ	通年	カジカ・ ザッコ	-----	ブツタイ	本流・支流・ 細流・用水路	檜原・青梅・ 羽村・五日市・ 福生・立川
釣り漁法						
ガンキョウ釣り 別名：ヒッカジリ ヒッカケ ヒッカキ ガンキョウ	夏～秋	アユ アユ・ヤマメ	箱メガネ	ヒッカキ竿	本流	檜原 青梅・羽村・立川 羽村・福生 羽村・福生
ドブ釣り	春～初夏	アユ	-----	疑餌鉤	本流	羽村
トモ釣り	夏	アユ	囀アユ	釣り鉤	本流	全域
タタキ釣り 別名：ペチャンコ	5月～8月	ウグイ	-----	釣り鉤	本流(淵)	青梅・羽村 羽村・福生
アンマ釣り	夏	ウグイ	-----	釣り鉤	本流(浅瀬)	羽村・福生
サクリ釣り 別名：サグリ	初夏～秋	アユ	-----	釣り鉤 (5～6本)	本流	羽村・福生 青梅・羽村
コロガン釣り	夏～秋	アユ	-----	釣り鉤 (5～6本)	本流	羽村
置き鉤漁法						
アナ釣り 別名：ハネカケ	6月～8月	ウナギ	-----	地獄針	本流・支流	羽村・福生・ 立川・五日市
延縄漁法						
流し鉤漁	春～秋	ウナギ・ ナマズ・ ギバチ	-----	釣り鉤	本流・支流	福生

表 2 - 3 漁法の分類【刺突漁法・その他】

分類/名称	漁期	対象魚	補足具	最終漁獲具	漁場	呼称地域
刺突漁法						
火振り漁 別名：ヨブリ シブリ ブットシ ヒボリ ヨトボシ	夏の夜	全魚種	箱メガネ 照明具	ヤス	本流	青梅・羽村・福生・ 日野・立川
ドジョウ刺し漁 別名：ドジョウ打ち ドジョウ突き ドジョウブッサシ	6月～8月 (夜)	ドジョウ	照明具	泥鰯突き具	水田・用水路	青梅・羽村・福生・ 日野 羽村・福生 青梅・羽村 日野
ザッコ突き	夏	ザッコ	箱メガネ	ヤス	本流・支流・ 細流・用水路	青梅・羽村・福生・ 日野・立川・ 五日市
その他						
イシクラ漁 別名：カワクラ	通年	全魚類	竹簀	投網・掬い網・ ブツタイ	本流	日野 羽村・福生
手掴み漁 別名：ニギリ漁 ガマ握り アユ押し セ押し 探り 手探り	春～秋 真夏の夜 真夏の夜	全魚類 ヤマメ ヤマメ・ ウグイ・ ウナギ アユ アユ 全魚種 全魚種	箱メガネ		本流・支流	檜原 上流域 ⁺⁾ 中流域 ⁺⁾ 中流域 ⁺⁾ 中流域 ⁺⁾ 中流域 ⁺⁾
川ボシ漁 別名：セボン カエ堀 カイ堀 ホシアゲ ホシカス ケー堀 川ガリ		全魚種	-----	ザッコドウ ブツタイ	本流 農業用水路 支流 支流 支流 支流 支流	立川
石ブチ漁 別名：石ウチ		カジカ		石	本流	福生 福生
鵜飼魚	夏	アユ	シラタ	鵜	本流	檜原・日野・ 立川

*) 安斎 (1985 a).



図1 タイ国メーコーン河流域で使われている巨大なウケ「トゥム・ヤイ」
(ウボンラーチャターニーにて)

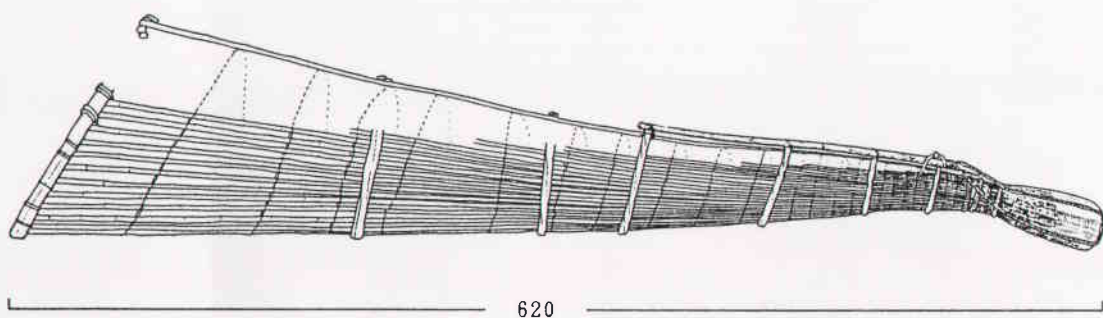
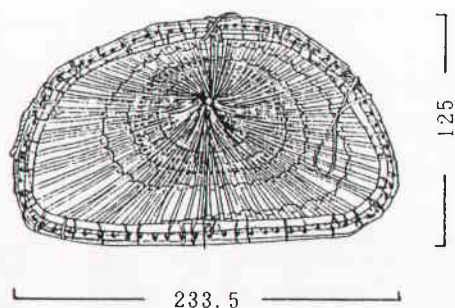


図2 富士川の大モジリ／神野（1982）より転写（単位：cm）



図3 ハネ網／羽村市郷土博物館所蔵



図4 ブツタイ／羽村市郷土博物館所蔵

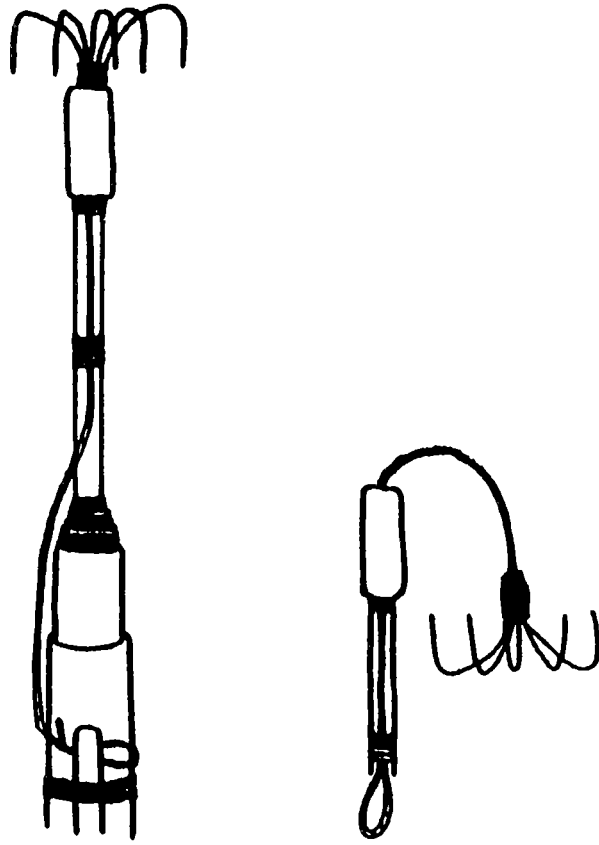


図5 ヒッカケ竿

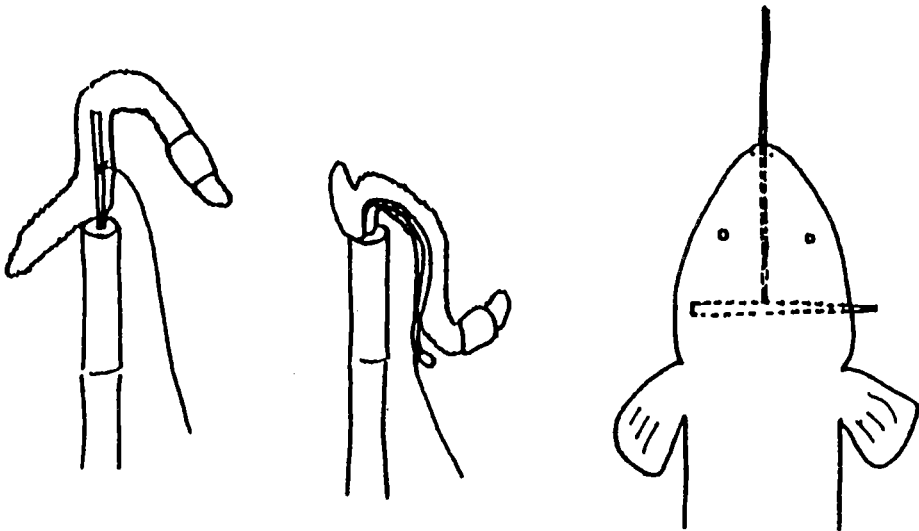


図6 ジゴク針

左中：餌のつけ方 右：魚がかかった状態

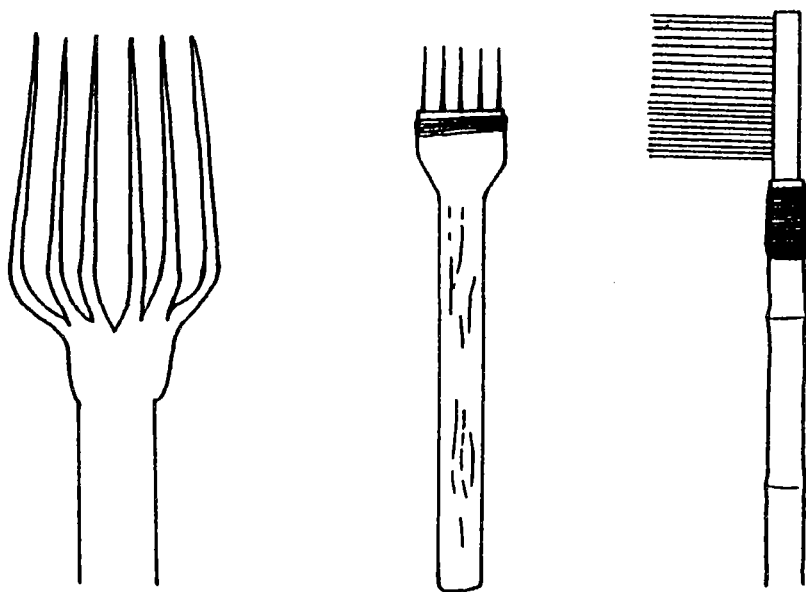


図7 突刺具

左から：ヤス，アユツキヤス，ドジョウツキ

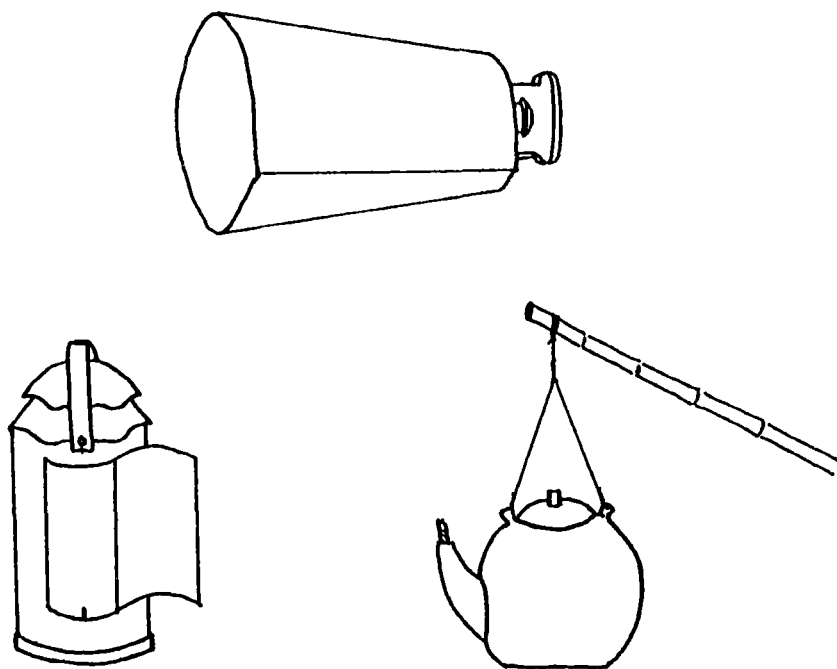


図8 照明具

上：ガンドウ、下左：カンテラ、下右：ヨトボシ（夜灯）



図9 足半（上）と草鞋（下）

五日市町郷土館所蔵（足半）

羽村市町郷土博物館所蔵（ワラジ）



図10 モジ（アユモジ）

左：落ちアユ用，右：上げアユ用

羽村市郷土博物館所蔵

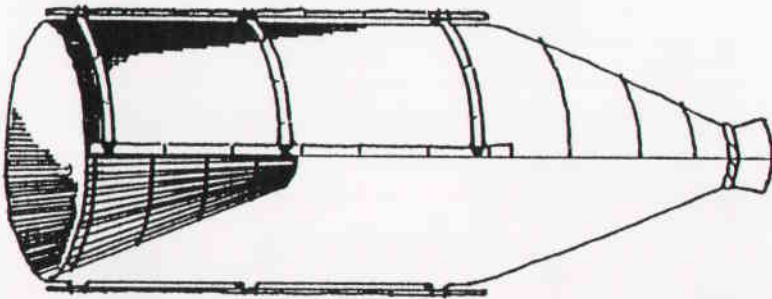


図11 ザッコドウ



図12 ウナギドウ／羽村市郷土博物館所蔵



図13 ドジョウドウ／羽村市郷土博物館所蔵

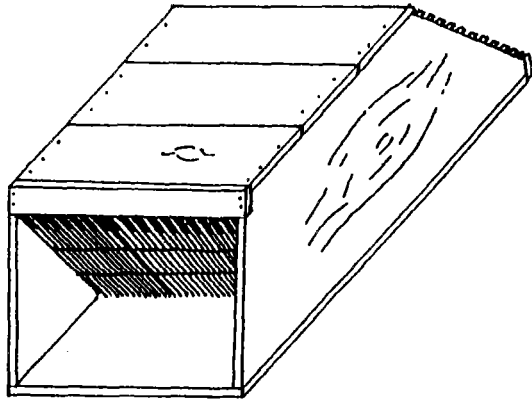


図14 テンノウドウ

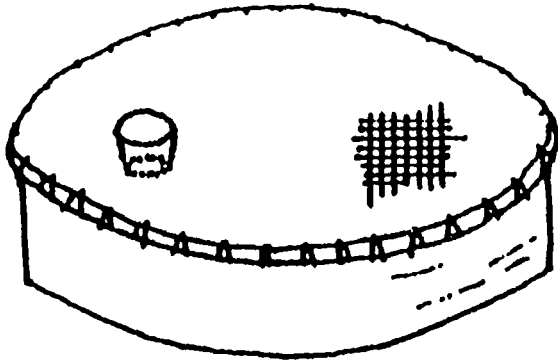


図15 オケドウ

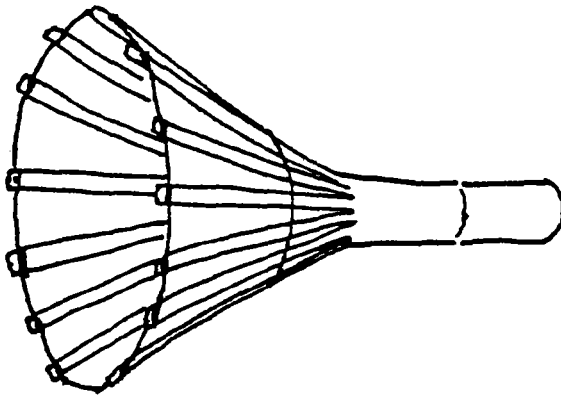


図16 ヤマメドウ

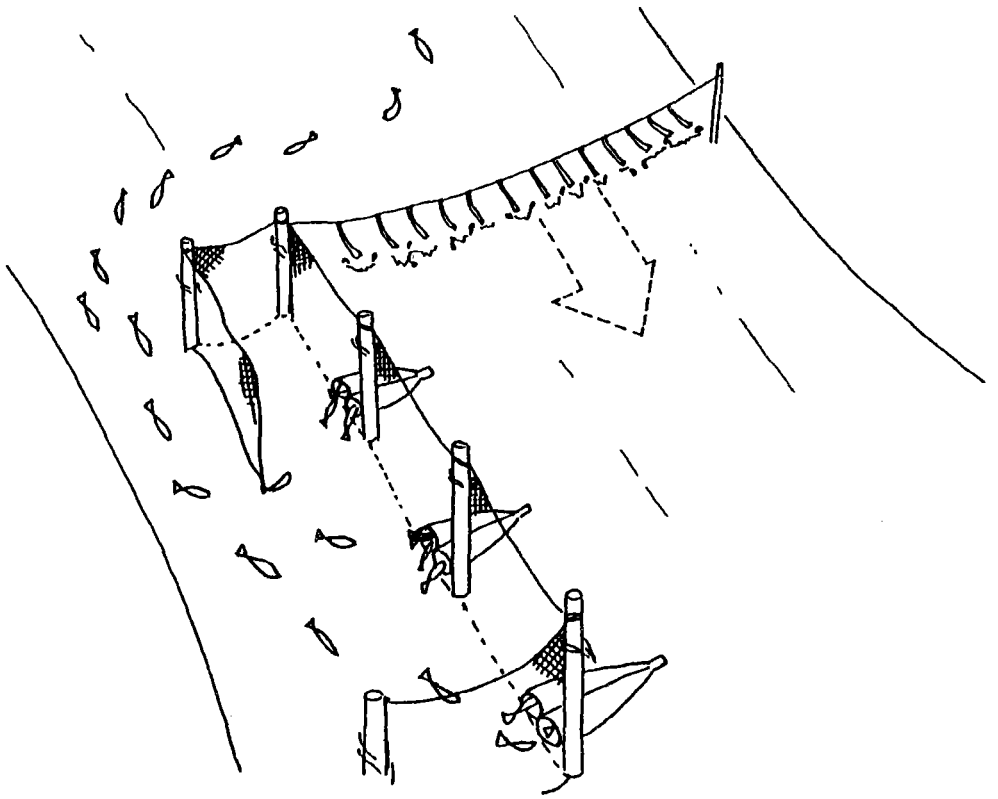


図17 瀬張漁 (方部屋)

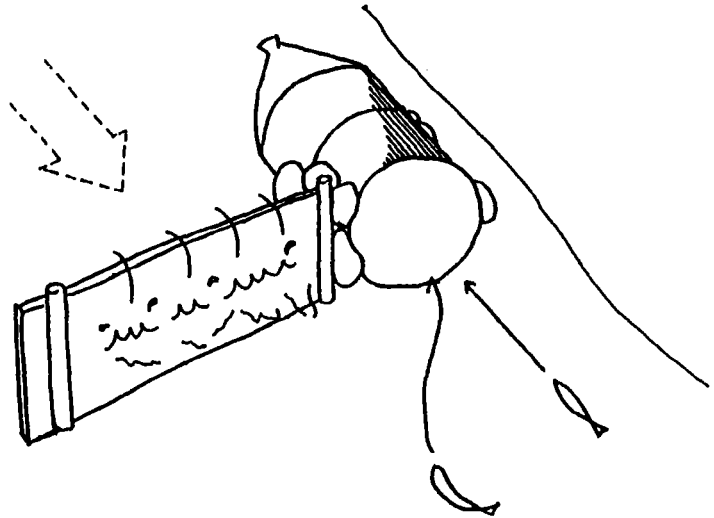


図18 ドンドン漁

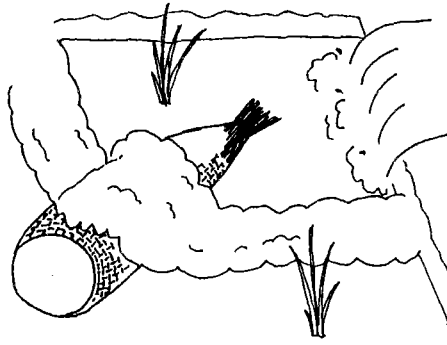


図19 水田の水口に仕掛けたドジョウドウ

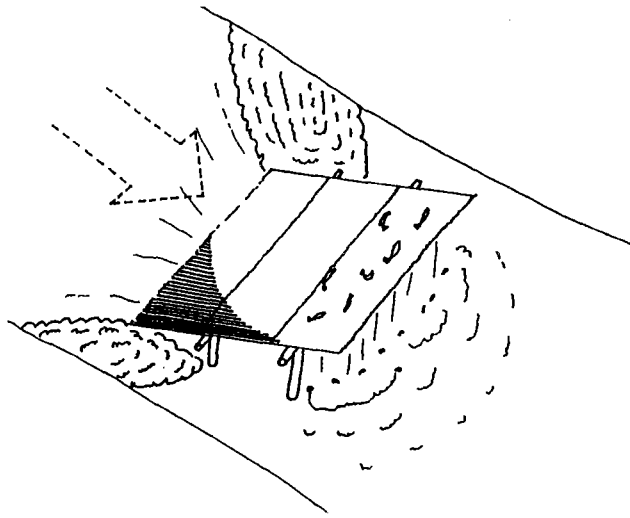


図20 ヤナ（梁）漁

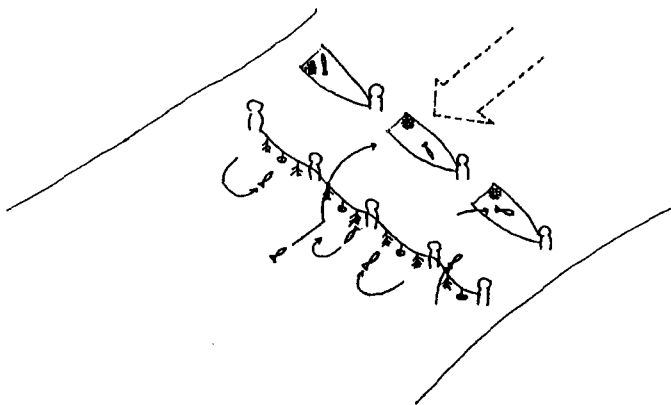


図21 ハネ網漁

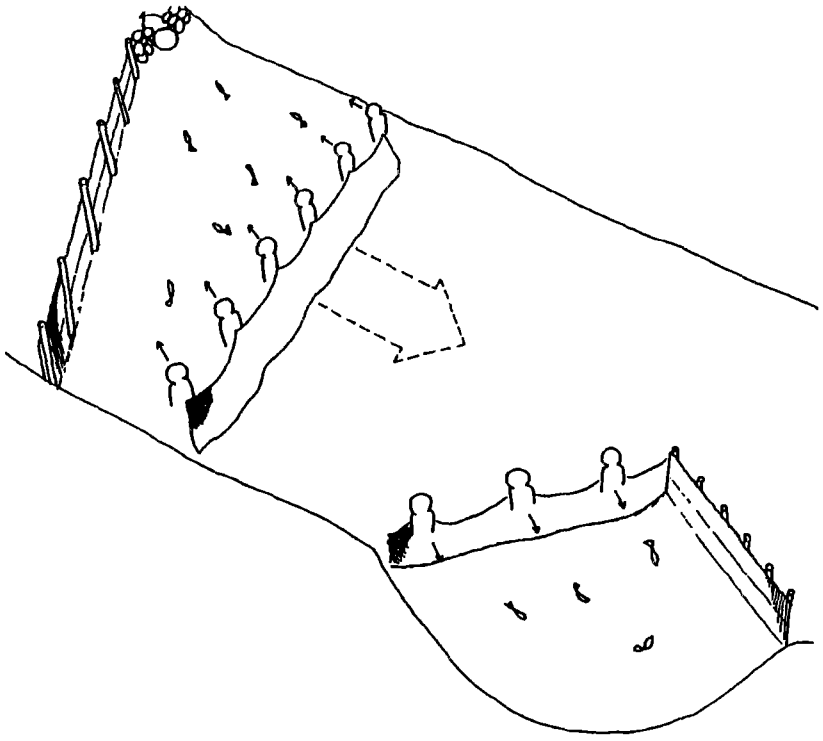


図22 寄せ網漁

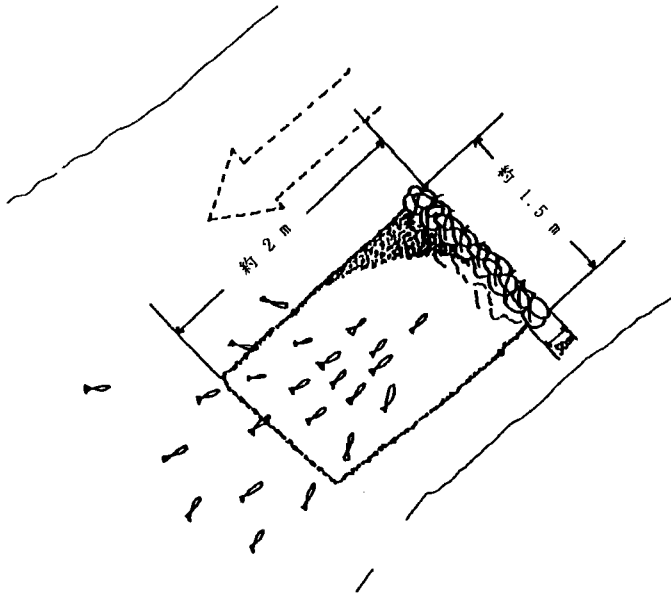


図23 セツケ（瀬付）漁



図24 ジャカゴの模型(1/10)／羽村市郷土博物館所蔵



図25 檜原村のヤマメ養殖池跡地周辺（手前のヒノキ林の奥）

6. 多摩川にまつわる民話・伝承

I はじめに

「母なる川」と流域住民に呼ばれ、親しまれてきた多摩川は、同時に人々の生活と密接に関係していた。流域の大部分が東京都に属するこの地方には、大変多くの種類の民話、伝承があった可能性が高い。しかし、高度成長期以降、急激に都市化が進み、多摩川の様相は大きな変化を遂げている。また、住民の出入りも激しくなり伝承等を「語り継ぐ」古老もその数を減らしつつある。

本章では、多摩川という一河川に注目して、川に関係する民話・伝承についての報告をしてみたい。

II 調査地域

今回調査を実施したのは主として、多摩川上流から中流部にいたる東京都に属する以下の地域である。

奥多摩町、檜原村、日の出町、青梅市、羽村市、福生市、八王子市、立川市、日野市、武蔵村山市、拝島市、狛江市、調布市

III 調査方法

調査は以下の方法によっておこなった。

1. 調査地域における聞き取り。

録画、録音および筆録を用いて、記録をしたもの。

2. 文献調査

現地やその他のところで収集した文献を調査したもの。

IV 収集したサンプルの分類法

前述の方法により収集したサンプルを以下のモチーフにしたがって分類をおこなった。

1. 川の地形や名称などに関するもの。

2. 川に生息する動物、化け物などの由来や行動に関するもの。

3. 川とカミなどが関係するもの（川にたいする信仰）。

4. その他。

V モチーフ分類

とくに注記のないものは文献から収集したものである。また、聞き取りによって収集したものには*をつけた。

1. 川の地形や名称などに関するもの

奥多摩町	姫が淵 坊主淵 おいらん淵 万松院淵
檜原村	夫婦滝(図1)と赤子淵(図2) 鎌っ淵(図3), 姫っ淵, 忠兵衛小淵(図4) みかごの滝
日の出町	於奈淵
福生市	長者掘 長沢 ドウドウ 水喰土 熊川と小川
日野市	大名淵
武蔵村山市	蛇掘川
調布市	広福長者の布づくり
八王子市	ひんまわし(平将門関係) 黒髪淵

2. 川に生息する動物および化け物などの由来や行動に関するもの

奥多摩町	岩魚の精 龍巖淵
檜原村	ほうしの玉 払沢の滝(図5)の大蛇 カワウソ 八割沢のカッパ 天狗と滝跳び *ヤマメがやたらに釣れた話 *子もちウナギを捕った話
日の出町	シジミものがたり 平井川の天狗 あずき洗い
羽村市	*羽村市郷土博物館周辺には河童がいた話 *キツネカムジナに釣った魚を取られる話 *丸山下では魔物が出るので叩き釣りをしてはいけない話

*狐火

*ウサギの川渡り 川面をウサギが走って渡る話

*明治初期までは堰の上にカワウソがいた話

青梅市 河童の話
キツネに化かされた話
河天狗の話
*河童淵に河童がでる話

福生市 狐火
釣れたはずの魚
堂川とオババドジョウ
天狗にさらわれた話
カワジョロウ
夜遊び
永田の河童
消えた妖怪たち
*堰上明神のあたりは洪水のとき、カワジョロウが現れて、子どもを川へ引きこむ。
*夕方遅くまで川にしているとカワジョロウに連れていかれてしまう話
*渡船場の縁を叩くと鮎が寄ってくる話
*カワウソに魚をあげないと騙される話
*狐の嫁入り
*土手で魚捕りをしていると石が飛んできて、帰宅すると魚がなくなっていた話

日野市 *ウナギに救われた話（ウナギを食べない言い伝え）
浅川の大鯉

立川市 川天狗
じゃっくいじえもん
むこうぼり
*捕った魚をカワウソに取られる話
*川天狗に騙されて魚を取られる話

狛江市 野川を上り下りする大蛇
多摩川の河童

3. 川とカミなどが関係するもの（川にたいする信仰）

奥多摩町 滝の神の竜神さま
妙見さまのご神獸
古里地域の雨乞い伝説

檜原村 水の久保の弘法井戸
浅草に飛んだ観音様
神戸岩と辰子

*不動の滝のそばの御神木

- 羽 村 市 秀郷の椎
加藤さまを助けた話
- 青 梅 市 竜索が天ヶ瀬淵へ入水の話
- 福 生 市 *堰上明神
- 日 の 出 町 弘法の井戸
弘法大師と大久野川
- 日 野 市 土淵の怪しい光
- 拝 島 市 拝島地名考
- 立 川 市 *昭島の寺は多摩川が洪水の時の流木で建立したという話
- 狛 江 市 ウナギに助けられた神様

4. その他

- 奥多摩町 貸椀
- 檜 原 村 鬼源兵衛
坊主岩
水口沢の石
払沢の滝に沈んだ鐘
赤いお椀
経堂平の金のお椀
- 福 生 市 御朱印状を取りあげられそうになった話
関東大震災
- 立 川 市 幻の分水路
お堀と水遊び
金比羅山
鮎担ぎ歌
- 八王子市 力石

VI 考 察

今回の調査では多摩川流域の中上流域で約300の民話・伝承にあたった。このうち川にまつわるものとしては、文献および聞き取りを合わせて約80を収集できた。全体の約4分の1を占める数は何を意味しているのか。冒頭にも述べたが、やはり多摩川がかつて人々の生活のすぐそばにあったことと無関係ではあるまい。

収集した話の全体的な印象は「寂しい」、「悲しい」、「怖い」というものである。このことは調査地域が主として川の上流部であることに由来していると思われる。地形的に山肌が迫り、川はうら寂しい感じがする。

伝承を整理した印象では、口伝で昔話のように言い伝えられたもの、たとえば、こたつを囲んで、あるいは膝のうえで、おばあさんから聞いたというようなものはあまりなかったように思われる。その理由としては、話を聞いた人たちがその立場になっていると考えられるいっぽう、開発が進み、また核家族化の進行によって、かつての多摩川流域の様子が急速に変化しつつあるためだと考えられる。以下にVで分類をしたモチーフの順にしたがって、それぞれのことがらについて考えてみたい。

1. 川の地形や名称に関する話では「淵」にかかわるものが非常に多い。この地域が関東・武蔵の国に属していたため、平将門に関するもの、武田信玄・勝頼の武田家にまつわる話がある点が特長としてあげられる。また、調布の地名のいわれにあるように、古くは『万葉集』のころから人々がこの多摩川流域で生活を営んできたことはとくに重要であろう。周辺には、布作りとのかかわりを思わせる地名も多いが（たとえば布田、染地など）、後の時代にいわゆる「生糸の道」へと発展して行く要素のひとつとして捉えることができるだろう。ドウドウ、水喰土のように擬音や事象が地名になっているものもある。淵の話の全体的な印象は、その名の由来が「その淵で人が死んだ」など、暗いものが多い。その地でのできごとが地名の由来にかかわることは、よくあることである。
2. 川に生息する動物および化け物などに関する話では、山という地理的条件から天狗とキツネにかかわる話が多かった。とくに天狗の話については山梨県側から入ってきたものもあるのではないかとと思われる。聞き取りをしたなかでも、山梨の学校に通った経験をもつ人がいたことからわかるように、東京と山梨との間に、人の往き来は現在にいたるまでつづいているのである。

キツネについては「狐火」、「狐の嫁入り」の話がみられたが、これは全国的に分布しているものであり多摩川流域特有のものではない。しかし、実際にみた人の話を聞くことができたという点で価値があると思われる。また、川に関係する話では一般的なものである河童の話は、親が川の危険性を教え諭す意味のものとして存在している。

化け物系の話では大蛇や大鯉などの話がある。このうち、「岩魚の精」の話にあるような岩魚の主が人間に化けて現われる形の話はこの地方に限らず、各地でみられるものであるが、明治なかごろ（約100年前）の話ということで、比較的新しく感じられる。もっとも多くの化け物たちは「消えた妖怪たち」たちにあるように、だんだんと忘れかけられているのである。

今回の調査地域（奥多摩町～狛江市）のほぼ全域でみられたのは、カワウソや川天狗に魚をあげないと釣った魚を取られてしまう、あるいは化かされてしまうという話である。全部取られてしまうというのはオーバーな表現としても、実際に魚を取られたことから生まれた話であろう。獲物のすべてをもって帰らずに、自然（あるいはカミ）に捧げて感謝しようという教えとも考えられる。また、聞

き取りのなかには明治時代までは堰の上にカワウソがいたという話があり、その存在が確認できる証言として貴重なもの言えよう。

動物の行動に由来する話でとくにあげておきたい話としては、日野市栄町（四谷地区）の「ウナギに救われた話」である。多摩川の洪水で堤に穴があき、ついに切れそうになったときにウナギの大群が堤の穴をふさぎ、洪水から村を守ったという話である。この出来事以来、その地区に住む人々はウナギに感謝をして、けっしてウナギを食べないということである。この地区の日宮神社には虚空蔵菩薩があり、ウナギはそのお使いであると言われていることとも関係している。この風習は食文化にも影響を与えていて、現在でもつづいているところが興味深い。また東京都のなかで聞く話としては、意外性があるが狛江市には御神体がウナギに乗ってきたという話もある。

3. 川とカミなどが関係する（川にたいする信仰）というモチーフは、調査地域に山間部もあることから、当初はあまりないものと考えていたが、分類の結果設けたものである。今回の調査では、川自体が明確に信仰の対象になっているという話はみられなかったが、水神様への信仰が多摩川中上流地域にある。これについては、すでに下水文化研究会の報告（『近世（江戸時代）以降の多摩川流域の下水文化の変遷と考察』、1989）があるので、参照されたい。

弘法大師が関係する話がいくつかあった。大師が神様か否かは、迷うところであるが、奇跡を起こしたということで、あえてこの項に入れた。

日野市、狛江市にはそれぞれ御神体が川を流れてきたという話がある。川自体が信仰の対象になっているわけではないが、人々と川との深いかかわりを示している要素のひとつであろう。逆に雨乞伝説のように、特定の淵や滝へ雨乞へ行くというものもある。これなどは川そのものに神秘性があるわけではないが、あるひとつの地点が信仰の対象となっていると考えられる。

最近の話としては、1923（大正12）年ころの不動の滝のそばにある御神木の話そして昭和初期の竜神さまの話などがある。

4. その他の話としては、玉川上水にまつわるものが多い。またお椀に関する話が、3種類あった。このうち2つはそのお椀で水を飲むとお大尽に成るという話である。なぜお椀がこのようなことを起こすかは今後の課題としたい。

Ⅶ おわりに

筆者が小学校低学年のころ、西多摩郡のどこかで夜の多摩川で川一面に跳ねているアユの大群をみた記憶がある。そのころは、ここが自分が住んでいた東京都と同じ地域とは夢にも思わなかった。その後、横浜へ移り、通学する東横線の電車の窓から毎日多摩川をみていたものだった。そして、多摩川という川の流域がたくさんの顔をもつことを知っていった。

多摩川流域は中流域から下流域は地形的にもひらけた地域であり、開発による都市化が進んでいる。そのいっぽうで上流域は神戸岩や弘沢の滝をはじめとして自然が多く残っている。いろいろな話は後世へ文字で残すことも可能であるが、自然はそのままであることが大切なのではないだろうか。そして同じように文字で記されている話も、その地へ立って実感することがいちばん理解もできて感動することもできるのではないだろうか。そのようなことを考えつつ本章を結ぶことにしたい。

VIII 引用文献

- 荒澤 弘. 1990. 奥多摩の昔話 第1集, 奥多摩民話の会.
- 荒澤 弘. 1990. 奥多摩の昔話 第2集, 奥多摩民話の会.
- 荒澤 弘. 1990. 奥多摩の昔話 第3集, 奥多摩民話の会.
- 池田澄子(小沢・竹内・中山・羽生). 1989. 立川の昔話, 立川市教育委員会.
- 青梅市緊急民俗資料調査団(編). 1988. 青梅市の民俗 第2分冊, 青梅市教育委員会.
- 奥多摩町教育委員会(編). 1989. 奥多摩の民俗. 奥多摩町誌資料集五, 奥多摩町教育委員会.
- 下水文化研究会(編). 1989. 近世(江戸時代)以降の多摩川流域の下水文化の変遷と考察.
(財)とうきゅう環境浄化財団研究助成 No. 119, (財)とうきゅう環境浄化財団.
- 高木美保子. 1987. 檜原の民話. 語りによる日本の民話6, 国土社.
- 立川市教育委員会(編). 1980. 多摩川と生活 — 魚と伝統漁法 —. 立川民俗シリーズIV, 立川市教育委員会.
- たましん歴史・美術館(編). 1992. 多摩のあゆみ 第67号, (財)たましん地域文化財団.
- 日野史談会(編). 1982. 日野の昔話特集号(一). 日野の歴史と文化17号.
- 日野市ふるさと博物館(編). 1992. 日野の昔話, 日野市ふるさと博物館(非売品).
- 檜原民話集 中学生の手づくり創作集.
- 日の出町史編さん委員会(編). 1989. 伝説・むかしばなし. 日の出町史第七章, 日の出町.
- 福生市史編さん委員会(編). 1991. 福生市史資料編民俗下, 東京都福生市.



図1 夫婦滝



図2
赤子淵

図3
鎌つ淵
(現在は鎌淵と
呼ばれている)



図4
忠兵衛小淵
(地元の人々は忠助淵
と呼んでいる)



図5 払沢の滝



図 6

日野宮神社に祀られている
虚空蔵菩薩像

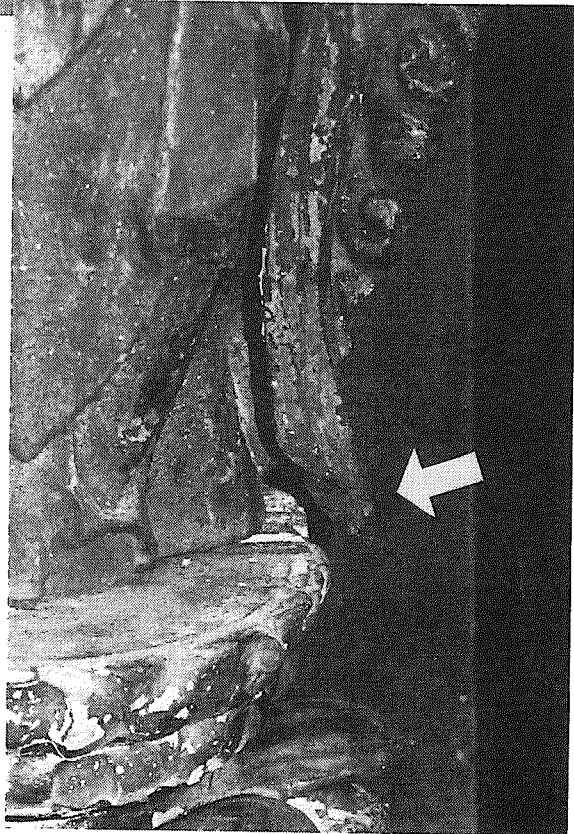


図 7
虚空蔵菩薩像の御衣
(⇐部分がウナギの顔の
様相を呈している)

X 資 料

聞き取りによって得られた伝承をモチーフ別に分類したもの、分類順は、Vのモチーフ分類にしたがった。

1. 川に生息する動物および化け物などの由来や行動に関するもの

檜原村

- 1) 今から15年くらい前のこと、笹久保で人の行かない場所（人が事故死したところ）で釣りをしたとき、ヤマメがやたらと釣れて気味が悪くなり、早々に引きあげた。川が狭くなっていて、寂しいところだったことを記憶している。
- 2) 子もちのウナギを捕ったことがある。

羽村市

- 1) 羽村市郷土博物館周辺は、沼が多く淵に芽がはえており、河童が住んでいたという。
- 2) 叩き釣りをして、たくさん釣れたので家へ帰ろうとすると、釣った魚がいなくなっていた。おそらくキツネかムジナのしわざだろう。
- 3) 丸山下では、叩き釣りをしてはいけない。この辺は、昔から寂しい雰囲気のあるところ、魔物が住んでいるから行ってはいけないと言われていた。
- 4) 狐火 → キツネが骨をくわえて歩くため、燐が燃えて狐火に見えるのかもしれない。
- 5) 兎の川渡り → 川の深い場所をウサギが走って渡るのをみたことがある。
- 6) 明治初期までは、堰の上にカワウソが生息していた。

青梅市

河童淵には河童がよく出現。

福生市

- 1) 堰上明神社の周辺は、洪水時にカワジョロウが来て、子供を川に引きこむ話がある。
→ 子供を早く家に帰らせるためにできた話だと思われる。
- 2) 子供のころ、親から言われたことに、「夕方遅くまで川にいと、カワジョロウが来て、川のなかに連れていかれてしまうぞ」というのがあった。親は早く家に帰そうとして言っていたのだろう。しかし、そのころの自分は「カワジョロウ」の話を真にうけて、こわい話だと思いつつ後々まで記憶に残っている。
- 3) 渡船場の淵を叩くとアユが沢山寄ってきた。
- 4) カワウソに魚をあげないと騙される。
→ 捕れた魚を家にもち帰ったら、魚が1匹もいなくなっていた。これは、カワウソのしわざ

に違いないと思い、その後は、最初に捕れた魚をカワウソにやるようにした。それからは、魚が1匹もいないということはなくなった。

5) ヒブリス（土瓶に石油を入れて、布をよった芯を口から出して灯をともしもの）というものがあって、それをもって、夜川に行き魚をモリで突いた。それで漁をするのだ。そのころ皆が言っていたのは、どんなときでも魚を捕る場合には、まず、カワウソに魚をあげろということだった。そうしないとカワウソに誤魔化されるそうである。

6) 狐の嫁入り

川の堤防の縁などに、提灯が点いたり消えたり、動いたりした。多くの人々が経験し、記憶に残っている。

7) 土手の下で魚を捕っていると、土手の上のほうから人の話し声が、ガヤガヤとするので、「おかしいなあ、誰か来たのかな」と思っていると、そのうちに石が水の上にくっつき落ちてきた。石に当たったら大変なことになるので、「誰だ!」と土手を上がっていても、誰もいない。そんなことがあった日、家に帰ると、捕ったはずの魚が1匹もいなくなっていた。

日野市

ウナギを食べない言い伝え

日野村四谷地区（現、日野市栄町）では、昔（年代不明）近くを流れる多摩川に、大水が出て堤防が崩れそうになった。村人は土嚢を積み一晩中警戒していたが、水は増えつづけ、ついに堤防に穴が開き水が漏れはじめた。村人総出で穴を埋めようとしたが、人の手ではどうにも治まらなくなった。そのとき、ウナギの大群が押し寄せてきて、その穴に入りこみ水が減るまで頑張った。そしてこのウナギの大群は堤防の決壊による洪水から村を救ったのである。その一件以来四谷の人々は、部落の鎮守様で虚空蔵菩薩の使い姫であるウナギが村を救ってくれたと思い、けっしてウナギを食べないことにした。そして今でもこの習慣は守られており、ウナギを食べる人はいない。また、ウナギに手をふれることさえもはばかれるという。

四谷にある日野宮神社のご神体は先に記したとおり、虚空蔵菩薩である（図6, 7）。一般にウナギは虚空蔵菩薩の使い姫と言われている。また、虚空蔵菩薩の御衣の端が鰻の顔のようにみえるのだという。

立川市

- 1) 魚を捕ったのに、カワウソに騙されて取られてしまう話。
- 2) 川天狗が人を騙すという話。魚をたくさん釣って帰るときに、火の玉が現れて、驚いて逃げた隙に、その魚を取られてしまった。

2. 川とカミなどが関係するもの（川にたいする信仰）

檜原村

不動の滝のそば、1923（大正12）年ころの話である。

滝のそばの家に藤の絡まった大きなケヤキの木があった。この木はえも言われぬ神々しい木であった。理由はさだかではないが、あるとき近くに住む人々がこのケヤキを取りのぞこうとした。しかし不思議なことに根を全て切ったにもかかわらず、いくら引っ張っても倒れなかった。ある日のこと、このケヤキの幹から火の玉が出ていくのを目撃した、その直後に、突然大きな音とともにケヤキは倒れてしまった。そして、滝のそばの家の家系は跡絶えてしまった。倒れた木はこの家を守る御神木だったのだろう。

福生市

堰上明神には、むかし、大洪水が起こったときに流れついた多摩川の御神体をお祀りしてあるという。しかし、この御神体が何なのかは不明である。

立川市

昭島にあるお寺は、多摩川が洪水のときに流れてきた流木で造ったという。

7. 魚食文化

I はじめに

日本は地理的に四方を海に囲まれ、また、大小の河川が発達し、海や川の多種多様な魚類を食物として利用する文化が古くから発達している。しかも魚のあらゆる部位を利用して、さまざまな加工を通じて食するという点において、日本は豊かな魚食文化をはぐくんできたといえる。本章は、多摩川流域住民がどのような魚食文化をもっていたかについて、文献資料調査、聞き取り調査そしてアンケート調査によってあきらかになったものをまとめたものである。

我々がおこなった聞き取り調査から、ここ50～60年における日本人の食生活は、大きく3つの時期に分けて考えることができた。

1) 戦前 [1940 (昭和15) 年以前]

食生活においては安定期であり、1950 (昭和25) ～1955 (昭和30) 年ごろにも似ている時期。

2) 戦中・戦後 [1940 (昭和15) ～1955 (昭和25) 年ごろ]

窮迫期でもあり耐乏生活がつづく時期。

3) 現代 [1955 (昭和30) 年代～現代]

戦後の復興の時期、茅ぶき屋根がなくなりスーパーなども増えはじめ、めまぐるしく変化をしていく時期。

これらの時代の移り変わりを主眼において、魚食文化の調査をすすめてみると、第2次世界大戦がひとつの大きな転機になる。戦後50年あまりが過ぎ、戦前や終戦直後の時期を知る人も高齢になってきた。今回の調査は、その意味においても貴重な機会といえよう。

歴史のなかから食生活のみていくと、物資豊富な現代にくらべて戦前、戦中、戦後の時代を問わず、一般庶民の日常における食生活は最低限の、つまり、生きていく上で生命を維持するレベルにあったといっていよい。そのなかで、ごく一部の人々には突出した贅沢な飲食（遊び）があるが、庶民にとっては、祭、正月そして慶事におけるハレの食事がわずかな贅沢であったことがうかがわれる。

つぎに本章の項目を列記する。まず第Ⅱ項では、江戸時代から戦後までの魚の食べ方と魚の処理と保存法について文献と若干の聞き取り調査をもとにまとめた。第Ⅲ項では、おもに聞き取り調査をもとに明治期から現代における主食、副食、川魚、海産の魚についての情報を日常生活と魚食習慣というテーマのもとにまとめた。第Ⅳおよび第Ⅴ項では、現代における多摩川流域住民の魚食に関するアンケート調査の集計結果について考察をおこなった。そして第Ⅵ項では、年間の諸行事にみられる魚食習慣について記述した。

Ⅱ 魚の処理と保存法

1. 江戸時代の魚の処理と保存法

江戸時代における魚の処理については絵入りで説明のある『江戸事情』が参考になる。それによると、「台所でまな箸を使って魚をおろす。井戸端で魚、たこ、海老をおろす。また、あわびを細く糸切りにし、和え物、吸物にする。」とある（NHKデータ情報部、1991）。

江戸中期からは、飯に酢をくわえて味をつける寿司が普及し、江戸後期の1820年前後にはにぎり寿司も出現した。そのほかにも押し寿司、箱寿司、こけら寿司などが食された。焼き魚は七輪で焼いているが、串を打って形を整えたと記されている。また、江戸の町民は江戸湾の貝類をよく食し、貝類を醤油で煮た佃煮の類は有力な保存食品であり庶民の副食として多用された。

川魚のウナギはもともと庶民の食品であったが、江戸後期に蒸して焼く調理法が工夫されて以来、高級嗜好食品に昇格した。多摩川流域についていえば天保期の五日市村の村明細帳（『森田家文書』五日市町）に寿司屋が所在したことが記録されているが、どのような寿司を販売していたかの詳細は不明である。

五日市地区旧伊那村の名主石川家の幕末期（弘化～明治）の『歳中日記』によれば、正月に菩提寺の僧を招待する慣例があり、その献立に刺身がついていたことが記されている。八王子方面の魚屋より仕入れたようであるが、八王子までのルートが江戸からか相模（神奈川）からかについては不明である（『歳中日記』（石川家文書））。

五日市地区の旧家でおこなわれた婚礼の献立表が残っている。それによると、しばしばタイや刺身の記載がみられる。仕入方法は八王子からと推測されるが、幕末ともなれば、生魚の流通網も発達してきていたことがわかる（『岸家文書』五日市町）。

2. ベンケイを使った保存法

多摩川で捕れる魚には、アユ、クキバヤ（ウグイ）、コトウ（カマツカ）、カジカ、キンギョバチ（ギバチ）、ウナギ、ナマズなどがある。このほかに、時々、マスやヤマメも捕れることがあった。これらの魚は、大きいものは内臓を取りのぞき1尾ずつ、小さいものは数尾まとめて竹串に刺して、ヒジロ（囲炉裏）のオキ（薪が燃えて炭になったもの）で背中の方から先に焼いた。そして魚がカラカラになるまで焼けると、串ごとベンケイ（麦藁または稲藁を束ねたもの）に刺し、台所（土間）の周辺に吊るして保存した。聞き取りによると、これは囲炉裏の煤がついて燻されるので魚の保存方法として防腐、防虫効果があったためだそうである。羽村市の古老の話によると、ベンケイのことは「ツト」とも呼ぶという。ツトとベンケイの使い分けについて地域性があったかどうかは不明である。また、羽村には細い竹を巻きつけた「マキタケ」というものがあり、ベンケイと同様に使われた。

檜原村での聞き取りによると、ウナギは蒲焼きにして食べたり、串焼きにしてベンケイに刺して保存し、食べるときに煮たりまた出汁の材料として使われた。

これらの道具は、いつの時代から始まったかは定かではないが、茅ぶきの家に土間や囲炉裏があったころまで続いていたようである。

そのほか、『青梅市の民俗』には、ベンケイの代わりに直径が5～6cm、長さおよそ30cmくらいの真竹に火箸で穴をあけた「タケツツ」も用いられていたことが記されている（青梅市教育委員会，1972）。

3. 粕漬けにした保存法

羽村市の古老によると、暮れに進物としてもらった新巻サケを、酒粕に漬けておき、養蚕が始まる5月ごろ、手伝いにくる人たちにおかずとして食べさせたという。

Ⅲ 日常生活と魚食習慣

1. 主 食

大正から昭和初期にかけては麦飯が多く、その割合も米3対麦7が一般的であった。この時期はひきわり麦（大麦を臼でひいたもの）が多く、1935（昭和10）年ごろに入るとおし麦（水で湿らせおした麦）に変わっていく。これはおし麦のほうが食べやすいためだと考えられる。また、おし麦は家では作ることができないので穀屋で買ったという。

純農家ほど食事の質が悪く、なるべくお金をかさずに粗食に耐え自給自足をして暮らしていた。このため戦争中でも生活の質はあまり変わることはなかったようである。

1987（昭和62）年に五日市の「ふるさとを学ぶ会」がおこなった聞き取り調査によると、米と大麦の混合割合は、表1のようになる。

さらに、混合割合の比率を地域との関連でみると、山村の盆堀地区に麦が多く、五日市町内の非農家に米が多い傾向がある。また、3食に1回は米麦以外の物を食べることが多い。米麦以外の主食としては、うどん、すいとん、いも類、そばがき、もち、あわ餅、雑穀などがある。

五日市では、中心部に商業地域があり、東は純農村地域、西は山村地域となっている。なかでも西に位置している山村が一番粗食であり、副食までもが自給自足の生活であった。店がなかったこともあり山菜（ワラビやタラの芽など）や山の鳥などを利用した食生活であった。山の鳥なども丁寧に調理し、肉のよいところは味噌漬けにし、のこりはうどんの出汁として無駄のないように利用していた。ちなみに五日市戸倉地区林業家によると、夜の主食はつけうどんであったという。

2. 副食（おかず）

大根（たくあん）と味噌（味噌汁）が主であった。たくあんや味噌はかならず自家製で、保存して一年中食されていた。

味噌汁の具としては大根や菜っ葉が多い。菜っ葉、にんじん、ごぼう、ねぎ、里芋、そのほかの芋類などはほぼ自給自足ができた。また、お煮しめはごちそうとして冠婚葬祭にはつきものであり、突然の

葬儀などにも困ることがないように畑にはかならずにんじんやごぼうを栽培していたという古老の話がある。

五日市の「ふるさとを学ぶ会」がおこなった聞き取り調査によると、味噌汁と漬物がおもな副食であった。例数の多い順に以下に列挙する。

- ①野菜類（菜、だいこん、なす、いも、まめ）の煮物。
- ②味噌（なめみそとして、ねぎや鰹節などを入れる）。
- ③豆腐とがんもどき。
- ④魚（マス、サケ、サンマ、ニシン、メザシ、など）。
- ⑤その他として、野草（いたどり、たんぽぽなど）、野鳥、ノウサギ、梅干し、ヤギの乳などが食されていた。

これらのうち③と④は、ごちそうの部類で、たまに食べられていたものである。また、町内の非農家のほうが購入食品をよく食べ、農家は自給自足意識が徹底していて副食に金を使いたがらない傾向があった。なお、「ふるさとを学ぶ会」のおこなった調査資料は、巻末の付録の項に掲載した。

3. その他

魚は行商に頼っていた。

明治期、戸倉（現五日市町）にあった商人宿の宿泊人名簿の職種別統計（1883年～1886年）をみると、魚の行商人の宿泊回数がいちばん多く、戸倉地区の人々が彼らより海産物、塩マスや干物（塩干物）を買って食べていたことがわかる。しかし、個々の家にとって魚を購入する回数は月に何度もあるわけではなく、一般的なごちそうは豆腐であり、村に豆腐屋は少なくとも一軒はあり、油揚げやいなり寿司も大変なごちそうであった。豆腐は焼き豆腐にしてお煮しめのなかに入れた。味噌汁には菜っ葉を入れ、豆腐は贅沢なので使わない。また、納豆は行商人から買っていた（五日市町史編纂委員会、1976）。

4. 生活のなかの川魚と海産魚

動物性たんぱく源としての魚は、川魚を捕るのが好きな人や、子供たちが捕ってきたものが主であった。漁獲の好きな人でもなければ、川魚はめったに食べられなかった。

第Ⅱ項で述べたように、多摩川で捕れた魚は、焼いて食べたり、ペンケイに刺して保存しておいたものを甘辛く甘露煮にして食した。また、カジカやギバチなどは、出汁がよく取れるので、うどんやそばなどの出汁用として、おもにハレの日（祝いごとや客寄せ、近所の集まり）に使われた。

日野市の四谷地区（現栄町）では以前からウナギを食べない習慣がある。かつて、多摩川に大水が出たときにウナギが何万匹も集まって堤防を作り洪水から村を防いだという。この一件以来、四谷地区の人々はウナギを食べないようになり、現在でもこの習慣は続いている。また、この地区から他の地域へ嫁いで行った人たちもウナギは口にしなかったという。なお、詳しくは第6章の多摩川にまつわる民話・伝承を参照されたい。

1) 川 魚

羽村町

『羽村町史』によると、昔は魚を食べるのは盆や正月くらいであった。この地域には専業漁師はほとんどおらず、兼業漁師（漁を道楽とした）がわずかにいただけなので娯楽として捕ったハヤやカジカを煮たり焼いたりして食べた。ハヤの串焼きは婚礼や建て前のときの吸物用に使われた。ウナギは蒲焼きにし、カジカなどの小魚は火であぶってマキタケに刺して保存し、小出しにして食べた。たまに川越からドジョウ売りがきたときには、ドジョウ汁を食べた（羽村町史編纂委員会、1974）。

五日市町

五日市町の古老によるとカジカ、ハヤやウグイはアユより漁獲量としては多かったが価値はあまりなく、子供たちが捕ってくる程度でおかずになるほどの量ではなかったという。聞き取り調査では、魚は寒バヤ（ウグイ）が一番美味しく、また、ギバチはウナギと同じようにして食べ、ウグイ自体はあまり食べなかったが出汁にしたという。また、ヤツメウナギは目の悪い人が目の薬として使ったなどの話があった。

檜原村

檜原村での聞き取りによると、ウナギは蒲焼きにして食べたり、串焼きにしてベンケイに刺して保存し、食べるときに煮たり焼いたりするとともに出汁としても使われた。また、どのような効果があったかはわからないが、産前産後の女性にヤマメを食べさせた。一般的に、魚は病人や体の弱い人に重点的に食べさせていたようである。冬にサワガニを捕り、油で揚げてよく食べたが、調味料（つけたれ、醤油）などはその家の秘伝のようなもので、親子でも教えないという。

福生市

福生市の古老の話によると、オイカワは三枚に下ろして、酢漬けにすると美味しいとか、ウグイは囲炉裏で乾して、出汁用に使ったり、砂糖醤油で煮たりしたという。

立川市

立川市では、カジカを冬に捕り、それを囲炉裏であぶり、ベンケイに刺して保存し、正月の昆布巻の芯にして食べた。また、うどんの出汁として使われ、その卵も食された。ハヤなどの雑魚も同様に昆布巻の芯にした（日本の食生活全集編集委員会、1983）。

2) ア ユ

多摩川で捕れたアユは煮たり焼いたり以外に、はらわたを使って「ウルカ」を作った。（生活文化研究所、1979）

しかし、アユは一般庶民にとっては高級魚で自分達が食するよりも売りさばいた。

『江戸たべもの歳時記』（浜田、1977）によると、アユの食べ方は「のむ客へ鵜のへドにたでそへて出し」とあり、江戸付近では多摩川のアユ、現在と同様にタデ酢で食べていたことがわかる。また同書に「秋の四谷をアユ唄のさびた声」とあるように、多摩川のアユを四ッ谷のほうに売りに

行っていたらしい。立川市の古老によると、1927年～1930年頃はアユ1尾で10銭した。ちなみにアユ12尾分が芸者の玉代と同じくらいであったという。

五日市の古老によると、アユを捕って川原で塩焼きにしてみんなで食べたという。また、羽村市の古老によると、アユは塩焼きにし、お土産などの進物にすることもあった。ただし、アユの価値があまりわからない地域へはもっていかなかったようである。立川市の古老は、煮浸し、魚田（魚に味噌をつける）、黄身焼（卵の黄身をつけて焼く）、塩焼きそして天ぷらにして食べたという。

羽村市の『羽村町郷土資料館紀要』（羽村町郷土博物館、1989）には、多摩川のアユ問屋をやっていた人の話が載っている。それによると、戦前は店に「アユを下さい」と言ってくる人はほとんどいなかった。戦後になると店にアユを買いにくる人もいたそうであるが、実は店にならべるアユは地元つまり多摩川で捕れたアユではなく大月の人が相模川で捕ってきたアユであったという。その理由として多摩川のアユは、骨が柔らかく、しかも築地市場まで輸送するのに相模川に比べて時間がかからない分新鮮でよい品物を料理屋へ卸すことができる。相模川のアユは量が多いが品質が落ちるというのである。朝、中央線で大月から築地市場へ行く人が、電車1本早く出てきてアユをもって来たというのである。そこで品質の落ちる相模川のアユを多摩川の地元で売っていたようである。また、アユ問屋は多摩川以外のアユとして山形県の最上川産のアユも買って上野まで輸送して料理屋へ卸した。多摩川のアユだけでは間にあわなかったと記している。

3) 海産魚

『羽村町史』によると、干物や塩引きの記録がみられる。塩ジャケ、サンマのひらき、メザシなどがおもなものであるが、これらは、正月や節分などのハレの日や弁当に用いられた。明治の末ごろから、千葉県船橋のアサリ売り（剥き身屋）が行商のために羽村にきていた（羽村町史編纂委員会、1974）。

羽村市の古老は、サケを焼いて食べたり、酒粕に漬けて（酒粕に漬けると日持ちがする）養蚕が始まる時期（5月ごろ）に手伝いにきた人たちの食事のおかずにしたと話している。これらの人々への給金は高いものではなかったので、せめて食事だけでも良いものにして、労働力を確保する意味もあったものと思われる。また、妊娠中の女性はサケを食べてはいけないというしきたりがあった。血を荒らすためだという。理由は定かではないが、塩分の取りすぎによる妊娠中毒症などを併発するためかもしれない。

『青梅市の民俗』には、塩ジャケ、塩マスを行商から買うくらいで海産の魚はあまり入ってこない。塩マスは市内の荒田の魚屋が俵につめて売りにきたものを何名かで共同購入したことが記されている（青梅市教育委員会、1972）。

五日市の林業家によると、山で働く人や筏職人がサケ（塩ジャケ）をもってきて、そのサケで宴をしたという。また、塩ジャケを酒粕に漬けると魚肉が生のものようになるようである。

多摩一帯でいえることだが、歳暮として仲人には塩ジャケを届け、もらった人はそれを土間（台所）に吊るす習わしがあり、多い家でその数は30～50本くらいになったという。この塩ジャケの本

数が仲人口の数ということになり、ひとつのステイタスを表していた。この習わしは、結婚してから子供が学齢期に達するころ（5～6年間）まで続いた。

IV 魚類に関するアンケート調査について

現在の多摩川近郊に住む人々と魚、川とのかかわりを調査するために、1993（平成5）年から1994（平成6）年にかけてアンケート調査を実施した。

1. 資料

- アンケート調査用紙は資料として巻末に添付した。
- 実施対象地域は多摩川中上流域の各市町村で、実施対象者は無作為に抽出した。
- 調査方法としては、各地域の博物館や資料館にアンケート調査用紙をおき、記入してもらう方法をとった。また、各地域の各種団体にアンケート記入を依頼した。集計の結果1506件のアンケートを回収することができた。なお、各質問に関しては、以下の点に着目した。

問1では年齢、性別と住所を質問した。これは、各年齢による魚との関係、性別は男女の違いによる魚との関係、居住地域の違いによる魚との関係を探るためである。

問2では、多摩川、秋川および浅川の本流または支流（小川もふくめて）で魚を捕ったり、また、遊んだりしたことがあるかどうか、川との接触点があるかを探ることをねらいとした。

問3では、列挙した23種類の魚名を知っているか、また、食べたことがあるかについて「はい」「いいえ」で回答もらった。

これら3つの質問を個別に集計し、また、年齢別、性別、居住地域、魚の知名度やその魚を食べたことがあるか、川との接触点と魚の知名度と魚食など、多摩川流域の住民と川と魚との関係を検討した。

魚名としてのサンプルの選定方法として、おもに多摩川およびその流域に生息する淡水魚を中心に取あげた。また回答の信頼度をチェックする目的で、一般的に知名度が高く、食べる機会が多い魚を基準魚として選定した。そのさい、淡水魚だけではなく、よく食されるということからサケ、アジ、サバ、イワシの4種類の海産魚を選定した。なお列挙順は順不同とした。

結果は百分率（％）による表示とした。

2. 解析方法

アンケート結果の解析には、アンケート調査集計シリーズ表計算ソフトの『秀吉』（株）社会情報サービスを用了。

集計方法としては、単純集計、クロス集計、カイ2乗検定を採用した。

集計結果

年齢による分類は、青年期までは幼児～小学生、中学生、高校生、大学生の年齢に細分化した。さらに23～29才、30才以降は10才きざみに集計をおこなった（サンプル数はなるべく各年齢層を平均的に集めた）。16～22才までのサンプル数が少ないが10才きざみと考えると、1グループあたり平均的にサンプルが採られている。高齢者が少ないのは全体の人口に対する割合が少ないため、やむをえないことと考えられる。また、年齢を記入していない者が約28%あった。

サンプルの男女の割合は男性 56% (844人)、女性 42% (639人) と不明 2% (23人) であり、男性の方がやや多く回収した。

年齢と性別のクロス集計をし、その結果16～18才までは男性が88%、60～69才も男性が82%、また、80～89才の男性が71%と多い。しかし、これらは全体の人数からはごく少数である。他の年齢層では、男女の値が全体の性別の平均値に近い。

調査地域は多摩川中上流域に限定した。アンケートでは現在の居住地を聞いていることから、回答者は埼玉県、神奈川県や東京都区部にまで広くおよんでいるが人数的にはごくわずかである。おもな居住地域は図1に示したように奥多摩、青梅、福生、五日市などとなっている（図1）。また、各地域ごとの男女構成をクロス集計した結果、立川の男性が19%、女性が81%と他の地域にくらべて女性がかかり多くなっている。

V 結果 — 多摩川をめぐる人と魚 —

1. 多摩川とのかかわり

全体を通して多摩川で遊んだことがあるかの質問に「はい」は81%、「いいえ」が8%、無回答が10%となっている。すなわち、8割以上の方が遊んだ経験をもっていることになる。しかし無回答が10%もあるのは、「遊ぶ」の意味がかなり広い意味をもつために、回答がしづらかったことが要因のひとつとして考えられる。それを男女別にみると、男性の85%が「はい」、5.3%が「いいえ」と答えている。これにたいして女性は78.7%が「はい」、11.7%が「いいえ」と答えている。無回答は9.7%と9.5%であった。この結果、わずかに男性の方が「はい」と答えたのが多い理由としては、男女の育ちかたの違い（女性はままごとや家のなかで静かに遊ぶなど）が影響していることも考えられる。つぎに年齢別に遊んだことの有無を検討した。その結果、この関係で顕著なのが70～79才までで「はい」と答えた人が60.7%、「いいえ」が25.0%であり、また80～89才までの人も「はい」が57.1%であり、後は無回答となっていることがわかった。年齢が高くなるにしたがって「はい」の割合が下がっているが、これは高齢者が、幼少期の時代の生活形態が遊ぶことと結びついていなかったためかも知れない。

さらに、地域別に多摩川流域で遊んだことがある人の構成を検討した。多摩川流域で遊んだことがあるの「はい」と「いいえ」の割合を図2に示した。この結果、多くの地域で平均80%を越えて遊んだと答えているが、八王子（56.5%）、立川（73.1%）や、昭島（62.5%）などの地域は低い値を示してい

る。これは、八王子や立川では都市化が進んでいること、また昭島は川との距離があるためと考えられる。

2. 全体の傾向

回答者全体を通して、コイからイワシまでの23の魚種について、「知っている」か、「食べたことがある」か（食べたとは、1回か、複数か、常時かには不問）について検討した。まず、すべての魚種について、「知っている」と答えた人の割合と「食べたことがある」と答えた人の割合を図3に示した。

基準魚として選定した4魚種（サケ、アジ、サバ、イワシ）に関しては表2のような結果を得た。「知っている」と答えた人は95%以上、「食べたことがある」と答えた人は92%以上である。この結果から、この4種類の魚が基準魚として適している魚といえる。つぎに残りの19種類の魚についての結果をみた。知っていることについて基準魚種とほぼ同じ95%以上の値を示した魚は、コイ、フナ、ナマズ、ドジョウ、ニジマス、アユ、ウナギ、タニシ、サワガニ、である。以下ヤマメ（92%）、イワナ（90%）、カジカ（79%）、カワエビ（74%）、ボラ（74%）、カワマス（71%）、ヤツメウナギ（71%）、ウグイ（67%）、ギバチ（40%）、カマツカ（19%）の順となっている。

また、「食べたことがある」については、基準魚とほぼ同じ92%以上の値を示した魚はウナギである。いっぽう、食べたことの割合が低い魚は、カマツカ（5%）、ギバチ（9.6%）、ナマズ（16%）の順になっている。

その魚を「知っている」(A)にたいする「食べたことがある」(B)の割合(B/A)を求めた(表3)。この結果、基準魚としたサケ、アジ、イワシ、サバの比の値は1.00にもっとも近い値を示している。このことから、1.00に近い値の魚ほど一般的食材に用いられていると解釈することができる。

表からもわかるように、ウグイとヤツメウナギを知っている人の割合はほぼ等しいのにたいして、食べたことのある人の割合は両者で異なる。つまり、(B/A)の比の値でみると0.51と0.31のようにウグイのほうが大きい。このことは、ウグイを知っていてかつ食したことがあると答えている人はほぼ半数であるのにたいして、ヤツメウナギは知っていても食するのは1/3と機会が少ないことを示している。

つぎに、年齢、性別、地域の要因が以上の傾向とどのような関係にあるのかについてそれぞれ検討した。

3. 年齢要因

まず、年齢別に「その魚を知っている」かどうかの割合を表4に示した。

表からもわかるように、全魚種を通じて魚名を知っている人の割合が低いのは低年齢層に片寄っている。このことはふだんの食生活や遊びのなかで魚名を知ることが少なく魚名がだんだん忘れ去られているひとつの証拠といえる。また高年齢、とくに80才以上ではカマツカをはじめとする魚を知らない人が多い。これは実際は知っているがアンケートで記した名称がその地域の呼び名ではなかったために、わからなかったとも考えられる。

年齢別に「その魚を食べたことがある」と回答した人の割合を年齢群別に百分率で表5にまとめた。この結果から、コイに関しては、「知っている」と回答した人は全年齢にわたって高い割合を示している。「食べたことがある」に関しては、1～15才までの小中学生は20%程度であり、16～22才までの高校生から大学生までの年齢では47%、それ以降は80%以上の値を表している。このことは、コイに関する料理が「鯉濃」や「コイの洗い」さらに「コイのあめ炊き」など大人向けの料理であるためとも考えられる。

フナに関しては、「知っている」と回答した人は、全年齢にわたって高い割合を示している。「食べたことがある」に関しては、50才以上で70%を越えている。フナは甘露煮や佃煮などの年配者向けの食べ方が主流であるためと思われる。

ナマズに関しては、「知っている」と回答した人は、全年齢にわたって高い割合を示しているが、「食べたことがある」に関しては、1～29才までは数%である。30～39才が11.6%、40～49才が23.8%、50～59才が37.3%、60～69才が46.6%、70～79才が42.9%と年齢を増すごとに増える傾向がある。このように高齢者ほどナマズを食べたことがあると答えている。その理由として、高齢者ほど食する機会があったため、もしくはまた高い年齢の人は戦前や戦中に食料として食べていたことも考えられる。しかし、80～89才までが14.3%とあり、この値については不明である。

同様に、ドジョウ、ニジマス、ヤマメ、イワナ、カジカ、アユ、ウグイ、ウナギ、タニシ、サケ、ボラ、アジ、ヤツメウナギ、サバ、イワシに関しては数字の大小こそあれおおむね年齢を増すごとに食べたことのある人の割合は増加している。また、よく食べられている基準魚などは、低年齢層からその割合が高くなっている。これは食材としてよく使われていることを表している。

カワマス、カワエビ、ギバチ、カマツカなどの魚を食べたことのある人の割合は各年齢層にわたってバラつきがみられる。これは、その魚を食べることは、年齢には関係がなく、食べる機会があるかないかによっているものと考えられる。

4. 性別要因

男女別で魚種ごとに「その魚を知っている」、「食べたことがある」かを検討した。

4種の基準魚については、そのなかの「ある魚を知っていて」、「食べたことがある」と答えた人の割合が男女間でほぼ等しく、カイ2乗検定においても有意差はない。これは基準魚においては男女の差がないことを表している。

23種類の魚種中、「ある魚を知っている」と答えた男女間で1%以上の有意差が生じたものを、また「食べたことがある」と答えた人のうち、男女間で1%以上の有意差を生じたものについては表6および表7に示した。表6および表7ともに男女間で有意差がみられた魚種は、ウグイ、ギバチ、カジカ、ヤツメウナギであった。この結果は、いずれも男性のほうの割合が女性よりも大きくなっている。さらに、イワナ、ナマズ、サワガニ、ドジョウなどは、いずれも知っているかどうかでは男女差はないが、食べたことがあるかどうかの有無別では、どれも1%以上の有意差があり男女差がみられた。

カマツカについては、食した人が少ないためとも考えられる。カワエビに関しては不明である。

男性および女性別に「その魚を知っている」「食べたことがある」の関係を図4および図5に示した。この結果、「その魚を知っている」では男性のほうが女性を上回っている。また、「食べたことがある」においても同様な結果になった。

5. 地域別要因

地域別に「その魚を知っている」、「その魚を食べたことがある」を検討した。

地域によって「その魚を知っている」割合に差が大きい魚種を選択し、地域別、魚種別に「その魚を知っている」人の割合が地域全体における割合の平均値からの差を表した(表8)。プラスの割合が大きい地域は、「その魚を知っている」人が調査地域全体の割合にくらべて多いことを表している。また、マイナスは少ないことを表している。

この結果、ヤマメ、カジカ、ウグイ、ギバチ、ヤツメウナギなどの魚種は山村地区で知っている人が多く、カワマス、カワエビ、ボラは平均的に散らばっている。

地域によって「その魚を食べたことがある」人の割合に差が大きい魚種を選択し、地域別、魚種別に「その魚を食べたことがある」人の割合が地域全体における割合の平均値からの差を表9に示した。プラスの割合が大きい地域は、「その魚を食べたことがある」人が調査地域全体の割合にくらべて多いことを表している。マイナスは少ないことを表している。

この結果、ヤマメ、イワナ、ウグイやカジカは山村地区で食べたことがある傾向にある。

つぎに、男女別に多摩川流域で遊んだことの有無別に集計した。とくに食べたことの有無別にみて男女間で有意差があったイワナ、ナマズ、サワガニ、ドジョウに関して、多摩川流域で遊んだことの有無別に検討した(表10)。さらに、上記の魚について魚種別、男女別、年齢別に結果を集計したのが表11-1~表11-4である。

イワナ、サワガニおよびドジョウに関しては、男女別では年齢が増すのにもなって食べたことがある人の割合が多くなっている。「遊んだことがある」について「はい」と答えた人も年齢が増すにしたがって多くなっている。

ナマズに関しては、男女とも食した人はきわめて少ない。とくに若い女性は、ほとんど食していない。また、遊んだこととはほとんど差がないものと思われる。

この結果、遊んだことがある人では男女差はほぼ一定であるが、「いいえ」に関しては男女差がある。

これらの魚種はどちらかという下手物に分類され、食するのに冒険心が必要であったものなのかも知れない。そのため割合として男性に多く現れたとも考えられる。

6. 河川とのかかわり要因

魚種別、多摩川流域で遊んだことの有無別に集計結果を検討した。

基準魚4種類について「遊んだことがある」について「はい」「いいえ」と答えた人の「その魚を知

っている」人、「食べたことがある」人について表12にまとめた。この結果からは、基準魚の場合、遊んだことの有無は「魚を知っている」こと「食べたことがある」ことと関係がないといえる。

いっぽう、そのほかの魚種について、遊ぶことに関して、「はい」、「いいえ」、そして「食べたことがある」について表13にまとめた。この結果から、カジカ、ウグイ、ギバチは、川に親しむことによって知り得た魚であるといえる。また、カジカ、ヤマメ、ウグイは川で遊んだことのある人のほうが食べた経験をもつことも多くなっている。その理由として、これらの魚は川で遊んだことのある人のほうが手に入りやすく、しかも食する機会が多かったことを表しているといえよう。

VI 諸行事と魚食習慣

聞き取り調査と文献調査によって得られた知見から、年間諸行事のなかで食品となった魚と魚にまつわる人生儀礼を表14-1および14-2にまとめた。そのなかから列記すべき事項について以下に記すことにする。

1. お食い初め

『江戸事情』によると、生後100から120日目におこなわれ、歯固めの小石、赤飯、焼き魚などがならべられた。焼き魚には頭が硬くて大きいホウボウやカナガシラが好まれた(NHKデータ情報部, 1991)。これは将来、人の頭になる(人の上に立つ)ようにという願いからである。また、聞き取り調査によると青梅ではお食い初めにはヤマメを使ったという。おそらく海産魚であるホウボウやカナガシラの入手が困難であったためと考えられる。

2. 節 句

『青梅市の民俗』によると、五月の節句や節分にメザシを食べたという(青梅市教育委員会, 1972)。

3. 節 分

『羽村町史』によると、節分のときに、ヒイラギの葉に、焼いたメザシの頭を箸につけて、トボグチに刺して鬼除けとする。この飾りを焼ッカガシという。これは、魚を焼いて鬼が嫌がる臭いをかがせて退散させる、呪いの意味があるといわれる(羽村町史編纂委員会, 1974)。

4. 恵比寿講

1月20日は「ハツカ正月」とか「恵比寿正月」といって、家のエビスサマを棚からおろしてちゃぶ台に飾って祭った。タイを供えるところもあったそうであるが、『武蔵村山の昔がたり』によると、大きいサンマを供えたとある。これにはエビスサマに喜んでもらって財産が増えるようにという庶民のささやかな願いがあった(武蔵村山市教育委員会, 1992)。

5. ドジョウ粥

『多摩の年中行事』によると、ネズフタギの類似行事として「ドジョウ粥」「アナップサギ」と称される行事が各地に分布している。ドジョウ粥行事は北多摩および南多摩丘陵部に分布し、11月中～下旬の麦まきの終了時に多くおこなわれる。これは麦の播種儀礼としておこなわれてきたものである。多摩市関戸では「麦蒔きのドジョウガユ」、「蒔きあげのお粥」、小金井市では、「マキアガリ」、昭島市では、「麦まき祝い」、福生市や秋川市では、「マキバライ」「麦まきの粥」「アジアライガユ」、町田市では「マキアゲ」「マキアゲノオケエ」とそれぞれよばれる。東村山では、この粥を食べると「麦の芽出しがよくなる」といわれた。稲城市では麦まき終了後に農具を台所にならべてドジョウ粥を供えた。また、この時季の挨拶として、小金井市では、「麦まきは終わったか」という代わりに「もう粥か」といったそうである。このように、ドジョウ粥を食べることは「麦まきじまい」を表すことでもあった。なお、ドジョウ粥はどこの地域でも夕食として食べた（町田市立博物館、1989）。

『多摩の年中行事』によると、ドジョウ粥はその中身自体は小豆粥であり、そのなかにうどんを入れて煮た物をさす。椀の中のうどんをドジョウにみたててドジョウ粥と称した。うどんの切りかたも通常のうどんとは異なり、「幅広のうどんを切ったもの」「うどんのひらひら大きい物を泳がせる」「うどん粉で作ったすいとんの様なもの」「一寸くらいに切ったうどん」「太く短いうどん」などの表現にみられるようにドジョウに見立てて入れている。変わったところでは、うどんの変わりに蕎麦や素麺を入れるところもあった（町田市立博物館、1989）。『国立生活誌Ⅱ』によると、ドジョウ粥は塩味で食べたという（くにたちの暮らしを記録する会、1988）。

『多摩の年中行事』によると、うどんの代わりに本物のドジョウを粥に入れて食べる家もあったとのことであるが、本来の形とは思われず、麦製品としてのうどんを儀礼食とするからこそ麦作儀礼であったわけで、それをドジョウにたとえたとはいえ、本物のドジョウがうどんに転化したわけではないと記している（町田市立博物館、1989）。また、古老の話として、うどんをドジョウに見立て、雨が降るとドジョウが活発に動くことから、降雨を祈願するためのものと説明しているものもある。

『武蔵村山の昔がたり』によると、土壌替え（ドジョウゲエ）の意味もあった、とある（武蔵村山市教育委員会、1992）。また、麦が土のなかにもぐって芽が出るようにという意味もあったらしい。そのほか、田に麦をまくとき、田の中心に幅30cmくらいの溝を掘ると、ドジョウがでてくる。それを粥に入れて食べるのが、ドジョウ粥らしいともいわれている（福生市教育委員会、1974）。

なお、ドジョウ粥行事が北多摩、南多摩地域の丘陵部分に分布するいっぽう、ネズフタギ行事は奥多摩の山間部でみられる。これらふたつの行事は内容的にも明確な複合が認められ、かつその地域分布はたがいに共通していないことから、ドジョウ粥は多摩地方を代表する麦作儀礼の習俗といえる（町田市立博物館、1989）。

Ⅶ おわりに

多摩川は流長もさほど長くなく、典型的な日本の河川といえる。しかも、都市化が急速に進み昔からの伝統的な食生活もほとんどなくなってきてしまった。

戦後50年が過ぎ、戦前や終戦直後の時期における状況を知る人も高齢になり、昔のことを知る人も少なくなった。魚食に関する情報は、一部の古文書、聞き取り調査や地域の教育委員会編集の郷土誌などからうかがい知ることができた。しかし、その情報量はごくわずかなものであった。

アンケート調査は、各方面のご協力もあって約1500件のデータを集めることができた。ここでは淡水魚類に関する地域住民の貴重な情報を集めることができた。この情報からナマズは、知っている人はほとんどであっても食した人はほとんどないこと、カマツカは、ごく一部の人のみ知っている魚種であるがそのなかでも高齢者のほうが若者に比べて知っている魚種といえる。多摩川流域は都市化が急速に進んでいるにもかかわらず、西多摩郡に属する山村地区では知っている魚種も多く、わずかではあるが中上流域の違いが現れていた。

Ⅷ 引用文献

- 五日市郷土館（編）. 1988. 郷土あれこれ23号, 五日市郷土館.
- 五日市町史編纂委員会（編）. 1976. 五日市町史, 五日市町.
- NHKデータ情報部（編）. 1991. 江戸事情, 雄山閣.
- 青梅市教育委員会（編）. 1972. 青梅市の民俗, 青梅市教育委員会岸家文書, 五日市町.
- くにたちの暮らしを記録する会（編）. 1988. 国立の生活誌, 国立市教育委員会
石川家文書. 歳中日記, 五日市町.
- 生活文化研究所（編）. 1979. 多摩の暮らしと食べもの, 生活文化研究所.
- 多摩文化資料室（編）. 1987. 多摩のあゆみ, 多摩中央信用金庫.
- 日本の食生活全集編集委員会（編）. 1983. 東京の食事, 日本の食生活全集編集委員会.
- 浜田義一郎. 1977. 江戸たべもの歳時記, 中公文庫.
- 羽村町郷土資料館（編）. 1989. 羽村町郷土資料館紀要 第4号, 羽村町教育委員会.
- 羽村町史編纂委員会（編）. 1974. 羽村町史, 羽村町.
- 福生市教育委員会（編）. 1974. 福生市の民俗, 福生市教育委員会.
- 福生市教育委員会（編）. 1984. 福生市の民俗, 福生市教育委員会.
- 町田市立博物館（編）. 1989. 多摩の年中行事, 町田市立博物館.
- 武蔵村山市教育委員会（編）. 1992. 武蔵村山の昔がたり, 武蔵村山市教育委員会.
- 森田家文書, 五日市町.

IX 図表

表1 米麦の混合割合と調査例数

	*1 *2								
米	0	1	2	2	3	5	7	8	9
麦	10	10	10	8	7	5	3	2	1
調査例数	2	1	1	2	4	4	1	1	1

*1 1 : 10とは麦1升到米1合の割合

*2 2 : 10とは麦1升到米2合の割合

表2 「知っている」と「食べたことがある」人の割合 (%)

	知っている	食べたことがある
サケ	97.0	94.4
アジ	96.7	94.6
サバ	95.7	92.6
イワシ	97.1	94.8

東京都図

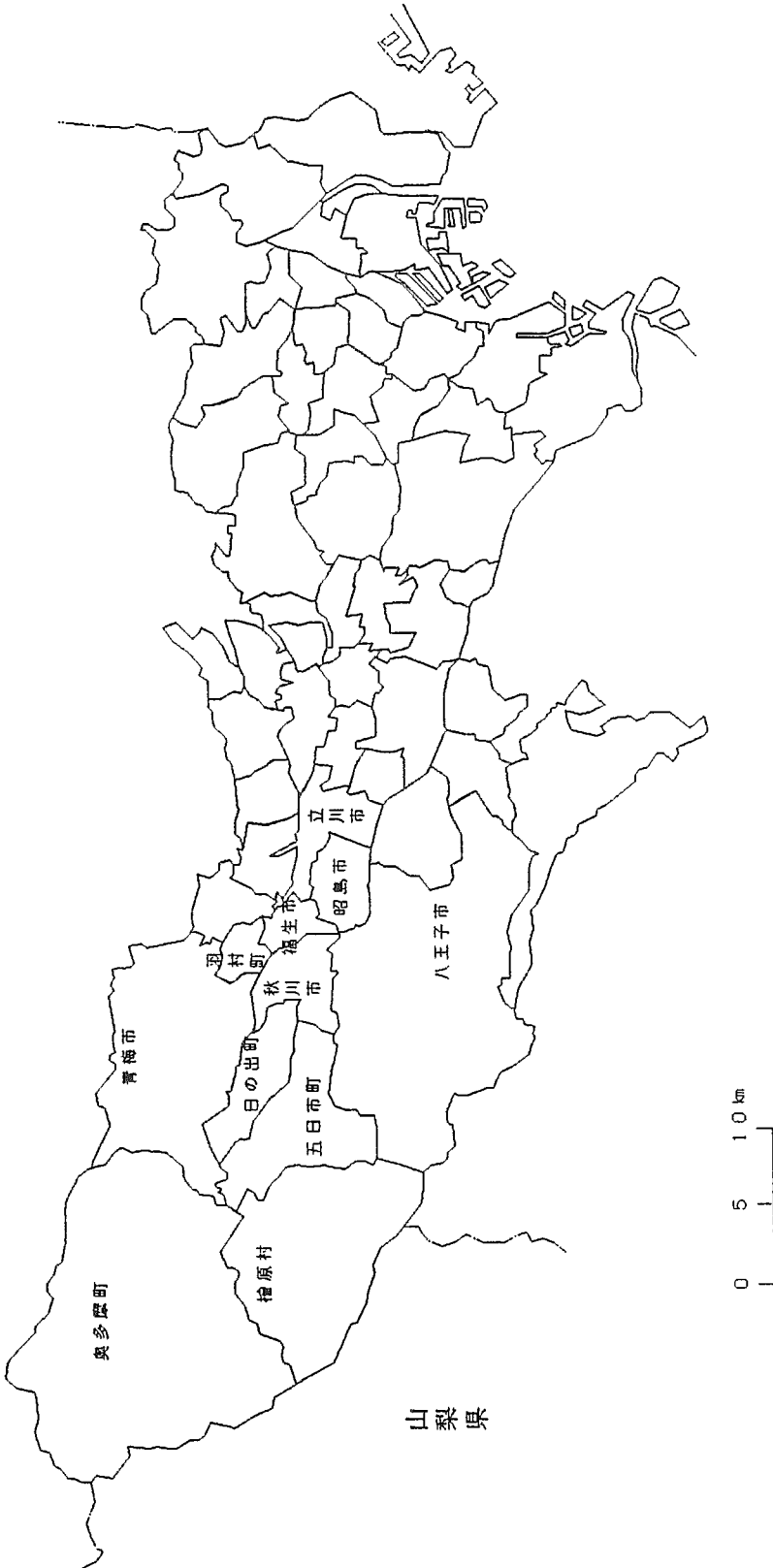


図1 調査をした居住地域

東京都図

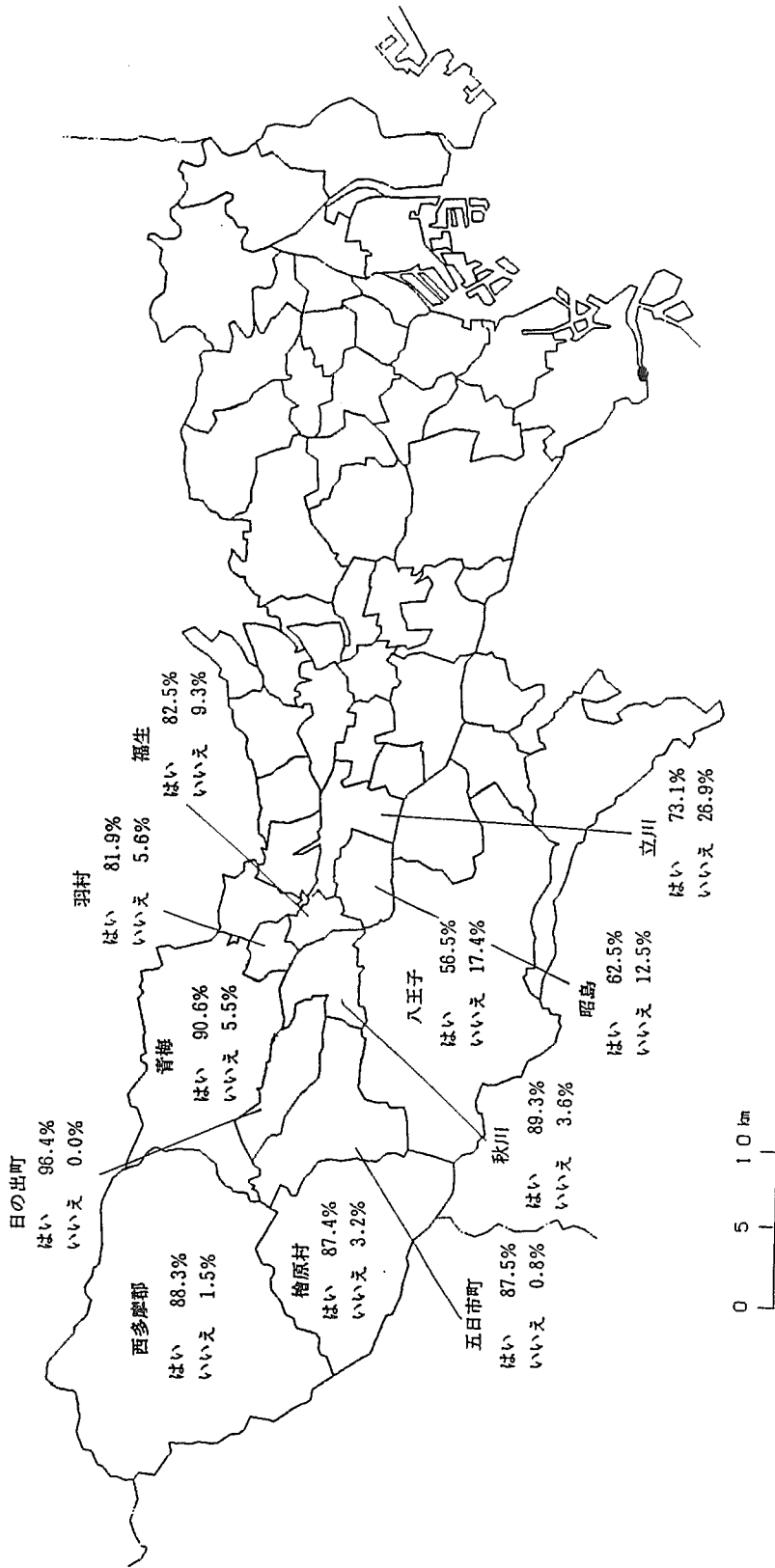


図2 地域別多摩川域で遊んだことがある「はい」「いいえ」の割合

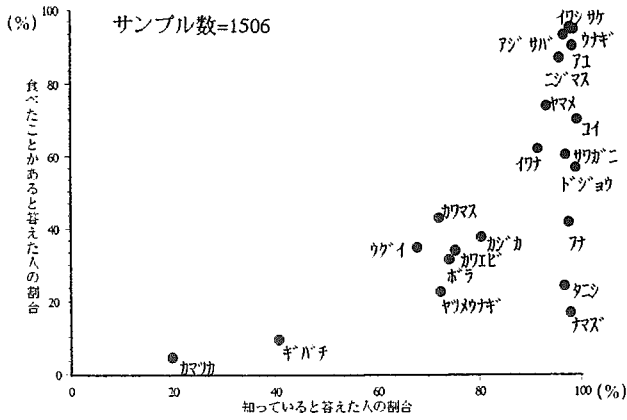


図3 魚種別「その魚を知っている」、「食べたことがある」の割合

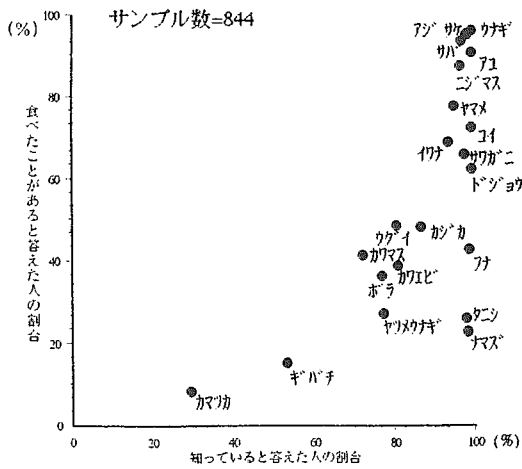


図4 男性の魚種別「その魚を知っている」、「食べたことがある」の割合

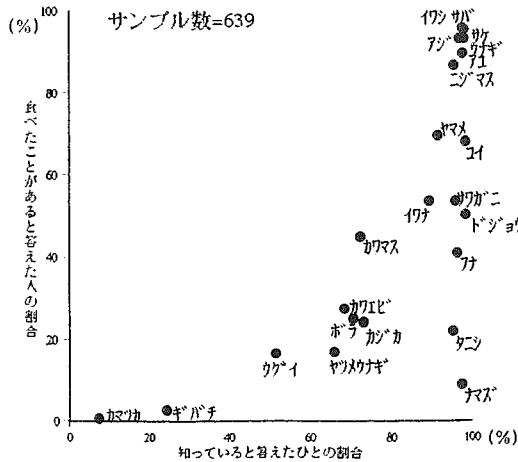


図5 女性の魚種別「その魚を知っている」、「食べたことがある」の割合

表3 「知っている」と「食べたことがある」の値(%)とその比の値

魚名	知っている (A)	食べたことがある (B)	比の値 (B/A)
サケ	97.0	94.4	0.97
アジ	96.7	94.6	0.97
イワシ	97.1	94.8	0.97
サバ	95.7	92.6	0.96
ウナギ	97.7	94.2	0.96
アユ	97.5	89.7	0.92
ニジマス	95.0	86.5	0.91
ヤマメ	92.4	73.7	0.79
コイ	98.2	70.0	0.71
イワナ	90.7	62.1	0.68
サワガニ	95.9	60.2	0.62
カワマス	71.4	42.8	0.59
ドジョウ	97.9	56.7	0.57
ウグイ	67.2	34.7	0.51
カジカ	79.7	37.6	0.47
カワエビ	74.4	33.8	0.45
フナ	96.6	41.7	0.43
ボラ	73.2	31.3	0.42
ヤツメウナギ	71.5	22.6	0.31
タニシ	95.8	24.2	0.25
カマツカ	19.5	5.0	0.25
ギバチ	40.2	9.6	0.23
ナマズ	96.9	16.9	0.17

表4 年齢群別にその魚を「知っている」と答えた人の割合 (%)

年 齢	コ イ	フ ナ	ナマズ	ドジョウ	ニジマス	ヤマメ
1 ~ 12	99.0	88.0	91.0	98.0	84.0	79.0
13 ~ 15	99.4	97.5	97.5	97.5	88.8	80.7
16 ~ 18	100	100	100	100	100	100
19 ~ 22	100	100	100	100	100	96.9
23 ~ 29	99.1	99.1	100	99.1	98.2	98.2
30 ~ 39	99.4	99.4	99.4	100	100	100
40 ~ 49	99.5	99.0	99.0	99.5	99.5	98.1
50 ~ 59	99.4	99.4	98.8	100	99.4	97.6
60 ~ 69	100	100	100	100	98.6	95.9
70 ~ 79	100	100	100	100	96.4	100
80 ~ 89	100	85.7	71.4	85.7	100	85.7

年 齢	イワナ	カジカ	ア ユ	ウグイ	ウナギ	カワマス
1 ~ 12	79.0	64.0	98.0	47.0	96.0	57.0
13 ~ 15	80.7	49.7	97.5	31.1	98.8	70.2
16 ~ 18	100	82.4	100	70.6	100	88.2
19 ~ 22	93.8	78.1	100	53.1	100	50.0
23 ~ 29	97.4	93.9	99.1	78.9	99.1	63.2
30 ~ 39	98.8	95.7	100	85.4	100	74.4
40 ~ 49	96.7	92.9	99.5	83.3	99.0	69.5
50 ~ 59	94.1	93.5	100	84.6	100	77.4
60 ~ 69	91.8	89.0	100	91.8	100	76.7
70 ~ 79	96.4	82.1	100	78.6	100	85.7
80 ~ 89	100	57.1	85.7	42.9	85.7	71.4

年 齡	カワエビ	タニシ	サワガニ	サ ケ	ボ ラ	ア ジ
1 ~ 12	57.0	94.0	92.0	97.0	39.0	96.0
13 ~ 15	61.5	91.9	91.3	98.1	57.1	97.5
16 ~ 18	76.5	100	94.1	100	82.4	100
19 ~ 22	71.9	96.9	100	100	62.5	100
23 ~ 29	85.1	100	97.4	99.1	75.4	99.1
30 ~ 39	85.9	98.8	100	99.4	82.9	99.4
40 ~ 49	75.2	99.0	99.0	98.6	83.3	97.6
50 ~ 59	77.5	99.4	99.4	98.2	84.6	97.6
60 ~ 69	80.8	100	100	97.3	75.3	97.3
70 ~ 79	85.7	92.9	100	100	85.7	100
80 ~ 89	85.7	100	85.7	85.7	57.1	85.7

年 齡	ギバチ	ヤツメウナギ	カマツカ	サ バ	イワシ
1 ~ 12	30.0	34.0	18.0	90.0	99.0
13 ~ 15	21.1	30.4	13.0	94.4	97.5
16 ~ 18	11.8	70.6	11.8	100	100
19 ~ 22	18.8	56.3	0.0	93.8	100
23 ~ 29	41.2	79.8	7.9	99.1	99.1
30 ~ 39	47.6	90.2	19.5	100	100
40 ~ 49	49.5	89.5	26.2	98.6	98.6
50 ~ 59	59.2	90.5	29.6	98.2	98.2
60 ~ 69	72.6	93.2	49.3	95.9	97.3
70 ~ 79	35.7	85.7	17.9	100	100
80 ~ 89	71.4	85.7	28.6	85.7	85.7

表5 年齢群別にその魚を「食べたことがある」と回答した人の割合 (%)

年 齢	コ イ	フ ナ	ナマズ	ドジョウ	ニジマス	ヤマメ
1 ~ 12	17.0	8.0	4.0	18.0	66.0	44.0
13 ~ 15	20.0	13.0	6.2	15.5	63.4	42.9
16 ~ 18	47.1	5.9	5.9	23.5	82.4	70.6
19 ~ 22	46.9	9.4	3.1	34.4	81.3	65.6
23 ~ 29	77.2	24.6	2.6	56.1	92.1	81.6
30 ~ 39	89.0	40.9	11.6	70.7	95.7	87.2
40 ~ 49	92.4	53.3	23.8	71.4	96.2	87.6
50 ~ 59	94.7	70.4	37.3	82.2	95.9	91.7
60 ~ 69	95.5	80.8	46.6	87.7	94.5	91.8
70 ~ 79	96.4	82.1	42.9	85.7	96.4	78.6
80 ~ 89	71.4	85.7	14.3	57.1	85.7	100

年 齢	イワナ	カジカ	ア ヨ	ウグイ	ウナギ	カワマス
1 ~ 12	37.0	12.0	74.0	7.0	90.0	33.0
13 ~ 15	38.5	5.0	76.4	3.6	90.7	25.5
16 ~ 18	64.7	11.8	100	17.6	100	47.1
19 ~ 22	34.4	12.5	84.4	18.8	93.8	31.3
23 ~ 29	67.5	32.5	93.6	33.3	98.2	28.9
30 ~ 39	72.0	49.4	96.3	46.3	97.0	40.9
40 ~ 49	71.9	59.0	96.7	54.3	98.6	44.3
50 ~ 59	78.8	65.7	96.4	60.0	94.7	61.9
60 ~ 69	75.3	68.5	98.6	76.6	100	58.9
70 ~ 79	78.6	50.0	96.4	45.4	92.9	64.3
80 ~ 89	71.4	42.9	100	14.3	100	57.1

年 齡	カワエビ	タニシ	サワガニ	サ ケ	ボ ラ	ア ジ
1 ~ 12	10.0	9.0	28.0	89.0	6.0	83.0
13 ~ 15	9.9	3.1	21.7	95.7	15.5	91.9
16 ~ 18	23.5	5.9	17.6	100	17.6	100
19 ~ 22	37.5	9.4	53.1	100	18.8	96.9
23 ~ 29	50.0	15.8	58.8	96.5	24.6	97.4
30 ~ 39	55.8	19.5	79.3	96.3	31.1	98.8
40 ~ 49	41.1	26.7	79.0	96.2	39.5	97.1
50 ~ 59	39.1	48.5	85.8	94.1	52.7	95.5
60 ~ 69	37.0	52.1	76.7	93.2	46.6	95.9
70 ~ 79	35.7	53.6	64.3	96.4	57.1	96.4
80 ~ 89	14.3	42.9	42.9	100	28.6	100

年 齡	ギバチ	ヤツメウナギ	カマツカ	サ バ	イワシ
1 ~ 12	1.0	5.0	4.0	78.0	90.0
13 ~ 15	0.6	4.3	1.2	85.1	91.3
16 ~ 18	5.9	5.9	0	100	100
19 ~ 22	0	9.4	0	93.8	93.8
23 ~ 29	7.0	13.2	0	95.6	96.5
30 ~ 39	5.5	23.8	1.8	98.2	98.8
40 ~ 49	15.7	29.5	5.2	96.7	97.1
50 ~ 59	21.9	44.4	13.6	96.4	97.0
60 ~ 69	30.1	49.3	21.9	94.5	95.9
70 ~ 79	14.3	39.3	14.3	100	100
80 ~ 89	14.3	57.1	0	100	100

表6 魚を知っているで男女間で
有意差のあるもの (df=1)

魚名	X ²	
ウグイ	134.89	P<0.01
ギバチ	121.67	"
カマツカ	113.09	"
カジカ	39.49	"
カワエビ	29.76	"
ヤツメウナギ	23.01	"

表7 食べたことがあるで男女間で
有意差のあるもの (df=1)

魚名	X ²	
ウグイ	69.92	P<0.01
カジカ	57.61	"
ナマズ	46.62	"
イワナ	27.90	"
サワガニ	20.70	"
ドジョウ	19.77	"
ギバチ	17.11	"
ボラ	14.52	"
ヤツメウナギ	9.12	"

表8 地域別で魚種別に「その魚を知っている」の割合が地域全体の平均の割合の差(%)

	ヤマメ	カジカ	ウグイ	カワマス	カワエビ
奥多摩	4.1	11.1	15.6	0.1	-1.1
↑ 檜原村	3.6	13.3	15.5	2.6	-17.2
上 五日市町	4.1	11.6	17.5	-0.1	5.9
流 日の出町	6.8	-1.8	3.7	-7.8	-14.4
青 梅	4.2	10.6	8.1	-7.3	0.1
秋 川	5.0	14.2	16.2	-2.5	7.0
下 羽 村	-0.1	7.4	5.9	7.1	4.1
流 八王子	-14.9	-19.5	-19.9	-10.5	-1.2
↓ 福 生	-6.8	-19.7	-22.7	1.5	-0.5
昭 島	-11.9	-11.6	1.1	-9.6	-0.1
立 川	3.0	-7.3	-6.2	4.8	1.8

	ボラ	ギバチ	ヤツメウナギ	カマツカ
奥多摩	1.2	24.7	9.3	11.5
↑ 檜原村	-7.6	8.9	2.5	-15.5
上 五日市町	3.8	34.0	11.5	23.9
流 日の出町	1.1	13.0	2.8	-1.8
青 梅	-1.0	-10.0	6.5	-6.2
秋 川	1.1	4.0	6.4	5.3
下 羽 村	1.1	-0.3	5.6	-1.6
流 八王子	-13.0	-1.6	-15.6	-6.7
↓ 福 生	-5.7	-9.5	-23.3	-3.3
昭 島	13.6	-15.6	-3.4	-0.9
立 川	22.3	-9.8	12.4	-8.2

表9 地域別で魚種別に「その魚を食べたことがある」の割合が地域全体の平均の割合の差(%)

	コイ	フナ	ナマズ	ドジョウ	ニジマス
奥多摩	11.4	-1.7	0.2	2.2	4.3
↑ 檜原村	14.7	-8.4	-4.4	-5.6	7.5
上 五日市町	11.2	-0.1	0.0	5.3	2.6
流 日の出町	4.4	4.3	8.0	-3.6	5.7
青 梅	2.3	-2.1	-0.9	6.7	5.1
秋 川	8.0	6.1	11.6	5.3	5.7
下 羽 村	-1.2	10.7	1.1	-1.6	-1.1
流 八王子	27.1	-7.3	-8.3	-22.4	-17.6
↓ 福 生	-24.7	-8.9	0.1	-17.6	-12.2
昭 島	-8.1	-17.1	-4.5	-7.2	0.3
立 川	21.7	23.3	2.2	15.9	9.0

	ヤマメ	イワナ	カジカ	ウグイ	カワマス
奥多摩	13.5	5.0	22.7	20.7	3.2
↑ 檜原村	24.6	-6.8	31.6	14.6	21.0
上 五日市町	10.2	8.6	22.3	25.3	-3.4
流 日の出町	15.0	8.8	8.5	11.5	-0.3
青 梅	3.8	4.2	5.6	3.2	-2.6
秋 川	0.7	3.5	10.3	9.7	-9.3
下 羽 村	-11.8	-9.8	-7.3	-5.7	12.4
流 八王子	-26.5	-10.4	-29.2	-17.5	-8.4
↓ 福 生	-15.0	-10.1	-16.8	-14.9	-7.8
昭 島	-24.3	-12.6	-12.9	-16.1	6.8
立 川	10.3	18.2	-22.5	-8.0	29.9

表10 男女間で有意差のあったの4魚類の魚に関して食べたことがあり、多摩川で遊んだことがあるについて「はい」「いいえ」「無回答」の割合(%)

魚名	「はい」	「いいえ」	「無回答」
イワナ	14.2	3.1	24.9
ナマズ	12.4	22.2	19.0
サワガニ	12.8	-5.1	15.0
ドジョウ	12.2	5.8	10.1

表11 年齢群別、男女別、また多摩川で遊んだことの有無別にみた魚種別に「食べたことがある」人の割合(%)

表11-1 イワナ

年齢	男女別		遊んだことがある	
	男	女	はい	いいえ
1 ~ 12	35.1	40.5	37.3	37.5
13 ~ 15	36.0	41.7	40.9	20.0
16 ~ 18	66.7	50.0	69.2	33.3
19 ~ 22	50.0	18.8	36.7	0
23 ~ 29	76.8	53.3	68.8	0
30 ~ 39	83.8	47.2	72.4	66.4
40 ~ 49	80.8	57.5	72.4	62.5
50 ~ 59	81.9	71.9	78.4	55.6
60 ~ 69	75.0	76.9	71.7	100
70 ~ 79	81.8	75.0	82.4	71.4
80 ~ 89	60.0	100	75.0	0

表11-2 ナマズ

年 齢	男女別		遊んだことがある	
	男	女	はい	いいえ
1 ~ 12	7.0	0	0	25.0
13 ~ 15	7.9	4.2	6.8	0
16 ~ 18	6.7	0	7.7	0
19 ~ 22	6.3	0	3.3	0
23 ~ 29	4.3	0	2.8	0
30 ~ 39	14.4	5.7	11.2	16.7
40 ~ 49	28.5	16.3	23.3	37.5
50 ~ 59	48.6	18.8	35.5	33.3
60 ~ 69	50.0	30.8	48.3	60.0
70 ~ 79	50.0	33.3	41.2	42.9
80 ~ 89	20.0	0	0	0

表11-3 サワガニ

年 齢	男女別		遊んだことがある	
	男	女	はい	いいえ
1 ~ 12	29.8	23.8	29.3	12.5
13 ~ 15	22.5	20.8	20.5	26.7
16 ~ 18	20.0	0	23.1	0
19 ~ 22	62.5	43.8	56.7	0
23 ~ 29	63.8	51.1	59.8	0
30 ~ 39	83.8	69.8	79.6	83.3
40 ~ 49	85.4	68.8	79.5	75.0
50 ~ 59	88.6	81.8	87.1	77.8
60 ~ 69	80.0	61.5	80.0	60.0
70 ~ 79	68.8	58.3	76.5	14.3
80 ~ 89	60.0	0	0	0

表11-4 ドジョウ

年 齢	男女別		遊んだことがある	
	男	女	はい	いいえ
1 ~ 12	19.3	16.7	20.0	12.5
13 ~ 15	14.6	16.7	17.4	0
16 ~ 18	26.7	0	30.8	0
19 ~ 22	31.3	37.5	33.3	50.0
23 ~ 29	63.8	44.4	56.1	0
30 ~ 39	74.8	62.3	69.7	83.3
40 ~ 49	79.2	58.8	70.8	62.5
50 ~ 59	88.6	71.9	82.7	77.8
60 ~ 69	91.7	69.2	86.7	100
70 ~ 79	81.3	91.7	88.2	85.7
80 ~ 89	60.0	50.0	50.0	0

表12 基準魚4種類による「遊ぶ」ことの有無別にみた「知っている」「食べたことがある」の割合(%)

魚 名	遊 ぶ	知っている	食べたことがある
サ ケ	は い	98.8	95.7
	いいえ	97.5	98.3
ア ジ	は い	98.6	96.7
	いいえ	95.8	94.2
サ バ	は い	97.6	95.0
	いいえ	97.5	89.2
イワシ	は い	98.9	96.6
	いいえ	97.5	92.5
平 均	は い	98.48	96.00
	いいえ	97.08	93.55

表13 魚種別の「遊ぶ」ことの有無別にみた集計結果(%)

魚名	遊ぶ	知っている	食べたことがある
コイ	はい	99.3	71.4
	いいえ	98.3	65.3
フナ	はい	98.1	41.5
	いいえ	95.9	37.2
ナマズ	はい	98.4	16.4
	いいえ	96.7	15.7
ドジョウ	はい	99.3	57.9
	いいえ	95.5	47.9
ニジマス	はい	97.1	89.2
	いいえ	86.0	75.2
ヤマメ	はい	94.6	76.7
	いいえ	82.6	49.6
イワナ	はい	93.0	63.9
	いいえ	81.8	49.6
カジカ	はい	83.9	39.4
	いいえ	52.1	10.7
アユ	はい	99.0	92.3
	いいえ	95.9	79.3
ウグイ	はい	70.3	37.1
	いいえ	40.5	10.7
ウナギ	はい	99.1	95.9
	いいえ	98.3	91.7
カワマス	はい	72.2	43.3
	いいえ	67.5	37.5
カワエビ	はい	76.1	34.3
	いいえ	65.8	33.3
タニシ	はい	97.5	22.7
	いいえ	91.7	36.7
サワガニ	はい	97.5	62.8
	いいえ	92.5	45.0
ボラ	はい	74.8	31.1
	いいえ	71.7	35.0
ギバチ	はい	41.3	9.8
	いいえ	21.7	2.5
ヤツメウナギ	はい	72.8	22.3
	いいえ	65.8	16.7
カマツカ	はい	19.6	4.8
	いいえ	7.5	5.8

表14-1 年間行事

月	日	行事	食品
1	1～3	正月	数の子、アユ
1	16	やぶいり	魚
1	20	恵比寿講	魚（お頭つきの魚）
2	11	初午	メザシ、イワシ
3	3	節句	はまぐり
7		土用	ドジョウ、ウナギ
9	1	八朔祭	ドジョウ汁
10	20	恵比寿講	魚
11		マキバライ	ドジョウ粥
12		歳暮	塩サケ

表14-2 人生儀礼

儀礼	食品
出産祝い	かつおぶし
お七夜	お頭つきの魚
お食い初め	ハウボウ、カナガシラ
帯トキ	かつおぶしかするめ
節句	はまぐり、かつおぶし
結納	かつおぶし、こんぶ、するめ

X 資料

魚類に関するアンケート調査のお願い

私たちアジア魚類研究会は、多摩川流域における魚類の調査を行っております。流域にお住まいの方々に、魚に関するアンケート調査を致したいと思っておりますのでご協力をお願い致します。

つぎの質問にお答え下さい。

問1. 年齢 才 性別 (○で囲む) 男 女 お住まい 市 町 (村)

問2. あなたは多摩川、秋川及び浅川の本流又は支流 (小川も含めて) で魚を捕ったり、又、遊んだりしたことがありますか。 はい いいえ (○で囲んで下さい)

問3. 下記の表 (A) (B) についてお答え下さい (全国どこの地域での体験でも結構です)。

(A) 知っているもの (例えば、見たり、人から聞いたことがあるものも含めて) に○印を付けて下さい。

(B) 食べたことがあるものに○印を付けて下さい。

※知らなかったり、食べたことがない、または、わからないものには、×印を付けて下さい。

魚の名前 (方言)	(A) 知っている	(B) 食べたことがある	魚の名前 (方言)	(A) 知っている	(B) 食べたことがある
コ イ			カ ワ エ ビ		
フ ナ			タ ニ シ		
ナ マ ズ			サ ワ ガ ニ		
ド ジ ョ ウ			サ ケ		
ニ ジ マ ス			ボ ラ		
ヤ マ メ			ア ジ		
イ ワ ナ			ギ バ チ		
カ ジ カ			ヤ ツ メ ウ ナ ギ		
ア ユ			カ マ ツ カ		
ウ グ イ			サ バ		
ウ ナ ギ			イ ワ シ		
カ ワ マ ス					

ご協力誠に有り難うございました

8. 江戸期文書資料よりみた秋川の漁業

I はじめに

江戸期の秋川流域と文書資料の概要

秋川は東京都を貫流する多摩川最大の支流である。多摩川の源流地区、旧西多摩郡は面積でいえば、都内区部全域に匹敵する大きさをもつ。その中央を東西に大岳・御岳の山脈が走り、北の多摩川谷と南の秋川谷に分ける。

秋川は現在の行政区分でいえば、東京都（島部をのぞく）唯一の村である檜原村に発し、同村・五日市町・秋川市の3自治体を貫流し、秋川市の東端で多摩川と合流する。源流地区檜原村数馬新大平橋より合流点まで、全長は33.57kmである。

これを川中、水勢などからみて、かりに上流域、中流域、下流域に3分すれば、檜原村から五日市町西部の乙津（おつ）地区まで溪流状をなす上流域。残りの五日市地区を中流域、秋川市域を下流域に分けるのが妥当かと思われる。

江戸期についてみると、秋川市域は16の村からなる農村地帯であった。そして耕地の20%が水田、80%が畑で、養蚕機織をおもな農間稼ぎとする。

五日市町も同様に16の村からなるが、村高合計は秋川地区の5,000石にたいし、半分の2,500石で、田畑の比率も、5%対95%である。しかも畑の地目をみると半分が切り畑（きりはた）である。これは山麓の下級畑で、江戸後期にはその多くで植林が進み、山林化している。五日市町を地区別にみると、東部は秋川市につづく農村地帯、西部は檜原村に続く山村地帯、中央の旧五日市村は地理学用語にいう溪口集落で、文字通り市（いち）の町である。

最後の秋川の源流地区檜原村は、南北ふたつの谷に分かれる広大な山村（村高774石）で、昔から今にいたるまで、一貫してひとつの村であった。

秋川谷の主邑五日市村について詳述すると、ここは山と里をつなぐ商業地で、江戸期を通じ林産物（薪炭・木材・杉皮等）を江戸や多摩川河口地帯へ送り出す基地として栄えた。炭屋・穀屋・質屋・酒屋が軒をつらね、江戸後期（天保期）には居酒屋・煮売り屋等もふくめ約100店舗を数えた。また五と十の日に市が立ち、市日には古着屋などの出店がならび、近村からの買物客で賑わった。物資の流通は馬・手車のほか、川を下る筏が増加した。筏には炭・杉皮などの上荷も乗せた。秋川という動脈が五日市村を、江戸をめぐる地廻り経済圏の一角に押し上げた。五日市村の背後を占める山の村々はもともと食料自給も覚束ない貧村であるが、炭を焼いては五日市へつけ出し、また山林を育成して食料に変えた。山林の多くは五日市の富裕な商家の投資対象になり、当地方最大の山もちは山元になく、五日市村の質屋であった。

さて、本題にはいる。秋川の魚類はその種類を問わず住民の貴重な食料資源であったと思われるが、管見によれば、当地の文書資料にみえる魚はアユに限られ、雑魚と村人の交流を物語る文献はまったくない。アユは雑魚と違い換金価値をもつ高級嗜好食品であった。多摩川、秋川のアユは江戸へ生（なま）

のまま届けられるところに値うちがあり、江戸の魚問屋、料亭にも買われたという。もっとも、多摩川の中下流域とちがい、当地のアユが直接江戸への流通ルートをもったとは思われない。昭和初期、天然アユがさかんに溯上したころ、当地のアユ漁師の売りこみ先は、地元の料亭、旅館、魚屋等であった。また個人が漁師に頼んで購入、贈答用に使った例もあった。いずれにせよ、江戸期のアユも地元で換金され、シーズン中の漁師は通常の日当に倍する実入りがあったと推測される。

ところで、在地のアユ文書を整理すると、幕府のアユ漁業管理の実態が浮彫りにされ、それに振り回されながら、村や自分たちの利益を確保しようとする村役人、漁師の対応を読み取ることができる。内容を便宜上つぎのように4分類してみる。

- 1) 江戸城内の御菜にアユを納入する「御用鮎」に関するもの。
- 2) アユ漁業の収益に賦課する雑税「鮎運上」に関するもの。
- 3) 将軍家の多摩川下流（瀬田）の川狩りに徴用される「御成り御用」に関するもの。
これは当地においては「鶺鴒と鶺鴒」の徴用で、秋川の鶺鴒漁の存否にかかわりをもつ。
- 4) アユ漁業に関する村相互の「紛争」に関する文書。

以上であるが、4)について付言すると、従来川沿いの村々では漁場を共同使用する入会（いりあい）の慣行があり、近隣の村々が組合をつくり、一定の慣習にもとづいて、組合内で自由に漁をしあっていた。川にはよい漁場と、不適の場所があったが、入会漁業は適所の独占をさげ、共同に利用しあう長所があった。しかし御用鮎や鮎運上の賦課は村々の負担を増し、好漁場をもつ村の入会停止→漁場独占の意向を促進した。また幕府も鮎運上やお菜御用請村に課役のみかえりとして、漁業上の特権をあたえる方針をもって臨み（後述）、村相互の対立を助長した。また村の内部においても、運上や御用鮎の納入を契機に専業漁師（季節に限る農間稼ぎの漁業者）が種々の漁業管理下請役を担うことにより、ことアユに関しては一般村人の漁を監視する役割を演じた。

川魚の女王といわれ、優美な姿で清流を遊泳するアユをめぐり、幕府による厳しい管理と、それに連動する村役人、専業漁師等の動きのなかで、一般村人の食膳にアユがのる機会はきわめて制約されていたように思われる。

秋川のアユ関係文書は旧五日市村の村役人家である萩原家と森田家に集中的にある。ちなみに萩原家は御料五日市（文政11（1828）年以降、五日市村は御料・私領の二給地）の名主を長期にわたって勤め、森田家は五日市村の漁師頭をつとめた。現在両家の文書は五日市町郷土館に所蔵されている。しかし町内文書だけでは、多摩川全域にわたるアユ事情をみるのに充分とはいえない。たまたま五日市町在住の宮田満（福生市教育委員会勤務、第2章執筆）が1988年に『多摩川水系近世漁業関係史料の収集と考察』（以下『宮田史料集』と仮称する）という大部の労作を発刊しており、その収集史料および考察を参考にした。本論考は宮田の研究に負うところが多い。

II 御用 鮎

1. その起こり

ひとくちに多摩川といっても、中下流域と秋川をふくむ上流域では幕府のアユ施策に遅速があり、御用鮎の起源をとっても、その時期はまちまちであったと思われる。

『宮田史料集』によれば、日野本郷の名主隼太が、文政5（1822）年閏正月、平岩右膳役所に提出した文書中に「是正（これまさ）村（現府中市）他6ヶ所は往古より（幕府初政のころよりと解される）御菜鮎を江戸城御台所へ納めていたが、延宝6（1678）年高室四郎兵衛代官のとき、川運上を賦課した代りに、御菜鮎献上を免除した。しかし是正村では、その後も許可を得て献上をつづけたが、宝暦11（1761）年代金払下げ（有料制）になった」旨の記載がある。府中のように多摩川中流域では上納鮎も鮎運上の賦課も、ともに上流域より早い。

『宮田史料集』によれば、上納鮎について多摩川全域が画一的措置を受けたのは享保7（1722）年の上納鮎免除（柴崎村『鈴木家文書』）である。これはおそらく、享保初年に鮎運上が上流域にも賦課された（秋川の桧原村、享保4（1719）年、『森田家文書』）ことにたいするみかえり措置ではあるまいか。なお上流域の上ヶ鮎^{註1}開始の時期を推測させる文書は見当たらない。献上は多分に恣意性をもち、開始の時期を穿さくしても意味は少ない。ところで、『宮田史料集』によれば、上納鮎制度は22年後の延享元（1744）年に復活している（『大岡越前守忠相日記』および熊川村『石川家文書』）。幕府はこれより先寛保元（1741）年「山野海川入会」という入会関係法規を発令し、このなかで、川漁にたいし、「一、川通（かわどおり）御菜鮎或ハ運上納レ之ニ（これをおさむるに）おいてハ他村前居村前無ニ差別一 鮎獵致レ之（これをいたし）但し無役（むやく）之村ハ 村前限（かぎり）他村之前禁レ之」という原則をうちだしている。これによると、献上鮎か鮎運上をおさめている村は、自村前の川だけでなく、他村の川でも漁ができ、何の負担も負わない無役村の漁は自村内に限る。しかも役持村の者が入りこんでも拒否できない。これでは献上や運上納入希望の村がでることであろう。いずれにせよ、延享元（1744）年の上ヶ鮎復活は、寛保元（1741）年の入会漁業法規の発令と無縁とは考えられない。

2. 上納鮎の制度化

翌延享2（1745）年、上納鮎の世話役に、多摩川と支流秋川の合流点高月村の名主と対岸熊川村の名主が任命され、以来上ヶ鮎についての納入の時期・方法・規格・数量等が年を経るごとに整備されていた。納入の時期は旧暦8月から9月の間、5回程に分け、4寸以上の子もちアユを選別して、専門の運び屋を頼み、夜間急送したといわれる。代官手代が、拜島村の宿舎に出張滞在し、御用請村に指令を発し、アユの収集・選別を督励したようである。現昭島市拜島五丁目龍津寺の南側ハケ下に湧水池があるが、「アユの繕い（つくろい）場」（選別荷造り場所）であったという伝承がある。さて数量については宮田満が柴崎村名主鈴木平九郎の日記より作成した表を借用すると表1の通りである。なお鈴木家は上ヶ鮎世話役惣代をつとめ、多摩川全域の上納鮎を管理していた。

御用請村は多摩川全域で40ヶ村前後である。その数は幕末になるほどふえ、最高48村であった。そのうち秋川流域でいえば、上流から数えて、小中野*、五日市*、留原*、伊奈*、山田*、引田、代継、牛沼、雨間、小川、高月の11ヶ村で、（*印は現五日市町）多摩川全域からみると比率は高い。アユは主食とする石垢（珪藻類）の関係からか、上流まで溯上したアユほど美味とされ、鮎役人が拜島まで出張するのも上流域のアユの入手を心掛けたものと思われる。

3. 自儘（じま）鮎漁と御用鮎漁

新暦3、4月ころ、4cm前後に成育した稚アユは揺籃の地である河口地帯より上流へ溯上を開始する。4、5月ころ秋川を下る筏乗りは、川面も黒ずむほどのアユの群に行き会ったという。ブンと西瓜の匂いを放つ上りアユの群は秋川に続々と姿をあらわしたが、上りアユを捕る登り梁は御用鮎種（だね）を減らすということで、もっとも厳しく禁止され、繰返し禁令がだされている。いっぽう「汲み鮎」などという言葉も残っているくらい溯上アユの量は多かったようである。6、7月、アユはそれぞれ瀬につき石垢をはんで成長する。夏も終わり、秋風の立つころ、十分成育をとげたアユは一転して産卵のため河口めざして下る。御用鮎はこれを捕獲する。通常旧暦8月朔日ころ、代官所手代→上ヶ鮎世話役より御用鮎漁の開始が通告される。アユ漁業の方法はこの廻状が廻ると一変する。今かりに以前を自儘漁業、以後を御用鮎漁業と名づけ、それぞれにつき文書資料を手掛かりに状況を復元してみよう。

自儘（自由）漁業期は入会組の存在するところは入会で、単独村は単独で自由に漁をおこなうことができたようである。天保15（1844）年5月の「鮎運上取立て、年歴等お尋ねにつき返答書控」（『森田家文書』）によると、秋川筋（上流域）8ヶ村（館谷、小和田、留原、小中野、養沢、檜原、五日市、乙津）の運上額、開始年、取立法が書き出されているが、取り立てかたについていえば「惣百姓、農間稼＝候間、御運上家別取立申候」（村の者みんなで農間にアユ捕りをしているので、運上は戸別に割当て取り立てている。）という回答が8村中7村であった。檜原村のみ鵜漁師5人に負担させているとの回答である。なお鵜漁師がいるのはこの8村中では檜原村のほかは五日市村で、御用鮎の世話をさせていると書き添えてある。

いっぽう、天保9（1838）年8月付の勘定奉行の発した御触書写（『萩原家文書』）があるが、これは御用鮎の漁期以前、ここにいう自儘漁業にたいするお触れ書きで、御用鮎種（だね）保全のため、登り梁禁止の他、「新規の漁業仕立 鮎漁致候義 難相成（あいなりがたく） 都而（すべて）年来渡世いたし来たり候獵師の外 決而（けっして）漁業致す間敷（まじく）候 若相背（もしあいそむく）もの有レ之ニおゐてハ曲事（くせごと）たるべきもの也」

勘定奉行署名連印

武州川井村 小中野村より

羽田獵師村 大師河原村迄

御料・私領・寺社領

玉川南縁 村々名主・組頭

天保九年戌年

とある。多摩川・秋川の上流村（川井，小中野村）から河口にいたる広範囲の御料，私領，寺社領を包括した勘定奉行の触れ書きで，読みかたによれば專業漁師以外は漁ができないことになる。先の返答書の内容と矛盾する。実態はどうなのであろうか。この触れ書きのねらいは「御用鮎種（だね）保全」で，そのため，「新規の漁場を仕立てることの禁止」であり，シラ（修羅）やヤナ（梁）などの仕掛けをして，大量漁獲を企てることの禁令と解したい。專業漁師を優遇しているのは，彼らに違法漁業者にたいする看視役を受けもたせ，漁場管理に一役買わせる意図と解される。

翌天保10（1839）年，五日市村アユ漁師仲間の「議定書」はこの触書を受け「一．村方漁師之外，猥ニ鮎漁致間敷候。若又鮎漁致候者 見当候ハバ 差押可レ申候」という項目がある。この文書は19名の連印になっているが，（寛政11（1799）年の村明細帳にはアユ漁師10名）五日市村にこのように多数の漁師がいたのは，市場町として宿屋，飲食店などが多く，アユ需要があったためかとも推測される。我々のおぼろげに知る大正・昭和初期の秋川のアユ漁師の生態は，專業漁師といっても，漁好きの道楽がこうじて，シーズンになると家業を放棄し，川に入りびたる者達であった。いずれにせよ，漁を業とする者がいる村ほど素人衆は圧迫されるという関係がうかがえる。

幕末期，戸倉村の元締（材木商）黒山儀三郎の日記をみると，1日の仕事を終えた儀三郎が弟兵次郎と夕飯前にアユ釣りにゆく記事がある。素人衆の漁はこのように仕事の合間にちょっと川へ降りる体（てい）のもので，漁法も釣が多かったように思う。網も投網までで，それ以上は專業者の道具であろう。投網も漁師の勢力の強い所では自粛させられたかも知れない。この辺のところは文書資料では実態をつかみにくい。釣りに関しては，オトリ釣，サクリ釣という字句に接したが，今日でいう友釣りとかログン釣りに相当するのであろうか。

さて，この辺で「御用鮎漁」の説明に入る。前述のように旧暦8月朔日前後，御用鮎の漁期に入った旨の廻状が廻ると，御用請村々は入会漁業を停止し，自村の川に「シラ」を張る。シラ漁（図1）は川を横断して杭をうち，竹や木の枝をからませて，川の流れをゆるくさえぎり，一端を開けて，そこに部屋網（へあみ）を張ってアユを誘いこむ。アユは部屋網の裾に伏せたモジ（アユ専用のウケ）にもぐりこんで生け捕られる。これは下りアユを効率よく捕獲する仕掛けである。御用請村はこの「シラ」を自村内に2ヶ所まで設置できる。これにたいし，アユを上納しない村は自村内の川で仕掛け漁業はいっさいおこなえず，自粛していなければならない。シラ漁は通常村内の專業漁師が日当をもらって世話をす。彼らは夜も篝火をたいて見張ったという。モジにはいったアユは生け簀にとり溜め，代官所手代の指示で，生け簀ごと拝島（ときに柴崎・布田）まで筏で送られた。御用請村から集められたアユは定数をタツブリ越える数で，鮎役人はそのなかから姿・形のよいものを選び，鮎籠につめ，江戸へ送った。選び残されたアユは半値で役人衆へ贈る慣習があり，姿・形のよいものが，ことさらはずされたという裏話もある。要するに一度集められたアユはすべて処分され，その収支計算は籠代，送り人足賃までいれ，当然ながら赤字となり，御用請村が村高割で負担した（『萩原家文書』）。

幕末の嘉永4（1851）年9月，上ヶ鮎に関係のない戸倉・乙津両村で梁やシラの仕掛けが摘発された。当然ご察当（お叱り）を受けたことであろうが，両村は同年10月，代官所手代へ御用請願を提出し，御

用鮎漁への参加をはかった。しかしこの願いは川下の御用請村小中野・五日市両村の反対でしりぞけられた。川上でシラを張られるのを嫌ったようであるが、御用鮎の制度がもたらした利害のかけ引きがみられる。御用鮎漁は最後に代官所手代の発する「シラ払い」の指令で終わる。それは例年旧暦9月末日、川水も冷たく感じられるころである。

終わりに御用鮎の代金についてみよう。御用鮎が有料化したのは前掲、日野本郷名主隼太の提出文書によれば宝暦11(1761)年という。金額は『新編武蔵風土記稿』牛沼村(現秋川市)の項に「土産(どさん)、鮎 秋川より出づ。官の用あるときは毎尾40銭(文)の直(値)与へられる」とあるのが参考になる。職人手間が1日200文前後の時代であるから、やはり高価な川魚であった。

Ⅲ 鮎運上

『奥多摩町誌』によると、延宝7(1679)年多摩川源流地区小河内の「火振り網」^{註2}4組にたいし、運上が課せられた。これが多摩川のアユに賦課された税の始めと思われる。

火振り網というのはどのような漁法かわからないが、溯上アユのゆきどまり地で、文字通り一網打尽に捕獲する方法であろう。1組永90文が、5年後の貞享元(1684)年に1組186文4分に値上げされ、江戸の商人(魚問屋か)がこの運上を請負っている。ということは、アユはそっくり江戸へ送られたということであろう。じつは秋川でも源流地区の支流養沢川(全長7.3km)に沿う養沢村では、永992文という高額の鮎運上が賦課され(年不詳)、小河内同様江戸商人に請負させた記録がある。養沢川も溯上アユのひとつの終着地である。しかし養沢川ではその後アユ量の不足から請負者が手をひき、村では運上納めに苦しんだ模様である。

つぎに貞享3(1686)年代官大久保平兵衛によって、多摩川中流域日野本郷他11ヶ村に鶴札・網札が発行された。鶴札(1枚永73文3分)が7枚、網札(1枚永26文)が67枚、合計2貫255文(永1貫文=金1両)、このうち日野本郷1村で網札40枚、鶴札1枚をうけ、漁業の盛んであったことを示している(『萩原家文書』)。

この札は将棋の駒型の木札で、代官名と焼判いり。鶴札は鶴匠用、網札は一般漁師用の鑑札である。江戸期にお上より下された鑑札は多摩の川原では、黄門様の印籠か、岡っ引の十手のような権威をもったのではあるまいか。漁師個人もちの鑑札制は享保期に鮎運上制に切りかわり、やや広範囲の村に賦課された。これを金額でみると、日野本郷の鮎運上1貫113文は網札40札、鶴札1枚分と同額である。また檜原村の運上389.5文は鶴札5枚(檜原には鶴漁師が5人いた)と網札1枚分に近い。要するに、初期の鮎運上は鑑札制のなごりをひき、形は村納めであっても、漁師個人の受益者負担であったようである。その後、宝暦期に鮎運上は賦課の対象をひろげ、川沿いの村の大半におよぶようになった。秋川筋では多摩川との合流点高月村、小川村から数えて、計19ヶ村におよぶ(天保15(1844)年、「鮎運上取立て、年歴等お尋ねにつき返答書控」『森田家文書』)。宝暦11(1761)年に上納鮎を有料制に切り

かえたのは、この鮎運上の軒並み賦課にたいするみかえり措置で、二重取り批判をさけたものと推察される。

前掲『森田家文書』に書き出された秋川上流8ヶ村の鮎運上額と、開始年を表2に掲げる。

この表をみると、養沢村と檜原村の金額が突出していることがわかるが、これは多摩川本流の小河内地区同様、早くから江戸商人の目をつける鮎溜りで、江戸早期に大量漁獲があったためだろう。その後、川沿いの村々の漁業開発がすすみ、源流地区への溯上量が減少して、江戸商人が手をひいても、最初に確定した高額の運上代だけは残ったというのが実情であると思われる。

ところで、鮎運上一般について、村方より不満、苦情を示す文書は見当たらない。江戸期のインフレーションは運上金額の相対的減価をもたらし、異をとらえる体のもものではなくなっているためではないか。

IV 「御成り御用」と鵜漁

多摩川で將軍家が川狩り（鵜と網と多数の漁師、勢子を使うアユ漁）をおこなうのを「玉川鮎御成り」また「瀬田御成り」などといい、これに徴用されるのを「御成り御用」と称した。「川狩り」は宮田の収集した文書によれば享保期を初見とする。元禄期は「生類憐れみ令」で、鷹狩り、川狩りは日の目をみなかった。また江戸初政期の川狩りについてはその記録が見当たらない。

いちおう『宮田史料集』から、御成り関係記録を表3に抜きだしてみた。

実際の「川狩り」は上記記載以外にもあったと思われるが、いずれにせよ、あまり頻繁におこなわれた行事ではない。また將軍により好きずきがあり、右10回のうち4回（天明8(1788)～天保3(1832)）は11代將軍家済で、このうちには側室方の遊覧もふくまれる。

文書の標題からも推察されるように、川狩りはそれに先立ち、多摩川、秋川の上流まで、シラや梁を撤去させている。おりから下りアユをとる御用鮎のシーズンで、御用請村はシラ漁の最中である。村人泣かせの催しといえるが、それに召集される鮎漁師、とくに鵜匠にとっては一生にまたとない晴れの舞台である。以下これを「鵜匠一件覚」（『萩原家文書』）でみよう。

文化4（1807）年8月の川狩りに集められたものは

- 一. 鵜 二十羽
- 一. 鵜先網 十反
- 一. 下留網 十反
- 一. もじ 四百
- 一. 鵜匠 三十人

とある。これが御成り川狩りの正規の編成で、この他網引漁師や勢子人足が多数加わる。

天保12（1841）年の記録には五日市地区の鵜漁師の出勤がみえる。

- | | | | |
|----|-------|------|-------|
| 一、 | 鵜二羽 | 山田村 | |
| | 鵜先網一反 | 鵜匠 | 五兵衛 |
| | | 名主 | 次郎兵衛 |
| | | 伊奈村 | |
| | | 網引漁師 | 利兵衛 |
| | | 同 | 林之助 |
| 一、 | 鵜二羽 | 五日市村 | |
| | | 鵜匠 | 五郎右衛門 |
| | | 組頭 | 源蔵 |
| | | 網引漁師 | 吉兵衛 |
| | | 同 | 金蔵 |

鵜 2 羽，鵜匠 1，網引 2 で 1 組編成であるから山田・伊奈・五日市村で 2 組召しだされたことになる。多摩川でおこなわれる「徒歩（かち）鵜」は鵜匠の足にまいた鵜先網の両端を網引がもち左右に展開させ、鵜匠を頂点とする三角形の囲いをつくる。その囲いのなかへ追いこまれたアユが鵜匠のあやつる 2 羽の鵜に呑みこまれる仕組みである。水面を叩く大勢の勢子に追われたアユは、待ちかまえている鵜匠たちの鵜に呑まれるか、辛うじて逃れても、幾重にも張りめぐらされた下留網の裾に伏せたモジに突込んで生け捕られることになる。大勢の勢子、漁師が駆けまわる瀬田河原はまさに「川狩り」という言葉がピッタリとする情景であったろう。

鵜飼はわが国古来の伝統をもつ漁法であるが、川漁が発達すると、次第に忌避される傾向がでた。それは「鵜の目、鷹の目」の諺通りアユを根こそぎ捕ってしまう。アユは鵜の入った漁場へはしばらくは寄りつかなくなる。鵜は漁場荒しの最たるものということになった。鵜匠連はこれに対抗するため、御成り御用の「御用鵜」であるという権威づけを必要とした。御成御用の記録が大切に保存されたのは、鵜漁師の保身のためでもあった。鵜匠が代官所とは別系統の御鳥見（おとりみ）の管理下にあるのも盾のひとつにはなった。

寛保 3（1743）年の伊奈村の村明細帳に鮎漁師 10 名，うち 3 名鵜漁師とあったが，幕末期になると鵜漁師の数は減っている。次章「鮎出入（紛争）」の中でふれよう。

V 鮎 出 入

アユに関する村々の争い文書は数多く残されているが，もっとも著名で，内容的にも当時のアユ事情を鮮明に写しだす一件を紹介する。

事件は弘化 4（1847）年 7 月に発生し，解決には嘉永 2（1849）年まで 3 年を要した。紛争の当事者は留原村で，相手は伊奈村，館谷村，五日市村ほか秋川筋の大半の村々が一致協力した。この関係文書

は萩原・森田両家のほか、旧留原村松本家にある。

紛争の内容は（１）御用鮎漁の開始を１ヶ月繰り上げること（旧暦 7月朔日開始）（２）鵜漁休年（アユの漁場を荒らす鵜漁をしばらく休止させる）という提案を留原村が主張し、代官所手代がこれを支持したことにたいし、鵜漁関係者、留原村との入会村、そのほか筏業者の多い上流地区の村々までがいっせいに反発し、結局代官所手代もその反響の大きさに閉口、留原村の主張を抑えて解決にもちこんだものである。

この件の端緒をいえば、留原村にとって村前の中村川原がシラ漁の絶好の漁場で、かねて入会期間の短縮を希望していたことにある。留原村は御用請村になったのは秋川筋ではもっとも遅いの、急速に代官所手代に接近、その内諾を得て、旧暦 7月より単独で留川に入った。これに怒った館谷村名主権次郎ほか、伊奈村の鵜漁関係者が夜間留原村の漁場に入りこみ鵜を放って荒らした。留原村は告訴し、代官所手代は権次郎などを留置するいっぽう、留原村をふくむ入会村11ヶ村の名主連を召集、御用鮎漁 1ヶ月繰り上げ開始案に承諾の印鑑を押させた。ここまでは、代官所手代と留原村のペースで進行したが、その後、各村でもことの重大さを認識し、かつは高飛車な代官所手代の手口に改めて反感を強め、以後長期にわたる反対運動が続いた。

反対の理由をまとめると、

- 一. 自儘漁業を 1ヶ月早くやめさせられては百姓たちが難儀をする。
- 一. 留川になると、川を勝手に渡渉できないので川向うへの出作（でさく）の者がまわり道をしないでならない。（肥桶）を川中でひっくり返して、御用鮎を汚してはおそれ多いという表現をしている。
- 一. 一般通行者も廻り道になる。
- 一. 筏川下げに支障がでる。（シラ漁で川をしめ切られる。）
- 一. 留川監視のため人数が余分にかかる。
- 一. 御用鮎のためなら、従来どおり旧暦 8月以降の留川で十分まにあう。

（秋口の大雨でアユが押流され、御用鮎のおさまらないことがあったが「其儀川川附自然一駄之儀にて、私之所業にては無御座候」すなわちこれは天災でしかたないという。）

などがあげられている。また反対連中の文書には、「上鮎御用御威光を以て、入会之漁業を差留、自分共ハ御用ニ殊寄（ことよせ）、勝手儘之漁業可致存念より事を工（たくら）み――」（弘化 5（1848）年、伊奈村、館谷村役人より江川代官所宛、『萩原家文書』）という文言がある。御用を口実に自分の村だけすきかっの漁業をしたいばかりに仕組んだことという。

当てもアユは無心に泳ぎまわっていたのであろうが、その波紋は封建期の歪をえがき出していた。

註 1：江戸城へ納入するアユのこと。御菜鮎・御用鮎・上納鮎・献上鮎などの表現を用いるが、内容は同じである。

註 2：第 5章でふれている「火振り漁」とは異なる漁法と思われる。

VI 引用文献

*萩原家および森田家の文書については、五日市町郷土館所蔵の文書番号をそれぞれの行末に付記した。

芦田伊人（編集校訂）. 1970. 新編武蔵風土記稿第6巻, 雄山閣.

大岡家文書刊行会（編）. 1972. 大岡越前守忠相日記上巻, 三一書房.

奥多摩町誌編纂委員会（編）. 1985. 奥多摩町誌, 奥多摩町.

鈴木家文書. 享保7（1722）. 享保7年御回状写留書帳.

多仁照廣（編）（熊川村石川家文書）. 1985. 天明2年「玉川御用御鮎世話役起立申上書」. 多満自慢石川酒造文書第1巻, 霞出版.

萩原家文書. 天保9（1838）. 御用鮎漁前の鮎漁禁止御触書, 7-4.

萩原家文書. 天保年間（1830-1844）. 鶴匠一件覚, 7-5.

萩原家文書. 弘化5（1848）. 御用鮎漁お尋ねに対する返答書, 7-23.

萩原家文書. 嘉永5（1852）. 上鮎上納買納諸掛り割合控, 7-37.

萩原家文書. 嘉永5（1852）. 上鮎関係諸入用控, 7-38.

宮田満. 1988. 多摩川水系近世漁業関係史料の収集と考察. （財）とうきゅう環境浄化財団（一般）研究助成 No. 56, （財）とうきゅう環境浄化財団.

森田家文書. 天保15（1844）. 鮎運上取立て年歴等お尋ねにつき返当書控, 7-15.

Ⅶ 図表

表1 多摩川水系の上納鮎数量（『鈴木平九郎日記』より）

年 代	上ヶ鮎数	備 考
寛政 5 (1793)年	725 尾	玉川と道志川とで 1,450尾
寛政 9 (1797)年	825 尾	玉川と道志川とで 1,650尾
文化 4 (1807)年	1,075尾	玉川と道志川とで 2,150尾
天保 8 (1837)年	1,325尾	

注：道志川は相模川支流，玉川と折半，いっぽうが不漁のときは他方で補った。

表2 鮎運上額と開始年（『森田家文書』より）

村 名	運上額	運上開始
館 谷 村	永 85 文	宝暦 6(1756)年
小 和 田 村	永 83 文	宝暦 6(1756)年
留 原 村	永 176 文	宝暦 2(1752)年
小 中 野 村	永 173 文	宝暦 9(1759)年
養 沢 村	永 992 文	不 明
檜 原 村	永 389.5文	享保 4(1719)年
五 日 市 村	永 172 文	宝暦年度
乙 津 村	永 177.3文	不 明

表3 御成り川狩り関係資料年表（『宮田史料集』より）

年	月	文書標題
享保 14(1729)	9	御成ニ付、梁・瀬切禁止の回状
*寛保元(1741)	6～8	羽村堰上ニ而御川狩ニ付、獵師出頭の回状
宝暦 3 (1753)	8	御用川狩ニ付、秋川通（どおり）、魚獵禁止之儀、御請証文
安永 8 (1779)	8～10	御鮎川狩之場所、筏通行致度願ニ付、許可ノ回状
天明 8 (1788)	8	玉川筋御成ニ付、御用留帳
文化 4 (1807)	8	御側衆様鮎御用ニ付、鵜匠出頭申付ノ回状
文化 10(1813)	8	右衛門督様御成御沙汰ニ付、 鵜匠差出方ノ回状
天保 3 (1832)	8	内府様玉川筋瀬田村河原工被 _レ 為成 (ならせられ) 候一条、割合帳
天保 12(1841)	11	玉川筋魚獵御成ノ筋御用掛 _リ 入用、 領中割合覚書帳
天保 13(1842)	8	右大将様御成御沙汰ニ付 _メ 切等 取払可 _レ 申ノ回状

*羽村堰川狩りは將軍御成りではなさそうである。

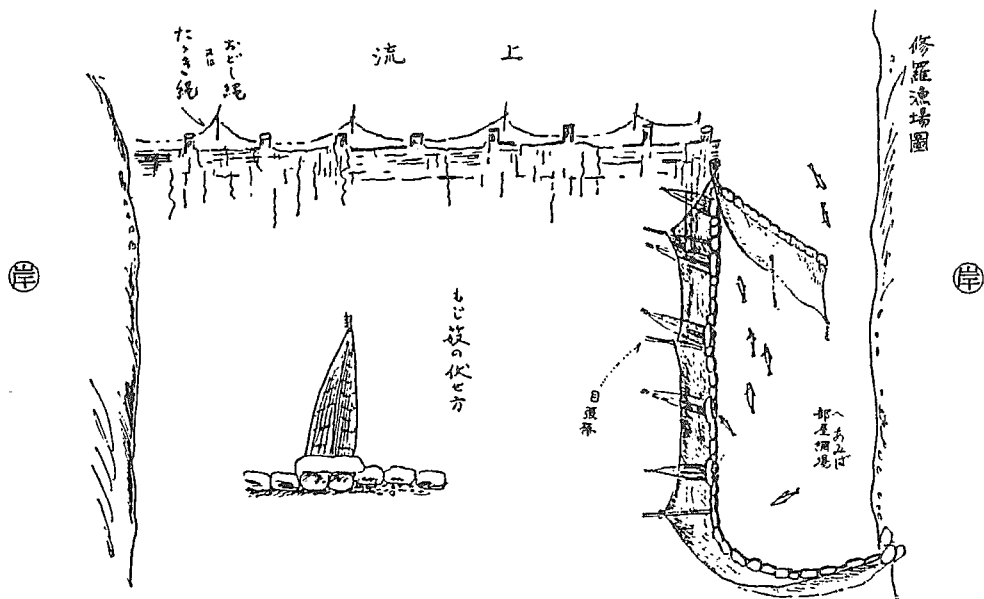


図1 しら漁（五日市町史より）

9. 謝 辞

本報告書をまとめるにあたり、貴重な機会を与えてくださった財団法人とうきゅう環境浄化財団会長の横田二郎氏をはじめとする財団職員の方々および沼田真博士にたいし深謝申し上げる。

国立民族学博物館，国立国会図書館，水産庁中央水産研究所，宮内庁書陵部ならびに大阪府立国際児童文学館からは数々の貴重な資料を提供していただいた。また，東京都教育庁の馬場憲一氏をはじめ青梅市，立川市，日野市，福生市，五日市町，奥多摩町，羽村町，檜原村の各地方自治体ならびに各々の自治体に属する郷土博物館，郷土資料館，公民館，そのほかの関係諸機関の職員各位の惜しみない協力を厚く御礼申し上げたい。

本調査，とりわけ聞き取り調査およびアンケート調査を実施するにあたっては，先に記した各地域に古くからお住まいの皆様，文化財委員の方々，そして幅広い年齢層にまたがる地域住民の皆様にご協力をいただいた。それとともに「五日市町ふるさとを守る会」からも貴重な資料をご提示いただいた。これらの方々の協力なしにして，調査を進めることは甚だ困難であったことは言うまでもない。

また，アンケートのコンピュータ処理の労を費やしていただいた熊谷惟明氏，資料の整理に携わっていただいた小見山智義，相良陽一郎，鹿野谷幸栄，福田早苗の各氏ならびに東京農業大学，学習院大学の学生諸氏にもこの場を借りて感謝したい。

終わりに，本調査の母体となったアジア魚類研究会の基盤を終始支えてくださった涌井史郎氏をはじめとする同研究会の賛助会員各位にあらためて感謝の意を表したい。

付 録 1

付録1 多摩川中上流域に生息する魚類の地方名およびその分布（全国）

aは板井(1982), bは平塚市博物館編(1978), cは河端ら(1978),
dは辛川・柴田(1980), 印のないものは日本魚類学会編(1981)からの引用である。

ヤツメウナギ科

標準和名	地方名	地域
スナヤツメ	カゲヤツメ	越後；新潟県。
	ギナ	信濃地方；長野；信州奈良井川・松本平；長野県根本。
	ギナミ	信濃地方；信州・松本平。
	ギナメ	信濃地方；信州・松本平。
	ギナヤツメ	信濃地方；信州・松本平。
	キヨオヤツメ	越後。
	スイギナ	信濃地方；信州・松本平。
	スナクグリ	北陸；富山県一般；富山県三日市。
	スナホジリ	石川県七尾。
	スナヤツメ	信濃地方；岐阜；信州・信州松本平。
	ツチクジリ	加賀地方；加賀。
	ノッペ（ノツペ）	新潟；越後。
	ピリ	越後。
	マノションペ	弘前。
	メク	武蔵多摩川。
	メクラ	関東・新潟・九州；越後。
	メクラウナギ	肥前佐賀；佐賀；肥前。
	ヤツメ	近畿・四国；土佐仁淀川・越知町；東京；東京付近。
	ヤツメウナギ	和歌山県；紀州・大和吉野川；大井川水系とその近隣河川°；東京；東京付近。
	ヨツメ	和歌山県橋本。

ウナギ科

標準和名	地方名	地域
ウナギ	アオ	東京。
	アオバイ	岡山湾；岡山。
	アザウナギ	彦岐。
	イトウナギ	紀州辰ヶ浜。
	ウナギ	沖縄；一般；有明海・玄海・下関・男鹿・江ノ島・新潟県寺泊
	ウナジ（ウナヂ）	沖縄県；沖縄。
	ウロッコ	下総。
	ウンタウナイ	石垣島。

ウナギ科

標準和名	地方名	地域
ウナギ	ウンチャウナキ エドマエ (エドマヘ) オナギ	沖縄. 東京. 高知市・吉野川；堺；兵庫県芳田・鳥取県東郷地；播磨； 徳島県脇町.
	カイコ	長生.
	カニクイ	愛知県西条；東京.
	ガニクイ	山口県厚狭郡吉部.
	カニクライ	東京.
	カネクイ	有明海.
	カミナゲ	志摩和其.
	カヨ	公平；千葉県睦岡・東金.
	カヨ	上総.
	(カヨウ, カヨオ)	
	カヨコ	常州；千葉県.
	ガヨコ	常州.
	カヨッコ	千葉県長生.
	カワヤツメ	北海道地方；北海道.
	(カハヤツメ)	
	カンヨッコ	千葉県長生.
	クダリ	浜名湖；印旛.
	クチボソ	紀州辰ヶ浜.
	クロ	岡山湾.
	クワンヨッコ	上総.
	(クワンヨツコ)	
	ゲイタ	愛知県西条.
	ゲエタ	東京.
	ゴマ	東京.
	ゴマウナギ	紀州各地；和歌山.
	サジ	東京；栃木県藤岡.
	サデ	千葉県長生.
	シヤジ	群馬県館林.
	シラスウナギ	有明海.
	シロコ	浜名湖.
	スイジン	大井川水系とその近隣河川.
	スベラ	信州；長野.
	ソーメンゴ	千葉県長生.
	タアウナギ	宮古島.
	タアウナジヤ	沖縄.
	(タアウナヂヤ)	
	ターンナージャー	琉球.

ウナギ科

標準和名	地方名	地域
ウナギ	タアンナギ	久米島；久留米・右明海。
	タチクラゲ	土佐。
	タンチウナギ (タンチャウナギ)	徳之島。
	チウ	浜名湖。
	チュウ	浜名湖。
	ドロウナギ	奄美大島。
	ヌチャウナギ (ヌチャウナギ)	沖縄。
	ノフナチヤー	沖縄。
	ノポリコ	浜名湖。
	ハリウナギ	土州；紀州各地；紀州。
	ハリコ	安房。
	ビリウナギ	和歌山。
	ピリン	有明海・筑後川。
	フト	浜名湖。
	ヘメズリ	川之江。
	マウオ (マウヲ)	岡山湾；岡山。
	マウナギ	北海道；屋久島；北陸；富山県富山；富山；北陸道。
	メセロ	静岡県掛川。大井川水系とその近隣河川 ^o 。
	メソ	上総松尾・旭・大富；東京・千葉県横芝・群馬県館林； 浜名湖
	メソッコ (メソツコ)	千葉県横芝。
	メツセエ	静岡県掛川。
	メメソウナギ	京都。
	メメゾウナギ	京都。
	ミミズウナギ	京都。
	モドリ	岡山湾；岡山。
	ヤアクウヤ	沖縄。
	リンズウナギ	土佐；高知。
	ンタウナイ	石垣島。
	ンチャウナギ	沖縄。

キュウリウオ科

標準和名	地方名	地域
ワカサギ	アマサギ	鳥取；松江；山陰；石川県・鳥取県；鳥取県本郷池・山陰道；石川・福岡；鳥取県東郷池。

キュウリウオ科

標準和名	地方名	地域
ワカサギ	オオカワ	小名浜・館林.
	オオワカ	福島県小名浜；館林.
	コワカ	福島県小名浜；小名浜・館林.
	サイカチ	群馬県邑楽郡伊奈良村；群馬県邑楽郡.
	サギ	水戸・土浦・館林・小名浜.
	サクラウオ	福島.
	シラサギ	鳥取；伯耆.
	シロイオ（シロイヲ）	信濃川付近；信濃川.
	ソメグリ	北陸.
	チカ	東北.
	ツカ	青森.
	マハヤ	千葉；下総；茨城.
	メソグリ	北陸.
	ワカサギ	富山県・富山県生地；土浦・小名浜；水戸；群馬県館林・茨城県土浦；館林・富山・象潟；福島県小名浜.

アユ科

標準和名	地方名	地域
アユ	アア	岡山県；備中；岡山.
	アイ	一般；土佐地方；富山県・播磨・摂津地方；有明海・岐阜.
	アイオ	広島県内海町；広島県内海.
	アイギョウ （アイギョー）	山口県柳井町；和歌山.
	アイナゴ	紀州・和歌山県；石川・広島；和歌山.
	アイノイオ	飛騨北部；岐阜県北部.
	アイノウオ	有明海.
	アイノヨ	秋田県平鹿郡；男鹿.
	アユ	富山県一般・青森県・秋田県・沖縄県；有明海・江ノ島・厚岸・寺泊・象潟；沖縄.
	アユキョウ （アユキヤウ）	木曾川・長良川.
	アユゴ	熊本；有明海.
	アヨ	庄内地方.
	エノヨ	庄内地方.
	オオアユ（オホアユ）	琵琶湖.
	オチビヲ	近江高島郡.

アユ科

標準和名	地方名	地域
アユ	カツラソウ	琵琶湖.
	コアイ	琵琶湖.
	コアユ	琵琶湖.
	シライヲ	熊本・富山県氷見.
	シロイオ (シロイヲ)	熊本; 肥後地方; 有明海.
	スナクヒ	琵琶湖.
	タガワモドリ	琵琶湖.
	チョウセンバヤ (チヨーセンバヤ)	久留米市; 久留米・有明海.
	ハシライオ (ハシライヲ)	肥後地方; 熊本・有明海.
	ヒウオ (ヒウヲ)	琵琶湖; 滋賀県.
	モミヂビヲ	近江高島郡.
	ヤジ	奄美大島.
	ワカアユ	近江高島郡.

サケ科

標準和名	地方名	地域
イワナ	アメゴ	土佐地方.
	イモウオ	福井; 滋賀県.
	イモナ	滋賀県・滋賀県神埼郡山上村.
	イワナ	滋賀県; 北日本・信州松本平・富山県魚津・長野県木曾福島・北海道; 東京及東北方面. 大井川水系とその近隣河川.
	イワバエエ	仙台.
	キリクチ	紀州; 吉野熊野; 和歌山県・奈良県; 紀ノ川上流・吉野川; 大和及紀伊国の川の上流.
	コギ	中国地方; 広島県江ノ川・鳥取県米子の山間部; 中国地方の川の上流.
	ゴキ	広島県江ノ川・松江の山間部.
	ゴギ	中国地方; 鳥取; 広島県江ノ川; 中国地方の川の上流.
	タンブリ	鳥取の山間部・但馬村岡.
	ダンブリ	岡山県津山市.
	ツンツン	越後赤倉.
	ユギ	中国地方.
サクラマス (ヤマベ)	アマゴ アマミ	関西; 若狭国はず川. 越中国.

サケ科

標準和名	地方名	地域
サクラマス (ヤマベ)	アメゴ	関西.
	イタマス	北海道・東北；釧路；室蘭・厚岸.
	イチャマス (イチヤニマス)	根室.
	エノハ	九州；九州一円.
	カワマス	弘前. 上野原町松留；相模湖町松留；城山町小倉；厚木市須賀 ^b .
	ギンケ	全国.
	ギンケヤマベ	函館.
	ギンマス	男鹿.
	コノハヤマベ	弘前.
	サクラマス	全国；北海道；象潟.
	シマメ	長野.
	スギノコ	青森.
	ヒラベ	但馬国・伯耆国等山陰道一円.
	ヒラメ	山陰.
	ホンマス	東京；全国；厚岸・塩釜；北海道西南部・弘前.
	マス	全国；気仙沼・石巻・富山県一般；一般；寺泊.
	マダラ	九州.
	ママス	塩釜・気仙沼；釜石・石巻.
	ヤマベ	東北・北海道；弘前・秋田県象潟；盤城国平・下野国塩原.
	ヤマメ	全国；弘前・秋田県象潟；武蔵国一円・相模国・上野国沼田；東京付近. 大月市小篠；上野原町松留；城山町小倉 ^b .
ヤモ	栃木県；下野国塩谷郡藤原・同国安蘇郡氷室村.	
ヤモメ	東京都山間部；相模国秦野.	
ピワマス (アマゴ)	アマゴ	琵琶湖.
	アメ	諏訪湖.
	アメゴ	近畿；四国.
	アメノイオ	丹波・近江の山間部.
	アメノウオ	琵琶湖；四国.
	エノハ	九州；佐賀.
	カワマス	木曾川下流；長良川.
	キンエノハ (金エノハ)	九州.
	シマ	美濃国郡上郡嵩田村.
	シラメ	近畿・山陽.
	ヒラベ	山陰地方.
	ヒラメ	山陽；但馬国生野・美作国津山・岡山・広島等山陽道一円.
	ピワマス	琵琶湖.
	マス	琵琶湖.
	ヤマメ	美濃国.

コイ科

標準和名	地方名	地域
ヤリタナゴ	アカタナゴ	作州津山.
	アブラザコ	琵琶湖.
	アブラジャコ	琵琶湖.
	アブラセンバラ	長良川支流.
	イシボテ	琵琶湖.
	オクマボテ	琵琶湖.
	キンシビタ	久留米付近.
	キンシビン	久留米付近.
	キンシブタ	久留米付近.
	キンシユブタ	久留米付近.
	キンシヨブタ	久留米付近.
	ギンタ	上総公平；上総.
	ギンタブナ	上総大網；大網.
	ギンブナ	上総睦岡；上総.
	クソブナ	紀州橋本.
	クロタナゴ	作州津山.
	コシキセンバラ	長良川.
	サブロベエ	愛媛；愛媛県大洲町
	シャレタナゴ	上総睦岡；睦岡.
	(シャレタナゴ)	
	シャレブナ	上総成東；成東.
	(シャレブナ)	
	シュブタ	筑後川.
	ショブタ (ショブタ)	上総睦岡.
	ショブナ (ショブナ)	上総睦岡；成東；睦岡.
	シラタ	栃木県安蘇郡越名沼.
	シロタナ	岡山市.
	セグロセンバラ	長良川支流・長良川.
	センバラ	岐阜.
	タナゴ	関東（混称）；関東平野一円（他のタナゴを含む）；東京；信州松本平・吉野川；関東一円・岩木川；津軽.
	タノゴ	信州松本平.
	タビラコ	紀州橋本.
	タンゴ	下総椎柴；下総・椎柴.
	ニガザ	信州松本平.
	ニガタ	上総松尾；上総・松尾.
	ニガフナ	上総睦岡；豊海；上総・睦岡.
	ニガブナ	関東（混称）；津軽・岩木川下流域.
	ハエ	熊本.
	ハヤブナ	上総睦岡；睦岡.

コイ科

標準和名	地方名	地域
ヤリタナゴ	ヒラブナ ビンタ ベンジョ ベント ベンチヨ ベンチヨコ ボテ マタナゴ モロコ ヤナギ ヤナギダビラ	上総片貝；上総・片貝。 熊本。 筑後川；福岡県山門郡。 福岡県山門郡。 柳河町。 柳河町。 関西（混称）；琵琶湖沿岸（他のタナゴを含む）；琵琶湖。 関東（混称）。 浜名湖。 下総東陽；下総・東陽。 陸前。
シロヒレタビラ	アカベラ アキブナ アワタ エトラシ カメントイ カメンド ザコ シヤレブナ シュブタ シラタ シロベラ ゼニタナゴ センタ センパ センバラ タナゴ タナンコ タランコ ドマコ ニガザ ニガタ ニガタナゴ ニガフナ ニガブナ ハラボテ ボテ ムシブナ ヤリタナゴ	水戸。 広島県吉田町。 富山県放生津。 前橋。 岡山。 岡山。 近江。 千葉県。 九州（混称）。 群馬県館林；群馬。 水戸。 北日本一帯。 愛知県海辺郡三田村。 岐阜。 琵琶湖・岐阜。 関東（混称）；東京；紀の川筋・吉野川・富山県氷見。 福井県坂井郡浜四郷。 兵庫県多紀郡日置村加古川。 福井県坂井郡浜四郷。 信州木崎湖。 上総南郷・水戸・千葉県。 八郎瀧。 九州地方・関東・大和吉野川・水戸・大分県宇土佐郡豊川村。 全国（混称）；九州；広島県三次・奈良県五条町。 兵庫県多紀郡日置村加古川。 関西（混称）；琵琶湖（タナゴ類の総称）；滋賀県；美濃。 京都府・京都。 内地各地。
ヒガイ	アカメ アブヒガイ	豊橋；愛知県；愛知県犬山町・丹波；姫路（雄）。 琵琶湖。

コイ科

標準和名	地方名	地域
ヒガイ	アブラハエ アブラバエ アブラヒガイ イシゴ ゴトンボ サクラ サクラバエ サクラモロコ ゼエモン チンボダジ ツラナガ ドウマル トーマル (トウマル) ヒガイ ヒガイス フエツソ ホソメ ホヤル ムギツキ ムギハエ ムツ メアカ ヤカブ ヤナギバイ ヤナギバエ ヤマブキ ヨソー (ヨソウ)	兵庫県水上郡柏原；琵琶湖；兵庫県柏原。 兵庫県；兵庫県水上郡柏原。 琵琶湖 (体色の褐色のもの)。 福井県武生町。 岡山県真庭郡湯原村。 愛知県海部郡立田村・丹波柏原。 岐阜；関西；岐阜県；揖斐川；琵琶湖。 愛知県海部郡立田村。 広島県高田郡吉田。 姫路。 琵琶湖 (型の名称)；(頭部の細長いもの)。 琵琶湖。 琵琶湖 (型別の名称) (頭部の短く円いもの)。 琵琶湖；滋賀県；京都・大阪・奈良県・大和川沿岸・東京・群馬県館林；江ノ島；琵琶湖沿岸。 東京。 広島県高田郡吉田。 福井県小浜。 岡山県津山；岡山県；津山；備前岡山。 長良川支流；岐阜。 豊橋；愛知県。 愛知県海部郡立田村。 岐阜；岐阜県。 犬山町。 岡山県津山；丹波柏原；津山・柏原；作州津山。 兵庫・岡山；岡山県；明石。 壱岐。 岡山県津山市；津山市。
ツチフキ	キツネモロコ スナモロコ ドロモロコ	九州。 関西；大阪。 関西；大阪。
カマツカ	アサガラ アブラハゼ イセブチ イセブチ イワクジリ ウジョオ (ウチョオ)	高知県吉野川沿岸；高知県本山；高知；土佐長岡郡本山町・阿波吉野川沿岸；吉野川；高知県本山町吉野川沿岸。 青森県；青森；津軽。 上総夷隅川；千葉県大多喜。 上総国大多喜付近夷隅川。 佐倉。 広島県東城町・芦品郡。

コイ科

標準和名	地方名	地域
カマツカ	ウマツラ	群馬県邑楽郡大川村・群馬郡渋川村。
	エッシュ	徳島県・徳島県脇町；阿波国脇町吉野。
	(エツシユウ)	
	エッシュウボ	徳島県；徳島。
	(エツシユウボ)	
	オコト	東京。
	オコトウ (オコトオ)	東京都西多摩郡；東京府西多摩郡西多摩村；東京西多摩郡多西
	カジリ	奈良県王寺。
	カナキシ	讃州；香川。
	カナクジ	岐阜県養老郡。
	カナクジリ	京都鴨川；京都。
	カナビシヤ	周防陶。
	カマジツカ	二下野下都賀郡藤岡町赤麻沼。
	カマスカ	大分県豊月；大分；肥後書固湖；大分県宇佐郡豊川村；豊前驛館川。
	カマズカ (カマツカ)	信州地方；京都・長野県上田。
	カマスツコ	群馬県邑楽郡永楽村。
	カマツカ	琵琶湖；滋賀県；宇和島；肥前島原信州・江州彦根；長野；武州多摩川二子村・琵琶湖木浜・琵琶湖常盤村・琵琶湖松原。
	カマツカドンコ	福岡県筑後川・矢部川。
	カマビシ	仙台。
	カマンギツ	新潟県森町村。
	カワキス	大阪；山形県；群馬県；群馬。
	カワキス	関西・九州；新潟県南蒲原郡森町村；京都賀茂。安倍川 ^a 。
	カワキスゴ	江州；滋賀。
	カワサキ	美濃郡上郡上保村。
	カワハゼ	福岡市付近；福岡市。
	カワビシ	山形県。
	ガンギ	紀州那賀郡。
	ガンハチ	肥後書固湖。
	キス	長野県大町；埼玉県川越市；信濃地方；茨城県・長野県；信州松本平・埼玉県川越；川越；信州。
	クジカナ	相川 ^a 。愛知県犬山町。
	コオセンボオ	岡山県備中。
	コトヒキ	江州；滋賀。
	ゴムツソオ	広島県山県郡。
	ゴロビシ	若狭；若州。
	ザットノヘノコ	岐阜県郡上郡。
	ジウトク	長崎県・信濃地方；長野・長崎。

コイ科

標準和名	地方名	地域
カマツカ	ジネホジネホオ ジムグリ ショウゼン ジョオトク (ジヨオトク) ジンガ ジンゾク ズイゴ ズイゴロウ (ズイゴロオ) スクライ ズゴウ (ズゴオ) ズコオ ズゴンボ ズゴンボウ (ズゴンボオ) スナカムリ スナクイ スナックイ スナクゲリ スナクジ スナクジリ スナクライ スナコズリ スナサビ スナスリ スナセセリ スナハミ スナフキ スナホオ スナホリ スナムグリ スナメグリ スナモグリ	和歌山県；紀州橋本。 松本平；信州。 山形県。 長崎県東彼杵郡早岐；佐賀県有田。 興津川 ^a 。 四国。 静岡県今井村・豊浜村。 静岡県二俣町；静岡県二俣。 大阪。 松本平；信州。 信濃地方；信州伊那。 群馬県佐波郡島村・松本平；信州。 信濃地方；信州。 静岡県磐田郡今井村・豊浜村。 大井川 ^a 。 大井川水系とその近隣河川 ^a 。 琵琶湖。 岐阜県養老郡；広島県加茂郡東志和・兵庫県揖保沿岸・旦岡町；岐阜県・愛知県下。 岐阜；全国；岐阜県郡上郡；岐阜県；岐阜県恵那郡；琵琶湖；美濃郡上郡上保村；岐阜市近傍茜部村。 大阪府河内郡長野町。 播州。 山形県。 広島付近。 兵庫県；兵庫県揖保川・豊岡。 広島県・静岡県磐田郡龍山村・呵多古村・二俣町；備後；広島 播州。 広島県賀茂郡東志和。 全国；広島県長良川・鳥取県東伯郡倉吉・広島県豊田郡忠海・丹波竹野村；琵琶湖；岐阜長良川。 東京多摩川；長野県；東京付近駒楊・磐城棚倉・新発田・群馬県邑楽郡佐貫村・千江田・長野県松本；常州・信州松本奈良井川。 南部。 信濃地方東京多摩川；広島県・岐阜県恵那郡；信州松本；

標準和名	地方名	地域
カマツカ		広島・松本。上野原町松留；厚木市下依知 ^b 。 琵琶湖。
	スナモジリ (スナモチリ)	
	スナモチ	大和・和泉；奈良；和州。
	スモロ	江州。
	ズンコ	静岡県今井村・豊浜村。太田川（原野谷川） ^a 。
	セギンボ	岐阜県；岐阜。
	ソウゲン	埼玉県・群馬県。
	ソウゲンボー	埼玉県・群馬県。
	ソオゲンボ	群馬県渋川町。
	ダエンボ	岐阜県郡上郡。
	ダギンボ	美濃郡上郡上保村。
	ダンギ	鳥取県倉吉町。
	ダンギゾオ	福岡県豊津。
	ダンギボ	北陸・関西琵琶湖；岐阜付近；近江江州。
	ダンギリド	新潟県。
	ダンギリボ	琵琶湖；江州・新潟県寺泊。
	ツカ	琵琶湖。
	ツチムゲリ	信濃地方；長野信州。
	ツチモゲリ	信州・松本平。
	テンジンハエ	広島県東城町。
	テンジンボオ	広島県東城町。
	ドウジャコ	石川。
	ドオガンボ	磐城概倉。
	ドーキンボー	岡山県河哲郡。
	ドオケン	愛知県西加茂郡高橋村矢作川沿岸。
	ドオジャコ	加賀。
	ドオセン	岐阜県忠郡郡・八百津町；備中国後月郡芳井村小田井。
	ドオゼン	長野県木曾福島。
	ドオセンボオ	岡山県後月郡芳井村。
	ドオモンボ	岡崎。
	ドゲチバイ	紀州有田郡石垣。
	ドテクロ	鹿児島県日置郡。
	ドブクロ	徳島市徳島。
	ドホー	岡山県赤磐郡。
	ドホーズ	岡山県津山市津山。
	トボクロ	岡山県児島郡・徳島県勝浦郡。
	ドンコ	予州。
	ドンチ	武州荒川；東京荒川。
	ネオ	奈良県五条・和歌山県岩出・安楽川。

コイ科

標準和名	地方名	地域
カマツカ	ネガマ	丹波竹野村.
	ネゴ	奈良県北葛城郡王寺.
	ネズカ (ネヅカ)	兵庫県揖保水上郡久下村・播磨芳田.
	ネホ	奈良県; 奈良県五条・紀州岩出・安楽川.
	ネホオ	紀州橋本町; 紀州伊都郡橋本町.
	バカ	山形県; 上総夷隅川.
	バカゾ	栃木県.
	バカゾオ	栃木県氏家.
	ヒガイ	余吾湖.
	ベバチゴイ	紀州有田郡浜田.
	ホオセン	周防淘.
	ホオセンボ	山口県厚狭郡吉部村; 勢州.
	ヤギンボ	岐阜付近; 美濃郡上郡上保村; 岐阜.
	ユワクジリ	千葉県佐倉.
	ヨシ	阿波; 徳島; 阿州.
ローホーズ	岡山県御津郡.	
ロホーズ	岡山県赤磐郡.	
ニゴイ	アラメ	長野; 長野県上田.
	アラメゴイ	信濃地方; 長野県上田; 長野県; 信州・松本平・木崎湖; 長野
	イス	下総市川.
	イダ	岡山.
	ウキガマ	丹波柏原.
	ウキガモ	丹波柏原.
	ウキネホ	丹波柏原.
	ウツカモ	丹波柏原.
	カワゴイ	岐阜県御嵩町・長野県木曾福島; 岡山県真庭郡湯原村・岐 阜県八百津町・愛知県犬山町; 木曾・福島.
	カワザイ (カワザヒ)	猪苗代湖.
	カワニク	富山県.
	キツネゴイ	大阪; 大阪府.
	(キツネゴヒ)	
	キツネダイ	大阪.
	キョウシラズ	琵琶湖.
	(キヨオシラズ)	
	コイ	岡山県真庭郡湯原村.
	サイ	琵琶湖; 関東; 東京付近; 東京; 群馬県邑楽郡板倉・同館 林・同千江田・同大島・同海老瀬村・栃木県下都賀郡藤岡 村・福島県棚倉町; 霞ヶ浦・水戸・仙台; 群馬県諸所.
	サイカンボウ	群馬県千江田・海老瀬.

コイ科

標準和名	地方名	地域
ニゴイ	サイゾウ	東京付近.
	シコゲ	弘前.
	スイ	東京・群馬・福島県棚倉.
	セイ	群馬県邑楽郡西谷田村・海老瀬・佐貫村・大川村・福島県棚倉町；東京；群馬県諸所.
	セイトッコ	東京.
	(セイトッコ)	
	セイロク	東京.
	セエ	東京.
	セータ	東京付近.
	セータッコ	東京付近.
	ソイ	琵琶湖.
	ニゴイ	岐阜；滋賀県；三重県桑名郡長島村；寺泊；上野原町松留 ^b .
	ヒバチゴイ	奈良県；大和吉野川；奈良県五条.
	ヒバチコヒ	奈良県五条・吉野.
	ヘイバチゴイ	紀州岩出.
	ヘバチゴイ	奈良・和歌山；吉野川；奈良県五条；大和吉野川.
	(ヘバチゴヒ)	
	ホリコイ	広島県東条村.
	マジカ	琵琶湖；滋賀県彦根；滋賀県；新潟県；彦根；新潟.
	ミゴ	新潟県；近江・新潟県南蒲原郡森田村；八郎潟；滋賀・新潟.
	ミゴイ (ミゴヒ)	各地・滋賀県；琵琶湖沿岸. 城山町小倉；厚木市；平塚市 ^b .
	ミノ	青森県弘前；津軽・岩木.
	ミノ	青森県弘前.
	ミノゴイ	津軽・岩木川.
	メゴイ	福井県坂井郡.
	ヤツミゴ	八郎潟.
タモロコ	カキバヤ	静岡県；静岡；静岡県原.
	カスケバエ	岡山県津山市.
	スジゴロモ	大阪・奈良県大和川.
	スジモロコ	奈良県大和川；大阪；奈良県大和川沿岸.
	ダゴバヤ	久留米.
	タモロコ	琵琶湖一帯.
	ハヤ	水戸.
	ホンモロ	掛川市 ^a .
	ホンモロコ	大阪；岐阜県養老郡広播村.
	ミゾバエ	中国；津山市.
	ムギツキ	琵琶湖.

コイ科

標準和名	地方名	地域
タモロコ	モロ モロコ (モロゴ) モンロー ヤナギモロ ヤナギモロゴ	掛川市；袋井市；豊岡村 ³ 。 諸地方で一般にいう；静岡県；関東地方一帯；琵琶湖。 藤枝市 ³ 。 掛川市 ³ 。 掛川市 ³ 。
モツゴ	アブラフナ アマサギ イケノテンムキ イシモロコ イヤフナ ウシモロコ ウドロバエ カラスモロコ ギシヤバエ クチボソ ゲンロク コツ シヤケ セグロ セゼラ センタ タカチ タカツチ ダゴハエ ダゴバエ チョウチンモロ (チヨウチンモロコ) ツラアラワズ ドツコイ ドロゴイ トンゴロ ニガタ ヌカリバヤ ハヤ ハヤフナ ブンブン ボツコ ボテ ミゴイ	信濃地方；信州・松本平。 富山県氷見。 紀州橋本。 琵琶湖；彦根；滋賀県；三方湖；琵琶湖沿岸。 成東。 岐阜；長良川。 大分県日田郡。 岐阜。 岡山。 東京；琵琶湖・武蔵東京。 肥後圖書湖。 高知市外介良・佐長三和村。 肥後圖書湖。 新潟県；新潟県新発田・千葉県佐倉；新発田・佐倉。 近江浦生・神崎郡。 富山県放生津。 福岡県山門郡昭代村。 柳河町。 柳河町。 筑後；柳河町。 琵琶湖；滋賀県米原；三方湖。 八郎瀧。 岡山県浅口郡。 津山市。 高知市外五台山村。 上総横芝。 筑後川。 東京；東京府・水戸・霞ヶ浦；下総東陽。 上総成東・公平・豊成。 徳島県脇町。 岡山県小田郡。 新潟県寺泊；寺泊。 丹後加佐郡東雲村。

コイ科

標準和名	地方名	地域
モツゴ	ミソゴイ	兵庫県相原.
	ミゾコイ	兵庫県；丹波柏原.
	ミブゴイ	奈良県五条；奈良丹波・大和吉野.
	モズコ	愛知県.
	モツゴ	土佐；高知；高知県・近江.
	モロ	掛川市；袋井市；豊岡村 ^a .
	モロコ（モロゴ）	新潟県寺泊；琵琶湖・福井県三方湖・紀州岩出・安楽川・三重県. 大井川水系とその近隣河川 ^c .
	モロコシ	石川県今江潟.
	モンダゴイ	姫路.
	ヤキ	東京府・霞ヶ浦.
	ヤナギザコ	水戸；茨城県；茨城県水戸.
	ヤナギタ	上総横芝；上総南部.
	ヤナキバイ	奈良県五条；吉野川.
	ヤナキハヤ	群馬；土浦.
	ヤナキバヤ	群馬県城沼；上野館林.
	ヤナギブナ	上総南郷；上総南部.
	ヤナギベ	八郎潟.
	ヤナギモロ	掛川市 ^a .
	ヤナギモロコ	藤枝市 ^a . 大井川水系とその近隣河川 ^c .
	ヤマツウ	信州.
	ヨシツツキ	琵琶湖・三方湖.
	ロシヤハエ	熊本.
ウグイ	アイス	東京府；東京.
	アイソ	栃木県；茨城県. 関東北部；茨城県水戸付近（産卵期のもの）；日光・袖ヶ浦・那珂川；栃木.
	アイソウヲ	日光.
	アカイオ	岐阜県八百津町.
	アカウオ（アカウヲ）	長野県；信濃地方；長野県木曾福島；長野県松本・長野県伊那；長野.
	アカオ	信州；長野.
	アカザコ	福島県棚倉町（雄）.
	アカツパラ （アカツパラ）	山梨県；日光；山梨；甲州. 大月市小篠 ^b .
	アカハラ	北海道（産卵期）；関東北部・東北；栃木県；霞ヶ浦；青森・箱根芦湖・棚倉（雄）；千葉県流山・栃木県藤原村（雄）；日光（雄）；弘前；仙台；武州立川；津軽（婚姻色のあるものをいう）. 山中湖村 ^b .
	アカマツバ	松江.
	アキワ	長野県.

コイ科

標準和名	地方名	地域
ウグイ	アケ	水窪川 ^a .
	イグイ	岐阜県八百津町.
	イゴ	山陰.
	イゴイ	富山県横山村.
	イス	兵庫県円山川; 兵庫県; 兵庫県城崎・兵庫県香住; 兵庫県但馬
	イダ	九州; 四国; 土佐地方; 山陽・関西・北陸; 中国地方; 高知・丹後由良川・島根・広島県・山陽道・兵庫県芳田・ 岡山県真庭郡湯原村・広島県比婆郡東城・島根県浜田・土 佐; 石見国那賀郡高城村・豊前豊川村澤館; 有明海・佐賀; 土佐高知.
	イダイ	島根県・播州網干.
	イダコ	筑後川・有明海.
	イダゴ	筑後川.
	イダゴイ	岡山県阿哲郡.
	イダンコ	熊本県阿蘇郡南小国村.
	イラ	和歌山県堅田.
	ウゲイ (ウグヒ)	箱根; 関東地方の大部分; 東京付近・静岡・高山・紀州各 地・鳥羽・富山県氷見・東岩瀬・播磨芳田; 小名浜・福島 県棚倉町・静岡県御殿場・浜松・静岡県見付・奈良県一帯 ・富山県下新川郡横山村・鳥取・松江・島根県浜田・岡山 県真庭郡湯原村(雄); 富山; 琵琶湖・岐阜; 滋賀・和歌山 ・島根・江ノ島・秋田県象潟; 飛騨国・常陸国霞ヶ浦・ 石川県今江潟・紀州橋本; 和歌山県. 山中湖村; 大月市; 上野原町; 城山町; 厚木市 ^b .
	ウゴイ	東京.
	ウスコーバイ	栃木県.
	ウムイ	由比川 (桜野) ^a .
	オイガイ	弘前市; 弘前.
	オオウロコ	八郎潟 (約15~24cm).
	オウガイ (オオガイ)	東北; 青森県・岩手県; 弘前・宮城・陸前地方; 青森・仙 台; 松島.
	オグイ	三重県桑名郡長島・福井県坂井郡鷹巣村・鳥取県東郷池・ 出雲松江; 松江.
	オゲエエ	仙台.
	オゴイ	石川県; 邑知潟・木楊潟; 石川県今江潟; 石川.
	ガモタ	信州松本平; 松本平.
	カンザコ	栃木県塩谷郡藤原村川治.
	カンベ	川之江.
	グイ	東京付近; 東京.

コイ科

標準和名	地方名	地域
ウグイ	クキ	群馬郡；関東；群馬県高崎；群馬県佐波郡島村・邑楽郡佐貫・群馬郡渋川町・仙台・盛岡；群馬県。
	クキバヤ	群馬県館林町。
	ザクライゴ	山陰。
	サクライス	兵庫県出石町。
	サクラウグイ	大井川（金谷）；稻生沢川 ^a 。
	ザコ	関東北部；下野；日光。大井川水系とその近隣河川 ^a 。
	ザコオ	福島県棚倉町。
	ザッコ（ザツコ）	青森県八戸；八戸。
	シオジャッコ	青森県十三湖（河口にいる大形のもの。ジュウサンウグイをジャコとって区別する）。
	ジャッコ	青森県弘前市；津軽。
	シラハエ	加古川上流。
	スリッパヤ	城山町小倉 ^b 。
	スレウグイ	鳥取（雄）。
	セバイ	四日市。
	ツキジャッコ	津軽（産卵場のもの）。
	トコ	野尻湖。
	トコウグイ	気田川 ^a 。
	ニゴイ	岐阜県海津郡。
	ノヲ	仙台広瀬川。
	ハイ	松本平；信州。
	ハエ	新潟県新発田；野尻湖（雄）新潟・青森；信州。
	ハエエ	仙台。
	ハエッコ	津軽。
	ハエハイ	長野。
	ハジ	岡山。
	ハヤ	東京；関東；信州上田・多摩川中流以上・松本平・栃木県藤岡・棚倉町・武蔵東京；霞ヶ浦・岡山；箱根；長野・佐賀；常陸国霞ヶ浦・信州上田。上野原町；相模湖町；城山町；厚木市 ^b 。
	ハヨ	新潟。
	ハラアカ	仙台；千葉県。
	ハラカ	茨城県北相馬郡大井沢村。
	ハラガ	仙台。
	ヒヤリ	男鹿。
	ヒヤレ	八郎潟。
	フジウオ	気田川 ^a 。
	フジウグイ	気田川 ^a 。
	フジハナ	静岡県安部川 ^a 。

コイ科

標準和名	地方名	地域
ウグイ	フジバナ ブドバヤ ヘノオ ホンバヤ マユ マルタ	静岡県安部川。 静岡県磐田郡井通村（雄）。 仙台市；仙台。 東京；多摩川中流以上。 富山県西砺波郡津沢村・射水郡二村。 水戸（産卵期以外のもの東京付近のマルタは水戸ではウシマルタという）；東京；宮城県若柳町・多摩川河口及付近・茨城県東茨城郡石崎・茨城県；下総銚子・霞ヶ浦・小名浜・仙台；武蔵立川；茨城。城山町小倉；厚木市下依知；平塚市須賀 ^o 。
	マルタッコ （マルタツコ） マルタツパヤ ムギカラウグイ ヤナギバ ヤマコ ヤマブキウグイ ユウキ ユウゴイ ユゴイ ユダ	下総椎柴；椎柴。 相模湖町。相模湖町千木良 ^o 。 気田川 ^a 。 琵琶湖。 甲府；山梨。 気田川 ^a 。 愛知県下の一色。 富山県；富山。 富山県；宮山。 京都；丹後加佐郡東雲村・丹後由良川山口県厚狭郡吉部・新潟県；周防国宮田；新潟・山口。
	ユダイ ヨゴイ（ヨゴヒ） ヨリウグイ	富山県；富山。 富山県生地・放生津；男鹿。 気田川 ^a 。
アブラハヤ	アナムロ アブラッパヤ アブラハヤ アブラバヤ アブラナ アブラバイ アブラハエ アブラバエ アブラパエ アブラムツ アブラメ	諏訪湖沿岸。 各地：鮎沢川；狩野川（一部）；稻生沢川；興津川；安倍川；瀬戸川；太田川（太田川・原野谷川） ^a ；大月市小篠 ^b 。山中湖村 ^b 。 原野谷川 ^a 。 滋賀県彦根市；滋賀県。 山形県東直賜郡関根；山形県南置賜郡関根。 長崎県；長崎県東彼杵郡竹松村。 美濃地方。 長崎県東彼杵郡。 琵琶湖沿岸；滋賀県；琵琶湖。 大分県竹田；滋賀；滋賀県（タカハヤと混称）；岐阜県大野郡久々野町（タカハヤと混称）；大分県；美濃地方；琵琶湖。

標準和名	地方名	地域
アブラハヤ	アブラモロコ	琵琶湖沿岸；岐阜；岐阜県養老郡笠郷村；滋賀県；琵琶湖。
	アボジヤコ	丹波地方。
	イシバヤ	長野。
	イナッパヤ	大月市小篠 ^b 。
	カタメジヤコ	高野山。
	クソバエ	岐阜県郡上郡上保村；岐阜；岐阜県；岐阜県上郡。
	クソンバヤ	厚木市下依知 ^b 。
	クログチ	岡山県御津郡。
	クロバエ	奈良県；奈良県五条。
	ゲンクロウ	興津川 ^a 。
	ズブラ	興津川 ^a 。
	タイシヤキグシノウオ	高野山。
	タゴバエ	熊本県玉名郡小田村。
	タゴバヤ	筑後中流。
	タナピラ	長野。
	タニバエ	奈良県五条。
	タンバエ	奈良県。
	ドウバエ	岡山県津山。
	ドロツク	岡山県阿哲郡。
	ドロハエ	岡山県津山。
	ドロバエ	岡山県津山；岡山県。
	ニガザコ	栃木県；栃木県那須郡大内村；栃木県那須郡。
	ニガッパヤ	山中湖村；大月市 ^b 。
	ニガハヤ	下野地方。
	ニガバヤ	関東。
	ニガンベ	栃木県；栃木県那須郡大内村。
	ニヤツボ	信濃地方。
	ニヨーラク	奈良県吉野郡。
	ニヨラコ	奈良県吉野郡。
	ヌメ	丹波柏原。
	ヌメジヤコ	高野山。
	ヌメリ	丹波柏原。
	ノメジヤコ	和歌山県；高野山。
	ノメッコ	西部各地：天竜川（天竜川・阿多古川・気田川・水窪川・相川） ^a 。
	ノメッパヤ	瀬戸川 ^a 。
	ノメラッパヤ	瀬戸川 ^a 。
	ハイ	高野山・紀州辰ヶ浜。
	バカッパヤ	大月市 ^b 。
	ハヤ	東部各地：伊藤松川；青野川；土肥山川；狩野川；富士川（芝川・稲瀬川（後山））；由比川；波多打川；筑後川・駿河内浦 ^a 。

コイ科

標準和名	地方名	地域
アブラハヤ	ボヤ	尾瀬；尾瀬沼。
	メコギ	広島県神石郡豊松村。
	モロ	波多打川 ^a 。
	モロゴ	瀬戸川 ^a 。
	ヤナギバエ	岡山県苫田郡。
	ヤナギバヨ	岡山県浅口郡。
	ヤマガワ	但馬関宮。
	ヤマコヘ	丹波柏原。
	ヤマモト	京都；京都府加佐郡高野村；京都府加佐郡。
	オイカワ	アイソ
アカクチバエ		佐賀東松浦郡鏡村。
アカジ		二奈良県五条（雌生殖期）長野・兵庫・津山。
アカズ		信濃地方；信州・信州松本平；信州上伊那朝日村（雄）。
アカタハエ		肥後書藪湖。
アカチバイ		辰ヶ浜；紀州湯浅（雄）。
アカツバエ （アカツバエ）		広島県（雄）；広島。
アカツバラ		館林町；群馬県邑楽郡佐貫・大島・千江田・六郷（雄）。
アカバイ		紀州岩田・安楽川（雄）。
アカハエ		関西・山口・高知（雄）。
アカババ		高山（雄）。
アカハヤ		天竜川沿岸（雄）；菊川（小鮎川） ^a 。
アカバヤ		静岡県中泉；福岡・佐賀。
アカハラ		栃木県（雄）；栃木。
アカバラ		群馬県；群馬県佐波郡島村；群馬県佐波郡。
アカヒラ		鹿児島県日置郡。
アカブト		紀州御坊（雄）；御坊（雄）。
アカペー		福岡県京都郡。
アカボ		栃木県（雄）；栃木。
アカマツ		広島県安芸郡・備中；広島付近・岡山県後月郡芳井村小田井・広島県（雄）；広島県安佐郡（雄）；広島・岡山。
アカマツバ		石見・松江。
アカマツバエ		島根県那賀郡高城村（雄）。
アカムツ		大垣（雄）。
アカメ		栃木県藤岡；岡山県後月郡芳井村小田井。
アカモチ		広島県；広島県加茂郡；東志和（雄）；広島加茂郡（雄）。
アカモツ		広島付近。
アカモト		美濃；愛知。
アカモド	岐阜。	

コイ科

標準和名	地方名	地域
オイカワ	アカンジ	紀州橋本町(雄).
	アカンバエ	島根県郡賀郡高城村(雄).
	アカンバヤ	群馬県邑楽郡伊奈良(雄).
	アカンバヨ	群馬県安中(雄).
	アカンバラ	群馬県; 群馬県佐波郡島村; 群馬県佐波郡.
	アカンベ	栃木県那須郡大内村(雄).
	アカンボ	丹波・丹後由良川; 丹後加佐郡高野村字野村寺.
	アサジ	中国・九州; 岡山県津山市・福岡県浮羽郡; 丹波(雄); 下総
	アサゼ	熊本県阿蘇郡北小国村(雌).
	アサツキ	岡山県真庭郡.
	アサデ	熊本県阿蘇郡・久留米.
	アサビ	熊本県.
	アサヒバヤ	福岡県朝倉郡・浮羽郡.
	アサンチヨ	福岡県八女郡上広川村.
	アソバエ	熊本県; 熊本.
	アリバエ	熊本県.
	イカリ	栃木県那須郡太田村・栃木県五十里沼・那須郡大内村 (雌); 水戸.
	イダ	兵庫県淡路島.
	イワナ	武蔵荒川.
	オイカワ	琵琶湖(生殖期の雄); 琵琶湖付近・京都(婚姻色を現わした雄); 紀州岩出(特に生殖期の雄); 安楽川(雄); 福井県坂井郡鷹巣・愛知県犬山町・岐阜県御嵩町・八百津町(雄); 江州彦根・江州舟木・岐阜(雄); 美濃国郡上郡上保村(雄)(交尾期); 琵琶湖沿岸(雄); (生殖期の雄); 弘前・岩木川・江ノ島・新潟県寺泊・城山町小倉 ^b .
	オイラン	平塚市 ^b .
	オイランブナ	神奈川県津久井郡.
	オコゼ	相模湖町 ^b .
	オトコカゴ	信濃地方; 信州; 松本平(雄); 長野.
	オショウ	原野谷川 ^a .
	オショッパヤ	原野谷川 ^a .
	オニヤマベ	関東.
	オハナカゴ	信州; 長野.
	オンナカゴ	信濃地方; 松本平(雌); 信州(雌).
	カアリ	静岡県田方郡田中村大仁; 狩野川 ^a .
	カカマツ	信州; 備中芳井(雄); 備中国後川郡芳井村小田井.
	ガゴ	信濃地方; 長野; 信州・松本平; 信州上伊那朝日村.
	ガゴタ	信濃地方; 松本平.
	カネタタキ	明石.

コイ科

標準和名	地方名	地域
オイカワ	カリ	栃木県.
	カワマス	平塚市 ^b .
	カンガラ	栃木県；栃木.
	ガンガラ	滋賀県甲賀郡；栃木県諸地方（雄）.
	ガンザラ	滋賀県甲賀郡.
	ガンブ	滋賀県甲賀郡.
	カンベ	伊予川之江.
	クソンバヤ	山口県厚狭郡吉部.
	クソンボ	岐阜県郡上郡.
	クチクサレ	大井川（金谷） ^a .
	ケンレー	鳥取県気高郡.
	ゴウジバイ	徳島県脇町.
	(ゴオジバイ)	
	ゴオナイエソ	兵庫県江井ヶ島.
	ゴジバイ	徳島県.
	ゴロ	瀬戸川 ^a .
	ゴロダイ	瀬戸川 ^a .
	サギシラズ	京都.
	ザコ	天竜川 ^a .
	ササシバエ	岡山県阿哲郡.
	ザラッパヤ	群馬県.
	ジジ	兵庫県多紀郡日村（雄）.
	ジヤコ	徳島県麻植郡手島；紀州橋本・高野山（雌）.
	ショウハチ	愛媛.
	ジヨツカン	丹波（雄）.
	ジョロブナ	関東.
	シラッパヤ	興津川 ^a .
	シラハイ	奈良県；大和五条（雌）.
	シラハエ	琵琶湖沿岸（幼魚または雌）；関西・山口・高知（雌）； 京都・琵琶湖沿岸（産卵期の雄を徐く）；滋賀県・熊本県； 奈良五条・大垣・津山・播磨芳田・播磨加古川上流地方； 岡山県・熊本県北小国村（雌）；愛知県犬山町・起町・岐 阜県八百津町・御嵩町（雌、雄共に）；琵琶湖・高知県本 山（幼魚と雌）；高知県長岡郡本山町（雌、雄共に）；尾張 （幼魚と雌）；豊前竹田付近・作州津山・岡山西川；岐 阜（雌）.
	シラハヤ	信州（雄）. 巴川（長尾川） ^a .
	シラフナ	大分県宇佐郡豊川村.
	シロハイ	辰ヶ浜；紀州湯浅（雄）.
	シロハエ	久留米；肥後書藪湖（交尾前）；岡山県真庭郡湯原村・広

コイ科

標準和名	地方名	地域
オイカワ		島県三次（雌）；岐阜；美濃国郡上郡上保村（交尾前、美麗ならざる時）。
	シロバエ	島根県那賀郡高城村（雄）。
	シロバヤ	中泉（雌）。
	ジンケン	長野・丹後；長野県上田市；男鹿。
	ジンケンアユ	弘前。
	ジンジッパヤ	興津川；巴川；安倍川；瀬戸川；志太平野諸河川；大井川 ^a 。
	ジンジバヤ	興津川；巴川；安倍川；瀬戸川；志太平野諸河川；大井川 ^a 。
	ジンジバヤ	大井川 ^a 。
	ジндаバヤ	瀬戸川 ^a 。
	スリツバヤ	神奈川県津久井郡（産卵期）。
	セバイ	広島付近・伊勢四日市；周防陶；広島。
	セバエ	広島県；広島県加茂郡東志和。
	セバユ	庶後東志和（雌）。
	ゼンゴッパヤ	静岡県安倍郡（産卵期）。
	ドロソバヤ	山口県厚狭郡吉部。
	ナンテンバヤ	大井川（千頭） ^a 。大井川水系とその近隣河川 ^a 。
	ニイナ	美濃稲葉郡；岐阜。
	ニガツバヤ	群馬県渋川。
	ニガハヤ	静掛塚町。
	ネギサマ	阿多古川 ^a 。
	ネギバヤ	静岡県中泉・天竜川沿岸。気田川 ^a 。
	ネンシャ	太田川 ^a 。
	ハイ	琵琶湖沿岸（幼魚または雌をいう）（幼魚または雌）；奈良県・滋賀県・熊本県；熊本県阿蘇郡北小国村（雌）琵琶湖；奈良県五条。
	ハイオ	鳥羽。
	ハイジャコ	紀州岩出・安楽川（雄）。
	ハインボ	徳島県那賀郡。
	ハエ	琵琶湖沿岸（幼魚または雌をいう）（幼魚または雌）；琵琶湖（雌または幼魚）；関西・山口・高知；京都・名古屋・関東地方の大部分；滋賀県・熊本県・東京；松本平・広島県・肥後地方；静岡県島田・広島県比婆郡東城（雌、雄）；丹後国加佐郡東雲村上東・信州；静岡・長野・広島。
	バカウオ（バカウヲ）	安芸国安佐郡。
	バカッパヤ	群馬県。
	ハス	大阪。
	ハヤ	東京（雄）（雌）；琵琶湖（雌）；群馬県；兵庫県；近江粟太郎・松本平・広島県；群馬県邑楽郡三野谷・西谷田・伊奈良・高島。群馬県渋川；熊本県阿蘇郡北小国村（雌）

コイ科

標準和名	地方名	地域
オイカワ		近江栗太郎常盤村・信川；丹波竹野（雄）；兵庫県竹野島（雌）（雄）；長野・広島（雌）。
	ハヤンボ	丹波加佐郡東雲村上東。
	ハヨ	群馬県群馬郡渋川・滋賀県東浅井郡速水。
	ヒドロ	岡山県後月郡芳井村小田井（雄）。
	ビヤク	群馬県邑楽郡海老瀬・栃木県藤岡（雄）。
	ビヤラ	琵琶湖・兵庫県芳田（雄）。
	ビロ	周防淘。
	ビワコ	神奈川県；神奈川県厚木市。厚木市；平塚市 ^b 。
	ブトバヤ	静岡県天竜川沿岸・二俣（雄）。天竜川 ^a 。
	フナビクイ	丹後由良川；丹波（雄）；丹後加佐郡丸八江村八田。
	ヘロ	美作・岡山県真庭郡湯原村（雄）。
	ペンバヤ	福岡県三井郡御原村。
	ホンバヤ	朝比奈川 ^a 。
	モドロ	備中地方。
	ヤマ	静岡県原。
	ヤマソバエ	熊本県阿蘇郡北小国村（雄）。
	ヤマベ	東京；関東；東京付近（ただし、東北地方及び北海道でいうヤマベは本種ではなくヤマメのこと）；茨城県茨城郡石崎・下総市川；水戸；市川；上野原町；厚木市；平塚市 ^b 。知多。
	ヤマモト	
	ヤムブナ	熊本県天草郡宮地村。
	ユワフナ	群馬県邑楽郡館林。
	ヨシノネ	群馬県館林。
	ヨミノネ	群馬県邑楽郡館林。
	ランバイ	岡山県御津郡。
	ロツカン	兵庫県；丹後京都地方；丹波竹野（雌）（雄）；兵庫県野島（雄）；兵庫県竹野島（雄）。
	(ロツカン, ロック ワン, ロツクワン)	
	ワカサギ	神奈川県小田原市付近の酒匂川。
カワムツ	アカチ	紀州高野（雄）。
	アカチバイ	辰ヶ浜；紀州湯浅（雄）。
	アカバイ	周防淘・紀州明神・串本；明石。
	アカハエ	鳥取県米子（雄）。
	アカバエ	高知（雄）；鳥取（雄）；土佐高知（雄）。
	アカブト	和歌山県田辺（雄）；御坊・熊本県阿蘇郡北小国村。
	アカボト	原野谷川 ^a 。
	アカマツバイ	周防淘（雄）。
	アカマツバエ	島根県那賀郡高城村・山口県阿武郡嘉年（雄）。

コイ科

標準和名	地方名	地域
カワムツ	アカマツバヤ	島根県美祢郡東厚保；山口県厚狭郡吉部（雄）；長門東厚狭（雄）。
	アカムツ	琵琶湖周辺；大垣；岐阜県八百津・岡山県湯原村（雄）；琵琶湖。
	アカモツ	琵琶湖周辺；岡山・福井県三国（雄）。
	アカモト	関西（雄）；兵庫県；播磨明石；岐阜県郡上郡八播・兵庫県芳田・多紀郡日置村加古川上流・丹波国水上郡久下村・加古川町（雄）；岐阜県郡上郡上保村（雄）；京都府船井郡竹野（雄）；京都府丹後（雄）。
	アカンバエ	山口県阿武郡嘉年；石見那賀郡高城村（雄）。
	アマゴ	石川県今江瀧。
	アメノウヲ	紀州田中。
	イダバヤ	福岡県柳河町。
	カワムツ	琵琶湖；巨椋池；寺泊；出雲意宇川・出雲今市・伊勢印辺川・岐阜・美濃伏見・山城巨椋池。
	ギンモツ	岡山県津山市。
	クソバイ	紀州橋本・紀州辰ヶ浜・吉野川・奈良県五条；徳島県半田（雄）。
	クソムツ	琵琶湖・奈良県五条。
	クロハエ	熊本県；熊本県阿蘇郡北小国村。
	ゲンタバイ	周防小郡・吉敷・小野；周防吉敷・周防小野（雄）。
	ケンレイ	鳥取。
	コケムツ	琵琶湖。
	シマバエ	豊前中津。
	シラハエ	大垣（雄）。
	シロバイ	紀州高野（雌）。
	シロムツ	琵琶湖（雄）。
	ジングバヤ	大井川水系とその近隣河川（雄） ^o 。
	セエモン	広島県加茂郡（雄）。
	ゼエモン	広島県；広島県加茂郡；広島県加茂郡東志和。
	タニバイ	紀州；紀州橋本（雌）；紀州伊都郡橋本町。
	タニバイノアカンジ	紀州橋本。
	チョウセンザッコ	天竜川 ^a 。
	テリムツ	琵琶湖（雄）。
	ドンドハス	奈良県北葛城郡王寺。
	ニユウコオバエ	岡山；備中国後月郡芳井村小田井。
	ハイ	和歌山県田辺（雌）；和歌山県；吉野川・奈良県宇智郡五条；田辺（雌）。
	ハエ	高知；土佐地方；関西の山間部・山口・四国；高知県；岡山・島原・肥前五島浜浦・豊橋・鳥取・松江・島根県杵築

コイ科

標準和名	地方名	地域
カワムツ	ハヤ	・大分県宇佐郡豊川村；高知；土佐高知。 関西の山間部・山口・四国；高知県；広島県；紀州新宮・周防小郡・山口煤厚狭郡吉部；長門東厚狭；広島県加茂郡東志和；広島県加茂郡（雌）；大井川水系とその近隣河川 [△] 。西部各地：天竜川（天竜川・気田川・阿多古川）；都田川 [△] 。気田川 [△] 。
	ブト	太田川（本流） [△] 。
	ブドッコ	肥前佐賀。
	ブトバヤ	福岡県三井郡味坂村
	ベツケバヤ	菊川；太田川（原野谷川） [△] 。
	ベンケイバヤ	天竜川（相川） [△] 。
	ボト	岐阜県八百津町。
	ホンジャコ	瀬戸川（葉梨川） [△] 。
	ホンバエ	大分県。
	マス	越前大野町。
	マバエ	作州津山。
	マメカツギ	阿多古川 [△] 。
	ムギツク	
	ヤマブト	
ハス	ケタ	大阪。
	ケタバス	大阪。
	ハス	琵琶湖沿岸；琵琶湖；琵琶湖周辺；滋賀県；福井県；若狭鮎川；福井県三方湖・福井県鮎川沿岸；これを産する日本に於ける一般の呼称。
フナ	アカケフナ	八郎瀉（約9～18cm）。
	アカブナ	諏訪湖。
	アブラナ	岡山市（約15cm）。
	イオ（イヲ）	琵琶湖（雄）（ニゴロの約9cm以下）近江・蒲生・野州・栗太郡地方；琵琶湖南地方（マルフナにしてマフナと区別す）。
	エビスフナ	長良川。
	エビスブナ	琵琶湖；長良川。
	カタイカリ	琵琶湖。
	カタサイ	大阪。
	ガリタ	近江栗太郎。
	カワチブナ（河内鮎）	大阪（主として溜池などで養殖したもの）。
	カンゾ	琵琶湖。
	ガンゾ	琵琶湖周辺（やや小形のもの。ただしニゴロとガンゾとは多少品種を異にすると考えるものもある）。
	ギヨーキ	伊丹付近。

標準和名	地方名	地域
フナ	キンコ	常陸。
	キンタロウ	関東；東京その他関東近県。
	キンタロウブナ	東京その他関東近県；東京の釣師（金太郎鮒）。
	キンブナ	東京；東京その他関東近県。
	ギンブナ	関東（キンブナと区別している）東京の釣師。
	クロブナ	諏訪湖。
	ゲンゴロウ	群馬県館林城沼。
	ゲンゴロウブナ	琵琶湖局辺・佐原（大形のもの）；琵琶湖。
	コッパ（コツパ）	信濃；信州松本平；長野。
	コブナ	霞ヶ浦（小型）。
	ゴマ	群馬県藤岡町赤麻沼（鱗が堅く之に黒い小斑点のあるもの）。
	ゴマカス	常陸の湖沼（ゴマブナのこと）；常陸国瀬沼（胡麻鮒のこと）
	ゴマブナ	関東（吸虫類の一部が体表に寄生したもの）；東京（釣師の名称）；東京の釣師（胡麻鮒）。
	ゴロブナ	群馬県城沼。
	ザコ	琵琶湖。
	ザッコ（ザツコ）	城沼（キンブナギンブナを含む）；八郎潟；佐賀。
	ジツキブナ	東京；東京の釣師（地付鮒）。
	ジブナ	全国；各地（ゲンゴウブナと区別）。
	シロケフナ	八郎潟（約18～36cm）。
	シロケブナ	八郎潟。
	シロブナ	石川県羽咋付近；邑知潟（銀白色の品種）。
	ソリ	大阪。
	ターイユ（タアイユ）	沖縄；沖縄県。
	ダーズー	沖縄。
	ターユー	沖縄県・鹿児島県大島郡；沖縄。
	タイオ	福岡県山門郡三橋村。
	タニハラ	彦根（完熟卵を有する雌）；琵琶湖（産卵後の雌、産卵後憔悴せる雌）。
	タリハラ	彦根（完熟卵を有する雌）。
	テツギョ	宮城県加美郡魚取沼・山形県北村山郡菱畑沼。
	ドロブナ	信濃；信州松本平；長野。
	ニゴロ	琵琶湖周辺（主として雌）；琵琶湖（マルフナの俗名）。
	ニゴロウ	琵琶湖周辺（主として雌）。
	ハチオ（ハチヲ）	彦根（雄成魚）；琵琶湖（産卵後の雌、産卵後の憔悴せる雄）
	ヒフナ	琵琶湖・美濃郡上郡。
	ヒラ	城沼。
	ヒラブナ	関東（キンブナと区別している）；東京・霞ヶ浦・群馬県藤岡町赤麻沼；琵琶湖（梢々側偏せるもの）；東京付近。
	ヒワラ	琵琶湖；琵琶湖沿岸；琵琶湖周辺。

コイ科

標準和名	地方名	地域
フナ	フナ	琵琶湖；全国各地；一般；佐賀・有明海・玄海・江ノ島・厚岸・寺泊・象潟。
	フナザッコ (フナザツコ)	八郎潟（約9～18cm）。
	フナツコ	福島県棚倉町（小形）。
	ヘラ	彦根（全長200mm以下の未成魚）；関東その他の移殖地（大きさに関係なくいう特に近漁者が好んで使う）；琵琶湖（15cm内外）。
	ヘラブナ	関東；各地（主として遊漁者）。
	ホンブナ	福井県坂井郡鷹巣。
	マツカワ	東京（鱗が堅く之に黒い小斑点のあるもの）。
	マツカワブナ	霞ヶ浦（黒色の斑点多きもの）。
	マブ	彦根（主として雌成魚）。
	マフナ	彦根（主として雌成魚）；琵琶湖・大分県宇佐郡豊川村；豊後宇佐基他これに近き駅館川沿岸（本種をマフナと称するは稍（やや）之に近きタナゴ類及び、之に近きものを此地方にてニガフナと称するためなり。尚、フナをマフナと称するは此地及琵琶湖以外の地方にも多きが如し）；琵琶湖沿岸（稍、側偏せるをヒラブナと称す。15cm内外をヘラ、大なるものをゲンゴオブナと称す。漁夫は後の身体憔悴せる雄をハチオ、雌をクハラと称す。秋季、鰓及鱗、血走りて赤色を呈せるものを古来モミヂブナと云ふ）。
	マブナ	関東；琵琶湖；彦根（主として雌成魚）。
	マルフナ	琵琶湖・東京；琵琶湖沿岸（俗にニゴロと称し、約9cm以下のものをガンゾまたはイオと称し、15cm内外のものをモオズ）；東京付近。
	マルブナ	関東；琵琶湖；群馬県城沼。
	モウズ	琵琶湖（約15cm）。
	モミジブナ	琵琶湖。
	ヨメブナ	信濃；信州松本平；長野。
コイ	アカクチ	久留米付近；久留米。
	アフミコイ	琵琶湖。
	イロコヒ	越後二十村。
	オオミゴイ (アフミゴイ)	琵琶湖。
	カワスジ	琵琶湖芳田川筋。
	クイユ	沖縄。
	クーイユ	沖縄県。
	クーユ	沖縄県；沖縄。

コイ科

標準和名	地方名	地域
コイ	コイ	一般・佐賀・男鹿・江ノ島・厚岸・寺泊・象潟；全国共通。
	コイフナ	仙台。
	コー	愛知県中島郡・岐阜県可児郡。
	サクゴイ	長野県佐久地方産のもの。
	サラサ	信州地方；信州松本平；長野。
	ジゴイ	各地。
	ナメ	佐賀・筑後川。
	ナメイ	筑後川。
	ナメリ	筑後川。
	ノゴイ	各地。
	ハネツカエリ	東京。
	ハネツカエリブンシ	東京。
	ロー	
	ハヤリ	岡山市；岡山。
	ヒゴイ	一般。
	ブンシヨー	福島県相馬地方。
	ブンシロー	東国。
	ホオリュウ	各地。
	ホオリュウモノ	各地。
	マゴイ	各地；琵琶湖・愛知県犬山・福島県棚倉。
	マコヒ	琵琶湖。
	ヤマト	滋賀県その他；琵琶湖。
	ヤマトゴイ	滋賀県その他；琵琶湖；大津。

ドジョウ科

標準和名	地方名	地域
ドジョウ	アジメ	信濃地方；信州；長野。
	ウシドジョ (ウシドジョ)	長良川；愛知。
	オオマ	福島県棚倉町。
	オオマツコ	棚倉町。
	オオマドジョウ (オオマドジョオ)	福島県棚倉町；福島県棚倉。
	オオマンドジョウ (オオマンドジョオ)	千葉県（大なるもの）。
	オドリコ	関東；東京。

ドジョウ科

標準和名	地方名	地域
ドジョウ	クソドジョウ (クソドジョオ)	鳥取.
	クロドジョウ (クロドジョオ)	琵琶湖.
	ジャコ	丹後竹野郡.
	ジョ	高知県.
	ジョウ (ジョラ)	土佐地方; 高知県; 高知和歌山・明石・五条・奄美.
	ジョシヨ	播磨芳田.
	ジョジョ (ジョジヨ)	和歌山; 和歌山県; 紀州橋本・奄美大島・奈良県五条町.
	タカノハドジョウ	猪苗代湖.
	タドジョウ (タドジョオ)	全国; 信州松本平.
	ドジョ (ドジヨ)	岐阜県八百津町; 奈良県五条・仙台.
	ドジョウ (ドジヨオ, ドヂヨオ)	沖縄; 沖縄県; 一般; 佐賀・有明海・玄海・江ノ島・寺泊・象潟. 大井川水系とその近隣河川°.
	ドゾウ (ドゾオ)	青森.
	ドンキュウ	大井川水系とその近隣河川°.
	ドンジー	石垣島.
	ドンジュウ	津軽.
	ドンジョ (ドンジヨ)	仙台.
	ヌマクラドジョオ	静岡県島田.
	ヌマドジョウ (ヌマドジョオ)	信濃地方; 全国; 信州・信州松本平; 千葉県長野・千葉.
	ヌマヌスツト (ヌマヌスツト)	信州松本平; 長野.
	ノマドジョウ (ノマドジョオ)	信州松本平; 長野.
	ノロマ	甲府; 山梨.
	ヒドジヨ	美濃加茂郡 (緋色のもの).
	ヘビドジョウ (ヘビドジョオ)	信州松本平; 長野.
	ホンドジョウ (ホンドジヨオ, ホン ドジヨヲマドジョウ)	信濃地方; 群馬県渋川・信州・信州松本平; 長野.
	ママドジョウ	全国.
	ムギナ	千葉県.
	メロ	新潟・長野・富山.
	ヤナギハ	津軽.
	ヤナギバ	東京.
		東京.

標準和名	地方名	地域
シマドジョウ	アジメ	信州・信州松本平・美濃益田川；岐阜県郡上郡八・高山；岐阜；信州松本平；松本平。
	アジメドジョウ (アジメドジョオ)	信濃地方・飛騨地方・岐阜；信州松本平；松本平。
	アワドジョウ	上総。
	カナベドジョウ	象潟。
	カワドジョウ (カワドジョオ)	全国；兵庫県・長崎県・和歌山県；兵庫県龍野・和歌山県橋本；八郎潟・紀州有田郡・信州松本平・肥後書藪湖；長野県上田・奈良県五条・吉野川；松本平・和歌山県有田郡。大井川水系とその近隣河川°。
	カンナマドジョウ	静岡県。
	カンナメ	岐阜。
	カンナメドジョウ (カンナメドジョオ)	静岡県佐鳴湖；浜名湖。
	キユウキユウドジョウ	上総睦岡。
	キリメ	信州松本平；松本平。
	ギリメ	信濃地方；信州・信州松本平；松本平。
	キンカンアジメ	美濃郡上川。
	クルマドジョウ (クルマドゼウ)	近江；滋賀。
	ゴマドジョウ (ゴマドジョウ)	千葉県・大分県；大分県宇土佐郡豊川村・下総古城・信州松本平；千葉県佐倉；大分県宇佐郡・松本平。
	ゴリネホウ	岐阜付近；岐阜。
	コンペイトオドジョウ	石川県邑知潟。
	ササ	京都府由良川。
	ササジョウ (ササジョオ)	土佐地方；高知県；高知；高知地方。
	ササドジョウ (ササドゼウ)	高知地方；信濃地方；関西・中部；信州・丹後由良川；長野。
	ササノハドジョウ (ササノハドジョオ)	信州松本平；松本平。
	シマジョウ (シマジョオ)	高知市；高知。
	シマドジョウ (シマドジョウ)	琵琶湖；滋賀県；大阪；大阪府・吉野川・信州松本平・山口県都濃郡富田；松本平。
	ジョジョ	播磨明石。
	スナサビ	栃木県；栃木県氏家。
	スナドジョウ (スナドジョウ)	広島県；広島県加茂郡東志和。
	スナハビ	宇都宮市。

ドジョウ科

標準和名	地方名	地域
シマドジョウ	スナムグリ スナメグリ タカノハドジョウ (タカノハドゼウ) タケドジョウ ツチドジョウ (ツチドジョオ) ツルマキドジョウ (ツルマキドゼウ) ドジョウ (ドジョウ) ハハドジョウ (ハハドジョオ) ムギガラドジョウ (ムギガラドゼウ) ムギナ ムギワラ ムギワラドジョウ (ムギワラドゼウ) ムナギ ヤナギドジョウ (ヤナキドジョヲ)	埼玉県；川越；水戸；埼玉。 猪苗代湖。 信州・飛騨・信州松本平・猪苗代湖；琵琶湖；長野。 関西中部。 信州松本平；松本平。 信濃地方；信州；信州松本平。 富山県富山；富山。 上総睦岡・南郷；睦岡。 岐阜；長良川。 岐阜県和良；岐阜県；岐阜・岐阜県郡上郡八幡・高山・美濃・信濃・長野・越中富山。 岐阜。 岐阜。 岐阜県和良。 神奈川・信濃地方；神奈川県；信州・上総成東・信州松本平； 神奈川県都築郡；長野・千葉県成東。

タニノボリ科

標準和名	地方名	地域
ホトケドジョウ	アカツバラ オカメ オカメザコ オカメドジョウ (オカメドジョヲ) オバツコ オババアス オバメドジョヲ サクドジョオ ササドジョウ シミズドジョウ (シミズドジョオ) シミドジョウ (シミドジョオ) シメンドジョウ (シメンドジョオ)	静岡県田方郡内浦村。 信州松本平。 水戸。 信濃地方；長野；信州・信州松本平。 武蔵浅川。 東京府西多摩郡多西村。 多摩川稲田登戸。 信州松本平。 敦賀。 千葉；千葉県。 上総睦岡；睦岡。 総丘山；丘山。

タニノボリ科

標準和名	地方名	地域
ホトケドジョウ	スナサビ	栃木；栃木県.
	スナメドジョオ	新発田.
	スミッコ (スミツコ)	上総二川；二川.
	スミドジョウ	上総睦岡・公平；睦岡.
	(スミドジョオ)	
	セイメンドジョウ	上総公平；公平.
	(セイメンドジョオ)	
	ダルマドジョウ	千葉；上総上川.
	(ダルマドジョオ)	
	チヤリチャメ	紀州上山路.
	チンボネムリ	岐阜.
	ハシ	信州松本平.
	ホトケ	岡山；一般.
	ホトケドジョウ	琵琶湖.
	(ホトケドジョヲ)	
マグソドジョウ	山形.	
(マグソドジョヲ)		

ギギ科

標準和名	地方名	地域
ギバチ	アカバチ	千葉県丘山.
	アカバツ	千葉県成東.
	カアバチ	上総丘山・川上.
	カアバツ	上総大和・睦岡・成東.
	カバチ	関東・東北.
	カバツ	千葉県公平.
	ギギ	全国；琵琶湖.
	ギギユ	熊本県.
	ギギユウ	熊本県阿蘇郡北小国村.
	ギギユウ	群馬県下.
	ギギユヨウ	群馬県.
	ギギョ	群馬県；下関.
	ギギョウ (ギギョヲ)	群馬県佐波郡島村；群馬県下.
	ギバチ	東京；東京付近.
	ギユウタ	群馬県；群馬県下.
	ギンギョ (ギンギヨ)	千葉県・茨城県；印旛沼；水戸；棚倉・小名浜；盛岡・仙台；千葉県印旛沼・福島県小名浜・福島県棚倉.
	ギンギロ	茨城県石崎.
	ゲバチ	東京；東京付近.

ナマズ科

標準和名	地方名	地域
ナマズ	アカナマズ	揖斐川；琵琶湖。
	イワトコナマズ	琵琶湖。
	カワッコ（カワツコ）	千葉県豊成。
	ザシン	富山。
	ショウゲンボ	千葉県長生。
	チンコロ	東京；東京付近。
	ナマズ	全国；一般；佐賀・有明海・玄海・江ノ島・寺泊・象潟。
	ナマズノヘツタゴ	紀州紀の川・辰ヶ浜。
	ナマズノヘツペー	紀州富田川・辰ヶ浜。
	ナマダ	安房国吉浜村。
	ナマンズ	山口県厚狭郡吉部；山口県吉野。
	ゼンギョウ	安房国吉浜村。
	ベッコ	千葉県香取。
	ヤッコナマズ （ヤツコナマズ）	鳥取。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	アーブラギ	長崎県埴科郡杭瀬下村。
	アイキョー	群馬県沼田市 ^d 。
	アイゴ	群馬県邑楽郡館林町。
	アイノコ	山口県徳山市 ^d 。
	アカウルメ	新潟県小千谷市 ^d 。
	アカザコ	香川県香川郡塩江村。
	アカサンビザッコ	秋田県仙北郡。
	アカナメダカ	宮崎県宮崎市；宮崎。
	アカネンバ	愛知県碧南市 ^d 。
	アカネンバ	愛知県 ^d 。
	アカハイ	鹿児島県 ^d 。
	アカバイ	鹿児島県 ^d 。
	アカハス	大坂府南河内郡石川村一須賀；同府三島郡石川村。
	アカハラ	鹿児島県 ^d 。
	アカヒラ	鹿児島県 ^d 。
	アカボテ	京都府 ^d 。
	アカマツ	香川県綾歌郡 ^d 。
	アカミミ	石川県金沢市 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	アカメ	大坂府；大阪。
	アカメダカ	福岡県田川郡後藤寺町。
	アカメダンチョ	福岡県田川郡後藤寺町。
	アカメツタンソー	和歌山県海草郡西和佐村栗栖。
	アカメメン	広島県福山市 ^d 。
	アカメンパ	愛知県刈谷市；愛知県安城市 ^d 。
	アカモチ	鹿児島県 ^d 。
	アカモト	兵庫県 ^d 。
	アカヨノコ	長野県 ^d 。
	アカンダミ	沖縄県国頭郡羽地村。
	アカンラミ	沖縄県国頭郡 ^d 。
	アカンミ	沖縄県国頭郡今帰仁村。
	アキンチョ	岐阜県各務原市 ^d 。
	アキンチョバエ	岐阜県各務原市 ^d 。
	アキンバス	愛知県西加茂郡 ^d 。
	アコンベ	愛知県南設楽郡 ^d 。
	アサッグァジョ	鹿児島県 ^d 。
	アサッグァチ	鹿児島県 ^d 。
	アサッパジョ	鹿児島県 ^d 。
	アサデン	鹿児島県 ^d 。
	アサビ	秋田県仙北郡大曲町・高梨村・横堀村堀見内；秋田。
	アサビザッコ	秋田県平鹿郡角間川町・川西村。
	アサミ	秋田県仙北郡大曲町・高梨村；秋田。
	アサビザッコ	秋田県仙北郡・南部・大曲町・飯詰村・内小友村・大川西根村・高梨村・平鹿郡一円。
	アザメンツ	鹿児島県川辺郡知覧町厚地。
	アサンコ	福井県大野郡村岡村栃神谷。
	アサンビザッコ	秋田県仙北郡。
	アシネブリ	兵庫県加西市 ^d 。
	アスピザッコ	宮城県登米郡石森町。
	アスピダコ	宮城県登米郡石森町。
	アスピダツコ	宮城県登米郡石森町。
	アスンビザッコ	秋田県平鹿郡。
	アセビザッコ	秋田県横手市 ^d 。
	アソビウオ	新潟県三島郡 ^d 。
	アソビザッコ	秋田県仙北郡北檜岡村・千屋村妻ノ神・神宮寺町神宮寺・花館村・平鹿郡横手村。
	アソビジャッコ	青森県・三戸郡山田村青森。
	アソビッコ	新潟県小千谷市 ^d 。
	アソンビザッコ	秋田県平鹿郡・一円。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	アタマキンチャク	滋賀県伊香郡 ^d .
	アタマハゲ	和歌山県；和歌山。
	アタマバッチョ	京都府亀岡市 ^d .
	アタンパチ	兵庫県 ^d .
	アタンボ	和歌山県西牟婁郡。
	アタンボ	和歌山県西牟婁郡 ^d 。
	アッカミ	沖縄県国頭郡今帰仁。
	アッカミブン	沖縄県国頭郡 ^d 。
	アトッポシ	愛知県東加茂郡 ^d 。
	アドノオマコ	青森県；青森。
	アトハエ	愛知県；愛知。
	アトバヨ	愛知県西加茂郡小原。
	アトビヤ	岐阜県技郡瑞浪。
	アトベヨ	愛知県西加茂郡小原村。
	アトメンバ	愛知県南設楽郡東郷村。
	アトンバ	愛知県西加茂郡 ^d 。
	アトンバイ	愛知県 ^d 。
	アトンバエ	愛知県。
	アトンバヨ	岐阜県土岐郡鶴里村柿野。
	アトンベ	愛知県西加茂郡・新城市・南設楽郡 ^d 。
	アトンポチ	愛知県額田郡下山村・東加茂郡下山村；愛知。
	アトンポリ	愛知県額田郡の一部。
	アネサング	福井県三方郡南西郷村。
	アハラ	埼玉県南埼玉郡 ^d 。
	アビカ	宮城県登米郡 ^d 。
	アビコ	宮城県仙台市；福島県相馬市・相馬郡 ^d 。
	アビジャコ	高知県長岡郡天坪村馬瀬。
	アビッコ	千葉県印旛郡本埜村中根；印旛。
	アビッチャ	高知県香美郡 ^d 。
	アビッチャコ	高知県香美郡 ^d 。
	アビヤッコ	埼玉県北埼玉郡 ^d 。
	アビヨッコ	埼玉県北埼玉郡 ^d 。
	アビラ	高知県高知市小高坂・小高坂（一部）・長岡郡大篠・大篠村大樋・香美郡香宗村；高知。
	アビラコ	高知県高知市・下知町・潮江・江口・土佐郡朝倉町・同蛭町内・鴨田村神田・宇治村（池ノ内・枝川）；日下村・高岡町・横島村・弘岡村・蓮池村・新居村・吾川郡・伊野町音竹・弘岡中ノ村・三瀬村柳瀬・芳原村西ノ谷・西分村西地・弘岡下ノ村・弘岡上ノ村・諸木村・芳原村・長岡郡・長岡村西山・中島・国分村・新改村須江・天坪村・大篠

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ		村大樋・野田村・長岡村・三里村・久礼田村・後免町・香美郡・山田町・赤岡町・佐岡村佐野・本村・暁霞村有瀬・大楠植村談義所・岩村金地・立田村・田村村東門・西川村（中西川・奥西川）・野市町東町・中ノ村・佐古村深淵・片地村（影山・山田島）・山北村小島・山南村久保田・大楠植村・岩村・安芸郡・馬ノ上村西寄；高知。
	アビラト	高知県吾川郡 ^d 。
	アビランコ	高知県高岡郡・越知町朝日・吾川郡伊野町・音竹。
	アピンコ	高知県高知市潮江・潮江ノ一部・高岡郡・黒岩村・斗賀野村。
	アブラ	高知県高知市小高坂・小高坂ノ一部。
	アブラカ	高知県高知市 ^d 。
	アブラガンツ	兵庫県 ^d 。
	アブラギ	長野。
	アブラコ	土佐地方；高知県高知・高知市・若松町・潮江・小高坂江口・比島町・土佐郡朝倉町行川一宮村徳谷・布師田村新屋敷・土佐山村・朝倉町・鏡村・高岡郡上加江町上加江・佐川町・仁井田村仁井田・新居村甫淵・日下村下分・吾川郡・長浜町横田野・弘岡上ノ村・西和田・諸木村・明治村・芳原村・長岡郡・介良村・大津村田辺島・高須村・回政・五台山村唐谷・久礼田村植野・東豊永村・上倉村白木谷・十市村・稲布村・新改村・香美郡・山田町・赤岡町・野市町西野・香宗村・山北村四坊・夜須町・町・西川村中西川・三島村久枝・横山村大栃・野市町・美良布村・幡多郡月灘村・安芸郡・川北村・福岡県八女郡光友村田形；高知市。
	アブラゴ	高知県長岡郡三里村仁井田。
	アブラッペ	秋田県雄勝郡 ^d 。
	アブラメ	岐阜県大野郡高山町片野・吉城郡坂上村落合・福岡県朝倉郡高木村黒川；八女郡辺春村・浮羽郡大石村高見・宮崎県西臼杵郡高千穂町押方・岩井川村大人；岐阜・福岡・宮崎。
	アブラメノコ	宮崎県西臼杵郡上野村田井本。
	アブラメン	鹿児島県 ^d 。
	アブラメンコ	宮崎県西臼杵郡 ^d 。
	アブランメ	鹿児島県薩摩郡永野村。
	アベラコ	高知県吾川郡。
	アマタゴ	福井県遠敷郡野木村玉置。
	アマリンゴ	岡山県苫田郡 ^d 。
	アマリンゴー	岡山県苫田郡。
	アミジャコ	愛媛県新居郡多喜浜村・高知県長岡郡天坪村馬瀬。
	アミ	滋賀県 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	アミジャコ	滋賀県；和歌山県；愛媛県新居浜市 ^d 。
	アミノケ	佐賀県三養基郡麓村。
	アミンゴ	岡山県後月郡芳井町。
	アメ	鹿児島県肝属郡。
	アメゴ	長野県上田市；愛媛県 ^d 。
	アメジャコ	和歌山県。
	アメジョーガラ	奈良県磯城郡多武峰村。
	アメチョコ	三重県一志郡阿坂村。
	アメッコ	三重県一志郡阿坂村。
	アメノウオ	和歌山県伊都郡紀見村佳木。
	アメフリジャッコ	青森県・下北郡。
	アメンチヨ (アメンチヨ)	熊本県；熊本。
	アメンボー	静岡県駿東郡長泉村。
	アユコ	宮城県気仙沼市・本吉郡 ^d 。
	アリゲン	熊本県阿蘇郡 ^d 。
	アリザカナ	茨城県猿島郡 ^d 。
	アワクイ	愛知県知多市 ^d 。
	アワフキ	滋賀県 ^d 。
	アワボラ	神奈川県 ^d 。
	アワマキ	福岡県山門郡東山村広瀬。
	アントンバ	愛知県南設楽郡 ^d 。
	イオゴ	福岡県三潞郡三又村・大野島村中下・山門郡大和村明野； 福岡。
	イオンコ	宮城県西白杵郡七折村日ノ影。
	イカリ	栃木県那須郡 ^d 。
	イカリッコ	栃木県那須郡 ^d 。
	イキス	愛知県；愛知。
	イキスバエ	岐阜県海津郡。
	イキスバヨ	愛知県 ^d 。
	イキナゴ	徳島県 ^d 。
	イキンジャコ	滋賀県長浜市 ^d 。
	イキンジョ	京都府・木阪府・滋賀県；京都・大阪・滋賀。
	イケス	長野県下伊那郡；静岡県磐田郡・浜松市；愛知県海部郡； 佐賀県西松浦郡 ^d 。
	イケスバイ	愛知県 ^d 。
	イケスバエ	岐阜県海津郡。
	イケスバヨ	愛知県愛知郡 ^d 。
	イケナゴ	高知県吾川郡。
	イケンスバイ	愛知県 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	イケンスバエ	愛知県 ^d .
	イケンスバヨ	愛知県愛知郡長久手村.
	イゴ	徳島県 ^d .
	イサ	富山県小矢部市 ^d .
	イサーダ	広島県土佐伯郡高田村.
	イサギ	石川県 ^d .
	イササ	石川県河北郡津幡町・高松町上田名・七塚村（白尾・木津） ・宇ノ気村（指江・狩鹿野上山田）・英田村（能瀬・領家 ・谷内・御門）・羽咋郡南大海村・富山県西砺波郡北蟹谷 村臼谷；石川.
	イサザ	青森県黒石市；島根県 ^d .
	イササカ	富山県小矢部市 ^d .
	イササコ	石川県河北郡津幡町.
	イサザッコ	富山県西砺波郡北蟹谷村臼谷.
	イサダ	滋賀県；福岡県北九州市門司区 ^d .
	イサngo	石川県金沢市；石川県河北郡；石川県羽咋郡 ^d .
	イサンサ	石川県河北郡 ^d .
	イサンジョ	愛知県 ^d .
	イサンドオ	山口県柳井市 ^d .
	イシタタキ	滋賀県高島郡 ^d .
	イシビシヨ	滋賀県 ^d .
	イシャシャク	石川県金沢市 ^d .
	イシャシャコ	富山県小矢部市 ^d .
	イシャンコ	愛知県；三重県 ^d .
	イションカチ	大分県宇佐市 ^d .
	イシンコ	滋賀県 ^d .
	イシンゴ	岡山県後月郡明治村.
	イシンジャコ	滋賀県坂田郡；滋賀県東浅井郡 ^d .
	イシント	滋賀県長浜市 ^d .
	イシントコ	滋賀県長浜市 ^d .
	イシンチャコ	滋賀県長浜市 ^d .
	イシンプ	滋賀県長浜市 ^d .
	イシンプ	滋賀県長浜市 ^d .
	イシンプ	滋賀県長浜市 ^d .
	イシンプ	滋賀県長浜市 ^d .
	イシンプチ	滋賀県長浜市 ^d .
	イスンコ	富山県小矢部市 ^d .
	イダンコ	熊本県 ^d .
	イチネンビャ	岩手県江刺市 ^d .
	イチネンビャー	岩手県江刺郡米里村.
	イチン	福岡県豊前市 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	イッササ	石川県河北郡高松町金地.
	イッサンコ	石川県河北郡 ^d .
	イッサンダイ	兵庫県 ^d .
	イッスンカナクギ	宮崎県西臼杵郡 ^d .
	イッスンクギウオ (イッスンクギイオ)	宮崎県西臼杵郡高千穂村三田井.
	イッスンコ	富山県富山市; 富山県小矢部市 ^d .
	イッスンジャコ	滋賀県草津市 ^d .
	イド	福島県相馬郡 ^d .
	イトコメン	兵庫県宍粟郡 ^d .
	イトネブ	鳥取県八頭郡 ^d .
	イトヒキ	兵庫県朝来郡 ^d .
	イトマブリ	高知県香美郡美良布.
	イトマブリ	高知県香美郡美良布村.
	イトメンコ	愛知県東加茂郡 ^d .
	イトメンパ	愛知県豊川市 ^d .
	イナ	山口県大島郡 ^d .
	イナゴ	三重県四日市市西納屋町・徳島県徳島市斉田町・福岡県八女郡北山村樋ノロ・浮羽郡大石村高見.
	イナンボ	鳥取県 ^d .
	イビシ	福岡県京都郡行橋町行事.
	イビツナゴ	岡山県児島郡児島町.
	イビビ	栃木県河内郡 ^d .
	イビランチョ	福岡県田川郡大任村.
	イビンチロ	福岡県田川郡川崎村.
	イリウオ	福岡県柳川市 ^d .
	イリコ	広島県高田郡可愛村(常友・中馬)・郷野村・宮城県都城市.
	イリコンチョー	広島県深安郡; 広島県芦品郡 ^d .
	イワゲス	愛知県中島郡大里村.
	ウイキョ	福井県遠敷郡今宮村府中.
	ウイタゴ	兵庫県伊丹市 ^d .
	ウーケス	愛知; 愛知県東春日井郡小牧町.
	ウエンバエ	岡山県苫田郡 ^d .
	ウオゴ	福岡県三潞郡三又村・山門郡大和村明野; 福岡.
	ウオンコ	宮崎県西臼杵郡; 鹿児島県始良郡 ^d .
	ウカール	広島県三原市; 広島県御調郡 ^d .
	ウカビザッコ	秋田県仙北郡.
	ウカリメンメン	広島県安芸郡矢野町大井.
	ウカル	広島県三原市.
	ウキ	京都府与謝郡岩瀧町岩瀧・山口県大島郡.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ウキアガリコ ウキイオ ウキイオゴ ウキーンズ ウキウオ	岩手県西磐井郡一関町。 愛媛県 ^d 。 福岡県柳川市 ^d 。 愛知県海部郡。 広島県二田郡沼田下村・御調郡栗原町・深田村・福岡県宗像郡東郷町東郷。
	ウキオ ウキオス ウキギス ウキキンギョ ウキコ	広島県尾道市・愛媛県周桑郡庄内村旦之上（一部ノ人）。 香川県三豊郡豊浜町和田浜。 愛知県海部郡。 広島県芦品郡有磨村上有地。 山形県西置賜郡小国本村・高知県高岡郡・佐川町・宇佐町・北原村谷地。
	ウキゴ	岡山県小田郡陶山村・後月郡・芳井町・江原村・木之子村・広島県福山市・福岡県山門郡三橋村柳川。
	ウキゴメン ウキゴメンジャコ ウキサカナ ウキザコ ウキザゴ ウキザッコ ウキシコ ウギシコ ウキシャゴ ウキジャコ	京都府船井郡 ^d 。 京都府船井郡 ^d 。 茨城県下館市；滋賀県坂田郡 ^d 。 福井県大野郡大野町・福岡県山門郡三橋村木之元。 茨城県多賀郡；茨城県つくば市 ^d 。 山形県北村山郡大石田町大石田・亀井田村・横山村。 山形県山形市 ^d 。 山形県山形市 ^d 。 京都府綾部市 ^d 。 福井県大野郡大野町・大坂府南河内郡埴生村（野々上・伊賀）・滋賀県阪田郡六荘村・兵庫県川辺郡六瀬村。
	ウキジャッコ ウキショ ウキス	青森県・上北郡；青森。 愛媛県今治市 ^d 。 長野県下伊那郡飯田町・上郷村・鼎村・松尾村・龍丘村・伊賀良村北方・山梨県甲府市以西・北巨摩郡更科村・祖母石村・塩崎村・神山村・清哲村・穂坂村・旭村北原・大草村・龍岡村・愛知県一ノ宮市・西春日井郡新川町須賀口・山田村・中島郡今伊勢村馬寄・奥町・起町・海部郡・知多郡八幡町・日間賀島・丹羽郡古知野町・城東村・千秋村・東春日井郡小牧町・坂下町・高蔵寺町・志段味村・守山町・勝川町・葉栗郡木曾町・北方村・葉栗村・岐阜県岐阜市・大垣市・羽島郡上中島村沖・海津郡・今尾町・城山村山崎・養老郡・高田町・上多度村・下多度村・多芸村・不破郡綾里村・揖斐郡大和村・養基村脛永・山県郡・巖美村福富・武儀郡・美濃町・関町・下有知村・今宮・中有知村・可児郡今波町沓井・錦津村・恵那郡苗木町・加茂郡大田

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ		町・和知村・大阪府・同府大阪市・同府港区・三重県桑名市三崎通；長野・山梨・愛知・岐阜・大阪。
	ウキスイ	福井県。
	ウキスコ	山形県村山郡・東村山郡；山形。
	ウギスコ	山形県天童市 ^d 。
	ウキスッコ	山梨県中巨摩郡；静岡県藤枝市 ^d 。
	ウキスバエ	愛知県丹羽郡丹陽村・中島郡祖父江町。
	ウキスバヨ	愛知県愛知郡；愛知県小牧市 ^d 。
	ウキソ	岡山県上郡・阿哲郡；岡山。
	ウキソバイ	愛知県刈谷市 ^d 。
	ウキソバエ	愛知県刈谷市 ^d 。
	ウキソバヨ	愛知県 ^d 。
	ウキタ	石川県鹿島郡。
	ウキタタ	京都府 ^d 。
	ウキタバヤ	福岡県八女郡忠見村牟田。
	ウキチョー	岡山県後月郡西江原町。
	ウキチョコバエ	岡山県勝田郡。
	ウキチンバイ	山口県佐波郡 ^d 。
	ウキチンパイ	山口県佐波郡 ^d 。
	ウキッコ	茨城県水戸市 ^d 。
	ウギッコ	茨城県那珂郡；茨城県久慈郡 ^d 。
	ウキツコメ	茨城県那珂郡玉川村。
	ウキッチョ	愛知県西春日井郡 ^d 。
	ウキッポ	長野県下伊那郡 ^d 。
	ウキナコ	高知県長岡郡 ^d 。
	ウキナミ	山形県西村山郡 ^d 。
	ウキネンパ	鳥取県西伯郡高麗村稲。
	ウキノコ	高知県長岡郡・本山町大石・天坪村馬瀬・吉野村汗見・長岡村・大杉村・東豊永村・野市町西野・相川村・土佐郡地藏村・森村・土居。
	ウキノザメ	熊本県天草郡。
	ウキバエ	岐阜県大垣市・三重県一志郡高；岡村。
	ウキハヤ	三重県志摩郡長岡村国崎。
	ウキバヤ	広島県高田郡根野村上根。
	ウキバヨ	三重県多気郡大淀町。
	ウキビントン	福岡県糟谷那須恵村。
	ウキピンチョ	兵庫県氷上郡。
	ウキフナ	千葉県君津市 ^d 。
	ウキブナ	茨城県西茨城郡；千葉県君津市 ^d 。
	ウキボテ	兵庫県神戸市 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ウキメ ウキメイタンゴ ウキメメン ウキメン ウキメンコ ウキメンザ ウキモロコ ウキヨ ウキヨウメン ウキヨス ウキヨセン ウキヨッコ ウギョッコ ウキヨメン ウキョロコ ウキョロメン ウキヨンゴ ウキン ウキンキョ ウキンギョ ウキンギョー ウキンコ ウキンゴ ウギンゴ ウキンゴー ウキンゴロ	栃木県下都賀郡一部・高知県長岡郡。 兵庫県明石市 ^d 。 滋賀県 ^d 。 京都府亀岡市 ^d 。 埼玉県入間郡・加治村。 静岡県掛川市；静岡県磐田郡 ^d 。 大阪府南河内郡殖生村野々上。 埼玉県・北埼玉郡礼羽村。和歌山県有田郡石垣村。広島県尾道市・三原市和田町。御調郡吉和村。向島東村。深田村。向島西村。立花村。岩子島。愛媛県今治市。越智郡立花村。小西村。東伯方村。熊本県；埼玉。広島。愛知。熊本。愛媛県今治市 ^d 。 香川県三豊郡 ^d 。 群馬県沼田市 ^d 。 群馬県藤岡市；群馬県伊勢崎市；埼玉県加須市；新潟県中頸城郡 ^d 。 新潟県。 愛知県越智郡。 愛媛県今治市 ^d 。 愛媛県今治市 ^d 。 群馬県邑楽郡。 滋賀県彦根市；滋賀県犬上郡；滋賀県長浜市 ^d 。 滋賀県高島郡 ^d 。 愛知県中島郡奥町。福井県敦賀郡八村南前。大阪府北河内郡磐船村。広島県深安郡森脇村中古市。八尋村。中津原村新茶屋。沼隈郡松永町。芦品郡宜山村今岡。駅家村。 岡山県小田郡；広島県深安郡 ^d 。 滋賀県高島郡朽木。東浅井郡。犬上郡彦根町。岐阜県郡上郡。愛知県東春日井郡品野村。瀬戸市。丹羽郡羽黒村。犬山町。扶桑村。 岡山県小田郡矢掛町小林。金浦町。小田町。三谷村。北川村。美川村。内田。中川村。陶山村。大井村。吉田村。新山村。矢掛町。後月郡。西江原町。木之子村。吉備郡新本村。山田村。宮ノ上。藺村有井。穂井田村。広島県御調郡。深安郡下岩成村。上岩成村。八尋村表川。中津原村。森脇村。芦品郡国府町府川。宜山村今岡。駅家村；岡山。広島。 広島県御調郡。芦品郡。 広島県深安郡 ^d 。 岡山県浅口郡；岡山県吉備郡 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ウキンザ ウキンザコ ウキンジャ	栃木県芳賀郡 ^d . 滋賀県彦根市 ^d . 滋賀県大津市；滋賀県彦根市；滋賀県長浜市；滋賀県坂田郡；滋賀県東浅井郡 ^d .
	ウキンジャコ ウキンジョ	滋賀県犬上郡彦根町・東浅井郡. 京都府河鹿郡・大阪府北河内郡星田村・滋賀県神崎郡・愛知郡
	ウキンジョー ウキンス	京都府；滋賀県彦根市；京都府京都市 ^d . 愛知県一ノ宮市・瀬戸市・東春日井郡品野村・丹羽郡羽黒村・犬山町・扶桑村・岐阜県土岐郡・三重県貝奈郡立田村・滋賀県犬上郡彦根町.
	ウキンスバエ ウキンソ ウキンタ	岐阜県岐阜市；愛知県稲沢市 ^d . 三重県桑名郡多度村小山. 京都府；京都府南桑田郡・一円・千歳村国分・亀岡町安町・滋賀県・蒲生郡・神崎郡.
	ウキンダ ウキンタテ ウキンタン ウキンチャ ウキンチャク ウキンチャコ	大阪府北河内郡水室村穂谷. 京都府船井郡 ^d . 福井県遠敷郡三宅村三宅. 滋賀県大津市；滋賀県滋賀郡；滋賀県長浜市 ^d . 滋賀県長浜市 ^d . 滋賀県近江八幡市；滋賀県長浜市；滋賀県坂田郡；京都府京都市 ^d .
	ウキンチャボ ウキンチョ	京都府京都市 ^d . 愛知県・一ノ宮市・葉栗郡浅井町・葉栗村・西春日井郡一ノ部・丹羽郡古知野町・扶桑村・大口村・西成村・千秋村・中島郡祖父江町・岐阜県岐阜市・安八郡中川村中野・福井県三方郡十村岩屋・滋賀県犬上郡・阪田郡・大阪府南河内郡石川村一須賀・同府山田村・三重県員弁郡梅戸井村；愛知・岐阜・福井・滋賀・大阪・三重.
	ウキンチャー ウキンチョコ ウキンチョコバエ ウキンチョバイ ウキンチョバエ ウキンチョロ ウキンチョロー ウキンチョン ウキンニ ウキンバ ウキンパ	滋賀県大津市；滋賀県坂田郡；滋賀県伊香郡 ^d . 岡山県後月郡. 岡山県岡山市・津山市. 岐阜県岐阜市；愛知県 ^d . 岐阜県岐阜市；岐阜県各務原市；岐阜県羽島市；愛知県 ^d . 岡山県後月郡芳井町・明治村. 愛知県名古屋市 ^d . 福井県遠改郡三宅村三宅. 滋賀県・琵琶湖. 愛知県丹羽郡. 愛知県丹羽郡古知野町.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ウキンバイ ウキンパイ ウキンバウ ウキンバエ	岡山県津山市横山・苫田郡・一ノ宮村。 愛知県一宮市 ^d 。 岡山県阿哲郡 ^d 。 岡山県津山市・可児郡今渡町沓井・苫田郡久田村・東加茂村・久米郡佐良山村。
	ウキンバエー	岡山県阿哲郡。
	ウキンハヨ	岐阜県土岐郡市之倉。
	ウキンバヨ	三重県多気郡大淀町・愛知県東春井郡品野村。
	ウキンビ	長野県飯田市 ^d 。
	ウキンヒョウ	岐阜県 ^d 。
	ウキンベー	岡山県苫田郡 ^d 。
	ウキンボ	福井県大野郡小山村上舌。
	ウキンポ	京都府南桑田郡篠村山本。
	ウキンボー (ウキンバウ)	岡山県阿哲郡神代村・山口県大島郡。
	ウキンボヒ	広島県高田郡刈田村。
	ウキンヨ	愛媛県今治市 ^d 。
	ウクソバイ	愛知県刈谷市 ^d 。
	ウクメン	岡山県和気郡。
	ウケコ	愛知県名古屋市。
	ウケス	愛知県名古屋市・中区七曲町・西区山神町・一ノ宮市・愛知郡・一ノ部・東春日井郡鳥居松村・小牧町・篠木村・志段味村・坂下町・高蔵寺町・守山町・旭村・西春日井郡楠村味碗・西枇杷島町・庄内町・萩野村・楠村・豊山村・北里村・丹羽郡千秋村加納馬場・犬山町・古知野町・西成村・葉栗郡宮田村松竹・中島郡起町・三條・知多郡・岐阜県羽島郡抑津町・足近村南宿・三重県桑名郡伊曾島村・長島村下町；愛知・岐阜・三重。
	ウゲス	愛知県海部郡。
	ウケスパイ	愛知県愛知郡。
	ウケスパエ	愛知県一ノ宮市・丹羽郡丹陽村・中島郡稲沢町・東春日井郡庄内町・北里村。
	ウケスパヨ	愛知県東春日井郡鳥居松村・志段味村・西春日井郡味岡村。
	ウケスポ	岐阜県養老郡小畑村。
	ウケッポ	長野県下伊那郡 ^d 。
	ウケンコ	愛知県名古屋市・愛知郡・海部郡。
	ウケンジャ	滋賀県坂田郡六荘村。
	ウケンジャコ	滋賀県彦根市 ^d 。
	ウケンジョ	滋賀県彦根市 ^d 。
	ウケンス	愛知県一ノ宮市・西春日井郡庄内町・味岡村・中島郡今伊勢村

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ウゲンス	愛知県中島郡明治村.
	ウケンスバイ	愛知県中島郡明治村.
	ウケンスバエ	愛知県 ^d .
	ウゲンスバイ	愛知県中島郡明治村.
	ウケンスバエ	愛知県 ^d .
	ウケンチョ	愛知県名古屋市・一ノ宮市・中島郡稲沢町・明治村・起町 ・東春日井郡小牧町.
	ウケンチョー	愛知県名古屋市 ^d .
	ウケンチョバイ	愛知県中島郡起町.
	ウケンチョバエ	愛知県一宮市 ^d .
	ウケンチョロ	愛知県名古屋市 ^d .
	ウケンチョロー	愛知県愛知郡.
	ウケンバ	愛知県葉栗郡宮田村・西春井郡庄内町.
	ウケンバ	愛知県葉栗郡.
	ウケンボ	愛知県名古屋市.
	ウサギッコ	福島県相馬市 ^d .
	ウスボッコ	栃木県河内郡 ^d .
	ウズメッコ	新潟県東頸城郡.
	ウタッコ	静岡県富士郡・富士根村.
	ウチンコ	滋賀県高島郡 ^d .
	ウチンジャコ	滋賀県彦根市 ^d .
	ウチンチョ	愛知県稲沢市 ^d .
	ウッキンキョ	滋賀県高島郡 ^d .
	ウッキンコ	滋賀県高島郡 ^d .
	ウッコ	高知県土佐市 ^d .
	ウッコー	高知県土佐市 ^d .
	ウッゴ	福岡県三潞郡浦池村立石.
	ウッコメン	兵庫県神崎郡 ^d .
	ウッチンコ	滋賀県高島郡 ^d .
	ウッコー	高知県高岡郡宇佐.
	ウッドバイ	和歌山県西牟婁郡栗栖川村.
	ウドノコ	広島県 ^d .
	ウナクダバエ	岡山県御津郡豊岡村・後月郡井原町.
	ウノビコ	山形県東田川郡狩町狩川.
	ウノミ	山形県東田郡広野村興野・西田川郡袖浦村黒森・秋田県由利郡
	ウノミコ	山形県飽海郡・東田郡八栄里村茗荷瀬・広野村大淵・庄内.
	ウノミチョ	山形県酒田市横通町.
	ウノメ	山形県飽海郡南遊佐村宮内・西田川郡袖浦村十里塚・東田川郡藤島町.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ウノメチヨ	山形県泡海郡本楯村本楯・西荒瀬村下市神・南遊佐村宮内。
	ウノメッコ	山形県東田川郡藤島町。
	ウマクソ	福井県三方郡八村南川。
	ウマンジョー	香川県 ^d 。
	ウミコ	新潟県中頸城郡明治村玄増。
	ウミザッコ	山形県東田川郡；山形県鶴岡市 ^d 。
	ウミノコ	山形県東田川郡余目町余目・新潟県中頸城郡明治村玄増・岩船郡岩船町。
	ウミノチヨ	山形県酒田市・東田川郡余目町千河原。
	ウミノメッコ	山形県東田川郡 ^d 。
	ウミノメッチョ	山形県飽海郡 ^d 。
	ウミビコ	山形県東田川郡 ^d 。
	ウラガエシ	愛知県一ノ宮市。
	ウリビッコ	山形県東田川郡清川村清川。
	ウリミゴ	秋田県仙北郡土川村・刈和野町・峰吉川村。
	ウルイ	滋賀県長浜市；滋賀県坂田郡；奈良県奈良市 ^d 。
	ウルーメ	山形県鶴岡市・西田川郡。
	ウルゴ	秋田県南秋田郡。
	ウルゴミ	秋田県南秋田郡五城目町・仙北郡角館町。
	ウルゴメ	秋田県仙北郡角館町。
	ウルジメ（ウルヂメ）	秋田県河辺郡船岡村・南秋田郡金足村・秋田県。
	ウルジャッコ	青森県南津軽郡大鱒町・北津軽郡綴子村・釈迦内村・前田村。
	ウルズメ（ウルヅメ）	秋田県・秋田市・南秋田郡飯島村・外旭川村・寺内村・広山田村・金足村・河辺郡豊岩村前郷・八郎潟；秋田。
	ウルゾメ	秋田県南秋田郡。
	ウルドメ	秋田県由利郡亀田町。
	ウルノメ	秋田県由利郡亀田村・山形県鶴岡市。
	ウルノメッコ	山形県東田川郡 ^d 。
	ウルビコ	山形県東田川郡 ^d 。
	ウルベチヨ	山形県飽海郡。
	ウルミ	秋田県北秋田郡。
	ウルミコ	秋田県。
	ウルミゴ	秋田県南秋田郡一円・河辺郡一円・船岡村・由利郡一円・本荘町・東瀧沢村・鮎川村・仙北郡角館町・平鹿郡横手町・増田町・雄勝郡；秋田。
	ウルミヤコ	青森県南津軽郡黒石町。
	ウルメ	青森県・弘前市・西津軽郡鮎ヶ沢町・中村・舞戸村・鳴沢村・北津軽郡沿川村・長橋村・秋田県北秋田郡一円・仙北郡雲沢村下延・鹿角郡・山形県鶴岡市・東田川郡・西田川郡・新潟県新潟市・長岡市・三條市・岩船郡村上町・北蒲

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ		原郡一円・新発田町・水原町中島・中條町・金塚村・中浦原郡一円・村松町・鳥屋野村付近一帯・石山村・西蒲原郡一円・東蒲原郡津川町・両鹿瀬村・上條村・揚川村・南蒲原郡田上村羽生田・三島郡一円・大積村灰下・古志郡一円・北魚沼郡小千谷町・城川村・吉谷村・千田村・山辺村・中魚沼郡下條村・岩沢村池ノ平・真人村・刈羽郡一円・柏崎町・上條村久米西中通村・鯨波村・東頸城郡安塚村松崎・石川県珠洲郡・香川県三豊郡；青森・秋田・山形・新潟・石川・香川。
	ウルメァコ	秋田県北秋田郡。
	ウルメイ	青森県北津軽郡。
	ウルメカ	秋田県。
	ウルメコ	青森県弘前市・下北半島・東津軽郡全部・西津軽郡鯨ヶ沢町・中村・舞戸村・鳴沢村・南津軽郡黒石町裏町・石川町石川・柏木町柏木・女鹿沢村女鹿沢・富木館村・野沢村・五郷村北中野・六郷村・中郷村・尾上村・浅瀬石村・大光寺村・竹館村・町居村・北津軽郡板柳町・梅沢村・沿川村・長橋村若山・加瀬村・秋田県山本郡一円・能代港町・桧山町・金岡村・東雲村・八森村・山形県西田郡大山町・新潟県長岡市・北蒲原郡新発田町・東蒲原郡津川町・両鹿瀬村・上條村・揚川村・東頸城郡下保倉村山本・沖見村神谷・栃木県那須郡。
	ウルメゴ	秋田県北秋田郡一円・河辺郡・由利郡一円・亀田町・矢島町・平沢町・平鹿郡・雄勝郡・鹿角郡。
	ウルメザツコ	秋田県北秋田郡十二所町・釈迦内村・横内村・鹿角郡毛馬内町・仙北郡。
	ウルメジャコ	秋田県北秋田郡東館村・綴子村。
	ウルメジャツコ	秋田県北秋田郡上小阿仁村・七座村。
	ウルメチヨ	山形県飽海郡松嶺町・上郷村山寺・遊佐村・吹浦村布倉。
	ウルメチョー	新潟県加茂市 ^d 。
	ウルメッコ	青森県南津軽郡碓ヶ関村碓ヶ関・秋田県北秋田郡綴子村・東館村・鷹巣町・山形県鶴岡市・東田川郡・西田川郡・新潟県中蒲原郡鳥屋野村・石山村・三島郡大積村灰下・脇野町・中魚沼郡水沢村伊達・東頸城郡小黒村和田・中頸城郡直江津町・八千浦村・大養村・旭村六萬部・春日村・福井県足羽郡東河村；津軽
	ウルメッチョ	新潟県新潟市・中蒲原郡一円・西蒲原郡一円・岩船郡関谷。
	ウルメッチョー	新潟県加茂市 ^d 。
	ウルメン	新潟県北蒲原郡 ^d 。
	ウルメンコ	青森県南津軽郡女鹿沢村女鹿沢・秋田県山本郡森岳・金岡村・鹿角郡毛馬内町・花輪町。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ウルメンゴ	新潟県北蒲原郡；新潟県北魚沼郡 ^d 。
	ウルメンチョ	新潟県北蒲原郡 ^d 。
	ウルリ	滋賀県 ^d 。
	ウルリコ	滋賀県 ^d 。
	ウルリジャコ	福井県武生市 ^d 。
	ウルリンコ	福井県武生市；福井県南条郡；滋賀県高島郡 ^d 。
	ウルリンジャコ	福井県武生市；福井県南条郡；福井県今立郡 ^d 。
	ウルル	滋賀県 ^d 。
	ウルルク	滋賀県 ^d 。
	ルルミ	福井県 ^d 。
	ウルンジメ	秋田県 ^d 。
	ウルンズメ (ウルンツメ)	秋田県河辺郡・秋田県秋田市。
	ウロジ	滋賀県 ^d 。
	ウロジョメ	秋田県秋田市；秋田県男鹿市 ^d 。
	ウロニ	滋賀県琵琶湖。
	ウロミゴ	秋田県由利郡西瀧沢村森子・仙北郡蜂吉村中村・淀川村。
	ウロメ	新潟県新発田市；新潟県北蒲原郡 ^d 。
	ウロメコ	新潟県・山形県。
	ウロメチョ	新潟県北蒲原郡築地村。
	ウロメッコ	新潟県北蒲原郡 ^d 。
	ウロメッチョ	新潟県北蒲原郡 ^d 。
	ウロリ	三重県南牟婁郡泊村。
	ウロリー	滋賀県 ^d 。
	ウワイゴ	群馬県邑楽郡館林町・郷谷村・大島村・六郷村・渡瀬村・多々良村。
	ウワオヨギ	愛媛県松山市 ^d 。
	ウワジャコ	兵庫県印南郡 ^d 。
	ウワヨ	埼玉県北埼玉郡。
	ウワヨゴ	埼玉県北埼玉郡井泉村前井下組。
	ウンキョ	福井県遠敷郡今宮村府中。
	ウングルベァ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	ウングルベヤ	新潟県佐渡郡南部。
	ウンゴロビヤ	新潟県。
	ウンメ	新潟県北魚沼郡 ^d 。
	エーナ	鹿児島県始良郡 ^d 。
	エケス	岐阜県養老郡 ^d 。
	エササ	富山県小矢部市；石川県金沢市；石川県河北郡 ^d 。
	エササコ	石川県金沢市；石川県河北郡 ^d 。
	エダサ	石川県金沢市；石川県河北郡 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	エッチンコ	岡山県 ^d .
	エビシャ	兵庫県.
	エビシャン	兵庫県.
	エビチナゴ	岡山県倉敷市 ^d .
	エビチャ	熊本県玉名郡荒尾町.
	エビチング	岡山県児島郡琴浦町.
	エビツナゴ	岡山県児島郡・琴浦町.
	エビンチョ	福岡県田川郡 ^d .
	エビンチョコ	福岡県田川郡大任村・金田町・京都郡犀川村久留.
	エンツンマ	富山県下新川郡舟見町.
	エンドー	長野県東筑摩郡 ^d .
	エンドガラ	岡山県苫田郡 ^d .
	エンピンチャンゴ	鳥取県東伯郡.
	オータン	福岡県筑紫郡二日市町.
	オオネンパ	鳥取県西伯郡 ^d .
	オーハラコンパイ	岡山県真庭郡久世町草加部.
	オーハラゴンバイ	岡山県真庭郡久世町草加部.
	オオフルメ	新潟県佐渡郡 ^d .
	オオブルメ	新潟県佐渡郡 ^d .
	オオメジャコ	福井県勝山市 ^d .
	オオメダカ	東京都 ^d .
	オオメンジャコ	福井県勝山市 ^d .
	オオンゴロベ	新潟県佐渡郡 ^d .
	オカジャカ	青森県三戸郡 ^d .
	オカジャコ	青森県三戸郡五戸町.
	オガジャツコ	青森県三戸郡.
	オカフナッコ	青森県三戸郡 ^d .
	オカメ	長野県下伊那郡 ^d .
	オカメザッコ	長野県佐久市 ^d .
	オカメス	長野県下伊那郡 ^d .
	オカメッチョ	長野県下伊那郡 ^d .
	オキインス	岐阜県岐阜市 ^d .
	オキス	愛知県愛知郡 ^d .
	オギス	愛知県海部郡 ^d .
	オキタバヤ	福岡県筑紫郡二日市町.
	オギッコ	茨城県久慈郡 ^d .
	オキッタ	滋賀県高島郡 ^d .
	オキバリコ	滋賀県坂田郡 ^d .
	オキヨ	愛媛県今治市 ^d .
	オギョンボ	広島県安芸郡海田市町.

標準和名	地方名	地域
メダカ	オキン	新潟県佐渡郡；滋賀県愛知郡；滋賀県長浜市 ^d 。
	オキンキ	愛知県西春日井郡；愛知県犬山市 ^d 。
	オキンキョ	滋賀県高島郡 ^d 。
	オキング	滋賀県高島郡；愛媛県越智郡 ^d 。
	オキンギョバエ	愛知県西加茂郡 ^d 。
	オキンコ	愛知県丹羽郡犬山町・西春日井郡枇杷島町・清洲町。
	オキンコバイ	愛知県 ^d 。
	オキンコバエ	愛知県西春日井郡。
	オキンコバヨ	愛知県 ^d 。
	オキンザコ	滋賀県伊香郡 ^d 。
	オキンシャ	滋賀県彦根市；滋賀県長浜市；滋賀県伊香郡 ^d 。
	オキンジャ	滋賀県伊香郡。
	オキンジャク	滋賀県長浜市 ^d 。
	オキンジャコ	滋賀県滋賀郡・阪田郡米原町。
	オキンジャコー	滋賀県滋賀郡 ^d 。
	オキンジャワ	滋賀県坂田郡 ^d 。
	オキンジョ	滋賀県阪田郡醒井村一色。
	オキンショー	滋賀県彦根市 ^d 。
	オキンジョー	滋賀県坂田郡 ^d 。
	オキンショロ	岐阜県安八郡中川村中野。
	オギンジョロ	岐阜県不破郡宮代村。
	オキンス	愛知県西春日井郡・丹羽郡・中島郡今伊勢村馬寄。
	オキンスバイ	岐阜県岐阜市 ^d 。
	オキンスハエ	岐阜県岐阜市 ^d 。
	オキンスバエ	岐阜県岐阜市 ^d 。
	オキンタ	京都府京都市下京区・同府伏見区・同府船井郡園部町園部。
	オキンタコ	滋賀県長浜市；滋賀県坂田郡 ^d 。
	オキンタボ	京都府京都市 ^d 。
	オキンチコバエ	岡山県岡山市。
	オキンチャ	京都；京都府京都市・同府下京区・同府中京区；京都府。
	オキンチャク	滋賀県長浜市；滋賀県東浅井郡；滋賀県伊香郡 ^d 。
	オキンチャコ	滋賀県彦根市；滋賀県長浜市；滋賀県坂田郡；滋賀県伊香郡 ^d
	オキンチャボ	京都府・同府京都市。
	オキンチャボー	滋賀県滋賀郡 ^d 。
	オキンチュバエ	岐阜県岐阜市 ^d 。
	オキンチョ	愛知県葉栗郡北方村・岐阜県養老郡牧田村乙坂・福井県遠敷郡松永村（平野・東市場）；愛知・岐阜・福井。
	オキンチョウオ	岐阜県岐阜市 ^d 。
	オキンチョー	愛知県一ノ宮市。
	オキンチョーバイ	岐阜県岐阜市 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	オキンチョーバエ	岐阜県岐阜市 ^d .
	オキンチョコ	岡山県岡山市.
	オキンチョコバイ	岡山県津山市.
	オキンチョコバエ	京都府亀岡市；岡山県岡山市；岡山県津山市 ^d .
	オキンチョバイ	岐阜県岐阜市；岐阜県羽島郡；愛知県一宮市 ^d .
	オキンチョバエ	岡山県岡山市.
	オキンチョバヨ	岐阜県岐阜市；愛知県 ^d .
	オキンチョバイ	愛知県丹羽郡丹陽村・葉栗郡浅井村.
	オキンチョロ	岐阜県不破郡関ヶ原町関ヶ原.
	オギンチョロ	岐阜県不破郡；愛知県 ^d .
	オキントト	滋賀県坂田郡 ^d .
	オキンパ	岐阜県岐阜市 ^d .
	オキンバイ (工)	岡山県津山市小姓町.
	オキンバス	愛知県愛知郡；愛知県西加茂郡 ^d .
	オキンバリ	滋賀県坂田郡 ^d .
	オクメン	京都府亀岡市；京都府船井郡 ^d .
	オグルバイ	新潟県佐渡郡 ^d .
	オクロバエ	新潟県佐渡郡 ^d .
	オゲァコ	宮城県気仙沼市 ^d .
	オケショー	岐阜県 ^d .
	オケス	愛知県一ノ宮市・中島郡起町.
	オケンコ	愛知県名古屋市.
	オケンコバエ	愛知県西.
	オケンジャ	滋賀県彦根市；滋賀県長浜市；滋賀県坂田郡 ^d .
	オケンジャコ	滋賀県長浜市；滋賀県坂田郡 ^d .
	オケンジョ	滋賀県長浜市 ^d .
	オケンス	愛知県一ノ宮市・中島郡奥町・大里村・西春日井郡枇杷島町.
	オケンスパー	愛知県丹羽郡.
	オケンスバイ	愛知県中島郡萩原町.
	オケンスバエ	愛知県中島郡明治村.
	オケンスバヨ	愛知県稲沢市 ^d .
	オケンチャバエ	愛知県一ノ宮市.
	オケンチャボ	滋賀県大津市 ^d .
	オケンチョ	愛知県中島郡起町三條・丹羽郡布袋町・千秋村・岩倉町.
	オケンチョバー	愛知県丹羽郡丹陽村.
	オケンチョバイ	愛知県丹羽郡丹陽村・千秋村.
	オケンチョバエ	愛知県丹羽郡千秋村加納馬場.
	オケンバ	愛知県一ノ宮市・中島郡萩原町・葉栗郡宮田町.
	オケンバス	愛知県一ノ宮市・中島萩原町
	オケンパス	愛知県一宮市 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	オコソバエ	知県中島郡起町三條。
	オコメ	福井県南条郡武生町。
	オコメウオ	福井県武生市 ^d 。
	オコメサン	福井県武生市 ^d 。
	オコメザコ	福井県武生市 ^d 。
	オコメジャ	福井県 ^d 。
	オコメジャコ	福井県武生市；福井県南条郡；福井県鯖江市；福井県今立郡；福井県丹生郡 ^d 。
	オコメン	愛知県一ノ宮市。
	オコメンザコ	福井県武生市 ^d 。
	オコメンジャク	福井県南条郡 ^d 。
	オコメンジャコ	福井県武生市；福井県南条郡；福井県今立郡 ^d 。
	オコメンチャ	福井県武生市 ^d 。
	オゴリベ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オゴリベイ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オゴロベ	新潟県両津市；新潟県佐渡郡 ^d 。
	オゴロベイ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オゴロベン	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オコンバイ	愛知県中島市 ^d 。
	オジメ	鹿児島県；鹿児島県薩摩郡 ^d 。
	オジャメ	鹿児島県；鹿児島県薩摩郡 ^d 。
	オジョコザン	福井県坂井郡鳴鹿村上金居。
	オジン	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オスワ	長野県飯田市 ^d 。
	オスワッコ	長野県飯田市 ^d 。
	オセンコイオ	福岡県山門郡柳河町新町。
	オセンコウオ	福岡県山門郡柳川町・三橋村柳川。
	オタマッコ	静岡県焼津市 ^d 。
	オタンバ	愛知県西加茂郡ノ一部。
	オタンバイ	愛知県西加茂郡ノ一部。
	オチョメンジャコ	和歌山県那賀郡鹿生津村。
	オッキョウメン	福井県丹生郡志津村大森。
	オッコノコ	鹿児島県始良郡 ^d 。
	オッチョコチヨイ	岡山県児島郡下津井町下津井。
	オトメ	千葉県君津市；福井県今立郡 ^d 。
	オドメ	山形県庄内・鮎海郡・三重県度会郡。
	オトメッコ	千葉県君津市 ^d 。
	オトメヤッコ	千葉県君津市 ^d 。
	オトロンボ	長野県東筑摩郡 ^d 。
	オトンバヨ	愛知県西加茂郡 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	オナカウオ	長崎県西彼杵郡神浦村。
	オノメ	新潟県岩船郡 ^d 。
	オハナクサリ	愛知県 ^d 。
	オババウキス	愛知県名古屋市 ^d 。
	オヒメゴ	福岡県久留米市野中町。
	オベベ	佐賀県西松浦郡 ^d 。
	オベン	福井県大野郡勝山町。
	オベンジャク	福井県大野郡勝山町袋田。
	オベンジャコ	福井県大野郡勝山町。
	オボコ	静岡県磐田市 ^d 。
	オボソ	茨城県猿島郡；埼玉県 ^d 。
	オボロヘ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オボン	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オミナコ	秋田県；秋田県由利郡 ^d 。
	オミナンコ	秋田県。
	オミミンジャコ	兵庫県竜野市 ^d 。
	オミンジャコ	兵庫県揖保郡龍野町。
	オメ	兵庫県佐用郡 ^d 。
	オメザ	神奈川県川崎市 ^d 。
	オメダマ	静岡県浜松市 ^d 。
	オメッコ	愛知県東春日井郡・西春日井郡。
	オメンコツ	愛知県名古屋市 ^d 。
	オメンザコ	福井県大野郡勝山町。
	オユメジャコ	福井県南條郡反口。
	オメンチョ	愛媛県温泉郡；熊本県飽託郡 ^d 。
	オヤウルメ	新潟県新津市 ^d 。
	オヤニラミ	和歌山県日高郡 ^d 。
	オヤネラミ	岡山県上房郡；広島県三次市 ^d 。
	オユノミ	秋田県由利郡 ^d 。
	オヨギザコ	福井県大野郡勝山町。
	オヨノコ	秋田県由利郡金浦町。
	オヨノミ	秋田県由利郡金浦町。
	オヨミコ	秋田県；秋田県由利郡 ^d 。
	オングリバイ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オングルベ	新潟県両津市 ^d 。
	オングルベイ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オングルメ	新潟県両津市 ^d 。
	オンゴ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オンゴドメ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オンゴベ	新潟県両津市 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	オンゴリメ	新潟県佐渡郡河原田町。
	オンゴルベ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オンゴロ	新潟県佐渡郡。
	オンゴロハイ	新潟県佐渡郡。
	オンゴロバイ	新潟県佐渡郡外海府村。
	オンゴロバエ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オンゴロビャ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オンゴロベ	新潟県佐渡郡大部分。二宮村。
	オンゴロベイ	新潟県両津市；新潟県佐渡郡 ^d 。
	オンゴロベー	新潟県佐渡郡相川町・河崎村河崎・新穂村下新穂・加茂村。
	オンゴロミャー	新潟県佐渡郡。
	オンゴロメ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オンノメ	新潟県村上市 ^d 。
	オンロベ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	オンンス	岐阜県岐阜市。
	カアゴ	千葉県君津市 ^d 。
	カーナメ	埼玉県鴻巣市 ^d 。
	カイキン	島根県鹿足郡 ^d 。
	カイザッコ	岩手県江刺市 ^d 。
	カイチン	石川県羽咋郡 ^d 。
	カイナンゴ	香川県木田郡 ^d 。
	カカマメ	鹿児島県鹿児島郡谷山町中。
	カガメッコ	石川県羽咋市 ^d 。
	ガゴ	長野県下伊那郡 ^d 。
	ガゴタ	長野県 ^d 。
	カシッカ	福島県安達郡 ^d 。
	カジカ (カチカ)	埼玉県入間郡原市村唐竹・宮城県栗原郡若柳町片町・福島県田村郡・埼玉県入間郡・宮城県栗原郡極一小部分；埼玉・宮拭・福島。
	カジク	山梨県塩山市 ^d 。
	カジッカ	山梨県西八代郡 ^d 。
	カジドンコ	愛媛県松山市。
	カタクチ	三重県 ^d 。
	カタチン	石川県羽咋郡志雄町子浦・富永村石野町。
	カタメンッコ	鹿児島県日置郡 ^d 。
	カチカ	群馬県利根郡 ^d 。
	カチカコ	宮城県仙台市 ^d 。
	カチカッコ	茨城県結城郡 ^d 。
	カッカ	宮城県仙台市；福島県相馬市 ^d 。
	カツガビン	鹿児島県日置郡田布施村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	カッチンコ	兵庫県赤穂郡船坂村。
	カッノサネ (カツノサネ)	鹿児島県肝属郡串良町有里。
	カナガシラ	滋賀県伊香郡 ^d 。
	カナギ	秋田県仙北郡西明寺村小山田・雲沢村雲然。
	カナクギ	群馬県利根郡片品村。
	カナクギイオ	宮崎県西臼杵郡 ^d 。
	カナクギウオ	宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井・上野村田井本・岩戸村岩神。
	カナギャ	秋田県由利郡 ^d 。
	カナゴ	福井県坂井郡浜田郷村山岸・今立郡味真野村蓑脇。
	カナコン	富山県西砺波郡 ^d 。
	カナッコ	新潟県 ^d 。
	カナヘ	愛媛県越智郡 ^d 。
	カナメ	群馬県邑楽郡・長野県東筑摩郡。
	カナメコ	埼玉県鴻巣市 ^d 。
	カナメッコ	長野県上伊那郡 ^d 。
	カナメッコ	長野県下伊那郡 ^d 。
	カナヨ	福井県坂井郡細呂木町高塚。
	カナン	滋賀県 ^d 。
	カナンコ	福井県今立郡南中小村野田。
	カニタカ	石川県羽咋郡 ^d 。
	カニタタ	石川県羽咋郡 ^d 。
	カニチン	石川県羽咋郡 ^d 。
	カニビンチョー	島根県 ^d 。
	カネウチ	石川県河北郡 ^d 。
	カネザ	富山県 ^d 。
	カネザコ	富山県 ^d 。
	カネザッコ	富山県富山市・上新川郡堀川町西中野・新庄村・太田村・ 中新川郡寺田村。
	カネサン	富山県富山市 ^d 。
	カネザンコ	富山県富山市 ^d 。
	カネジャク	富山県富山市 ^d 。
	カネジャツコ	富山県上新川郡島村。
	ガネス	香川県三豊郡荘内村。
	カネタ	石川県羽咋郡 ^d 。
	カネダカ	石川県羽咋郡宮永村石野町。
	カネタタ	石川県金沢市上新町・羽咋郡南大海村・志雄町荻谷。
	カネタタキ	石川県羽咋郡志雄町出浜・南大海村・北大海村。
	カネタダキ	石川県羽咋郡志雄町出浜・南大海村。
	カネタタズ	石川県金沢市 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	カネマ	富山県滑川市 ^d .
	カネン	滋賀県 ^d .
	カネンタ	滋賀県坂田郡 ^d .
	カネンバ	島根県邑智郡.
	カマス	栃木県芳賀郡 ^d .
	ガメー	高知県土佐郡.
	カメザッコ	富山県中新川郡 ^d .
	カメン	兵庫県姫路市 ^d .
	カメンツ	岡山県 ^d .
	カメンド	兵庫県飾磨郡妻鹿町木場.
	カメンドー	兵庫県姫路市；岡山県 ^d .
	ガヤマ	宮城県宮城郡 ^d .
	カヨッコ	茨城県北相馬郡 ^d .
	カラカン	福井県武生市 ^d .
	カラスジャコ	福井県 ^d .
	カランコ	福井県今立郡 ^d .
	カルイシ	愛媛県越智郡 ^d .
	カレ	福井県坂井郡；福井県大野市 ^d .
	カワイコ	島根県仁多郡.
	カファイゴ	岡山県小田郡神島外村・愛媛県松山市.
	カワイナゴ	広島県因島市 ^d .
	カワエゴ	鳥取県米子市；鳥取県境港市 ^d .
	カワクジラ	福岡県久留米市南薫町・佐賀県三養基郡鳥栖町鳥栖.
	カワゴ	千葉県君津市 ^d .
	カワジャコ	奈良県吉野郡小村木津川.
	カワシラズ	静岡県焼津市 ^d .
	カワダイ	石川県鳳至郡大屋村.
	カンカト	石川県金沢市 ^d .
	ガンガラ	栃木県宇都宮市；栃木県河内郡 ^d .
	カンカロ	広島県竹原市；愛媛県 ^d .
	カンカンビイコ	島根県邑智郡.
	カンカンビイチャコ	広島県高田郡川根村川根.
	カンカンボ	福井県今立郡 ^d .
	カンカンポー	福井県今立郡 ^d .
	ガンガンマイリ	京都府舞鶴市 ^d .
	カンキイ	広島県竹原市 ^d .
	カンキロ	広島県竹原市；広島県豊田郡 ^d .
	カンコ	広島県高田郡吉田町・可愛村福原・豊田郡豊浜村豊島・沼隈郡松永町・千年村・浦崎村満越・百島村・田島村・加茂郡西條町；広島.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	カンコイ	愛媛県今治市 ^d .
	カンコー	広島県沼隈郡藤江村・芦品郡福相村相方.
	カンコーニ	広島県沼隈郡田尻村.
	カンコーリ	広島県沼隈郡；愛媛県今治市；愛媛県越智郡 ^d .
	カンゴーラ	岡山県倉敷市 ^d .
	カンコチ	広島県加茂郡西條町・寺西村.
	カンコチョ	広島県沼隈郡山手村.
	カンコチャー	広島県沼隈郡・豊田郡南方村尾原・御調郡久井村.
	カンゴチャー	広島県御調郡上川辺村三郎丸.
	カンコホリ	広島県沼隈郡鞆町平.
	カンコリ	愛媛県温泉郡.
	カンゴリ	広島県豊田郡 ^d .
	カンコロ	岡山県後月郡出部村・広島県三原市和田町・加茂郡竹原町・仁方町・広村・下見村・東野村・内海村・西條町・豊田郡長谷村・忠海村・幸崎町宇和島・瀬戸田町・南方村尾原・河内町・沼田東村・中野村・大長村・西生口村・東生口村・南生口村・北生口村・久友村・東野村・大崎上島・御調郡栗原町・土生町・江ノ内・同・県三庄町・吉和村・向島東村・美ノ郷村・深田村・向島西村・田熊村・沼隈郡百島村・瀬戸村・芦品郡福相村相方・愛媛県・松山市；岡山・広島.
	カンコロー	広島県豊田郡船木村・東野村矢弓・御調郡因ノ島.
	カンゴロ	岡山県倉敷市；岡山県浅口郡 ^d .
	カンゴロー	岡山県浅口郡玉島町・黒崎村（本村・砂美）・後月郡井原町.
	カンコロチョオ	広島県呉市；広島県豊田郡 ^d .
	カンコロチン	広島県呉市吉浦町.
	カンザコ	福井県今立郡 ^d .
	カンザッコ	富山県上新川郡針原村針原.
	カンジ	静岡県田方郡戸田.
	カンジッカー	静岡県庵原郡富士川町.
	カンジャコ	福井県今立郡北中山村落井.
	カンジャコー	広島県世羅郡 ^d .
	カンジャメ	福井県武生市；福井県南条郡 ^d .
	カンジョ	愛媛県今治市；愛媛県越智郡 ^d .
	カンジョー	愛媛県今治市 ^d .
	カンジョコ	愛媛県今治市；愛媛県越智郡 ^d .
	カンゼンゴ	香川県三豊郡.
	カンタ	石川県河北郡高松町内高松・羽咋郡一円・高浜町・羽咋町・末森村・南大海村・熊浦村・上熊野村志雄町（二口・子浦）上甘田村柴垣・堀松村・志加浦村・富永村石野町・邑

標準和名	地方名	地域
メダカ		知村（飯山・尾永）・越路野村千路・鹿島郡金丸村沢・余喜村酒井・御祖村小田中・富山県氷見郡熊無村・論田；石川・富山。
	ガンタ	石川県羽咋市 ^d 。
	カンタコ	石川県羽咋郡羽咋町・志雄町菅原・邑知村尾長。
	カンタザコ	福井県鯖江市 ^d 。
	カンタジャコ	福井県鯖江市 ^d 。
	カンタタ	石川県金沢市・南部・上新町・鹿島郡鹿島路村・東砺波郡井波町・山野村・高瀬村・南山見村・西砺波郡西太美村；石川。
	カンタダ	石川県金沢市 ^d 。
	カンドダ	石川県金沢市 ^d 。
	ガンタタ	石川県羽咋市 ^d 。
	カンタタキ	石川県羽咋郡志雄町子浦・南大海村・上熊野村・志加浦村。
	カンタダキ	石川県羽咋郡志雄町子浦・南大海村・上熊野村・志加浦村。
	カンドタキ	富山県東砺波郡東山見村。
	カンタタット	富山県東砺波郡 ^d 。
	カンタチ	石川県鹿島郡 ^d 。
	カントト	石川県羽咋郡志雄町子浦・志加浦村。
	カンタノコ	石川県羽咋郡 ^d 。
	カンタビ	石川県羽咋市 ^d 。
	カンタベ	石川県羽咋郡邑知村（円井・尾長）・富永村石野町。
	カンタポーボ	石川県河北郡 ^d 。
	カンタボボ	石川県羽咋郡南大海村。
	カンタメ	長崎県南高来郡 ^d 。
	カンタン	石川県羽咋郡邑知村飯山。
	カンタンコ	石川県羽咋市；石川県羽咋郡 ^d 。
	カンチ	石川県鹿島郡七尾町・西湊村津向。
	ガンチ	石川県鹿島郡越路村武部。
	カンチカ	福島県安達郡 ^d 。
	カンチコ	福井県福井市尾上上町。
	カンチコロ	広島県賀茂郡西高屋村。
	ガンチノコ	石川県羽咋市 ^d 。
	カンチャコ	広島県御調郡久井村・世羅郡西大田村。
	カンチャメ	福井県武生市 ^d 。
	カンチョ	石川県鹿島郡。
	カンチロ	広島県豊田郡鷺浦村。
	カンチコロ	広島県高田郡郷野村。
	カンチン	石川県羽咋郡羽咋町・邑知村飯山。
	カンヅメンチン	鹿児島県鹿児島市 ^d 。
	カントト	富山県東砺波郡東山見村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	カンナ	愛知県宝飯郡三谷町西新屋・石川県羽咋郡羽咋町。
	カンナメ	埼玉県北埼玉郡 ^d 。
	カンナメッコ	埼玉県北埼玉郡 ^d 。
	カンナンゴ	愛知県額田郡 ^d 。
	カンナンメ	愛知県額田郡 ^d 。
	カンノメ	愛知県豊川市 ^d 。
	カンバ	山形県 ^d 。
	カンパチ	三重県。
	ガンビショ	岐阜県不破郡宮代村。
	ガンピショ	岐阜県安八郡中川村。
	カンビンター	島根県邑智郡。
	カンビンチャー	島根県邑智郡。
	カンメンコ	兵庫県赤穂郡相生町。
	カンヨ	千葉県 ^d 。
	ガンロク	奈良県磯城郡上之郷村笠。
	ギイコ	千葉県 ^d 。
	ギオンボオ	広島県安芸郡 ^d 。
	ギギン	岡山県井原市 ^d 。
	キクス	岐阜県羽島郡柳津町。
	ギシャバエ	岡山県 ^d 。
	キス	長野県南安曇郡高家村飯田・三重県河芸郡黒田村。
	ギス	愛知県。
	キスッコ	長野県南安曇郡穂高町矢原。
	ギスッコ	長野県小県郡 ^d 。
	ギタラ	愛知県。
	ギノメ	群馬県 ^d 。
	キビナ	長崎県 ^d 。
	キビナゴ	長崎県対馬。
	キミジャコ	青森県八戸市 ^d 。
	キミジャッコ	岩手県九戸郡 ^d 。
	キミズ	福島県 ^d 。
	キミズッコ	福島県南会津郡 ^d 。
	キミヨ	鹿児島県大島郡名瀬町。
	キャーザッコ	岩手県江刺郡羽田村田茂山。
	キャナギ	秋田県仙北郡角館町。
	ギャラゴ	岩手県紫波郡；静岡県浜北市 ^d 。
	キャランコ	福井県今立郡 ^d 。
	ギャリ	熊本県天草郡。
	キュウタ	福井県 ^d 。
	キュキュバヨ	三重県多気郡西外城田村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ギョメ	熊本県葦北郡.
	ギョンボ	広島県安芸郡船越町・奥海田村.
	ギョンボー	広島県安佐郡三川村.
	キンギョノサカナ	香川県 ^d .
	キンギョバイ	三重県一志郡中原村.
	キンギョバチ	愛知県愛知郡 ^d .
	キンギョベ	和歌山県和歌山市 ^d .
	キンギョメ	和歌山県海草郡紀三井寺町紀三井寺.
	キンギョメダカ	熊本県熊本市.
	キンキロバイ	岡山県津山市.
	キンキンバヨ	三重県度会郡東外城田村勝田.
	キンギンバヨ	三重県伊勢市 ^d .
	キンクロ	福岡県 ^d .
	キンクロー	熊本県 ^d .
	キンコ	愛知県稲沢市 ^d .
	キンコー	愛媛県 ^d .
	キンコチャー	広島県豊田郡 ^d .
	キンコバ	愛知県 ^d .
	ギンゴバイ	愛知県名古屋市.
	キンコバエ	愛知県東春日井郡勝川町.
	キンコビャア	愛知県愛知郡 ^d .
	ギンコバエ	愛知県西.
	ギンゴバイ	愛知県名古屋市 ^d .
	キンコビャ	愛知県愛知郡.
	ギンゴビャ	愛知県愛知郡.
	キンサイ	京都府愛宕郡鞍馬村.
	キンザイ	広島県芦品郡府中町.
	ギンザバ	富山県西砺波郡 ^d .
	キンジャ	滋賀県東浅井郡 ^d .
	キンジャー	広島県府中市 ^d .
	キンジャーノコ	広島県芦品郡.
	キンジャコ	岡山県久米郡大井西村.
	キンジャノコ	広島県御調郡下川辺村.
	キンショオガン	広島県深安郡 ^d .
	キンス	岐阜県羽島郡笠松町.
	キンスコバイ	愛知県刈谷市 ^d .
	キンソバエ	愛知県刈谷市 ^d .
	キンタ	京都府京都市；京都府船井郡 ^d .
	ギンタ	岐阜県大垣市.
	キンダイ	広島県芦品郡広谷村東谷・国府町高木.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	キンタコ	京都府亀岡市 ^d .
	ギンタコ	岐阜県大垣市.
	キンタタ	石川県；金沢.
	キンタボ	京都府宇治市 ^d .
	キンチャ	京都府舞鶴市 ^d .
	キンチャコ	滋賀県長浜市 ^d .
	キンチャゴ	京都府京都市 ^d .
	キンチャー	広島県芦品郡日府町中須.
	キンチャボ	京都市深草東瓦町・和歌山県伊都郡高野町高野山.
	キンチョ	岐阜県・羽島郡笠松町・竹ヶ鼻町.
	ギンチョ	愛知県海部郡 ^d .
	キンチャー	愛知県海部郡 ^d .
	キンチョコバエ	岡山県津山市；岡山県久米郡 ^d .
	ギンチョコバエ	岡山県久米郡.
	ギンチョコバエ	岡山県津山市.
	ギンチョパイ	愛知県名古屋市 ^d .
	キンチョバエ	岐阜県岐阜市；岐阜県各務原市；岐阜県羽島郡；愛知県稲沢市 ^d .
	ギンチョバエ	愛知県西春日井郡北里村・春日村・岐阜県稲葉郡市橋村西ノ荘
	キンチョロ	愛知県稲沢市 ^d .
	ギンチョロ	愛知県海部郡 ^d .
	ギンチョロバイ	愛知県豊川市；愛知県宝飯郡 ^d .
	ギンツ	岐阜県安八郡名森村森部大明神.
	キンツブ	福井県坂井郡丸岡町.
	キンツボ	福井県坂井郡丸岡町.
	キントト	滋賀県栗太郡 ^d .
	キントロメン	清水市.
	キンノバイ	広島県御調郡.
	キンバ	愛知県西加茂郡挙母町.
	キンバ	愛知県豊田市 ^d .
	キンバイ	岐阜県土岐郡多治見町豊岡・三重県阿山郡東拓植村蔵戸.
	キンバエ	愛知県東加茂郡 ^d .
	キンバイ	山口県玖珂郡 ^d .
	キンバイロ	山口県徳山市 ^d .
	キンバイロー	山口県徳山市 ^d .
	ギンハエ	鹿児島県 ^d .
	キンパス	愛知県西加茂郡挙母町.
	キンパス	愛知県愛知郡；愛知県西春日井郡；愛知県豊田市；愛知県西加茂郡；愛知県東加茂郡 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	キンバチ	愛知県豊田市 ^d .
	キンバチ	愛知県西加茂郡 ^d .
	キンバヨ	岐阜県土岐郡土岐津町本郷.
	キンビシコ	高知県安芸郡.
	キンビチコ	高知県安芸郡甲浦町河内.
	キンブナ	千葉県市 ^d .
	キンペ	福井県 ^d .
	キンペー	福井県 ^d .
	キンボテ	滋賀県 ^d .
	キンマンカ	大坂府.
	キンマンザイ	大阪市西区阿波座.
	キンメ	山形県寒河江市；東京都 ^d .
	ギンメ	群馬県高崎市東町・茨城県結城郡絹村久保田・大阪府・山口県；群馬.
	ギンメコ	群馬県沼田市 ^d .
	キンメダカ	福岡県三池郡高田村（緋）.
	ギンメダカ	東京都 ^d .
	ギンメッコ	群馬県沼田市；群馬県利根郡 ^d .
	クイ	兵庫県神崎郡 ^d .
	クキ	群馬県沼田市；群馬県利根郡 ^d .
	クギ	兵庫県・広島県高田郡可愛村川本.
	クギウ（イ）オ	宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井.
	クキッコ	群馬県吾妻郡；群馬県沼田市；群馬県利根郡 ^d .
	クキノコ	群馬県沼田市；群馬県利根郡 ^d .
	クキボソ	群馬県前橋市 ^d .
	クギンコ	静岡県安倍郡 ^d .
	グズ	石川県河北郡 ^d .
	グズロ	熊本県八代郡 ^d .
	グズロー	熊本県八代郡 ^d .
	クソソダ	三重県 ^d .
	グタ	愛知県 ^d .
	クチボソ	群馬県群馬郡明治村.
	クヒ	兵庫県神崎郡 ^d .
	クロキンギョ	千葉県夷隅郡 ^d .
	グロ	三重県 ^d .
	クァンコロ	広島県豊田郡 ^d .
	クァンコロチョー	広島県三原市 ^d .
	グンキョ	石川県鳳至郡西保村.
	グンギョ	石川県.
	グンズロ	熊本県八代郡.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	グンチョ	石川県鳳至郡西保村。
	ケーモン	兵庫県美方郡 ^d 。
	ケーモンゴ	兵庫県。
	ケゴコ	山形県西置賜郡 ^d 。
	ゲシ	鹿児島県日置郡 ^d 。
	ゲスタラ	愛知県海部郡 ^d 。
	ゲスハイ	愛知県中島郡明治村。
	ゲスハエ	愛知県稲沢市 ^d 。
	ゲスバエ	愛知県中島郡大里村。
	ゲスンボ	福井県 ^d 。
	ケタコ	愛媛県大洲市 ^d 。
	ケッケジャコ	岡山県都窪郡 ^d 。
	ケマン	兵庫県養父郡高柳村米里。
	ケマンコ	兵庫県。
	ケマンゴ	兵庫県美方郡 ^d 。
	ケマンジャコ	兵庫県養父郡 ^d 。
	ケヤザッコ	岩手県水沢市 ^d 。
	ケロリ	滋賀県 ^d 。
	ケンケバエ	岐阜県加茂郡 ^d 。
	ケンケバヨ	岐阜県土岐郡泉町。
	ケンケンバヨ	岐阜県可児郡豊岡町。
	ゲンゴロ	鹿児島県 ^d 。
	ゲンジキ	岡山県御津町。
	ゲンジャラコ	広島県芦品郡常金丸村金丸。
	ゲンタバイ	山口県 ^d 。
	ケンチョー	愛知県知多市 ^d 。
	ケンチョーバエ	岐阜県可児郡伏見村。
	ケンチョバエ	愛知県丹羽郡丹陽村。
	ゲンチョバエ	愛知県海部郡 ^d 。
	ケンチョロ	山口県徳山市；山口県都濃郡 ^d 。
	ゲントラバエ	愛知県名古屋市 ^d 。
	ケンバ	岐阜県技郡明世村山野内。
	ケンバイ	山口県都濃郡 ^d 。
	ケンパイ	山口県津濃郡米川村・須々萬村・向道村大道理。
	ケンバイコ	山口県都濃郡 ^d 。
	ケンバイコ	山口県 ^d 。
	ゲンバイコ	山口県佐波郡。
	ケンバイコー	山口県都濃郡 ^d 。
	ケンバイチョ	山口県都濃郡 ^d 。
	ケンパイツ	山口県津濃郡米川村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ケンパイロ	山口県徳山市 ^d .
	ケンパイロー	山口県津濃郡加見村.
	ケンバス	愛知県一宮市；愛知県西加茂郡 ^d .
	ケンバヨ	岐阜県土岐郡・可児郡.
	ケンパヨ	岐阜県土岐郡肥田町.
	ゲンボ	広島県安芸郡船越町.
	ゲンボー	広島県安芸郡船越町.
	ゲンボーオ	広島県豊田郡沼田下村.
	コイオ	福井県坂井郡新保村新保.
	コインジョ	滋賀県長浜市 ^d .
	ゴウ	福岡県山門郡山村清水.
	コウオ	新潟県東頸城郡.
	コーセング	岡山県吉備郡・久代村.
	(コウセング)	
	コーセングー	岡山県総社市 ^d .
	コーセンボー	岡山県吉備郡久代村下向.
	コーチン	栃木県那須郡 ^d .
	コーバイ	京都府綾部市 ^d .
	コービン	兵庫県明石市；兵庫県西脇市 ^d .
	コーナゴ	群馬県沼田市 ^d .
	コーハラミ	愛知県一宮市 ^d .
	コービンジャコ	兵庫県明石市 ^d .
	ゴーマンジョー	香川県香川郡直島村.
	コーミヤ	愛知県名古屋市 ^d .
	コーミヤート	岡山県御津郡 ^d .
	コーミヤートー	岡山県御津郡 ^d .
	コーミヤードー	岡山県都窪郡中洲村.
	コーミンジャコ	兵庫県明石市 ^d .
	コーメートー	岡山県倉敷市 ^d .
	コーメン	福井県武生市；福井県南条郡 ^d .
	ゴーマン	兵庫県姫路市亀井町.
	コーメンジャコ	福井県南条郡；兵庫県養父郡 ^d .
	コーメンソー	愛知県名古屋市 ^d .
	コガンス	愛知県犬山市 ^d .
	コザ	茨城県多賀郡；茨城県つくば市 ^d .
	コザカ	茨城県猿島郡 ^d .
	コザカナ	長野県上伊那郡；静岡県 ^d .
	コザコ	茨城県新治郡 ^d .
	コザッコ	福岡県八女郡北山村樋ノ口.
	コザッコメ	茨城県水戸市；愛媛県宇和島市 ^d .
	コザッコメ	茨城県水戸市；愛媛県宇和島市 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ゴザメ	茨城県西茨城郡 ^d .
	コジキイオ	徳島県美馬郡；徳島県三好郡 ^d .
	コジキウオ	徳島県美馬郡.
	コジャコ	福井県遠敷郡知三村.
	コジョメ	福井県足羽郡酒生村.
	ゴズ	島根県隠地郡；島根県海士郡 ^d .
	コダカ	滋賀県東浅井郡 ^d .
	ゴチ	岐阜県 ^d .
	コチョンバエ	岐阜県岐阜市 ^d .
	コチョンパエ	岐阜県岐阜市 ^d .
	コツ	島根県.
	ゴッコ	岩手県沿岸地方.
	コッチン	広島県佐伯郡飛渡瀬村.
	ゴッパ	島根県八束郡 ^d .
	ゴツンボ	京都府天田郡福知山市岡・大坂府豊能郡歌垣村和田.
	ゴト	岐阜県 ^d .
	ゴトンボ	兵庫県 ^d .
	コナゴ	群馬県前橋市；福井県坂井郡 ^d .
	コニンジャコ	和歌山県伊都郡 ^d .
	コネバチ	島根県邑智郡 ^d .
	コバース	愛知県一宮市；愛知県尾西市 ^d .
	コハイ	愛知県一ノ宮市.
	ゴバイ	三重県名賀郡古山村.
	ゴバイ	三重県上野市；三重県名張市；三重県名賀郡 ^d .
	コバイコ	福井県吉田郡下志比村志比堺・遠敷郡口名田村谷田部・三重県安濃郡安濃村・櫛形村・阿山郡長田村・花之木村・名賀郡猪田村.
	コバイス	岐阜県羽島郡一円・足近村南宿.
	コバイス	岐阜県羽島市；岐阜県羽島郡；岐阜県安八郡 ^d .
	コバイソ	岐阜県安八郡；愛知県知多市；愛知県刈谷市 ^d .
	コバイタ	岐阜県羽島郡上中島村沖.
	コバイチョ	三重県・名賀郡花垣村・依那古村・矢持村・阿山郡長田村・城南村・上野町・花之木村・安濃郡片田村・員弁郡中里村；三重
	ゴバイチョ	三重県名賀郡花垣村・猪田村.
	コバイネ	三重県.
	コバインチョ	岐阜県 ^d .
	コハエ	岐阜県加茂郡田原村・福岡県田川郡川崎村.
	コバエ	愛知県丹羽郡扶桑村・葉栗郡草井村・西春日井郡豊山村・三重県桑名郡野代村中須・阿山郡；愛知・三重・湯浅・塩屋.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	コバエコ	愛知県刈谷市 ^d .
	コバエソ	愛知県愛知郡天白村野並.
	コバエソー	愛知県知多市 ^d .
	コバエチヨ	三重県阿山郡.
	コバコ	三重県度会郡柏崎村.
	コバズ	岐阜県羽島市 ^d .
	コバズ	岐阜県羽島郡福寿村.
	コハヤ	佐賀県三養基郡 ^d .
	コバヤ	福岡県三猪郡大塚村生岩.
	コバヨ	愛知県一ノ宮市・三重県河芸郡明村・安濃郡安東村・一志郡阿坂村・多気郡佐奈村五佐奈・度会郡・宮本村佐八・北浜村・城田村上地・小川郷村；愛知・三重・湯浅・塩屋.
	コバリコ	滋賀県高島郡.
	コバリンコ	兵庫県養父郡大屋村大屋市場.
	コバンジヨ	滋賀県伊香郡 ^d .
	コバンチヨ	三重県三重郡桜村.
	コバンバエ	愛知県丹羽郡岩倉村.
	コビセン	愛知県岡崎市.
	コビチコ	福岡県京都郡祓郷村徳永.
	コビッコ	静岡県静岡市 ^d .
	コビビン	兵庫県宍粟郡.
	コビビンジャコ	兵庫県神戸市 ^d .
	コビャーキン	愛知県知多市 ^d .
	コビャース	愛知県中島郡今伊勢村.
	コビャーソ	愛知県知多市 ^d .
	コビャート	岐阜県羽島郡下中島村・桑原村.
	コビラ	静岡県庵原郡 ^d .
	コビン	岡山県真庭郡美川村.
	コビンコ	滋賀県神崎郡 ^d .
	コビンシャゴ	兵庫県水上郡 ^d .
	コビンジャコ	兵庫県三田市 ^d .
	コビンス	愛知県丹羽郡楽田村・羽黒村・池野村・扶桑村.
	コビンタ	岐阜県岐阜市 ^d .
	コビンチャ	福井県足羽郡和田中町・三重県員弁郡大泉原村・兵庫県出石郡室埴村・徳島県板野郡堀江村牛尾島.
	コビンチ	兵庫県出石郡 ^d .
	コビンチコ	兵庫県右馬郡道場村日下部.
	コビンチャコ	兵庫県.
	コビンチャゴ	兵庫県；兵庫県豊岡市；兵庫県出石郡 ^d .
	コビンチヨ	岐阜県岐阜市・本巣郡生津村高屋・三重県桑名郡野代村

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ		(南之郷・中須)・員弁郡久米村・大長村・中里村・山郷村 ・大泉村・稲部村・河芸郡一身田町・玉垣村・兵庫県佐用 郡石井村桑野・福岡県田川郡大任村；岐阜・三重。
	コビンチョー	福岡県田川郡添田町。
	コビンチョコ。	福岡県京都郡黒田村。
	コビンチョゴ	岡山県津山市。
	コビンチョバイ	岐阜県羽島郡小熊村。
	コビンチョパイ	三重県桑名郡七取村。
	コビンチョバエ	三重県桑名郡七取村香取。
	コビンチョロ	福岡県築上郡八津田村字留津・田川郡上野村。
	コビンドー	山口県吉敷郡 ^d 。
	コビントト	兵庫県赤穂郡。
	コピントト	兵庫県神戸市 ^d 。
	コブセン	愛知県碧海郡矢作町尾崎。
	コブナ	佐賀県杵島郡南有明村。
	コベーチョ	岐阜県安八郡 ^d 。
	コベタコ	大阪府南河内郡金岡村金田。
	コベッコ	三重県阿山郡東拓植村上柘植。
	コベナ	福井県大野郡富田村(土打・七板)。
	コベン	三重県一志郡多気村。
	コベンジャコ	福井県大野市 ^d 。
	コベンジョ	三重県桑名郡 ^d 。
	コベンチャ	福井県坂井郡細呂木町菅谷。
	コベンチョ	三重県員弁郡神田村・桑名郡古浜村・長島村。
	コベンチョコ	三重県一志郡多気村。
	コベンバチ	三重県員弁郡久米村。
	コマ	福井県福井市 ^d 。
	コマート	岡山県吉備郡池田村見延・都窪郡清音村。
	コマード	岡山県吉備郡池田村見延。
	コマアード	岡山県都窪郡・向県浅口郡。
	コマアードー	岡山県倉敷市 ^d 。
	コマイオ	福岡県田川郡 ^d 。
	コマイジャコ	大阪府 ^d 。
	コマイチョ	三重県安芸郡 ^d 。
	コマイト	岡山県都窪郡早島町。
	コマイトー	岡山県都窪郡撫川町・吉備郡庭瀬町・高松町和井元。
	コマイドー	岡山県浅口郡西阿知村西原。
	コマウオ	福岡県田川郡大任村。
	コマエートー	岡山県御津郡大野村。
	コマエトー	岡山県都窪郡；岡山県総社市 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ゴマエト	岡山県御津郡 ^d .
	コマクラジャコ	青森県三戸郡北村剣吉.
	コマグラジャツコ	青森県・三戸郡.
	コマザコ	大阪府南河内郡河内村.
	コマジャ	奈良県生駒郡.
	ゴマジャ	奈良県生駒郡富雄村.
	コマジャコ	和歌山県日高郡湯川村財部.
	ゴマジャコ	奈良県生駒郡平城村・伏見村.
	コマジャツコ	青森県上北郡.
	コマダレ	福岡県築上郡八津田村西八田.
	ゴマッコ	和歌山県伊都郡 ^d .
	ゴマミ	富山県小矢部市 ^d .
	ゴマメ	福井県遠敷郡瓜生村上吉田・奈良県生駒郡平城村・伏見村 ・長崎県上県郡峯村三根・下県郡船越村賀谷.
	ゴマメツ	鹿児島県始良郡東襲山村.
	コマメントー	岡山県岡山市.
	コマヨ	三重県度会郡.
	コマン	岐阜県山県郡葛原村塩役・大阪府大阪市・兵庫県・飾磨郡 糸引村東山・養父郡建屋村(松ヶ原・船星森)・但馬関宮. 大阪府大阪市・熊本県球磨郡人吉町.
	ゴマン	
	コマンザコ	滋賀県甲賀郡 ^d .
	コマンジキ	大分県下毛郡山口村原口.
	コマンジャ	愛知県名古屋市・奈良県生駒郡伏見村・平城村.
	コマンジャク	京都府綾部市 ^d .
	コマンジャコ	大阪；京都府天田郡下夜久野村・大阪府大阪市・同府西区 阿波座・同府東区・同府此花区春日出町・同府南河内郡河 内村・同府埴生村伊賀・同府道明寺村(国分・北条・大井 ・道明寺・船橋・林)・同府中河内郡一帯・同府北河内郡 ・奈良県奈良市・添上郡大柳生村・礪本町・帯解町・生駒 郡生駒町・片桐村・南葛城郡葛村・滋賀県愛知郡葉枝見村 本庄・兵庫県姫路市・飾磨郡四郷村・養父郡関宮村三宅・ 氷上郡和田村・和歌山県伊都郡紀見村桂木・日高郡切目川 村古井・岡山県都窪郡早島町長津・
メダカ	コマンジャコ	大阪；京都府天田郡下夜久野村・大阪府大阪市・同府西区 阿波吉備郡日近村・香川県三豊郡観音寺町；京都・奈良・ 滋賀・兵庫・和歌山・岡山・香川；大阪府.
	ゴマンジャコ	奈良県奈良市・生駒郡平城村・富尾村・伏見村・磯城郡桜 井町・添上郡五ヶ谷村・吉野郡上北山村・下北山村・岡山 県吉備郡日美村日羽.
	ゴマンジュ	大分県下毛郡.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
	コマンジョ	兵庫県出石郡出石町・岡山県児島郡宇野町。
	ゴマンジョ	岡山県児島郡宇野町・香川県木田郡井戸村。
	コマンズ	熊本県球磨郡 ^d 。
	ゴマンズ	熊本県球磨郡藍田村木地屋。
	コマンズイ	福岡県豊前市 ^d 。
	ゴマンズイ	福岡県築上郡合河村大稗。
	コマンズー	熊本県球磨郡 ^d 。
	ゴマンズー	熊本県球磨郡。
	ゴマンゾ	熊本県球磨郡人吉町・水上村岩野。
	ゴマンゾー	熊本県球磨郡人吉町・黒肥地村。
	ゴマンダコ	奈良県・生駒郡富雄村。
	コマンダレ	福岡県築上郡八津田村西八田。
	コマンチョ	兵庫県養父郡養父市場村中迷地・福岡県京都郡。
	ゴマンチョ	岡山県吉備郡高松町・生石村。
	ゴマンチョー	岡山県吉備郡二萬村。
	コマンチョーロ	福岡県京都郡稗田村前田。
	コマンチョコ	福岡県京都郡犀川村久富。
	ゴマンチョコ	岡山県吉備郡池田村見延。
	コマンチョロ	福岡県京都郡稗田村上稗田・築上郡八津田村宇留津。
	コマンチロ	福岡県築上郡八津田村今津。
	コマンデー	大分県宇佐郡龍王村大村。
	コマンデハー	福岡県京都郡稗田村前田。
	ゴマント	岡山県都窪郡山手村岡谷・加茂村新庄下・菅生村・吉備郡生石村・服部村・阿曾村西阿曾・山田村宮ノ上・二萬村・総社町井出・足守町上足守。
	コマントー	岡山県吉備郡高松町和井元。
	ゴマントー	岡山県都窪郡三須村下林・吉備郡日近村・大井村大井・久代村下向。
	ゴマンドー	岡山県都窪郡。
	コマントト	兵庫県養父郡 ^d 。
	ゴマントト	岡山県吉備郡。
	ゴマントジャコ	岡山県吉備郡 ^d 。
	コマンバエ	岐阜県山県郡葛原村役。
	コマンベエ	奈良県大和郡；奈良県生駒市 ^d 。
	コミジャコ	和歌山県日高郡和田村入山。
	ゴミジャコ	奈良県添上郡東市村古市。
	コミミン	兵庫県宍粟郡。
	コミミンジャコ	兵庫県宍粟郡 ^d 。
	コミヤート	岡山県都窪郡茶屋町・浅口郡連島町西之浦・苫田郡一宮村。
	コミヤードー	岡山県浅口郡西阿知町。

標準和名	地方名	地域
メダカ	ゴミヤイト	岡山県御津郡横井村・今村。
	コミン	兵庫県明石市 ^d 。
	コミンジャ	兵庫県出石郡 ^d 。
	ゴミンジャク	奈良県奈良市。
	コミンジャコ	兵庫県明石市・有馬郡道場村塩田・印南郡伊保村中筋。
	ゴミンジャコ	兵庫県・奈良県山辺郡都介野村。
	コミンジョ	京都府京都市 ^d 。
	ゴミンタダキ	兵庫県芦屋市 ^d 。
	ゴミンチョチョ	兵庫県赤穂郡。
	コミントト	兵庫県赤穂郡。
	コメイト	岡山県岡山市；岡山県西大寺市 ^d 。
	コメート（コメエト）	岡山県岡山市；岡山。
	コメード	岡山県浅口郡西阿知町。
	コメートー	岡山県御津郡今村。邑久郡豊原村長沼。幸島村。上道郡芳野村。吉備郡菌村有井。
	ゴメキ	和歌山県伊都郡学文路村南馬場・有田郡宮原村道・保田村（星尾・須谷）；和歌山。
	ゴメキン	和歌山県伊都郡学文路村清水。
	コメクラ	信州松本平。
	コメザ	栃木県鹿沼市；山梨県山梨市；山梨県東八代郡 ^d 。
	コメザコ	富山県；山梨県山梨市；長野県下伊那郡 ^d 。
	コメザッコ	山梨県山梨市・塩山市・東山梨郡・東八代郡・西八代郡 ^d 。
	コメサン	福井県南条郡 ^d 。
	コメシバ	三重県一志郡 ^d 。
	コメシャコ	富山県 ^d 。
	コメジャコ	神奈川県高座郡藤沢町大鋸。福井県南部一帯。大野郡荒土村伊波。大阪府泉北郡和泉町。
	コメソ	愛知県知多市；愛知県刈谷市 ^d 。
	コメソハエ	愛知県名古屋市 ^d 。
	コメタ	京都府与謝郡野間村。
	コメダ	山梨県東八代郡黒駒村・富士見村。
	コメダカ	京都府 ^d 。
	コメダッカ	山梨県東八代郡 ^d 。
	コメダッコ	山梨県山梨市；山梨県西八代郡 ^d 。
	コメチャ	兵庫県城崎郡田鶴野村。
	コメチャコ	大阪府泉北郡上神谷村。
	コメチャゴ	京都府綾部市 ^d 。
	コメチャン	三重県・兵庫県出石郡小坂村。
	コメチャンコ	大阪府泉北郡和泉村黒島。
	コメチャンゴ	兵庫県出石郡。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	コメチヨロ	佐賀県西松浦郡 ^d .
	コメチヨロイオ	佐賀県西松浦郡 ^d .
	コメチヨロウオ	佐賀県西松浦郡 ^d .
	コメツ	愛知県知多郡.
	コメッカ	山梨県山梨市 ^d .
	コメッコ	愛知県東春日井郡味岡村・篠木村・丹羽郡犬山町.
	コメッタ	和歌山県伊都郡笠田町佐野.
	ゴメッタ	和歌山県伊都郡妙寺町.
	コメッチョ	愛知県西春日井郡北里村・和歌山県有田郡.
	ゴメッチョ	和歌山県・伊都郡妙寺町・有田郡田殿村.
	コメッチョバイ	三重県飯南郡宮前村.
	ゴメツチョヤ	和歌山県伊都郡妙寺町.
	コメット	奈良県宇智郡南宇智村牧野村.
	ゴメット	和歌山県橋本市；和歌山県伊都郡 ^d .
	コメッパ	三重県鈴鹿郡亀山町.
	コメト	岡山県邑久郡；岡山県西大寺市 ^d .
	コメトー	岡山県上道市 ^d .
	コメトト	兵庫県神戸市 ^d .
	コメトバ	奈良県宇智郡南宇智村.
	コメミン	兵庫県宍粟郡 ^d .
	コメメ	三重県阿山郡阿波村上阿波.
	コメメン	兵庫県宍粟郡.
	コメメンジャコ	滋賀県野洲郡 ^d .
	コメラ	長野県西筑摩郡田立村下切・三重県員弁郡河下村下喜町・丹生川村・石樽村・東藤原村・梅戸井村・中里村・水沢村.
	コメン	静岡県静岡市・岐阜県武儀郡下牧村片知・福井県敦賀郡中郷村・大阪府豊能郡池田町井口堂・同府泉南郡信達村（市場・大苗代）・奈良宇陀郡御杖村神末・宇智郡五条町・三重県員弁郡立田村・三重郡保々村・鈴鹿郡坂下村・一志郡下之川村・伊勢地村・飯南郡柿野町・粥見町・和歌山県北部・滋賀県滋賀郡・伊香郡高時村・兵庫県西宮市・姫路市・武庫郡良元村蔵人・川辺郡東谷村一庫・長尾村平井・有馬郡三田町・中野村・本庄村・美囊郡三木町・加東郡小野町・瀧野町高岡・社町・揖保郡斑鳩町・龍田村・赤穂郡矢野村・多紀郡篠山町・八上村・城北村・畑村・同野村・城南村・播磨芳田；静岡・岐阜・福井・大坂・奈良・三重・和歌山・滋賀・兵庫.
	ゴメン	京都府相楽郡加茂村大野・奈良県奈良市・添上郡・生駒郡・山辺郡・磯城郡・北葛城郡・箸尾町・合村川合・葛城郡・宇陀郡・兵庫県姫路市・飾磨郡飾磨町中島.

標準和名	地方名	地域
メダカ	コメンコ	神奈川県鎌倉郡戸塚町・静岡県静岡市・麻機南・奄原郡西奈村・志太郡高洲村兵太夫・東川根村・安倍郡美和村・福井県敦賀郡東郷郡村葉原・兵庫県揖保郡斑鳩町・龍田村・多紀郡・佐用郡三日月町・滋賀県；福井・神奈川・静岡・兵庫・滋賀。
	ゴメンコ	京都府船井郡高原村。
	コメンコメン	三重県飯南郡粥見町。
	コメンザ	静岡県榛原郡金谷町・志太郡岡部町佳島・焼津町・青島町前島・大富村中根新田・広幡村。
	コメンザー	静岡県志太郡焼津町。
	コメンサイ	岐阜県郡 ^d 。
	コメンザイ	愛知県南設楽郡 ^d 。
	コメンザコ	静岡県志太郡藤枝町・奈良県宇陀郡御杖村菅野。
	ゴメンザコ	京都府船井郡；兵庫県姫路市 ^d 。
	コメンザッコ	静岡県志太郡岡部町佳島・岐阜県揖斐郡。
	コメンジ	兵庫県。
	コメンシャ	三重県一志郡；京都府綾部市 ^d 。
	コメンジャ	静岡県静岡市・安倍郡・南蘘科村・志太郡・高洲村兵太夫・岐阜県大垣市久瀬川町・養老郡小畑村・安八郡中川村中野・京都府・同府何鹿郡志賀郷村（西河内・志賀郷）兵庫県出石郡神美村袴狭。
	ゴメンジャ	静岡県静岡市・安倍郡麻機村・福井県吉田郡松岡町・坂井郡木部村川崎・奈良県吉野郡大淀町増口。
	コメンジャー	兵庫県出石郡。
	コメンジャク	石川県羽咋郡羽咋町。
	ゴメンジャク	兵庫県印南郡 ^d 。
	コメンシャゴ	京都府天田郡上六人部村堀越。
	コメンジャコ	全国；岐阜県大垣市南顔町・福井県敦賀市・敦賀郡粟野村金山・中郷村・吉田郡上志比村藤巻・下志比村光明寺・坂井郡坪江村（笹岡・中川）・大野郡平泉寺村・富田村・小山村阿難・今立郡目高村・京都府京都市左京区南禅寺・乙訂郡向日町森本・久世郡一帯・富野荘村・大久保村・寺田村・南桑田郡一円・北桑田郡一円・船井郡一円・胡麻郷村・天田郡福知山市岡・何鹿郡・中筋村大島・志賀郷村志賀郷・大阪府三島郡清溪村・鳥飼村・豊能郡池田町井口堂・箕面村新稲・泉北郡一帯・久世村八田・上神谷村田中・泉南郡一帯・南中通村岡本・信達村市場・南河内郡東條村・金岡村金田・日置村西・国分村・奈良県奈良市・添上郡東里村中ノ川・生駒郡平群村・三郷村・豊雄村・生駒町・郡山町・山辺郡朝和村・磯城郡・東町・南葛城郡葛村・吉野

標準和名	地方名	地域
メダカ		郡中荘村・白根村・小川村・吉野町・高見村・大淀町・宇智郡野原村・那賀郡山崎村・田中村西大井・滋賀県大津市・粟太郡大宝村・野州郡河西村川田・中州村・愛知郡・高島郡朽木村・和歌山県・兵庫県武庫郡良元村蔵人・川辺郡西谷村・長尾村平井・伊丹町・有馬郡藍村・三輪町・高平村・本庄村・小野村・美嚢郡上淡海村・別所村・三木町・奥吉川村・中吉村川・河東郡来住村・河西郡富合村・印南郡別所村佐土新・飾磨郡御国野村御着・佐用郡三日月町・城崎郡八代村八代・国府村・三方村（栗山・羽尻・伊府・荒川・篠垣・殿付）多紀郡福住村・村雲村・味真村・西吹・古市村・岡山県・徳島県；岐阜・福井・京都・大阪・奈良・滋賀・岡山・徳島。
	ゴメンジャコ	福井県福井市。吉田郡下志比村東古市。坂井郡鳴鹿村友米・京都府相楽郡一円・加茂村。大阪府三島郡高槻町新町・豊川村道祖本。泉南郡。奈良県奈良市。添上郡帯解町。明治村。生駒郡豊雄村。平城村。伏見村。郡山町。龍田町。山辺郡。二階堂村。都介野村。朝和村。磯城郡。川東町。都村。高市郡高取町。真菅村。船倉村。越智岡村。新沢村。北葛城郡。箸尾町。磐園村。下田村。上牧村。河合村。百済村。南葛城郡。葛城村。御所町。宇陀郡。吉野郡白銀村。中荘村。吉野町。大淀町。上市町。下市町。和歌山県伊都郡紀見村辻。隅田村上兵庫。妙寺町。兵庫県印南郡別所村別所。
	コメンジャッコ	岐阜県揖斐郡八幡村・八幡。
	コメンジャラ	静岡県志太郡焼津町。
	コメンジャラー	静岡県焼津市 ^d 。
	コメンジョ	静岡県静岡市。麻機南。安倍郡。千代田村。美和村。志太郡岡部町内谷本郷。桂島。東益津村。岐阜県揖斐郡大和村。京都府何鹿郡；静岡・岐阜。
	ゴメンジョ	静岡県静岡市。川合。安倍郡美和村。愛媛県越智郡龍岡村。
	コメンジョー	京都府亀岡市 ^d 。
	ゴメンショー	石川県金沢市 ^d 。
	ゴメンジョー	和歌山県海草郡一帯。
	コメンショロ	京都府綾部市 ^d 。
	コメンジン	兵庫県高砂市 ^d 。
	コメンタ	兵庫県。三重県一志郡下之川村。
	コメンダ	山梨県西八代郡 ^d 。
	ゴメンタ	奈良県北葛城郡河合村。
	ゴメンダ	奈良県吉野郡大淀町土田。
	コメンター	奈良県北葛城郡。

標準和名	地方名	地域
メダカ	コメンタイ	大阪府羽曳野市 ^d .
	ゴメンタイ	奈良県・生駒郡龍田町.
	コメンダカ	静岡県志太郡豊田村小柳津.
	ゴメンタタキ	奈良県生駒郡・添上郡帯解町・磯本町・明治村・山辺郡・磯城郡・南葛城郡・北葛城郡.
	コメンタン	福井県遠敷郡三宅村仮屋.
	コメンチ	兵庫県尼崎市 ^d .
	コメンチャ	大阪府南河内郡丹比村・丹南村・黒山村・平尾村・野田村・兵庫県出石郡・三重県員弁郡七和村星川・徳島県板野郡住吉村住吉・勝瑞.
	ゴメンチャ	京都府亀岡市 ^d .
	コメンチャコ	和歌山県.
	コメンチャボ	京都府京都市 ^d .
	コメンチョ	静岡県静岡市・志太郡岡部町内谷本郷・岐阜県大垣市郭町・京都府天田郡・川合村・奈良県宇陀郡御杖村菅野・三重県桑名郡在良村・深谷村・員弁郡七和村・神田村・三重郡川原田村・川島村・神前村・常磐村・保々村・鈴鹿郡・同亀山町・関町・神辺村・加太村・坂下村・昼生村・井田川村・小田・牧田村・石薬師村・白川村・河芸郡神戸町・明村楠平尾・飯野村・河曲村・玉垣村・安濃郡神戸村・一志郡伊勢地村・下之川村・兵庫県印南郡大塩町・神崎郡鶴居村沢；静岡・京都・三重・兵庫.
	ゴメンチョ	兵庫県飾磨郡余部村.
	コメンチョー	三重県三重郡鶴川原村・鈴鹿郡庄野村.
	コメンチョーコ	三重県伊勢市 ^d .
	コメンチョーロ	三重県度会郡豊浜村植山新開.
	コメンチョコ	三重県一志郡下之川村・兵庫県赤穂郡赤松村.
	コメンチョジョ	愛知県額田郡 ^d .
	コメンチョチョ	兵庫県美嚢郡三木町・赤穂郡船坂村.
	コメンチョロ	岐阜県武儀郡洲原村上河和・三重県桑名郡古浜村.
	コメンチラ	愛知県豊橋市 ^d .
	コメント	兵庫県.
	コメンド	奈良県奈良市.
	ゴメント	兵庫県赤穂郡 ^d .
	コメントー	岡山県倉敷市・都窪郡帯江村.
	コメントト	兵庫県明石郡神出村・美嚢郡細川村・志染村・北谷村・加東郡中東条村・赤穂郡有年村東有年・高田村・鞍居村・高雄村・氷上郡.
	コメントパイ	奈良県宇智郡野原村.
	ゴメントパイ	奈良県宇智郡野原村.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	コメンバ コメンパ	三重県一志郡久居町。 静岡県引佐郡鎮玉村・三重県桑名郡桑部村・員弁郡七和村 ・三重郡保々村・鈴鹿郡関町・神辺村。
	コメンバイ	三重県飯南郡川俣村。
	コメンパー	京都府亀岡市 ^d 。
	コメンパイ	奈良県吉野郡大淀町下淵。
	コメンパチ	三重県三重郡小山田村・川島村。
	コメンバヤ	山梨県南巨摩郡 ^d 。
	コメンバリ	三重県河芸郡神戸町・安濃郡神戸村。
	ゴモ	宮崎県；鹿児島県 ^d 。
	ゴモクロ	鹿児島県指宿郡 ^d 。
	コモツコ	福岡県 ^d 。
	コモツツキ	福岡県宗像市 ^d 。
	ゴモノコ	宮崎県 ^d 。
	コモンジャコ	福井県武生市；京都府亀岡市 ^d 。
	ゴモンチン	鹿児島県 ^d 。
	ゴヨンコ	宮城県本吉郡気仙沼村。
	ゴヨンコザッコ	宮城県気仙沼市 ^d 。
	ゴリ	青森県・八戸市。
	ゴリキ	奈良県；熊本県山鹿市 ^d 。
	ゴリコ	青森県三沢市；青森県上北郡 ^d 。
	ゴリモチ	大阪府 ^d 。
	ゴリラ	奈良県生駒郡平城村・伏見村。
	コリン	滋賀県 ^d 。
	ゴリン	石川県珠洲郡・滋賀県甲賀郡水口町・広島県高田郡向原村 ・船佐村房後。
	ゴリンジャコ	滋賀県 ^d 。
	ゴリンジョ	広島県高田郡船佐村房後。
	ゴリンソー	広島県 ^d 。
	ゴリンチャコ	広島県深安郡 ^d 。
	ゴリンチャー	広島県芦品郡。
	ゴリンボ	京都府天田郡福知山市岡・大阪府豊能郡軟垣村和田。
	コリンメ	福井県今立郡 ^d 。
	ゴロ	茨城県那珂郡；千葉県香取郡 ^d 。
	ゴロキン	奈良県・高市郡高取町（上土伐・下土伐）。
	ゴロベ	新潟県両津市 ^d 。
	ゴロマー	愛知県中島郡起町。
	ゴロリ	宮崎県 ^d 。
	コワイソ	岐阜県安八郡大藪町楡保。
	ゴン	愛媛県。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ゴンガール	愛媛県越智郡 ^d .
	コンカメ	福井県坂井郡伊井村矢地.
	ゴンガラ	愛媛県越智郡弓削村（下弓削・上弓削）.
	ゴンゲー	広島県呉市吉浦町.
	ゴンゲタ	広島県佐伯郡鹿川村.
	ゴンゲラ	広島県呉市 ^d .
	ゴンゴ	岡山県 ^d .
	コンコメ	福井県坂井郡伊井村.
	ゴンゴラ	島根県八束郡.
	コンチョ	岐阜県各務原市 ^d .
	コンチョバエ	岐阜県岐阜市；岐阜県各務原市 ^d .
	コンチンバイ	三重県飯南郡宮前村.
	ゴンノメ	新潟県東頸拭郡菱里村二本木.
	コンバ	岐阜県山県郡.
	コンパ	岐阜県山県郡千疋村千疋.
	コンバイ	和歌山県西牟婁郡上芳養村古屋谷・秋津川村中村・三重県阿山郡上野町・東柘植村・山田村・布引村・府中村・三田村・小田村・名賀郡阿保町・薦原村・津村・神戸村・依那古村・花垣村・名張町・飯南郡川俣村・広島県安佐郡可部町；和歌山・三重
	コンパイ	愛知県葉栗郡浅井町・中島郡奥町・岐阜県・羽島郡足近村南宿・福寿村・三重県阿山郡河合村・名賀郡美濃波多村・名張町・岡山県上房郡上竹荘村・真庭郡勝山町勝山・久世町久世・久米郡大井東村・西川村・併和村.
	ゴンバイ	和歌山県日高郡清川村・高城村・西牟婁郡上芳養村日向・三重県阿山郡友生村・岡山県真庭郡・上郡.
	コンバイコ	三重県飯南郡波瀬村船戸・多気郡.
	コンバイゴ	岡山県苫田郡.
	コンパイコ	岡山県岡山市 ^d .
	コンパイゴ	岡山県後月郡明治村・上郡日里村・真庭郡落合町・久米郡.
	コンバイショー	広島県安佐郡中原村中野.
	コンバイス	岐阜県羽島郡 ^d .
	コンバイス	愛知県一ノ宮市・中島郡奥町・岐阜県稲葉郡・羽島郡一円・竹ヶ鼻町・小熊村・安八郡大藪町楡俣.
	コンバイソー	広島県安佐郡可部町.
	コンパイソー	岐阜県羽島郡柳津町.
	ゴンバイソー	愛知県名古屋市 ^d .
	コンパイタ	岐阜県羽島市 ^d .
	コンバイチョ	三重県阿山郡小田村・上野町・府中村・布引村・山田村・東柘植村・名賀郡阿保町・名張町・上津村・古山村・依那

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ		古村才良・比自岐村・花垣村・矢持村・薦原村。
	コンパイチヨ	三重県阿山郡長田村・河合村・西柘植村・壬生野村。
	ゴンパイチヨ	三重県名賀郡花垣村。
	コンパイチョー	広島県安佐郡深川村中深川。
	コンパイチヨ	広島県安佐郡中原村上原。
	コンバエ	愛知県丹羽郡・岐阜県稲葉郡各務村須衛・山県郡千疋村千疋・武儀郡・美濃町・関町・中有知村・下有地村・可児郡広見町瀬田・三重県阿山郡・山田村甲野・名賀郡比自岐村摺見。
	コンパエ	岐阜県岐阜市東材木町・稲葉郡常磐村・安八郡神戸村・岡山県津山市。
	ゴンバエ	愛知県丹羽郡岩倉町。
	コンパエス	愛知県葉栗郡 ^d 。
	コンバエチヨ	岐阜県岐阜市 ^d 。
	コンパス	岐阜県山県郡千疋村千疋。
	コンパス	岐阜県岐阜市・各務原市・羽島郡・関市；静岡県磐田市 ^d 。
	コンパチス	愛知県中島郡奥町・葉栗郡葉栗村・木曾川町。
	コンバヘイ	岐阜県。
	コンバヨ	岐阜県可児郡御嵩町。
	コンバヨ	愛知県丹羽郡・知多郡・岐阜県土岐郡。
	コンバリ	奈良県吉野郡小川村（鷲家口・小村）・山口県山間部。
	ゴンバリ	福井県若狭・遠敷郡・小浜町・大飯郡。
	コンバリコ	奈良県吉野郡小川村小村。
	コンバリコ	奈良県吉野郡小川村。
	ゴンバリコ	奈良県吉野郡。
	コンピャ	愛知県刈谷市 ^d 。
	コンピャース	愛知県一ノ宮市。
	コンピャート	岐阜県羽島郡上中島村沖・下中島村・桑原村。
	コンピラ	山口県吉敷郡仁保村。
	コンピラ	山口県吉敷郡仁保村。
	コンピラコ	山口県佐波郡 ^d 。
	コンピラゴ	山口県佐波郡 ^d 。
	コンビンシャン	兵庫県氷上郡 ^d 。
	コンプラパイ	岐阜県益田郡 ^d 。
	コンペアス	岐阜県羽島郡小熊村。
	コンペイ	和歌山県伊都郡高野町高野山。
	コンペイソー	愛知県一ノ宮市。
	コンペイロー	山口県佐波郡 ^d 。
	ゴンペー	奈良県吉野郡。
	ゴンペーゴ	岡山県浅口郡 ^d 。

標準和名	地方名	地域
メダカ	コンベエス	岐阜県羽島郡竹ヶ鼻町。
	コンベソー	岐阜県羽島郡笠松町。
	コンベヨ	愛知県知多郡八幡町。
	コンベラコ	福井県遠敷郡中名田村下田。
	コンベンシヨ	三重県四日市市 ^d 。
	コンペンタイ	京都府綴喜郡 ^d 。
	コンベンチヨ	三重県三重郡三重村。
	コンマイト	岡山県上道郡一円・西大寺村・都窪郡茶屋町・吉備郡。
	コンマイトー	岡山県都窪郡。
	コンマイドー	岡山県倉敷市 ^d 。
	コンミヤート	岡山県都窪郡 ^d 。
	コンミヤートー	岡山県岡山市 ^d 。
	コンミヤードー	岡山県浅口郡 ^d 。
	コンミヤドー	岡山県倉敷市 ^d 。
	コンミンチャ	滋賀県伊香郡 ^d 。
	コンメ	静岡県志太郡 ^d 。
	コンメイド	岡山県浅口郡 ^d 。
	コンメート	岡山県倉敷市・吉備郡日美村日羽。
	コンメートー	岡山県岡山市・都窪郡・庄村。
	コンメチヨ	三重県一志郡 ^d 。
	コンメトー	岡山県倉敷市 ^d 。
	コンメンザ	静岡県榛原郡金谷村。
	ザァゴッコ	茨城県西茨城郡 ^d 。
	ザァラッポ	長野県北佐久郡 ^d 。
	ザァッコ	佐賀県三養基郡旭村。
	ザァッコゴ	佐賀県三養基郡旭村。
	ザーラッポ	長野県。
	サイゴ	熊本県。
	サイゴヘ	熊本県。
	サイゴベ	熊本県荒尾市 ^d 。
	サイセンゴ	岡山県英田郡。
	サカコ	栃木県那須郡 ^d 。
	サカゴ	福島県相馬郡；栃木県那須郡 ^d 。
	サガゴ	栃木県那須郡 ^d 。
	サカナ	福島県安積郡；福島県南会津郡；福島県郡山市 ^d 。
	サクチ	鹿児島県 ^d 。
	サケノヨイド	滋賀県東浅井郡 ^d 。
	ザコ	東京府日野村・茨城県新治郡藤沢村東町・真壁郡古里村桑山・栃木県那須郡・長野県・富山県中新川郡大岩村・奈良県磯城郡川東町・岡山県真庭郡勝山町三田・福岡県大牟田

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ		市・直方市・飯塚市・遠賀郡中間町・八女郡水田村水田・山門郡大和村明野・三橋村木之元・瀬高町・太神・三池郡高田村・開村・銀水村・佐賀県三養基郡田代町・杵島郡北有明村・熊本県阿蘇郡波野村檜木野・八代郡吉野村・宮崎県都城市・上町・北諸県郡高城町高城・山之口村・高崎村・鹿児島県川辺郡川辺町・伊佐郡菱刈村・西太良村・始良郡牧園村・嚙嗙郡末吉町；茨城・長野・福岡・佐賀・熊本・宮崎・鹿児島。
	ザゴ	茨城県真壁郡上野村寺上野・栃木県芳賀郡物部村物井。
	ザコイオ	宮崎県西都市 ⁴ 。
	ザゴオ	福島県東白川郡；茨城県西茨城郡；茨城県久慈郡 ⁴ 。
	ザコッコ	埼玉県秩父郡西神村小森・茨城県西茨城郡岩瀬町久原。
	ザゴッコ	栃木県芳賀郡物部村物井。
	ザコピン	宮崎県。
	ザコミンツ	鹿児島県川辺郡知覧町・川辺町。
	ザコメ	埼玉県秩父郡大瀧村・吉田町・両神村・福岡県三池郡高田村・宮崎県・都城市・小松原町・北諸県郡沖水村郡元・志知池村・高崎村・西諸県郡高原町・鹿児島県伊佐郡大口町・羽月村・菱刈村・本城村・西太良村・始良郡栗野村・嚙嗙郡；埼玉・宮崎・鹿児島。
	ザゴメ	茨城県東茨城郡；茨城県西茨城郡；茨城県日立市；栃木県那須郡 ⁴ 。
	ザコメッコ	埼玉県秩父郡両神村小森。
	ザコメラ	鹿児島県鹿屋市 ⁴ 。
	ザコメンコ	宮崎県西臼杵郡。
	ザコメンツ	宮崎県北諸県郡山之口村。
	ザコメンド	埼玉県秩父郡大油村。
	ザコンコ	鹿児島県伊佐郡・薩摩郡。
	ザコンコッピ	鹿児島県曾於郡 ⁴ 。
	ザコンビ	鹿児島県曾於郡 ⁴ 。
	ザコンピ	宮崎県北諸県郡中郷村梅北・鹿児島県嚙嗙郡財部町・南俣・末吉町。
	ザコンピー	鹿児島県嚙嗙郡末吉町。
	ザコンピン	宮崎県都城市・北諸県郡高城町高城。
	ザコンベ	栃木県宇都宮市 ⁴ 。
	ザコンメ	宮崎県西臼杵郡・鹿児島県伊佐郡・始良郡。
	ササイゴ	佐賀県佐賀市 ⁴ 。
	ザザイ	佐賀県三養基郡北茂安村西尾。
	ササイゴ	佐賀県佐賀市。
	ササギブナ	千葉県東金市 ⁴ 。

標準和名	地方名	地域
メダカ	ササゴリ	石川県 ^d .
	ザザッコ	佐賀県三養基郡北茂安村。(東尾・西尾).
	ザザッコメ	千葉県木更津市 ^d .
	サザリ	福岡県三潞郡 ^d .
	ザッカ	福岡県久留米市豆津.
	ザックノコ	福岡県山門郡山川村清水.
	ザッコ	岩手県。上閉伊郡釜石町。気仙郡盛町。米崎村。横田村。 秋田県。山形県鶴岡市。福島県石川郡蓬田。茨城県筑波郡 島名村。真壁郡下館町。結城郡石下町新石下。山川村今宿 。西豊田村仁江戸。栃木県芳賀郡長沼村。埼玉県浦和市。 北足立郡与野町。土合村。尾間木村。三室村。大久保村。 千葉県市原郡養老村(松崎・新巻)。山武郡。静岡県小笠 郡平田村。大淵村。日坂村。引佐郡中川村。新潟県中魚沼 郡十日町。川治村。六箇町。西頸城郡市振村玉ノ木。長野 県北佐久郡一般。愛知県葉栗郡浅井町。富山県上新川郡東 岩瀬町。下新川郡大家庄村。飯野村。上原村。加積村。経 田村。魚津町。入善町。東砺波郡東野尻村苗加。岐阜県吉 城郡川井村。島根県。福岡県直方市。飯塚市。徳前。嘉穂 郡。碓井村。足白村馬見。稲築村鴨生。穂波村。桂川村土 居。三井郡北野町十郎丸。御井町。草野町上津荒木村。合 川村。山川村。宮ノ陣村(宮瀬・五郎丸)。山川村太郎原 。大橋村。善導寺村。小郡村小郡。御原村(二夕・二森) 。立石村吹上。三国村。大刀洗村。本郷村。味坂村(八坂 。今朝丸鯉坂)。弓削村石崎。大城村(赤司・舷)。金島 村。大堰村守部。高良内村。三潞郡大川町。城島町。大莞 村。西牟田村。荒木村。安武村安武本。大善寺村。三潞村 。木室村。犬塚村生岩。大溝村。福土。江上村江上上。青 木村江島。青木村下青木。木佐木村上木佐木。八女郡羽犬 塚町山ノ井。辺春村。川崎村山内。古川村久恵。水田村 (島田・下妻)。山門郡山川村清水。東山村広瀬。田川郡 伊田町。浮羽郡柴刈村。竹野村。大石村古川。姫治村。佐 賀県佐賀郡西川副村。神崎郡西郷村鶴田。城田村。境野村 。蓮池村。千歳村。東脊振村松隈。仁比山村城原。三養基 郡鳥栖町鳥栖。轟。麓村。旭村。中原村。北茂安村白壁。 田代町。南茂安村。上峯村。三川村。熊本県菊池郡。隈府 町。戸崎村。花房村。菊池村。加茂川村。阿蘇郡内牧村。 尾ヶ石村狩尾。黒川村。永水村永草。坂梨村馬場。山田村 今町中通村。西河原。上益城郡御船町瀧川。宮崎県；岩手 。茨城。埼玉。新潟。富山。福山。佐賀。熊本。千葉市原郡。 佐賀県佐賀市。
	ザッコ	

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ザツゴ	茨城県西茨城郡；佐賀県鳥栖市；佐賀県佐賀市；佐賀県佐賀郡 ^d 。
	ザッコー	福岡県三潞郡川口村一木。
	ザッコオゴ	佐賀県三養基郡三村。
	ザッコゴ	秋田県仙北郡・佐賀県佐賀郡上村・神崎郡仁比山村城原・三養基郡麓村・中原村・南茂安村天建寺・上峯村・北茂安村東尾。
	ザッコゴー	佐賀県三養基郡南茂安村。
	ザッコッコ	栃木県芳賀郡 ^d 。
	ザッコノコ	埼玉県飯能市 ^d 。
	ザッコバヤ	福岡県浮羽郡山春村三春
	ザッコペー	佐賀県三養基郡南茂安村。
	ザッコベエベ	佐賀県三養基郡三川村。
	ザッコペーペー	佐賀県神崎郡西郷村・境野村・蓮池村・三田川村・千歳村・東脊振村・三養基郡中原村・南茂安村・上蜂村。
	ザッコベベ	佐賀県佐賀郡久保田村徳万。
	ザッコマメ	熊本県熊本市 ^d 。
	ザッコメ	茨城県笠間市；茨城県西茨城郡；茨城県水海道市；栃木県塩谷郡；栃木県那須郡 ^d 。
	ザッパ	福岡県朝倉郡朝倉村山田。
	ザッパ	福岡県朝倉郡大福村石成・三井郡小郡村小郡・熊本県飽託郡錢塘村五丁。
	ザッパゴ	福岡県朝倉郡大福村石成。
	サナブリ	佐賀県 ^d 。
	サナボ	熊本県八代市 ^d 。
	サナボリ	福岡県 ^d 。
	サビラコ	高知県吾川郡森山村。
	ザミン	鹿児島県川辺郡 ^d 。
	ザメ	宮崎県東諸県郡高岡町・倉岡村・西諸県郡高原町。
	ザメァコ	宮城県石巻市。
	ザメコ	宮城県石巻市 ^d 。
	ザメン	鹿児島県川辺郡勝目村。
	ザメンコ	宮崎県小林市 ^d 。
	ザメンツ	鹿児島県川辺郡知覧町永里。
	サラオイ	鳥取県 ^d 。
	ザラッペ	岩手県気仙郡大船渡町。
	ザラメ	宮崎県西都市 ^d 。
	ザランペ	岩手県気仙郡大船渡町。
	ザンパ	愛知県中島郡起町三条。
	サンバチメザシ	愛知県一ノ宮市。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ザンミヤ	宮城県石巻市 ^d .
	ザンミヤコ	宮城県石巻市.
	ザンメ	静岡県費茂郡南中村.
	シイナ	鹿児島県 ^d .
	シェーゴ	福岡県朝倉郡 ^d .
	シェーマ	大分県東国東郡上伊美村・伊美村・熊毛村.
	シオカラッペ	山形県東村山郡高瀬村.
	シオノミ	長崎県上県郡 ^d .
	シクラ	鹿児島県大島郡 ^d .
	ジゴメ	福井県坂井郡伊井村伊井.
	ジコンベエ	岡山県津山市；岡山県勝田郡 ^d .
	ジコンボト	岡山県勝田郡.
	シシクイ	徳島県海部郡三岐田町（西由岐浦・木岐）.
	ジジナゴ	和歌山県東牟婁郡 ^d .
	ジジャメ	福井県坂井郡畝村市野.
	シシン	和歌山県.
	ジジン（ヂヂンコ）	熊本県下益城郡海東村・八代郡河俣村・野津村・文政村塩浜.
	シシンコマ	三重県南牟婁郡飛鳥村.
	ジジンジョ	香川県木田郡 ^d .
	ジジンチャコ	香川県綾歌郡 ^d .
	ジジンチョ	香川県木田郡 ^d .
	シッチミド	山口県玖珂郡 ^d .
	シデ	島根県邑智郡口羽村.
	シバシリ	福島県相馬郡 ^d .
	シビイ	鳥取県 ^d .
	シビタゴ	佐賀県.
	シビナ	熊本県天草郡.
	シビナゴ	佐賀県藤津郡嬉野町不動山.
	シビリンチョ	福岡県筑紫郡 ^d .
	シビン	福岡県糸島郡可也村松隈.
	シビンタ	福岡県粕屋郡；福岡県筑紫郡 ^d .
	シビンタゴ	熊本県.
	シビンタン	福岡県糟屋那須恵村.
	シビンチャ	熊本県菊池郡城北村.
	シビンチョ	福岡県；福岡県糸島郡 ^d .
	シビンチョー	福岡県糸島郡可也村松隈.
	シブタゴ	佐賀県神埼郡 ^d .
	シマジャ	福井県鯖江市 ^d .
	シマメ	兵庫県.
	シミズッコ	福島県東白川郡；福島県西白河郡 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	シミズメダカ	茨城県西茨城郡 ^d .
	シミンジャコ	兵庫県姫路市；兵庫県揖保郡；鳥取県八頭郡 ^d .
	ジミンジャコ	香川県香川郡多肥村上多肥。
	ジメキ	福岡県 ^d .
	シメト	岐阜県揖斐郡小島村市場。
	シメン	三重県・兵庫県神崎郡甘地村。
	シメンコ	京都府舞鶴市；兵庫県加西市；兵庫県多紀郡 ^d .
	シメンジャ	京都府綾部市 ^d .
	シメンジャコ	兵庫県揖保郡余部村下余部。
	シャーノウ (シャーノオ)	広島県芦品郡広谷村東谷・古市。
	シャゴ	兵庫県。
	ジャコ	岩手県二戸郡福岡町・石川県羽咋郡志雄町子浦・鹿島郡御祖村小田中・京都府京都市右京区京極・大阪府三島郡岸部村・奈良県磯城郡川東町・和歌山県伊都郡高野町高野山・兵庫県加東郡大部村・岡山県児島郡児島町・下津井町下津井・吉備郡生石村・苫田郡富村・英田郡・久米郡・広島県山県郡安野村・御調郡深田村・徳島県勝浦郡横瀬町坂本・三好郡佐馬地村境目・福岡県直方町・大分県大分郡戸次町川床・大野町夏足・合川村；石川・岡山・広島・徳島・福岡・大分。
	ジャコオ	滋賀県蒲生郡 ^d .
	ジャコゴ	和歌山県有田郡 ^d .
	ジャコテント	広島県芦品郡 ^d .
	ジャコノハエ	岡山県 ^d .
	ジャコバイ	三重県阿山郡花之木村下ノ庄。
	ジャコマ	岡山県苫田郡高野村野・勝田郡・勝間田町。
	ジャコマエ	三重県可山郡玉瀧村。
	ジャコメ	福井県坂井郡大関村（大味・下関）・長畝村赤坂・東十郷村田島・丸岡町・宮崎県都城市・鹿児島県伊佐郡。
	ジャコメエト	岡山県勝田郡 ^d .
	ジャコメト	岡山県勝田郡・高取村堂尾。
	ジャコメメ	石川県河北郡 ^d .
	ジャコメン	滋賀県甲賀郡 ^d .
	ジャコメント	岡山県津山市・勝田郡・勝加茂村・広野村。
	ジャコメントオ	岡山県勝田郡 ^d .
	ジャコンゴ	岡山県苫田郡。
	ジャコントー	岡山県苫田郡。
	ジャコンドー	岡山県苫田郡。
	ジャコンバ	岡山県苫田郡 ^d .

標準和名	地方名	地域
メダカ	ジャコンバイ	岡山県苫田郡・久米郡。
	ジャコンバイ	岡山県苫田郡。
	ジャコンバエ	岡山県苫田郡神庭村・久米郡弓削村。
	ジャコンパエ	岡山県津山市 ^d 。
	ジャコンパイ	鹿児島県曾於郡 ^d 。
	ジャコンベ	三重県阿山郡；滋賀県甲賀郡 ^d 。
	ジャコンボ	滋賀県・岡山県苫田郡。
	シャジ	滋賀県 ^d 。
	ジャジャイモ	三重県南牟婁郡木本町。
	ジャジャコ	茨城県鹿島郡；福井県丹生郡 ^d 。
	ジャジャミ	三宮県南牟婁郡有井村・泊村・木本町。
	ジャジャメコ	福井県吉田郡森田町八重巻。
	ジャジャメッコ	千葉県木更津市；千葉県君津市 ^d 。
	シャシャンコ	三重県安濃郡河内村下ノ垣内。
	ジャダミ	三重県熊野市 ^d 。
	ジャッカゴ	佐賀県三養基郡 ^d 。
	ジャッコ	青森県・八戸市・岩手県気仙郡高田町・岐阜県土岐郡土岐津町本郷・富山県東砺波郡東野尻村苗加。
	ジャッコ	佐賀県杵島郡 ^d 。
	ジャッコベーベ	佐賀県神埼郡 ^d 。
	ジャツコベーベ	佐賀県神埼郡神埼町・三田川村田手・東背振村。
	シャナゴ	福井県丹生郡 ^d 。
	ジャノコ	石川県羽咋郡志加浦村。
	ジャピンコ	岡山県浅口郡玉島町乙島。
	ジャピンコ	岡山県倉敷市 ^d 。
	ジャピング	岡山県浅口郡玉島町乙島。
	ジャピング	岡山県倉敷市 ^d 。
	ジャミ	静岡県小笠郡横須賀町・山口県彦島・愛媛県越智郡。
	ジャミゴ	山口県鮎毛郡阿月村。
	シャミセン	山口県大島郡 ^d 。
	ジャミノコ	三重県上野市 ^d 。
	ジャミン (ヂャミン)	鹿児島県川辺郡勝目村。
	ジャメ	京都府竹野郡 ^d 。
	シャメン	大阪府中河内郡八尾町。
	シャメンコ	京都府綾部市 ^d 。
	ジャメン	大分県佐伯市 ^d 。
	ジャンコロ	広島県御調郡深田村。
	シャンシャンメジャコ	大分県大分市。
	ジャンジャ	長崎県西彼杵郡 ^d 。
	ジャンバラ	山形県山形市。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ジャンバラコ	山形県北村山郡高崎村観音寺。
	ジャンピン	宮崎県北諸県郡 ^d 。
	シュウナゴ	熊本県。
	シュクミミングツー	沖縄県島尻郡（東北方面）。
	シュクミングワア	沖縄県島尻郡 ^d 。
	シュブタ	福岡県 ^d 。
	シュブタゴ	熊本県。
	シュブナゴ	熊本県。
	ジュンモク	東京都 ^d 。
	ショイショイ	京都府北桑田郡平屋村。
	ショーゴロ	愛媛県越智郡 ^d 。
	ジョーザメ	鹿児島県薩摩郡里村。
	ジョージャメ	鹿児島県薩摩郡 ^d 。
	ジョートク	佐賀県 ^d 。
	ジョーナメ	熊本県。
	ジョーバコ	山形県村山地方。
	ジョーガラ	山形県西村山郡 ^d 。
	ショーメン	広島県賀茂郡。
	ショーメンコ	広島県賀茂郡。
	ショイショイ	京都府北桑田郡 ^d 。
	ジョジョコ	石川県加賀市 ^d 。
	ジョジョナメ	熊本県八代郡大田郷町片ノ川。
	ジョジョメ	福井県武生市；愛知県豊川市 ^d 。
	ジョジョメン	兵庫県姫路市 ^d 。
	ジョションベ	福井県坂井郡鷺村浄土寺。
	ジョッカ	京都府 ^d 。
	ジョナメ	熊本県八代郡田浦町・宮崎県児湯郡。
	ジョバコ	山形県西村山郡西五百川村。
	ショバラコ	山形県寒河江市 ^d 。
	ショバラ	山形県西村山郡 ^d 。
	ショバラコ	山形県東村山郡高瀬村。
	ショピンチョ	京都府福知山市 ^d 。
	ショマ	京都府綾部市 ^d 。
	ショマコ	京都府綾部市 ^d 。
	ショマゴ	京都府綾部市 ^d 。
	ショマッコ	京都府何鹿郡西八田村岡安。
	ショマノコ	京都府綾部市 ^d 。
	ショマメ	京都府綾部市 ^d 。
	ショマメコ	京都府何鹿郡八田村上八田。
	ショマン	京都府綾部市 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ショマンコ	京都府福知山市；京都府綾部市 ^d .
	ショメン	兵庫県神崎郡 ^d .
	ジョメンコ	兵庫県姫路市 ^d .
	ジョメンジャコ	兵庫県姫路市 ^d .
	ジョンゴリベイ	新潟県佐渡郡 ^d .
	ジョンゴロ	新潟県佐渡郡.
	ジョンゴロオバイ	新潟県.
	ジョンゴロバイ	新潟県佐渡郡 ^d .
	ジョンゴロベ	新潟県佐渡郡 ^d .
	ジョンゴロベイ	新潟県佐渡郡 ^d .
	ジョンゴロマイ	新潟県佐渡郡.
	ジョンゴロメ	新潟県佐渡郡 ^d .
	ジョンゴロメエ	新潟県佐渡郡 ^d .
	ションションイオ	佐賀県三養基郡田代町永吉.
	ジョンバ	山形県西村山郡柴橋村.
	ジョンバイコ	岡山県小田郡吉田村吉田.
	ジョンバコ	山形県山形市・南村山郡東沢村・榎沢村・瀧山村・南沼原村・飯塚村・東村山郡鈴川村・千歳村・西村山郡宮宿町宮宿・柴橋村中郷.
	ジョンバナコ	山形県山形市；山形県天童市 ^d .
	ジョンバラ	山形県東村山郡成生村・西村山郡谷地町・西里村・溝延村北谷地村・北村山郡楯岡町・袖崎村・長瀬村・西郷村・大倉村・山口村.
	ジョンバラコ	山形県南陽市 ^d .
	ジョンバラコ	山形県山形市・南村山郡東沢村・榎沢村・瀧山村・西沼原村・飯塚村・東村山郡山辺町・天童町・蔵増村・津山村・千布村・楯山村・鈴川村・千歳村・明治村・大郷村・金井村・大寺村・西村山郡谷地村・柴橋村中郷・西里村・溝延村・北村山郡山口村・東置賜郡宮内町.
	ジョンピラコ	山形県西置賜郡 ^d .
	ジョンホラコ	山形県 ^d .
	シラシ	宮城県仙台市 ^d .
	シラス	石川県；静岡県志太郡；静岡県榛原郡；佐賀県藤津郡 ^d .
	シラタ	埼玉県羽生市 ^d .
	シロッパヤ	山梨県南都留郡 ^d .
	シロッパ	富山県 ^d .
	シロメダカ	東京都 ^d .
	シロメットンソー	和歌山県海草郡西和佐村栗栖.
	シンゲン	山口県大島郡久賀町.
	シンコ	石川県金沢市 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	シンコオ	石川県金沢市 ^d .
	ジンゴ	佐賀県佐賀郡 ^d .
	ジンジコ	兵庫県津名郡広石村・香川県仲多度郡善通寺町.
	ジンジャコ	滋賀県長浜市 ^d .
	ジンビ	香川県仲多度郡広島村立石.
	シンパー	山口県玖珂郡灘村保津.
	ジンマイ	石川県金沢市 ^d .
	ス	長野県下伊那郡 ^d .
	スイジンサン	愛媛県周桑郡庄内村実法寺.
	スイスイ	愛知県葉栗郡浅井町・兵庫県多紀郡篠山町東部.
	スイスイジャコ	京都府北桑田郡神吉村.
	スイスイタナゴ	鳥取県西伯郡.
	スイチョン	滋賀県長浜市 ^d .
	スイッコ	長野県長野市 ^d .
	スイナゴ	熊本県玉名郡.
	スイメンコ	鳥取県.
	スイメンゴ	鳥取県気高郡；鳥取県八頭郡 ^d .
	ズーナメ	宮崎県宮崎市.
	スーミンコ	鳥取県.
	スーメンゴ	山口県 ^d .
	スーヨ	富山県下新川郡前沢村.
	ズーラメ	熊本県.
	スエゴ	福岡県朝倉郡宝珠山村福井.
	スエンコ	大分県日田市 ^d .
	スクマアミグワ	沖縄県島尻郡高嶺村.
	スクラ	鹿児島県名瀬市 ^d .
	ズスメコ	広島県豊田郡 ^d .
	ススリコ	和歌山県日高郡和田村.
	スッシャンコ	三重県安濃郡河内村下ノ垣内.
	スナスリ	広島県 ^d .
	スナバイ	広島県高田郡 ^d .
	ズナミ	鹿児島県鹿屋市 ^d .
	スナメグリ	福島県相馬郡 ^d .
	ズナメ	高知県幡多郡橋上村楠山・熊本県天草郡浦村・宮崎県東諸 県郡高岡町・倉岡村・児湯郡一円・妻町・鹿児島県日置郡 川内町・肝属郡串良町有里・大始良村・嚙嗚郡志布志町・ 大崎村・西志布志村.
	スナモグリ	長野県佐久市 ^d .
	スナンベ	福島県安達郡 ^d .
	スブラコ	高知県香美郡三島村.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	スヘザカナ スボクチ ズマメ	茨城県猿島郡 ^d . 福岡県 ^d . 宮崎県・鹿児島県肝属郡高山町・始良村・贈嶽郡志布志町志布志.
	スミン スミンゴ スメッコ	鳥取県八頭郡中私都村. 鳥取県八頭郡 ^d . 静岡県安倍郡中薬科村・清沢村・志太郡瀬戸谷村市之瀬・瀬戸谷村.
	ズメラ スメンコ スメンゴ ズメンコ スメンジョ スメンチャコ スルルングワ スルルングワー ズラメ スロップ スンメ スンメッコ セイゴ セイモン セーゴ (セエゴ) セーマ セーマン (セエマン) セーマンコ セーマンチロ セゴ セビチョオ セビライオ セフグ セマンコ ゼリンコ センカチ センコ センゴ センコイオ センコウオ センコオ センコオメタカ	鹿児島県鹿屋市；鹿児島県肝属郡 ^d . 大分県速見郡中山香村. 静岡県安倍郡清沢村. 鹿児島県肝属郡高山町・始良村. 静岡県安倍郡中薬科村. 広島県御調郡羽和泉村. 沖縄県那覇市 ^d . 沖縄県那覇市. 鹿児島県肝属郡 ^d . 富山県 ^d . 静岡県安倍郡 ^d . 静岡県安倍郡 ^d . 大分県日田郡夜明村. 大分県東国東郡武蔵町. 和歌山県日高郡印南町宇杉・福岡県朝倉郡宝珠山村福井. 大分県東国東郡・姫島村. 大分県東国東郡来浦町来浦・富来町. 大分県東国東郡富来町. 大分県東国東郡伊美村・奈狩江村. 大分県日田郡三芳村. 佐賀県三養基郡 ^d . 佐賀県三養基郡 ^d . 広島県 ^d . 大分県東国東郡富来町. 福岡県福岡市西部. 石川県鳳至郡三弁村小泉. 大分県日田郡五馬町・福岡県築上郡三毛門村沓川・山田村. 大分県日田郡五馬町. 福岡県山門郡三橋村南矢ヶ部. 福岡県柳川市 ^d . 大分県日田市 ^d . 埼玉県比企郡 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	センゴ	大分県日田郡 ^d .
	ゼンゴ	千葉県木更津市 ^d .
	センコバエ	大分県日田郡東有田村羽田.
	センゴブナ	福岡県築上郡三毛門村三楽.
	センコメタカ	埼玉県入間郡.
	セントコ	福島県田村郡 ^d .
	センバガワラ	熊本県荒尾市 ^d .
	センバラ	岐阜県 ^d .
	センピ	三重県 ^d .
	センビキ	茨城県稲敷郡; 千葉県香取郡 ^d .
	センビキザッコ	茨城県稲敷郡; 千葉県佐原市; 千葉県香取郡 ^d .
	センビキザッコオ	千葉県香取郡 ^d .
	センビンキョオ	茨城県稲敷郡 ^d .
	センビンジャコ	山口県山口市 ^d .
	センベンキョ	茨城県稲敷郡 ^d .
	センベンキョオ	茨城県稲敷郡 ^d .
	ゼンマイゴ	岡山県倉敷市 ^d .
	ゾーアナメ	熊本県阿蘇郡山田村今町.
	ゾオゾ	熊本県.
	ゾーゾー	熊本県菊池郡隈府村.
	ゾーゾーナメ	熊本県玉名郡弥富村岩崎.
	ゾーゾナミ	熊本県.
	ゾーゾナメ	熊本県菊池郡砦村.
	ゾーゾマメ	熊本県玉名郡; 熊本県菊池市 ^d .
	ゾーナーメ	熊本県阿蘇郡 ^d .
	ゾーナマ	熊本県.
	ゾーナメ (ゾウナメ)	熊本県熊本市・仲間町・花園町・晝津町・飽託郡一円・川尻町・八分寺村・清水村・中緑村・銭塘村五丁・並建村・宇土郡・大嶽村古場・玉名郡伊倉町・八嘉村・小田村・弥富村岩崎・築山村・鹿本郡一円・山鹿町・植木町・来民町・稲田村・大道村・中富村・菊池郡・隈府町・大津町・戸崎村・花房村・菊池村・加茂川村・清泉村・砦村・阿蘇郡宮地町・高森町・尾ヶ石村の石・黒川村・錦野村外牧・永水村永草・古城村手野・坂梨村豆札・山田村・今町・上益城郡御船町瀧川・河原村・下益城郡松橋町・隈庄町・砥用町・当尾町・年弥村・東砥用村・豊川村砂川・杉合村・守富村・八代郡鏡町・葦北郡水俣町・宮崎県・鹿児島県揖宿郡宮ヶ浜; 熊本.
	ゾオナメゴ	熊本県.
	ゾーナン	熊本県.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ゾーマメ	熊本県下益城郡 ^d .
	ソーマンゴリ	石川県 ^d .
	ソーマンザコ	鹿児島県薩摩郡里村.
	ソーマンジャ	長崎県西彼杵郡 ^d .
	ソーマンジャコ	鹿児島県薩摩郡 ^d .
	ソーマンダイ	長崎県西彼杵郡 ^d .
	ソーレンコ	新潟県佐渡郡 ^d .
	ゾゾナミ	熊本県八代郡鏡町.
	ゾゾナメ	熊本県下益城郡小川町・河江村・小野部田村・中山村・豊野村・豊福村・豊川村・砂川・豊田村・八代郡大田郷町長田・野津村・河俣村・高田村高下.
	ゾゾナメンコ	熊本県芦北郡 ^d .
	ゾゾノメ	熊本県八代郡 ^d .
	ゾゾマメ	熊本県下益城郡；熊本県八代郡 ^d .
	ゾッパヤ	福岡県浮羽郡 ^d .
	ゾッパヤ	福岡県浮羽郡山春村三春.
	ゾトメ	福井県敦賀郡粟野村公文名・遠敷郡烏羽村山内・瓜生村安賀里・野木村玉置.
	ゾナメ	熊本県宇土郡三角町・松合町・紹田村・玉名郡緑村・阿蘇郡中通村・下益城郡小川町・豊野村・豊福村・豊川村・杉上村・杉合村・北郡湯浦村・天草郡今津村合津・宮崎県宮崎市・宮崎郡一円・佐土原町・春田・赤江町・清武村加納・田野村・生目村・生目・瓜生野村・那珂村・広瀬村・住吉村・木花村・青島村・児湯郡都町・妻町・都於郡村・都於郡南村・南那賀郡飫肥町・福島町・吾田村・東郷村・酒谷村・榎原村・北方村；熊本・宮崎.
	ゾナメンコ	熊本県葦北郡南部一帯・佐敷町・水俣町・二見村・湯浦村・宮崎県南那珂郡飫肥町.
	ゾマメ	宮崎県.
	ソメグリ	石川県石川郡 ^d .
	ソメンザコ	鹿児島県国分市 ^d .
	ソラメ	三重県・和歌山県有田郡烏屋城村.
	ゾラメ	熊本県.
	ゾンバイ	和歌山県日高郡切目村島田・西牟婁郡下芳養村.
	ゾンバイ	和歌山県西牟婁郡 ^d .
	ターイユ	鹿児島県大島郡；沖縄県那覇市 ^d .
	ターズ	沖縄県平良市 ^d .
	ターズー	沖縄県平良市 ^d .
	ターズズー	沖縄県宮古郡・平良町.
	(ターズズウ)	

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	タービーゴ	島根県美濃郡.
	タービーロー	島根県美濃郡.
	ターミングワ	沖縄県国頭郡崎本部村.
	ターユー	沖縄県那覇市 ^d .
	ターロ	富山県 ^d .
	タイ	鹿児島県大島郡 ^d .
	タイウオ	広島県安芸郡 ^d .
	タイエー	長崎県西彼杵郡 ^d .
	タイオ	三重県志郡加茂村・広島県安芸郡下蒲刈島村・島根県那賀郡.
	タイカンポー	広島県佐伯郡・厳島町.
	タイゴ	島根県浜田市 ^d .
	タイゴー	島根県浜田市；島根県那賀郡 ^d .
	タイゴジョ	大分県速見郡.
	タイゴジョー	大分県別府市・速見郡亀川町.
	タイコマ	広島県深安郡 ^d .
	タイコンシャ	山口県熊毛郡 ^d .
	タイコンショ	山口県熊毛郡平生町高須・大野村.
	タイコンボ	広島県広島市古田町.
	タイコンポー (タイコンボウ)	山口県大島郡屋代村・玖珂郡柳井町・余田村・熊毛郡平生町・田布施町・佐賀村・大野村・曾根村向井原・麻里布村・麻郷村・東荷村.
	タイジョ	山口県大島郡.
	タイジョー	山口県大島郡 ^d .
	タイジョーゴ	山口県美祢郡秋吉村・大分県別府市・速見郡亀川町.
	タイタイ	熊本県八代市 ^d .
	タイチャーロー	島根県益田市 ^d .
	タイチン	広島県広島市古田町・佐伯郡五日市町.
	タイチンボ	広島県広島市古田町・佐伯郡五日市町・河内村.
	タイチンホー	広島県広島市古田町.
	タイチンポー (タイチンボオ)	広島県・広島市古田町.
	タイチンポー	広島県広島市 ^d .
	タイナ	和歌山県西牟婁郡串本町・山口県玖珂郡柳井町・熊毛郡阿月村・徳島県海部郡.
	タイナホオ	山口県熊毛郡 ^d .
	タイナボ	山口県柳井市 ^d .
	タイナンボオ	山口県柳井市；山口県玖珂郡；山口県熊毛郡 ^d .
	タイノコ	島根県.
	タイノホ	山口県光市 ^d .
	タイノホオ	山口県柳井市；山口県光市；山口県熊毛郡 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	タイバン	和歌山県西牟婁郡串本町。
	タイビー	島根県美濃郡二条村・小野村・安田村。
	タイビーゴ	島根県益田市 ^d 。
	タイビーロ	島根県美濃郡豊田村横田。
	タイビロー	島根県美濃郡益田町・吉田町山路・鎌手村鎌手。
	(タイビイロー)	
	タイビロ	島根県鹿足郡。
	タイビロー	島根県美濃郡益田町。
	ダイビロー	島根県益田市 ^d 。
	タイホ	島根県那賀郡。
	タイホー	静岡県引佐郡・島根県那賀郡下府村・山口県熊毛郡室積町 ・麻里布村・麻郷村・吉敷郡秋穂村・島根県那賀郡下府村。
	タイホーゴ	山口県熊毛郡 ^d 。
	タイボー	山口県柳井市 ^d 。
	タイボヤ	鹿児島県薩摩郡 ^d 。
	タイホロ	島根県。
	タイマ	長崎県長崎市 ^d 。
	タイメイタン	山口県下松市 ^d 。
	タイメン	山口県玖珂郡由宇村中倉。
	タイムントー	岡山県岡山市。
	タイムンノコ	山口県玖珂郡由宇村中倉。
	タイユ	鹿児島県大島郡。
	タイヨ	福岡県宗像郡吉武村吉留。
	タイヨー	島根県江津市 ^d 。
	タイヨーサン	京都府与謝郡岩瀧町。
	タイロ	島根県那賀郡。
	タイロー	島根県那賀郡。
	タイロービービー	島根県那賀郡 ^d 。
	タイワシ	和歌山県西牟婁郡串本町・佐賀県唐津市神田・東松浦郡入 野村晴気。
	タインジョ	山口県大島郡日良居村。
	タウオ	佐賀県；長崎県；滋賀県大津市；福岡県遠賀郡 ^d 。
	アウエッコ	群馬県沼田市 ^d 。
	タウルメ	岩手県。
	タエコンボ	山口県熊毛郡 ^d 。
	タエコンボオ	山口県熊毛郡 ^d 。
	タエナ	山口県柳井市 ^d 。
	タエンジョ	山口県大島郡日良居村。
	タエンポー	山口県玖珂郡。
	タカガミ	沖縄県・那覇市。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	タカチカ	群馬県利根郡古馬牧村政所。
	タカツチロ	福岡県 ^d 。
	タカノミザッコ	静岡県引佐郡 ^d 。
	タカバミ	沖縄県那覇市・島尻郡豊見城村・渡嘉敷村・座間味村・粟国村・渡名喜村・小緑村。
	タカビンチョ	鹿児島県日置郡田布施村。
	タカボーミ	沖縄県中頭郡。
	タカマー	沖縄県中頭郡中城村。
	タカマーイユグワ	沖縄県中頭郡美里村。
	タカマーブン	沖縄県那覇市。
	タカマーミ	琉球。
	タカマーミー	沖縄県島尻郡大里村。
	タカマミ	沖縄県那覇市・首里市・島尻郡小緑村・豊見城村・渡嘉敷村・座間味村・粟国村・渡名喜村・伊平屋村・中頭郡；沖縄。
	タガマミ	鹿児島県川辺郡 ^d 。
	タカマミー	沖縄県島尻郡大里村・国頭郡名護町・本部村。
	タカマミーグワ	沖縄県首里市。
	タカマミンチョ	鹿児島県日置郡田布施村。
	タカマメ	鹿児島県鹿児島市・鹿児島郡谷山町・中・揖宿郡揖宿町十町・今泉村岩本・山川町福元・川辺郡知覧町・枕崎町・東鹿籠・萬世町・大崎・小湊・加世田町・日置郡伊集院町・伊作町和田・串木野町・東市来村養母・田布施村・大野・阿多村・麓・日置村・永吉村永吉・吉利村北区・吉利・薩摩郡宮之城町・内町・高江村・樋脇村・始良郡敷根村麓・東襲山村・帖佐村東餅田・肝属郡垂水町・小根占村・沖縄県島尻郡真和志村；鹿児島。
	タカマメチョン	鹿児島県日置郡阿多村中津野・吉利村吉利。
	タカマメチン	鹿児島県揖宿郡山町成川・揖宿町（垂門・道下・村）。
	タカマメチンコ	鹿児島県谷山市 ^d 。
	タカマメノコ	鹿児島県薩摩郡樋脇村。
	タカマメン	鹿児島県揖宿郡。
	タカマメンコ	鹿児島県川辺郡加世田町・出水郡米ノ津町・大川内村。
	タカマメンチツ	鹿児島県日置郡伊作町湯之元。
	タカマメンチュ	鹿児島県川辺郡万世町。
	タカマメンチャー	鹿児島県川辺郡万世町。
	タカマメンチョ	鹿児島県日置郡伊作町小野・阿多村麓・永吉村永吉・浜田。
	タカマメンチョン	鹿児島県日置郡 ^d 。
	タカマメンチン	鹿児島県鹿児島市・鹿児島郡谷山町・中・吉野村・日置郡伊集院町・日置村・古野山・出水郡阿久根町。
	タカマメンチンコ	鹿児島県鹿児島郡。

標準和名	地方名	地域
メダカ	タカマメンツ	鹿児島県川辺郡万世町大崎。
	タカミ	沖縄。沖縄県中頭郡中城村。
	タカミー	鹿児島県大島郡早町村・沖縄県島尻郡大里村。
	タカミーグワ	沖縄県那覇市 ^d 。
	タカミグア	沖縄。
	タカミン	鹿児島県川辺郡知覧町・川辺町。
	タカミンツ	鹿児島県川辺郡 ^d 。
	タカメ	愛媛県宇和島市丸之内（現在ノ童）・大分県大分郡竹中村 端登・鹿児島県鹿児島市・県鹿児島郡谷山町中・中郡宇 村・伊敷村・揖宿郡穎娃村・山川町福元・喜入村・川辺郡 知覧町・枕崎町・日置郡市来町・伊作町・串木野町・東市 来村・田布施村新川・郡山村・薩摩郡入来村・川内町・高 城町・永野村・出水郡出水町・高尾野町・始良郡蒲生町・ 牧園村・肝属郡垂水町・熊毛郡西之表町；鹿児島。
	タカメゴロ	鹿児島県始良郡蒲生町。
	タカメザコ	鹿児島県。
	タカメジロ	鹿児島県薩摩郡高城村。
	タカメツ	鹿児島県始良郡。
	タカメッコ	鹿児島県出水郡。
	タカメノコ	鹿児島県出水郡。
	タカメメ	鹿児島県始良郡東国分村小。
	タカメメンコ	鹿児島県出水郡米ノ津町。
	タカメン	鹿児島県鹿児島郡吉野村・西武田村・川辺郡知覧町・川辺 町・日置郡伊作町・始良郡牧園村。
	タカメンクロ	鹿児島県薩摩郡 ^d 。
	タカメンコ	鹿児島県薩摩郡入来村・高城村・出水郡出水町・米ノ津郡 加世田町・高尾野町。
	タカメンコッツ	鹿児島県川辺郡加世田町川畑。
	タカメンザコメ	鹿児島県始良郡加治木町。
	タカメンチ	鹿児島県加世田市 ^d 。
	タカメンチャン	鹿児島県始良郡。
	タカメンチュ	鹿児島県川辺郡 ^d 。
	タカメンチヨ	鹿児島県日置郡伊作町・永吉村・出水郡出水町・武本・高 尾野町・野田村・西長島村・始良郡加治木町。
	タカメンチヨオ	鹿児島県出水郡 ^d 。
	タカメンチヨン	鹿児島県鹿児島市・川辺郡枕崎町。
	タカメンチロ	鹿児島県薩摩郡川内町・日置郡串木野町。
	タカメンチロリン	鹿児島県嚙嗒郡末吉町。
	タカメンチロン	鹿児島県鹿児島郡吉野村・西武田村。
	タカメンチン	鹿児島県・鹿児島市・鹿児島郡谷山町中・伊敷村・西武田

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ		村中郡宇村・揖宿郡指宿町・日置郡市来町・伊作町・串木野町・東市来村・摩郡高江村・館毛郡西之表町；鹿児島；鹿児島町。
	タカメンチンコ	鹿児島県鹿児島郡谷山町中。
	タカメンチンゴ	鹿児島県鹿児島郡。
	タカメンツ	鹿児島県川辺郡知覧町・加世田町・川端・川辺町・日置郡伊作町湯之元・始良郡加治木町・国分町・重富村。
	タカメンツツ	鹿児島県始良郡加治木町。
	タカラビッチョ	鹿児島県日置郡田布施村大野。
	タカラミ	鹿児島県日置郡 ^d 。
	タカラメ	鹿児島県川辺郡加世田町・出水郡三笠町脇本。
	タカラメッチョ	鹿児島県川辺郡加世田町。
	タカラメンチョ	鹿児島県出水郡三笠町脇本。
	タカランビツ	鹿児島県日置郡田布施村大野。
	タカランビッチョ	鹿児島県日置郡 ^d 。
	タカンチョ	佐賀県藤津郡。
	タカンマメ	鹿児島県日置郡 ^d 。
	タカンミ	沖縄県中頭郡中城村・国頭郡久志村。
	タカンミー	沖縄県中頭郡。
	タキンギョ	福井県三方郡八村三方。
	タキンタキン	三重県飯南郡粥見町。
	タキンバヨ	三重県飯南郡粥見町。
	タギンボ	岐阜県 ^d 。
	タクミー	沖縄県中頭郡中城村。
	ダコ	山梨県東八代郡；山梨県南巨摩郡；山梨県中巨摩郡 ^d 。
	ダゴバヤ	福岡県久留米市；福岡県三井郡 ^d 。
	タゴマン	熊本県球磨郡。
	タコミン	鹿児島県。
	ダシジャコ	大阪府大阪市 ^d 。
	タジャコ	兵庫県飾磨郡。
	ダジャミ	三重県南牟婁郡有井村有馬。
	タスクイ	長崎県西彼杵郡 ^d 。
	タスクリン	長崎県西彼杵郡 ^d 。
	タズマメ	鹿児島県日置郡 ^d 。
	タズメ	鹿児島県日置郡 ^d 。
	タズメンコ	鹿児島県日置郡 ^d 。
	タゾマメ	鹿児島県日置郡 ^d 。
	タチメ	長野県長野市 ^d 。
	タツクリ	岡山県小田郡・神島外村・神島内村。
	ダッコ	大分県下毛郡和田村。

標準和名	地方名	地域
メダカ	タツタブソ	和歌山県那賀郡 ^d .
	タヅメ	鹿児島県鹿児島郡 ^d .
	タナガ	鹿児島県大島郡 ^d .
	タナコ	兵庫県養父郡広谷町広谷.
	タナゴ	秋田県北秋田郡七日市村・由利郡笹子村・新潟県西頸城郡能生谷村佳道・下早村下出・福井県大野郡野向村聖丸・遠敷郡小浜町・鳥取県西伯郡; 秋田・新潟・福井.
	タナゴイ	秋田県北秋田郡.
	タナゴコ	青森県三戸郡.
	タナゴサン	福井県教賀郡粟野村助生野.
	タナゴノコ	青森県上北郡.
	タナゴン	兵庫県飾磨郡.
	タナシャゴ	福井県今立郡 ^d .
	タナチン	静岡県藤枝市 ^d .
	タナバタジャコ	兵庫県神崎郡香呂村行重.
	タナピ	山形県西村山郡 ^d .
	タナピコ	石川県羽作郡越路野村柳田.
	タナペ	山形県東村山郡高瀬村.
	タナヘコ	兵庫県 ^d .
	タナメ	長野県長野市 ^d .
	タナンコ	山形県北村山郡福原村・福井県足羽郡和田中町.
	タネショ	福井県大野郡乾側村牛ヶ原.
	タネチヨ	福井県坂井郡三国町・雌島村米ヶ脇.
	タネバイ	和歌山県東牟婁郡本宮村.
	タネンパ	島根県仁多郡.
	タネンブ	島根県邇摩郡.
	タノカミザッコ	静岡県引佐郡金指町・伊平村新田・鎮玉村.
	タノコメ	岐阜県吉城郡上宝村.
	タバ	福岡県浮羽郡御幸村浮羽.
	タバイ	三重県南牟婁郡尾呂志村・和歌山県西牟婁郡和深村・田並村・熊本県菊池郡.
	タバイオ	福岡県宗像郡河東村(福崎・稲毛)・池野村・岬村上八・南郷村王丸.
	ダバイオ	福岡県宗像郡南郷村野坂.
	タバイコ	島根県益田市 ^d .
	タバイゴ	島根県美濃郡豊田村横田・福岡県宗像郡福間町・田島村牟田尻・南郷村野坂・西郷村畦町・勝浦村古賀・神興村久末・糟屋郡津屋崎町.
	タバイジョ	福岡県宗像郡東郷町東郷.
	タバイジョー	福岡県宗像郡勝浦村古賀.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	タバイチョー タバイボ タバイヨ タバウオ タバエ	山口県都濃郡中須村・鹿野村。 福岡県宗像郡吉武村武丸。 福岡県宗像市 ^d 。 福岡県宗像郡赤間町・筑紫郡筑紫村筑紫。 島根県鹿足郡・福岡県福岡市・宗像郡東郷町用山・糟屋郡香椎村下原・山田村・朝倉郡秋月町秋月・浮羽郡姫治村・山春村山北・熊本県菊池郡。
	タバエチョオ タバッコ タバメ タバヤ	山口県徳山市 ^d 。 福岡県宗像郡勝浦村練原。 鹿児島県揖宿郡穎娃村。 愛媛県喜多郡大洲町・北宇和郡三間村宮ノ下・三日村北増穂・好藤村・高光村・福岡県久留米市長門石町・朝倉郡・夜須村・馬田村・志波村・大福村石城・宮野村比良松・朝倉村古毛・金川村中島田・蜷城村（金丸・徳淵）・筑紫郡筑紫村筑紫・大野村瓦田・二日市町・三井郡大城村赤司・八女郡上妻村津江・浮羽郡御幸村浮羽・江南生葉・佐賀県神崎郡東背振村松隈・三養基郡田代町・基里村原・小城郡多久村・西松浦郡有田町；愛搜・福岡・佐賀。
	タバヤコ タバヤゴ タバヤン タバヤンコ タバヨ タバヨヨ タババン タババンキョ タババンコ タババンチョ タババンチン タバビー タバビーゴ タバビーゴ タバビーロ タバビーロー タバビコンボオ タバビジャコ タバビノウオ タバビラ タバビロー タバフナ	愛媛県北宇和郡好藤村。 愛媛県北宇和郡高光村徳ノ森。 福岡県朝倉郡。 福岡県八女郡上妻村津江。 愛知県東加茂郡 ^d 。 三重県桑名郡古美村。 福岡県朝倉郡甘木町甘木。 福岡県筑紫郡筑紫村筑紫。 福岡県宗像郡吉武村石井原・朝食郡夜須村。 福岡県宗像郡。 福岡県糟屋郡香椎村下原・山田村。 島根県美濃郡。 島根県。 島根県益田市 ^d 。 島根県美濃郡。 島根県美濃郡高城村大瀧。 山口県熊毛郡 ^d 。 奈良県五條市 ^d 。 奈良県吉野郡下市町・秋野村。 三重県 ^d 。 島根県美濃郡二條村。 長崎県南松浦郡 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	タブラ	福井県武生市 ^d .
	ダブ	茨城県猿島郡 ^d .
	タブラコ	奈良県吉野郡大淀町増口.
	タブラメ	鹿児島県川辺郡知覧町上郡.
	タブラメン	鹿児島県川辺郡知覧町上郡.
	タベ	大分県西国東郡 ^d .
	タヘンジョ	山口県大島郡 ^d .
	タボ	東京都 ^d .
	ダボ	千葉県夷隅郡 ^d .
	ダボキン	千葉県木更津市 ^d .
	タボヒヨ	福岡県糟屋郡津屋崎町.
	タボヤ	鹿児島県薩摩郡 ^d .
	タボリン	千葉県君津市 ^d .
	タマイゴ	佐賀県藤津郡鹿島町.
	タマイジャコ	佐賀県 ^d .
	タマイジョ	福岡県宗像郡・佐賀県藤津郡鹿島町.
	タマギョ	福岡県宗像市 ^d .
	タマヘコ	和歌山県伊都郡 ^d .
	タマメ	福岡県田川郡 ^d .
	タマメンチョ	鹿児島県始良郡 ^d .
	タマメンツ	鹿児島県串木野市 ^d .
	タマンギョ	福岡県糟屋郡赤間町赤間.
	タマンジョ	福岡県宗像郡赤間町陵巖寺.
	タミザッコ	静岡県.
	タメザッコ	静岡県引佐郡 ^d .
	タメジ	山口県玖珂郡 ^d .
	タメェジョオ	佐賀県鹿島市 ^d .
	タメジョー	佐賀県.
	タメチャコ	広島県賀茂郡 ^d .
	タメヂ	山口県玖珂郡由宇村横道.
	タメチャコ	広島県世羅郡神田村.
	タメド	大分県大野郡 ^d .
	タメレー	大分県大野郡戸ノ上村長谷.
	タメン	静岡県磐田郡二俣町.
	タメンザ	静岡県小笠郡日坂村.
	タメンジャコ	兵庫県城崎郡八代村.
	タメンチャク	広島県賀茂郡 ^d .
	タメンチャコ	広島県世羅郡神田村.
	タメンチョロ	石川県羽咋市；石川県羽咋郡 ^d .
	タメンパ	静岡県浜北市；愛知県豊川市 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	タユ	鹿児島県大島郡.
	タユー	鹿児島県大島郡東方村古仁屋・奄美大島.
	タヨオ	島根県那賀郡.
	タヨビー	山口県阿武郡小川村.
	タヨンビイ	山口県阿武郡田万崎村.
	タラシコ	三重県一志郡久居町.
	タランコ	福井県大野郡小山村下黒・広島県高田郡刈田村.
	タランボ	福井県坂井郡栗村浜島・浜田郊村山岸.
	タルコ	石川県金沢市 ^d .
	タレカン	長野県 ^d .
	タレクシ	宮崎県西諸県郡小林町.
	タワイオ	福岡県宗像郡河原村稲元・南郷村曲・吉武村吉留・赤間町赤間.
	タワイヨ	福岡県宗像郡南邦村曲.
	タワラキンギョ	大阪府貝塚市 ^d .
	タンイユ	鹿児島県大島郡.
	タンギゾオ	福岡県京都郡 ^d .
	タンギボー	京都府；鹿児島県薩摩郡 ^d .
	ダンギリボ	兵庫県 ^d .
	ダנקロ	石川県 ^d .
	タンコ	山口県岩国市 ^d .
	タンゴ	山口県徳山市 ^d .
	タンコバイ	三重県一志郡川口村.
	タンコボー	山口県玖珂郡灘村保津.
	タンゴメ	和歌山県伊都郡 ^d .
	タンコンボオ	山口県光市 ^d .
	タンチ	石川県金沢市 ^d .
	タンチコ	新潟県西頸城郡西海村・今井村・糸魚川町.
	タンチン	静岡県島田市 ^d .
	タンチンコメ	静岡県志太郡東益津村.
	タンチンゴメ	静岡県岡市麻機南.
	タンドロメ	高知県安芸郡甲浦町東.
	タンバ	和歌山県西牟婁郡東富田村十九淵・日置町・東牟婁郡下里町・上太田村・下太田村.
	タンパ	富山県下新川郡魚津町・三日市町・下野方村・西布施村小川寺.
	タンバイ	愛知県東加茂郡・和歌山県西牟婁郡田辺町元町・朝来村.
	タンパイ	和歌山県日高郡 ^d .
	ダンバイ	三重県・和歌山県・日高郡三尾村・西牟婁郡岩田村田辺町.
	ダンパイ	和歌山県.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	タンバイコ	愛知県西加茂郡の一部・和歌山県日高郡由良町。
	ダンバイコ	和歌山県日高郡衣奈村・白崎村・由良村。
	ダンバイコ	和歌山県。
	タンバエ	愛知県。
	タンバエ	愛知県豊田市 ^d 。
	タンバス	愛知県。
	タンババヤ	福岡県八女郡黒木町。
	タンバヤ	福岡県八女郡上妻村祈禱院・川崎村山内。
	タンビーロ	島根県鹿足郡青原村青原。
	タンビーロー	島根県鹿足郡 ^d 。
	タンボ	和歌山県西牟婁郡鮎村。
	タンボザッコ	富山県新川郡生地町。
	タンボジャ	福井県 ^d 。
	タンボジャコ	福井県福井市；福井県鯖江市 ^d 。
	タンボバイ	三重県一志郡川口村。
	タンボバヤ	福岡県八女郡黒木村。
	ダンメ	兵庫県姫路市 ^d 。
	チークワ	鹿児島県大島郡 ^d 。
	チーセンコ	大分県西国東郡・高田町高田。
	(チイセンコ)	
	チーチ	静岡県磐田郡瀧川村。
	チイチコ	愛媛県西宇和郡喜須来村。
	チイチゴ	愛媛県八幡浜市；愛媛県西宇和郡；愛媛県北宇和郡；高知県中村市；高知県土佐清水市 ^d 。
	チイノミ	岡山県；岡山県上房郡；岡山県川上郡 ^d 。
	チイン	岡山県。
	チインバイ	島根県飯石郡 ^d 。
	チインバイコ	岡山県真庭郡 ^d 。
	チインバイゴ	岡山県真庭郡勝山町勝山。
	チインプァイゴ	岡山県真庭郡 ^d 。
	チェメド	大分県大野郡菅尾村井迫。
	チェメンド	大分県大野郡 ^d 。
	チギス	愛知県一宮市 ^d 。
	チクラ	鹿児島県熊毛郡中種子村。
	チコッチョ	三重県一志郡川口村。
	チジンコ	滋賀県東浅井郡 ^d 。
	チチコ	三重県多気郡大杉谷村・広島県佐伯郡木野村中津市・愛媛県宇摩郡中之庄村貝定。
	チチグ	高知県 ^d 。
	チチゴ	福井県三方郡八村向笠。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	チチッコ	香川県三豊郡 ^d .
	チチノコ	宮崎県児湯郡都町.
	チチミ	奈良県 ^d .
	チチラ	広島県高田郡小田村.
	チチン	徳島県 ^d .
	チチンコ	兵庫県有馬郡本庄村・宮崎県児湯郡都町.
	チチンゴ	岡山県吉備郡秦村南秦.
	チチンココ	広島県豊田郡河内町.
	チチンコバイ	岡山県後月郡芳井町.
	チチンコロ	広島県賀茂郡 ^d .
	チチンチロ	岡山県後月郡芳井町.
	チチント	香川県三豊郡桑山村.
	チチンメ	香川県三二郡比地二村.
	チチンメンコ	香川県；香川県三豊郡 ^d .
	チックワ	鹿児島県大島郡 ^d .
	チッケンジャコ	岡山県都窪郡 ^d .
	チッチャイ	静岡県藤枝市 ^d .
	チノコ	和歌山県 ^d .
	チノミ	岡山県川上郡 ^d .
	チノミゴ	岡山県川上郡成羽町.
	チノン	岡山県川上郡湯野村.
	チノンゴ	岡山県川上郡 ^d .
	チノンバイ	岡山県川上郡.
	チノンバエ	岡山県川上郡 ^d .
	チビ	岡山県浅口郡一円.
	チビジャコ	滋賀県近江八幡市；愛媛県今治市 ^d .
	チビチャン	鳥取県鳥取市 ^d .
	チビン	愛媛県温泉郡三津浜町.
	チビンコ	広島県高田郡刈田村・福岡県田川郡方城村.
	チビンジャコ	愛媛県温泉郡三津浜町.
	チビンジョ	愛媛県越智郡 ^d .
	チビントン	鳥取県鳥取市 ^d .
	チビンチャコ	愛媛県松山市；愛媛県新居郡 ^d .
	チマン	兵庫県朝来郡 ^d .
	チミチコ	岡山県倉敷市；岡山県浅口郡 ^d .
	チミン	兵庫県明石市・愛媛県松山市・温泉郡石井村・道後湯之町・久米村・荏原村・桑原村・垣生村・余土村・久枝村・浮穴村・神伊予村神崎.
	チミンウオ	愛媛県温泉郡 ^d .
	チミンギョ	愛媛県温泉郡 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	チミンコ	愛媛県松山市；愛媛県伊予郡 ^d 。
	チミンゴ	愛媛県温泉郡 ^d 。
	チミンジャ	滋賀県長浜市 ^d 。
	チミンジャコ	愛媛県松山市・温泉郡・石井村・久米村・桑原村・南吉井村。
	チミンジョ	愛媛県松山市；愛媛県北条市；愛媛県今治市；愛媛県越智郡 ^d 。
	チミンジョー	愛媛県温泉郡。
	チミンジョコ	愛媛県伊予郡郡中付近。
	チメン	兵庫県姫路市；愛媛県越智郡 ^d 。
	チメンジャコ	兵庫県神崎郡船津村。
	チャーバイゴ (チャアバイゴ)	佐賀県・藤津郡浜町。
	チャーランコ	長野県上田市 ^d 。
	チャーワシ	佐賀県東松浦郡入野村入野。
	チャエンコ	宮崎県東臼杵郡 ^d 。
	チャヅメ	鹿児島県日置郡郡山村東俣。
	チャナ	福井県今立郡 ^d 。
	チャナッペ	福井県南条郡 ^d 。
	チャナペ	福井県今立郡 ^d 。
	チャナンコ	福井県今立郡 ^d 。
	チャナンペ	福井県丹生郡 ^d 。
	チャミン	鹿児島県川辺郡 ^d 。
	チャメゴ	佐賀県藤津郡鹿島町。
	チャメンド	大分県大野郡菅尾村浅瀬。
	チャランコ	福井県鯖江市；福井県今立郡 ^d 。
	チャランペ	福井県南条郡 ^d 。
	チャリンコ	島根県邑智郡・福岡県筑紫郡・粕屋郡。
	チャング	兵庫県・城崎郡三江村・奈佐村岩井。
	チャンピイ	三重県。
	チャンピン	三重県志摩郡 ^d 。
	チュチュメ	奈良県生駒郡都跡村佐紀。
	チョイ	長野県北安曇郡。
	チョオマンゴ	岡山県浅口郡 ^d 。
	チョオハンギョ	東京都 ^d 。
	チョコ	大分県大野郡。
	チョコベエ	佐賀県鹿島市；佐賀県藤津郡 ^d 。
	チョコンナメ	熊本県天草郡。
	チョチョマン	兵庫県姫路市 ^d 。
	チョチョメ	兵庫県姫路市 ^d 。
	チョチョメン	兵庫県・神戸市・姫路市外延末・飾磨郡手柄村延末・広島県深安郡山野村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	チョッカ	長野県下伊那郡 ^d .
	チョッキンゴ	鳥取県東伯郡.
	チョパン	福岡県小倉市.
	チョビ	兵庫県神戸市 ^d .
	チョビン	兵庫県明石市 ^d .
	チョビンジャコ	兵庫県明石市 ^d .
	チョビンチョゴ	岡山県真庭郡久世町久世.
	チョマメ	兵庫県.
	チョマメン	兵庫県・神戸市.
	チョミン	兵庫県明石市；兵庫県姫路市 ^d .
	チョミンジャカ	兵庫県明石市 ^d .
	チョミンジャコ	兵庫県明石市 ^d .
	チョメジョー	大分県大野郡新田村山田.
	チョメジョコ	大分県速見郡.
	チョメド	大分県大野郡 ^d .
	チョメン	兵庫県飾磨郡.
	チョメンジャコ	兵庫県神崎郡甘地村谷.
	チョメンチョ	愛知県額田郡 ^d .
	チョロコンベ	三重県南牟婁郡 ^d .
	チョロチョロ	新潟県両津市 ^d .
	チョンコ	神奈川県津久井郡内郷村.
	チョンチョウ	和歌山県 ^d .
	チョンチョコ	和歌山県那賀郡北野上村原野.
	チョンチョルコンベ	三重県南牟婁郡 ^d .
	チョンチョロ	奈良県吉野郡十津川村竹筒.
	チョンチョンコ	三重県安濃郡村主村.
	チョンチロ	香川県高松市 ^d .
	チョントト	兵庫県神戸市；兵庫県明石市 ^d .
	チョンノメ	石川県金沢市・鹿島郡七尾町.
	チョンバ	神奈川県津久井郡串川村.
	チョンパ	岡山県久米郡大井東村宮部下.
	チョンパー	岡山県久米郡大井東村宮部下.
	チョンパーゴ	岡山県御津郡 ^d .
	チョンバイ	和歌山県日高郡稲原村・山口・明神川・南谷・切目川村・宮之前・印南町・岡山県.
	チョシパイ	和歌山県日高郡；岡山県真庭郡；岡山県苫田郡 ^d .
	シオンパイコ	岡山県；岡山県上房郡；岡山県真庭郡；岡山県久米郡 ^d .
	チョンパイゴ	岡山県真庭郡勝山町山久世・久世町久世・美川村・木山村・津田村・美和村檜東・久米郡大井東村.
	チョンバイコ	和歌山県日高郡稲原村・明神川・山口・切目川村古井・丹生村・江川・岡山県上房郡皆部町.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	チョンバイゴ	岡山県。
	チョンバコ	和歌山県那賀郡北野上村原野。
	チョンバッコ	神奈川県愛甲郡愛川村半原。
	チョンバヤ	神奈川県愛甲郡 ^d 。
	チョンベロバイ	和歌山県日高郡切目川村横川。
	チョンピャアゴ	岡山県；岡山県上房郡 ^d 。
	チョンマ	神奈川県津久井郡。
	チョンマッコ	神奈川県津久井郡。
	チョンメッコ	神奈川県津久井郡。
	チリコバエ	和歌山県海南市 ^d 。
	チリメン	兵庫県宍粟郡・飾磨郡・山口県玖珂郡深須村・香川県綾部郡坂出町・西庄村原。
	チリメンイリコ	広島県 ^d 。
	チリメンコ	兵庫県土佐用郡土佐用町吉福・福岡県田川郡伊田町。
	チリメンジャコ	兵庫県佐用郡佐用町吉福・徳島県坂野郡板西町・三好郡三縄村中西・香川県綾部郡坂出町・川津村。
	チリャリンコ	島根県邑智郡阿須郡村。
	チリリン	福岡県 ^d 。
	チリン	広島県高田郡吉田町。
	チリンコ	静岡県志太郡静浜村宗高・福井県教賀郡・岐阜県益田郡・岡山県阿哲郡神代村・広島県高田郡吉田町・丹比村印内・郷野村・比婆郡西城町・鳥取県日野郡多里村・福岡県田川郡添田町・津野村。
	チリンゴ	広島県高田郡丹比村多治比・賀茂郡熊野跡村・双三郡三次町・比婆郡東城町・小奴可村・鳥取県日野郡多里村多里・大宮村。
	チリンコメ	静岡県志太郡吉永村高新田。
	チリンドー	島根県那賀郡。
	チリンパー	広島県比婆郡美古登村。
	チンカイロ	広島県竹原市 ^d 。
	チンカイロオ	広島県豊田郡 ^d 。
	チンカタコ	茨城県 ^d 。
	チンカラ	広島県豊田郡 ^d 。
	チンカロ	広島県竹原市；広島県豊田郡 ^d 。
	チンカロオ	広島県竹原市；広島県豊田郡 ^d 。
	チンケバエ	岐阜県加茂郡 ^d 。
	チンコ	広島県高田郡可愛村常友。
	チンゴ	福岡県・大分県大分郡。
	チンコメ	静岡県志太郡青島町・青木・相川村上泉・鹿児島県始良郡栗野村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	チンコメンコ	静岡県志太郡 ^d .
	チンゴリ	広島県山県郡加計町・安野村；広島県山県郡 ^d .
	チンコロ	奈良県宇陀郡宇陀村松井・広島県山県郡加計町・賀茂郡東高屋村・豊田郡河内町.
	チンター	静岡県焼津市 ^d .
	チンタアコメ	静岡県焼津市 ^d .
	チンタン	静岡県志太郡葉梨村・花倉・大洲村善左衛門・青島町.
	チンタンコ	静岡県志太郡葉梨村.
	チンタンコーメ (チンタンコウメ)	静岡県志太郡高洲村兵太夫・西益津村・平島・大洲村善左衛門・藤枝町.
	チンタンコミ	静岡県藤枝市；静岡県志太郡 ^d .
	チンタンコメ	静岡県志太郡西益津村・(田中・平島)・藤枝町(左車・小坂・市部・千蔵・木町)・高洲村・兵太夫・豊田村小土・小柳津・静浜村宗高・相川村・(上新田・相川・上泉)・吉永村高新田・和田村田尻・西益津村郡・広播村(鬼島・横内)・葉梨村・(下ノ郷・時ヶ谷・花倉・上藪田・下藪田・西方)・稲葉村(堀之内・寺島・稲葉)・瀬戸谷村中山・大洲村・善左衛門・高洲村高柳・藤枝町(上伝馬・下伝馬・益津・原)・岡部町三輪・焼津町焼津・青島町・(前島・下青島・志太)；静岡.
	チンタンゴメ	静岡県志太郡葉梨村.
	チンダンコメ	静岡県志太郡藤枝町.
	チンタンコメザ	静岡県志太郡岡部町内谷本郷.
	チンタンコメン	静岡県志太郡岡部町内谷本郷.
	チンタンゴメン	静岡県藤枝市 ^d .
	チンタンコンメ	静岡県志太郡岡部町内谷本郷・焼津町・青島町.
	チンタンメ	静岡県志太郡 ^d .
	チンチ	静岡県 ^d .
	チンチコ	広島県豊田郡竹仁村.
	チンチコバエ	岐阜県本巢郡外山村金原.
	チンチコバヨ	三重県度会郡下外城田村岡出.
	チンチコメ	静岡県志太郡稲葉村.
	チンチコロ	広島県高田郡郷野村.
	チンチッコ	静岡県志太郡 ^d .
	チンチッコメ	静岡県志太郡吉永村.
	チンチバエ	愛知県瀬戸市 ^d .
	チンチバヨ	岐阜県土岐郡笠原町.
	チンチベコ	広島県；広島県高田郡 ^d .
	チンチャラ	富山県下新川郡 ^d .
	チンチャラメンチャラ	富山県下新川郡 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	チンチューロ チンチョバヨ チンチョオバエ チンチラ チンチラコ	広島県沼隈郡鞆町。 岐阜県可児郡御嵩町。 岐阜県可児市 ^d 。 広島県高田郡可愛村。 広島県高田郡甲立町上甲立・吉田町・丹比村多治比・可愛村浄安寺・郷野村・刈田村・北村。
	チンチラメタ チンチラメンコ チンチロ チンチロコ	広島県高田郡可愛村竹原。 広島県高田郡甲立町上甲立。 広島県豊田郡沼田下村・賀茂郡賀永村・造賀村。 三重県南牟婁郡飛鳥村・広島県高田郡甲立町上甲立・丹比村多治比・郷野村・刈田村・小田村。
	チンチロコマメ チンチロバイ	三重県熊野市 ^d 。 岡山県御津郡円城村・川上郡松原村・広島県豊田郡河内町河戸・深安郡山野村；岡山県上郡大賀村。
	チンチロバエ チンチロバヨ チンチロベー チンチロベコ チンチロベッコ チンチロマメ チンチロメ チンチン	岡山県川上郡 ^d 。 三重県安浪郡雲林院村。 広島県高田郡郷野村。 広島県高田郡可愛村竹原。 広島県高田郡刈田村。 三重県南牟婁郡神川村。 三重県南牟婁郡 ^d 。 静岡県志太郡青島町・豊田村小土・静浜村宗高・島田町・大長村・六合村・三重県河芸郡明村。
	チンチンカモ チンチンコ チンチンゴ チンチンコウメ チンチンコーバイ チンチンゴウ チンチンコーロ チンチンゴウメ チンチンコオメン チンチンコオロ チンチンコチン チンチンコバ チンチンコバイ チンチンコバエ チンチンコバヨ チンチンコミ チンチンゴミ	富山県富山市 ^d 。 三重県河芸郡明村楠平尾・広島県賀茂郡西高屋村。 岡山県都窪郡。 静岡県志太郡藤枝町・焼津町・広幡村越後島・葉梨村。 三重県河芸郡明村・鈴鹿郡神辺村。 静岡県焼津市 ^d 。 広島県沼隈郡鞆町。 静岡県志太郡 ^d 。 静岡県志太郡 ^d 。 広島県福山市 ^d 。 静岡県藤枝市；静岡県島田市 ^d 。 静岡県・三重県河芸郡明村・安濃郡養林院村。 三重県安濃郡片田村。 三重県鈴鹿郡昼生村。 三重県安郡草生村。 静岡県志太郡大洲村・静浜村上小杉・清水市。 静岡県焼津市 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	チンチンコムシ チンチンコメ	静岡県焼津市 ^d . 志太郡藤枝町・(左車・小坂・市部・白子・千歳・下伝馬・原・上传馬)・岡部町内谷本郷・三輪・焼津町焼津・青島町・下青島・前島・南新屋・志太)・広幡村・(鬼島・横内)・葉梨村・(下ノ郷・花倉・下藪田)・稲葉村(堀之内・寺島・谷稲葉)・瀬戸谷村・(蔵田・本郷・中山)・大洲村・善左衛門・高洲村・(高抑・築地・大新島・兵太夫)・豊田村小柳津・大富村・(中根新田・中新田・上小田・治長請所)・静浜村・相川村・(相川・上泉)・吉永村高新田・和田村・(田尻・田尻北)・西益津村・平島・東益津村(石脇・石脇下・坂本)・小川村・島田町・六合町・阿倍郡服村; 静岡.
	チンチンゴメ	静岡県志太郡焼津町・(焼津・落合)・大洲村中兵衛新田・豊田村.
	チンチンコメザ	静岡県志太郡 ^d .
	チンチンコメダ	静岡県志太郡静浜村宗高.
	チンチンコメン	静岡県志太郡岡部町内谷本郷・東益津村・阿倍郡美和村.
	チンチンコメンコ	静岡県焼津市 ^d .
	チンチンコメンザ	静岡県志太郡東益津村.
	チンチンコロ	静岡県志太郡高洲村築地.
	チンチンコンバ	三重県南牟婁郡飛島村.
	チンチンサナ	静岡県藤枝市 ^d .
	チンチンタ	静岡県焼津市 ^d .
	チンチンタンコ	静岡県志太郡 ^d .
	チンチンッコ	静岡県志太郡.
	チンチンパー	広島県高田郡可愛村川本.
	チンチンバイ	愛知県知多市 ^d .
	チンチンバエ	愛知県知多市 ^d .
	チンチンバヨ	岐阜県恵郡郡.
	チンチンビャア	愛知県知多市 ^d .
	チンチンボー	大分県南海郡西上浦村.
	チンチンマメ	鹿児島県指宿市 ^d .
	チンチンムシ	広島県広島市・古田町.
	チンチンメ	静岡県志太郡 ^d .
	チンチンメッコ	静岡県志太郡伊久身村・大長村.
	チンチンメラコ	広島県高田郡吉田町.
	チンナリ	兵庫県加古川市 ^d .
	チンピア	静岡県志太郡 ^d .
	チンバイ	山口県都濃郡中須村・鹿野村.
	チンパイ	岡山県上房郡; 山口県徳山市 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	チンバイコ	山口県佐波郡島地村。
	チンバイコオ	山口県佐波郡 ^d 。
	チンバイコ	岡山県真庭郡 ^d 。
	チンバイコオ	山口県佐波郡 ^d 。
	チンバイゴ	岡山県阿哲郡；岡山県真庭郡；岡山県苫田郡 ^d 。
	チンバイゴ	岡山県真庭郡勝山町山久世・久世町草加部・苫田郡中谷村入。
	チンバイロオ	山口県佐波郡 ^d 。
	チンバイロオ	山口県佐波郡 ^d 。
	チンバエ	岐阜県可児郡広見町瀬田。
	チンパン	静岡県焼津市；静岡県志太郡 ^d 。
	チンパンチイ	静岡県志太郡 ^d 。
	チンピャア	岡山県上房郡；岡山県川上郡 ^d 。
	チンピラ	徳島県徳島市 ^d 。
	チンブッゴ	岡山県児島郡下津井町。
	チンペァア	大分県日田市；大分県日田郡 ^d 。
	チンペラ	兵庫県氷上郡和田村。
	チンミャート	岡山県都窪郡妹尾町。
	チンメ	香川県三豊郡上高野村。
	ツイツイタマゴ	鳥取県西伯郡。
	ツクラ	宮城県 ^d 。
	ツクライコ	宮城県気仙沼市 ^d 。
	ツクラコ	宮城県気仙沼市 ^d 。
	ツグラコ	宮城県気仙沼市 ^d 。
	ツクラッコ	宮城県気仙沼市 ^d 。
	ツジメンジャコ	京都府 ^d 。
	ツツンベ	石川県羽咋郡富永村石野町。
	ツナメ	宮崎県西都市；宮崎県児湯郡 ^d 。
	ツバノコ	福島県相馬郡 ^d 。
	ツバメンコ	鹿児島県川辺郡知覧町。
	ツブラ	長野県上田市 ^d 。
	ツミンゴ	鳥取県八頭郡八東村。
	ツルペ	福島県相馬郡 ^d 。
	ツンゴ	鳥取県気高郡小鷲河村河内。
	ツツン	福井県敦賀郡粟野村野坂。
	ツツンガゴ	鳥取県東伯郡小鹿村。
	ツツンコ	長野県長野市。
	ツツンコウオ	福井県丹生郡 ^d 。
	ツツンゴ	鳥取県東伯郡旭村下谷。
	ツツンザコ	福井県大野郡富田村七板・富田村土打。
	ツンメッコ	静岡県安倍郡清沢村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ティインパイ	島根県飯石郡 ^d .
	テイハンギョ	東京都 ^d .
	デカメ	石川県金沢市 ^d .
	デコッチン	兵庫県 ^d .
	デコメン	福井県敦賀郡東浦村赤崎.
	テッチンコ	兵庫県加西市 ^d .
	テッポオ	山口県光市 ^d .
	テテンゴ	岡山県後月郡出部村.
	デメ	徳島県海部郡三岐田町東由岐浦.
	デメキン	神奈川県・静岡県志太郡藤枝町・青島町前島・六合村細島 ・豊田村小土.
	テメジャコ	大分県大野郡三重町.
	デメジャコ	和歌山県橋本市 ^d .
	テメジョー	大分県大野郡.
	デメダカ	福井県遠敷郡小浜町.
	デメタンゴ	大分県臼杵市 ^d .
	デメッコ	宮城県仙台市.
	テメド	大分県大野郡 ^d .
	デメンチョ	三重県名賀郡矢持村.
	テンジッコ	茨城県那珂郡；茨城県久慈郡 ^d .
	テンジョーコ	茨城県久慈郡 ^d .
	テンジョーサカナ	茨城県久慈郡 ^d .
	テンジョーザコ	茨城県東茨城郡坏村下坏.
	テンジョッコ	茨城県久慈郡 ^d .
	テンジンコ	茨城県久慈郡 ^d .
	テンジンコメ	茨城県東茨城郡 ^d .
	テンテコ	岡山県 ^d .
	テンテコメ	福井県今立郡.
	テンテメ	福井県今立郡.
	テンテン	福井県今立郡 ^d .
	テンテンゴ	岡山県後月郡出部村・江原村.
	テンテンブク	福井県 ^d .
	テンテンメ	福井県今立郡.
	テント	広島県芦品郡 ^d .
	テントー	広島県芦品郡 ^d .
	テントーゴ	広島県福山市 ^d .
	テントーマブシ	広島県深安郡 ^d .
	テントーマブリ	岡山県後月郡出部村・広島県蘆品郡有磨村下有地・宜山村.
	テントゴ	広島県深安郡下岩成村・森脇村.
	テントマブリ	広島県蘆品郡新市町・有磨村下有地・戸手村・地下田村・ 駅家村.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	テントマブレ	広島県芦品郡 ^d 。
	デンバ	愛知県知多市 ^d 。
	デンバチ	愛知県知多市 ^d 。
	デンパチ	愛知県中島郡今伊勢村馬寄・三重県志摩郡鵜方村。
	デンパチゴ	愛知県知多市 ^d 。
	デンパチゴ	愛知県知多市 ^d 。
	デンパチョ	愛知県知多市 ^d 。
	デンパチョオ	愛知県名古屋市；愛知県知多市 ^d 。
	テンビン	愛媛県宇摩郡金生村山田井。
	テンポ	広島県芦品郡 ^d 。
	テンマルゴイ	福井県坂井郡鳴鹿村鳴鹿。
	テムムキ	和歌山県伊都郡橋本町・学文路村清水。
	ドイブ	愛媛県越智郡弓削村（下弓削・上弓削）。
	ドウゴロー	大分県北海部郡海辺村諏訪。
	トウメン	静岡県磐田郡浦川村。
	トーゴ	高知県高岡郡東又村志和。
	トーゴロ	広島市仁保町。
	トーゴロー	大分県臼杵市 ^d 。
	ドーシング	岡山県笠岡市 ^d 。
	ドオセンボオ	岡山県 ^d 。
	トートーゴ	岡山県邑久郡 ^d 。
	トーバリ	静岡県周智郡水窪町・熊切村。
	トーメン	静岡県磐田郡浦川村。
	ドグラ	熊本県 ^d 。
	トゲジャツコ	青森県・上北郡。
	ドザメ	熊本県天草郡大浦村。
	ドサメゴ	熊本県天草郡。
	ドザメゴ	熊本県天草郡 ^d 。
	ドズキロ	鹿児島県 ^d 。
	ドゾナメ	熊本県。
	ドゾマメ	熊本県八代郡文政村塩浜。
	ドチマン	滋賀県 ^d 。
	トチンパ	滋賀県 ^d 。
	トっパイコ	和歌山県日高郡川中村上田原。
	トっパイゴ	和歌山県日高郡 ^d 。
	ドテクロ	鹿児島県 ^d 。
	トトノメ	静岡県庵原郡由比町・石川県能美郡大杉谷村大杉。
	トトメ	埼玉県羽生市；兵庫県加古川市 ^d 。
	トトメンコ	静岡県庵原郡・小島村・両河内村。
	トトンタ	静岡県庵原郡 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ドドンコ	兵庫県飾磨郡.
	トトンメ	静岡県庵原郡由比町.
	ドナメ	熊本県八代郡 ^d .
	ドノクチザッコ	岩手県大船渡市 ^d .
	ドハイ	岩手県東磐井郡 ^d .
	ドバイコ	三重県名賀郡矢持村.
	トバエ	三重県一志郡大井村.
	トハリ	静岡県磐田郡佐久間村.
	ドバリン	千葉県君津市 ^d .
	ドバン	兵庫県.
	トビウオ	長野県下高井郡郷村坪山・市村平林・宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井.
	トビメ	熊本県.
	トビヨ	新潟県東頸城郡松代村千年.
	ドブコ	広島県安佐郡.
	ドブロク	徳島県 ^d .
	トベシャゴ	愛媛県北宇和郡 ^d .
	ドボソ	三重県志摩郡長岡村相差区.
	トボンチョ	愛知県葉栗郡浅井町.
	ドボンチョ	愛知県一宮市 ^d .
	ドボンチョ	愛知県一宮市 ^d .
	ドマメ	熊本県八代郡.
	トミジャコ	奈良県添上郡大柳生村柳生.
	ドミンゴ	岡山県後月郡井原町.
	ドメ	長野県小県郡長瀬村・依田村・和歌山県和歌山市湊北町.
	ドメッコ	長野県小県郡長瀬村・依田村.
	トロウ (トロウ)	青森県下北郡・佐井村.
	ドロ	広島県 ^d .
	ドロクラ	島根県; 山口県徳山市 ^d .
	ドロバエ	岡山県阿哲郡上刑部村.
	ドロバヨ	三重県一志郡 ^d .
	ドロハヤ	秋田県大館市 ^d .
	トロメン	静岡県清水市.
	ドロメン	兵庫県有馬郡三田町・貴志村上内神・太沢村・本庄付・美囊郡奥吉川村.
	トロメンコ	静岡県静岡市・川合・清水市・庵原郡・高部村・興津町・庵原村・蒲原町・西奈村・飯田村・袖師村・小島村・両河内村・安倍郡有度村・美和村・豊田村.
	トロメンゴ	静岡県静岡市.
	トロメンジャー	静岡県庵原郡・飯田村.

標準和名	地方名	地域
メダカ	トロメンジョ	静岡県安倍郡千代田村。
	トロロッコ	静岡県志太郡 ^d 。
	ドロワイ	富山県中新川郡 ^d 。
	ドロンボオ	山口県 ^d 。
	ドン	山口県 ^d 。
	トンガ	岡山県榛原郡五和村。
	ドンコ	静岡県田方郡網代町・高知県土佐郡地蔵村。
	ドンコノコ	愛媛県大洲市・喜多郡・八幡浜市・西宇和郡・東宇和郡・北宇和郡・南宇和郡 ^d 。
	トンゴロー	大分県北海部郡海辺村諏訪。
	ドンツ	山口県萩市 ^d 。
	トントノコ	和歌山県伊都郡 ^d 。
	ドントバイ	岐阜県岐阜市 ^d 。
	トンパ	愛知県西加茂郡 ^d 。
	トンバイ	和歌山県日高郡 ^d 。
	ドンバイ	和歌山県日高郡藤田村・吉田・川中村・真妻村・名田村・稲原村神明川・上南部村・(谷口・西本庄・東本庄・晩稲)・南部町・(栄町・堺・南道・山内)・切目村・(島田・西池)・岩代村(東岩代・西岩代)・志賀村・久志・比井崎村小浦・船着村・船津・東内原村・早蘇村・丹生村・塩屋村・印南村・西内原村・西牟婁田辺町・上芳養村・日向中芳養村・(田尻・平野)・下芳養村・上秋津村久保田・稲成村・荒光・万呂村・長野村・栗栖川村・二川村・朝来村・三栖村；和歌山。
	トンバイコ	和歌山県西牟婁郡上秋津村。
	ドンバイコ	京都府愛宕郡・和歌山県日高郡藤田村・吉田・矢田村・土生・由良村・志賀村・比井崎村小坂・船着村・上南部村・切目村島田・早蘇村早蘇・丹生村・稲原・東内原村・西内原村・湯川村・上富安・塩屋村・矢田。
	ドンバイチ	広島県 ^d 。
	ドンバイデ	京都；京都府。
	トンバヤ	愛媛県東宇和郡 ^d 。
	ドンバラ	福岡県田川郡伊田町・大任村。
	ドンバリ	和歌山県日高郡切目村(西ノ池・島田)。
	ドンバリコ	和歌山県日高郡野口村熊野・矢田村・東内原村早蘇村早蘇・丹生村和佐。
	ドンブリコ	徳島県海部郡川東村大里・高知県安芸郡川北村。
	トンペ	熊本県天草郡。
	ドンベアッコ	宮城県気仙沼市 ^d 。
	ドンペラコ	福井県遠敷郡中名田村・深谷。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ドンボ	長崎県長崎市；長崎県西彼杵郡；長崎県島原市 ^d 。
	トンボジャコ	福井県足羽郡麻生津村。
	トンボフナ	静岡県焼津市 ^d 。
	ナガジャコ	兵庫県 ^d 。
	ナガンチョオ	佐賀県。
	ナゴ	和歌山県西牟婁郡 ^d 。
	ナブリ	広島県府中市；広島県芦品郡 ^d 。
	ナベタ	高知県安芸郡。
	ナボ	三重県阿山郡友生村。
	ナマザッコ	岩手県宮古市 ^d 。
	ナメ	岩手県宮古市 ^d 。
	ナメタウウ	岩手県宮古市 ^d 。
	ナメンゾ	熊本県天草郡。
	ナンバイ	和歌山県海草郡椒村。
	ニイガンチョ	福岡県宗像市 ^d 。
	ニイゴンチョ	福岡県宗像市 ^d 。
	ニガ	秋田県由利郡；栃木県芳賀郡；三重県渡会郡；熊本県玉名郡 ^d
	ニガザ	長野県 ^d 。
	ニガザッコ	秋田県雄勝郡 ^d 。
	ニガジャコ	秋田県由利郡 ^d 。
	ニガタ	茨城県水戸市；愛媛県宇和島市；三重県 ^d 。
	ニガタッコ	茨城県新治郡 ^d 。
	ニガッパヨ	新潟県。
	ニガッペ	宮城県栗原郡。
	ニガハイ	青森県・三戸郡。
	ニガンベ	栃木県芳賀郡 ^d 。
	ニガンベッコ	栃木県塩谷郡 ^d 。
	ニグルベェアッコ	岩手県上閉伊郡遠野町・青笹村・綾織村・松崎村・土淵村。
	ニゴ	福岡県豊前市 ^d 。
	ニゴスエ	福岡県豊前市 ^d 。
	ニゴリベアコ	岩手県盛岡市。
	ニゴンチョ	福岡県遠賀郡 ^d 。
	ニサイゴ	大分県北海部郡。
	ニシェーゴ	大分県北海部郡 ^d 。
	ニシノクボタメ	三重県南牟婁郡神志山村。
	ニバンチョ	三重県員弁郡大泉原村・笠田村。
	ニビンチョ	三重県員弁郡大泉原村・大長村。
	ニョーラク	奈良県吉野郡 ^d 。
	ニョーラコ	奈良県吉野郡 ^d 。
	ニンバ	島根県安濃郡。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ニンパイ	島根県飯石郡 ^d .
	ニンパチゴ	鳥取県米子市；鳥取県西伯郡 ^d .
	ニンブ	島根県安二郡長久村土江.
	ニンブコ	島根県安濃郡.
	ニンブツ	島根県安濃郡.
	ヌチャゴ	佐賀県小城郡南多久村牟田.
	ネイブツゴ	鳥取県倉吉市 ^d .
	ネイブンチャ	鳥取県東伯郡 ^d .
	ネエーブンチャゴ	鳥取県東伯郡倉吉町.
	ネエビ	鳥取県倉吉市 ^d .
	ネエビイ	鳥取県鳥取市・岩美郡 ^d .
	ネエピイ	鳥取県鳥取市・岩美郡 ^d .
	ネエビチャゴ	鳥取県東伯郡 ^d .
	ネエビンチャ	鳥取県東伯郡 ^d .
	ネエビンチャゴ	鳥取県倉吉市・東伯郡 ^d .
	ネービー	鳥取県鳥取市・岩美郡大岩村.
	ネーピー	鳥取県鳥取市・岩美郡成器村.
	ネーブ	鳥取県東伯郡吉町.
	ネーブー	鳥取県東伯郡・上北條村.
	ネーブーゴ	鳥取県八頭郡隼村郡家・佐治村・気高郡吉岡村・大郷村・大和村・岩美郡岩井町・宇倍野村.
	ネーブーチャン	鳥取県岩美郡浦富町・八頭郡隼村郡家・佐治村・気高郡吉岡村・大郷村・大和村・東伯郡.
	ネーブーチャンゴ	鳥取県東伯郡上北條村.
	ネーブゴ	鳥取県東伯郡倉吉町.
	ネーブシ	鳥取県東伯郡北谷村.
	ネーブチャ	鳥取県鳥取市 ^d .
	ネーブチャー	鳥取県東伯郡倉吉町.
	ネーブツゴ	鳥取県倉吉市 ^d .
	ネーブッチャ	鳥取県東伯郡.
	ネーブン	鳥取県東伯郡倉吉町・栄村亀谷.
	ネーブン	鳥取県東伯郡東郷村.
	ネーブンコ	鳥取県東伯郡倉吉町.
	ネーブンゴ	鳥取県東伯郡.
	ネーブンコドモ	鳥取県東伯郡倉吉町.
	ネーブンチャー	鳥取県東伯郡倉吉町.
	ネーブンチャ	鳥取県倉吉市；鳥取県東伯郡 ^d .
	ネーブンチャー	鳥取県東伯郡倉吉町.
	ネーブンチャウ	鳥取県倉吉市 ^d .
	ネーブンチャゴ	鳥取県東伯郡栄村亀谷.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ネーブンチャン	鳥取県東伯郡倉吉町。
	ネーブンチャンゴ	鳥取県倉吉市 ^d 。
	ネーブンチャン	鳥取県東伯郡倉吉町。
	ネーブンチャンコ	鳥取県東伯郡倉吉町。
	ネコチョ	三重県一志郡戸木村。
	ネコバイ	三重県一志郡久居町・戸木村・鶴村。
	ネッパ	三重県多気郡東黒部村。
	ネッパジョ	三重県松阪市 ^d 。
	ネッパジョ	三重県多気郡東黒部村。
	ネバ	三重県鈴鹿郡 ^d 。
	ネバイ	三重県 ^d 。
	ネバイコ	三重県河芸郡登津村・一志郡天白村。
	ネバイチョ	三重県安濃郡村主村・一志郡小野江村・飯南郡伊勢寺村。
	ネバエチョ	三重県。
	ネバケリ	愛知県知多郡。
	ネバコ	三重県飯南郡漕代村。
	ネバチ	三重県度会郡。
	ネバチゴ	和歌山県東牟婁郡本宮村。
	ネバチヨ	三重県松坂市・飯南郡磯殿村・射和村・多気郡上御糸村・東黒部村・度会郡田丸町上田辺。
	ネバチヨコ	三重県一志郡米之庄村・阿坂村・飯南郡一円・射和村・橿田村櫛田湊村・松尾村・松江村・多気郡明星村・度会郡有田村瀬古。
	ネバチヨコ	三重県一志郡・松坂市・飯南郡・多気郡・渡会郡 ^d 。
	ネバチヨロ	三重県松坂市。
	ネバッチョ	三重県飯南郡大河内村。
	ネバハチョ	三重県一志郡。
	ネバヨ	三重県一志郡米之庄村・飯南郡一円・射和村・橿田村櫛田・多気郡明星村・箕村。
	ネバンコ	三重県多気郡東黒部村。
	ネバンチョ	三重県員弁郡大泉原村・山郷村・十社村・東藤原村・梅戸井村・久米村・三重郡下野村・八郷村・四郷村・河芸郡一ノ宮村・飯南郡射和村・花岡町・多気郡津田村。
	ネビ	鳥取市山手。
	ネビー	鳥取市山手。
	ネビーイ	鳥取県東品治村。
	ネビイチャン	鳥取県。
	ネビゴ	鳥取市山手。
	ネビジャコ	広島県・鳥取県鳥取市。
	ネビチャン	鳥取県・鳥取市・気高郡豊実村下段。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ネビチャンコ	鳥取県鳥取市.
	ネビチャンゴ	鳥取県鳥取市.
	ネビッチョ	広島県双三郡川西村.
	ネビンチャゴ	鳥取県東伯郡.
	ネピンチャコ	鳥取県.
	ネビンチョ	三重県員弁郡山郷村・笠田村・梅戸井村・三里村・大長村.
	ネビンチョー	広島県双三郡西村.
	ネブ	鳥取県気高郡・岩美郡.
	ネブウ	山口県岩国市 ^d .
	ネブコ	鳥取県八頭郡佐治村.
	ネブゴ	鳥取県鳥取市・岩美郡・八頭郡・邑智郡 ^d .
	ネブジャコ	鳥取県.
	ネブタンゴ	岡山県倉敷市 ^d .
	ネブチャ	鳥取県岩美郡 ^d .
	ネブチャア	鳥取県八頭郡；鳥取県倉吉市 ^d .
	ネブチャコ	鳥取県八頭郡 ^d .
	ネブチャゴ	鳥取県・東伯郡倉吉町.
	ネブチャン	鳥取県岩美郡浦富町牧谷・成器村・大岩村大谷・八頭郡河原町・安倍村日下部・気高郡鹿野町・東郷村高路・逢坂村会下.
	ネブチャンコ	鳥取県岩美郡富浦町.
	ネブチャンゴ	鳥取県岩美郡浦宮町牧谷・八頭郡散岐村八日市・気高郡鹿野町・青谷町・松保村(足山・桂見)・豊実村下段.
	ネブチン	兵庫県加古郡；鳥取県八頭郡 ^d .
	ネブツコ	広島県高田郡甲立町秋町・鳥取県東伯郡倉吉町.
	ネブツゴ	山口県；鳥取県倉吉市；岡山県岡山市；山口県玖珂郡 ^d .
	ネブツナゴ	岡山県児島郡福田村.
	ネブツマ	鳥取県東伯郡倉吉町.
	ネプト	岡山県小田郡・広島県高田郡吉田町・甲立町(秋町・下甲立)・可愛村(浄安寺・福原・川本)・小田村・世羅郡・甲山町・三川村・広定村・大見村・甲奴郡階見村・双三郡吉舎町・三王.
	ネプトジャコ	広島県安芸郡江田島村.
	ネプトノコ	広島県神石郡小畠村.
	ネブノコ	島根県周吉郡；島根県海士郡 ^d .
	ネブヤン	鳥取県八頭郡 ^d .
	ネブヤンゴ	鳥取県八頭郡 ^d .
	ネブリコ	広島県・安芸郡・御調郡.
	ネブンコ	鳥取県東伯郡 ^d .
	ネブンゴ	鳥取県.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ネブンチャ	鳥取県岩美郡大岩村。
	ネブンチャアゴ	鳥取県東伯郡 ^d 。
	ネブンチャ	広島県庄原市；広島県比婆郡 ^d 。
	ネブンチャョー	広島県比婆郡敷信村。
	ネベンチャ	三重県員弁郡三里村。
	ネベンチャョ	三重県員弁郡阿下喜町。
	ネボ	島根県周吉郡・穩地郡都万村都万。
	ネボツ	島根県周吉郡。
	ネボツゴ	島根県。
	ネンゴ	島根県穩地郡。
	ネンス	島根県大田市 ^d 。
	ネンツ	島根県安濃郡久手町刺鹿・仕明。
	ネンバ	愛知県知多郡。
	ネンパ	愛知県知多郡成岩町・鳥取県米子市・東伯郡以西村・西伯郡堺町・御来屋町・外江村・上道村・中浜村・法勝寺村・東長田村・手間村・同賀野村・五千石村・幡郷村・大幡村・大和村・日野郡溝口町溝口・二部村・畑地黒坂町北部・大宮村・米沢村宮市・八郷村・須村・能義郡広瀬町・安来町・母里村・簸川郡一帯・出東村・東村・田儀村口田濃・布智村芦渡・穩地郡都万村都万；鳥取。
	ネンバイ	岡山県川上郡松原村松岡。
	ネンパイ	島根県飯石郡。
	ネンバイコ	三重県飯南郡森村・岡山県上房郡皆部町・山口県都濃須金村。
	ネンバイゴ	三重県飯南郡；山口県徳山市；山口県都濃郡 ^d 。
	ネンバイゴ	岡山県上房郡；岡山県真庭郡 ^d 。
	ネンバコ	愛知県碧南市 ^d 。
	ネンバコ	島根県能義郡母里村。
	ネンパゴ	鳥取県西伯郡賀野村・東長田村・日野郡溝口町・黒坂町北部・日野村・八郷村・島根県大原郡大東町大東・能義郡・仁多郡。
	ネンパゴジ	島根県松江市 ^d 。
	ネンパゴジ	島根県八束郡。
	ネンバシヨ	愛知県知多市 ^d 。
	ネンバス	愛知県知多郡。
	ネンバス	愛知県知多郡。
	ネンハチ	静岡県 ^d 。
	ネンバチ	愛知県知多郡亀崎町乙川。
	ネンパチ	愛知県知多郡・成岩町・碧海郡新川町・播豆都一色町・福地村笹曾根。三重県。多気郡明星村・度会郡四郷村鹿海・志摩郡波切町・鏡浦村。鳥取県。米子市・西伯郡境町。日

標準和名	地方名	地域
メダカ		野郡根雨町・三谷・溝口町・二部村畑地・黒坂町北部・日野村・神奈川村・江尾村・米沢村・能義郡母里村・簸川郡一帯・平日町・島根県八束郡・安濃郡；愛知・三重・鳥取・愛知県知多郡。
	ネンハチコ	愛知県碧南市；愛知県碧海市；和歌山県東牟婁郡 ^d 。
	ネンパチコ	愛知県碧海郡大浜町・高浜町高浜・和歌山県東牟婁郡三里村。
	ネンパチゴ	愛知県知多郡。
	ネンパチコ	和歌山県東牟婁郡三里村・鳥取県日野郡根南町三谷・阿毘緑村・江尾村江尾・米沢村・宮市・大宮村・能義郡母里村
	ネンパチゴ	・岡山県真庭郡八束村。
	ネンパチョ	愛知県知多郡・三重県三重郡河原田村。
	ネンパチョ	三重県多気郡明星村。
	ネンパチョー	三重県飯南郡櫛田村山添。
	ネンパチョー	三重県度会郡内城田村大野木。
	ネンパツ	鳥取県西部。
	ネンパッコ	静岡県清水市 ^d 。
	ネンパツ	鳥取県西部。
	ネンパツゴ	鳥取県西伯郡 ^d 。
	ネンパツコ	静岡県庵原郡両河内村。
	ネンバリ	島根県鹿足郡柿木村・下須。
	ネンバリコ	島根県鹿足郡七日市村七日市。
	ネンビツ	岡山県児島郡。
	ネンピン	山口県玖珂郡 ^d 。
	ネンブ	島根県邇摩郡温泉津町・久利村久利・仁万町（戎区・天神区）・宅野村・新町・五十猛村大浦・静間村平・湯里村本郷・馬路村神子路・大国村・安濃郡長久村稲用・邑智郡祖式村伊勢皆；島根。
	ネンブ	鳥取県西伯郡・島根県安濃郡久手町西川。
	ネンブー（ネンブウ）	鳥取県・東伯郡倉吉町・山口県玖珂郡坂上村・岩国町・錦見・柳井町・由宇村・有家・川下村・通津村。
	ネンブーウ	山口県岩国市 ^d 。
	ネンブク	島根県邇摩郡大国村上市。
	ネンブコ	島根県邇摩郡大国村・安濃郡大田町。
	ネンブコオ	島根県邑智郡 ^d 。
	ネンブゴ	島根県邇摩郡・邑智郡。
	ネンブジャコ	兵庫県加古川市 ^d 。
	ネンブツ	岡山県児島郡灘崎村・荘内村・興除村・郷内村・広島県・島根県邇摩郡久利郡畑中・大屋村大屋・鬼村・安濃郡久手町畑ケ中・川合村浅原。
	ネンブツコ	岡山県玉野市；三重県南牟婁郡；広島県三次市・庄原市・比婆郡；福岡県北九州市門司区 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ネンブッコ	岡山県児島郡・広島県双三郡神杉村・比婆郡西城町・山内北村。
	ネンブツゴ	岡山県児島郡郷内村・広島県比婆郡山内西村上・鳥取県東伯郡倉吉町・島根県邇摩郡久利村久利・安濃郡佐比売村池田・山口県玖珂郡坂上村・香川県小豆郡豊島村。
	ネンブツゴー	島根県那賀郡・山口県熊毛郡島田村・香川県小豆郡豊島村。
	ネンブツシ	香川県小豆郡 ^d 。
	ネンブツト	広島県高田郡 ^d 。
	ネンブツト	広島県高田郡吉田町。
	ネンブツナコ	岡山県児島郡荘内村。
	ネンブツナゴ	岡山県児島郡児島町・興除村・郷内村。
	ネンブト	広島県三次市；広島県庄原市 ^d 。
	ネンブラ	広島県高田郡可愛村浄安寺。
	ネンプラ	広島県高田郡 ^d 。
	ネンブリ	鳥取県東伯郡 ^d 。
	ネンブン	鳥取県倉吉市；山口県岩国市；山口県玖珂郡 ^d 。
	ネンブンゴ	山口県玖珂郡北河内村。
	ネンブンチョー	広島県比婆郡敷信村。
	ネンペ	鳥取県東伯郡下中山村。
	ネンペコ	静岡県引佐郡伊平村川名。
	ネンボ	岡山県児島郡赤崎町菰池・島根県周吉郡・穩地郡都万村都万。
	ネンボチャ	鳥取県八頭郡 ^d 。
	ネンボチャ	鳥取県八頭郡智頭町。
	ネンボチャン	鳥取県。
	ネンボツ	島根県海士郡 ^d 。
	ノオ	宮城県仙台市 ^d 。
	ノオコ	宮城県仙台市 ^d 。
	ノーザメ (ノオザメ)	熊本県・天草郡鬼池村。
	ノオジャメ	鹿児島県薩摩郡 ^d 。
	ノオダメ	鹿児島県薩摩郡 ^d 。
	ノザメ	熊本県天草郡本渡町・牛深町・豊岡町・大江村・鬼池村・宮地村小宮地・福連木村八丁・一丁田村平野・楠浦村・鹿児島県出水郡東長島村・西長島村。
	ノザメコ	熊本県。
	ノザメゴ	熊本県玉名郡滑石村・天草郡。
	ノタメ	熊本県天草郡。
	ノダメ	熊本県天草郡宮地村小宮地。
	ノドクサレ	徳島県板野郡撫養町。
	ノノコ	福井県足羽郡上宇坂村。
	ノボ	富山県西砺波郡；石川県金沢市 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ノボセコ	宮城県仙台市 ^d .
	ノボリコ	徳島県海部郡川上村小川・高知県幡多郡小築紫村（伊予野・小築紫）・伊豆田村・安芸郡・安芸町・川北村・土居村・和食村白髪・西分町西岡・伊尾木村.
	ノミゴ	徳島県海部郡.
	ノミザコ	二宮崎県都城市西上町.
	ノミジャコ	徳島県海部郡.
	ノミッコ	長野県長野市；長野県上水内郡 ^d .
	ノミトト	岐阜県吉城郡古町.
	ノミノコ	岐阜県郡上郡・福井県坂井郡竹田村・三重県多気郡大杉谷村.
	ノミヨ	新潟県北魚沼郡 ^d .
	ノミン	徳島県美馬郡.
	ノミンコ	兵庫県宍粟郡；岡山県井原市；岡山県後月郡；徳島県美馬郡 ^d
	ノミンゴ	岐阜県郡上郡・岡山県後月郡井原町・芳井町.
	ノミンサ	岡山県後月郡井原町・出部村.
	ノミンザコ	徳島県美馬郡 ^d .
	ノミンサン	岡山県後月郡井原町.
	ノミンジャコ	兵庫県宍粟郡・徳島県美馬郡.
	ノミンジョ	岡山県小田郡 ^d .
	ノミンチャ	徳島県美馬郡 ^d .
	ノミンチャコ	徳島県美馬郡.
	ノミンチョ	岡山県後月郡井原町.
	ノメ	香川県 ^d .
	ノメゴ	徳島県海部郡.
	ノメサ	石川県 ^d .
	ノメッコ	愛知県北設楽郡 ^d .
	ノメッコ	静岡県周智郡水窪村・磐田郡山香村.
	ノメラ	愛知県 ^d .
	ノメンジャコ	碑島県海部郡.
	ノンザコ	宮崎県都城市西上町.
	ノンダメ	鹿児島県薩摩郡 ^d .
	ノンチャコ	静岡県浜名郡 ^d .
	ノンパコ	静岡県浜名郡 ^d .
	ノンベラ	和歌山県 ^d .
	ノンボリコ	高知県安芸郡・安芸町・土居村.
	ハアリング	鳥取県八頭郡 ^d .
	ハイコ	福井県遠改郡熊川村（熊川・河内）.
	ハイゴ	福井県敦賀郡東郷村井川・和歌山県東牟婁郡色川村・福岡県三池郡玉川村・佐賀県神崎郡脊振村広瀧・熊本県上益城郡白糸村菅.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ハイコバイ	福井県遠敷郡熊川村新道
	ハイコベェベェ	佐賀県小城郡 ^d .
	ハイコロ	和歌山県西牟婁郡 ^d .
	ハイコンベ	三重県南牟婁郡入鹿村.
	ハイザコ	山形県寒河江市 ^d .
	ハイジャコ	大阪府南河内郡石川村一須賀・奈良県山辺郡二階堂村・高市郡高取町清水谷・吉野郡吉野町.
	ハイタンバ	和歌山県西牟婁郡.
	ハイッカ	長野県小県郡依田村.
	ハイッコ	宮城県仙台市 ^d .
	ハイノコ	奈良県・吉野郡吉野町吉野山・山口県都濃郡中須村・鹿野村・徳島県.
	ハイノミズ	山口県玖珂郡 ^d .
	ハイノメ	富山県中新川郡 ^d .
	ハイノメンコ	鹿児島県鹿屋市 ^d .
	ハイフキ	広島県高田郡吉田町.
	ハイミズ	山口県阿武郡 ^d .
	ハイミド	広島県安佐郡伴村.
	ハイミミ	石川県金沢市 ^d .
	ハイメゴ	和歌山県東牟婁郡請川村.
	ハイメミ	石川県金沢市 ^d .
	ハイモンチキ	奈良県奈良市.
	ハインゴ	鳥取県日野郡 ^d .
	ハエ	岐阜県益田郡下原村大船渡・吉城郡河合村床・福岡県八女郡白木村本山.
	ハエーゴ	岡山県浅口郡黒崎村.
	ハエゴ	鳥取県東伯郡・日野郡・福岡県三池郡三池町・佐賀県藤津郡浜町・熊本県・鹿本郡広見村・上益城郡御船町瀧川・八代郡下松求麻村生名子.
	ハエゴロ	鹿児島県 ^d .
	ハエザッコ	岩手県水沢市 ^d .
	ハエヅ	兵庫県 ^d .
	ハエタ	岡山県 ^d .
	ハエッコ	岩手県紫波郡 ^d .
	ハエノコ	鳥取県東伯郡.
	ハエノミド	山口県玖珂郡 ^d .
	ハエミド	広島県安佐郡飯室村宇津.
	ハエン	島根県出雲市 ^d .
	ハエンイオ	鹿児島県大口市 ^d .
	ハエンコ	福岡県築上郡岩屋村.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ハエンゴ	鳥取県日野郡日野上村生山・阿毘緑村下阿毘緑・島根県邑智郡君谷村別府。
	ハエンボオ	宮崎県 ^d 。
	ハグルマ	岐阜県本巣郡外山村金原。
	ハゲンツ	鹿児島県川辺郡知覧町。
	ハコパイヌ	岐阜県。
	ハゴロ	愛媛県北条市 ^d 。
	ハシジャコ	福井県武生市；福井県南条郡 ^d 。
	ハジッコ	鹿児島県熊毛郡 ^d 。
	ハゼノコ	千葉県安房郡 ^d 。
	ハゼピン	兵庫県津名郡。
	ハゼンコ	千葉県館山市 ^d 。
	ハゼンバ	香川県三豊郡 ^d 。
	バチ	三重県亀山市 ^d 。
	パチンコ	静岡県志太郡 ^d 。
	ハッコメッコ	岩手県大船渡市 ^d 。
	ハッジャコ	福井県南条郡 ^d 。
	パッチリ	三重県南牟婁郡西山村。
	ハデコ	和歌山県日高郡塩屋村矢田。
	ハナウカシ	栃木県下都賀郡壬生町（舟町）。
	ハナウキ	滋賀県蒲生郡。
	ハナウキジャコ	滋賀県蒲生郡。
	ハナカケ	茨城県猿島郡；岐阜県高山市 ^d 。
	ハナカケザッコ	茨城県。
	ハナクサリ	愛知県知多郡。
	ハナグサレ	三重県 ^d 。
	ハナジャコ	奈良県吉野郡 ^d 。
	ハナタレ	熊本県球磨郡 ^d 。
	ハナタレゴマンズー	熊本県球磨郡。
	ハナッカケ	茨城県水海道市；茨城県猿島郡 ^d 。
	ハナミド	広島県 ^d 。
	ババザッコ	富山県上新川郡広田村・下新郡松倉村。
	ババジャッコ	富山県西砺波郡鷹栖村。
	ババンチョ	福井県丹生郡志津村大森。
	ハビラコ	高知県安芸郡。
	ハメンジャコ	福井県吉田郡下志比村浄法寺吉波。
	ハヤ	広島県安佐郡三川村・高知県高岡郡高岡町・新莊村・福岡県久留米市長門石町・長崎県対馬・佐賀県佐賀郡西与賀村・兵庫村・神崎郡千歳村。
	ハヤーゴ	佐賀県佐賀郡小関村小副川。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ハヤゴ	福岡県八女郡白木村本山・佐賀県佐賀郡兵庫村・小城郡蘆刈村・北多久村多久原・南山村・北山村・藤津郡嬉野町・長崎県北高来郡小野村黒崎名。
	ハヤッコ	東京府西多摩郡箱根崎村・同府北多摩郡拝島村・同府村山村・栃木県芳賀郡逆川村・群馬県勢多郡南橋村北代田・多野郡藤岡町・山梨県北巨摩郡円野村・長野県東筑摩郡麻績村矢・静岡県富士郡富士町・安倍郡玉川村・梅ヶ島村・大川村・長野県小県郡依田村。
	ハヤスゴ	佐賀県佐賀郡 ^d 。
	ハヤッチョ	東京府北多摩郡拝島村・同府砂川村・同府村山村。
	ハヤノコ	広島県安佐郡可部町・鳥取県。
	ハヤメ	東京府南多摩。
	ハヤメゴ	愛媛県上浮穴郡 ^d 。
	ハヤメッコ	東京府西多摩郡一円・同府青梅村・同府霞村・同府成木村・同府調布村・同府吉野村・群馬県碓氷郡臼井町横川・安倍郡玉川村・駿東郡北郷村。
	ハヤメッコオ	群馬県碓氷郡 ^d 。
	ハヤメッチョ	東京都青梅市；東京都西多摩郡 ^d 。
	ハヤメド	神奈川県愛甲郡中津村八菅山・駿東郡小山町。
	ハヤメドオ	山梨県南巨摩郡 ^d 。
	ハヤメドッコ	東京府西多摩郡一円・同府南多摩郡由井村・同府元八王寺村・同府加住村・同府小宮村・同府由木村。
	ハヤメンコ	埼玉県入間郡名栗村下名栗・駿東郡原里村。
	ハヤメンゴ	栃木県安蘇郡 ^d 。
	ハヤメンドオ	群馬県多野郡 ^d 。
	ハヤンコ	福岡村飯塚市徳前・長崎県北高来郡諫早町本明石。
	ハヤンゴ	広島県安芸郡熊野町・昭和村・佐伯郡平良村・安佐郡三川村・佐賀県三養基郡鳥栖町藤木。
	ハヤンゴチ	広島県安芸郡熊野町。
	ハヤンベ	栃木県宇都宮市 ^d 。
	ハヨ	岩手県東磐井郡；宮城県本吉郡；群馬県藤岡市・多野郡・安中市・碓氷郡・吾妻郡；岐阜県多治見市；愛知県南設楽郡 ^d 。
	ハヨオコ	群馬県吾妻郡 ^d 。
	ハヨオド	長野県大町市 ^d 。
	ハヨノコ	群馬県吾妻郡 ^d 。
	ハヨッコ	群馬県多野郡万場町。
	ハヨミツ	岩手県東磐井郡 ^d 。
	ハヨメッコ	群馬県前橋市・碓氷郡秋間村東上秋間・埼玉県入間郡・梅園村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ハヨメド	群馬県碓氷郡松井田町松井田。
	ハヨメドオ	群馬県多野郡 ^d 。
	ハヨメン	山梨県都留市 ^d 。
	ハヨメンコ	埼玉県入間郡 ^d 。
	ハヨメンドオ	群馬県多野郡 ^d 。
	ハラバン	愛媛県越智郡 ^d 。
	ハラブク	新潟県佐渡郡 ^d 。
	ハラブ克蘭	福岡県八女郡上広川村六田。
	ハラフト	広島県・宮崎県。
	ハラプト	高知県高岡郡。
	ハラフトネンブツ	広島県 ^d 。
	ハラボテ	京都府・兵庫県武庫郡山田村。
	ハラマン	愛媛県越智郡 ^d 。
	ハラミカッカ	静岡市。
	ハラミド	山口県岩国市 ^d 。
	ハラメカッカ	静岡市。
	ハラメンダ	静岡県田方郡 ^d 。
	ハラメンパ	静岡県浜松市。
	ハラワタジャコ	兵庫県朝来郡 ^d 。
	ハリーコ	静岡県安倍郡玉川村。
	ハリーゴ	佐賀県佐賀郡小関村小副川。
	ハリウオ	福島県会津若松市；新潟県東頸城郡；和歌山県伊都郡；宮崎県児湯郡 ^d 。
	ハリウヲ	新潟県東頸城郡保倉村長者島。
	ハリオ	宮崎県児湯郡 ^d 。
	ハリカ	青森県・三戸郡。
	ハリカッコ	岩手県気仙郡上有住村。
	ハリガネ	愛媛県越智郡 ^d 。
	ハリコ	岐阜県郡上郡・石川県能美郡・和歌山県・東牟婁郡色川村・高知県香美郡・愛媛県上浮穴郡・福岡県八女郡矢部村殊正寺・熊本県阿蘇郡南小国村湯田・大分県日田郡前津江村・中津江村。
	ハリゴ	鳥取県八頭郡智頭町早瀬・徳島県海部郡中木頭村白石・高知県播磨郡小築紫村福良・高岡郡・下半山村・檜原村檜原・東津野村船戸・吾川郡・下八川村八川・香美郡・上斐生・安芸郡。
	バリコ	愛知県北設楽郡 ^d 。
	ハリゴウ	広島県山県郡 ^d 。
	ハリコイオ	福岡県八女郡矢部村殊正寺。
	ハリゴー	広島県山県郡殿賀村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ハリコギ	大分県日田郡上津江村葉迫。
	ハリコッコ	岩手県気仙郡世田米村。
	ハリゴマ	岐阜県本巣郡 ^d 。
	ハリコメ	福岡県八女郡下広川村。
	ハリゴメ	福井県南条郡；福岡県八女郡 ^d 。
	ハリゴメン	兵庫県多記郡。
	ハリザコ	福井県武生市 ^d 。
	ハリザッコ	山形県西村山郡 ^d 。
	ハリサワ	石川県 ^d 。
	ハリジャコ	福井県武生市；福井県南条郡；福井県今立郡；福井県丹生郡 ^d
	ハリシン	福井県 ^d 。
	ハリチャ	福井県武生市 ^d 。
	ハリチャゴ	福井県南条郡 ^d 。
	ハリッコ	安倍郡・大川村・玉川村・大河内村・梅ヶ島村・周智郡気多村・熊切村・愛知県北設楽郡・田口町・田口。
	バリッコ	愛知県北設楽郡 ^d 。
	ハリネンバリ	島根県鹿足郡柿木村白谷。
	ハリノサキ	福井県南條郡堺村宇津尾・敦賀郡中郷村。
	ハリノッコ	静岡県安倍郡大村。
	ハリノミズ	岐阜県郡上郡。
	ハリノミゾ	香川県 ^d 。
	ハリノメ	岐阜県郡上郡西和良村美山・熊本県阿蘇郡・上益蚊郡。
	ハリバイ	和歌山県日高郡清川村。
	ハリベッコ	岩手県東磐井郡 ^d 。
	ハリボー	岡山県英田郡。
	ハリマゴ	岐阜県本巣郡。
	ハリミジ	福島県大沼郡 ^d 。
	ハリミズ (ハリミツ)	秋田県雄勝郡院内町・岩手県和賀郡沢内村 (新町)・福島県南会津郡旭田村塩生。
	ハリミズコ	山形県東田川郡；福島県会津若松市；福島県耶麻郡；福島県大沼郡 ^d 。
	ハリミゾ	青森県上北郡野辺地村・宮城県柴田郡崎村・秋田県仙北郡・福島県北会津郡・郡摩耶郡松山村村松・山形県最上郡東小国村。
	ハリミチコ	岩手県九戸郡葛巻村。
	ハリミツ	岩手県東磐井郡矢越村。
	ハリミツカ	宮城県気仙沼市 ^d 。
	ハリミツコ	宮城県気仙沼市 ^d 。
	ハリミツコ	福島県郡耶麻郡磐梯村・大沼郡本郷町 (鳥狩町)。
	ハリミド	岩手県東磐井郡；山口県玖珂郡 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ハリミミ	石川県金沢市 ^d .
	ハリミミン	鳥取県八頭郡 ^d .
	ハリミンコ	山形県北村山郡田麦野村.
	ハリメ	山梨県南都留郡; 岐阜県古城郡 ^d .
	ハリメザカ	茨城県猿島郡 ^d ; 京都府亀岡市 ^d .
	ハリメダカ	東京都 ^d .
	ハリメッコ	安倍郡玉川村.
	ハリメド	東京府北多摩郡砂川村・埼玉県秩父郡両神村小森・群馬県勢多郡南橋村田口小出・神奈川県津久井郡内郷村・長野県埼玉県秩父郡 ^d .
	ハリメドオ	群馬県前橋市 ^d ; 長野県木曾郡・西筑摩郡 ^d .
	ハリメドッコ	福井県大野郡下味見村折五・石川県金沢市上新町.
	ハリメメ	富山県富山市; 富山県高岡市; 富山県小矢部市 ^d .
	ハリメメン	埼玉県入間郡飯能町・精明村・南高麗村・山口県玖珂郡深須村.
	ハリメン	山梨県 ^d .
	ハリメンキャア	山梨県・南津留郡谷村町.
	ハリメンキュー (ハリメンキュウ)	山梨県 ^d .
	ハリメンキョオ	埼玉県入間郡・加治村・吾野村(高山・坂石)・飯野町・南高麗村・引佐郡鎮玉村・磐田郡下阿多古村・上阿多古村・愛知県北設楽郡・岐阜県古城郡船津町.
	ハリメンコ	愛知県北設楽郡 ^d .
	バリメンコ	静岡県榛原郡 ^d .
	ハリメンザ	山梨県.
	ハリメンチョ	埼玉県秩父郡倉尾村.
	ハリメンドー	三重県桑名市出屋敷.
	ハリメンバ	高知県安芸郡 ^d .
	ハリモツゴ	高知県安芸郡.
	ハリモツゴ	兵庫県美方郡兔塚村・小代村大谷.
	ハリンギョ	静岡県安倍郡井川村・愛知県北設楽郡・岐阜県大垣市鳥見町・福井県福井市・敦賀郡愛発村疋田・兵庫県養父郡関宮村関ノ宮・熊本県菊池郡隈府村.
	ハリンコ	静岡県安倍郡 ^d .
	ハリンコオ	島根県邑知郡・兵庫県養父郡・広島県佐伯郡津田町・玖島村・水内村・友和村・安佐郡三入村南原・三川村・川内村下温井・戸山村・大林村・鈴張村・山県郡都谷村・筒賀村・雄鹿原村・高田郡生桑村(桑田・生田)・刈田村・市川村本郷・根野村上根・郷野村・可愛村中馬・鳥取県八頭郡智頭町・若桜町・八東村・池田村・中私都市・高知県吾川郡; 広島.
	ハリンゴ	

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ハリンゴ	島根県鹿足郡・岡山県苫田郡・広島県高田郡根野村上根。
	ハリンサー	山口県佐波郡。
	ハリンタコ	広島県高田郡根野村下根。
	ハリンチョ	広島県安佐郡亀山村綾ヶ谷。
	ハリンチョコ	広島県安佐郡亀山村・綾ヶ谷。
	ハリンド	広島県安佐郡・佐伯郡。
	ハリンドー	島根県鹿足郡。
	ハリンノー	静岡県安倍郡清沢村。
	ハルイオ	広島県世羅郡三川村。
	ハルコ	石川県金沢市 ^d 。
	ハルゴ	熊本県阿蘇郡小蜂村緑川。
	ハルコイオ (春小魚)	福岡県八女郡矢部村笹又。
	ハルコッコザッコ	岩手県気仙郡世田米村。
	ハルザッコ	富山県下新川郡浦山村。
	ハルジャコ	福井県武生市；福井県今立郡 ^d 。
	ハルミズ	宮城県本吉郡 ^d 。
	ハルメ	青森県・上北郡。
	ハルメコ	群馬県前橋市 ^d 。
	ハルメメ	石川県金沢市 ^d 。
	ハンゴ	福井県今立郡 ^d 。
	ハンジャコ	福井県今立郡 ^d 。
	パンジンゴメ	静岡県志太郡 ^d 。
	バンダイ	大阪府 ^d 。
	バンダイコ	京都市。
	ハンチャコ	青森県八戸市 (小中野町)。
	ハンチョオウオ	群馬県藤岡市 ^d 。
	ハンノメ	熊本県阿蘇郡・上益城郡。
	パンパク	広島県安芸郡江田島村。
	ハンミミ	石川県金沢市 ^d 。
	ハンヤ	鹿児島県大島郡 ^d 。
	ヒイカ	山口県大島郡 ^d 。
	ビイカチ	福岡県 ^d 。
	ビーコ	島根県邑智郡阿須郡・広島県双三郡。
	ビーゴ	島根県飯石郡。
	ビイシャ	島根県邑智郡。
	ビイシャア	島根県邑智郡 ^d 。
	ヒイタ	山口県大島郡安下庄町。
	ビイタ	島根県邑智郡 ^d 。
	ビータイ	山口県玖珂郡麻里布町・和木村。
	ビータゴ	広島県高田郡。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ビイタノコ	島根県邑智郡 ^d .
	ビイタンコ	島根県鹿足郡；山口県阿武郡 ^d .
	ビータンゴ	山口県阿武郡嘉年村・徳佐村.
	ビイチャコ	島根県邑智郡.
	ビーノコ (ビイノコ)	島根県邑智郡・飯石郡.
	ビイビイ	香川県高松市；香川県木田郡 ^d .
	ビイビイコ	広島県高田郡川根村川根.
	ビービータコ	広島県高田郡横田村.
	ビイビインコ	大分県南海部郡 ^d .
	ビイビンジャコ	香川県高松市；香川県木田郡；香川県香川郡 ^d .
	ビイビンチャコ	香川県香川郡 ^d .
	ビイリゴ	熊本県玉名市 ^d .
	ヒカリ	愛媛県越智郡 ^d .
	ヒカリコ	茨城県 ^d .
	ヒキナゴ	高知県長岡郡.
	ビキンジョ	岡山県児島郡日比町和田.
	ピクピク	岐阜県山県郡 ^d .
	ヒゲザ	静岡県駿東郡.
	ヒコ	石川県 ^d .
	ビシンコ	熊本県山鹿市 ^d .
	ビスゴ	高知県高岡郡.
	ビゼンコ	大分県大野郡 ^d .
	ビダ	茨城県稲敷郡 ^d .
	ビチゴ	大分県大分郡.
	ビチナゴ	大分県大分郡.
	ビチノゴ	大分県大分郡 ^d .
	ヒチリンコ	島根県邑智郡.
	ピチンコ	熊本県玉名市 ^d .
	ビッコ	神奈川県.
	ビッコロ	佐賀県三養基郡基山村.
	ヒッタカ	鹿児島県出水郡.
	ヒッタカメンチョ	鹿児島県出水郡野田村 (上名・下名).
	ヒッチカメンチョオ	鹿児島県出水郡 ^d .
	ビッチン	大分県大分郡.
	ヒッツウ	兵庫県城崎郡 ^d .
	ヒナマメ	鹿児島県.
	ヒネンブ	島根県速摩郡 ^d .
	ビビ	広島県高田郡丹比村多治比.
	ビビイ	広島県 ^d .
	ビビータコ	広島県山県郡八重町・高田郡横田村.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ビビイタコ	広島県山県郡；広島県高田郡 ^d .
	ビビシャゴ	京都府綾部市 ^d .
	ビビタンゴ	山口県 ^d .
	ビビチャコ	香川県高松市 ^d .
	ビビチャンゴ	兵庫県明石市；兵庫県美方郡 ^d .
	ビビチョ	山口県熊毛郡.
	ビビランコ	大分県佐伯市 ^d .
	ビビン	広島県高田郡・香川県香川郡仏生山町栄町・大川郡志度町 間川・石田村東・鴨部村（東山・中筋）・福栄村・木田郡 平井町・池戸・田中村上田中・氷上村中川・東植田村.
	ヒピンコ	兵庫県水上郡・香川県大郡長尾町.
	ビピンコ	香川県木田郡平井町・井戸村・大分県南海辺郡川原木村 （但しハヤの子をも混称して呼ぶことあり）・上堅田村長 谷・下堅田村・新佐伯町長谷.
	ビピンゴ	広島県高田郡丹比村多治比.
	ヒピンジャコ	香川県大川郡志度町・東讃地方（高松以東）.
	ビピンジャコ	香川県大川郡鴨庄村・鴨部村（東山・中筋）・五名村・木 田郡木太村・平井町池戸.
	ビピンシャン	兵庫県水上郡 ^d .
	ビピンター	徳島県三好郡.
	ビピントコ	広島県高田郡生桑村桑田・来原村・本村・船佐村.
	ビピンチャ	広島県高田郡本村・徳島県板野郡撫養町立岩・大津村段関 ・堀江村牛屋島・内村大松・藍国村徳命.
	ビピンチャコ	広島県山県郡八重町・高田郡船佐村・生桑村桑田・北村・ 香川県小豆郡豊島村.
	ビピンチャゴ	兵庫県三原郡.
	ビピンチョ	広島県高田郡；香川県木田郡 ^d .
	ビピンチョー	鹿島県高田郡来原村.
	ビピンチョコ	広島県高田郡甲立町浅塚・横田村.
	ヒミズ	山口県 ^d .
	ヒメ	静岡県藤枝市 ^d .
	ヒメイタ	徳島県.
	ヒメェツウウ	広島県広島市 ^d .
	ヒメキング	栃木県宇都宮市 ^d .
	ヒメダカ	東京都 ^d .
	ヒメンパ	三重県伊勢市 ^d .
	チャーノコ	石川県金沢市.
	チャノコ	石川県石川郡 ^d .
	ヒヤミズ	神奈川県横浜市 ^d .
	ビヤンコ	熊本県天草郡.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ヒョイタ	兵庫県 ^d .
	ヒョキメ	福井県遠敷郡 ^d .
	ヒョコタ	石川県 ^d .
	ヒョコタン	広島県 ^d .
	ヒョメキ	福井県遠敷郡野木村玉置.
	ヒヨリゴ	熊本県阿蘇郡小国町.
	ビヨンコ	熊本県上益城郡.
	ヒラコ	三重県 ^d .
	ヒラゴ	兵庫県 ^d .
	ビラコ	岩手県一関市；岩手県西磐井郡；岩手県東磐井郡 ^d .
	ヒラゴジャコ	兵庫県 ^d .
	ヒラシ	宮城県仙台市 ^d .
	ヒラズジ	福岡県 ^d .
	ヒラタコ	福井県三方郡耳村新庄.
	ビラッコ	岩手県東磐井郡藤沢町・栃木県塩谷郡氏家町氏家.
	ヒラベ	広島県 ^d .
	ヒラント	滋賀県 ^d .
	ビリ	茨城県北相馬郡；愛知県 ^d .
	ビリコ	広島県双三郡・高田郡.
	ビリッコ	愛知県南設楽郡 ^d .
	ビルン	香川県三豊郡.
	ヒリンコ	島根県邑智郡.
	ヒリング	広島県比婆郡庄原町・比和町.
	ビルンコ	岐阜県美濃・広島県高田郡甲立町浅塚・島根県邑智郡粕淵村（粕淵・小原）・三原村三原・安濃郡・香川県三豊郡・福岡県福岡市西部・田川郡後藤寺町.
	ビルンゴ	島根県邑智郡粕淵村小原.
	プリング	島根県飯石郡.
	ヒリンチャコ	島根県邑智郡 ^d .
	ビルンチャコ	広島県高田郡甲立町浅塚.
	ヒリンチョ	広島県比婆郡西域町・下高野山村・口北村.
	ビルンチョ	広島県双三郡 ^d .
	ビルンチョコ	広島県比婆郡口南村.
	ビンガ	岐阜県 ^d .
	ピンコ	京都府.
	ピンゴ	石川県金沢市 ^d .
	ヒンゴロ	高知県南国市；高知県長岡郡 ^d .
	ピンザコ	茨城県笠間市 ^d .
	ビント	滋賀県；熊本県 ^d .
	ピンチャンコ	宮城県白石市 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ビンチョ	香川県香川郡太田村太田・福岡県京都郡諫山村池田。
	ビンチョコ	岐阜県武儀郡美濃町。
	ビンビ	石川県金沢市 ^d 。
	ビンビコ	石川県金沢市 ^d 。
	ビンビノコ	高知県土佐郡。
	ピンピョコ	石川県金沢市 ^d 。
	ビンビラ	香川県大川郡長尾町長尾名。
	ヒンビロ	高知県長岡郡。
	ビンビン	島根県 ^d 。
	ピンピン	徳島県板野郡大津村段関。
	ピンピンコ	島根県邑智郡 ^d 。
	ビンピンコ	島根県邑智郡日貫村。
	ピンピンザコ	茨城県東茨城郡縁岡村小吹。
	ピンピンジャコ	香川県香川郡 ^d 。
	ピンピンチャコ	島根県邑智郡。
	ブイブイ	長崎県平戸市 ^d 。
	フーゾーゴ	熊本県天草郡。
	フェザッコ	岩手県北上市 ^d 。
	フェヤザッコ	秋田県仙北郡下楡木内村松葉。
	フキス	和歌山県西牟婁郡下芳養村。
	フキドンバイ	和歌山県西牟婁郡上芳養村・下芳養村。
	フギョ	東京都 ^d 。
	フクダ	岩手県紫波郡 ^d 。
	フクレメ	茨城県笠間市 ^d 。
	フセンコ	愛知県愛知郡。
	フタゴ	広島県安佐県八木村。
	ブツ	徳島県板野郡松茂村広島・大津村段関。
	ブッゴロ	鹿児島県曾於郡 ^d 。
	ブツツン	徳島県板野郡撫養町林崎。
	フナー	沖縄県八重山郡石垣村。
	フナゴ	愛媛県越智郡；佐賀県杵島郡 ^d 。
	フナッコ	岩手県北上市 ^d 。
	フナノコ	宮城県仙台市 ^d 。
	ブラ	鹿児島県揖宿郡穎娃村。
	ブラメ	鹿児島県川内市；鹿児島県曾於郡 ^d 。
	ブラメッコ	鹿児島県曾於郡 ^d 。
	ブンブン	徳島県美馬郡 ^d 。
	ハァッコ	岩手県二戸郡 ^d 。
	ベィベィタンゴ	佐賀県佐賀郡 ^d 。
	ヘーコ	岡山県浅口郡黒崎村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ヘエゴ	岡山県倉敷市 ^d .
	ベータンゴ	山口県阿武郡徳佐村徳佐上.
	ベーベータンゴ	佐賀県佐賀市・下合宿町・佐賀郡川上村（下村・上戸田） ・小城郡小城町右原・牛津町新町・砥川村上砥川・東多久村・織分村.
	ベーベータンジュ	佐賀県小城郡三日川村道辺.
	ベーベータンジョ (ベエベエタンジヨ)	福岡県・佐賀県小城郡西多久村.
	ベーベータンジョ	佐賀県小城郡 ^d .
	ベーベータンジョー	佐賀県佐賀郡久保田村搦・川上村・小城郡小城町・牛津町 ・三日川村・芦刈村.
	ベーベータンズウ	佐賀県多久市 ^d .
	ベーベータンツー	土佐県小城郡東多久村別府.
	ベーベータンツー	佐賀県小城郡東多久村別府.
	ベーベータンチャンゴ	佐賀県佐賀市.
	ベーベータンゴ	佐賀県佐賀郡久保田村徳万・鍋島村.
	ベーベータンチャンゴ	佐賀県佐賀市.
	ベーベータンチャコ	徳島県那賀郡.
	ヘコ	石川県 ^d .
	ヘゴ	秋田県南秋田郡 ^d .
	ペコ	石川県羽咋郡 ^d .
	ヘコタ	石川県羽咋郡羽咋町・志雄町菅原・一宮村・石川郡.
	ペコタ	石川県石川郡 ^d .
	ヘコタノメ	石川県能美郡大杉谷村大杉.
	ペコチョン	石川県河北郡 ^d .
	ヘコメ	福井県今立郡 ^d .
	ヘザ	岩手県盛岡市 ^d .
	ヘササ	石川県河北郡 ^d .
	ヘザッコ	岩手県盛岡市 ^d .
	ヘズギ	山形県 ^d .
	ベタ	高知県安芸郡.
	ベター	徳島県海部郡日和佐町日和佐浦.
	ベタージャコ	徳島県三好郡.
	ベタコ	高知県高岡郡.
	ベタタキ	三重県南牟婁郡神志山村.
	ベタダキ	徳島県三好郡 ^d .
	ベタバヤ	佐賀県武雄市 ^d .
	ベタン	徳島県三好郡.
	ベタンコ	徳島県海部郡.
	ベタンゴ	広島県呉市 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ベタンジャコ	徳島県美馬郡郡里村・三好郡加茂村・三庄村中庄。
	ペチコ	千葉県佐原市 ^d 。
	ベチャンコ	島根県邑智郡 ^d 。
	ベト	新潟県佐渡郡 ^d 。
	ヘピンチョ	福岡県田川郡添田町。
	ベベシャゴ	京都府綾部市 ^d 。
	ベベター	徳島県那賀郡。
	ヘベタコ	福井県大野市 ^d 。
	ヘベタゴ	福井県遠敷郡国富村丸山。
	ベベタンゴ	佐賀県佐賀市・佐賀郡嘉瀬村十五。
	ベベダンゴ	佐賀県；佐賀県佐賀郡 ^d 。
	ベベタンジョオ	佐賀県佐賀郡 ^d 。
	ベベチャンゴ	佐賀県。
	ベベラコ	愛媛県北宇摩郡来村寄松・徳島県海部郡。
	ベベン	徳島県・那賀郡富岡町富岡・鷺敷町・橘町幸野。
	ベベンコ	熊本県。
	ベベンジャコ	徳島県那賀郡福井町・桑野村桑野。
	ベベンタ	徳島県徳島市 ^d 。
	ベベンチャ	徳島県那賀郡富岡町富岡。
	ベベンチャコ	徳島県勝浦郡生比奈村沼江。
	ベベンチョ	広島県深安郡 ^d 。
	ベベンチョー	岡山県後月郡芳井町。
	ベベンチョコ	岡山県後月郡芳井町・山野上村。
	ヘヤッコ	岩手県二戸郡 ^d 。
	ヘラタ	福井県南条郡 ^d 。
	ベランコ	福井県遠敷郡中名田村深谷。
	ベンコ	長野県更級郡川中島村。
	ベンジョ	福岡県田川郡。
	ベンジョコ	福岡県；福岡県田川郡 ^d 。
	ペンチャク	愛知県額田郡山中村北山。
	ペンチャコ	徳島県那賀郡。
	ペンチャコ	愛知県岡崎市 ^d 。
	ペンチャンコ	宮城県白石市；宮城県刈田郡 ^d 。
	ベンチョコ	三重県一志郡多気村・福岡県田川郡香春村。
	ベンバヤ	佐賀県佐賀市 ^d 。
	ベンベコ	石川県金沢市 ^d 。
	ペンベコ	石川県金沢市 ^d 。
	ペンペンザァッコ	茨城県笠間市 ^d 。
	ペンペンザコ	茨城県東茨城郡縁岡村平須・那賀郡額田村・鹿島郡夏海村 神山・筑波郡小野川村赤塚。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ペンペンザゴ	茨城県笠間市；茨城県西茨城郡 ^d 。
	ペンペンザコメ	茨城県那珂郡。
	ペンペンザッコ	茨城県鹿島郡夏海村神山。
	ペンペンシヨ	富山県滑川市 ^d 。
	ホーセン	山口県山口市 ^d 。
	ホーセンゴ	岡山県吉備郡箭田村・二万村・岡田村。
	ホーセンゴー	岡山県吉備郡園村有井。
	ホオセンジャコ	岡山県倉敷市 ^d 。
	ホオセンバイ	岡山県吉備郡 ^d 。
	ホーセンボー	岡山県都窪郡山手村岡谷・吉備郡・二万村。
	ボオソ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	ホオテンコ	山梨県甲府市；山梨県北巨摩郡 ^d 。
	ホオテンボオ	山梨県甲府市 ^d 。
	ホオナゴ	群馬県沼田市；群馬県利根郡 ^d 。
	ホセンゴ	岡山県浅口郡 ^d 。
	ホソドバリン	千葉県君津市 ^d 。
	ボチ	静岡県 ^d 。
	ボッカリ	広島県。
	ボッコ	栃木県河内郡 ^d 。
	ボテ	兵庫県飾磨郡妻鹿町木場。
	ボテザコ	滋賀県 ^d 。
	ボテジャコ	滋賀県 ^d 。
	ボテン	大阪府大阪市 ^d 。
	ホトケシヨオ	神奈川県秦野市；神奈川県中郡；神奈川県足柄上郡；京都府綾部市 ^d 。
	ホトケンボオ	神奈川県秦野市；神奈川県中郡；神奈川県足柄上郡 ^d 。
	ボドッコ	岩手県胆沢郡姉体村。
	ホホノミ	三重県南牟婁郡西山村。
	ボラゴ	鹿児島県薩摩郡下甕村。
	ホリノコマモン	福岡県山門郡三橋村木之元。
	ホンネ	島根県隠岐郡。
	マイジョー	山口県大島郡沖浦村。
	マイマイコ	岡山県岡山市 ^d 。
	マイマイチヨ	三重県河芸郡一身田町。
	マズコ	熊本県阿蘇郡。
	マダカ	愛知県海部郡。
	マトンバイ	愛知県宝飯郡 ^d 。
	マトンパイ	愛知県八名郡大和村。
	マトンベ	愛知県南設楽郡長篠村。
	マメタ	京都府久世郡大久保村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	マメッコ	静岡県駿東郡 ^d .
	マメッパ	千葉県夷隅郡；千葉県館山市 ^d .
	マメパ	千葉県夷隅郡；千葉県館山市 ^d .
	マメノコ	福岡県北九州市門司区 ^d .
	マメンコ	福岡県北九州市門司区 ^d .
	マメンジャコ	大阪；大阪府豊能郡箕面村新稲；大阪府.
	マメンチョ	三重県安濃郡明合村.
	マメンチン	鹿児島県日置郡田布施村.
	マモリ	岡山県井原市 ^d .
	マワリゴ	福岡県山門郡東山村.
	マンガロ	山口県光市 ^d .
	マンタコ	兵庫県津名郡.
	マンダラ	徳島県名東郡加茂町田宮.
	ミーブクラ	鹿児島県大島郡.
	ミーブクライユンカ	鹿児島県大島郡.
	ミイブグライユウンカ	鹿児島県大島郡 ^d .
	ミイミイジャコ	石川県金沢市 ^d .
	ミイミインジャコ	香川県高松市 ^d .
	ミイミインチャコ	香川県高松市 ^d .
	ミイミンゴ	鳥取県八頭郡若桜町.
	ミキヨ	鹿児島県名瀬市 ^d .
	ミキュウ	鹿児島県名瀬市 ^d .
	ミコ	鹿児島県熊毛郡 ^d .
	ミザカ	福岡県久留米市.
	ミザガザッコ	岩手県気仙郡竹駒村.
	ミサゴ	長崎県北高来郡諫早町原口.
	ミササ	石川県金沢市；石川県河北郡 ^d .
	ミザッコ	福岡県久留米市京町・櫛原町・嘉穂郡桂川村土師・三井郡大堰村守部・山川村・太郎原・合川村・北野町・(十郎丸・今山)・三潞郡安武村安武本・八女郡福島町・羽犬塚町・三河村・光友村・谷川・上広川村・古川村溝口・水田村水田・浮羽郡吉井町・田主丸町・豊城・水分村・川会村・柴刈村片ノ瀬・水縄村・竹野村・御幸村(朝田・浮羽)・千年村・福富村・江南；村・船越村・秋成；福岡.
	ミザッコー	福岡県三井郡北野町.
	ミザッタ	福岡県八女郡福島町.
	ミジャコ	石川県金沢市 ^d .
	ミジン	岡山県浅口郡 ^d .
	ミジンコ	岡山県浅口郡金光町・大分県東国東郡武蔵町.
	ミジンシャコ	岡山県和気郡 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ミジンジャコ	岡山県倉敷市 ^d .
	ミズ	岐阜県 ^d .
	ミズイゴ	徳島県 ^d .
	ミズゴ	徳島県海部郡.
	ミズトリ	大阪府泉北郡 ^d .
	ミズドリ	大阪府泉北郡高石町.
	ミズノコ	岐阜県岐阜市；徳島県那賀郡 ^d .
	ミゼンコ	熊本県 ^d .
	ミソッコ	静岡県安倍郡井川村.
	ミゾッコ	福岡県.
	ミゾハヨ	三重県一志郡阿坂村.
	ミゾバヨ	三重県鈴鹿郡 ^d .
	ミダカ	沖縄県宮古郡多良間村.
	ミタバヤ	佐賀県小城郡北多久村小侍.
	ミチトシ	兵庫県津名郡多賀村.
	ミチュウ	沖縄県島尻郡 ^d .
	ミチョチン	兵庫県洲本市；兵庫県津名郡 ^d .
	ミツウ	沖縄県島尻郡 ^d .
	ミッチョ	鹿児島県名瀬市 ^d .
	ミデカ	石川県金沢市 ^d .
	ミト	奈良県添上郡大柳生村大抑生.
	ミド	広島県安佐郡伴村・伴・日浦村.
	ミトイチ	兵庫県津名郡 ^d .
	ミドー	広島県安佐郡戸山村阿戸.
	ミトコ	三重県度会郡.
	ミトコンパイ	三重県名賀郡矢持村.
	ミトザコ	三重県阿山郡上野町.
	ミトジャコ	三重県阿山郡島ヶ原村・新居村・丸柱村・中瀬村・兵庫県津名郡.
	ミトス	兵庫県赤穂郡赤松村赤松.
	ミトチ	兵庫県津名郡野島村.
	ミトチン	兵庫県三原郡・津名郡.
	ミドチン	兵庫県津名郡 ^d .
	ミドノコ	広島県高田郡 ^d .
	ミトノシタ	福井県遠敷郡松永村池河内.
	ミトバイ	三重県名賀郡瀧川村・薦原村・国津村.
	ミトバエ	三重県安濃郡芻水村・多気郡川添村・阿山郡島ヶ原村.
	ミトバヨ	三重県安濃郡芻水村・一志郡阿坂村・鈴鹿郡加太村・河芸郡明村・多気郡津田村・佐奈村・五佐奈・三瀬谷村・丹生村・度会郡中川村長原.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ミドバヨ	三重県飯南郡松尾村。
	ミトヒキ	兵庫県津名郡 ^d 。
	ミトヒチ	兵庫県津名郡 ^d 。
	ミトボヨ	三重県多気郡五ヶ谷村・丹生村。
	ミトモヌリ	高知県香美郡山田町。
	ミドンゴ	山口県玖珂郡 ^d 。
	ミドンゴー	山口県玖珂郡。
	ミトンジャコ	滋賀県甲賀郡 ^d 。
	ミナクチゴ	岡山県久米郡 ^d 。
	ミナクチザコ	鹿児島県始良郡横川村・於郡末吉町・薩摩郡。
	ミナクチザッコ	秋田県雄勝郡 ^d 。
	ミナグチザッコ	秋田県雄勝郡 ^d 。
	ミナグチタタキ	奈良県添上郡五ヶ谷村米谷。
	ミナグチバイ	奈良県吉野郡龍門村。
	ミナグチマモリ	青森県中津軽郡 ^d 。
	ミナクツイオ	鹿児島県始良郡 ^d 。
	ミナクトバイ	岡山県久米郡龍川村。
	ミナクトベェ	岡山県久米郡 ^d 。
	ミノダカ	愛知県一ノ宮市・中島郡萩原町。
	ミブセン	愛知県愛知郡一ノ部。
	ミブセンコ	愛知県愛知郡。
	ミミカンタ	石川県羽咋市 ^d 。
	ミミザコ	兵庫県三原郡 ^d 。
	ミミザッコ	富山県下新川郡入善町。
	ミミジャ	石川県金沢市；石川県小松市 ^d 。
	ミミジャク	石川県石川郡額村四十万・羽咋郡羽咋町。
	ミミシャコ	京都府綾部市 ^d 。
	ミミシャゴ	京都府何鹿郡志賀郷村志賀郷。
	ミミジャコ	福井県足羽郡麻生津村銚ヶ崎・石川県・金沢市・石川郡松任町・羽咋郡羽咋町・志雄町（柳瀬・荻谷・杉野屋・子浦・菅原）・粟ノ保村・上熊野村・京都府河田郡・和歌山県日高郡御坊町・御坊・湯川村・（宝・上富安）・松原村・和田村・西牟婁郡周参見町・兵庫県三原郡榎列村・倭文村神道・津名郡・香川県丸亀市・愛媛県新居郡新居浜町惣閉・桓生村・神郷村・船木村元船木・周桑郡田野村；福井・石川・和歌山・兵庫・香川・愛媛。
	ミミジャコオ	石川県金沢市；石川県石川郡；石川県羽咋市 ^d 。
	ミミジャッコ	富山県礪波市；富山県西砺波郡；石川県石川郡；石川県羽咋市 ^d 。
	ミミジロ	愛媛県喜多郡；愛媛県八幡浜市；愛媛県西宇和郡 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ミミズ	岡山県浅口郡寄島町国頭。
	ミミタ	石川県羽咋郡粟ノ保村。
	ミミタンゴ	兵庫県。
	ミミチャ	石川県羽咋郡邑知村（中邑知・円井）。
	ミミチャク	石川県羽咋市 ^d 。
	ミミチャコ	石川県羽咋郡邑知村中邑知。
	ミミチャン	兵庫県豊岡市 ^d 。
	ミミチャンゴ	兵庫県城崎郡田鶴野村下鶴井。
	ミミナゴ	佐賀県。
	ミミン	兵庫県神戸市・岡山県赤磐郡山方村・和気郡三石町三石・浅口郡三和村・六條院町六條院中区・小田郡笠岡町・徳島県板野郡北灘村折野・榎木・瀬戸町堂ノ浦・香川県西讃地方（高松以西）・大川郡引田町；兵庫・岡山・徳島・香川。
	ミミンギャク	富山県氷見市 ^d 。
	ミミンコ	兵庫県赤穂郡・徳島県板野郡大津村矢倉。
	ミミンゴ	岡山県小田郡・笠岡町・鳥取県八頭郡若桜町・愛媛県新居郡橋村・香川県高松市。
	ミミンザコ	岡山県笠岡市 ^d 。
	ミミンジャ	兵庫県揖保郡龍野町・岡山県浅口郡長尾町・徳島県板野郡北灘村折野。
	ミミンジャー	香川県大川郡津田村・誉水村。
	ミミンジャーコ (ミミンジャアコ)	和歌山県・岡山県浅口郡占見村道木。
	ミミンジャク	富山県婦負郡古里村長沢。
	ミミンシャゴ	京都府綾部市；兵庫県氷上郡 ^d 。
	ミミンジャコ	大阪；福井県敦賀郡粟野村金山・富山県富山市上り立町・下新川郡石田村・婦負郡八尾町・石川県能美郡北村土室・兵庫県揖保郡龍野町・斑鳩町・半田村二塚・室津村・赤穂郡相生町・那波町・若狭野村・高田村・高雄村・氷上郡柏原町・津名郡鮎原村・広石村・岡山県津山市・児島郡福田村・都窪郡茶屋町・浅口郡一円・玉島町・寄島町国上・連島町西之浦・金光町・占見・鴨方町・長尾町上ノ町・六條院町・船穂村船穂・富田村・里庄村・大島村・小田郡笠岡町・矢掛町・大井村・神島内村・後月郡井原町・出部村・和気郡三石町三石・徳島県板野郡北灘村折野・堀江村牛屋島・香川県東讃地方（高松以東）西讃地方（高松以西）・高松市・大川郡三本松町・志度町・白鳥本町・鶴羽村・丹生村・富田村・相生村相生・白鳥村・木田郡川島町・屋島町・香川県由佐村池谷・川岡村川部・三豊郡笠田村竹田・小豆郡二生村・愛媛県松山市・今治市・喜多郡大洲町。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ		新居郡西條町・新居浜町・氷見町・高津村・垣生町・神郷村・金子村・泉川村・角野村・中萩村・大生院村・飯岡村・神戸村・橋村・大久保木村・周桑郡丹原町・壬生川町・小松町・田野村・徳田村・宇摩郡小富士村・天満村・関川村・土居村・蕪崎村；福井・富山・石川・兵庫・岡山・徳島・香川・愛媛；大阪府。
	ミミンジャッコ	富山県東砺波郡種田村。
	ミミンジョ	愛媛県新居郡西條町・大生院村・飯岡村・神戸村。
	ミミンジョコ	岡山県小田郡。
	ミミンタ	徳島県板野郡撫養町・鳴門村高島・三好郡三野町太刀野。
	ミミンタイ	岡山県倉敷市 ^d 。
	ミミンチコ	香川県・徳島県板野郡大津村大代。
	ミミンチャ	石川県羽咋郡羽咋町・邑知村円井・兵庫県三原郡市村・徳島県板野郡撫養町・(南浜・木津・黒崎・斉田・岡崎・弁財天)・板東町板東・瀬戸町明神・応神村吉成・大津村段関・鳴門村高島・土佐泊・堀江村大谷・姫田・松茂村広島・川内村宮島・堀江村牛屋島・北灘村櫛木・折野；石川・兵庫・徳島。
	ミミンチャク	広島県賀茂郡西條町・下見村・川上村。
	ミミンチャコ	石川県羽咋郡邑知村円井・富永村石野町・香川県・高松市・大川郡相生村川股・徳島県板野郡。
	ミミンチャン	徳島県板野郡撫養町(林崎・斉田)。
	ミミンチョ	徳島県板野郡瀬戸町(高島・堂ノ浦)・撫養町(南浜・斉田・林崎・岡崎・立岩)・鳴門村三ッ石・川内村大松・香川県大川郡引田町。
	ミミンチョー	徳島県板野郡瀬戸町堂ノ浦。
	ミミンチョク	石川県羽咋市 ^d 。
	ミミンチョコ	岡山県小田郡矢掛町小林・和気郡三石町三石。
	ミミンチョチョ	兵庫県明石市 ^d 。
	ミミントト	京都府船井郡；兵庫県神戸市；兵庫県明石市 ^d 。
	ミヤーベヤッコ	岩手県西磐井郡中里村。
	ミヤーミヤート	岡山県岡山市。
	ミリックコ	愛知県北設楽郡下津具村。
	ミリンコ	岐阜県大野郡；愛知県名古屋市 ^d 。
	ミリンジャコ	滋賀県長浜市 ^d 。
	ミンジャコ	兵庫県津名郡鳥飼村。
	ミンタ	沖縄県宮古郡。
	ミンチョ	石川県羽咋市；兵庫県神戸市 ^d 。
	ミンミ	石川県河北郡；石川県羽咋市 ^d 。
	ミンミン	石川県羽咋市；京都府宇治市；香川県坂出市 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ミンミンジャク	石川県金沢市；石川県石川郡 ^d .
	ミンミンジャコ	兵庫県揖保郡揖保町山下.
	ミンミンジャッコ	石川県金沢市；石川県石川郡 ^d .
	ミンミンタ	石川県金沢市 ^d .
	ムギウオ	群馬県藤岡市；滋賀県長浜市 ^d .
	ムギコ	岡山県後月郡井原町.
	ムギツコ	山口県 ^d .
	ムギメシ	三重県名賀郡阿保町.
	ムクフト	岡山県川上郡平川村.
	ムツカラ	千葉県夷隅郡上瀑村横山.
	ムツゴ	徳島県美馬郡・三好郡.
	ムツゴロ	鹿児島県日置郡 ^d .
	ムツノメ	滋賀県伊香郡 ^d .
	ムナクト	岡山県小田郡堺村・新山村・川上郡日里村・広島県蘆品郡 国府町高木・中須・神石郡油木町・豊松村上豊松.
	ムナクトバイ	岡山県後月郡芳井町.
	ムナクトバイ	岡山県後月郡 ^d .
	ムナクトバエ	広島県神石郡 ^d .
	ムナクトマツリ	広島県甲奴郡階見村階見・吉野村.
	ムナクトマブリ	広島県御調郡河内村丸門田・蘆品郡有磨村昨磨・国府町府川.
	ムナクトマモリ	岡山県後月郡青野村.
	ムナコト	岡山県小田郡 ^d .
	メ	富山県下新川郡大家庄村.
	メアカ	三重県上野市 ^d .
	メアジ	三重県志摩郡和具村.
	メアリゴ	島根県邑智郡.
	メイーチ	徳島県徳島市.
	メイタ	山口県萩市・吉敷郡大道村・徳島県海部郡三岐田町（西由 岐浦・木岐）・板野郡撫養町南浜・三好郡辻町・香川県小 豆郡草壁町西庄・高知県播磨郡・中村町・七郷村・入野村 ・伊豆田村・下川村口・宿毛町・清水町・高岡郡.
	メイター	徳島県板野郡撫養町黒崎.
	メイタイ	広島県安芸郡；広島県佐伯郡；山口県熊毛郡 ^d .
	メイタイゴ	山口県下松市 ^d .
	メイタイボ	和歌山県有田郡.
	メイタカ	高知県吾川郡 ^d .
	メイタゴ	山口県・萩市・吉敷郡大道村・大津郡深川町・高知県播多 郡・中村町・下田島鍋島・入野村・十川村・加持村・具. 福井県遠敷郡小浜町.
	メイダコ	福井県遠敷郡小浜町.
	メイダゴ	山口県阿武郡 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メイタダキ	高知県高岡郡東又村・安芸郡野根村。
	メイタロー	高知県播多郡。
	メイトン	山口県徳山市・大島郡・沖浦村出井・熊手郡田布施町・岩田村・三輪村・光井村・島田村大田・浅江村・周防村・高水村・勝間村・都濃郡下松町・花岡村・中須村・向道村大道理。
	メイトンコ	兵庫県。
	メイトンゴ	山口県・徳山市・大島郡和田村・玖珂郡由宇村有家・熊毛郡田布施町・城南村・島田村大田・高水村・八代村・周防村・都浪郡下松町・久保村山田・花岡村・米村・太華村・向道村大道理・夜市村・吉敷郡大道村・宮野村宮野上・大津郡・深川町・三隅村宗頭・菱海村・日置村野田・阿武郡三見村河内山口。
	メイトンショ	山口県防府市 ^d 。
	メイトンショー	山口県都濃郡。
	メイチャン	徳島県麻植郡。
	メイチャンゴ	山口県佐波郡。
	メイチョ	徳島県海部郡穴喰町奥浦。
	メイチャー	岡山県久米郡鶴田村・徳島県海部郡。
	メイチョン	岡山県御津郡佐伯本村・赤磐郡佐伯上村。
	メイチョンゴ	岡山県勝田郡新野村新野東。
	メイチン	徳島県阿波郡・麻植郡。
	メイチンゴ	山口県大津郡深川町・阿武郡三見村河内。
	メイチンジャコ	徳島県板野郡一條町・御所村。
	メイッタ	徳島県海部郡。
	メイト	山口県徳山市 ^d 。
	メイトー	岡山県赤磐郡山方村。
	メイトーゴ	岡山県御津郡金川町・宇垣村・上建部村建部上・建部村・赤磐郡五條村・葛城村・山方村・久米郡福渡町・瀧川村・龍山村・弓削村・加美村・神目村・鶴田村・大倭村・久米村・三保村・打穴村・倭文東村・倭文中村・倭文西村。
	メイトン	岡山県和気郡熊山村千体。
	メイトンゴ	岡山県赤磐郡山方村黒本・和気郡熊山村千体・山田村矢田・勝田郡・飯田村（飯岡・高下）。
	メイトンジャコ	岡山県勝田郡植月村植月東。
	マイバウ	福井県小浜市 ^d 。
	メイパチ	愛知県幡豆郡。
	マイブンチャ	鳥取県東伯郡 ^d 。
	メイボー（メイバウ）	福井県遠敷郡内外海村西小川。
	メイメイトイ	広島県安佐郡 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メイメイト メイメイトー メウキ メウタ メエクリ メエクンジョ メーコ メーザコ メーザッコ (メエザッコ) メエジ メエジン メータ (メエタ)	岡山県和気郡藤野村吉田。 岡山県邑久郡大宮村藤井・吉備郡高松町。 高知県長岡郡・本山町大石田井村。 山口県阿武郡 ^d 。 愛媛県今治市；愛媛県越智郡 ^d 。 愛媛県越智郡；長崎県南松浦郡 ^d 。 徳島県板野郡堀江村牛屋島。 福岡県久留米市櫛原町。 全国；岩手県南部地方・盛岡市・福岡県久留米市櫛原町。 三重県熊野市 ^d 。 三重県熊野市 ^d 。 広島県広島市三條町・大須町・愛宕町・呉市警固屋町・安芸郡音戸町・江田島村・渡子島・佐伯郡大垣町・鹿川村・飛波瀬村・島根県鹿足郡・山口県萩市江向・大島郡蒲野村椋野・熊毛郡平生町・上関村長島・島田村・都農郡久米村・大津郡日置村小野地・阿武郡六島村大島・徳島県板野郡撫養町岡崎・木津・林崎・斉田・川内村大松；広島・山口・徳島。
	メーター	広島県広島市仁保町・船入町・尾長町・三條町・己斐町・安芸郡江田島村・佐伯郡鹿村・深江村・飛波瀬村・安佐郡砥囲村・徳島県板野郡撫養町弁財天。
	メエタイ メーダカ メータゴ (メエタゴ)	広島県佐伯郡；広島県府中市 ^d 。 岐阜県稲葉郡各務村・福岡県遠賀郡中間町垣生。 山口県萩市江向・河武郡・奈古村・厚狭郡小野村・豊浦郡殿居村・美祢郡其長田村・別府村・共和村・赤舂村・伊佐町。
	メエタゴイ メエダコ メータマ メエタロ メータン	京都府綾部市 ^d 。 島根県美濃郡 ^d 。 広島県佐伯都。 千葉県君津市 ^d 。 広島県広島市尾長町・安芸郡倉橋島村・山口県大島郡蒲野村・沖浦村・玖珂郡麻里布町・都郡久米村・美祢郡於福村・大村・徳島県麻植郡木屋平村・阿波郡。
	メエタンガ メエタンコ メータンゴ	山口県熊毛郡 ^d 。 山口県徳山市；山口県宇部市 ^d 。 岡山県邑久郡牛窓町・山口県山口市・萩市・大島郡久賀町・小松町・館毛郡島田村市・三岳村・都浪郡福町・久保村・加見村・富岡村・湯野村・佐渡郡防府町・三田尻村・中関町華城村・右田村・小野村・吉敗郡小郡町・仁保村・小

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ		笛村・秋穂村・陶村・平川村・厚狭郡二俣瀬村・小野村・二浦郡阿村上市・美祢郡伊佐町曾原・岩永村・其長田村・大津郡山崎町・阿武郡三見村河内・篠生村・生雲村岡山・山口。
	メエタンゴオ	山口県徳山市；山口県山口市 ^d 。
	メーダンコ	大分県東国東郡豊崎村。
	メーダング	山口県吉敷郡大茂村。
	メータンジコ	徳島県麻植郡・阿波郡。
	メエタンジャコ	徳島県阿波郡；徳島県麻植郡 ^d 。
	メータンショ	山口県佐渡郡中関町。
	メータンシヨ	山口県大島郡屋代村。
	メエタンビキ	徳島県三好郡 ^d 。
	メータンボ	山口県大島郡小松町・浦野村・屋代村・都浪郡米川村。
	メエタンボオ	山口県大島郡；山口県徳山市 ^d 。
	メエタンヨオ	山口県徳山市 ^d 。
	メーチギン	徳島県麻植郡・阿波郡。
	メエチャン	徳島県阿波郡；徳島県麻植郡 ^d 。
	メエチュウ	広島県広島市 ^d 。
	メエチヨオ	岡山県御津郡 ^d 。
	メーチヨッチョ	島根県大原郡大東町大東。
	メエチヨロ	山口県下松市 ^d 。
	メーチヨン	岡山県赤磐郡。
	メエチヨンゴ	岡山県勝田郡 ^d 。
	メーチン	岡山県和気郡片山町東片上・徳島県徳島市。
	メーチンゴ	山口県吉敷郡大内村・同県美祢郡伊佐町曾原・大津郡仙崎町・三隅村宗頭。
	メーチンジャコ	徳島県麻植郡三山村種野。
	メーツ	広島県広島市・佐伯郡厳島町。
	メーツー	広島県広島市・安佐郡三川村・高田郡吉田町。
	メーツン	徳島県海部郡三岐田町東由岐浦。
	メート	岡山県赤磐郡・西山村斗有・和気郡伊部町浦伊部・都窪郡加茂村・勝田郡勝田村久賀。
	メートー	岡山県・岡山市・御津郡石生村本村・赤磐郡・高陽村・西山村
	(メエトオメートヲ)	・邑久郡・豊原村長沼・上道郡一円・児島郡・吉備郡・勝田郡北和気村。
	メートーゴ	岡山県津山市・御津郡石生村本村・宇甘東村宇甘・和気郡
		・邑久郡・長浜村・吉備郡・久米郡。
	メートージャコ	岡山県勝田郡。
	メートーバイ	岡山県勝田郡・苫田郡。
	メエトゴ	岡山県御津郡；岡山県邑久郡 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メートシゴ	岡山県和気郡塩田村。
	メエトジャコ	岡山県勝田郡 ^d 。
	メエドッコ	埼玉県秩父郡・由川村。
	メートバエ	兵庫県佐用郡久崎村久崎。
	メートバエ	兵庫県佐用郡久崎村久崎。
	メートン	岡山県赤磐郡山方村黒本・和気郡藤野村吉田・英田郡・久米郡吉岡村。
	メートンゴ (メエトンゴ)	岡山県御津郡金川町・赤磐郡周匝村周匝・和気郡・英田郡 檜原村・巨勢村。
	メートンジャコ	岡山県勝田郡古吉野村河原。
	メートンバイ	岡山県勝田郡。
	メーナカ	沖縄県。
	メーハ	愛知県名古屋市。
	メーバイチャー	三重県鈴鹿郡。
	メーバチ	三重県志摩郡和具村。
	メエビンチャ	鳥取県東伯郡 ^d 。
	メエビンチャア	鳥取県東伯郡 ^d 。
	メエビンチャゴ	鳥取県東伯郡 ^d 。
	メエブ	鳥取県鳥取市 ^d 。
	メーブンチャ	鳥取県東伯郡倉吉町。
	メーブンチャー	鳥取県東伯郡倉吉町。
	メーブンチャゴ	鳥取県東伯郡倉吉町。
	メーブンチャン	鳥取県東伯郡倉吉町。
	メーメ	広島県安佐郡山本村。
	メエメエジャコ	広島県賀茂郡；愛媛県今治市 ^d 。
	メエメエタ	広島県安佐郡；広島県賀茂郡 ^d 。
	メーメータイ	広島県佐伯郡平良村。
	メエメエチョ	岡山県御津郡 ^d 。
	メーメーチャー	岡山県御津郡宇甘村宇甘。
	メーメート	岡山県岡山市小橋町・上道郡西大寺村・児島郡小串村・吉備郡福谷村東山内。
	メーメーター	岡山県御津郡石生村本村・上道郡三播村。
	メエメエトト	岡山県赤磐郡 ^d 。
	メエメエン	愛媛県今治市；愛媛県越智郡 ^d 。
	メエメエンジャコ	愛媛県今治市 ^d 。
	メエメジャコ	兵庫県三原郡 ^d 。
	メーメタ	広島県安佐郡山本村。
	メエメト	岡山県岡山市；岡山県和気郡 ^d 。
	メーメン	香川県香郡由佐村・徳島県海部郡・阿波郡・麻植郡・美馬郡。
	メーメンコ	徳島県麻植郡。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メーメンジャコ	富山県射水郡小杉町・広島県深安郡市村綱本・香川県香川郡由佐村池谷・徳島県阿波郡。
	メエメンタア	広島県賀茂郡 ^d 。
	メーメンタコ	広島県賀茂郡東志和村。
	メエメンダコ	広島県賀茂郡 ^d 。
	メエメンチャコ	香川県香川郡 ^d 。
	メエメントウト	岡山県倉敷市 ^d 。
	メエラゴ	長崎県北高来郡 ^d 。
	メーランコ	大分県大野郡野津市村都原。
	メーリンコ	新潟県中頸城郡旭村六万部。
	メエレンコ	大分県豊後高田市 ^d 。
	メガカ	新潟県。
	メカコ	愛媛県喜多郡；高知県中村市 ^d 。
	メカゴ	愛媛県喜多郡・八幡浜市・東宇和郡・北宇和郡・南宇和郡；高知県中村市・土佐清水市 ^d 。
	メカジャ	佐賀県西松浦郡 ^d 。
	メガジャ	青森県三戸郡 ^d 。
	メカジャア	佐賀県西松浦郡 ^d 。
	メガジャコ	青森県三戸郡 ^d 。
	メカタ	千葉県千葉市 ^d 。
	メカダ	長野県。
	メガタ	愛媛県大洲市・喜多郡・八幡浜市・西宇和郡・東宇和郡・宇和島市・北宇和郡・南宇和郡；高知県中村市・幡多郡 ^d 。静岡県浜北市 ^d 。
	メカダイ	
	メカチ	富山県婦負郡八尾町・黒瀬谷村（岩屋・葛原）。
	メカチョ	富山県婦負郡細入村（楡原・笹津）。
	メカッコ	長野県東筑摩郡 ^d 。
	メガネ	広島県高田郡吉田町。
	メカンコ	石川県鳳至郡諸岡村。
	メガンジャア	福岡県北九州市八幡区 ^d 。
	メカンチョ	三重県河芸郡箕田村・一志郡倭村・広島県三原市。
	メギ	和歌山県日高郡 ^d 。
	メギコ	奈良県吉野郡十津川村上葛川。
	メギヤカ	福島県相馬市 ^d 。
	メギヤコ	福島県相馬市 ^d 。
	メキリ	和歌山県日高郡中山路村安井。
	メギリ	和歌山県日高郡 ^d 。
	メキリトンバイ	和歌山県日高郡上山路村東・中山路村安井。
	メキリドンバイ	和歌山県日高郡 ^d 。
	メク	愛媛県越智郡；愛媛県上浮穴郡 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メクギ	長野県松本平・北安曇郡会染村瀧沢・高知県長岡郡天坪村。
	メクギッコ	長野県東筑摩郡 ^d 。
	メクサ	和歌山県西牟婁郡新庄村井出原。
	メクサリ	高知県播多郡。
	メクソ	愛知県名古屋市郊外。
	メクソバエ	岡山県御津郡豊岡村。
	メクチ	愛媛県越智郡 ^d 。
	メクラ	高知県安芸郡。
	メクライオ	宮崎県西臼杵郡高千穂町押方・岩戸村（岩戸岩神）。
	メクラウオ	青森県下北郡。
	メクラコ	青森県・下北郡・三戸郡。
	メクラゴ	宮崎県西臼杵郡諸塚村塚原。
	メグラコ	青森県・三戸郡。
	メクラザコ	岩手県。
	メクラザッコ	岩手県二戸郡一戸町・秋田県仙北郡田沢村・山形県鶴岡市・庄内地方・長野県。
	メクラジャコ	青森県八戸市・岩手県二戸郡福岡町・高知県安芸郡・奈半利町・田郡大川筋村・中村。
	メグラジャコ	青森県三戸郡 ^d 。
	メクラジャッコ	青森県。
	メグラジャッコ	青森県八戸市；青森県三戸郡 ^d 。
	メクラッコ	新潟県南魚沼郡。
	メグラビャアコ	岩手県東磐井郡 ^d 。
	メグラフェヤッコ	岩手県気仙郡・秋田県仙北郡上桧木内村寺村。
	メクラヘアッコ	岩手県大船渡市 ^d 。
	メクラヘエッコ	岩手県気仙郡盛町。
	メクラペーッコ	岩手県東磐井郡大原町。
	メグラマッコ	岩手県気仙郡。
	メクランジョ	長崎県南松浦郡 ^d 。
	メクンジャ	愛媛県越智郡 ^d 。
	メクンジョ	愛媛県越智郡 ^d 。
	メコ	新潟県東頸城郡；福岡県 ^d 。
	メゴイ	千葉県木更津市；千葉県君津市 ^d 。
	メコギ	広島県神石郡 ^d 。
	メゴキ	広島県神石郡 ^d 。
	メコザッコ	岩手県紫波郡長岡村。
	メコス	愛知県東春日井郡旭村。
	メコソ	愛知県名古屋市；愛知県東春日井郡；愛知県刈谷市 ^d 。
	メコチ	三重県度会郡豊浜村磯村。
	メコチョ	三重県一志郡豊地村・川合村・高岡村・豊田村・榊原村・大三村・大井村（混称）・川口村・桃園村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メコチョコ	三重県一志郡七栗村。
	メコチョコバ	三重県志一郡。
	メコチョコバイ	三重県一志郡川合村。
	メコッコ	三重県一志郡川口村（混称）。
	メコンコ	高知県安芸郡。
	メザ	栃木県芳賀郡・福岡県浮羽郡大石村古川。
	メザアカ	栃木県下都賀郡 ^d 。
	メザッコ	茨城県東茨城郡；茨城県西茨城郡 ^d 。
	メサイ	大分県速見郡・日出町。
	メサカ	千葉県香取郡 ^d 。
	メザカ	東京；東京府東京市北多摩郡泊江村小川・神奈川県高座郡藤沢町大庭・埼玉県北足立郡与野町・土合村・尾間木村・三室村・大久保村・児玉郡本庄町・千葉県千葉郡千城村大宮・市原郡鶴舞町下矢田・東海村中谷・湿津村勝間・東葛飾郡松戸町・馬橋村・八柱村・長生郡豊栄村須田・山武郡成東町・群馬県多野郡藤岡町・茨城県稲敷郡江戸崎町・龍ヶ崎町・君原村・大宮村・八原村・新治郡藤沢村本町・結城郡絹川村久保田・山川村今宿・北相馬郡北文間村・栃木県宇都宮市・河内郡横川村・瑞穂野村・本郷村・明治村・姿川村・羽黒村・田原村・芳賀郡真岡町（田町・台町・荒町）・下都賀郡南部・小山町・藤岡村・間々田町・大宮村・国府村・豊田村・穂横村・中村・瑞穂村・水代村・富山村・静和村・岩舟村・小野寺村・三鴨村・赤麻村・部屋村・寒川村・生井村・野木村・大谷村・絹村・高橋・桑村・同分寺村・塩谷郡喜連川町・北高根沢村寺渡戸・片岡村安沢・新潟県高田市・東頸城郡熊沢・中頸城郡直江津町・静岡県賀茂郡南中村・下河津村・愛知県一ノ宮市・長野県松本平・福井県丹生郡四箇浦村梅浦・三方郡南西郷村金山・山東村菅原・和歌山県日高郡切目川村櫻川・岡山県津山市・福岡県大牟田市・久留米市櫛原町・瀬下町・野中町・三井郡山本村高椋・宮ノ陣村（宮瀬・五郎丸）・嘉穂郡足由村馬見・佐賀県三養基郡鳥栖町・旭村・杵島郡若木村・長崎県北松浦郡鹿町村・熊本県熊本市晝津町・葦北郡日奈久町；関東・関西・千葉県；東京都。
	メザガ	茨城県つくば市・結城市・水海道市・結城郡・猿島郡；栃木県宇都宮市；千葉県東葛飾郡・佐倉市・成田市・印旛郡 ^d 。
	メザカゴ	福島県相馬市 ^d 。
	メザカッコ	東京府北多摩郡泊江村小川・栃木県下都賀郡絹村高橋。
	メザガッコ	茨城県つくば市・水海道市・結城郡・猿島郡；栃木県塩谷郡 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メザカメ メザカンチヨ メザカンチヨオ メザコ	茨城県新治郡。 福岡県久留米市。 福岡県久留米市 ^d 。 栃木県河内郡上三川町・横川村・国本村・塩谷郡喜連川町・民家町桜野馬場・泉村東泉・熟田村松山・片岡村安沢・那須郡馬頭町馬頭・佐久山町大神・茨城県水戸市・東茨城郡竹原村上馬場・那珂郡木崎村門部・結城郡西豊田村仁江戸・福島県双葉郡・相馬郡・山梨県西八代郡久那土村・長野県東彼杵郡・福井県大野郡富田村・遠敷郡国宮村丸山・野木村玉置・石川県河北郡一円・福岡県三井郡弓削村上弓削・八女郡上妻村津江・山門郡大和村六合・瀬高町下庄・大分県大分市・東国東郡旭日村・鹿児島県日置郡市来町・噌噌郡大崎村；栃木・茨城・福島・山梨・長野・福井・石川・福岡・大分・鹿児島。
	メサゴ	福島県南会津郡。
	メザゴ	栃木県河内郡田原村。
	メザコッコ	茨城県西茨城郡；栃木県那須郡 ^d 。
	メザゴッコ	栃木県那須郡 ^d 。
	メザコメ	茨城県那珂郡。
	メザスコ	茨城県笠間市 ^d 。
	メサッカ	茨城県稲敷郡奥野村。
	メザッカ	千葉県山武郡公平村・茨城県久慈郡西小沢村仲内田・稲敷郡龍ヶ崎町・大宮村・長竿村長竿・八原村・北相馬郡川原代村・栃木県河内郡横川村・豊郷村・芳賀郡真岡町（田町・台町）・清原村・賀茂郡竹麻村・福岡県久留米市野中町・千葉県。
	メザッコ	岩手県盛岡市・稗貫郡矢沢村・和賀郡黒沢尻町・更木村・立花村・鬼柳村・江釣子村・飯豊村・胆沢郡相去村・山形県東村山郡長崎町・茨城県・東茨城郡石塚町那珂西・西茨城郡・真壁郡川西村・栃木県河内郡本郷村・篠井村・絹島村・古里村・田原村・城山村・上都賀郡粟野町中粟野・芳賀郡真岡町（田町・台町・荒町）・物部村物井・七井村大沢・塩谷郡喜連川町・泉村東泉・阿久津村・北高根沢村・埼玉県秩父郡白鳥村岩田・樋口村・野上村・吉田町久長・国神村金崎・千葉県山武郡・神奈川県高座郡寒川村岡田・新潟県岩船郡村上町・静岡県賀茂郡竹麻村・南上村・南中村・駿東郡御殿場町・玉穂村・印野村・榛原郡川崎町・吉田村神戸・長野県小県郡・下水内郡・福岡県久留米市野中町・飯塚市・徳前・嘉穂郡二瀬町・大隈町牛隈・桂川村土師・鎮西村・足白村馬見・朝倉郡朝倉村古毛・杷木村・三井郡草野町・御井町・高良内村・弓削村石崎・味坂村今朝

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ		丸・山本村耳納御原村（二夕・二森）・善導寺村木塚・宮ノ陣村（宮瀬・五郎丸）・山川村・合川村・三瀨郡犬塚村生岩・八女郡福島町・羽犬塚町山ノ井・長峯村宅間田・三河村・上妻村津江・忠見村牟田・上広川村・中広川村・日吉・下広川村・北山村倉掛・古川村久恵・水田村・水田・山門郡東山村広瀬・浮羽郡吉井町・川会村・牧・田主丸町・大石村古川・江南村生葉・佐賀県西松浦郡大川村・長崎県東彼杵郡早岐町；岩手・山形・茨城・栃木・埼玉・静岡・長野・福岡・佐賀・千葉県。
	メザッコメ	茨城県東茨城郡岩船村高久・那賀郡。
	メザッパ	静岡県志太郡島田町。
	メザッパチ	静岡県榛原郡川崎町。
	メザフナ	茨城県西茨城郡 ^d 。
	メザメ	茨城県西茨城郡 ^d 。
	メザンコ	福岡県嘉穂郡上穂波村・鎮西村八木山・幸袋町・田川郡勾金町・伊田町・大分県西国東郡。
	メザンチョ	福岡県田川郡伊田町。
	メザンチョコ	福岡県田川郡勾金町。
	メジ	奈良県生駒郡富雄村。
	メジカ	奈良県生駒郡平城村・伏見村・広島県・佐伯郡玖波町・徳島県三好郡畫間町。
	メジカン	奈良県生駒郡平城町・伏見村。
	メジキ	和歌山県東牟婁郡 ^d 。
	メジコ	東京都 ^d 。
	メジトビ	愛媛県新居郡 ^d 。
	メジャ	長野県上田市；長崎県南松浦郡 ^d 。
	メジャカ	千葉県市原郡牛久町藪・平三村平蔵・福島県相馬郡大甕村（幼児方言）・大野村・福井県遠敷郡野木村杉山・和歌山県日高郡由良村・大分県東国東郡安岐町・速見郡・大分郡・同那賀来村；千葉県。
	メジャク	大分県大分市。
	メジャコ	青森県・三戸郡上長苗代村・岩手県稗貫郡花巻町・矢津村・宮野目村・太田村・湯口村・福井県遠敷郡具名田村井上・野木村玉置・和歌山県那賀郡龍門村勝神・岡山県都窪郡・高知県安芸郡北川村野友・大分県大分市・東目東郡・武蔵町・南安岐村下山口・速見郡・杵築町・大分郡・瀧尾村羽田・別保村皆春南庄内村・吉野村辻・西庄内村・東庄内村・北海郡・南津留村武山・大野郡・犬飼町犬飼・直入郡荻村・宮城村下志土知・長湯村；青森・岩手・福井・大分。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メジャコメ	茨城県日立市 ^d .
	メジャコン	大分県北海部郡下北津留村・南津留村中臼杵.
	メジャッコ	富山県.
	メジャンコ	岡山県吉備郡秦村南秦・大分県大分郡・瀧尾村羽田・東国東郡西安岐町瀬戸田・武蔵町・旭日村・池ノ内・南海部郡佐伯町.
	メジョッコ	神奈川県愛甲郡中津村八菅山.
	メジンコ	京都府・島根県那賀郡.
	メジngo	島根県江津市 ^d .
	メジンチョ	三重県.
	メス	福井県南条郡 ^d .
	メズカ	岩手県岩手郡 ^d .
	メセ	大分県速見郡.
	メゼコ	大分県宇佐郡豊川村.
	メゼゴ	大分県玖珠郡路上村.
	メセセリ	岡山県上道郡一円.
	メゼンコ	福岡県築上郡三毛門村三楽・大分県玖珠郡路上村.
	メソ	茨城県；岐阜県 ^d .
	メゾコ	熊本県天草郡.
	メゾッコ	福岡県三井郡上津荒木村藤山.
	メタ	福井県大飯郡和田村和田・京都府中郡蜂山町・同府竹野郡神野村・同府木津村・同府郷村・岡山県和気郡・徳島県海部郡牟岐町宮ノ本・高知県安芸郡・野根村.
	メダ	山口県吉敷郡井関村・豊浦郡阿川村河内・長崎県・大分県東国東郡武蔵町・中武蔵村.
	メター	広島県安芸郡音戸町・徳島県海部郡；牟岐町宮ノ本.
	メダァカ	埼玉県川越市小仙波町.
	メターチュ	千葉県匝瑳郡八日市場町；千葉県.
	メタイ	京都府竹野郡竹野村.
	メダイオ	佐賀県東松浦郡浜崎町浜崎・鏡村鏡.
	メタイガ	大分県速見郡.
	メタイゴ	大分県速見郡.
	メダイコ	佐賀県唐津市神田・東松浦郡浜崎町浜崎・鏡村宇木・玉島村・西唐津村・鬼塚村東和多田.
	メダイコイオ	佐賀県東松浦郡佐志町佐志.
	メタカ	東京；東京府東京市・埼玉県入間郡三芳野村・勝呂村・入西村・坂戸町・鶴ヶ島村・植木村・大家村・比企郡松山町・大岡村・福田村・宮前村・唐子村・高坂村・野本村下青鳥・七郷村・北埼玉郡騎西町騎西・豊野村・三俣村・忍町付近・南埼玉郡・菖蒲町・大里郡藤沢村・北足立郡平方村

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ		・群馬県前橋市・長野県上伊郡郡一般・伊郡町・福井県遠敷郡小浜町・国富村奈胡・高知県吾川郡・長崎県北松浦郡平村；埼玉・長野・福井；東京都。
	メダガ	茨城県多賀郡。
	メダカ	東京府・東京市・北多摩郡武蔵野町吉祥寺・神奈川県鎌倉郡一円・戸塚町・高座郡一円・中郡一円・大田村小稲葉・愛甲郡一円・厚木町・依知村・埼玉県川越市・児玉郡本庄町・旭村・児玉町・北足立郡内間木村・浦和町・木崎村・芝村・六辻村・三室村・大宮村・平方町・宮原村・中丸村・箕田村・大砂土村・吹上村・日進村・戸塚村・大和田町・膝折村・新倉村・白子村・神根村・片山村・与野町・北葛飾郡旭村・入間郡高萩村・日東村・入間村・宗岡村・南畑村・入間川町・松井村・原市場村・植木村・毛呂村・宮寺村・大井村・水谷村・鶴瀬村・高階村・芳野村・堀兼村・精明村・富村・山根村・越生町・所沢町・山口村・東金子村・福岡村・比企郡野本村・唐子村・大里郡大奇村・寄居町・秩父郡尾田蒔村・影森村・白川村・国神村・吉田町・大瀧村・北埼玉郡田ヶ谷村・岩瀬村・加須町・群馬県碓氷郡松井田町新堀・千葉県千葉市本町・辺田・千葉県蘇我町・市原郡鶴舞町（鶴舞・池和田・山小川・下矢田）・牛久町（牛久・妙香・中村・佐是・西国吉・金沢・皆吉）・市原村（根田・西広）・菊間村古市易・海上村新生・市東村（板倉・琴部）・市西村大坪・養老村（松崎・二日市場・宇・新巻）・戸田村（風戸・栢橋・寺谷）・内田村（島田・水沢）・高瀧村（高湘・本郷・養老・大和田・山口）・富山村（古敷谷・吉沢）・里見村（飯給・田淵）・平三村（平茂・小草畑・堀切）・白鳥村（大久保・国本・月崎・石神・柳川・朝生原）・印旛郡土佐倉町・長生郡庁南町（庁南・愛宕町）・水上村（大津倉・笠森・刑部）・西村（水沼・竹林）・東村上小野田・豊栄村（千手堂・岩川・今泉）・山武郡正気村（正気・鳴浜・公平・大総）・緑海村松ヶ谷・匝瑳郡白浜村木戸・君津郡久留里町・長浦村久保田・安房郡館山北條町・栃本県河内郡平石村・富屋村・芳賀郡七井村大沢・下都賀郡栃木町・壬生町・石橋町・姿村・皆川村・寺尾村・吹上村・赤津村・南犬飼村・稲葉村・家中村・大宮村・国府村・塩谷郡一帯・那須郡黒磯町・佐久山町大神・宮城県栗原郡・福島県若松市・郡山市・邪馬郡駒形村竹屋・岩手県西磐井郡涌津村・気仙郡高田町・米崎村・横田村・新潟県南魚沼郡・長野県松本平・上伊那郡朝日村平出・南安曇郡穂高町矢原・高家村熊倉・北穂高

標準和名	地方名	地域
メダカ	メダカ (続き)	<p>村青木新田・三田村田多井・北安曇郡常磐村・山梨県東山梨郡日下部町・加納岩町・後屋敷村・八幡村堀ノ内・岩手村・中巨摩郡源村・芦安村・百田村・貢川村・飯野村・北巨摩郡祖母石村・下條村・塩崎村・増富村・小笠原村・若神子村豊田・穂坂村・秋田村・小泉村・大草村・龍岡村・中田村・静岡県静岡市・籠上・田方郡小室村・富士郡上野村・庵原郡興津町・小島村・安部郡玉川村(腰越・上助)・井川村口坂本・美和村・加茂郡松崎町・宇久須村・稲梓村・竹麻村・三坂村・南上村・下河津村・上河津村・三浜村・白浜村・田子村・浜崎村・岩科村・岐阜県可児郡錦津町・恵那郡明知町・中津町・上川・福井県坂井郡棗村白方・三方郡西田村塩坂越・八村向笠・遠敷郡中名田村・口名田村円縄・今富村生守・宮川村新保・野木村杉山・松永村東市場・三宅村三宅・熊川村熊川・西外海村加尾・大飯郡青郷村六路・本郷村本郷・和田村和田・内浦村音海・石川県金沢市小坂町・河北部中條村・花園村利屋町・小坂村・鹿島郡宇出津町・富山県上新川郡堀川町布瀬・新保村・中新川郡五百石町・婦負郡細入村(楡原・笹津)・黒瀨谷村葛原・保内村三田・杉原村(井田・黒田)・大阪府大阪市住吉区・三島郡茨木町・三重県三重郡川越村・和歌山県日高郡中山路村上柳瀬・川中村(下田原・上田原)・湯川村宝・印南町・西牟婁郡田並村・東富田村十九淵・江住村・周参見町上戸川・東牟婁郡明神村一雨・奈良県南葛城郡御所町・吉野郡野迫村北股・滋賀県琵琶湖・岡山県吉備郡神在町下原・川辺村・勝田郡湯郷村・広島県高田郡小田村・郷野村・甲立町上甲立・吉田町・甲奴郡上下町・山口県下関市・玖珂郡米川村上中首根・熊毛郡室津村・厚狭郡船木町・小野田町・豊浦郡長府町・西市町・豊西村・宇賀村・粟野村・田耕村・美祢郡稜木村・大津郡向津具村・徳島県板野郡板東町川端・愛媛県宇和島市(大浦・柿原・和霊町・藤江・丸ノ内・保手・蕨浦)・新居郡大島村・宇摩郡中曾根村・北宇摩郡下波村結出・高知県土佐郡朝倉町唼内・大川村船戸・播多郡奥内村頭集・宿毛町・昭和村四手・高岡郡多ノ郷村坂川・新荘村坂川・黒岩村・斗賀野村・新荘村・香美郡高岡町南町・明治村岩積・安芸郡川北村西谷・福岡県戸畑市・三井郡大刀洗村・山門郡東宮永村・田川郡赤村・猪位金村・川崎村・上野村・方城村・採銅所村・糸田村・金田町・香春町・後藤寺町・伊田町・添田町・勾金町・金川村・大任村・築上郡葛城村・東吉富村・糸島郡野北村久米・佐賀県東松浦郡呼子町片島・北波多村徳須恵・</p>

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メダカ (続き)	港村湊。西松浦郡大山村・杵島郡・藤津郡嬉野町不動山・久間村堤上・長崎県南高来郡愛野村愛津・北高来郡本野村・森山村・長田村・湯江村宇良・上県郡・下県郡一般・厳原村・熊本県熊本市西岸寺町・本山町・阿蘇郡小国町・馬見原町・菅尾村・柏村・草部村・白水村・長陽村・久木野村・産山村・南山国村八津田・上益城郡浜町城平・朝日村大平・白糸村菅・下益城郡東砥用村畝野・八代郡下松求麻村今泉・大分県玖珠郡野上村・宮崎県南那珂町本城村口広・都井村・西臼杵郡鞍岡村寺村・鹿児島県川辺郡西南方村・日置郡吉利村・姶良郡東国分村・嚙嗙郡志布志町・肝属郡小根占村・熊本郡南種子村；東京・一般・男鹿・江ノ島・千葉県・寺泊・秋田県象潟；東京都。
	メダガ	岩手県・胆沢郡一帯・水沢町・姉体村・江刺郡羽田村を除き全町村・岩谷堂町・愛宕村・田原村・黒石村・藤里村・伊手村・米里村・梁川村・福岡村・広瀬村・稲瀬村・東磐井郡猿沢村・西磐井郡一関町・萩荘村・真瀧村・永井村・油島村・栃木県下都賀郡石橋町。
	メダカカジカ	群馬県前橋市 ^d 。
	メタカコ	東京府西多摩郡氷川村。
	メダカコ	宮城県黒川郡；福島県福島市；長崎県西彼杵郡 ^d 。
	メダカザッコ	岩手県気仙郡気仙町。
	メダガザッコ	岩手県陸前高田市 ^d 。
	メダカジャコ	岡山県久米郡 ^d 。
	メタカシヨ	埼玉県東松山市 ^d 。
	メタカッコ	埼玉県入間郡・入間川町・比企郡・高坂村・唐子村。
	メダカッコ	福島県南会津郡・埼玉県北葛飾郡栗橋町・入間郡太田村・柏原村・入間川町・水富村・三ヶ島村・富岡村・南畑村・高島村・大里郡中瀬村・北足立郡浦和町・土合村・新潟県・静岡県富士郡富士根村・賀茂郡稲梓村・長野県北佐久郡一般。
	メダガッコ	茨城県結城郡 ^d 。
	メダカッコオ	群馬県藤岡市；埼玉県入間郡 ^d 。
	メダカッチョ	庵原郡蒲原町・田方郡伊東町・福岡県福岡市西新町。
	メダカッチョー	埼玉県入間郡・高麗村。
	(メダカッチョウ)	
	メダカバヤ	佐賀県武雄市 ^d 。
	メタカメ	茨城県石岡市 ^d 。
	メダカメ	茨城県東茨城郡・西茨城郡・高萩市・日立市・多賀郡・石岡市・新治郡 ^d 。
	メダカン	新潟県長岡市・大分県北海部郡下北津留村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メダカンコ	大分県日田郡大山村。
	メダカンゴ	埼玉県大宮市 ^d 。
	メダカンチヨ	福岡県久留米市京町・三井郡山本村。
	メダカンチョー	福岡県久留米市梅満町・南薫町・瀬下町。
	メダカンボ	群馬県前橋市 ^d 。
	メダカンボオ	群馬県前橋市；群馬県伊勢崎市 ^d 。
	メダク	大分県下毛郡山口村。
	メダクダマ	新潟県中頸城郡上杉村所山田。
	メダクロ	福岡県築上郡西角田村・角田村中村・築城村友枝村。
	メダクンチヨ	福岡県久留米市 ^d 。
	メダクンチョー	福岡県久留米市小森野町。
	メタケ	福井県大飯郡和田村和田。
	メタコ	福井県遠敷郡小浜町・国富村（栗田・奈胡）・京都府・同府京都市・同府中郡新山村内記。
	メタゴ	京都府加佐郡志楽村吉坂・同府与謝郡岩瀧町・同府中郡常吉村・同府熊野郡神野村・同府田村・岡山県和気郡・広島県安佐郡日浦村筒瀬・賀茂郡広村・山口県玖珂郡麻里布町・吉敷郡井関村杖川・高知県安芸郡・野根村・高岡郡・播多郡・山奈村山田・伊豆田村・熊本県玉名郡南関町・賢木村・春富村・長崎県北高来郡諫早町（本明石・原口）・江ノ浦村中山・大分県速見郡；京都・広島・山口・高知・熊本・長崎。
	メダコ	山形県米沢市・福島県信夫郡大笹生村・静岡県賀茂郡三坂村・富山県下新川郡生地町・福井県坂井郡東十郷村上新庄・遠敷郡小浜町・国富村（奈胡・丸山）・大飯郡加斗村長井・本郷村本郷・京都府中郡峯山町・竹野郡田村・木津村・郷村・奈良県生駒郡；平城村・伏見村・和歌山県東牟婁郡高田村高田・岡山県岡山市・広島県高田郡吉田町・丹比村（印内・多治比）・可愛村浄安寺・刈田村・豊田郡川源村・双三郡三次町・板木村・八次村・山口県吉敷郡井関村・佐山村・厚狭郡厚狭町・船木町・小野田町・厚南村・生田村・美祢郡大嶺村石入・高知県高田郡多ノ郷村神田・福岡県福岡市・小倉市板櫃・八幡市・若松市・直方市・糟屋郡南部・箱崎町・宇美町・篠栗町・久原村・多々良村・勢門村・大川村・山田村・同須恵村・仲原村・志免村・築上郡西吉富村・友枝村・唐原村・南吉富村・千束村・黒土村・三毛門村沓川・横武村・京都郡苅田町（雨窪・松原）・小波瀬村・諫山村池田・祓郷村徳永・久保村（御手水・中久保）・豊津村上豊津・犀川村（上高屋・久富）・伊良原村下伊良原・田川郡香春町・後藤寺町・伊田町・彦山村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メダコ (続き)	赤村・猪位金村・方城村・糸田村・企救郡企救町・曾根町上長野・松ヶ江村・東谷村・中谷村・西谷村・三井郡山本村・早良郡・壱岐村・入部村・金武村・脇山村・内野村・田隈村・糸島郡・周船寺村周船寺・筑紫郡南畑村・鞍手郡古月村神月・西川村新北・遠賀郡一円・蘆屋町・折尾町本城香月町・岡垣村・遠賀村・水巻村・上津役村・佐賀県東松浦郡相知村相知・久里村・西松浦郡波多津村浦・長崎県北高来郡小野村黒崎名・有喜村中通・熊本県天草郡・大分県大分市・別府市・東国東郡安岐町(下原・塩屋)・西国東郡田染村・速見郡・大分郡・挾間村・西庄内村・東庄内村・南海部郡・北海部郡・臼杵町・南津留町・大野郡・直入郡・玖珠郡森町・日田郡日田町・下毛郡真坂村・新昭村野依・宇佐郡長洲町・長峰村佐野・龍王村・高家村上高家・鹿児島県日置郡伊作町。宮崎県；福井・京都・奈良・広島・山口・福岡・佐賀・大分。
	メダゴ	宮城県；茨城県西茨城郡；広島県高田郡；長崎県諫早市；宮崎県 ^d 。
	メダゴー	山口県厚狹郡高千帆村。
	メダコメ	茨城県東茨城郡 ^d 。
	メタゴロ	宮崎県。
	メダコロ	福岡県築上郡椎田町。
	メダコン	大分県臼杵市；大分県津久見市 ^d 。
	メダコンチョ	福岡県福岡市原・遠賀郡中間町。
	メダコンチョー	福岡県早良郡田隈村。
	メタザッコ	静岡県駿東郡；静岡県富士宮市 ^d 。
	メダザッコ	静岡県駿東郡須走村。
	メタシ	徳島県海部郡日和佐村。
	メダシ	愛知県一ノ宮市・京都府船井郡園部町横田・岡山県後月郡芳井町・福岡県田川郡後藤寺町・大分県大分市。
	メタシコ	愛知県愛知郡。
	メダシコ	愛知県愛知郡；大分県大分市 ^d 。
	メダジャコ	青森県三戸郡 ^d 。
	メタシュ	岡山県和気郡。
	メタソソ	和歌山県 ^d 。
	メタタ	石川県鳳至郡住吉村中居・三井村小泉・輪島町。
	メダタ	栃木県宇都宮市 ^d 。
	メタタイ	石川県鳳至郡河原田村。
	メタタキ	岩手県・福井県大飯郡高浜町・佐分利村岡安・高知県播磨郡下川口村下川口・宮崎県南那珂郡飫肥町・吾田村・東郷村・酒谷村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メタタギ メタダキ	高知県幡多郡。 高知県幡多郡・山奈村・山田・橋上村野地・小築紫村伊与野・美馬郡。
	メタタキバヤ	愛媛県北宇摩郡高光村光満。
	メタタケ	福井県大飯郡和田村和田。
	メタタコ	福井県遠敷郡国富村栗田
	メダタコ	石川県小松市 ^d 。
	メタダッコ	佐賀県小城郡牛津町。
	メタチ	千葉県成田市；千葉県佐原市 ^d 。
	メダチ	茨城県行方郡；茨城県稲敷郡；千葉県印旛郡；千葉県佐原市；千葉県香取郡 ^d 。
	メタチュ	千葉県匝瑳郡八日市場町。
	メダチョコ	福岡県田川郡金田町。
	メダッカ	茨城県稲敷郡長竿村長竿・北相馬郡・栃木県河内郡本郷村・田原村・千葉県山武郡・賀茂郡稲生沢村。
	メダッカッコ	群馬県高崎市 ^d 。
	メダック	長野県長野市。
	メタッコ	千葉県君津市；和歌山県有田市 ^d 。
	メダッコ	岩手県江刺郡愛宕村・福島県石城郡小名浜町・群馬県利根郡古馬牧村政所・茨城県東茨城郡石塚町上泉・千葉県夷隅郡大多喜村・神奈川県愛甲郡南毛利村長谷・長野県上高井郡綿内村・福岡県嘉穂郡西村潤野・長崎県東彼杵郡折尾瀬村・江上村；埼玉・新潟・静岡。
	メダッコメ	茨城県水戸市；茨城県東茨城郡；茨城県那珂郡 ^d 。
	メタツソ	和歌山県海草郡一帯。
	メタツチコ	福井県大飯郡高浜町。
	メダツチョ	長崎県壱岐郡。
	メタツピリ	茨城県真壁郡 ^d 。
	メタツボ	和歌山県海南市 ^d 。
	メタド	徳島県海部郡。
	メダノコ	福岡県田郡伊田町。
	メタバイ	佐賀県武雄市 ^d 。
	メダバエ	兵庫県赤穂郡 ^d 。
	メタバコ	佐賀県藤津郡 ^d 。
	メタバヤ	愛媛県北宇和郡成妙村成家・二名村波岡・三間村（元宗・迫目・務田）・好藤村東仲・佐賀県・佐賀郡巨勢村・本庄村・西与賀村・小城郡東多久村別府・北多久村多久原・多久村東之原・杵島郡武雄町。
	メダバヤ	佐賀県多久市 ^d 。
	メタバリ	大阪府 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メタボ	和歌山県 ^d .
	メダマ	岩手県上閉伊郡.
	メダマデカ	富山県高岡市 ^d .
	メタメタ	岡山県和気郡.
	メタリンコ	兵庫県養父郡 ^d .
	メタリング	兵庫県養父郡.
	メダルコ	高知県高岡郡大野見村吉野.
	メタロ	兵庫県赤穂郡.
	メタロッコ	千葉県君津市 ^d .
	メタン	奈良県奈良市・徳島県三好郡.
	メダン	福岡県田川郡後藤寺町・大分県下毛郡新昭村犬丸.
	メダンカ	山口県豊浦郡豊西村.
	メダンク	福岡県浮羽郡 ^d .
	メタンコ	福井県大飯郡高浜町・和田村和田・兵庫県養父郡・徳島県三好郡・福岡県・山口県美祢郡大嶺村・熊本県.
	メタンゴ	岡山県和気郡・山口県佐波郡出雲村上庄・熊本県.
	メダンコ	和歌山県日高郡野口村野口・山口県厚狭郡小野田町・福岡県飯塚市徳前・糟屋郡立花山を境として北部・小野村・青柳村・席内村・京都郡行橋町行事・宮市・小波瀬村・白川村・延永村・椿市村入覚・諫山村矢山・苅田町馬場・久保村上久保・今川村天生田・泉村・今元村金屋・仲津村・祓郷村（徳永・草場）・豊津村（国分・上豊津）・節丸村・田川郡伊田町・金田町・上野村・方城村・企救郡一円・企救町・曾根町上長野・松ヶ江村・東谷村・中谷村・西谷村・嘉穂郡穂波村天道・西村潤野・大分村・大分県東国東郡・国東町・鶴川町・武蔵町・旭日村・池ノ内・朝来村・速見郡東山香村・中山香村・南海部郡佐伯町・因尾村山部・大野郡・宇佐郡長洲町；福岡・大分.
	メダンゴ	福井県遠敷郡小浜町・福岡県.
	メタンジャコ	徳島県美馬郡郡里村・三好郡辻町・三野町太刀野・屋間町麻植郡.
	メタンジョコ	福井県大飯郡高浜町.
	メタンソ	和歌山県 ^d .
	メタンチ	奈良県添上郡大柳生村忍辱山.
	メダンチ	千葉県佐原市 ^d .
	メタンチキ	奈良県・奈良市・添上郡月瀬村.
	メダンチキ	奈良県奈良市.
	メタンチヨ	福井県大飯郡和田村和田.
	メダンチヨ	福岡県福岡市・春吉・久留米市櫛原町・遠賀郡中間町・鞍手郡宮田町・田川郡・金田町・香春町・後藤寺町・伊田町

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メダンチヨ (続き)	・添田町・勾金町・金川村・大任村・猪位金村・上野村・方城村・採銅所村・糸田村・赤村・京都郡犀川村上高屋。
	メダンチョー	広島県豊田郡長谷村・福岡県門司市広石町・久留米市南薫町・鞍手郡・田川郡後藤寺町・伊田町・添田町・勾金町彦山村落合・赤村・川崎村。
	メダンチョコ	福岡県京都郡犀川村久富・豊津村国分・田川郡金田町・大任村。
	メダンチョン	福岡県田郡伊田町。
	メタンバイ	和歌山県日高郡由良村畑。
	メタンビキ	徳島県・三好郡。
	メタンボ	和歌山県。
	メチャ	長野県上田市・埴科郡・石川県鳳至郡河原田町・岡山県和気郡。
	メチャカ	長野県埴科郡松代町。
	メチャコ	茨城県那珂郡平磯町。
	メチャゴ	高知県高岡郡・東又村・高岡町・佐賀県城郡南多久村牟田・長崎県北高采郡諫早本明石・真津山村・小江村下与・小栗村土師ノ尾・北松浦郡大島村；高知・長崎。
	メチャコオ	佐賀県杵島郡 ^d 。
	メチャゴオ	佐賀県武雄市；佐賀県杵島郡 ^d 。
	メジコ	東京都 ^d 。
	メチャチャ	石川県鳳至郡輪島町。
	メチャッコ	長野県長野市・埴科郡・上水内郡。
	メチャノコ	石川県鳳至郡河原田村。
	メチャバイ	佐賀県杵島郡 ^d 。
	メチャバエ	佐賀県武雄市 ^d 。
	メチャバコ	佐賀県藤津郡嬉野町下宿。
	メチャバヤ	三重県・佐賀県神崎郡千歳村・東松浦郡鬼塚村西和多田。
	メチャメチャ	岡山県和気郡。
	メチャリンコ	島根県那賀郡 ^d 。
	メチャリング	島根県那賀郡。
	メチャルゴ	高知県高岡郡松葉川村乃。
	メチャンコ	広島県御詞郡市村・沼隈郡・宮崎県。
	メチャンゴ	広島県御調郡；山口県徳山市；山口県都濃郡 ^d 。
	メチャンチキ	奈良県奈良市。
	メチョコ	三重県一志郡中郷村・大三村三ヶ野。
	メチョコバイ	大三村三ヶ野。
	メチョチヨ	兵庫県赤穂郡。
	メチョッコ	長野県長野市 ^d 。
	メチョバエ	三重県飯南郡茅広江村・多気郡相可町。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メチョバヨ	三重県多気郡土佐奈村。
	メチリンコ	兵庫県城崎郡 ^d 。
	メチリンゴ	島根県那賀郡・美濃郡・広島県山県郡中野村・比婆郡東城町・八銚村・佐伯郡。
	メチン	徳島県。
	メチンギョ	島根県那賀郡。
	メチンコ	山口県長門市；香川県仲多度郡 ^d 。
	メチンゴ	島根県美濃郡・那賀郡・広島県山県郡。
	メチンジャコ	兵庫県。
	メチンボ	石川県鳳至郡諸岡村道下。
	メッカケ	愛知県西春日井郡 ^d 。
	メッカチ	愛知県・富山県婦負郡八尾町。
	メッカチュヤ	愛知県西春日井郡 ^d 。
	メッキコ	新潟県新潟市・高田市。
	メッキョ	新潟県・新潟市・高田市。
	メック	愛知県名古屋市。
	メックリ	愛媛県今治市；愛媛県越智郡 ^d 。
	メッコ	福島県・愛知県西春日井郡新川町寺野・庄内町・新川町・楠村・長野県長野市。
	メッコカジカ	岩手県紫波郡。
	メッコザコ	山梨県 ^d 。
	メッコザッコ	岩手県紫波郡目日詰町・乙部村・長岡村・赤石村・彦部村・赤沢村・佐比内村・古館村。
	メッコジャツコ	岩手県稗貫郡新堀村・八重畑村・八幡村・石鳥谷町。
	メッコス	愛知県西春日井郡新川町寺野・楠村・西春村師勝村・春日村・東春日井郡小牧町・勝川町・旭村・鳥居松村・篠木村。
	メッコスバエ	愛知県西春日井郡 ^d 。
	メッコソ	愛知県知多市 ^d 。
	メッコソオ	愛知県知多市 ^d 。
	メッコツ	愛知県東春日井郡 ^d 。
	メッコバエ	愛知県東春日井郡篠木村・西春日井郡豊山村・西春村。
	メッコバス	愛知県丹羽郡。
	メツザッコ	神奈川県高座郡 ^d 。
	メッタ	和歌山県和歌山市・駿河町・海南市日方・海草郡紀三井寺町布引・西和佐村栗栖・巽村・那賀郡安楽川村・伊都郡山田村柏原・有田郡湯浅町・南広村・日高郡御坊町・南部町・栄町・徳島県海部郡川上村神野・板野郡撫養町（岡崎・斎田）・高知県安芸郡室戸町・室戸岬村・津呂村；和歌山・徳島。
	メッター	京都府熊野郡湊村・徳島県海部郡。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メツタイ	広島県呉市阿賀町・高知県播磨郡伊豆田村布。
	メツタイゴ	和歌山県那賀郡粉川町・高知県幡多郡伊豆田村布。
	メツタイシヨ	和歌山県那賀郡粉川町・上名手村。
	メツタイス	和歌山県那賀郡 ^d 。
	メツタイボ	和歌山県那賀郡上名手村西野山。
	メツタウ	和歌山県有田郡・湯浅町。
	メツタウス	和歌山県・海草郡安原村本渡・那賀郡粉川町・北野上村原野。
	メツタウソ	和歌山県那賀郡東貴志村・中貴志村・調月村・安楽川村。
	メツタウソオ	和歌山県那賀郡 ^d 。
	メツタコ	京都府；京都府京都市；大阪府松原市；岡山県久米郡 ^d 。
	メツタゴ	和歌山県那賀郡名手町・岩出町高塚・長崎県南松浦郡。
	メツダゴ	長崎県南松浦郡福江町。
	メツタス	和歌山県海草郡亀川村多田。
	メツタソ	和歌山県和歌山市・海南市日方。
	メツタバイ	和歌山県那賀郡・山崎村・田牛村西大井。
	メツタブ	和歌山県海草郡貴志村。
	メツタブソ	和歌山県那賀郡・丸栖村・安楽川村。
	メツタブトン	和歌山県那賀郡。
	メツタブン	和歌山県那賀郡。
	メツタレ	和歌山県和歌山市 ^d 。
	メツタン	和歌山県海草郡岡崎村・西和佐村栗栖・巽村・湊村外浜・ 奈良県添上郡大柳生村忍辱山。
	メツタンゴ	和歌山県那賀郡岩出町高塚・北野上村別院。
	メツタンジャコ	奈良県・添上郡大柳生村忍辱山。
	メツタンシヨ	和歌山県那賀郡長田村島・池田村・海草郡紀三井寺町毛見。
	メツタンス	和歌山県・海南市一円・(冷水・日方)。
	メツタンソ	和歌山県海草郡一帯・湊村外浜・那賀郡山崎村金屋。
	メツタンソー	和歌山県海草郡西和佐村栗栖。
	メツタンボ	和歌山県那賀郡田中村西大井。
	メツチイ	広島県呉市阿賀町。
	メツチャゴ	三重県度会郡豊浜村檜原。
	メツチャッコ	長野県長野市 ^d 。
	メツチャボ	群馬県勢多郡；群馬県山田郡 ^d 。
	メツチャン	愛知県碧海市 ^d 。
	メツチャンゴ	京都府熊野郡 ^d 。
	メツチャリ	岡山県倉敷市 ^d 。
	メツチヨ	愛知県丹羽郡丹陽村・和歌山県有田郡藤並村下津野・佐賀 県西松浦郡波多津村浦。
	メツチヨオ	熊本県熊本市 ^d 。
	メツチヨコ	三重県一志郡波瀬村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メッココバイ	三重県一志郡波瀬村。
	メッコバイ	愛知県 ^d 。
	メッコバエ	愛知県丹羽郡丹陽村・福岡県山門郡山川村立山。
	メツチリ	広島県蘆品郡広谷村町。
	メツチン	広島県呉市阿賀町・山口県玖珂郡本郷村・徳島県海部郡・河波郡。
	メツチンジャコ	兵庫県相生市 ^d 。
	メツツリ	広島県蘆品郡国府町高木。
	メツツリゴ	広島県府中市 ^d 。
	メツト	和歌山県有田郡御霊村東丹生図・南広村・広村・宮原村須谷・湯浅町・日高郡稲原村明神川。
	メツド	和歌山県日高郡 ^d 。
	メツトー(メツトウ)	静岡県周智郡水窪町・城西村・和歌山県有田郡津木村・広村・日高郡松原村吉原。
	メツトオバイ	岡山県英田郡 ^d 。
	メツトコ	和歌山県有田郡鳥屋城村市場・御霊村東丹生図・藤並村。
	メツトバイ	和歌山県那賀郡下神野村・上岩出村水栖・上神野村・上名手村名手上・伊都郡高野町高野山・有田郡鳥屋城村・奈良県・奈良市。
	メツトバエ	岡山県英田郡吉野村岩辺。
	メツトン	岡山県英田郡 ^d 。
	メツトンゴ	岡山県和気郡藤野村宿・勝田郡・南和気村休石・北和気村・英田郡巨勢村。
	メツトンボ	岡山県勝田郡豊田村広岡。
	メツパ	静岡県・浜名郡積志村・長野県下伊那郡龍江村・三重県桑名郡城南村・飯南郡西部村・多気郡斎宮村・西外城田村・東黒部村・度会郡豊浜村檜原・大湊町・志摩郡長岡村畔蛸・神明村・南牟婁郡上川村・井田村・尾呂志村・泊村・和歌山県新宮市・西牟婁郡日置町大古・東牟婁郡三里村；三重・和歌山。
	メツパコ	和歌山県西牟婁郡串本町。
	メツパチ	三重県。
	メツパチ	岐阜県・羽島郡小熊村・三重県桑名郡城南村・度会郡・大湊町・志摩郡和具村・名田村・長岡村畔蛸・的矢村・安乗村・立神村・片田村・越賀村・神明村・桃取村・管島村・渡鹿野島浜島町・南牟婁郡入鹿村・矢ノ川・市木村・下市木・井田村・鶴殿村・御船村・相野谷村・尾呂志村・神志山村・有井村・泊村・和歌山県新宮市・広島県広島市塩屋町・島根県飯石郡；三重。
	メツパチョ	三重県多気郡斎宮村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メッパツ	三重県志摩郡 ^d .
	メツブリザコ	長野県駒ヶ根市 ^d .
	メッポ	三重県度会郡.
	メデ	新潟県両津市；静岡県駿東郡 ^d .
	メディカ	福岡県田川郡伊田町.
	メデー	大分県西国東郡.
	メデカ	新潟県東頸城郡松代村（ハヨ一部混同）・東京府南多摩郡七生村・同府北多摩郡狛江村小川・静岡県田方郡熱海町・西豆村・駿東那須走村.
	メデキン	静岡県藤枝市 ^d .
	メデコ	大分県東国東郡鶴川町・宇佐郡北馬城村出光・天津村上庄.
	メデチン	広島県賀茂郡 ^d .
	メデッカ	群馬県藤岡市 ^d .
	メデンコ	大分県速見郡・東国東郡豊崎村赤松・上国崎村成仏・大野郡田野村八里合.
	メト	静岡県周知郡城西村・磐田郡佐久間村・兵庫県佐用郡平福町・西庄村上月・幕山村・岡山県和气郡三国村・木荘村・勝田郡勝間田町.
	メド	東京府西多摩郡青梅村・同府霞村・同府成木村・同府調布村・同府吉野村・同府南多摩郡小宮村・静岡県安倍郡.
	メトウ	静岡県磐田郡；静岡県浜松市；静岡県浜北市；静岡県浜名郡 ^d .
	メトウオ	兵庫県高砂市；岡山県赤磐郡 ^d .
	メトウバリ	静岡県周智郡城西村.
	メトー（メトウ）	静岡県磐田郡山香村・佐久間村・浦川村・周智郡城西村.
	メドー	埼玉県秩父郡 ^d .
	メトオジャコ	岡山県英田郡 ^d .
	メトートー	岡山県.
	メトーバリ	静岡県周智郡水窪町・城西村.
	メドクイ	宮崎県西臼杵郡 ^d .
	メドクロ	宮崎県西臼杵郡諸塚村家代.
	メトコ	三重県一志郡家城村・竹原村・大三村三ヶ野・飯南郡松江村.
	メトゴ	岡山県赤磐郡高月村・久米郡福波村.
	メドコ	群馬県勢多郡；山梨県都留市 ^d .
	メドゴ	長崎県北高来郡小野村黒崎名.
	メトコバイ	三重県一志郡大三村三ヶ野・名賀郡瀧川村.
	メトジャコ	滋賀県蒲生郡 ^d .
	メトス	兵庫県赤穂郡赤松村（赤松・小赤松）.
	メトチン	兵庫県佐用郡佐用町山田・江川村福沢・久崎村櫛田・西庄村上月・長谷村横坂・津名郡.
	メドック	長野県.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メトッコ	秋田県。
	メドッコ	埼玉県秩父郡大瀧村・神奈川県愛甲郡愛川村半原・津久井郡内郷村・静岡県安倍郡玉川村・梅ヶ島村・駿東郡足柄村。
	メドック	神奈川県中郡伊勢原町・大山町・岡崎村・成瀬村・高部屋村・比々多村。
	メトッパリ	静岡県周智郡城西村。
	メトト	東京都；福島県 ^d 。
	メトバ	静岡県周智郡城西村。
	メトハイ	奈良県添上郡柳生村。
	メトバイ	三重県一志郡礪原村・名賀郡美濃波多村・国津村・箕曲村・瀧川村・錦生村・薦原村・和歌山県日高郡比井崎村（小坂・河尾）・兵庫県佐用郡佐用町吉福・長谷村横坂・久崎村櫛田・江川村福沢・徳久村・岡山県英田郡。
	メドハイ	三重県名賀郡箕曲村・比奈知村。
	メドバイ	兵庫県佐用郡 ^d 。
	メトバエ	三重県多気郡・名賀郡蔵持村・奈良県山辺郡針ヶ別所村・兵庫県佐用郡平福町・幕山村・西庄村上月・中安村・大広村末広々山・石井村桑野；三重・兵庫。
	メトバヨ	三重県飯南郡大石村。
	メトハリ	静岡県磐田郡 ^d 。
	メドハリ	群馬県沼田市 ^d 。
	メトヒチ	兵庫県佐用郡久崎村久崎・津名郡。
	メトボヨ	三重県多気郡丹生村。
	メトンゴ	岡山県御津郡豊田村松木・赤磐郡佐伯本村佐伯・和気郡三石町・本庄村福宮・久米郡。
	メトンド	岡山県勝田郡。
	メトンバイ	和歌山県日高郡上山路村・東中山路村安井・兵庫県赤穂郡赤松村・佐用郡三日月村。
	メトンバエ	兵庫県佐用郡三日月町・岡山県津山市。
	メトンバリ	長野県下伊那郡飯田町・上飯田町・座光寺村上郷村。
	メトンボ	岡山県英田郡粟井村。
	メナカ	広島県高田郡甲立町上甲立。
	メナグチマモリ	青森県中津軽郡駒越村鳥井野。
	メナゴ	福井県足羽郡 ^d 。
	メナダ	福井県福井市。
	メヌケ	岩手県 ^d 。
	メノコ	静岡県安倍郡梅ヶ島村・広島県高田郡甲立町上甲立。
	メノテ	福井県坂井郡金津町。
	メバイ	三重県一志郡豊地村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メバイコ	三重県津市・三重郡富洲原町・河原田村・鈴鹿郡能登村・河芸郡神戸町・白子町・一身田町・天名村・合川村・栄村・白塚村・大里村・栗真村町屋・安濃郡安濃村・藤水村・神戸村・櫛形村・飯南郡朝見村；三重。
	メバイチコ	三重県飯南郡森村。
	メバイチヨ	三重県・津市・桑名市太一丸・鈴鹿郡神辺村・河芸郡若松村・栗真村町屋・白塚村・大里村・神戸町・白子町・天名村・安濃郡神戸村・安東村・雲林院村・河内村・一志郡香良洲町・久居町・鶴村・雲出村・高茶屋村・小野江村・飯南郡朝見村；三重。
	メバイチヨコ	三重県。
	メバエ	三重県一志郡 ^d 。
	メバエチヨ	三重県安濃郡高宮村。
	メバチ	三重県三重郡高洲原町・川島村・度会郡・神社町・志摩郡菅島村・長岡村（千賀・堅子）・浜島北牟婁郡・長島町・引本村・三野瀬村・三浦・赤羽村・二郷村・東牟婁郡太地町・岡山県苫田郡。
	メパチ	愛知県名古屋市；愛知県北設楽郡 ^d 。
	メバチコ	三重県多気郡下御糸村。
	メバチゴ	三重県・北牟婁郡船津。
	メハチヨ	愛知県名古屋市 ^d 。
	メバチヨ	愛知県名古屋市・三重県鈴鹿郡椿村・飯南郡粥見町・漕代村・松尾村・多気郡下御糸村・度会郡内城田村。
	メバチヨ	三重県松阪市；三重県多気郡 ^d 。
	メバチヨコ	三重県一志郡松ヶ崎村・中原村・豊田村真屋庄・飯南郡花岡町・大石村・大河内村。
	メバチリ	愛知県常滑市；愛知県知多市 ^d 。
	メパチン	三重県名賀郡名張町。
	メバッチヨ	三重県一志郡中川村。
	メバヤ	福岡県八女郡川崎村（山内・長野）。
	メバヨ	岐阜県土岐郡・三重県宇治山田市・河芸郡椋本村・一志郡松ヶ崎村・飯南郡漕代村・機殿村・多気郡三瀬谷村・下御糸村・中村；三重。
	メハリ	長野県北安曇郡大町・社町・平村・熊本県・球磨郡。
	メバリ	島根県鹿足郡朝倉村蓼野。
	メハリゴ	広島県・島根県那賀郡和田村・高知県播多郡・高岡郡。
	メバリコ	三重県一志郡雲出村・高茶屋村。
	メハリッコ	長野県北安曇郡大町。
	メハリング	島根県那賀郡・広島県山県郡。
	メハル	京都府。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メバル	大分県大分市。
	メバン	三重県鈴鹿郡；三重県松阪市；三重県飯南郡 ^d 。
	メバンコ	三重県鈴鹿郡石薬師村・河芸郡天名村・白子町。
	メバンチョ	愛知県額田郡・三重県員弁郡久米村・三重郡・楠村・日永村・川島村・神前村・常磐村・桜村・県村・鈴鹿郡椿村・野登村・飯南郡花岡町・河芸郡河曲村・一ノ宮村・箕田村・王桓村・天名村・栄村・多気郡相可町・度会郡小俣町。
	メパンチョ	三重県南牟婁郡鶴殿村。
	メハンチャー	島根県美濃郡。
	メパンチャー	三重県三重郡鷺川原村。
	メバンチョコ	三重県松阪市 ^d 。
	メビンチョ	三重県員弁郡大泉村。
	メフト	宮崎県西都市；鹿児島県 ^d 。
	メフト	岡山県真庭郡宮原村後谷・広島県・高田郡吉田町・甲立町下甲立・丹比村多治比・可愛村(竹原・福原・中馬)・小田村・本村・世羅郡大見村・双三郡吉舎町・比婆郡東城町・高知県高知市・福岡県糟屋那須恵村・長崎県杵岐郡；広島・広島県；鹿児島県川辺郡 ^d 。
	メフトザコ	
	メブンチャゴ	鳥取県東伯郡 ^d 。
	メボシコ	静岡県浜北市 ^d 。
	メマイコ	三重県河芸郡一身田町・上野村・黒田村。
	メマイチョ	三重県河芸郡神戸町・一身田町・上野村。
	メマチロ	愛知県知多市；愛知県碧南市 ^d 。
	メマンチョ	三重県三重郡菰野町・保々村。
	メマンチロ	愛知県知多郡内海町。
	メミイタンゴ	山口県熊毛郡 ^d 。
	メミカ	徳島県板野郡堀江村松村。
	メミンジャコ	広島県深安郡山野村。
	メメ	富山県富山市総曲輪・下新川郡泊町・入善町・三日市町・福井県大野郡下味見村西河原。
	メメイタ	香川県・小豆郡草壁町西庄・安田村。
	メメイタンゴ	山口県徳山市 ^d 。
	メメータ	広島県佐伯郡廿日市町・地御前村・小方村。
	メメータコ	広島県世羅郡小国村。
	メメータン	広島県佐伯郡大野村。
	メメエチ	広島県安芸郡 ^d 。
	メメーツ	広島県安芸郡大屋村。
	メメエツウ	山口県光市 ^d 。
	メメエト	岡山県赤磐郡；岡山県邑久郡 ^d 。
	メメカ	愛媛県越智郡 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メメク	愛媛県越智郡 ^d .
	メメコ	福井県遠敷郡具名田村下・奥名田村井上・和歌山県日高郡志賀村小池・岡山県邑久郡.
	メメゴ	山口県美祢郡大嶺村石入・高知県幡多郡・熊本県葦北部.
	メメコング	岡山県邑久郡.
	メメザコ	京都府；愛媛県；岩手県；富山県中新川郡；石川県金沢市；福井県福井市；福井県武生市；福井県鯖江市；福井県丹生郡；京都府京都市；兵庫県相生市 ^d .
	メメザッコ	岩手県和賀郡二子村・富山県・富山市・中新川郡山加積村・立山村芦嶽寺・下新川郡青木町・三日市町・泊町・生地町・小摺戸村・棚山村・野中村・下立村・浦山村・荻生村・村椿村・上中島村・経田村・婦負郡八尾町・西砺波郡東石黒村・西太美村.
	メメザッコオ	富山県高岡市 ^d .
	メメジク	石川県金沢市 ^d .
	メメジコ	石川県金沢市 ^d .
	メメジャ	石川県金沢市；福井県武生市；福井県鯖江市 ^d .
	メメジャカ	和歌山県日高郡由良村.
	メメジャク	石川県羽咋郡羽咋町・富山県氷見郡氷見町中町.
	メメシャコ	京都府綾部市 ^d .
	メメシャゴ	京都府綾部市 ^d .
	メメジャコ	富山県富山市・石川県金沢市・能美郡牧村小島・板津村（島田・平面）・羽咋郡羽咋町・越路野村千路・志雄町（子浦・出浜）・江沼郡・木場潟・今江潟・福井県南部一帯・大野郡大野町・今立郡・丹羽郡立待村・天津村在田・敦賀郡粟野村金山・和歌山県日高郡御坊町・島・香川県仲多度郡善通寺町・愛媛県宇和島市藤江・周桑郡壬生川町・徳島県那賀郡日野谷村大久保；石川・福井・和歌山・愛媛.
	メメジャック	富山県小矢部市 ^d .
	メメジャッコ	富山県下新川郡魚津町・三日市町・青木町・東砺波郡東山見村・西砺波郡福光町・鷹栖村.
	メメズ	広島県広島市 ^d .
	メメタ	京都府与謝郡・兵庫県津名郡・洲本・三原郡・榎列村・広島県広島市矢賀町・仁保町・安芸郡戸坂村・中山村・坂村・安佐郡落合村・祇園村・川内村下温井安村・高田郡吉田町・豊田郡川源村・御調郡久井村・世羅郡東大田村・西大田村・小国村・山口県熊毛郡周防村高野・徳島県板野郡撫養町（斎田・岡崎）・香川県小豆郡草壁町下村；兵庫・広島・山口・徳島.
	メメター	広島県広島市仁保町・賀茂郡造賀村.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メメダァロ	富山県下新川郡 ^d .
	メメタイ	山口県熊毛郡三丘村.
	メメタイス	和歌山県和歌山市.
	メメタカ	愛媛県北宇摩郡来村祝森.
	メメダカ	和歌山県日高郡矢田村土生・大分県南海部郡明治村庄木.
	メメタコ	広島県安芸郡中山村・御調郡久井村・世羅郡甲山町・東大田村・小国村.
	メメタゴ	山口県美祢郡伊佐町曾原・赤郷村・別府村・愛媛県北宇摩郡畑地村下畑地・香川県小豆郡草壁町上村.
	メメダコ	京都府・福井県遠敷郡今富村尾崎.
	メメダッコ	富山県下新川郡生地町.
	メメタブ	山口県美祢郡綾木村.
	メメダロ	富山県下新川郡 ^d .
	メメタン	福井県三方郡南西郷村金山・広島県佐伯郡大野村・山口県館毛郡田布施町・塩田村・浅江村・三井村.
	メメタンコ	和歌山県海草郡安原村本渡.
	メメタンゴ	福井県三方郡南西郊村久々子・山口県熊毛郡塩田村・三井村・周防村・三丘村小松原.
	メメタンゴー	山口県熊毛郡島田村.
	メメタンス	和歌山県・海南市日方・海草郡安原村本渡.
	メメチ	広島県安芸郡坂村.
	メメチャ	兵庫県三原郡.
	メメチャコ	石川県羽咋郡志加浦村・福井県丹生郡吉川村大倉・広島県世羅郡津久志村.
	メメチャゴ	山口県厚狭郡小野田町.
	メメチャンゴ	兵庫県城崎郡五荘村福田.
	メメチョ	福井県大野郡下味見村西河原・徳島県海部郡.
	メメチョー	広島県広島市.
	メメチョコ	三重県一志郡久居町.
	メメチョン	山口県光市 ^d .
	メメチン	広島県安芸郡・徳島県・徳島市・勝浦郡.
	メメチンゴ	山口県光市 ^d .
	メメツ	広島県広島市矢賀町・安芸郡府中村.
	メメツー	広島県広島市矢賀町・安芸郡戸坂村.
	メメッコ	富山県西砺波郡福光町.
	メメッタ	和歌山県日高郡御坊町・名屋・塩屋村・由良村.
	メメットン	和歌山県海草郡亀川村多田.
	メメッチー	広島県安芸郡大屋村.
	メメッチャ	徳島県板野郡.
	メメト	岡山県御津郡豊田村松木・児島郡・都窪郡茶屋町.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メメトー メメトト メメナガ メメナゴ メメバ メメン	岡山県邑久郡玉津村尻海。 岡山県御津郡石生村原。 大分県佐伯市 ^d 。 山口県美祢郡；大分県南海部郡 ^d 。 愛知県半田市 ^d 。 兵庫県・岡山県児島郡日比町玉・広島県深安郡中津原村・徳島県名東郡国府町延命・勝浦郡勝占村方ノ上・那賀郡立江町・名西郡神領村・板野郡川内村大松・香川県丸亀市・木田郡庵治村浜・香川郡由佐村池谷・綾部郡山田村・仲多度郡郡家村・高篠村・本島村・与島村・吉野村・四箇村・吉原村・三豊郡観音寺町・豊田村・大分県中津市；徳島・香川。
	メメンコ	静岡県静岡市・富山県上新川郡堀川町・下新川郡三日市町・広島県福山市・徳島県勝浦郡横瀬町・那賀郡立江町・北城・板野郡応神村吉成・大津村矢倉・北島村北村・香川県三豊郡紀伊村・佐賀県佐賀市・熊本県葦北郡；静岡・富山。
	メメンコオ	広島県深安郡 ^d 。
	メメンゴ	岡山県小田郡稲倉村。
	メメンゴシヨ	大分県南海部郡明治村。
	メメンゴシヨ一	大分県南海部郡明治村。
	メメンザコ	香川県綾歌郡栗熊村。
	メメンザッコ	富山県富山市；富山県礪波市 ^d 。
	メメンジク	富山県婦負郡宮川村広田。
	メメンジャ	福井県・坂井郡兵庫村・兵庫・丹生郡吉川村大倉。
	メメンジャア	大阪府 ^d 。
	メメンジャカ	大分県佐伯市 ^d 。
	メメンジャク	福井県坂井郡浜四郷村・木部村・新保村新保・磯部村磯部新保・雄島村・金津町・三国町・石川県能美郡根上町（福岡・濁池）・富山県下新川郡三日市町・生地町・婦負郡古沢村古沢・古里村長沢・千里村上井沢・保内村館本郷・宮川村浜子・西呉羽村・寒江村・氷見郡富田村島尾・愛媛県周桑郡；福井・石川・富山。
	メメンシャコ	石川県；兵庫県氷上郡 ^d 。
	メメンシャゴ	京都府・同府天田郡・岡山県。
	メメンジャコ	山形県米沢市・富山県射水郡伏木町・小杉町・氷見郡氷見町・石川県石川郡松任町・金石町・山島村・林中村・中奥村・郷村・安原村・旭村・御手洗村・宮保村・能美郡小松町・東町・安宅町・寺井野町寺井・根上町（濁池・福岡）・板津村・高堂・国府村（鍋谷・植田）・金野村大野・鹿島郡石崎村・福井県福井市・敦賀市松原・吉田郡河合村山

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メメンジャコ (続き)	室・西藤島村深谷・坂井郡丸岡町・三国町・鶉村池尻・浜四郷村・木部村・東荒井・新保村新保・高棕村西瓜屋・上久米・長畝村長畝・雄島村・東十郷村田島・剣岳村後山・坪江村中川・大野郡勝山町・荒土村伊波・下味見村森谷・南條郡武生町・丹生郡天津村在田・遠敷郡遠敷村遠敷・滋賀県愛知郡秦川村・犬上郡日夏村・京都府天田郡・大阪府堺市・南半町・泉北郡上神谷村田中・泉南郡信達村大苗代・南中通村岡本・南河内郡狭山村池尻・奈良県添上郡田原村・兵庫県城崎郡三方村(篠垣・荒川・伊府・羽尻殿付・栗山)・国府村・揖保郡網干町・岡山県倉敷市・児島郡日比町(和田・玉)・都窪郡・浅口郡連島町西之浦・船穂村船穂・小田郡稲倉村・真鍋島村・広島県福山市・芦品郡国府町(中須・府川)・深安郡中津原村新茶屋・森脇村中市・沼隈郡水呑村・徳島県勝浦郡横瀬町坂本・那賀郡立江町北城・延野村川口・名西郡神領村・香川県西讃地方(高松以西)・丸亀市・小豆郡三都村・香川県檀絨村・由佐村池谷・綾部郡南部ノ山村・坂出町・西庄村原・陶村・山田村・土器村・川西村・仲多度郡多度津町・広島村手島・佐柳島村・四箇村・吉原村・南村・善通寺町・与北村・龍川村・四條村・十郷村・与島村・榎井村・吉野村・三豊郡財田村・大野原村辻・愛媛県今治市・周桑郡丹原町・壬生川町・周布町・楠河村・庄内村福成・大分県中津市・南海郡部鶴岡村; 富山・石川・福井・滋賀・大阪・兵庫・岡山・広島・大分・四国。
	メメンジャコー	広島県福山市。
	メメンジャック	富山県富山市。
	メメンジャッコ	富山県婦負郡八尾町・千里村余川・長岡村北代・射水郡堀岡村・東砺波郡種田村・西砺波郡鷹栖村・林村・津沢村。
	メメンジャマ	福井県福井市。
	メメンジャンコ	富山県礪波市 ^d 。
	メメンジョ	岡山県吉備郡井尻野・島根県隠智郡・香川県丸亀市・小豆郡・大部村・仲多度郡豊原村・三豊郡観音寺町・財田大野村大野・愛媛県周桑郡小松町。
	メメンジョオ	香川県高松市; 愛媛県今治市; 愛媛県越智郡 ^d 。
	メメンジョコ	岡山県児島郡・大分県中津市。
	メメンタ	和歌山県海草郡安原村・兵庫県三原郡・広島県広島市・高田郡吉田町・市川村本郷・安佐郡深川村・徳島県板野郡撫養町斎田・川内村(大松・平石)・大津村矢倉・三好郡池田町・昼間町。
	メメンター	広島県広島市仁保町・安芸郡温品村・安佐郡落合村・深川

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メメンター (続き)	村下深川・山県郡壬生町・田高郡根野村 (上根・下根) ・三田村。徳島県板野郡松茂村広島。
	メメンタイ	広島県安佐郡緑井村・佐伯郡宮内村・平良村。
	メメンダカ	広島県安芸郡府中村。
	メメンタコ	大阪府南河内郡・広島県広島市・安芸郡府中村・安佐郡緑井村・高田郡根野村 (上根・下根) ・井原村・小田村・向原村・豊田郡川源村・徳島県板野郡北島村中村。
	メメンタゴ	広島県広島市・安佐郡山本村・深川村下深川・龜山村大毛寺・高田郡向原村。
	メメンダコ	広島県高田郡向原村・大分県大分市・南海部郡佐伯町。
	メメンダッコ	富山県下新川郡泊町・道下村。
	メメンタマ	福井県坂井郡木部村川崎。
	メメンタロ	大阪府堺市 ^d 。
	メメンタロコ	広島県高田郡。
	メメンチ	徳島県板野郡松茂村長原・阿波郡。
	メメンチコ	徳島県 ^d 。
	メメンチャ	徳島県徳島市・佐古町・津田町・斎田町・名東郡国府町延命・板野郡撫養町・(南浜・木津・斉田・林崎) ・板東町 (板東・川端) ・川内村宮島・住吉村 (住吉・勝端) ・藍国村 (奥野・徳命) ・北島村 (中村・北村) ・川内村大松・松茂村広島・鳴門村土佐泊・堀江村 (姫田・牛屋島) ・応神村吉成・勝浦郡小松島町・勝古村方ノ上・那賀郡富岡町富岡・立江町。
	メメンチャー	徳島県阿波郡土成村。
	メメンチャク	広島県賀茂郡 ^d 。
	メメンチャコ	石川県羽咋郡邑知村円井・広島県安芸郡府中村・豊田郡・香川県高松市・香川郡川岡村・徳島県板野郡板東町板東・内村大松。
	メメンチャゴ	京都府綾部市 ^d 。
	メメンチャヨ	兵庫県姫路市 ^d 。
	メメンチャン	徳島県板野郡撫養町斉田・香川県仲多度郡善通寺町。
	メメンチョ	福井県遠敷郡名田村奥田縄・三重県三重郡常盤村・神前村・兵庫県武庫郡・美濃郡・赤穂郡上郡町上郡・広島県沼隈郡山手村・徳島県那賀郡立江町北城・板野郡撫養町 (斉田・立岩・林崎) ・香川県高松市・仲多度郡四箇村・大分県中津市；三重・兵庫・徳島・香川。
	メメンチョー	広島県安芸郡府中村・高田郡三田村・徳島県板野郡瀬戸町堂ノ浦。
	メメンチョコ	香川県仲多度郡吉原村・郡家村・大分県中津市豊田町。
	メメンチョボ	岡山県和気郡伊里村閑谷。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メメンツ	岡山県岡山市。
	メメンツー	広島県高田郡根野村上根・賀茂郡西志和村。
	メメンツブ	岡山県児島郡 ^d 。
	メメント	岡山県和気郡英保村吉永・広島県高田郡向原村戸島。
	メメントー	兵庫県姫路市北條口・岡山県浅口郡連島町。
	メメントコ	兵庫県 ^d 。
	メメントゴ	岡山県和気郡英保村岩崎。
	メメントボ	岡山県和気郡伊里村閑谷。
	メメンボー	富山県下新川郡三日市町・下立村。
	メヤジ	三重県志摩郡 ^d 。
	メヨシコ	新潟県東頸城郡 ^d 。
	メラ	福岡県朝倉郡夜須村桑曲・田川郡伊田町。
	メラカ	和歌山県日高郡南部町山内・鳥取県・福岡県田川郡香春町・伊田町・勾金町・金川村・川崎村・方城村・糸島郡桜井村。
	メラク	福岡県田川郡後藤寺町。
	メラコ	福岡県福岡市；福岡県早良郡；福岡県田川郡；長崎県北高来郡 ^d 。
	メラゴ	長崎県北高来郡 ^d 。
	メラッコ	長野県上水内郡 ^d 。
	メラン	福岡県田川郡糸田村。
	メランカ	福岡県田郡方城村。
	メランコ	福井県遠敷郡中名田村下田・福岡県福岡市馬出・糟屋郡玄海斜面・香推村・立花村・席内村・和白村・新宮村・田川郡香春町・伊田町・川崎村・上野村・方城村・糸田村・京都郡黒田村・今村流末・仲津村・大分県東国東郡西武蔵村・大野郡・南野津村；福岡。
	メランチョ	福岡県田川郡香春町・後藤寺町・添田町・勾金町・金川村・赤村・猪位金村・川崎村・上野村・方城村・採銅所村・糸田村・大任村・京都郡今村流末；福岡。
	メランチャー	福岡県田川郡香春町・川崎村・上野村。
	メランチョコ	福岡県田川郡金田町・勾金町。
	メランチョン	福岡県田川郡糸田村。
	メリ	山口県玖珂郡本郷村。
	メリタンゴ	島根県邑智郡。
	メリンギョ	島根県那賀郡。
	メリンコ	島根県鹿足郡・美濃郡・邑智郡・那賀郡。
	メリンゴ	広島県佐伯郡友和村友田。
	メリンチャコ	広島県御調郡河内村。
	メリンチョ	広島県御調郡市村神村。
	メリンチャー	広島県御調郡市村神村。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メリンバイ	山口県玖珂郡 ^d .
	メレンコ	大分県東国東郡・東町小原・上国崎村・豊崎村・大野郡・田野村王子。
	メロコ	山形県天童市 ^d .
	メロザッコ	山形県寒河江市 ^d .
	メロド	福島県相馬郡 ^d .
	メワレ	奈良県生駒郡平郡村西宮。
	メン	群馬県利根郡；静岡県浜松市 ^d 。
	メンカ	静岡県周智郡気多村。
	メンカチ	岐阜県郡上郡。
	メンカチコ	岐阜県郡上郡。
	メンガラ	岐阜県郡上郡奥明方村。
	メンガレ	岐阜県郡上郡奥明方村。
	メンキリ	兵庫県姫路市；和歌山県日高郡 ^d 。
	メンキリトンバイ	兵庫県姫路市；和歌山県日高郡 ^d 。
	メングリ	新潟県佐渡郡 ^d 。
	メンコ	静岡県静岡市・駿東郡御殿場町・玉穂村・印野村・高根村・磐田郡二俣町・熊村・下阿多古村・龍山村・龍川村・光明村・野部村・上阿多古村・浜名郡中瀬村・赤佐村・引佐郡都田村・長野県上伊郡郡赤穂村・愛知県北設楽郡・岐阜県岐阜市・大野郡・福井県敦賀市・佐賀県東松浦郡入野村・北波多村徳須恵；静岡・岐阜。
	メンゴ	島根県仁多郡。
	メンコダイ	京都府久世郡 ^d 。
	メンゴロ	山口県光市 ^d 。
	メンゴロオ	山口県光市 ^d 。
	メンサ	大分県東国東郡竹田津町・神奈川県高座郡藤沢町大庭。
	メンザ	静岡県浜松市・沼津市・田方郡三島町・鈴田村・宇佐美村・小室村・北狩野村・中郷村・函南村・菰山村・田中村・上狩野村・川西村・下狩野村・中狩野村・江間村・上大見村・下大見村・富士郡富士根村・北山村・芝富村・吉原村・元吉原村・富丘村・今泉村・同那須津村・吉永村・岩松村・白糸村・榛原郡川崎町・金谷町・勝間田村・坂部村・吉田村・初倉村・五和村・萩間村・菅山村・地頭方村・白羽村・御前崎村・上川根村・下川根村・小笠郡横須賀町・掛川町・和田岡村・倉真村・中内田村・下内田村・佐束村・中村・土方村・大淵村・原田村・三浜村・千浜村・池新田村・南山村・新野村・相草村・加茂村・比木村・桜木村・上垂木・大阪村・河城村・佐倉村・曾我村・岡津・平田村・上平川・西郷村・上西郷・周智郡飯田村・宇刈村・久努

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メンザ (続き)	西村・三倉村・山梨町・上山梨・天方村・園田村・一宮村・気多村・熊切村・森町・森・磐田郡福田町・御厨村・南御厨村・於保村・田原村・上浅羽村・東浅羽村・十束村・井通村・富岡村・広瀬村・黒部村・向笠村・今井村・敷地村・見付町・西坂・袋井町・田端・中泉町・元宮・二保町・幸浦村・袖浦村・天龍村・三川村・大藤村・今井村延久・久努村・掛塚町・西貝村・熊村・池田村・光明村・西浅羽村・豊浜村・浜名郡中瀬村・北浜村・龍池村・吉野村・赤佐村・引佐郡伊平村川名・駿東郡片浜村・高根村・原町・鷹根村・浮島村・深良村・長泉村・泉村・大平村・志太郡岡部町・島田町・伊久身村・大津村；静岡。
	メンザア	静岡県富士宮市；静岡県島田市；静岡県榛原郡；静岡県磐田郡；静岡県浜松市；静岡県浜北市 ^d 。
	メンザイ	静岡県周智郡犬居町・熊切村・気多村・磐田郡光明村。
	メンザイッコ	静岡県周智郡犬居町・磐田郡光明村。
	メンザカ	茨城県久慈郡。
	メンザクコ	栃木県那須郡 ^d 。
	メンザコ	岩手県盛岡市・静岡県庵原郡内房村。
	メンザゴ	栃木県那須郡 ^d 。
	メンザチコ	静岡県浜松市 ^d 。
	メンサッコ	静岡県小笠郡和田岡村。
	メンザッコ	栃木県那須郡馬頭町馬頭・武茂村久那瀬・山梨県・神奈川県高座郡藤沢町大庭・静岡県浜松市・田方郡三島町・修善寺町・中狩野村・中大見村・宇佐美村・北狩野村・田中村・下狩野村・上大見村・下大見村・函南村・中郷村・戸田村・川西村・対島村・上狩野村・北上村・江間村・韭山村・富士郡吉原町・島田村・伝法村・那津村・元吉原村・富丘村・北山村・上井出村・原田村・吉永村・富士根村・芝富村・白糸村・富士町・大宮町・岩松村・柚野村・志太郡藤枝町(市部・下天馬)・大長村・大津村野田・島田町・徳山村・伊久身村・榛原郡地頭方村・白羽村・川崎町・吉田村・初倉村・御前崎村・坂部村・萩間村・川崎町・中川根村・下川根村・上川根村・小笠郡和田岡村・西郷村上西郷・大淵村・三浜村・南山村・新野村・相草村・佐倉村・横須賀町・中内田村・土方村・朝比奈村・平田村・原田村・千浜村・池新田村・上内田村・曾我村・磐田郡二俣町・井通村・天龍村・向笠村・敷地村・福田村・広瀬村・久努村・周智郡山梨町上山梨・宇刈村・久努西村・気多村・三倉村・森町・森・熊切村・犬居村・天方村・園田村・引佐郡伊平村新田・浜名郡吉田村・駿東郡金岡村・泉村・須山村・原町・大平村・深良村・庵原郡松野村；静岡。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メンザッコメ	茨城県久慈郡 ^d .
	メンザッパチ	静岡県磐田郡福田村・東浅羽村・梅山・小笠郡掛川町.
	メンザッポ	静岡県磐田郡 ^d .
	メンザッポチ	静岡県磐田郡 ^d .
	メンザパチ	静岡県磐田郡南御厨村・上浅羽村.
	メンサラッコ	栃木県那須郡 ^d .
	メンザラッコ	栃木県那須郡 ^d .
	メンザン	静岡県小笠郡横須賀町.
	メンザンコ	静岡県藤枝市；静岡県島田市；静岡県志太郡 ^d .
	メンザンパ	静岡県島田市 ^d .
	メンジッコ	静岡県志太郡 ^d .
	メンジャ	静岡県・庵原郡富士川町・賀茂郡仁科村・富士郡富士町・岩松村・伝法村・原田村・芝富村・吉原町・島田村・田子浦村・今泉村・柚野村.
	メンジャクロ	愛知県豊川市 ^d .
	メンジャコ	静岡県田方郡・福井県坂井郡伊井村・滋賀県蒲生郡・兵庫県城崎郡中竹野村・福岡県大牟田市・長崎県東彼杵郡早岐町・川棚町.
	メンジャゴ	長崎県西彼杵郡；長崎県南高来郡 ^d .
	メンジャッコ	静岡県賀茂郡松崎町・岩科町・中川村・仁科村・富士郡岩松村・今泉村・富丘村・柚野村・大富士町・富士町・田子浦村・鷹岡町・伝法村・白糸村・上井出村・吉永村・安倍郡中薬科村・南薬科村・庵原郡松野村・小島村・田方郡修善寺町.
	メンジャラ	静岡県賀茂郡 ^d .
	メンジャンコ	長崎県長崎市 ^d .
	メンジョ	静岡県富士郡富士町・三重県北牟婁郡尾鷲村・島根県仁多郡.
	メンジョコ	岐阜県安八郡 ^d .
	メンジョッコ	山梨県西八代郡；静岡県富士宮市 ^d .
	メンゼ	福岡県大牟田市.
	メンゼコ	福岡県大牟田市.
	メンタ	静岡県駿東郡静浦村・小笠郡西郷村上西郷・磐田郡見付町西坂・中泉町二之宮・長野村・前野・袖浦村・十束村・井通村・天龍村・富岡村・二俣町・愛知県播磨郡播豆町東播豆・石川県羽咋郡鉾打村・京都府丹後・与謝郡・府同郡宮津津町・広島県安芸郡畑賀村・高田郡吉田町・可愛村福原・山口県都濃郡久米村・徳島県；静岡・京都・広島.
	メンダ	静岡県駿東郡小泉村伊豆島田・榛原郡相良町・長崎県.
	メンター	山口県徳山市・美祢郡.
	メンダー	長野県諏訪郡.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メンタイ	愛知県名古屋市・岡山県浅口郡玉島町乙島・船穂村船穂・山口県玖珂郡由宇村中倉・日積村・伊陸村・祖生村・都濃郡太華村。
	メンダイ	静岡県周智郡熊切村。
	メンタイゴ	岡山県浅口郡玉島町乙島・島根県鹿足郡日原村日原・小川村寺田・山口県玖珂郡玖珂町・南河内村・余田村・祖生村。
	メンダイコ	長崎県。
	メンダイゴ	長崎県大村市；長崎県東彼杵郡 ^d 。
	メンダイショ	長崎県長崎市浦上町。
	メンダイッコ	静岡県周智郡熊切村。
	メンタイロ	島根県那賀郡 ^d 。
	メンダカ	奈良県生駒郡平城村・伏見村・岡山県吉備郡・愛媛県宇摩郡松柏村・東宇和郡石城村岩木・福岡県遠賀郡中間町垣生・長崎県東彼杵郡三浦村日泊郷。
	メンタクロ	愛知県豊川市 ^d 。
	メンタコ	広島県高田郡吉田町・野根村上根。
	メンタゴ	静岡県浜名郡・愛知県播豆郡三和村・京都府与謝郡宮津町・熊野郡湊村・岡山県苫田郡奥津村・長藤。
	メンタゴオ	山口県萩市 ^d 。
	メンダコ	愛知県播豆郡三和村・京都府竹野郡網野町・岡山県苫田郡・長崎県東彼杵郡竹松村・南高来郡島原町以北・大三東村・神代村・多比良村・大正村・山田村・西郷村・三会村・守山村・杉谷村・島原町。
	メンダゴ	愛知県播豆郡・長崎県東彼杵郡松原村。
	メンタゴロ	宮崎県延岡市・東臼杵郡一帯・南方村・東海村。
	メンタジ	山口県山口市 ^d 。
	メンタチ	三重県桑名市・桑名郡城南村。
	メンダッカ	静岡県駿東郡小泉村伊豆島田。
	メンタッコ	静岡県磐田郡井通村・長野村・浜名郡五島村。
	メンダッコ	静岡県田方郡伊東町。
	メンタッパチ	静岡県磐田郡井通村。
	メンタバイ	島根県・鹿足郡津和野町（津和野・鷺原）。
	メンタバエ	島根県鹿足郡津和野。
	メンタマイ	島根県鹿足郡津和野。
	メンタマエ	島根県鹿足郡津和野町津和野。
	メンダラ	兵庫県高砂市 ^d 。
	メンタン	山口県都濃郡下松町・宮崎県延岡市本村。
	メンタンコ	茨城県笠間市；静岡県藤枝市 ^d 。
	メンタンゴ	山口県玖珂郡米川村鳴川・都濃郡久保村。
	メンダンコ	長崎県長崎市 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メンタンコオ	兵庫県.
	メンタンコミ	静岡県志太郡 ^d .
	メンタンコメ	静岡県志太郡 ^d .
	メンタンゴロ	宮崎県延岡市.
	メンダンシュ	長崎県長崎市本原町.
	メンタンバヤ	山口県下松市 ^d .
	メンチ	静岡県浜北市 ^d .
	メンチキ	大分県東日東郡旭日村・網井.
	メンチコ	静岡県浜松市；静岡県浜北市 ^d .
	インチビ	静岡県磐田市 ^d .
	メンチャ	静岡県浜名郡芳川村石原.
	メンチャー	広島県御調郡市村.
	メンチャコ	浜松市・浜名郡芳川村石原・愛知県碧海郡六ツ美村下青野.
	メンチャッコ	静岡県藤枝市；静岡県焼津市 ^d .
	メンチャラ	富山県下新川郡 ^d .
	メンチャン	大阪府池田市；山口県徳山市 ^d .
	メンチャンコ	長崎県長市本原町.
	メンチャンゴ	兵庫県美方郡八田村（石橋・子谷・宮脇・内山前）.
	メンチャンゴロ	宮崎県延岡市.
	メンチュウ	島根県浜田市 ^d .
	メンチョ	三重県員弁郡白瀬村・三重郡常盤村・河芸郡栄村・香川県綾歌郡宇多津町・徳島県海部郡・宮崎県延岡市・鹿児島県川辺郡勝目村下山田.
	メンチョー	三重県員弁郡白瀬村.
	メンチョオゴ	岡山県倉敷市 ^d .
	メンチョコバエ	岡山県吉備郡.
	メンチョバイ	知県葉栗郡浅井町.
	メンチョバエ	愛知県一宮市 ^d .
	メンチョロ	三重県飯南郡川俣村.
	メンチョロバイ	三重県度会郡田丸町上田辺・桑名郡野代村南之町・岡山県吉備郡.
	メンチョロバエ	岡山県御津郡.
	メンチョロバヨ	三重県宇治山田市.
	メンチョロビャア	岡山県上房郡 ^d .
	メンチラコ	広島県高田郡吉田町・甲立町秋町・小田村・可愛村（浄安寺・中馬・常友）・郷野村.
	メンチル	愛知県安城市 ^d .
	メンチロ	静岡県浜松市 ^d .
	メンチロコ	広島県高田郡吉田町・郷野村.
	メンチロゴ	大分県佐伯市 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メンチン	静岡県志太郡；山口県柳井市；山口県防府市 ^d 。
	メンツ	静岡県・愛知県名古屋市・宝飯郡・額田郡。
	メンツウ	静岡県小笠郡；岡山県勝田郡；広島県広島市；山口県岩国市；山口県玖珂郡 ^d 。
	メンツイ	山口県玖珂郡伊陸村・祖生村。
	メンツイゴ	山口県玖珂郡玖珂町臼田・祖生村・米川村・上中曾根。
	メンツー	静岡県小笠郡加茂村・岡山県勝田郡勝間田町・広島市本川町・山口県玖珂郡麻里布町。
	メンテイゴ	岡山県浅口郡玉島町乙島。
	メンディゴ	長崎県東彼杵郡 ^d 。
	メンテウゴ	岡山県倉敷市 ^d 。
	メンテエゴ	岡山県倉敷市 ^d 。
	メンデカ	石川県金沢市 ^d 。
	メンデコ	長崎県東彼杵郡三浦村日泊郷。
	メンデッコ	長崎県東彼杵郡 ^d 。
	メンデャコ	長崎県東彼杵郡 ^d 。
	メントー	岡山県和気郡英保村吉永・小田郡笠岡町・吉備郡日近村・勝田郡。
	メントオジャコ	岡山県津山市 ^d 。
	メントーバイ	岡山県勝田郡・豊田村柿木。
	メントーバエ	岡山県真庭郡。
	メントコ	静岡県浜北市 ^d 。
	メントゴ	岡山県英田郡林野町。
	メンドッコ	長野県南佐久郡 ^d 。
	メントト	岡山県邑久郡大伯村。
	メントバイ	奈良県宇陀郡松山町・吉野郡・吉野川・岡山県勝田郡。
	メントボ	岡山県和気郡 ^d 。
	メントンゴ	岡山県和気郡熊山村奥吉原。
	メンネラコ	広島県高田郡 ^d 。
	メンノコ	佐賀県伊万里市；長崎県東彼杵郡 ^d 。
	メンバ	静岡県浜松市・浜名郡一円・引佐郡気賀町・愛知県岡崎市・宝飯郡蒲郡町・三重県四日市市北納屋町・桑名市鍋屋町・三重郡富田町・羽津村・和歌山県西牟婁郡。
	メンパ	静岡県・浜松市・志太郡高洲村大新島・周智郡山梨町上山梨・飯田村市・磐田郡浦村・浦二俣町・掛塚町・光明村・広瀬村・袖浦村西平松・土佐久間村・浜名郡鷺浄町・新居町・笠井町・雌路町・中瀬村・起池村・豊西村・中ノ町村・赤土佐村・小野口村・北浜村・穰志村・浦村・五島村・右塚村・和地村・北庄内村・村櫛村・神久呂村・白須賀町・曳馬村・三方原村・白路村・可美村・新津村・知波田村

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メンパ (続き)	・長上村・飯田村・芳村・石原・河村・伊佐見村・伊佐地 ・入野村・南庄内村・和田・内山・協和・浜名湖・引佐郡 気鷲町・気賀・三ヶ日町・玉村・玉村・東浜名村・井伊谷 村三嶽・伊平村伊平名・愛知県一ノ宮市・橋市・牟婁呂町 ・下條東町・市外白井・岡崎市・知多郡・額田郡幸田村芦 谷・南設楽郡東郷村・幡豆郡西尾町・上町・八名郡吉田村 ・八名村・大和村・渥美郡田原町・杉山村杉山・伊良湖岬 村・福江町・神戸村・野田村・宝飯郡御油町・若宮・牛久 保町瀬木・三谷町西新屋・蒲郡町・国府町国府・御津町広 石・長野県下伊那郡龍江村・三重県宇治山田市・桑名市・ 鍋屋町・桑名郡城南村・深谷村・三重郡常村赤堀・多気郡 大淀町・度会郡御園村小林・志摩郡坂手村・北牟婁郡尾鷲 村・島根県松江市・八束郡岩坂村・月太雲・鳥取県米子市 ・日野郡根雨町南部・山上村・福栄村・石見村・神戸上・ 日野村・日野上村・長崎県南高来郡有家町・加津佐町・ロ ノ津町・島原町・南有馬町・堂崎村・布津村・深江村・安 中村・北串山村・南串山村・熊本県天草郡；静岡・愛知・ 三重・島根・鳥取・長崎・天草。
	メンバア	愛知県。
	メンバア	静岡県浜北市；長崎県北高来郡 ^d 。
	メンバアコ	愛知県。
	メンパーチ	静岡県浜名郡新所村。
	メンバイ	三重県四日市市・南牟婁郡神志山村・岡山県真庭郡・島根 県鹿足郡。
	メンバイ	引佐郡気賀町・小野・中川村・中川・井伊谷村・(井伊谷 ・三嶽)・伊平村・川名・都田村・金指村・三ヶ日村・岡 山県上房郡高染町・真庭郡・勝山町三田。
	メンバイコ	三重県飯南郡 ^d 。
	メンバイコ	静岡県引佐村郡中川村・都田村・井伊谷村・三嶽・金指村 ・東浜名村・三ヶ日村；岐阜県郡上郡(一般淡水魚の幼魚)。
	メンバイゴ	岐阜県郡上郡；岐阜県郡；岡山県赤磐郡；岡山県上房郡； 岡山県真庭郡；岡山県苫田郡 ^d 。
	メンバイショ	三重県三重郡川越村・羽津村。
	メンバイチョ	三重県四日市市。
	メンバウ	静岡県 ^d 。
	メンパウ	静岡県引佐郡東浜名村都筑。
	メンパエ	愛知県東加茂郡 ^d 。
	メンパク	茨城県西茨城郡；愛知県常滑市；愛知県知多市；愛知県豊 川市；愛知県豊橋市 ^d 。
	メンパクロ	愛知県豊川市 ^d 。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メンパコ	愛知県・豊橋市・碧海郡・渥美郡・宝飯郡・額田郡の一部・高知県高知市小高坂；静岡・愛知。
	メンパコ	静岡県浜松市・広沢町・豊橋市・牟呂町・下條東町・岡崎市・浜名郡和田村・雄踏村・蒲村・飯田村・富塚村・神久呂村・曳馬村・芳川村・石原・白脇村・瓜内・積志村・長上村・河輪村・五島村・入野村・入野・和地村・龍池村・北浜村・新津村・小野口村・可美村・三方原村・笠井村・愛知県額田郡幸田村岩堀・山中村羽栗・宝飯郡牛久保町瀬木・国府町国府・御津町・豊沢・渥美郡田原町・杉山村杉山・三県度会郡浜郷村。
	メンパゴ	周智郡犬居町・愛知県豊橋市・渥美郡老津村・宝飯坂下地町・鳥取県日野郡黒坂町南部。
	メンパコー	静岡県浜名郡入野村入野。
	メンパザッコ	静岡県浜松市 ^d 。
	メンハチ	三重県志摩郡加茂村安楽島。
	メンパチ	静岡県浜名郡鷺津町・三重県宇治山田市・桑名郡在良村・三重郡楠村・内部村・川島村・千種村・音羽・羽津村・北牟婁郡赤羽村・広島県高田郡吉田町・島根県鹿足郡。
	メンパチ	静岡県清水市・磐田郡浦川村・富士郡鷹岡町・浜名郡新居町・雄踏町・小野口村・北浜村・長上村・北庄内村・白須賀町・入野村・和地村・赤佐村・神久呂村・引佐郡気賀町・気賀・三ヶ日町・中川村・都田村・井伊谷村三獄・鹿玉村・東浜名村都筑・金指村・愛知県一円・一ノ宮市・豊橋市・幡豆郡西尾町・（上町・鶴城）・一色町・碧海郡安城町・今村・里村・六ッ美村下青野・矢作町尾崎・額田郡の一部・山中村羽栗・宝飯郡御油町・八名郡大和村・知多郡野間村・内海町・板尾町・愛知郡の一部・渥美郡福江町・西春日井郡庄内町・岐阜県岐阜市古宮町・三重県宇治山田市・桑名市・（出屋敷・三崎通）・桑名郡西桑名町西方・桑部村・城南村・深谷村・多度村・長島村・三重郡富洲原町・常盤村赤堀・朝日村・保々村中野・八郷村・伊坂・鈴鹿郡関町・河芸郡一ノ宮村・飯南郡柿野町・度会郡神社町・宮本村大倉・御園村小林・浜郷村・中島村・志摩郡名田村・御座村・鳥羽町・波切町・答志村・鏡浦村・神島村・坂手村・国府村・磯部村・畔名村・甲賀村・船越村・片田村・布施田村・加茂村・北牟婁郡相賀町本浦・長島町・錦村・赤羽村・南牟婁郡鶴殿村・御船村・尾呂志村・和歌山県・日高郡・岡山県阿哲郡上市村・菅生村・上房郡高梁町・真庭郡勝山町神庭・広島県豊田郡入野村・鳥取県日野郡・根雨町・黒板町上菅・河毘縁村下阿毘縁・多里村・根県一円・松江市；静岡・愛知・三重・岡山・島根・鳥取。

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メンパチコ	静岡県引佐郡.
	メンパチゴ	愛知県岡崎市・碧海郡・宝飯郡蒲郡町.
	メンパチコ	浜名郡神久呂村・可美村・積志村・伊佐見村・和地村・富塚村・龍池村・篠原村・小野口村・舞坂町・引佐郡井伊谷村三嶽・鹿玉村・三ヶ日町・伊平村・(伊平・川名)・東浜名村・都筑・気賀町・愛知県豊橋市下篠東町・碧海郡桜井村藤井.
	メンパチゴ	浜名郡中瀬村・愛知県知多郡大府町大府・碧海郡知立町・上思原・明治村和泉・愛知郡の一部・幡豆郡西尾町上町・鳥取県日野郡黒坂町黒坂・石見村・日野村下榎・日野上村・岡山県上房郡高梁町・阿哲郡千屋村・真庭郡川上村; 愛知・鳥取・岡山.
	メンパチコー	静岡県浜名郡北庄内村.
	メンパチコゾオ	静岡県浜松市 ^d .
	メンパチジャコ	広島県竹原市 ^d .
	メンパチッコ	静岡県浜名郡篠原村篠原.
	メンパチョ	三重県四日市市・桑名郡楠村・三重郡・常盤村・千種村・三重村・羽津村・河芸郡飯野村・多気郡大淀町・津田村三疋田; 三重.
	メンパチョ	三重県多気郡大淀町.
	メンパチョー	静岡県浜名郡北庄内村.
	メンパチョン	愛知県額田郡.
	メンパチロ	愛知県知多市 ^d .
	メンパチロー	愛知県知多郡野間村.
	メンパツ	島根県松江市; 島根県八束郡 ^d .
	メンパツ	島根県松江市・八束郡.
	メンパッコ	静岡県浜松市 ^d .
	メンパッコ	茨城県西茨城郡笠間町・静岡県浜松市・浜名郡中ノ町村・篠原村篠原・河村・五島村・北庄内村・伊佐見村・引佐郡角玉村.
	メンパッチ	静岡県島田市 ^d .
	メンパヨ	三重県度会郡宮本村大倉.
	メンバリ	静岡県磐田郡浦川村浦川・島根県鹿足郡.
	メンバリ	静岡県磐田郡浦川村.
	メンバリコ	奈良県吉野郡高見村木津・島根県鹿足郡・山口郡玖珂郡.
	メンバンコ	長野県上伊那郡川島村上島.
	メンプ	島根県安濃郡西川.
	メンプー	山口県玖珂郡岩国町・由宇村横道・通津村.
	メンプク	福島県.
	メンブン	兵庫県加古川市 ^d .

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	メンペェチ	岡山県浅口郡 ^d .
	メンボ	静岡県浜北市；鳥取県八頭郡 ^d .
	メンボ	静岡県浜名郡和地村.
	メンボー	鳥取県東伯郡・島根県知夫郡.
	メンボオ	島根県江津市 ^d .
	メンボチ	鳥取県東伯郡.
	メンマチ	三重県度会郡豊浜村磯村・岡山県苦田郡.
	メンメ	石川県羽咋郡南大海村・志雄町（子浦・出浜）・福岡県築上郡八屋町宇島；石川.
	メンメコ	高知県幡多郡江川崎村江川.
	メンメジャコ	石川県金沢市 ^d .
	メンメタ	広島県高田郡吉田町.
	メンメチャコ	香川県高松市 ^d .
	メンメン	香川県小豆郡大鐸村肥土山.
	メンメンガイ	広島県高田郡小田村.
	メンメンゴッチャ	愛知県碧海郡.
	メンメンコメ	静岡県浜北市 ^d .
	メンメンジャク	石川県能美郡 ^d .
	メンメンジャコ	石川県.
	メンメンジャック	富山県富山市 ^d .
	メンメンジャッコ	富山県富山市 ^d .
	メンメンジョ	愛媛県今治市 ^d .
	メンメンタ	広島県高田郡；広島県賀茂郡；徳島県鳴門市 ^d .
	メンメンタイ	広島県佐伯郡宮内村・平良村.
	メンメンタコ	福井県小浜市 ^d .
	メンメンタゴ	福井県遠敷郡今富村野代.
	メンメンタタキ	石川県羽咋市 ^d .
	メンメンチャンゴ	香川県香川郡 ^d .
	メンメンチロコ	香川県丸亀市 ^d .
	モクキ	東京都 ^d .
	モクモク	東京都 ^d .
	モックロ	静岡県田方郡.
	モッコウ	東京都 ^d .
	モツゴ	兵庫県・高知県吾川郡神谷村.
	モツゴノコ	高知県土佐郡；高知県吾川郡 ^d .
	モツゴロ	鹿児島県 ^d .
	モツノコ	愛媛県新居郡加茂村中ノ池.
	モト	京都府 ^d .
	モロコ	愛知県一宮市；奈良県天理市 ^d .
	モンコツ	岡山県.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ヤアラッポ	長野県北佐久郡 ^d .
	ヤアラッポー	長野県北佐久郡川辺村.
	ヤーランババ	長野県小県郡.
	ヤアランボ	長野県佐久市 ^d .
	ヤアランボオ	長野県東筑摩郡 ^d .
	ヤキ	千葉県香取郡 ^d .
	ヤギ	千葉県香取郡 ^d .
	ヤギイユ	鹿児島県名瀬市 ^d .
	ヤギユ	鹿児島県名瀬市 ^d .
	ヤッコ	青森県.
	ヤナギゴロ	茨城県土浦市 ^d .
	ヤナギッパ	茨城県土浦市 ^d .
	ヤマシメシ	徳島県 ^d .
	ヤヤトト	東京都 ^d .
	ヤラボ	長野県小県郡 ^d .
	ヤラボッコ	長野県.
	ヤラボノコ	長野県小県郡 ^d .
	ヤリンボ	富山県 ^d .
	ヤリブチ	福岡県 ^d .
	ユオゴ	埼玉県秩父郡 ^d .
	ユオンコ	鹿児島県曾於郡 ^d .
	ユキゴ	愛媛県越智郡 ^d .
	ユキノザメ	熊本県天草郡.
	ユキヨ	愛媛県越智郡 ^d .
	ユキヨメン	愛媛県今治市 ^d .
	ユキンコ	愛媛県今治市 ^d .
	ユキング	岡山県小田郡陶山村.
	ユルメ	新潟県三条市 ^d .
	ユルメッコ	新潟県三条市 ^d .
	ヨオ	鹿児島県 ^d .
	ヨーゴ	福岡県山門郡大和村（豊原・皿垣開・中島）.
	ヨーッコ	埼玉県秩父郡大瀧村.
	ヨオンコ	鹿児島県日置郡 ^d .
	ヨシロ	徳島県 ^d .
	ヨナ	長野県 ^d .
	ヨノメ	新潟県中頸城郡直江津町.
	ヨバヨ	三重県度会郡宮本村土佐八・名賀郡瀧川村星川；三重.
	ヨバラコ	山形県東置賜郡屋代村相森・西置賜郡荒砥町・蚕桑村・鮎貝村；山形.
	ヨバランコ	山形県西置賜郡.

メダカ科

標準和名	地方名	地域
メダカ	ヨワノコ ランバイ リンリンコ レベェタンジョオ レーベタンジョー レントイ ロンバイ	兵庫県 ^d . 和歌山県西牟婁郡田辺町・元町・稲成村・下芳養村；和歌山. 福井県遠敷郡名田村東相生. 佐賀県佐賀市 ^d . 佐賀県佐賀市. 三重県南牟婁郡神志山村. 和歌山県西牟婁郡田辺町・元町・稲成町；和歌山.

ハゼ科

標準和名	地方名	地域
ヨシノボリ	アネサマゴリ アハラ イーブー イエハゼ イサザ イシナシゴ イシビシヨ (イシビシヨ) イシブシ イシモチ イソハゼ イツサンダイ ウルル ウルルミ ウロリ オボスコ カゴ カジカ (カチカ) カワギス カワハゼ カワラゴリ カンカン キンカン	加賀；石川. 埼玉県南埼玉郡大山村. 琉球 (混称). 高知. 信州木崎湖；木崎湖. 岡山県後月郡芳井村小田井. 琵琶湖. 琵琶湖. 京都府加佐郡八江村；琵琶湖. 土佐. 播磨芳田. 愛知県犬山町. 福井県三方湖. 琵琶湖. 栃木県下都賀郡絹村. 群馬県邑楽郡伊奈良. 愛媛 (混称)；館林・琵琶湖. 富山県新湊；新湊. 紀州；和歌山. 石川県 (大形のもの)；石川. 石川. 加賀.

ハゼ科

標準和名	地方名	地域
ヨシノボリ	ギンコ	千葉県旭。
	ゲズ	山陰（混称）；富山県生地。
	ゴリ	近畿・山陽（混称）；高知（混称）；大阪府南河内郡長野町・山口県玖河郡本郷・近江勢多川；琵琶湖・広島県佐伯郡。
	ゴリキ	奈良県五条町・吉野川；大和吉野川・五条。
	ゴリモチ	大阪府茨木川。
	ゴリン	丹波竹野。
	ゴリンカジカ	越後信濃川；見出川；信濃川。
	ゴリンチ	広島県三次。
	ゴロ	茨城県漣沼；茨城。
	ゴロカジカ	弘前。
	シマビン	岐阜県加茂郡八百津町。
	シマビンガ	岐阜県加茂郡八百津町。
	ジンゾク	徳島（混称）；徳島県美馬郡脇町・阿波吉野川；吉野川。
	スイツキ	信濃地方；長野；信州・松本平。
	スイツキボラ	相模湖町；城山町 ^b 。
	スウブ	沖縄県；沖縄。
	ズンコオ	静岡県磐田郡阿多古村。
	セドンカチ	大分県直入郡長湯村。
	セドンコ	大分；大分県直入郡長湯村。
	セフゲ	広島県安佐郡。
	ダボハゼ	千葉県東金 ^b 。
	ツユゴリ	石川県（小型のもの）；石川（幼魚）。
	テツチンコ	播磨芳田。
	トトマン	播磨芳田。
	トラゴ	土浦・霞ヶ浦・水戸。
	ドンコ	愛媛（混称）。
	ナベカジカ	弘前。
	ノメサ	石川県；石川（雌）。
	ハゼ	上総日向・丘山・横山・南郷・豊成・豊海；千葉県・高知。
	ハゼゴロウ	上総豊成；千葉県豊成。
	(ハゼゴロオ)	
	ハツタイカシカ	木曾福島。
	ハツタイカジカ	木首・福島。
	ヒツッキ（ヒツツキ）	高知県沖の島。
	ビンガ	岐阜。
	ヘビカジカ	栃木県塩谷郡連川町。
	ボチ	静岡県川津川。
	ミミツク	土佐柏島；柏島・沖ノ島。
	アヤランボウ	信濃地方。

ハゼ科

標準和名	地方名	地域
ヨシノボリ	ヤランボ	信州・松本平；長野。
	ヨシノボリ	信濃地方；長野県；松本平。
	ヨナ	信濃地方；信州・松本平；長野。
	ヨナツペ（ヨナツベ）	信濃地方；信州・松本平。
	ロレコ	岐阜県可児郡御嵩町・愛知県犬山町。
カワヨシノボリ	カジカ	愛媛（混称）。
	グズ	山陰（混称）。
	ゴズ	山陰（混称）。
	ゴリ	近畿・山陽・高知（混称）。
	ジンゾク	徳島（混称）。
	チゴリ	山陰（混称）。
	チョロケン	山陰（混称）。
ドンコ	愛媛（混称）。	
ヌマチチブ	イボ	奄美。
	イモゴリ	金沢。
	イワスイチチコ	紀州粟栖川。
	オキノゴモ	鹿児島。
	カワドボクロ	丹後加佐郡東雲。
	カワハゼ	紀州橋本；辰ヶ浜；橋本。
	グズ	越後・富山県東岩瀬・魚津；新潟・富山。
	クラハゼ	紀州辰ヶ浜。
	クロギャボ	千葉県木更津。
	クロコ	紀州本宮。
	クロゴリ	八郎潟。
	クロゴロ	土浦・霞ヶ浦・水戸。
	クロハゼ	紀州古産川・静岡県見付。
	ゲロ	千葉県椎柴。
	ゴモ	鹿児島県帳佐村別府川；鹿児島。
	ゴリ	高知市潮江；紀ノ川；高野・湯浅；高知・和歌山県紀ノ川。
	ゴロ	関東（混称）；土浦・霞ヶ浦・水戸；印旛。
	コロビシヤ	紀州那賀郡山間部。
	シロゴイル	福井県錨川。
	ダボ	安房。
	ダボキン	小湊。
	ダボハゼ	関東（混称）；東京；上総成東；浜名湖；安房。
	ダンクロ	石川県今江濟。
	タンバゴリキ	奈良県五条・吉野川；大和吉野川。
	チチコ	紀州富田川・周参見・和深・紀州；和歌山。

ハゼ科

標準和名	地方名	地域
ヌマチチブ	チチブ	土佐；高知。
	チチブハゼ	土佐。
	ドコマン	安房。
	トチコ	紀州藤並・辰ヶ浜。
	トブクロ	呵波吉野川。
	ドボクロ	紀ノ川。
	ドماغロ	田辺。
	ドンク	福岡県早良。
	ドンコ	松山；松本。
	ヌメ	岐阜県；長良川；岐阜。
	ハゼ	上総成東；上総。
	ハゼクロ	紀州御船。
	ハバサ	岐阜県可児郡御嵩樹町。
	ハラフクレ	関東（混称）；茨城県；茨城。
	ブトキン	静岡県見付。
	ボテ	福井県三方湖。
	ユボ	奄美。
チチブ	イボ	奄美。
	イモゴリ	金沢。
	イワスイチチコ	紀州栗栖川。
	オキノゴモ	鹿児島。
	カジカ	愛媛。
	カワドボクロ	丹後加佐郡東雲村。
	カワハゼ	紀州橋本；辰ヶ浜；橋本。
	グズ	北陸・山陰；越後・富山県東岩瀬・魚浄；新潟・富山。
	クラハゼ	紀州辰ヶ浜。
	クロギャボ	千葉県木更津。
	クロコ	紀州本宮。
	クロゴリ	八郎瀨。
	クロゴロ	土浦・霞ヶ浦・水戸。
	クロハゼ	紀州古産川・静岡県見付。
	ゲロ	千葉県椎柴。
	ゴモ	鹿児島県帳佐村別府川；鹿児島。
	ゴリ	和歌山；高知；紀ノ川；高知市潮江；高野・湯浅；和歌山 県紀ノ川。
	ゴロ	茨城県土浦；千葉県大洗・湊沼；土浦・霞ヶ浦・水戸；印旛。
	コロピシヤ	紀州那賀郡山間部。
	シロゴイル	福井県餅川。
ダボ	安房。	

ハゼ科

標準和名	地方名	地域
チチブ	ダボキン	小湊。
	ダボハゼ	関東；東京；上総成東；浜名湖；安房。
	ダンクロ	石川県今江湾。
	タンバゴリキ	奈良県五条・吉野川；大和吉野川。
	チチコ	紀州富田川・周参見・和深・紀州；和歌山。
	チチニ	土佐；高知。
	チチブハゼ	土佐。
	ドコマン	安房。
	トチコ	紀州藤並・辰ヶ浜。
	トブロク	阿波吉野川。
	ドボクロ	紀ノ川。
	ドماغロ	田辺。
	ドンク	福岡県早良。
	ドンコ	愛媛；松山；松本。
	ヌメ	岐阜県；長良川；岐阜。
	ハゼ	上総成東；上総。
	ハゼクロ	紀州御船。
	ハバサ	岐阜県可児郡御嵩町。
	ハラフクレ	茨城県；茨城。
ブトキン	静岡県見付。	
ボテ	福井県三方湖。	
ユボ	奄美。	
ジュズカケハゼ	アサバ	小名浜。
	エンシヨオ	能生・青梅川。
	チンメ	浜名湖。
	ホシガレイ	浜名湖。
ウキゴリ	アナグス	新発田。
	イシゴ	福岡県三潞郡侍島。
	イシブシ	滋賀県琵琶湖。
	ウキゴリ	石川県金沢；金沢・加賀。
	ウシヌスビト	滋賀県琵琶湖。
	エビグズ	山陰。
	オオバコゴリ	金沢。
	オオバゴリ	石川県金沢；金沢・加賀。
	カジカ	弘前。
	カワギス	富山県新湊。
	ガンカ	能生。
	グズ	越後・富山県富山。

ハゼ科

標準和名	地方名	地域
ウキゴリ	グズカ	越後.
	ゴミカドカ	弘前.
	ゴリ	全国(混称).
	ゴロ	下総大洗; 大洗・栃木県安蘇郡越名沼.
	シマゴリ	石川県金沢; 金沢.
	タグズ	新発田.
	ダボ	神奈川県.
	チチカブリ	滋賀県琵琶湖.
	トラハゼ	兵庫県加古郡神野村.
	ノツペ	新潟県村山.
	バイラ	栃木県安蘇郡越名沼.
	ハゼ	滋賀県琵琶湖; 丹後加佐郡八江村・上総公平・南郷・肥後 畫圖湖; 上総.
	ヤナギゴロ	土浦.
	ヤナギツバ	土浦・水戸・霞ヶ浦.
マハゼ	イーブー	沖縄.
	オカンバ	静岡県見付.
	カジカ(カチカ)	宮城県; 宮城・松島.
	カジカギス	富山県水見.
	カマゴツ	鳥取県米子(大形); 米子.
	カワギス	加賀・石川県七尾・富山県下新川郡横山村; 富山; 石川.
	キス	福井県三国・同県坂井郡浜四郷.
	グズ	石川県邑知潟・富山県富山・魚津・石川県七尾; 富山・石川.
	クソハゼ	大村湾.
	ゲング	八郎潟.
	ゲンジ	男鹿.
	グンス	八郎潟.
	ゴズ	鳥取県米子; 米子.
	ゴツ	鳥取県米子; 米子.
	シロハゼ	小野田.
	デキハゼ	関東.
	ドンハゼ	静岡県見付(大形).
	ハゼ	全国; 堺・播磨明石; 一般・有明海・下関・銚子.
	ハゼクチ	有明海.
	フユハゼ	浜名湖.
マハゼ	江ノ島・寺泊.	
モミハゼ	愛知県三谷町; 三谷.	

カジカ科

標準和名	地方名	地域
カジカ	アイカ	福井県吉名郡上志比村.
	アイカイ	紀州那賀.
	アイカギ	静岡県島田.
	アイカケ	田辺・御坊・御船.
	アイカケカンジイ	静岡県中泉.
	アイカケチチコ	紀州粟栖川.
	アイカンジイ	静岡県吉奈.
	アカザス	長良支流；長良川；岐阜.
	アブラガジ	加賀.
	アブラコ	長門厚狭郡吉部.
	アブラドカン	関西.
	アユカケ	信濃川.
	イワクジリ	千葉県印旛沼；印旛沼.
	ウシゴツバア	広島県高田郡吉田.
	ウシヌスツト	岡山県真庭郡湯原村.
	ウシヌスト	岡山；備前岡山.
	ウバカジカ	信州松本平；松本平.
	ウバガシラ	信州；長野.
	オオカジカ	信州松本・長野県木曾福島；長野.
	オコジヨ	愛知県犬山.
	オコゼ	滋賀県琵琶湖.
	オニカジカ	福島県小名浜・同江名浜；小名浜.
	カアジ	静浦・静岡県田方郡内浦村.
	カジカ	信濃川・松本平・群馬県群馬郡渋川・愛媛県宇和島；小名浜・愛知県犬山；琵琶湖；東京；信州；長野・寺泊・宇和島・大月市小篠；上野原町松留；城山町小倉 ^o .
	カジカンポオ	松本平；信州.
	カジツカ	新潟県南蒲原郡森町村・福島県東白河郡棚倉町；新潟.
	カジッボラ	相模湖町千木良 ^o .
	カジラ	大月市小篠；城山町小倉；厚木市下依知 ^o .
	カツオポッカ	松江.
	(カツオポツカ)	
	カブ	岐阜；奈良県十津川・同北上川；奈良；飛騨国.
	ガブ	長良川・和歌山県御船.
	カワボオズ	中泉.
	カンジイ	静岡県御殿場.
	キス	青森.
	キスカジカ	青森.
	キャラ (キヤラ)	松本平；信州；長野.
	グズ	石川県今江瀧.

カジカ科

標準和名	地方名	地域
カジカ	ゲツバ (ゲツバ)	紀州藤並; 辰ヶ浜; 藤並.
	ゴリ	北陸.
	ザコ	鳥取.
	サンヤス	那賀; 和歌山・高野山.
	ジャコ	鳥取.
	ジャッコウ (ジャツコオ)	鳥取.
	ジヨロイ	紀州明神.
	セカブ	長良川; 岐阜.
	セリコ	徳島県吉野川; 吉野川.
	タカノハ	大和吉野川; 和歌山県橋本; 吉野川.
	タガヒョウ	山陰.
	タケソン	琵琶湖.
	タンポカジカ	弘前.
	チチカブ	奈良県十津川・同北上川; 新宮川奥; 奈良.
	チチコバタ	吉野川.
	ドンコ	前橋.
	ドンボ	福岡.
	ナイラギ	土佐高知.
	ニガツチロ	福島県江名浜.
	ノオラギ	大阪市場.
	ハウト	九州.
	ハゼ	栃木県安蘇郡氷室村.
	ピンガ	美濃長良川.
	フゲ	滋賀県琵琶湖; 高野山.
	ハウテンコ	山梨.
	ボオズカンジイ	静岡県吉奈.
	ホオテク	山梨県東山梨郡八幡.
	ポツカイ (ポツカイ)	紀州・富田川筋; 和歌山県富田川・古座川.
	ホホテンコ	山梨.
	ホンボラ	相模湖町千木良 ^b .
	マゴリ	金沢; 石川県金沢; 加賀; 石川.
	マリゴ	金沢.
	ミヤマゴリ	山口県萩; 萩.
	ヤマノカミ	小名浜; 萩.

付 録 2

付録2 多摩川にまつわる民話・伝承（本文）をモチーフべつに分類したもの

I 川の地形や名称などに関するもの

■奥多摩町

1. 姫が淵（その1）

昔、平将門公のお館が鳩の巣にあったころ、川井に尾崎の十郎、対岸に浜竹の五郎が柵をかまえて守りをかためておりました。

尾崎の十郎には、立派な武者ぶりの息子がおり、浜竹の五郎には笛の名手といわれた美しい娘がおりました。いつしかこの二人はおたがいにしたい合う仲となり、娘のかなでる美しい笛の音を合図に若武者は、多摩川にかかる藤蔓橋を渡って、浜竹の川辺でしばしの逢瀬をかさねておりました。

五郎の郎党の中に娘に恋こがれる者がおり、二人の仲をねたんでおりました。

美しい笛の音がヒョウヒョウと川面を渡るある夕暮れのこと、にぶく光る鉈を手にした郎党は、藤蔓橋の力蔓に鉈目を入れて立ち去ったのでした。

それとは知らず、若武者が橋にかかったからたまりません。

まっさかさまに激流に落ちてしまいました。

十郎は我が子の帰りが遅いのを心配して八方をさがしましたが見あたりません。翌朝になって、山女魚釣りの里人が浜竹の柵下の青みどろの淵に浮かぶ若武者を見つけたのでした。このことを知った娘は、その日から口を閉じ、笛を吹くこともなく、ひたすら部屋にとじこもって、若武者の死を悲しんでおりました。

五郎は娘の身を案じて、気に入りの下女をつけて心遣いをしていたのですが、ある夜のこと、娘は家人のすきをはかって、家を抜け出し、若武者のあとを追って多摩川に身を投げてしまいました。

柵下の青みどろの淵には娘が愛用した一管の笛が、ただようばかりだったということです。

その後、だれいともなくこの淵を「姫が淵」と呼ぶようになりました。

奥多摩民話の会 代表・荒澤 弘、1990年。姫が淵。おくたまの昔話 第1集

（その2）

丹縄から300メートルの上流、多摩川が大きく屈曲したところに南回する尾崎集落と浜岳集落が目鼻の間の相対しています。伝説によると平将門公のお館が柵沢にあった承平の昔、ここには尾崎の十郎、浜岳の五郎の両家士が前衛守備として柵守していたのです。

この尾崎の十郎には偉丈夫な若武者の子息があり、浜岳の五郎には笛の名手といわれた美しい愛娘が居ました。この若者二人が恋仲となり、娘の吹く笛を合図にあいびきを重ねていたのです。

若子息が浜岳へ通うには多摩川に架かる藤釣橋を渡らなければなりません。五郎の郎党のうちに娘に胸をもやしている者がおりました。郎党は二人の逢瀬をねたんで、藤釣橋の力蔓に鉈目を入れておいたのですが、それとは知らない子息が橋にかかったからたまりません。子息はまっさかさまに激流に落ち

手行きました十郎は我が子の帰りの遅いのを心配して八方探しましたが見当たらず、翌朝山女釣りの里人が浜岳の柵下の多摩川の青みどろの淵に浮かんでいるむくろを見付けました。

これを知った娘はその日から口をとじ、笛を吹くこともなくなり、ひたすら一間にとじこもって恋人の死を悲しんでいました。五郎は娘に気に入りの下女をつけ、その身のまわりを気遣わせていたのですが、ついに或る夜のこと人々のすきをはかって家を抜け出し、恋人の死のあとを追って多摩川へ身を投げたのでした。翌日、柵下の青みどろの淵に娘が愛用していた一管の笛がただよっていました。その後誰がいい出したものか、この淵を「姫が淵」と呼ぶようになりました。

奥多摩町教育委員会、1989年。姫が淵。奥多摩町誌資料集五 奥多摩町の民俗

— 語彙・遊びとわらべうた・民話 — ，奥多摩町教育委員会

2. 坊主淵の雨乞い

白丸の数馬溪谷に坊主淵と呼ばれる所がありました。

昔、焼けるような暑さの上、数十日間というもの一滴の雨のない年がありました。村人がせっかく丹精した畑の作物も干からびだして、この日照りにとても苦しんでおりました。そんなおりに、どこからともなく雲つくような大坊主があらわれ、「皆のために雨乞いのお祈りをしてやろう」といって、村人たちを大ぜい引き連れて、この淵へ降りました。人々はおぼれる者がわらをつかむような気持ちで、すべて大坊主のいうとおりに従いました。

大坊主はまっばだかになってこの淵へ降りたち、水垢離を取り、しばらく呪文をととなえていると、不思議なことにたちまち黒雲が広がり、みるみるうちに大雨がふりだしました。大坊主は「これからも日照りで困るようなことがあったらここへ来て、さんげさんげ六根清浄ととなえなさい。必ずかなうことだろう」と教え、いずこへか立ち去って行きました。

奥多摩民話の会 代表・荒澤 弘、1990年。坊主淵の雨乞い。おくたまの昔話 第1集

3. おいらん淵

武田信玄公の軍資金としてたくさんの金を産出し、信玄公なきあと勝頼公が、織田、徳川の連合軍との戦いに敗れると、金山もこれまでと採掘をあきらめ、閉山することになりました。

山に居残る者もいましたが、大部分の者が山を降り、故郷へ帰っていきました。にぎわった鉾山部落も日に日にさびれていきました。

ところで、いつまでたっても行き先もなく、決まりのつかなかったのが五十五人の遊女たちでした。

奉行以下、係りの役人たちも百計を案じ、遊女の抱え主を呼びつけると何事かひそひそと話し合いをもちました。

ある晴れた朝のこと、抱え主たちは遊女たち全員を集め、「みんな、今までよく働いてくれたなあ、今日はその罪ほろぼしにごちそうをたんと作らせてある。大いに遊んでくれ」こう抱え主が告げると、遊女たちはうれしそうな声をあげました。

さっそく、きれいに身づくろいをすますと、抱え主のあとから、ぞろぞろと山を下って行きました。着いた所は柳沢川の流れる深淵の上でした。

そこには藤つるで編んだ広い宴会棧敷がつくられていて、ごちそうやお酒がたんと並べられていました。

おりしも、山に咲きほこる深紅のツツジの花が新緑のあざやかさとおりなして、遊女たちの姿をいっそうはなやかなものにしていました。

この日ばかりはふだんと違って、自分たちがお客にしてもらえるうれしさに酔いしれて、遊女たちの顔はみなまばゆいばかりの明るさでした。

楽しい時もどのくらいたったことでしょう。

「ころはよし」とばかりに、この棧敷に近づいた役人の手の者は、やおら棧敷を吊ってあった元綱を刀でバツサリと切り放したからたまりません。

五十五人もの遊女たちは、一瞬のうちに深淵に消え去りました。

助けを求める声もほどなく消え果てると、つい今しがたのにぎわいとはうって変わった静けさが、深淵の上に重くのしかかってゆくのでした。

武田軍も、金山もほろんだずっとのちになって、この淵はだれが名づけたか、「おいらん淵」と呼ばれるようになったのです。

奥多摩民話の会 代表・荒澤 弘、1990年。おいらん淵。おくたまの昔話 第2集

4. 万松院淵

昔、川井穴沢に水口の傍（今の八雲神社の横）に万松院というお寺がありました。この寺が無住になっていた文化年間のこと、この寺に住みついた旅の托鉢僧があり、朝夕あやしげな読経をしていました。ところが、この寺へ幽霊がでるとの評判がたちました。村の若衆たちがその真相調査に乗り出したところ、その幽霊には足があり、何のことかそれは近所の後家さんだったのです。

当時、この川井村には三つのお寺があり、坊さんが常住する程の財力はなかったのですが、この坊さん中々の美男僧で女ぼれのするタイプ。たちまち附近の女たちとねんごろになっていき、いつかなし勤行もとだえてしまいました。

こんなことでお寺がやっつけられる筈はありません。お寺の宝物が次第に姿を消します。そんな或る日、村の名主で寺の大旦那中村氏の所へ、南小曾木村の某氏が観音さまの像をさげて来て、「これは青梅の唐物屋が川井の万松院から買ったものというが、この観音さまがもとのお寺へ帰りたいと夢枕に立たれるのでお戻ししたい」ということでした。

驚いた中村氏は寺へ行って二度びっくりです。お寺には開山像と古びた位牌があるだけで金目の什物は何一つ残っていないのです。早速坊主に立退きをせまりましたが応じませんでした。

そのうち坊主の姿は河原の淵にす巻きの屍体となって浮かびあがり、だれいうとなく、ここを万松院淵というようになりました。後からの評判によると坊主の乱行を怒った若衆たちが暗夜ひそかに投げこ

んだものとのことでした。

この万松院淵というのは八雲橋の下を流れる穴沢の水が多摩川へ落ち合う所で今は砂利原ですが、もとは深淵だったのです。

奥多摩町教育委員会。1989年。万松院淵。奥多摩町誌資料集五 奥多摩町の民俗
— 語彙・遊びとわらべうた・民話 — ，奥多摩町教育委員会

■檜原村

1. 夫婦滝と赤子淵

湯久保で有名な言い伝え話に、夫婦滝ってきれいな滝があるんだね。

その滝の下にね、赤子淵って淵があるの。それがどうして赤子淵っていうかという、安政の不況から明治の初期に、昔はどんどん子どもができてしょうがないで、そいで子どもをもう育てていけないんで、その淵へ持って行って捨てたということで、赤子淵。

今でもね、五月か七月のその時期が来れば、滝の音が子どもの泣き声に聞こえるとかって。

それが、夫婦滝って、まあ立派なきれいな滝が二本並んだ下にあるの。滝は少し太さが違うのが二本、両側に流れているの、だから夫婦滝っていったんでしょう。

高木美保子。1987年。夫婦滝と赤子淵。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

2. 鎌っ淵、姫っ淵、忠兵衛小淵

鎌っ淵、姫っ淵、忠兵衛小淵ってのがあったのがカブヤ沢なの。三つ淵があるカブヤ沢には、そいで、鎌っ淵がいちばん上で、姫っ淵が真ん中で、忠兵衛小淵がいちばん下だったんだって。

1) 鎌っ淵（水ぐも）（その1）

鎌っ淵っていうのはね、そこが一番深いっていうんだけどね。そこのすぐ上でね、あるおじさんがね、炭を焼いていたんだって、窯ついて炭焼をね。

そいで、「今日はおかしな日だなあ、まあしょうがないから」って、木を伐る鎌、鉈を研いでたんだって、鉈を、深いけどこっちの方浅いから、水をつけて鉈を研いでたんだって。

そうすると、いいかげんこのくらいのくもが来たんだって。それで、くもがきて、「おかしな事をするもんだな、おれの足へこう、くもが二つあじ（蚕やくもが出す糸）をひっかけて中へ入っていく。おかしな事をするなあ」って思って、その糸をこう引っ張ったんだって。ところが、「けっこう強いなあ」と思って、すぐそばに大きなね、木の株つがあったから、木の株つが出た枝へこう引っかけたんだって。そいで、こっちの方へ寄って、たばこを吸って見ていたんだって。「もうあの中へ入っていいかげん入ったなあ」と思ったらね、その大きな木をめりめりめり、ばしゃーんって引き込んだんだって。そうしたら、その炭を焼いていた人はびっくりしちゃって、「ああ、ここには何かいるいるっていうけど、本当にありゃあ、きっと、くもは、おれの目で見たんじゃ小さく見えたが、あれはよほど大きなくもだったんだらう。その糸もよほど強い糸だったんだらうな」と思ってね、もうそのお

じさん、それから怖くってね、そこ炭焼くのもやめちゃってね、「もうあそこへは行かない」ってね、行かなかったんだよ。

高木美保子. 1987年. 夫婦滝と赤子淵. 語りによる日本の民話 6 檜原の民話, 株式会社国土社

(その2)

檜原村の倉掛にカブヤ沢というところがある。そこには、淵が三つあって、中でも一番深い淵を鎌っ淵といった。

昼でもうっそうとしたそのあたりは、ちょっと気味の悪いところだった。

ある日、その淵のちかくに住む炭焼きのおじさんが、仕事に使う鎌となたを研ごうと、淵に出かけた。水辺の岩に越しをおろし、鎌を研ぎはじめたが、ふと気がつくと、小さくもが水から出たり入ったりしている。

「いったい、なにをしているんだろう」

炭焼きは、研ぐ手を休めて、くもを見ていた。

すると、くもは、炭焼きの足の親指に、なにやら糸のようなものをかけては、水に入っていく。また出てきては、糸をかけていく。

「おかしいことをするもんだ」

そう思いながら見ていると、見る間に糸はいく重にもなっていた。

ちょっと引っぱってみると、水の中からずいぶん強く引いているのがわかった。そこで、炭焼きは自分の足の指から束になった糸をはずすと、水辺にあった木の枝にひょいとかけた。

と、そのとたん、メリメリ、パッシャーン、大きな木が根こそぎ、その淵に引き込まれてしまった。

「ああ、ほんとうは、おれが引き込まれるところだった」

炭焼きは肝を冷やして、しばらくの間、寝込んでしまった。そして、もう二度と鎌っ淵には近づかなかったって。

高津美保子. 1992年. 鎌っ淵の水ぐも. たましん歴史・美術館, 多摩のあゆみ 第67号, 91頁-92頁,
(財) たましん地域文化財団

2) 姫っ淵

姫っ淵っていうのは、まあ昔、お嫁さんに行って姑にいじめられたり、家へは帰ることができなかったり、いろんな悩みがあって、そして困ると、その淵が大きかったから、そこへ飛び込んでよく女の人が死んだんだって。(お姫さまがお嫁に行くのをいやがり身を投げたから姫っ淵、という説もある)

だからね、昼間、こう霧雨でもそっと降ったりする時にね、また雨が降って止んでいい陽がさすでしょ、そうするとその平らな岩があるんだって。その平らな岩の上へ出てね、女の人がこうかっぶかしたり(荒くとかしたり)、とかしたりする後ろ姿が見えるんだって。

その時、そこへ寄って言葉をかけようと思うとね、その淵の中へぼちゃーんに入るんだって。よく、

そういうふうに見えたんだけど、目に見ただけで、口はきいた事がないってことをよくいったね。
今はだいふ埋まっちゃって浅くなってるけど、昔はすごく深い淵だったの。向こうの方の川をずう
っと登っていくのよ。

高木美保子。1987年。姫っ淵。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

3) 忠兵衛小淵^{註1}

忠兵衛小淵っていうのは、そこで忠兵衛っていう人がね、そこで死んだの。それで忠兵衛淵ってい
うんだけど、どういうわけで死んでのか聞いてないのね。

ただ、「一家心中したんだってよ」って聞いたんだけど、「何が原因で心中したのかっていうのは、
お前たちには、子どもだから、その意味は教えないよ」って、大人は知ってたんでしょけど。

註1：忠兵衛小淵＝忠兵衛という人がききんの時に子どもを養えなくなり淵に捨てたのでこう名がつ
いたともいわれる。

高木美保子。1987年。姫っ淵。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

3. みかごの滝

むかし、下川苔と上川苔のさかいにあるみかごに仲の良い夫婦が住んでいたとき。

おくさんの名はお菊。だんなさんの名は、左衛門、まずしいながら二人はせっせと毎日働いたいたと
さ。

ある年の冬、とっても寒い日が続いたと。

「寒いネー。」

「じゃあ、ちょっくらまきをもってくるべー。」

お菊が裏へ行ってみると、なんとまきが一本もなかったと。

「あんた、もうまきが一本もないよ。」

お菊が左衛門にいうと、

「よし、ちょっくら木を切ってくらー。」

お菊がなたをもってくると、

「じゃあ、いってくんぞ。」

と言って、出て行ったと。

冬の山はとっても寒かったんだと。

「ハーハー 寒いのに。」

左衛門はとっても寒くて手がかじかんでいたんだとき。

それでな、手をすべらせて滝になたをおとってしまったんだと。

「あっ、これはこまった。」

「しょうがない。とってこよう。」

「しょうがない。とってこよう。」

「よろしくぞ、えい。」

と言ったかと思うと、その姿はもう見えなかったそう。

「あなたはないかのう。」

するとそのほうから、なにか音がしてきたんだと。

「何の音だべー。」

よく見ると女の人が機を織っていたそう。

「おまえさんは。」

と左衛門がたずねると、女はこう、こたえたとな。

「はい、私はこの滝の奥に住むおと姫です。」

と、女はこたえたと。そして左衛門になたを、わたしてくれたと。

女は、まあ、せっかくきたのだから、と、男に進めたとき。

酒が出るやら、ごちそうが出るやら、もう左衛門の見たこともないような、ごちそうも出たんだと。

「どうぞ。めしあがって下さい。」

「そうか、じゃあ。」

と左衛門が手を出そうとしたときだったと。お菊の顔がうかんできたと。

「あっ、お菊にも、もって行っていいかの。」

と左衛門がたずねると。

「はい、どうぞ。」

女は行ってくれたんだと。

「ふう、ごちそうになったのう。じゃあこれでしつれいしますだ。」

左衛門が行って帰ろうとするとな、女が言ったんだと。

「これをもっていきなされ。」

行って、金のくだと金方ぜにをくれたんだと。

そして家へ帰って行ったと。

「いま、帰ったぞ。」

「あんた、心配したよ。」

とお菊がいました。

「お菊みやげがあるぞ。」

といい、さっきもらったものを見せた。

「おまえさん、これは。」

お菊がびっくりしたようにきいたんだと。すると左衛門は今までのことを全部はなしたと。そして、

「お菊、これで不自由なく、くらせるな。」と言ったと。

それから二人はせっせと働いたんだとき。

その後、みかごの滝のおと姫を見たものは、誰もいないそうだ。

みかごの滝。檜原民話集（中学生の手作り創作集）27頁－28頁

■日の出町

1. 於奈淵（おなふち）

むかし、於奈淵は桂岩寺淵（けいがんじぶち）ともいった。水量が多く大きな渦を巻き、水底は岩穴だらけであるので、村人は恐ろしくて、水の深さをはかることさえできないほどであった。

川の兩岸には雑木の繁みがおおいかぶさり昼間でもうす暗く、夜になると、川天狗が出てきて大きな音をたてて飛ぶという。人が川辺にいと、淵のなかから河童が出てきて、なかへ引きずり込んでしまうといわれ、気味悪がってだれも近寄ろうとしなかった。このさびしい淵には古くから悲しい物語が伝えられている。むかし、このあたりは荳（おり）といわれる村であり、ここに於奈（おな）という娘がいた。於奈のお父（とう）とお母（かあ）の三人暮らしの貧しい百姓であった。

天明の頃は、三年間にわたる冷害で、農作物の不作が続いた。その年も八月の土用というのに、雨が降り続き、農作物の被害はかってないほどひどいものであった。平井川の水は日に日に増して、ついには堤堰を根こそぎ流してしまった。

やがて、天候は回復したが、今度は日照りが続き、田圃の水がたちまちかわいてしまい、田畑の作物は、ほとんど実入りを望めなくなった。村はこれまでにない大飢饉になったのである。

於奈の家でも食べ物は少なくなり、心細い日が続くばかりだった。お母はとうとう病気になり、於奈とお父は困り果ててしまった。

お父は畑仕事をしなければならず、於奈はお母の看病をしながら、草鞋や草履を作って売り歩いた。そして、わずかばかりの銭をもらって薬を飲ませていたがお母の病気は悪くなるいっぽうで、とうとう於奈の手厚い看護のかいもなく死んでしまった。

そのうえ、運の悪さは重なるもので、お母を失ったばかりというのに今度はお父がたおれてしまった。於奈は突然のことに、どうしてよいかわからなかった。

しかし、「お父を助けるのはわたししかない」と自分に言いきかせ、村の大尽からお金を借りて医者をもよんだ。薬をのませ、必死に看病したが、お父の病気は、いっこうによくならなかった。

於奈の心配は日に日に増すばかりであった。そして、ついにお父までもが亡くなってしまった。於奈は、あまりの悲しみにとうとう気がふれて狂人となり、おし流された堤跡に立つと淵に身を投げて死んでしまった。そのため、のちのちこの淵を於奈淵と呼ぶようになったという。

於奈淵。日の出町史 文化財編

■福生市

1. 長者堀

昔、熊川に長者堀という堀があった。その昔、長者がいて堀をつくって多摩川の水を引き入れて、松

原（拝島駅南あたり）の長者屋敷まで水を引いたと言われている。ちょうどこの辺の長者山（林）といわれたモヤイ山もある。長者堀の多摩川の水の取り入れ口は、鍋ヶ谷戸の森田栄太郎さんの屋敷のハケから、と伝えられている。

「昔は今と違って多摩川は、うんと高かっただよ（水位のこと）」と明治初年生まれのおじいさんたちは、よく言っていた。

天保生まれのおばあさんも（鍋ヶ谷戸）「おらがハケで、大水の時は、ひしゃくで川の水が汲めたよ」と言っていたそうだ。「森田さんのハケからは、今はとても水が入らないようだが、ずっと昔のことだから、水が引けたんだろうね」

水位の低くなった多摩川からは、今は無理なことだと思われるが、昔は多分このような話からもとり入れられたのでしょう。

注：下草村熊川両村，論所分見野帳（嘉永五年，石川彌八郎家文書）には「…但清右衛門屋敷先当時長者堀口也」とある。清右衛門屋敷は旧森田製糸にあたり現在の森田栄太郎氏屋敷になる。

福生市史編さん委員会。1991年。長者堀。福生市史資料編 民俗下，東京都福生市

2. 長 沢

神明社のあたりは湧水が多く、川になって南方に流れていた。水源に薬師堂があったことから、堂川とよばれた。

神明社のあたりは、ナカ（奈賀）といわれていたので、ナカのサワ（沢は湧水の流れ）であり、これが長沢になったという。神明社の西には、ウエデモト（上出本）、シモデモト（下出本）という家名を持つ家もある。

福生市史編さん委員会。1991年。長沢。福生市史資料編 民俗下，東京都福生市

3. ドウドウ（熊川地区）

熊川団地の南・伊奈道を行くと拝島段丘のハケがあり、玉川上水の分水の一つである熊川分水が多摩の河原へ余水を落としている。ドウドウと滝のように音を響かせて流れ落ちる水音がそのまま地名になった。現在はコンクリートの溝の中を通過して吐口から落ちているが水量は少なく昔の勢いはない。

福生市史編さん委員会。1991年。ドウドウ。福生市史資料編民俗下，東京都福生市

4. 水喰土（熊川地区）

拝島駅付近の西側一帯を水喰土という。玉川上水の開削が行われた時、福生から掘り始めて水を流したが、水がすべて地中のみ込まれてしまったために生まれた地名だと伝えられている。

福生市史編さん委員会。1991年。水喰土。福生市史資料編民俗下，東京都福生市

5. 熊川と小川（その1）

昔、多摩川に大水が出て、奥多摩の山の方から、一頭の熊が流されてきました。熊は一生けんめい泳いだが「このままではオレは死んじゃう」と必死でした。右のはずれに小さな島がありました。熊は「これは助かった」とはい上がり「ああよかった、よかった」とよろこびました。その時、熊の頭が、こっちをむいていたから「熊川」となって、シッポが向いていた方が「尾川（小川）」になったんです。

注：このお話は、熊川の高水茂一氏から聞いたものです。高水さんの話では、大正五年に熊川神社の境内にあった小学校の入学して、四年生の時のこと。雨が降るとせまくて体操ができないので、いつも先生が話し方の時間にした。順番がまわってきたので、教壇に上がって自分で考えた話をみんなに話した。この時の話が「熊川と小川」のとのことでした。

福生市史編さん委員会。1991年。熊川と小川。福生市史資料編民俗下、東京都福生市

（その2）

熊川の向こう側（多摩川をはさんで）は、小川だよ、昔、大水が出て大きな熊が流れてきてね。この熊をつかまえて、引っぱりっこをしたんだって、「オラのほうだ」「オラのほうだ」と引っぱりっこをして、熊は切れちゃったんだね。このさわぎで熊の頭をとった方は、熊川だ。しっぽをとった方は尾川（小川）っていうようになったんだって。

福生市史編さん委員会。1991年。熊川と小川。福生市史資料編民俗下、東京都福生市

■日野市

1. 大名淵

浅川の平山橋の北西岸の丘にそって、深くえぐられた崖があり、その下を流れる水は、深くよどんでいて、底知れぬほど青々と澄んでいました。この辺り一帯は昔から大名淵と呼ばれ、昔、この地に住んでいた平山氏という武士の屋敷があった跡だそうです。そして、この淵に石などを投げ入れたりすればたちまちたたきを受けると言われていました。

さて、若宮八幡宮の前に九郎兵衛という金貸しが住んでいました。たいへん欲ばりな男で、貸した金はなにがなんでも取りたてて、返せないとわかると、病人の布団であろうが、赤ん坊の服であろうがはぎ取ってしまう情け知らずでした。

ある時、平山まで金の取り立てに行った帰りのことです。大名淵のあたりまで来た時、九郎兵衛の足元に、赤くかわいい子犬がじゃれついてきました。あんまりじゃれつくものですから九郎兵衛は

「このやろう。」

といって、子犬をたたき殺し、大名淵に投げ込んでしまったのです。

その夜のことで、九郎兵衛の家は火事になりすべてが灰になってしまいました。何とか逃げ出した九郎兵衛が見たものは、炎の中を駆けまわる赤い犬の群れでした。村人たちは、大名淵のたたきだとい

って、それから大名淵には物を投げ込まないようにしたそうです。

大名淵。日野の昔話、

■武蔵村山市

1. 蛇堀川

昔、残堀川の源ンなってる池尻（狭山池・瑞穂町）でよう。土地の百姓次右衛門ちゅう男が、草刈りイしてえて、あんまり暑いで、池に飛び込んで、水浴びしたァだァと。

スンとよう。いきなり小ッチェ蛇が次右衛門の腕に、噛みつきやがったァだァよ。引っ張ったケンドよう、どうしても離れねえンで、気丈な次右衛門は、逆に蛇に噛み付いて殺しちゃったァだァよ。

スンとよう、空が急に曇ってきて、蛇はみるみる大蛇ンになって、池の底に沈んだァケンド、大蛇ン血は川ンになって、七日七晩流れ続けたンだァと。

コン時出来た川を、みんなは蛇堀川ッて呼んでたァが、いつの間にかになまって、残堀川になっちゃったァだァとよう。

※狭山池は、筥の池とも呼ばれ、平安時代の歌集に詠まれたほど、世に知られた大きな池であった。残堀川は、昭和三十六年頃まで、村山大島紬になる生糸を、藍色に染め、それをすすぐきれいな川であった。改修され、新残堀橋の少し上流の河岸に、蛇堀川由来の碑が建立されている。

成迫政則。1992年。蛇堀川。たましん歴史・美術館、多摩のあゆみ 第67号、55頁－56頁、
(財)たましん地域文化財団

■調布市

1. 広福長者の布づくり

多摩川の近辺には、調布をはじめ、布田(布多)、染地、府中市の染屋など、布づくりとかかわりを思わせる地名がみられます。『万葉集』にも、「多摩川にさらす手作りさらさらに何ぞこの児のここだ愛しき」と詠まれたように、その昔、多摩川の清流で布をさらしていました。調布という地名の起りは、古代の税制である「調」として朝廷に納める、手作りの布を織った土地という言い伝えによるもの、といわれます。

その昔、多摩川の洪水のため、現在地に移った布多天神社の「縁起」には、地名のいわれを説く次のような話が載っています。

桓武天皇の延暦十八年、木綿の実が初めて渡来したが、布につくることを知る者はいなかった。そのころ、多摩川のほとりに、近国に名を知られた、菅原氏にゆかりのある広福長者という者があった。長者は天神の社に七昼夜参籠して、ふしぎなことに神のお告げを受け、布をつくる方法を知ることができた。そこで、多摩川に布をさらしてととのえ、これを朝廷に奉った。これが、わが国の木綿の初めということだ。

帝は、たいそうお喜びになり、その布を「調布」と名づけられた。それより、このあたりを、武州調

布の里というようになった。

中島恵子. 1992年. 広福長者の布づくり. たましん歴史・美術館, 多摩のあゆ第67号, 29頁,
(財) たましん地域文化財団

■八王子市

1. ひんまわし

上恩方村の狐塚のはずれの曲がり道を, “ひんまわし” と呼ばっておる。

天慶の乱のとき, 平将門さまの臣で, 草木兵部という武将が, 一族を率いて, 主君の軍に, 馳せ参じようとやってきた。ところが, 「すでに, 主家滅亡 — .」の悲しい知らせを受けた。

「残念無念, 天は, われらにお味方くださらなかったか。」

兵部は, 憾み, かつ悲しみ, やむなく馬をひきまわして, 引き返していったそうじゃ。

それから, この地を“ひんまわし”と呼ぶようになった。そして, そのとき, 兵部が戦をあきらめて, 大槍を「エイッ!」と淵へ投げ込んでしまったことからこの淵を, “槍小淵”と呼ぶようになったそうじゃ。

この辺は, いまも草木一族の無念の思いがこもっておるから, 油断なく通るがいいぞ。

菊池 正. 1992年. ひんまわし. たましん歴史・美術館, 多摩のあゆみ 第67号, 17頁,
(財) たましん地域文化財団

2. 黒髪淵

湯殿川が浅川に流れ込む長沼村の淀みを, 黒髪淵とか, おじょうが淵と呼んでおる。

殿ヶ谷戸に居を構えた平山一族の武将・西長沼氏の姫が, 稲城館の東長沼の若君と, 恋仲になられたそうじゃ。

ところが, 両長沼氏は同族ながら, そりゃ, 犬猿以上の仲の悪さじゃったと, お二人は, ひそかに相会うておられたが, 告げ口をするもんがおって, 仲を引き裂かれてしまわれた。しかも, にわか合戦で, 東長沼氏の若君は, 武運つたなく討ち死になされたそうじゃ。

嘆きの姫は, 若君のあとを追って, この淵に身を投げられた。

さて, その後のこと……, 長い黒髪の姫が, くしけずる姿が現われ, それを見たもんは, 奇病にかかるとか, この淵で泳ぐと, 髪がからんで溺れるとか, 恐れ淵といわれた。

菊池 正. 1992年. 黒髪淵. たましん歴史・美術館, 多摩のあゆみ第67号, 18頁-19頁
(財) たましん地域文化財団

II 川に生息する動物および化け物などの由来や行動に関するもの

■奥多摩の昔話

1. 岩魚の精（その1）

川乗谷にある聖の大滝はまっ白な石灰岩の肌もあらわに二段に落ち、深いつぼは釜となり、水はうず巻き、それはものすごい景観です。

明治も中ごろのこと、この滝の上流にそまつな小屋があり、山仕事の人夫たちが泊まっていました。明日は山を下ると夕方、「あの滝の淵へくすりをまきゃあ、岩魚がごてはちとれんべな」人夫の一人がこういって「いっちょうやってんべえか」「やってんべえ」と皆口をそろえていました。

その時、どこからともなく一人の少年が戸口に現れ、「おじさん、悪さはよした方がいいぞ。むごい殺し方をして岩魚を取るとおそろしいあたりがあるだあぞ」というのです。

「おめえ、どこから来た。日の暮れねえうちに早くけえれよ」こういって、人夫たちは少年に大きなにぎり飯を与えると、「おじさん、ほんとうに悪さしねえでくんろな」と少年はヒョコリと頭を下げると立ち去って行きました。

人夫たちはしばらくの間不思議な思いにとらわれていましたが、「子どものいうことだ。かまやしねえ」と一人がいうと「やっぱり、やってんべえ」とくすりを流してしまいました。

するとたちまち滝壺にたくさんの岩魚が浮き上がり、その中に一匹だけ三尺あまりの大岩魚がありました。

「こいつはすげえや」と早速人夫が岩魚に包丁を入れると、その腹の中から白い飯つぶがギッシリと出てきました。

皆、さっきにぎり飯を与えた少年のことが思い出され、ぞっとする思いでいたところ、だれかれとなくお腹が痛いといいました。

人夫たちは一晩中、痛い痛いと感じ、次の日は病みつかれ、あげた岩魚も投げ出して、ほうほうのていで山を下ったということです。

奥多摩民話の会代表・荒澤弘、1990年、岩魚の精、おくたまの昔話 第1集

（その2）

川乗谷の聖地は純白に近い石灰岩の肌もあらわに二段落ち、深い滝壺は大きな釜となって水は渦巻きものすごいような環境で、昔子聖権現さまが修業した所とも伝えます。

明治も中ごろの話です。この滝の近くの上流に人夫小屋があって七八人の人夫が泊まりがけで山仕事をしていました。いよいよ明日は下山という夕方、早い夕食を取りながら、誰いうことなく「この淵へちとんべえ薬をまいたら魚がごてはち捕れるだろうなあ」といいました。[いっちょうやって見るか]「やってんべえ」ということになりました。そのとき、どこからともなく現われた少年が門口に立って「おじさんたち、悪いことはよした方がいいぞ、むごい殺生をするときと恐ろしい祟りがあるよ」と哀願するので一同もその気になり、「おめえこんなにおそくどこから来た、日の暮れねえうちに

早くけえれよ」といって大きな握り飯を与えると少年は喜んでそれを受取り、「じゃあ、おじさんたち、ほんとにわるさあしねえでくろろ」と念を押して姿を消していきました。

一同も不思議な気持ちになったのですが、そのうちの一人が「かまあねえでやってんべえ、きつとすごいほど捕れるぞ」といいだすと一同は再びその気になり、小屋の前から毒を流すと忽ち滝壺の中から夥しい岩魚が浮かびあがりました。みんな大喜びですくいあげましたがその中に一匹、三尺余りの大岩魚があり、これはすごいと腹に包丁を入れるとこれは不思議、その腹の中から白い飯粒が一ぱい出て来たのです。

一同は最前、少年に与えた握り飯のことが思いうかべられ無気味になっているうち、「腹が痛い」といいだし全員が腹痛を起こし一夜中苦しみ通して、翌日は病みつかれ、ほうほうのていで帰宅したとのことです。

いうまでもなく、彼の少年は大岩魚の精だったのでしょ。

奥多摩町教育委員会。1989年。岩魚の精。奥多摩町誌資料集五 奥多摩町の民俗 ― 語彙・遊びとわらべうた・民話 ― ，奥多摩町教育委員会

2. 龍巖淵

昔、丹波（たば）の東のはずれに岬と呼ばれた所がありました。

丹波川の流れがその岬まで来ると深くうず巻き、うす気味悪い淵となりました。そこは龍巖淵といわれていました。

淵のすぐ上の家に、ひめという名の一人娘がおりました。

両親に大事に育てられたひめは、それは気立てのやさしい娘でした。

ある日、若い男が訪ねて来て、「ぜひ、ひめを嫁にください」と頼みました。

男はどこ生まれでどこから来たのか何もいわず、日暮れになると黙って帰りました。

また、あくる日も同じように訪ねて来ては、「ひめを嫁にほしい」というばかりでした。

その男が歩くとザワザワという小さな音がしました。

不思議に思った両親は、そっとその男のあとをつけて行きました。

するとどうでしょう。

男は大きな白蛇となって淵の中へ消えて行くではありませんか。

腰をぬかさばかりに驚いた両親は、「このままではひめは殺されるかもしれない」と思いました。

思案の末、泣く泣くかわいい娘をはた織り奉公に出しました。

たがいに、今ごろはどうしているだろうかと思ひ出しては、涙する日が続きました。

その涙がかれるころ、ひめはやっと奉公を終え、岬に帰ってきました。

やがて、ひめは嫁ぎ先も決まり、明日は嫁に行く日となりました。しかし、その夜突然、原因不明の熱を出して苦しみながら死んでしまいました。

両親はなげき悲しみ、淵がよく見える所に墓を建て、そばにひめが好きだった椿の木を植えました。

あくる日、墓に行ってみると大きな白蛇が椿に巻きついて死んでいました。両親は、白蛇をひめの墓の隣に埋めて、その霊をとむらってやりました。毎年、冬も終わり、名残雪が降るころ、その椿はまっ赤な花をつけました。やがて、春の花々が咲き始めるころ、その椿の花はポタリと深い淵のうずの中へ姿を消していったそうです。

奥多摩民話の会 代表・荒澤 弘、1990年。龍巖淵。おくたまの昔話 第3集

■檜原村

1. ほうしの玉

大蛇が娘のところに来るといのは、大きな湖水だか池だかがあったんだね。そこにしょっちゅう、夏になると涼みにみんな行くらしいんだね。ある人が、若い人が涼みに行って笛を吹いていたらしいんだね。

そこへいい娘さんが出てきて、「お兄ちゃん、笛を聞かしてもらってうれしかった。あの、実は今夜の十時ごろ、ここへ来て、このほうしの玉持ってきて、こいつは池荒れるから、その時に投げこんでくれ」ということで、ほうしの玉、預けたらしいんだ。

そしたら、その人がまだ若かりしころだから、十時になったら行ったらしいんだね。そしたところが、すごくすごく池がこう、もだえてきたらしいだ。そいで、そうしているうちに、蛇の姿まで見えたらしいんだね。それで、びっくりして、ほうしの玉投げこむの忘れちまってね。投げこめなかったらしいんだね。

そいで家へもって帰って、今でも宝物になっているって話だ。

それは雄蛇が通ってくるんだけど、雌蛇が嫌ってたらしいんだ。それでもって、今夜くれば食いつかれちゃう。

たしかにほうしの玉投げこもうかなと思った時、その水が真っ赤になっちゃったっていうんだね。それでびっくりして放りこめなかったって。

それで次の日行ったところがね、大蛇が、死んで浮いていたって、雌蛇の方だわね。

高津美保子、1987年。ほうしの玉。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

2. 沸沢の滝の大蛇

山かがしの千年も二千年も経った大きい蛇がいたですよ。それが、人間にもなれば何にもなる。いろいろなものになる。そういう話がありますよ。

沸沢の滝の淵の下に、千年も二千年も生きているって。

高津美保子、1987年。沸沢の滝の大蛇。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

3. 川うそ

子どものうち、日が暮れかかったら、早く家へ入れっていわれた。夜になると川うそが尻をぬいちまうと。

家に、今でもあるかもしれないけど、川うその手っていうのがあったね。

今の、河童みたいなもんでしょ。

高津美保子。1987年。川うそ。語りによる日本の民話 6 檜原の民話、株式会社国土社

4. 八割沢のかっぱ

むかし、東京のかたすみ、檜原と言う村がありました。この村は北と南の谷にわかれていてその北の谷の方に白倉という部落がありました。この部落に、彦衛門という釣りの好きな力持ちの男が住んでいました。

近くを流れる八割沢には、山女魚がとでもたくさんいました。彦衛門は、毎日のようにこの沢へ行っては山女魚を釣ってとなりの五日市へ行き、売っていました。

今日もまたいつものように沢へ出かけました。

「よし、今日は穴場へ行ってうんととるべえか」などと言いながら、釣り始めました。

しかしいつもは、えさを入れたらすぐにかかるはずなのに、いくらまっても全然釣れません。

「おかしいな。よっしゃ、場所をかえてみるべ。」しかしここもたったの一匹だけでさっぱり釣れません。

「しかたねえ、家さ帰ってでなおすべ。」

しかし次の日もまったくだめです。

「こりゃおかしい。いっちょ明日調べてみんべえ。」

次の日、彦衛門は、沢をどんどん上がって行きました。すると大石の所に、つのがはえたカッパが昼寝をしていました。その近くには食べちらかした山女魚のホネが山になっていました。

「こら。おまえだべ。山女魚を食い荒しているのは。」

「ん、なんだ、おめえは。」

「おらあ彦衛門ちゅうだ。おめえのために魚がとれねえ。さっさとこの沢から出ていけ。」

「なんだと。出てってたまるか。」

「力づくでもおい出してやる。」

「なに、そんなら明日の午後三時、ここでまっとるから、こい！ 決闘だ！」

「よし、わかった。明日三時だな。」

彦衛門は、さっそく家に帰り、なにやら作りはじめました。

次の日、とうとう三時になりました。

「おそいぞ、人間!!」

「うるせえ！ いくで。」

と言って、彦衛門は太い釣り糸をあんて釣り針をいっぱいつけたのを、カッパに投げつけました。糸は

カッパの体にからまり、針はそこらじゅうにささり、カッパは苦しんで、もがいていました。でもカッパも負けません。負けじと、糸を切っています。彦衛門は

「やばい」

と言って、腰につるしてあったナタでカッパにおそいかかりました。カッパはあわててさっとにげましたが、ナタがつのにあたってしまいました。

「ギエー。」

つのがとれて、体の血が全部ぬけてしまいました。そしてカッパはべっしょんこになってしまいました。

「やった。勝ったぞ。」

彦衛門は大よろこびです。

それからは、またこの沢にはもとのように山女魚がうんといろようになります。彦衛門もシカと言うよめをもらい、平和にくらししました。

小林和弘。八割沢のかっぱ。檜原民話集中学生の手づくり創作集

5. 天狗と滝跳び

天狗のいるところもあるんですってねえ。

昔、あんげでなあ、子どもが栗拾いに行っってね、いなくなっちゃったの。捜しても捜してもいないんだって。

そいで一週間ぐらいね、そいで見つけて、滝にいた。家の親戚の人だったからわかったんだけど。その子がね、「この滝、跳べ」といわれて跳んだんだって、その高い滝を。

その下にいたけど、じきには見っからなくて、一週間見っからなかったって滝を三つも跳ばせられただっ。それで怪我がなかったってね、ちっとも。だから、魔の物っというからね、天狗さま。

(茗荷平の木原コマさんに聞く)

高津美保子。1987年。天狗と滝跳び。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

■日の出町

1. シジミものがたり

むかし、平井川の近くに、意地の悪いばあさんが住んでいた。その隣には、心のやさしい母と娘が住んでいた。

娘の母親は、眼が悪く、そのうえ病弱であったので、娘は家のことばかりでなく、母親の世話にも心を尽くし、近所の評判であった。娘は隣のばあさんのところへ仕事の手伝いに行き、わずかばかりの食べ物をもって帰るような毎日であったので、母親を医者に見せる余裕もなかった。

あるとき、母親の眼病にシジミがよくきくと聞かされた。そこで、娘は、なんとか母親にシジミを食べさせてやろうと思い、隣のばあさんにお金を貸してほしいと頼んだが、断わられてしまった。それで

も、娘はくじけず、お金をためて母親にシジミを食べさせ、医者に治療してもらおうと決心した。

それからというもの、自分は食べるものもろくに食べず、壺のなかにお金をためはじめた。こうして、お金がたまり、娘はあすこそ、母親を町の医者に見せようと、このことを隣のばあさんに話し、仕事を休ませてもらうことにした。

しかし、その晩、母親の病気が急に悪くなり、すぐに亡くなってしまった。そして、娘も悲しみと看病疲れのため、母親を追うようにして亡くなってしまった。意地の悪いばあさんは、娘が亡くなるとすぐに、娘が必死の思いでためたお金の壺を盗み出し、「ほとぼりがさめるまでは」と、自分の庭のかたすみに穴を掘って埋めた。

その晩、はげしい雨が降り、翌日の朝、ばあさんは心配で埋めた壺を見に行った。すると、そこからは泉がわき出ている、つばのなかのお金は、みるみるシジミに変わってしまった。

そして、このシジミはつぎつぎと繁殖し、平井川にもシジミがいるようになったという。

シジミものがたり、日の出町史 文化財編

2. 平井川の天狗

ある男がいつものように投網と提灯を持って、「天神欠（てんじんばけ）」の下を流れる平井川へ火漁（ひぶり）に出かけた。夜の十一時もなかばを過ぎたころだった。尾崎の民家の前を通ると、一度寝て起きた子どもに小便をさせようとして、雨戸が半分開けられ、母親が子どもをあやしていた。「こんばんわ」と声をかけ、東平井橋を渡って橋端を川岸へと降りて行った。

土手の榎の影が川面にぼーとうつっていた。川下の淵を探して、水際を歩いていると「ビシャッ」と大きな音が聞こえた。それは大石が川に投げこまれたような音であった。

男はびっくりした後ろを振り返ってみたが、なにも変わったようすがなかった。さっきの民家で雨戸をしめる音にしては時間がたっているし、川向こうの民家はまっ暗でシーンとしているのではないか。

だんだんいぶかしく思い、背筋が寒くなったとたん、頭の上に浴びせかけられるような割れんばかりの大声が「ガラガラ」と聞こえた。それは大きな笑い声のようでもあった。

「これはいけねえ。川天狗だ。くわばらくわばら」

灯火（あかり）も投網も草むらに投げ出して、やっとの思いで家に帰った。戸を閉めるまでは、なんだかわけもわからず夢中であった。

川天狗は確かにいるものと、今でも信じている人がいるという。

平井川の天狗。日の出町史 文化財編

3. あずき洗い

平井の谷ノ入には、三つの沢があり、それぞれにおばけの話が伝わっている。その一つとして、一番西の沢には「あずき洗い」というお化けがいて、若者が夜遊びの帰りに、恐ろしい思いをしたという。

むかし、旧家の娘が毎日、沢におりて洗い物をしていた。そのうちにある若者を恋するようになり、

この沢が二人の出会いの場となった。やがて、家の者がこれに気づき、娘が沢におりることを禁じた。外出するにしても、きびしい目を向けるようになった。

二カ月、三カ月と過ぎ、秋祭りのころになった。娘の心は、若者を慕う思いでいっぱいであった。とうとうお祭りの前夜、娘は赤飯の小豆を洗うと言って、沢へおりて行った。そこにはもちろん若者が待っていた。

二人は夢のような世界にひたりつつ、沢を上流へと歩いていった。いつまでたっても娘が帰ってこないで、家の者は不審に思い、近所の人々に頼んで、夜が明けるまで沢の奥のほうまでさがしてもらった。しかし、娘の姿はどこにも見当たらなかった。

その後、夜遊びにいった若者が沢を通るとその下から「ザラッ、ザラッ」と小豆を洗うような音が聞こえるので、これを恐れたという。

人々は、娘の恨みが小豆洗いの音となって聞こえるのだと、噂するようになった。

また、娘が恋した若者は、熊沢にするムジナの化身であったとも伝えられている。

あずき洗い。日の出町史 文化財編

■青 梅 市

1. 河童の話

川へ行ったら大きな魚の形をしてきて、そいつを取りあげようとしたら、その河童にくわいこまれて中へ入って命をとられた。

河童というものは魔物でおっかねえものだ。

青梅市緊急民俗資料調査団。1988年。河童の話。青梅市の民俗 第2分冊、青梅市教育委員会

2. 狐に化かされた話

兄弟でね、大降りの日に、雨が降るとようつれるっていうので川へ行ったらね、夕方いくぢゃねえって言われのに行ったらね、とてもへんになっちゃってね、そうしてうちへ帰ってきたら、どうも帰り道がわからなくなっちゃってね、それで、うちのものが心配してみつけたら、ようよう来たと思ったらぬれびしょになってきて、そうして、なんだかうちの中へ入らないで飛びだしちゃって、どっちのほうだか行ってね、そのめいじろうさんっていう人がね、うちの中へ入らないでとてもへんな態度をとってまったく大変だったからね、こりゃあ狐に化かされたからほうろくかぶせたとかいてね、ほうろくを頭にかぶせれば直るとか言って、ほうろくを頭にかぶせて、そうしたら、だんだん気が落ちついてきた。

青梅市緊急民俗資料調査団。1988年。狐に化かされた話。青梅市の民俗第2分冊青梅市教育委員会

3. 河天狗の話

たくさんの魚をとって、うしろのほうでバシャバシャって大きな音がするからって、うしろを見てい

ると、びくの魚を全部とられちゃった。

青梅市緊急民俗資料調査団. 1988年. 河童の話. 青梅市の民俗第2分冊, 青梅市教育委員会

■福生市

1. 狐火

大正の頃は小河内ダムもなかったの、多摩川は水量が今よりずっと多かった。川向こうも、田んぼがあるだけで、人家も今ほどはなく、よく見わたすことができた。十五歳の時だったか、川向こうの花の岡、折立の辺に確かに狐火を見た。暗闇の中、灯りがついたり消えたり、横にポツポツと一列に見えた。話には聞いていたが、はっきりと一度だけ見た。季節は梅雨前だった。縁側に腰かけて川向こうに目をやって、たしかに見た。

狐は春の季節になるとサカリが付き、一、二匹のメス狐に、十匹位のオス狐が群がり、目玉が光り灯りのように見えるということだ。

福生市史編さん委員会. 1991年. 狐火. 福生市史資料編民俗下, 東京都福生市

2. 釣れたはずの魚

釣りの好きな、おじさんがいつものように、多摩川へ魚釣りに出掛けました。その日は、ばかにたくさん釣れたので、うれしくなって夕方まで、バケツ一ぱい魚を釣りました。いざ、家へ帰ろうと思って、振り向いてバケツの中を見たら、あんなにたくさん釣れたはずの魚が、驚いたことに一匹も、いないんです。

それから「魚がたくさん釣れた時は、人にくれなさい」という言い伝えがあるんだそうです。

福生市史編さん委員会. 1991年. 釣れたはずの魚. 福生市史資料編 民俗下, 東京都福生市

3. 堂川とオババドジョー

長沢の集落の西北に、杉の木立に囲まれた大きな森があります。そう、神明様の森ですね。薬師様の森ともいっていました。この森の西にきれいな水が、こんこんとわき出ている湧水がありました。湧水は長沢の沢をつくり、小さな川となって南に流れていきました。薬師堂のあたりが源だったからでしょうか。堂川といいました。

この堂川に「オババドジョー」がいました。

なぜ、オババドジョーかって？

「だってオババみたいなんだよナ、普通のドジョーより頭がでっかくて、ずんぐりしていて、頭から背中にゼネ（銭）型の斑がついているんだよ。川の底の砂にもぐっていると、全くわからないんだよナ。そうだ、ドジョーひげもはえていた。子供達は、オババをみつけた、なんて喜んだ」

今は堂川もなくなって、オババはどこかで生きのびているのでしょうか、オババと遊んだ昔の子供は、ふと思い出すのです。

4. 天狗にさらわれた話（その1）

コンピラ山の所に、かかえきれない程の大きなエノキの木があった。今はもうなくなっているが、川（多摩川）で遊んで、暗くなってしまったので急ぎ足で、この木の下を通る子供がいた。「ああ、すっかり暗くなっちゃったナ」と思いながら、新堀橋の所へきた。新堀橋はやっと手グルマが通るくらいのせまい橋だった。するとポチャーンと石を投げた音が聞こえた。「あんだんべ あにか いべえか へんだナ」と思っていると、でっかい羽みたいのがきて、かっさらって、あっという間にどこかへつれてゆかれた。つれてゆかれた所はさきのコンピラ山のエノキの木の上だった。

家ではいつまでたっても子供が帰ってこないで、騒ぎ出した。父親は川原にも行ってみたがいない。近所の人も心配して集まってきて、あちこちさがした。「お掘り（上水）に流されたのかもしねえ」といって、熊川村の上水の水番の方まで行って聞いたりした。

「マイゴノ マイゴノ ○○ヤーイ」と声をそろえて叫んで、カナグライをたたいて、さがしに歩いた。弁天山からコンピラ山まで、二手に分かれてさがしたがみつからない。すっかり暗くなって夜になってしまった。とうとうその日は見つからなかった。次の日、東の空が白むのをまって、外に出てみたら、自分の家の木の上に子供が寝ていた。はしごをかけてやって子供を下ろした。子供はボーッとしていて、ねぼけ顔、やっと目をさましたので、近所の人も集まってどうしたのかと聞くと「ハネみたいな、フルンキみたいなものがでてきて、体がフーッと浮いたと思ったらどこかへ連れてゆかれた。いろいろご馳走がでた。ボタモチもいっぺえでて、食い放題だった。連れていかれた所はいい所だった」と話したそれがコンピラ山のエノキの上だったらしい。

人々は「これは天狗のしわざにちげえねえ」と話した。

それからは暗くなるまで遊んでいると「天狗にさらわれるぞ、早く帰ってこー」と子供たちは言われた。

（喜三郎じいさんの話です）

福生市史編さん委員会。1991年。天狗にさらわれた話。福生市史資料編 民俗下東京都福生市

（その2）

金毘羅山には、かかえきれない程大きなエノキの木があった。多摩川で暗くなるまで遊んでしまって、急ぎ足でこの木の下を通る子供がいた。

「ああすっかり暗くなっちゃったナ」

とひとりごとをいいながら、新堀橋を渡ろうとすると、ポチャーンと、上水（玉川上水）に石を投げる音が聞こえた。

「あんだべ あにかいべえか」

と目をこらして、お掘りの水を見つめていると、でっかい鳥の羽みてえのが来てかっさらわれて、アッというまに連れていかれた。そこは金毘羅山のエノキの上だった。

家ではいつまでたっても子供が帰ってこないで、大騒ぎになった。父親は川原にいったがいない。近所の人でも心配して集まってきて、あちこちさがした 「お掘りに流されたのかもしねえ」と熊川村の上水の水番の方まで行って聞いたりした。

「マイゴノマイゴノ金作ヤーイ」

と声をそろえて叫んで、カナダライを叩いて、さがし歩いた。弁天山から金毘羅山まで二手に分かれて探したが、みつからない。すっかり暗くなって夜も更けてしまったが、帰ってこない。

家の人は東の空が白むのを待って、外に出てみたら、家の木の上に子供が寝ていた。はしごをかけて、やっとおろした。子供はボーッとしていて寝ぼけ顔、ほっぺたを叩いて目をさました。近所の人も集まって

「どうしたんだ金作！」

と聞くと

「ハネみてえな、フルシキみてえなものが出てきて、体がフワッと浮いたと思ったら、どこかへ連れていかれた。ご馳走がいっぺえ出て、ボタモチなんか食い放題だった」と話した。それが金毘羅山のエノキの上だったらしい。

人々は「これは天狗のしわざに、ちげえねえ」と話した。

保坂和子。1992年。天狗にさらわれた話。たましん歴史・美術館、多摩のあゆみ第六十七号
羽村・福生・青梅の昔話と伝説、64頁-65頁、(財)たましん地域文化財団

5. カワジョローが出る

子供のころ、暗くなるまで外で遊んでいると、「カワジョローがでるから、早く帰ってこよう」と母親たちにいわれた。カワジョローは、髪の毛がながーいきれいなおばさんで、「ポー（坊）おいで」と手招きをするのだそうだ。カワジョローにつれていかれたら大変と、子供たちこわがって、みんな日暮になると早く帰った。

カワジョロー（川女郎）は川向こうの十二天の方でる。

福生市史編さん委員会。1991年。カワジョローが出る。福生市史資料編 民俗下、東京都福生市

6. 夜遊び

青年が夜遊びにでかけた。

上水の向こうで、きれいな女の人が「ちょっと」と手招きをする。青年はさそわれるように新掘橋を渡った。渡ると何だか急にわからなくなった。連れていかれた所では、お酒がでたり、ボタモチが出たりして大変歓待された。夜が明けて気がつくと、青年は大きな木の上にいたそうだ。ボタモチは、マグソだったという。

福生市史編さん委員会。1991年。夜遊び。福生市史資料編 民俗下、東京都福生市

7. 永田の河童（カッパ）

長徳寺の下に清水がわいて、その水が多摩川に滝のように流れおちていた。その下は深い淵になっていて、子供が夏、水浴びをすると危ない所だった。よく親に「あそこで泳ぐとカッパに川へひきづりこまれんぞ」といわれた。カッパは頭にお皿があって、…見たことはないがこわかった。

福生市史編さん委員会、1991年、永田の河童、福生市史資料編 民俗下、東京都福生市

8. 消えた妖怪たち

昔は日暮れから夜になっていく頃は、カワレドキといいました。人の顔もさだかではなくなる頃は、マモノという妖怪が出てくる時でした。子供はマモノにねらわれやすかったので、日暮れになると親たちは、子供たちに早く家に帰るようにしつけました。

さて子供たちが恐れた妖怪たちは？

•アズキババア

湧水の流れなどがある水辺に出るマモノ。羽村では間坂の沢の坂にあらわれたという。木の葉の落ちた水辺からザック、ザックというアズキを洗う音がする。アズキババアが、大きなカマザルでアズキを洗っている音である。暗くなっても遊んでいる子がいると、アズキババアは、カマザルに入れてさらっていくと怖がられた。

•一つ目の鬼

二月八日と十二月八日の事八日の夕方に出てくる鬼。この鬼に下駄に判を押されると悪い病気になるといわれ、この日は下駄を早くしまった。一つ目の鬼なので目の多い目籠（メケエ）を軒につるして魔除けとした。

•カクレザットウ（隠れ座頭・隠れ里）

子供たちをさらって、どこか遠くの知らない所へ、連れていってしまうマモノ

•ヨドウサレ

人さらいで悪者。

子供が暗くなるまで遊んでいると、親たちは「ヨドウサレが来るぞ」といい、子供たちが悪いことをすると「ありゃあ、ヨドウサレだよ」などと言った。

•カワジョロー（川女郎）

川で遊んでいると、髪の毛がながーい、きれいなおばさんが「ポー（坊）おいで」と手招きするという。カワジョローは川向こうの十二天の方に出るといわれた。

この他、天狗などもそうです。マモノは暗い闇の中から出てきますから、姿を見た人はありませんでした。年毎に明るくなってきて、マモノもだんだん住みにくくなってきました。文化の明かりは、ついにこれらの妖怪たちの姿を消してしまったのです。
(福生・羽村の聞き書きから)

保坂和子、1992年、消えた妖怪たち。たましん歴史・美術館、多摩のあゆみ第六十七号

羽村・福生・青梅の昔話と伝説、66頁-67頁、(財)たましん地域文化財団

■日野市

1. ウナギに救われた話（四谷の人はウナギを食べない）

今は日野市栄町となったが、昔はその一部に四谷という所があった。多摩川に沿った四谷は、水にめぐまれ、地味も肥え、大昔から人が住んでいた。

ある年この多摩川が氾濫し、大水が出て堤防があぶなくなった。村人は土（ど）のうを積んで一晩中見張っていたが水は増える一方でキケンはいよいよつものばかりであった。そしてついに土手に穴があき、水が洩れ始めた。村人は必死になって穴を埋めようとしたが、もう人間の力ではどうにもならなくなった。その時、どこからともなくウナギの大群が泳ぎつき、その穴へぎっしりと入り込んで水量の減るまでがんばってくれた。四谷の人々はこれこそ、四谷の部落の鎮守様の虚空蔵菩薩がお使いのウナギに命じて四谷村の人々を助けてくれたのだと思った。それ以来四谷村の人々は決してウナギを食べないことにした。今でもかたく守ってウナギを食べない人がいる。四谷の日宮神社の御神体は虚空蔵菩薩であり、その御衣のひれがウナギのようにみえる。それでウナギは虚空蔵菩薩のお使いだと思われて来たようである。

昔は四谷と東光寺にかたまって家があるだけで、八丁田んぼといわれる広い水田の中に四谷の日宮神社と東光寺の神明社の森がどちらもうっそうとして茂り、実に見事な森であった。

*尚、この近所の人たちの話によると、栄町（四谷村）からよその地域に嫁にいった人達もウナギを食べることはしないと知っている。たとえ浜名湖に行ったとしても。

日野史談会。1982年。ウナギに救われた話（四谷の人はウナギを食べない）。

日野史談会、日野の歴史と文化17号 日野の昔話特集号（一）

2. 浅川の大鯉

浅川と多摩川が合流する辺りに、浅川の流れをさかのぼって泳ぐ五尺（約1.5m）もある大鯉がいたそうです。でも誰にも捕らえることはできませんでした。浅川沿いの村々では、

「あれは浅川の主だからつかまえないほうがよかろう。」

といって、そのうち誰も大鯉を捕らえようとはしなくなりました。

ある年のこと、落川村の与五という若者が浅川に網を打ったところ見たこともないくらい大きな鯉がかりました。与五は

「これが噂にきく浅川の主だろう。これほどの大鯉ならば、売れば大金が入る。病気のおっ母さんの薬代もすぐにできるぞ。」

と大喜びで家に帰っておっ母さんに話しました。ところがおっ母さんに

「浅川の主など捕らえてしまって、もし村々に災いでも起こっては申し訳ない、私の薬はいいから放しておやり。」

といわれ、与五は泣く泣く、大鯉を浅川に放しました。そしてもう漁をする気になれず、空のビクを持って家に帰りました。ところが家の前までくると、急にビクを持つ手が重くなりました。見ると、空の

はずのビクに小魚があふれるほど入っていたのです。

与五はそれを売ったお金でお母さんの薬を買うことができました。

その後浅川の大鯉を捕らえたという話は聞かれませんが、今もいるようです時々浅川を悠然と泳いでいるのを見たという人もいますそうです。

浅川の大鯉。日野の昔話

■立川市

1. 川てんぐ

明治のころの話だ。

砂川三番に住む勝五郎じいさんは、たいへんな釣好きでな。

畑仕事を終えると、毎晩のように、多摩川へ夜釣に出かけていった。

そして、はやや、あゆをたくさん釣って帰ってくる。

ある晩のこと、いつものように、福島を渡した（昭島市）で、釣糸をたれていた。その晩は、あいにく星が出ていない暗い晩でな。

「たくさん釣れたし、今夜は早目に帰んべえかな。まっくらで、気味わるい晩だし、雨でも降ってきたら、えらいことだ。」

勝五郎じいさんは、一人ごとをぶつぶついいながら、そろそろ釣りざおをしまおうかと思った。

その時だ。

とつぜん、ボコ、ボコ、ボコボコ、ボコッ、ボコボコ、なにやら、まっくらな水面から、大きな水音が聞こえて来た。

その音は、だんだん大きくなり、まっくらな水面が、大ゆれしているようだった。

おじいさんは、すっかり、おったまげちまって、腰をあげようにも、あげられなくなってしまっただけでな。それでも、こわいもの見たさで、おじいさんは、音のする暗やみをじっとみつめた。

「おお、こりゃ、うわさにきく、川てんぐのしわざにちげえねえ。びくの魚をさらいにきたんだな。」

勝五郎じいさんは、その水面をみつめているあいだに、川てんぐにだまされた人のことを思いだした。川てんぐというのは、川うそのことよ。いたちみてえな奴で、昔はこのあたりにもいて、いたづらをしたもんだ。

おじいさんは、急いで、釣道具をかたづけると、びくをかかえ、やっとの思いで腰をあげ、がくがくふるふる足で、その場を逃げだした。夢中で砂川三番のあたりまで逃げ帰り、やれやれと思った時、とつぜん、八本ばさみのかごくらいある大きな火の玉が、東の空から、おじいさんめがけて飛んでくるではないか。

「うわぁー、助けてくれー」

おじいさんは、信じられないくらい大きな声をだして、助けを求めたが、ひとっこ一人いない場所なので、誰も助けにきてはくれない。地面に身をふせているだけだった。

ところが、あれよ、あれよという間に、火の玉はすぐ目の前の山に落ちこちた。そして落ちると同時に、火の玉は消えちまった。

八本ばさみのかごというのはな、昔、堆肥をつくるための、落葉を入れたかごのことで、大人が何人も入ってしまう、おばけかごのことだ。

勝五郎じいさんは、われに帰ると、これも川てんぐのしわざにちがいないと思ってな、魚のはらわたをとる小刀をとりだし、今度出たら、小刀でさし殺すつもりで身がまえながら、歩きだした。

おじいさんの家の灯が見えるところまできて、ほっとした時だ。

こんどはあたり一面の松林が、ゴオ、ゴオ、と音をたてて揺れ、まるで嵐のようになった。

「こんちきしょう、もう許せねえ」

と、言って、おじいさんは道端にびくを置くと、松林の中へ飛びこんでいった。飛びこんだとたん、音はピタッと止んだ。

勝五郎じいさんは、「やられた」と思ったが、あとのまつり。

おじいさんは、びくの中の獲物をみんなとられ、しょんぼり、家へ帰ったとき

羽生凱哉（池田・小沢・竹内・中山）、1989年、川てんぐ、立川の昔話、立川市教育委員会

2. じゃっくいじえもん

むかし。

みずほ（西多摩郡瑞穂町）に、じえもんという人がいました。

ある日山へ草刈りに行きましたがあまり暑いので、近くの狭山ガ池にとびこんで、水あびをしました。すると、どこからか、大じゃが現れてじえもんをぐるぐるまきにまいてしまいました。

じえもんはおどろいて、大じゃのどうなかを、口でくいちぎって逃げてきました。

くいちぎられた大じゃから、三日三晩血が流れて、川になりました。

人々はその川を、「じゃぼり川」と呼びました。

「じゃぼり川」という名がなまって、いつのころからか、「残堀川」と呼ばれるようになったといわれています。

小沢長治（池田・竹内・中山・羽生）、1989年、川てんぐ、立川の昔話、立川市教育委員会

3. むこうぼり

まだ、立川飛行場がなかったころ、あのあたりは、くぬぎ、なら、はんの木などがおいしげる雑木林でな。その雑木林の中には、「むこうぼり」という東西に流れる小川があった。むこうぼりには、沢がながたくさんいて、砂川の子もはよくとりにいったもんだ。おらぁ、もちろん、よくとりにいったよ。

ある時、あんまり沢がながとれるもんで、夢中になりすぎていたんだな。

気づいてみたら、あたりにゃ、誰もいねえ。

「おーい おーい 皆、どこにいるんだ！」

おらぁ、ありったけの声をだして叫んだんだ。しかし、返事はどこからも帰ってこねえ。あたりは、夕暮れで暗くなってくるし、どっちが帰る方角なのか、さっぱりわかんねえ。おらぁはとうとう、大声で泣きだしてしまった。だが、誰も助けにきてくれるわけもねえし、ベソをかきながら、自分で「あっちが北の方角」と勝手に決めると、とぼとぼ歩きだしたんだ。行けども行けども、雑木林はつきない。どれだけ歩いたろうか。灯が見えた。

おらぁは、うれしくて、かけだした。

ところが、たどりついたのは、なんと、まったく反対の郷地（昭島市）だった。郷地には知りあいがいないので、ひっかえさなければならなかったけど、あの雑木林の中をもどる勇氣は湧いてこない。

おらぁは、子ども心にしばらく考えた。

そして、足元をみたまま、一目散に走りだしたんだ。絶対、顔をあげねえで、あたりのことに目もくれず、走ることにきめたんだ。

こわかったな！

走って、走って、走りぬいて、やっと家に帰って来たことがあったよ。

あとから思えば、あのあたりのむじなに化かされたんだらうなぁ。

羽生凱哉（池田・小沢・竹内・中山）。1989年。川てんぐ。立川の昔話、立川市教育委員会

■狛江市

1. 野川を上り下りする大蛇（その1）

昔は、大蛇が、野川を川づたいに上ってきて、「ませぐち」の流れに入り、佐須の山のところへ行って冬を越したものだ。

それで、夏は、また、野川へ入ってね。蛇が上り下りするときには、よく佐須の祇園寺へ寄ってって、松の木に長あくぶらさがってたと、和尚さんが言っていた。野川に魚とりに行って、上を向いたら、ネムの木っかわに大蛇がいたので、ウキを置いて逃げてきた、なんて話を聞いてますけど。佐須のある人がね、手さぐりで魚をつかまえる穴探しが好きでね、それで、ひょいと上を見たら、大きな蛇が木の上っかわにね、とぐる巻いてて、それでもう、一目散に、トットトット逃げてきたって話でさぁ。

（佐須町 村越 博 大正8年生）

中島恵子。1992年。野川を上り下りする大蛇。たましん歴史・美術館、多摩のあゆみ第67号
調布・狛江の民話、36頁、（財）たましん地域文化財団

（その2）

狛江の和泉の北っかたにある、野川にかかる五大橋（御台橋）の下に、大蛇がいたって。昔、土橋だったころだよ。見た人が何人もいるんだね。それでもって人間を困らしたっていう話だけどね。その大蛇が、佐須の方へも野川をずーっと川ん中をのしてくるんだっていう話をしたもんだね。川を上ったり

下ったりしてるって話が、あったんだよ。

(佐須町 田中甚蔵 大正3年生)

中島恵子. 1992年. 野川を上り下りする大蛇. たましん歴史・美術館, 多摩のあゆみ第67号
調布・狛江の民話, 36頁, (財)たましん地域文化財団

2. 多摩川の河童

あるとき、男の子が多摩川の河原へ遊びに行ったらね、河童がねえ、出てきて河童が、やっぱり男の子どもに化けてきて。それで、「遊ぼう」ってね、遊んで。そのうちに、「相撲取ろう」って言うんですって、河童がね。

そいで、男の子がね、「だけど、おれは、おなかがすいちゃったから、家い行ってお昼を食ってくるから待ってくれ」って言ったんですって。そしたら、「待ってるから行ってこいよ」って言うんで、その男の子は大急ぎで家へ帰ってきてね。ところが、お昼が遅くなっちゃったから、仏さまに上がってるご飯しか残ってないって、いうんですって。それで、しょうがないから、仏さまのご飯を食べてね、急いでまた、河原へ行って。

そうして、「相撲取ろう」って言ったらね、その河童の化けた子が、「また、いまに取ろう」って言って、帰って行っちゃったって。

仏さまのご飯を食べちゃったから、河童が嫌ったんだらうって。だから、河原なんかに遊びに行くときには、「仏さまのもの、何か食べて行きな」なんてね、おばあさんから言われたことがあるの。

それから、女の子が河原へ遊びに行くときね、河童が赤いホオズキに化けて、それで、それを取ろうとすると、川へ引きずり込まれてね、おなかの臓もつを食べられちゃったんだって。なかなか帰ってこないから、うちの者が見に行くと、臓もつを食べられちゃって、浮き上がってる、なんてね。

(上石原 林 ハマ 明治34年生)

中島恵子. 1992年. 多摩川の河童. たましん歴史・美術館, 多摩のあゆみ第67号
調布・狛江の民話, 37頁-38頁, (財)たましん地域文化財団

Ⅲ 川と神様などが関係するもの (川にたいする信仰)

■ 奥多摩町

1. 釜の滝の竜神さま (その1)

日原川釜の滝のつばには竜神さまがいて、ここへ管流しの丸太が流れこむと竜神さまがすみかを荒らされたのを怒って雨を降らせると信じられていました。管流しが始まるころになると、村人たちは「長雨にならなきゃいいけどなあ」と心配し合うのでした。

この滝つばの難所を通る時は、腕達者なおひょうさん(流送夫)が選ばれ、竜神様に作業の無事を祈りながら働くのでした。

ある時、一人の若者がこの滝の隣の山で焼き畑作りをしていたところ突然吹き出した強風のため、焼き畑作りの火が木から木へと飛び火して、あっというまに山火事になってしまいました。

ところが、若者は何を思ったのか、山火事には見向きもせず一目散に滝の上までかけ下り、腕も折れんばかりに滝つぼめがけて、手ごろな石を拾っては投げ、拾っては投げ、いっしょうけんめいでした。

すると青空から黒雲がにわかには湧き出て、たちまちのうちに大雨となり、さしもの山火事もうそのように消え去ったということです。

奥多摩民話の会 代表・荒澤 弘、1990年、釜の滝の竜神さま、おくたまの昔話第2集

(その2)

大川(日原川)の釜の滝へ木材の管流し(丸太の流送)が入ると雨が降り出すと信じられていました。またそういうことが多かったようで、長雨が続くとき「まだ釜の滝のひょう(木流し)はすまなかんべいか」という、ささやきが交わされました。これは釜の滝の竜神さまがすみかを荒らされたお腹立ちによるものだとされます。

木流し作業でこういう難所を通過させるにはなかなかの技能を要し、腕の達者な「おひょうさん(流送夫)」が選ばれ、竜神さまに無事を祈りながら働くのです。この竜神さまのお腹立ちを逆用した若者がいます。彼はその日、この滝の隣り山で山焼きをしていると、突然吹き出した風のため山火事になりました。ところが彼は防火にはあたらず、一目散にかけつけたのはこの滝頭です。手頃の石を拾って投げ、拾っては投げ、滝壺めがけて一生懸命です。ところがどうでしょう滝壺から黒雲が出たと見る間に大雨となり、さしもの山火事もうそのように消え去りました。これは昭和初期の実話です。

奥多摩町教育委員会、1989年、奥多摩町の民俗 ― 語彙・遊びとわらべうた・民話 ―

奥多摩町誌資料集五

2. 妙見さまのご神獣

妙見さまを知っていますか。

北の空に輝く北斗星を神さまとしてお祭りしたのが妙見さまです。

ずーとずーと昔、妙見さまは平井の妙見山に降りて来られました。

その時、妙見さまは玄武(中国神話に出てくる北方の水の神で、想像上の動物)に乗っていらっしゃいました。

玄武は妙見さまのお使いをする動物で、亀と蛇とがからみあっているような姿をしています。亀の背に妙見さまを乗せ、蛇が妙見さまの体を支えるようにして、地上を走ったり、水上を渡ったり、自由自在に飛びまわりました。

妙見さまの御用がない時、玄武はその大きな体を妙見沢の淵で休めていました。妙見沢はそのころは大木の生い茂るうっそうとした所で、大きな沢には深い淵がありました。

ですから、ここは玄武の良い住処になりました。

ところが、何百年か経つうちに、土や砂が流れ込み、だんだんと沢が小さくなっていきました。住み慣れた淵も体の大きな玄武には狭くて窮屈な所になってしまいました。

しかし、妙見さまのそばを離れられない玄武は引越すわけにはいきません。

そこで、住処で休んでいる時だけは小さく変身することにしました。

それでも、また何百年か経つうちに、水はどんどん少なくなり、淵も浅くなってしまいました。

小さく変身しても、そのままの姿ではとても休んでいられなくなった玄武は、まず蛇のようなところが別れて赤棟蛇（やまかがし）になり、山に住むことにしました。次に亀の甲羅のような堅いところが別れて沢蟹になり、残りのところが山椒魚になり、それぞれ別々に沢に住むことにしました。

そして、妙見さまがお呼びになると、赤棟蛇と沢蟹と山椒魚がさっと集まり、合体して、もとの大きな玄武の姿にもどり、妙見さまの御用を勤めました。

それから、また何百年か経ったつい最近、東光院の妙見沢は改修工事が行なわれ、コンクリートのまっすぐで小さな流れの沢になってしまいました。

玄武ヶ淵といわれる淵のあとにも沢筋からはずれ木陰の小さな空池になってしまいました。

ほんの少し前までは、妙見沢のあたりでは赤棟蛇も沢蟹も山椒魚もよく見かけましたが、近ごろではあまり見られません。玄武は、こんどはどんな姿に変身しているのでしょうか。

奥多摩民話の会 代表・荒澤 弘. 1990年. 妙見さまのご神獣. おくたまの昔話第3集

3. 古里地域の雨乞伝説（その1）

白丸数馬湖へ、イホリ沢のそそぐ附近に坊主淵と呼ばれる所がありました。

昔、或る真夏のことです。やけるような暑さの上、数十日間というもの一滴の雨もなく人々はこのひでりに苦しんでいました。

この時、どこからともなく雲つくような大坊主が現れ、「お前らのために雨乞いの祈禱をしてやろう」といい、村人たちを引連れてこの淵へ下りました。人々はおぼれる者がわらをもつかむような気持でこれにしたがいました。

大坊主は真っぴだかになってこの淵に降りたち、水垢離を取り、しばらく呪文を唱えていると、不思議やたちまち黒雲が現れると見るうち篠つくような大雨が降りだしました。人々は生菩薩さまをおがむようなありがたさです。席をしつらえてもてなしをしようとするそと首をふって、「この後もしひでりで困るようなことがあったら、村人残らずそろってここへ来て『散華々々六根清浄』と唱えなさい、必ず効験があるよ」と教え、何処へか立ち去って再びその姿を見ることはできませんでした。

奥多摩町教育委員会. 1989年. 古里地域の雨乞伝説. 奥多摩町誌資料集5 奥多摩町の民俗
— 語彙・遊びとわらべうた・民話 — , 奥多摩町教育委員会

(その2)

丹三郎の滝の沢が多摩川に流入する所の近くに雨乞の滝があります。

里老のいうところによると、雨乞祈願のとき、村民はここに集まって禊事を行ない、二口ある滝の落ち口のうち一方の低い方の落ち口の方をふさぎ、上の方の口からばかり落とすと雨が降るのだそうです。この滝は高さが十丈余、巾が六尺滝壺は六尺余です。昔、ここには檜の古木があり、その枝の繁みで陽光をさえぎり、近づき難い幽邃境で傍には竜神の石像もあったといいますが、今はそのいずれもありません。この檜の古木は先年伐採したものが、その人は神のたたりか、忽ちにして死亡したといえます。

奥多摩町教育委員会、1989年、古里地域の雨乞伝説。奥多摩町誌資料集5 奥多摩町の民俗
— 語彙・遊びとわらべうた・民話 — ，奥多摩町教育委員会

(その3)

大丹波曲ヶ谷の大丹波川に架かる俗称「つる橋」の下に雨乞淵があります。ひでりで困ったとき、この淵へ石を投げこむと家に帰らないうちに雨が降ると伝えられています。

奥多摩町教育委員会、1989年、古里地域の雨乞伝説。奥多摩町誌資料集5 奥多摩町の民俗
— 語彙・遊びとわらべうた・民話 — ，奥多摩町教育委員会

■檜原村

1. 水の久保の弘法井戸 (その1)

ある時、檜原に水の久保ってところがあるんで^{註1}。そこへね、弘法さまが行って、「お茶、ごちそうしてくんねえか」といったところが、「まあ、弘法さん、お茶ごちそうするにも、ここには水がなくて、お茶煮ることもできねえ。それでも時間があつたら少し休んでりゃあ、この下の川から水をくんで来て煮てやるから」と行ったら、「そうかよ、そんなに水が困るんなら、おれが水出してやろう」
そうして、杖をそこへずとつっこんだら、穴があいたと思ったら、そこから水がどンドン出てきて、それからこっち、水の不自由はなくなった。

今でも、そこには水が出ている。

註1：水の久保＝地名。時坂にある。時坂部落は、本宿から尾根に登る途中のこぢんまりした部落
(数馬の岡部義兼さんに聞く)

高木美保子、1987年、水の久保の弘法井戸。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

(その2)

弘法さまがね、昔、来てね、向こう^{註1}に家が二軒あったの。

そいでね、弘法さまが、「水くれ」っていったらしいの。

そしたら、「そいじゃあ、水、下へ汲んできて」って下まで水汲みに来たらしいだな。

そいで、弘法さまがね、「じゃあ、水出してやる」ってね、杖こうについたらそいだからそこに水が出たって話だね。

井戸は今も残っているよ。その弘法さまが来るまで井戸^{註2}がなかっただね。何年前だかわからないけどよ。

註1：向こう＝話者の家から少し上

註2：井戸＝井戸のある家は、水の久保の家だけで、少し前まで、他の家はみな下の沢まで桶で水汲みに行っていたという。

(時坂の岡部馬次さんに聞く)

高木美保子。1987年。水の久保の弘法井戸。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

2. 浅草に飛んだ観音さま

数馬から本宿にぬける浅草尾根に、堂平とよばれるところがある。そこには、昔お堂が建っていた。ある晩おそく、一杯飲んで上機嫌な男が尾根をふらふらやってきた。数馬の家まではまだまだ遠い。ちょうどお堂が見えてきたころ、お堂に灯ったろうそくの明りを見て、酔った勢いで男は大声でいった。

「いっそ、このお堂が焼けたら、この尾根が明るくなってどんなにかいいだろう」すると、本当にお堂がめらめらと燃え上がった。

その時、お堂に納めてあった観音さまが火の粉ををくぐって空に浮かび、そのまま浅草まで飛んでいった。

別の話じゃあ、堂平のお堂は大嵐でくずれたんだって。その時、御本尊さまもいっしょに流されてしまったけど、観音さまは秋川から多摩川に流れ、東京湾で拾われて、浅草の観音さまになったって。

いずれにしても、浅草の観音さまは、元は檜原の堂平のお堂にあったもんなんだって。

高津美保子。1992年。浅草に飛んだ観音さま。たましん歴史・美術館、多摩のあゆみ第67号
檜原の民話、81頁、(財)たましん地域文化財団

3. 神戸岩と辰子

むかし、江戸からずっと西に来たところに小さな村が一つぽつんとあった。この村は、とても桧がたくさんあったので桧原村とよばれていた。

この村は、南谷と北谷に分かれていた。そして、南谷も、北谷も、それぞれ、十の部落に分かれていた。この北の谷の一つに神戸とゆう部落があった。この神戸部落を川づたいに歩いて30分ぐらい行くと、大きな岩が二つならんでいた。この岩は、人々のあいだで神戸と呼ばれていた。

ここに、むかしあまり人がいなかったころ、神様がすんでいた。この神様は、山の神様でとても大きかった。だから大雨がふって山がくずれそうなときは、石などを持ってきてくれて助けてくれた。

ある年の暮、人々がなにかと忙しい時期に、神戸岩の神をとでもしたっている辰子とゆう五才ぐらいのとでもやさしい男の子がいた。この子は、正月も近いことなので山の神にもちをやろうと家でついた持ちを半分ぐらい持って行ってしまった。辰子にしてみればとても大きなもちだけど山の神にしてみれば、からだが大きいのであまり腹がいっぱいになりません。でも、山の神様は、辰子が一生懸命持ってきてくれたのでうれしく思った。正月には、辰子の持ってきたもちをいっしょにやいて食べた。もちだけでなく川の魚も取って食べた。辰子の親も、もちをだまってとったことをおこりもしませんでした。辰子にとってこの正月はいろいろなことを山の神として、楽しい日々だった。でもいいことばかりは続かなかった。

この年、今の東京の方では、こまったことがおきていた。そのこまったことというのは千本の足を持った、貧乏神のような悪魔が今の東京あたりで家をふんずぶしたり、人を食べたりしていたことだ。でもこんなおそろしいことをまだ檜原の人は、誰も知りません。近所の人とけんかななどをしないで、平和に暮していた。でも、この平和なくらしもくずれようとしていた。あのおそろしい悪魔が檜原にもやってきたからだ。みんなとてもびっくりした。そしてこの千本の足を持った悪魔が北谷の方にやってきた。そして今の千足あたりで居眠りをし始めた。このころから千足の足を持った悪魔が来たというので、千足と人々は呼び始めたこの悪魔は、もう東京の方であばれてきて疲れてしまったのだ。そのすきに人々は、神戸岩にいて山の神様にたのんだ。

「今、中里の向こうに変な怪物があらわれただ一神様助けてくださいませー」と村の人がいうと、神様は何も言わないで立ちあがって村人たちを岩のむこうに非難させておいた。しかし、この村人の中に、辰子はいなかった。辰子は、悪魔のいる下の川で、何も知らずに一人で遊んでいた。神様は急いで行った。悪魔の方は、もう起きて今度は腹がへったと、川にいた辰子を見つけて食べてしまった。神様は、おこった。もう一度神戸岩にもどって岩を手でわって大きな岩をかついで悪魔のいる所に走って行った。悪魔が見えたとき、神様は、もっていた大きな岩を悪魔になげつけた。この千本の足を持った悪魔は、この岩の下じきとなって死んだ。でも神様をしたっていた辰子も死んでしまった。神様の手は、血だらけだった。おもかった石を持った疲れがでたのか、神様も死んでしまった。

人々は、この山の神様と辰子の死を悲しく思い、神戸岩の所に赤井神社とゆう神社を作った。これは、とてもやさしかった、山の神と食べられて死んでしまった辰子をまつってあるといわれている。

神戸岩と辰子。檜原民話集 中学生の手づくり創作集

■羽 村 市

1. 秀郷の権

近江の国、三上山のムカデを退治したのは俵藤太です。俵藤太は藤原秀郷といって、天慶の乱で東国を一時制した平将門を、討った勇将としても知られています。

平将門が勢力を広げていたころ、奥多摩の棚沢にある将門原に館を構え、娘の滝夜叉姫を住まわせていました。将門はこの美しい滝夜叉姫をことのほか愛し、何度となく棚沢に立ち寄ったようです。そし

て道すがら必ず羽村の阿蘇の宮に戦勝を祈願したのです。

将門はその後、武運つたなく、秀郷に討たれますが、秀郷は将門の霊を慰めるために、阿蘇の宮を再建し、椎の木を植えたのでした。

この椎の木は多摩川の氾濫にその根元を洗われながらも、大木となり今もうっそうと茂っています。都の天然記念物に指定されたのも、もう60年程前になります。

保坂和子。1992年。秀郷の椎。たましん歴史・美術館、多摩のあゆみ 第67号

羽村・福生・青梅の昔話と伝説、60頁－61頁、(財)たましん地域文化財団

2. 加藤さまを助けた話

天正十年三月、甲斐の武田勝頼は、織田信長に攻められて、天目山で自刃しました。東国の大きな勢力だった武田氏は滅びたのです。

武田方の武将で上野原城主加藤丹後守景忠は、武田家が滅びると、家族とわずかな家来をつれて、山越しに武蔵の国へのがれたのでした。当時は落武者狩りといって、落武者をねらって悪事をはたらく者も多くて、その苦労は大変でした。食物も乏しく、昼は山かげにかくれ、夜道をさがして歩いたことでしょう。

甲斐の国から山河を越えて、菅生から12曲りの山道をくだって、やっと多摩川の川原にたどりつきました。そして向かいの羽村へ渡ることになった加藤丹後守の一行は、山仕事から帰る百姓たちに、ばったり出会いました。さては、と一同構えますと、百姓の中から主人らしい人物がすすみ出て、「川の浅瀬をみつけて渡るのはむづかしい。ご案内しましょう」と作代らしい人に奥方を背負わせて一行の川渡りを助めました。

このお百姓さんは、一峰院のすぐ東にある白木という集落の羽村家という大きな農家の人々でした。羽村家の人々は、丹後守の一行を気の毒に思って親切にもてなしてあげました。

加藤丹後守は、大変喜んで、感謝のしるしに、「加藤」という姓を与えました。それから以後、羽村家は本家を隣の分家にゆずり、加藤の姓を名のることになったといえます。

今も一峰院の近くには、玉川上水の初代の水番をつとめた加藤家など、加藤を名のる家が何軒かあります。

その後、加藤丹後守は、箱根ヶ崎に逃げのびますが、残念ながら討ちとられてしまいました。天正14年のことでした。

現在、瑞穂町のある加藤神社は、元、加藤さまと呼ばれていましたが、この加藤丹後守一族を祀ったものです。

保坂和子。1992年。加藤様を助けた話。たましん歴史・美術館、多摩のあゆみ第67号

羽村・福生・青梅の昔話と伝説、61頁、(財)たましん地域文化財団

■青 梅 市

1. 竜索が天ヶ瀬淵へ入水の話

永祿の頃というから、今から四百年余り前のことだろうか。

青梅のあたりは、旱が続いて人々は困りはてていた。金剛寺の良深僧正は、山内に修法を行う壇を築いて、竜王を招き、竜索を水盤に供えて、雨乞いの祈禱をした。ところが霊験がたちまち現われて、大雨が起こり、篠つくような豪雨となった。

すると不思議にも、修法壇上の水盤の竜索二匹の中の一匹が、風雨に乗じて生けるが如く飛び出して、多摩川の天ヶ瀬淵に飛びこんでしまった。人々は大変驚いて、残りの一匹も飛び出しては大変と、この水盤に金網をかけてしまった。

この時の水盤は「雨乞い鉢」といわれ、金剛寺に残されている。現在、東京都有形文化財に指定されている「青磁鉢」である。

㊦：竜索とは、青色のコヨリで竜蛇の形を作ったもので、密教秘法の行事につかわれるものである。

保坂和子。1992年。竜索が天ヶ瀬淵へ入水の話。たましん歴史・美術館、多摩のあゆみ 第67号
羽村・福生・青梅の昔話と伝説、67頁、(財)たましん地域文化財団

■日の出町

1. 弘法の井戸

平井坊ヶ谷にあった金蔵寺（こんぞうじ）は、明治初年に廃寺となった。この旧境内には、弘法の井戸がある。

その直径は1メートル程で、水深も1メートルぐらいの素掘りの小さな井戸だった。しかし、不思議なことに、いかなる日照りのときも、まったく水量の減ることがなく、近辺の人々の飲み水になり、また、灌漑用水としてたいへんな恩恵を与えていた。

今は、耕地整理によって、原型をとどめていないが、いまだに用水として利用されている。

むかし、ある夏のとても暑い日、旅の僧が金蔵寺の庵主に飲み水を所望したところ、庵主は近くによい水がないからといって、かなり遠くから水を汲んできていねいにもてなしてくれた。

その親切に感じ入った僧は厚くお礼をのべ、たずさえてきた杖を境内の田んぼのふちに突き立てて言った。

「わしの帰ったあと、この杖を引き抜いてごらんさい」

僧が立ち去ったあと、庵主はいわれたとおり杖を引き抜いてみると、とつぜん玉のような清水がわき出した。

後になり、人々は旅の僧は弘法大師にちがいないと噂し合い、以後、弘法の井戸と呼ばれるようになった。

㊦：この井戸には、今でも主といって1メートル以上もある大鰻がすんでいるといわれている。

2. 弘法大師と大久野川

むかし、ある夏の暑い日、大久野川にかかる掘口橋を、一人の老僧が通りかかった。何日も日照りが続き、草木も枯れんばかりの暑さで、外を歩く人の姿もなく、家々はしずまりかえていた。しかし、大久野川には、清い水が流れ、ここだけが生きている証であるかのようだった。

老いた僧は、橋のたもとにある一軒の家の前に立ち止った。中は薄暗かったが人の気配が感じとられた。そこで、お経をとなえたあと、

「私は旅の僧です。長い間、歩き続けて喉がかわいてしまいました。水を一っばいいただけますか」と、家の人に頼んだ。

家の人、あまりにもみすばらしい旅の僧の姿を見て、

「乞食坊主め、また物乞いに来たにちがいない。水の一っばいがおしいわけではないが、くせになってちよくちよく、これでもしたら困る。なにもやらずに早く追い返してしまえ」と思い、

「うちには、この日照りで水などない。水を飲みたければ、その川へ行って好きなだけ飲むがよい」とそっけなく答えた。

老僧は、だまって頭を下げ、お経をとなえながら、どこかへと去ってしまったところが、どうしたわけか、それからというもの、掘口橋近くの大久野川には水がなくなってしまった。

後のうわさによると、あの時の老僧こそが弘法大師であって、村人が一っばいの水をおしんだために、このへん一帯の川の水がなくなってしまったのだということである。

弘法大師と大久野川. 日の出町史 文化財編

■日野の民話

1. 多摩川の淵に怪しい光が（土淵の怪しい光）

昔、多摩川の流れに沿って、深い淵があったそうです。この淵は、いくらぞきこんでも底が見えず、そのまま地獄につながっているのではないだろうかと思える程でした。土地の人は、この淵を土淵といい、子供達には、そこで遊ばないようにと教えてきました。

ある時、多摩川に洪水がありました。その洪水が治まり水が引いた後から、この土淵に何か怪しい光が、毎晩見えるようになったのです。人々は大変気味悪く思い、その怪しい光が何なのか噂していました。

ある日、ここを通りかかった一人の翁が、この光をみて土地の人に尋ねました「一体、あの光は何なのですか。」

しかし誰一人として答えません。次の晩、翁は人々を土淵に集めると、皆の前で突然、光めがけて水に飛び込んでいったのです。集まった人々は皆驚きましたが、光が恐ろしくて誰も助けに行けません。月の光がない真っ暗な中、し～んと静まり返ったその時です。水の中から翁が光を持って出てきたのです。それは一体の神様の像でした。皆はその像をじっと見つめました。すると光はだんだん弱くなりついに光は消えてなくなりました。皆が我にかえると、そこにはもう翁の姿はありませんでした。土地

の人々は不思議に思いましたが、「これはきっと、神様がここに祀ってほしくて、こんなことをなさったのだろう」といって社を立て、鎮守様としてお祀りしました。これが日野本町の八坂神社です。

多摩川の淵に怪しい光が（土淵の怪しい光）。日野の昔話

■ 拝島市

1. 拝島地名考

奥多摩にいくと、変わった地名がたくさん出てくる。その入口に近いところの拝島なども、なにかいわくあり気な地名だ。

多摩川の上流から分かれて、日原川という溪流がある。ここには、都の天然記念物になっている日原鍾乳洞がある。このあたりには、各所に修験者がいて、いわゆる山岳仏教を奉ずる加持祈禱を行っていた。

日原鍾乳洞は、その先達がかもったところだと伝えられている。洞内には、大日如来像が安置されていたが、ある年のこと、洪水のために流されてしまった。これが、濁流に押し流されながら、いつのまにか多摩川の本瀬に入り、拝島（そのころはこの地名はなかった）先の中州（なかつ—洪水が引いたあとにできる島、この地方では、「なかつつ」と言っている）のところで、とまった。これを夜漁に出ている漁師が見つけた。

ふだんは何の気なしに見ていた中州のこんもりしたところで、なにか、こうこうと光っているものがある。金の茶釜でも砂の中に埋まっているのか、それとも大判小判でも……。これが村中の評判になり、部落総出で掘り返してみると、そこからりっぱな仏像が出てきた。寺の和尚に聞いてみたところ、これはありがたい大日如来さまの御像だということだった。

どこから流れてきたござらしゃったのか。ともあれ、大日如来さまの御像とあっては、捨ててはおけぬ。村人は、如来像をうやうやしくかついで、丘の上の部落まで持ってきた。そして、庵寺を建立して、奉祠することにした。この部落がのちに大神と名づけられる。

それから数年経った。大神の庵寺は間に合わせ作りだったので、ひどく荒廃しだしてきた。雨はもるし、関東の空っ風は吹き込むし、これでは、大日如来さまに申しわけがない。

村の有志が集まって、相談した。せっかく大日如来さまがこの地に流れつけてくださったのだ。もっとましなお堂を建てて、浄土安楽をお願いすることにしたらどんなものか。よかろう、そうだそうだ、ということで、寄進も集まり日ならずして別の場所に新しいお堂が建立された。

これが、現にある拝島浄土寺だという。

島に流れ着いた如来さまを拝んで、寺を建立した。そこで、「拝島」という地名が生まれた。「おねがいの井戸」のある大日堂の本堂は、この時に作られたものだ。

原田重久。1989年。拝島地名考。武蔵野の民話と伝説、有峰書店新社

■ 狛江市

1. ウナギに助けられた神様

狛江の下覚東（東野川）は小字名を三島といって、この地には、明治の初めまで、三島神社、三島さまなどとよばれていたお宮が、三島田んぼ（電力研究所の西北）の近くにありました。

昔、大水が出て、この三島さまが流されたそうです。そのとき、大きなウナギが現れ、三島さまはウナギの背中に乗って、どこかのふちにたどり着いて助かりました。同じ覚東の千手院のあたりに流されて行ったとも言われています。また、三島田んぼのウナギの穴に、御神体が入っていて、流されずに助かったと伝えるひともあります。

三島さまは、こうしてウナギに助けられたので、氏子の人たちはウナギを食べてはいけなく、とされてきました。三島さまがウナギの世話になったからと、一生ウナギを食べなかった年寄りもあったという事です。

中島恵子。1992年。ウナギに助けられた神様。たましん歴史・美術館、多摩のあゆみ第67号
調布・狛江の民話、34頁-35頁、（財）たましん地域文化財団

IV その他

■ 奥多摩町

1. 貸 椀

奥多摩湖の上流、竹の花トンネルの下に「えぶち」という淵があります。その淵は龍宮城までつながっているといい伝えられるほどそれは深い深いものでした。昔、えぶちの近くにこの地の名家である吉野家がありました。この家の床下にはぽっかりと大きく口をあけた湧き水穴があって、その穴はえぶちのぬしに通ずる穴なのでした。

当時、貧しかった村人に祝いやら法事などの人寄せに使うお膳やお椀の備えなどあろうはずもなく、村人はそんな時、きまってこの吉野家の戸をたたき、「何月何日にお膳何膳、お椀何組貸して下せえまし」と頼むのでした。

すると、この家の主人は床板をはずして穴に向かい、村人に頼まれたとおりにえぶちのぬしに伝えるのでした。

お願いした膳椀は次の日の朝には湧き水にプカプカと浮かんでおり、数もきちんとそろっていました。あるとき、村人の中にずるがしこい男がいて、借りた膳椀の数をごまかして返してきたのです。あらためることもしないで、湧き水穴に返しておきました。数日たっても、何のとがめもなかったものだから、この男も内心「しめ、しめ」とほくそ笑んでおりました。

ところが、その日えぶちに魚釣りに行ったその男の一人息子が晩になっても帰ってこないのです。夜になって村中大騒ぎとなり、手に手に提灯をかざしてえぶちまでいくと突然淵の中から「オーイ」という子どもの悲しげな声が聞こえてきたのです。なおも声のしたところまでちかづいてみると、子どもを

淵に引きずりこんだ跡がありました。

それからというもの、吉野家の主人がいくらお願いしても、湧き水穴に膳椀が浮かぶことはなかったということです。

奥多摩民話の会 代表・荒澤 弘、1990年。貸椀。おくたまの昔話 第2集

■檜原村

1. 鬼源兵衛-羽村の堰（その1）

羽村用水がね、多摩川にあるあの堰を作る時にね、その源兵衛というのは檜原代表で、「いく人行って邪魔くそだから、おれ一人で行く」とって、鬼源兵衛というのは、えらい力持ちの人で、今お椀があるって話で、でかいお椀でご飯を食べるっていうから、体も大きかったでしょう。

その人が羽村の堰を、はじめて東京用水を引くの、檜原代表として羽村へ行って大きに働いて、大勢働いていたけどみんな遠くへ逃げていったって。

その人がたすきをかけるのに、そこに近所にある竹を根っこから切って、それをびしびしびしと自分の手でつぶしてたすきにかけてやり出したんで、あたり近所にいる、前に行ってもう陣どって行っていた人が、「檜原代表おそいぞ」とったら、鬼源兵衛一人で行って「お前一人で、檜原代表できんのか」っていったら、「まあ、できるかできないか、おれにやらしてくれろ」ってゆうような事で、やったという話を聞いていますがね、それも本当の話でしょう。

（神戸の坂本千代松さん、源兵衛の生家大谷家の人に聞く）

高木美保子、1987年。鬼源兵衛-羽村の堰（その1）。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

（その2）

本当にその鬼源兵衛がいたあだか、いないだか、自分らにもよくわからないけどね。

昔、あの、多摩川をせき止めて、あの多摩川上水って、羽村に堰作った。それでよう、あの檜原で、徳川の時代だったか、なんの時代だかね、よくわかんないけどね、檜原でいく人か人夫よこせてわけで、鬼源兵衛ちゅう人が、一人、「おれ、代表で勤めてくる」ちゅうわけでね、行ったらしいんだよ。

ほいで、あんたら知らにゃかもしれないけど、こがしちゅうもんが、昔、檜原にはあったんだよ・[こがし。麦をね、あもう、焙烙で炒って、臼でひいて、それに粉がこがしっていうので、檜原でも昔あった]

それでね、鬼源兵衛って人は、それを弁当に、こんな、あの、それを持ってその羽村に行ったらしいんだ。

向こうへ行ってね、そのこがしがどのくらいだかあ、まあ、こがしちゅう、粉だから、で、その、食べたらしい。

まあ、もう役人がね、「檜原代表も、もうええかげん日経ったようだから、仕事をして、少しやってくんないか」「おう、ようし」ってわけでね、ほいで、あの羽村の堰作る所に竹がこう、生えていた

ら、竹をこう引っこ抜いてね、指の先でこう、びりびりーとこうしてね。それを今度たすきにかけた。たすきにかけて、今度竹をね、こいで、その役人のほうへこうほうるんです。

さあ、役人がいても立ってもいられない、役人危なくなっちゃった。そこで、役人が、「檜原代表は、今日、もう勤まったらから、これでいいから」

そういう話が残っている。

(茗荷平の木原藤一さんに聞く)

高木美保子。1987年。鬼源兵衛－羽村の堰（その2）。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

2. 坊主岩

坊主岩って岩があるんです。（倉掛の）川にあるんですけど。だれもあれを登れないんですって。

あそこのあたりを歩いているとか何とかしたらば、蛇だか何だか出てきて、切ろうとしたら、刀が折れたとか、その刀が隣にあったんだけど。蛇だと思ったから切ったが、蛇じゃなかったって、で、刀がつぶれちゃったって。

坊主がそこへ立ったかどうだか、よくわかんないけどね。

岩は、今でもあります。

(茗荷平の大久保アイコさんに聞く)

高木美保子。1987年。坊主岩。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

3. 水口沢の石

人里荘（へんぼりそう）の向こうの沢を水口沢というんだけど、そこは、葉屋さんが、[昔はよく回って来てたでしょ。] その葉屋さんが昔きて、そいでのたれ死にして、その葉が流れてしみて、水口沢の石は火に強いっていうの。いろんな葉が流れてしみたでしょう。その沢の石は、みんな火に強いって伝説があるわけ。

(和田の坂本孝嘉さんに聞く)

高木美保子。1987年。水口沢の石。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

4. 沸沢の滝に沈んだ鐘

その昔、甲州は武田信玄のころ、昔は、つり鐘でごおーんと。

浅間さまにひとつ、つり鐘があって、今でも浅間様に行けばお堂がある。お堂のあるところできていたけれども、そこにあったつり鐘が、沸沢の滝というのが宿の上にあるけれども、そこにそのつり鐘が滝に沈んでいて、それがお正月の元旦でなくちゃあ頭が見えないというのをおふくろから聞いたね。元旦の朝早くだけ、つり鐘の頭が見え隠れするだって。

どうして落ちたか、それを盗んでもってきたんだと思うんだが。

(和田の坂本孝嘉さん、母、ヨネさんに聞く)

高木美保子。1987年。沸沢の滝に沈んだ鐘。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

5. 赤いお椀

稗差（へえざす）^{註1}の方の人、お椀が流れたちゅうは。

すすき刈りに行ったんだってね。昔は、ほれ、茅、それ行って、あのしたら、こういう淵があったわけ。

水飲みたくて捜して行ったんだよ。そうしたら、赤いお椀がふわふわ、ふわふわ浮いていたんだって。それで飲んだらお大尽になったって。ええお大尽になっただよ。本当にね。

学校^{註2}の上の方の稗差（へえざす）っていうところの家ね。

淵はね、その芽が生いているんですよ。芽が山にね、その人は水が飲みたくて捜し歩ったんだって。

そいで、その、こう淵の中にね、お椀が、赤いお椀があ、ふわふわ、ふわふわ、淵、池にそれこう浮いていたんだって。そのお椀が、赤いお椀がね、こういう赤いやつが、中を塗って。

すごい金持ちの家だったよ。今じゃあ、もうないけどね。そういう話、昔の人いったんだよ。

そのお椀はね、水を飲んだら、淵へ返してきたんだって、置いて、持ってこないで。

やっぱり遠いから、むやみに行けない所だよ。上の方の山だから。そういう話をよくいったよ。昔の人は。

みんな、天狗さまでも会ったかなんだかってよくいったね。

話を聞いただけだからな、本当だかうそだか知らないけど、はっきりうそでもないと思うね、ええ。

註1 稗差（へえざす）＝北谷奥、藤原中組のうちの三軒あたりをさす地名

註2 学校＝今は廃校になった藤原小学校

（茗荷平の木原コマさんに聞く）

高木美保子。1987年。赤いお椀。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

6. 経堂平の金のお椀（その1）

その経堂平の淵に、金のお椀があったんです。それで飲むと、その岩から金が出てきて、金持ちになった人がいる。

白岩のそばの人がね、そのお椀を取り出してそのお椀に水を入れて水を飲んだら、その岩の中へ浮いたの。そのおばあさんがお大尽になったという話だけどね。

（茗荷平の木原コマさんに聞く）

高木美保子。1987年。経堂平の金のお椀（その1）。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

（その2）

あそこは経堂平と言って、昔は、堂とか経堂というところは、結局、連絡場とって、敵が攻めてきた時には連絡場所になってたそうだけど、やっぱり経堂平って名があるくらいだから何かあったところだろうよ。

そこに沼っていいのか、水の出るところがあって、金のお椀が浮いてたらしいな。そこで、金のお椀があったで、そいで水すくって飲んでなあ、ほいで家へ来て、したら、それからずうっと運がよくなってよう、大尽になった。

今、この上、上がったファイト村の空家^{註1}があるだろう。あの家、あの家の先祖。

註1 ファイト村の空家=この家については、金をつばを掘りあてて、現、国分寺市の戸倉新田へ出たという話もある。

補注 金のお椀の話は、藤原ツチ子さんによると炭焼長者の金山のあった場所ではないかと語られている。

(倉掛の平野多さんに聞く)

高木美保子。1987年。経堂平の金のお椀(その2)。語りによる日本の民話6 檜原の民話、株式会社国土社

■福生市

1. 御朱印状を取り上げられそうになった話

清岩院の開基は応永元年(1394)と伝えられています。丁度、室町時代の初めに当たりますね。

福生でも大変古いお寺です。開山は心源希徹禅師という人で鎌倉からこられました。

江戸時代には幕府から十石の御朱印を頂いております。院内が五石六斗で院外に四石四斗と書かれた御朱印状が今も残されています。

清岩院には大正の末から昭和にかけて村野政五郎さんというお寺の仕事をしてくれる人がいました。大変、物知りで筆もたつ人でした。政五郎さんはこんなお話をしてくれました。

江戸時代も終わりの頃のことになりますかね。寺の近くに魚とりの好きなお百姓さんがいたんです。この人が魚をとった投網を寺の境に植えられた茶の木の上に干したんだね。それが寺に来た役人の目にとまって「殺生を禁じる寺に投網が干してあるとは何事か」と大変怒られてしまいました。

そして、とうとうお寺は御朱印状を取り上げられてしまったということです。これを聞いた加美の檀家の七左衛門さん「これは大変なことだ」と必死の思いで事情を話し、役人から御朱印状を取りもどしました。

こんな話が伝わっています。

これでお寺は、その後も御朱印の寺として明治になるまで幕府から保証をされていたのです。

七左衛門さんは加美の伊東光次郎さんのご先祖と伝えられています。

(清岩院住職 昭和七年生)

福生市史編さん委員会。1991年。御朱印状を取り上げられそうになった話。

福生市史資料編 民俗下、東京都福生市

2. 関東大震災

多摩川の川底のジャリが、ガラ、ガラと音をたてた、地震のゆれでジャリが動いたんでしょう。家が川のふちだったのでよく覚えています。上水の水もゆれて川っぶちが水をまいたようにあふれ出て、すごかったです。昼近かったのでコンロの火は消しました。勝手のレンガ造りのエントツが崩れて倒れてしまった。多摩川のむこうの折立のガケがくずれおち大さわぎでした。

夜になると東京の方の空が、明るくまっかになっていたので、何か見えそうな気がして、むこう山（多西）に登ってみました。翌日、青年団の人達が荷車に食物や衣類などをつんで東京の方へ出かけました。

（永田 女 明治四一年生）

福生市史編さん委員会、1991年、関東大震災、福生市史資料編 民俗下、東京都福生市

■立川市

1. まぼろしの分水路

むかし、殿ヶ谷のあたりは、川がなく井戸も少なかったので、水に困っていました。

そこで、玉川上水の分水路から、水を引くための工事がはじめられました。分水路は、胎内掘りという掘り方ですすめられました。胎内掘りというのは、ちょうど、トンネルのように掘り、ところどころに、土を運び出すための穴を地表にあけるのです。

工事は順調にすすみ、分水路は完成しました。

いよいよ、水が流されることになりました。水門がひらかれ、トンネルの中を水は音をたてて流れていきました。

「やったぞ」

「ありがてえ、もう水には困らねえだよ」

人々は大よろこびで、水の流れる音に耳をすませ、かん声をあげました。

ところが、勢いよく流れていた水は、途中までくると、「ボコ、ボコ」と妙な音をたてて、流れを止めてしまいました。

こうして、せっかく完成した水路も、砂利層の部分があったために、水は土の中にすいこまれ、ついに「まぼろしの分水路」となっていました。

この分水路に、いつの間にか、むじながすむようになりました。

あるひのこと、拝島に用たしに出かけた男が、分水路のわきを通りかかりました。すると、

「オーイ、オーイ」

と呼ぶ声がしました。

「はて、おらのこと呼んどののは誰だべか」

男は、足をとめてあたりを見まわしました。

野良には、人影らしきものはみあたらず、かげろうがたっているばかりです。

「オーイ、オーイ」

くぐもったような叫び声は、まぼろしの分水路から聞こえていたのです。

竹内信子（池田・小沢・中山・羽生）。1989年。まぼろしの分水路。立川の昔話立川市教育委員会

2. お堀と水あそび

江戸時代のはじめ、幕府の命を受けて、玉川兄弟が苦勞してつくりあげた玉川上水が、砂川村をななめに横切って、西から東へ流れています。

玉川上水は、砂川の歴史や生活に深いかかわりをもっているのです。村の人たちは、「おお堀」（大堀）と、親しく呼んできました。

お堀の水は、江戸（東京）の人たちの飲み水なので、むかしから、水をよごすことはもちろん泳いでもいけないことになっていました。

それでも、砂川には他に川がないので、夏がくると子供たちは、川番の目を盗んでは、泳いだものでした。

お堀は、場所によっては流れが早く、また、兩岸の底の方が深くえぐられているので、小さい子どもには危険なところでした。

子どもたちは、そのことをよく知っていて、初めは柴崎分水や砂川用水などの安全な水路で泳ぎをおぼえ、じょうずになるとお堀に出かけて行きました。お堀のことは、どんなところでも知りつくしているのに心配するほどの事故は起こらなかったし、おとなたちも、大目にみてくれていました。

ただ、三番の揚げ場にいる川番だけはちがいました。川がよごされないように見張るのが役目ですから、一日に何回か、天王橋のあたりから、小川橋のあたりまで、見廻ってあるのです。

子どもたちは、お堀の土堤の木かげや草むらにひそんで、息をひそめて、川番の通りすぎるのを待っていました。

「よーし、いっちゃったあど」

「ワーイ」

大きい子の合図で、かん声をあげながら着物を脱ぎ捨て、草むらにかくすと、我先きにお堀の中へとびこみます。

そして、川番の次の巡回時間がくるまで、思う存分泳ぐのです。

時には、川番につかまって、こっぴどく叱られたり、脱いでまらめて置いた着物を、通りかかったお巡りさんに取りあげられてしまったり、そういうことがあっても、砂川の子どもにとって、お堀は夏の、たのしい遊び場の一つだったのです。

竹内信子（池田・小沢・中山・羽生）。1989年。お堀と水あそび。立川の昔話。立川市教育委員会

3. 金比羅山

砂川三番の玉川上水のほとりに、高さ十五、六メートルほどの小さな山があります。これが、金比羅山です。

金比羅山の中腹には、小さなお堂があって、金比羅さまが、また頂上には、小さなほこらがあって、浅間さまがまつられています。

金比羅山は、砂川村の名主砂川家が、屋敷の裏側に水田をつくった時に、掘りあげた土で塚を築き、当時さかんだった富士浅間講の浅間さまをまつたのだとつたえられています。

金比羅さまには、こんな話があります。

ある時、海の神さまの金比羅さまは、諸国を旅して歩いていました。砂川三番までやってきた時は、とても疲れていました。道から少し入ったところに、小さな山が見えたので、金比羅さまは山へ登ってひと休みしました。山から見おろすと、目の下に玉川上水のゆたかな水の流れが見えました。金比羅さまは、この場所がすっかり気に入ってしまい、この山に住むことに決めました。

こういうわけで、金比羅さまは今でも、砂川三番の住んでおられるのです。

小沢長治（池田・竹内・中山・羽生）．1989年．金比羅山．立川の昔話，立川市教育委員会

4. 立川のアユかつぎ歌

1) 鮎は瀬に住む 烏りや木の枝に

わたしゃお前のはだに住む

1) 山河育ちの 此若鮎も

江戸へ下れば酒の友

1) 立川とんで出て 新宿へ入りゃ

四ツ谷の蔦屋が一息だ

立川市教育委員会．1980年．立川のアユかつぎ歌．多摩川の概要 魚と伝統漁法立川市教育委員会

■八王子市

1. 力石

とんとん昔、八王子在の恩方という村に、たいそうなお大尽がおったそうじゃ。

うつらうつらと陽気のいい、ある春の日のこと、屋敷の庭を散歩していたお大尽は、ふと、「わしの庭は、贅沢いっぱい手をほどこしたから、大いに自慢できる庭だが、どうも、なにか足らん気がする。」

と、そう思い当った。

ところが、どう考えても、なにが不足なのか考えつかんでおった。ちょうどそのとき、おかしな老婆

が通りかかった。

門から庭をのぞき込み、

「この屋敷の庭は、たいしたものだ。めったに見られん立派な庭じゃが、形の良い石がない。案下川の河原にある石を据えれば、もっと立派な庭になるのだが、惜しいことじゃ。」

という、そのまま、どこかへ行ってしまった。

お大尽はそれを聞くと、

「なるほど。」

と、うなづいた。

さっそく、庭師を呼ぶと、案下川の形の良い石を、庭に運びあげるようにたのんだ。

河原の石は、それほど大きくはないので、庭師は、三人ほどで出かけて行ったところが、三人では、びくともしなかった。

「これは、どうじゃ……。」

と、不思議に思いながらも、加勢を、五人、十人……と、増やしていったが、やっぱり、びくとも動かんかった。

庭師の親方は、

「この石は、ただの石とは思われない。なにか、いわれのある石にちがいないので、ほかの石にしたほうが、いいかもしれんぞ。」とお大尽に忠言した。

しかし、一度こうと思ったら、なかなかの気持ちは変えられんもんじゃ。おまけに、お大尽は、ひと倍執着心が強かった。

「ただの石でないというのなら、よけい、そのままにはしておけん。なんとしても、わしの庭に運びあげさせるのだ。」

という、村中に回状をまわし、

「たっぷり手間賃を出すので、石運びの加勢をしてほしい。」

と呼びかけた。

ほかならぬ、お大尽の呼びかけだし、それに、たっぷり手間賃がいただけるというので、村中総出の大仕事となった。

年寄りから、女子供まで、さらには、牛や馬、犬までかり出された。朝から炊き出しさわぎ、かけ声などでにぎわい、春の陽気に、秋の村祭りがきてしまったようじゃった。

それひけ！ やれひけ！

と、大山車を引く以上のいきおいで、太鼓や笛の応援もついた。

そして、ついに……。

六日目に、お大尽の庭に運びあげた。

「やった！ でかしたぞ！」

と、お大尽は大よろこびじゃった。

その晩は、村中に、お大尽の大ぶるまいがあった。酒、肴、お土産ものに、福引までついた。あたりまえなら、まず、これで、めでたし、めでたしと、いうところじゃが… その夜半、おーん、おーんと、庭の石が泣き出した。

泣き声は、重く哀しく、山々にこだまし、谷にひびいて、村中を駆けめぐった「夜泣きの石だ！」

お大尽も、村の人々も困りはてた。雨戸をしめても、布団をかぶっても、石の泣き声は、しみこむように聞こえてくる。村のものの中には、かやをつったりした者もあったが、これじゃ、雷除けとまちがえておる。便所へ逃げこんだ者もおったが、これじゃ、地震とこんがらがってしまう。

とにかく、耳をふさいでも聞こえてくるのは、その泣き声が、人の心の、その奥の、魂の底までもひびいてくるからじゃった。

泣き声は、一日……、二夜……、三日……、四晩……と、続いた。

村の衆は、もう、気分が衰弱し、だれもかれも病人のようになってしまった。お大尽も、ほとんど弱りはて、

「助けてくれ！」

といっても、村の者は、だれ一人、おそろしがって、お大尽の庭には寄りつかない。

「どうしたら、いいんじゃ」

と、ひとりでは、手のほどこしようもなく、困りきってしまった。

そして、石を運びあげた日数と同じ、六日目の夕暮れどき、

「今夜も、この石の夜泣きに、苦しめられるのか……」

と、おろおろと、庭をさまよい歩いておると、屋敷の前を、かわいげな童子が通りかかった。

童子は、門から庭をのぞくと、

「ひどく困っているようすが、まったく、わけのないことです。石を、もとの河原へもどせば、すべて、めでたしなのです。」

と、さらりといった。

それを聞いた、お大尽は、

「河原へもどせば、いいだろうとは、わかっておるが……、村中総出で、運びあげた石も、いまは、だれ一人、気味わるがって、運んでくれる者がおらん。」

と、打ちひしがれて答えた。

童子は、にっこりすると、

「それでは、わたしが、河原にもどしてやりましょう。」

と、いって、庭の石に手をかけた。

すると……、

あれよ、あれよ……、石は、軽々と張り子のように、童子にかかえられた。そして……、無事に、河原のもとの場所に返された。お大尽が、たまげたままでおるあいだに、童子は、河原に石をもどすと、すたすたと、夕闇の中に立ち去ってしまった。

その夜から、村は静かになり、安穏な夜を送ることができたと……。

さて、ね…。

この話には、大事な秘密があるんじゃよ。

おーん、おーん、夜泣きした石は男石で、男石の下には、ちんまり女石が埋まっとるんじゃと。

男石が、おーん、おーん泣いたのは、男石が、女石から、ひき離されたからだということじゃ。

そこで、気がついたんべえ。

おかしな老婆は、男石と女石をひき離し、かわいい童子は、男石と女石を結びつけた。

これは、むかしの話じゃないかもしれんということじゃよ。

そんなら、これで、へい、しまい。

菊地 正. 1992年. 力石. たましん歴史・美術館, 多摩のあゆみ第67号 八王子地方に伝わる民話,

7頁-10頁, (財)たましん地域文化財団

付 録 3

付録3 「五日市町ふるさとを守る会」によって実施された、食生活に関する調査

日 時 - S 62年 2月 17日
話し手 - O. Yさん 83才 (五日市町乙津)
聞き手 - T. Mさん
話 題 - 大正～昭和初期の食生活

主 食

- 白いご飯はお正月, お盆, お祭り, 来客の時位で通常は米 3, 麦 7, の割合のいわゆる麦飯である。しかも米は台湾米とか (蓬莱米) でおいしくなかった。
- ひえはひきウスでゾロ引き (皮をとるだけ) しカスを取りのぞいて米に混ぜて炊いた。(へえ米) ひえはよく干しておくとか幾年でももつので飢饉に備えてどこの家でもとっておいた。
- きび, 粟はもちきび, もち粟でお餅についたりもち米に混ぜてお赤飯や粟赤飯にした。
- 里芋を大きな鍋でたくさんゆで, その中に茶碗一杯位の醤油を入れて煮たものを朝食にした。
- 小麦をつかってウスでひき, 絹ふるいでふるってうどんをつくり毎晩のように煮込んで食べた。(のしこみうどん)

おかず

- だいたい味噌汁とおこうこ。
煮しめなどは毎日忙しいので特別な日以外はあまり作らなかった。
- 野草はタンポポ, ヤツバ, ミツバ, アザミ, タラエボ, ウドなどを食べた。特にタンポポは子供がヌキナシに一杯とってくるのでよく食べた。花が咲くと苦くなるので若いうちにとって茹でてあくをだしゴマ和えに。アザミもゆでてゴマ和え。当時は料理に味噌をよく使った。和えものもゴマと味噌でつくる。味噌はもちろん自家製であった。

子供のおやつ

- ほとんどがさつま芋。いつもたやさず茹でておいていろりの鉄器の上に並べておいた。
- なんといっても芋類が主食の足しからおやつまで主役であった。
- よい天気が続くとさつま芋, 雨の多いときは里芋類がよくできるので必ず両方を作って不作で困るということがないようにした。

保存食

- 山鳥, キジ, 兎, などを捕ってきてその肉を醤油や味噌漬けにした。
たいへんなご馳走で味噌漬けの肉を焼いて食べたらすぞおいしかったろうが, もったいないので少しづつ大根などと煮て食べた。
大根や山東菜の漬物は10樽も漬けた。
- 魚の行商も塩でかためたようなものしか持ってこなかった。

日 時 - S62年2月26日
話し手 - N. Iさん 79才
聞き手 - K. Yさん
話 題 - お小屋（おこじゅ）

お小屋（おこじゅは昼食と夕食の間の間食を意味する当地方に広く伝わる方言）

- うどん粉（小麦粉）を水でとき耳たぶくらいの固さにしホーロクで焼き砂糖醤油で食べた。
- さつまだんご。
- きぬかつぎ。
- 里芋の味噌煮。おかず用に作り残ったらおやつにした。
- 焼きむすび
- 焼きびん（塩味） — 残りご飯をつぶし小麦粉とまぜまるめ、しその葉などにはさみつけて焼く。
- さつま芋、とうもろこし、じゃが芋などその時期の作物をおやつに食べた。

子供のおやつとって特別に手をかけたのではなく家にあるものを食べた。

時間いっぱい働き、捨てる事はなく無駄にできなかった。

日 時 - S62年3月7日
話し手 - Kさん 78才（留原の生まれ）
聞き手 - A. Hさん
話 題 - 食生活について

主 食

- バクめし — 皮をとったまる麦をよく洗い五升釜で半日位ブクブクと長いシャモジでかきまぜながら煮る。その中に豆やさつま芋を入れる。 麦がとれたときのごちそう。
（おいしかった）
- ヒキ割り — そのまる麦をヒキ割り、ひき(臼)で夜なべにゴロゴロとひく。
（7：3の割合で米と混ぜる。）
- その後、押し麦ができた。

副 食

- 購入する事はあまりなく、畑でとれたものが主。その他、季節に山や野にカゴを背負って、取りに出るので、野の草が大きくなれなかったほど。
（わらび、ぜんまい、ふき、三ッ葉、八つ葉、のびる、いたんどり、つくし、ままっこ、たんぼぼ、うど他）

間食

- おこじゅ — さつま芋，じゃが芋等の作物，小麦粉で作るたらしもち。
さつまだんご，さつま芋の切り干しを煮る。

子供の食物

- いたんどり，どどめ，こぶ梨，栗，きいちご。

もの日

- 米飯は正月やもの日だけだった。
うどん，すいとん，そば等も，畑でつくり粉にひいて食べるのが楽しみだった。

調味料

- みそ — 自分で作る
- 醤油 — 作男（さくだい）が大勢のうちは，醤油樽でつくる。
（醤油屋が来ないとできないので，普通の家は買う。）

調理の道具

- いろり — 主人の座は決まっており，自在カギからつるした鍋から取り分けた。
- 水瓶 — 井戸水や川の水をためておくたきぎや杉葉を拾いにいく。

食事の道具

- 箱膳 — 一人ずつ自分のお膳を持っていて，茶碗，箸などをしまっておく。
自分のナメミソ等も入れておく。

食糧難の昭和20年頃から，いろいろな物が変わってきてチャブ台等もでてきた。
しかし昭和43年頃までひいおばあさんが一人で箱膳を使っていた家もある。

日時 — S62年3月12日
話し手 — U. Yさん 76才
聞き手 — T. Mさん
話題 — 大正時代の食生活

主食

- ヒキ割飯にうどん（すいとん）
Uさんの家は米屋（水車）だったのでひき割りごはんも米と半々の割合だったが一般では麦7，米3位であった。
弁当につめる時はひき割りは上に浮くので下の方の白いごはんのところをつめるようにした。毎日1日と15日には“あずきご飯”を炊き，豆腐のおつゆでいただいた。お客さまには紀の国屋の“うなぎ”をとってご馳走した。

副 食

- 芋の煮っころがし、味噌汁、たくあん漬け。魚は鮭（粕漬け等はごちそう。）
生魚は八王子から富田屋へ定期的に持ってくる商人がありその人から買った。
肉は鳥肉。おやつは焼きもちなど。お客には塩ものの魚などをつかった。

保存食

- 味噌漬け（たくあん）梅干し、切り干し大根、さつま芋の切り干しなど。

道 具

- へっついで薪を焚く。いろり。

おがくずをつめたくず釜。など

食料が一番貧しかったり、困ったのは終戦前後でそれに比べると大正期は豊かであった。小庄部落では今も9月頃に“お日待ち”をしているが、食べるものは全部買っているとのこと。

日 時 - S 62年4月17日

話し手 - S. Kさん 81才（五日市）

聞き手 - T. Mさん

話 題 - 大正時代の食生活について

主 食

- 米と麦5分5分のご飯だった。家によると麦7，米3の割合だった。だからここでは「半々か、ゼイタクだな」といわれた。
芋、さつま芋、とうもろこし等を一食位主食とした。他に、すいとん（煮団子）のしこみ、干しうどん、焼き餅（私市牛舎から売れ残りの牛乳を買ってきて粉に混ぜて焼いた。）
麦飯は12月1日の馬の正月につきたての麦をゴトゴトと煮て小豆と米を入れて炊いた。
押し麦は大正5～6年頃よりだした。

副 食

- 魚は八王子から源さんという魚屋が毎日天びんでかついで売りに来た（お料理屋へ来た）が普通はマスとかめざし等の塩ものであった。
佃煮をよくつかった。
季節の野菜をつかってあぶら味噌、野菜の煮物がほとんどであった。

標準的な食事

- 朝 — ひき割りめしに味噌汁、おしんこ、家でにわとりを飼っていたらタマゴなど。
- 昼 — 朝の残りの味噌汁をあたためるとか、残りのごはんを“おじや”等にする。
- 夜 — うどんか煮団子（すいとん）

間食

- おにぎりが主でさつま芋のふかしたものなど。1銭もらって“せんべい”など買った。

保存食

- 漬物が多く、ひと樽（大根60～70本入り）を3樽位漬け、中でも夏を越すたくあん漬けには塩を1樽に5～6升も入れた。

いもがらは1年中食べる程干して石油缶のような缶に入れて保存した。大根、さつま等の切り干しも作った。当時はフキがたくさんとれたのでキャラブキを大きなカメに一杯作って一年中食べた。

もの日

- （接客時）の食事

赤飯、うどん、急な客には干しうどんなど。

ご飯の場合は別鍋で米を多くして炊いた。

おかずは野菜の煮物が主である。

調味料

- 自家製はほとんどなく買って使った。醤油、味噌、砂糖（白）は病人に使うくらいで玉砂糖、黒砂糖が主で少し上等になると“わじろ”。

共同飲食（お日待ちなど）

- ダンゴ日待ち — 正月15日に女だけの日待ち。

一軒（一口）米5合を持ち寄り臼でひいてアンの入ったダンゴを作りみんなで食べたり家に持ち帰ったりした。戦後はやめてしまった。

- 神武祭 — 4月3日に1食13銭位かけて食事をした。ごはんにさんまの開き、お汁などで男女どちらでも良かった。

- 8月18日 — 観音様の祭礼の勘定のとき。

調理食事道具

- かまど、へつつい、くず釜（おがくず）

燃料は薪、けし炭をつくった。チャブ台を使って食事し、オハチ入れ（藁製）は軍道紙を貼った。

参考

- 肉は大黒屋（今の箒屋のところ）まるしめで売った。
馬肉（さくら）をよく食べ20銭買うとかなりの量があった。
- 牛飯が明治末期～大正にかけてはやった。
（牛肉とネギを甘辛く煮てご飯に乗せる）
- おそば一人前15銭位だった。
- 米は大正5年ころ1斗1円85銭～1円90銭位。
大正8年頃は2斗で5円だった。当時は石川屋で売っていた。
- 粉は5貫匁袋で2円80銭（奴印）と3円（七福神印）であった。

日 時 - S62年4月18日
話し手 - Kさん
聞き手 - Y, Tさん
話 題 - 食生活について

主 食

• 麦7米3の割合

麦は水車でついたものをひき屋で押し麦にもらう。

ひき割りは自分の家で臼でひいた。水車は久保川原に5個かかっていた。主に糸より（より屋）に使ったが2個は米や麦をつく（つき屋）に使った。

副 食

• 購入はほとんどなく自分のところのできるもの、野菜が主だった。

味噌汁、漬物、煮物、くらい。 たまに鮭、めざしを買った。

（1年ひね、2年ひね、3年ひね）漬物もたくあんが多かった。

ひね=古くなったという意味。

間 食

• 午前（10時ごろ）をお茶といい、午後はおこじゅ（昼食と夕食の間2時半～3時ごろ）さつま芋、もろこし、粟、きび、を粉にしだんごにした。

ない時は麦飯を食べた。

水 — 食事も風呂もわき水を竹筒でひいてきてかめに溜め下方（したかた）5軒が共同で使った。

燃料 — 薪 — 女の仕事、（雑木を折ったり拾ったりして集めた。）

もの日の食事 米飯

- うどん — 真黒なもの（精製されていないので）
- そ ば — 血圧に良いというので今でも近所で作って持ってきてくれる。

調味料

- 味噌 — どこの家も自家製
- 醤油 — 大きな農家は自家製
- 砂糖 — 買ったもの黒砂糖が主。割合手に入りやすかったが、ほとんど使わなかった。
- 塩 — 買ったもの。

調理の道具

- いろり=煮炊き、湯などほとんどこれでした。
てんぶらなどは全く出来ず食べたことはなかった。

かまど=板と粘土で作った

（刈寄にある土で火にあたればあたるほど丈夫になった）

食事の道具

箱膳

- 低いものと足が付いた高いものがあった。

蓋がしまり、各自食器を洗わず最後に湯や茶を飲んでそのまましまった。

戦後ちゃぶ台に変わった。

日時 - S62年5月18日

話し手 - O. Tさん 66才（盆堀）

聞き手 - A. Hさん

話題 - 昭和20年代頃までの食生活

主食

- 7：3の麦飯から5：5の麦飯へ。少人数のところは鍋で炊いた。

米飯にさつま芋をさいの目に切って入れる。

それは一日一回位であとの2回はうどんやすいとんにする。

副食

- 野草（たんぽぽ、あざみ、三ツ葉、よもぎ、いたんどり、ままっこ（花いかだ））
- ウナギ — 盆堀川で仕掛けをしてとる。
- ムジナ — ワナをかける。土くさい。
- 人参、ゴボウ等も特別な日のために土にいけて保存しておく。
- うさぎ、山鳥、切り干し。

昭和23年の結婚式

近所の人がさつま芋で羊羹、きんとんなど作ってくれた。

正月にはアワ餅をついた。

お茶

- 今でも5月末から茶摘をする。（数軒）

木枠の内に土を厚く塗りその中で炭をおこして、ほいろ（軍道紙）の上でもむ。

お日待ち

- 宿をきめ当番制でだんごなどのごちそうを作る。

昭和40年代にとだえてしまった。

男性のお日待ち

杉きり — 木材業者が山を買い、杉を切り出す。

山をいくつかに分けて区切り、杉を切る人は場所をくじ引きで決める。（切りにくい

所もある。) 仕事が全部終わったとき、報酬からお金を出しあって餅つきをし、大福を作ったり、酒を飲み歌を歌ったりした。

調味料

- 味噌 — 醤油樽で2本作ると1年もつ。
- 醤油 — 盆堀では5～6件の家を作っていた。(醤油絞りが来ると見物に行った。)

道具

- 昭和25年頃、箱膳からチャブ台になった。

水

- 井戸は数ヶ所しかなかった。(つるべでくみあげ、家の水ガメにためておく。) 川から朝・晩くむのが日課で風呂水をとりかえる時は大変だった。

日時 — S62年6月6日

話し手 — O. Sさん 78才(五日市町)

聞き手 — T. Sさん

話題 — 昭和初期の或る商家(洋服屋、職人が数人いた。)の食事

○米飯 — 麦ごはん 麦3米7 又は 半々

- 朝 ごはん 味噌汁 野菜の煮物
- 昼 ごはん 1 — 茄子といんげんの油いため(味噌)
2 — がんも、厚あげ

1は若い人に特によるこばれ多量に作りました。

- 夕 ごはん 魚類(魚太さん)

たまに鮭または鱒。これはたいへんなごちそうであった。

- 夜 おしのぎ、すいとん、おやき、酒まんじゅう、商売がら夜なべいわゆる残業はつきもので必ず夜食のものを準備するのもお嫁さんのまかない方の一つでした。

煮物(甘辛い、かなり正油の味の濃い目。)

里芋、じゃが芋、大根、人参、がんも、厚あげ、豆腐。

○豆腐屋

かなり多数の店があったが東屋さんが距離的にも近く又評判もよく、よく利用しましたがこれは現在の東屋さんの主人筋の本店の事です。

○寿美屋のうどん

葬式の時は特にうどんを利用することが多く人寄せ、集まりの時の献立はうどんが主でした。八王子からこの五日市に嫁いで来たのですがこれは非常にめずらしいことでした。この地方独特の献立でした。

五日市の目抜き通りに店をだしている洋服屋さんで現在と違って、いわゆる既製服はなく、ほとんど注文服でかなり繁盛していた。仕立服の洋服屋さんで、その為何人もの職人さんがいて20才（兵隊検査）までは丁稚奉公という訳で無給だけど食事だけはひもじい思いをしないように充分準備していたそうです。当時は箱膳でそれぞれ各自で仕末していたそうです。（茶碗、汁わん、皿、箸、等）

- Oさんは八王子から嫁いでこられたからかなり都会的な味で職人さんからも料理の味つけが喜ばれ、はりきり若奥さん時代を楽しくお話していただきました。

日 時 - S 62年 6月18日

話し手 - I. Kさん 83才（五日市町）

聞き手 - T. Mさん

話 題 - 昭和初期の食生活

主 食

- ふつうは5分5分、来客の時は7分3分の割合い。
麦はヒキわりでバクメシは食べなかった。
- ごはんの足りない時には芋の煮たもの等を食べた。
- かてめし — 五目めし、ちらし
- うどん汁
- そばのどじょう汁 — そば粉とうどん粉少々をこねてのし、それを広く切り菜っ葉やひば（大根葉を干したもの）と味噌仕立てにして食べる。そば粉のほうが安いので多く使う。酒粕を入れることもある。夕食等に食べたがとてもおいしかった。

副 食（間食）

- たらしもち、おにぎり、なりもの。
- そばがき — そば粉をカマスで買っておき山仕事等から帰ると鍋いっぱいかいて食べた。そば粉はよく食べた。
- 魚は当時は「よこね」を越えて売りにくるがたまにくるだけ。さんまなどは暮の「市」で買った。塩マスは、塩にうまって3～5年もたっているかと思われる品でカマスで買っておいてお弁当のおかずにした。

- なめ味噌

保存食

- 漬けものが主で大根の切り干しや芋からなど自家製の味噌の中へたくあんを入れて置いて味噌漬けとし、具合の悪いときやお産のとき等に出して食べた。

もの日

- うどんを打つ
- 赤飯一粟やきびも混ぜて炊いた。
- まんじゅうも砂糖が手に入らなかったので塩まんじゅう。
当時五日市の富田屋のまんじゅうは甘いあんだった。

お日待ちなど

- おくまん様（熊野神社がある）にI家（林業家）へ子供を連れて皆でいってあずきがゆ等をごちそうになった。（当時はIさんへ働きに行く人が多かった。）一日働いて40銭位、50銭とれば「タラシモチだ」などといった。
- つらぬき一お日待ちなどの会費や分担金のこと。

調味料

- 醤油も味噌も自家製。醤油は、しぼり手が来た。

調理道具

- くず釜 — かまど（へっつい）木ひろいが大変だった。

食事の道具

- お膳でみんなで食べた。箱膳は高くてなかなか買えなかった。当時おじいさん、おばあさんは箱膳を使っていた。一週間に一度位しか洗わなかった。よごれるといろりの灰でアクをだして洗った。

（Iさんの話）

今の者はパイキンをこわがることね。パンも3日もおくとカビがでるが昔は餅が真っ青にカビたのを包丁でけずって食べた。それがまたこうばしくて特別おいしかった。

日 時 — S62年8月4日

話し手 — T. Yさん 63才（五日市町）

聞き手 — O. Tさん

話 題 — 昭和初期の食生活

主 食

- 主に大麦でヒキわり（米2：麦8）の割合で食べていた。
もの日、1日、15日、28日、等の時はうどんを打ってそれがこちそうであった。時には小豆飯等も

食べていた。麦は皮そのまま石臼でひいた。 — この仕事は女の仕事の一つであった。

副 食

- 干物（めざし等，行商が自転車で回っていた。）

増戸地区は平野の土地が多かったので野菜などは全部の家で作っていた。

主に人参，ごぼう，芋類であった。大豆もとれたので味噌，醤油は自家製であった。味噌はもろみを作り，醤油はこのもろみを作っておいて一年に1回位の割合で醤油屋が回ってきて機械でしぼり，これを沸騰させ（火入れとも言った），醤油を作り保存した。時にはするめ，みがきにしんを北海道方面からまとめて購入し蛋白質源とした。正月には餅をついたが主にあわ，ひえが多く米の餅もほとんどが陸稲（おかぼ）で田餅は少なかった。これを沢山作りかめに入れ水餅にして保存した。

間 食

- たらしもちが多く，酒まんじゅうもあったがこれはもの日に作った。
（たらしもち — 小麦を溶いてせんべいのようにうすく焼き醤油などをつけて食べる。）
そのほか，さつま団子（さつま芋の生を乾燥させ粉にする。）乾燥芋などである。
- 大根の切り干し，芋がらは保存食に使った。

食 事

- 箱膳を使用した。これは一人一人が食事のあとほとんど洗わないで湯又は茶を入れてそれを飲むようにしていた。井戸を4～5軒の割合で使用していたので水は大切に使った。食事時の家長の位置は東向に座っていた。

その他食生活とはあまり関係がないかもしれませんが，収入源として養蚕をやり繭を作り生糸にしたり，糸を染めて黒八丈を織っていた。織機はほとんどの農家で所有していた。また女の仕事として農作業のかたわら，糸をつむいだり冬は薪をとりに行き秋は落葉を集めた堆肥作りをしたりよく働いた。

日 時 — S62年8月5日

話し手 — K. Kさん 70才

聞き手 — Y. Tさん

話 題 — 大正～昭和初期

主 食

- 麦10に対し米1の割合。

麦は踏みがらでついて臼で引いた。

ヒキ割りになった麦は主食，残った粉はさつま芋の粉とませ団子にした。

副 食

- すべて自給で芋や野菜を煮たものが多かった。
- 味噌汁
- つけもの
- ねぎみそ（ねぎを刻んで味噌と混ぜご飯につけて食べた。たまにかつおぶしを加えることがあった。）

間 食

- きゅうり
 - かぶ（今とは違い短い大根のようなもの）
 - いたどり、きいちご、おおばこ、どどめ、ままっこ。
- }味噌をつけて食べた。

保存食

- ひば — 大根の葉の干したもの。
- 切り干し大根
- さつま芋。切って干して粉にしたりそのまま煮たりした。
- とうもろこし、粉にした。
- よもぎ

もの日

- 赤飯
- うどん
- 煮しめ（人参、ごぼう、さといも、こんにゃく）
- めざし（1年に数回のみ）

調味料

- 味噌、醤油は自家製。
- 砂糖，黒砂糖はめったに使わなかった。
- 塩，かますで買った。焼き塩として使った。

調理の道具

- かまどといろりを併用した。
- 薪 — 1月の七草がすぎる頃から5月までと、10月のころで1年分の薪を拾った。天気の日が薪拾い、雨の日は洗濯。

食事の道具

- 箱膳 — 子供の頃から自分の物は自分で洗い戸棚にしまった。
場所がきちんと決められていた。

弁 当

- さつま芋や八つ頭をふかしそれを新聞紙にくるんでもって行った。
- めんば — うるし塗りの木の器。

その他

- お産の時 実家からお祝いとしていもがら、かつおぶし、米一升をとどけた。

日 時 - S62年 8月 6日
話し手 - N. Tさん 61才
聞き手 - K. Yさん
話 題 - 大正4～5年頃のお話

(N. Tさんの子供時代の様子)

生家は水車をして米、粉をつき売る商売。 共和尋常高等小学校卒業。
比較的裕福な家庭で父親はイナセな感じの人。引田出身。

主 食

- 引き割，米5：5。
そのころ普通の家は3：7
(ヒキ割一升米三合をソト七割ウチ三割)

副 食

- 味噌(ねぎ味噌，かつ節味噌)
しゃけ(上の方から吊して下の方から切って食べた。)
けんちん汁(鳥のガラをナタのミネでつぶし小さなダンゴにし大根，人参，里芋，といっしょに醬油味。)
•鳥は飼っている家が多くよくつぶした。

お小屋 おやつ

- たらしもち(小麦粉を水でときホウロウで焼き砂糖醬油をつけて。)
•ふかしいも(その時期にとれた野菜の煮物など。)

調味料

- 味噌，醬油は売っていたのでそれを使用した。

正月

- ビスケットを年始に持って行ったりもらったり。
•三ツ組(ふた付きの瀬戸物の入れ物)にかずのこ，きんぴら，ごまめをたっぷり入れいつでも食べられる様にしておいた。(馬方が来るため)

祭

- 8月1日の祭りの時2銭でかき氷を食べた。何よりの楽しみでおいしかった。酒まんじゅう，うど

んがごちそうだった。

(毎月「1日、15日だからうどんにしよう。」と言ひ、28日にはキガラチャ<醤油ごはん>を炊いて神棚にあげた。)

弁当

- ふかしさつま芋、とうもろこし、正月は餅。

(ほとんどの子供は家に帰って昼を食べたが遠くの子供は上記の物を持ってきた。N.さんの家ではご飯によその家より米が多く入っていたのでそれを持っていくといじめられた。)

葬式

- 大きな釜でご飯を炊いた。(おこげができるので醤油をまぶしておにぎりにした。すると子供がアリンコのようによってきてねだった。)

うどんを打った。

- かて — お葉、その時期の野菜。

切りイカ (ホウロウで炒って醤油と砂糖味)

佃煮

味噌汁

つばねばあさん

- 布団の固くなった綿を手でつばねて作り直した。(打ち直し)

修学旅行

- 高等1～2年の時

月謝 (20銭)

旅行費用 (5円)

江ノ島、鎌倉で女子 (2人) が少なくてイヤだった。

東京見物

- 明治神宮参拝。銀座。

(朝3時に起き、渡し (2銭) を通り福生へ。そこから汽車で。神宮では屋根にお金がささっていた。銀座で大正琴を売っていてとてもほしかったので買ってもらった。5円した。)

病気見舞い

- 上等な病気見舞いは白砂糖を持っていった。(はなみ、玉砂糖、黒砂糖)

日 時 — S 62年 9月 14日

話し手 — T. Aさん 78才 (戸倉)

聞き手 — A. Hさん

話 題 — 大正～昭和初期の食生活

主 食

- バクめし — 子供の頃は、まる麦を食べた。
- ヒキ割り — 石臼でひいてヒキ割りぶるいで大、中、小に分ける。中、小を食べて大きいのは日光にあて、また石臼でひく。
- 押し麦 — 昭和初期にでき、米と麦の割合はだんだん米が多くなってくる。
戦争になり直後には米の配給がなくなりそのかわりに、大きな缶詰スープや一斗缶の砂糖が配給になった。

副 食

- 大麦、小麦、じゃが芋、さつま芋、陸稲、アワ、ヒエ、大豆、小豆、野菜類、いろいろなものを作ったので自給自足の生活であり買わない。魚はめざし、ひらきなどを天びんで売りに来た（魚太）。豆腐屋はたくさんあった。
- いたんどり — 四斗だるのぬかみそにつける。お茶うけにおいしかった。
- たんぼぼ — たくさんとり大釜でゆで半日さらし、ごまよごしにした。ままっことも同じ（戦争中のお話か？）
- 庭豆（大豆） — 畑のように柔らかくなく、かたい庭でも大株になった。

もの日

- うどん（煮込みではない）
- 煮物やまんじゅうなどを作った

保存食

- たくあん、梅干し。あまり保存はしなかった。

お日待ち（盆堀は多かった。）

- 何かにつけ集まり、食べながら相談をしたり娯楽の変わりにして村をまとめた。
おかゆのお日待ち、小豆がゆのお日待ちなどもあった。

調味料

- 味噌、醤油は作った。
- 醤油 — 小麦が食糧の他にとれなければ作れない。（肥料の工夫）
盆堀川の水車で皮をとり、こうじ屋（マスキ屋）に持っていき、小麦こうじにしてもらい醤油をつくる。塩は、梅がたくさんとれたので塩と交換した。
（戦争中、ないしょで幾重にも包まれてきた。）

道 具

- いろいろのそばで箱膳〈一式持ってお嫁にくる〉を使った。
（昭和25年位まで）水瓶 — 共同井戸から（つるべ）くみ、水瓶にためておく。
（現在86才のおじいさんのお父さんがハシゴを背負って八王子まで買いに行った。）

日時 - S62年9月14日
話し手 - T. Nさん 76才(五日市)
聞き手 - T. Mさん
話題 - 昭和初期の食生活

主食

- 昭和2～5年は不景気で主食の内容がとても悪かった。(当時は小宮村乙津に在住, 17～18才頃 麦ぞつきか麦7, 米3の割合(麦はヒキ割)ヒエ(餅にした)粟, キビ, もろこしなどもご飯に入れた。
バクめし — 味噌にしその葉をきざんでまぜたものをバクめしに入れて食べた。
- 昭和7年に結婚し(21才)五日市町東町に住むようになってからは麦が少し入った程度のご飯だった。
(当時米1俵9円, 豆腐1丁3銭)
かてめし — 今の五目ごはん, 当時は芋がら, 人参, ごぼう等を入れた。もの日のごちそうだった。
朝 — 麦入りのご飯, 味噌汁, 漬物。
昼 — ご飯, 豆腐など。よく茄子と豆腐を煮て食べた。
夜 — ダンゴ汁, のしこみうどん, 芋類, そばがき。
- もの日の食事はかてめし, うどん, 赤飯, おかずは煮物で生ものは全然なかった。

間食

- 芋類, とうもろこし, サツマダンゴ, おなかがすけばにぎり飯。

保存食

- 多くはたくあん漬け。実家ではお世話人(仲人)をたくさんしたので暮れには塩鮭を何匹ももらった。これを雪の中へ埋めておいたりムロの中へ入れておいたりして一年中食べた。

○子供が食事以外に食べたのは上記のような家でとれたもの。

なりもの等でお金は使わなかった。

○共同飲食お日待ち

1月25日に天神講というのがあった。当時は処女会というのがあり, 会員の若い娘たちが朝から出てお米を引いてダンゴを作り売った。戸倉や檜原から若い人が大勢来て買った。また大根, 人参, 芋がらなどで‘白あえ’などを作り飲んだり食べたりした。参加者は老若男女, 作るのは娘たちであった。

(乙津地区で五日市へ移ってからはやらなかった。)

魚は11月20日のえびす講にサンマを食べるくらいでふだんは塩物。

調味料

- 娘時代は醤油，味噌とも自家製。結婚後は買った。

調味の道具

- いろり，かまど。五日市へ来てからは土釜（炭をつかう）を使った。

食事の道具

- 結婚前は箱膳。後はチャブ台。

○当時回ってきた商人

- 魚屋
- ところてん売り — 3 銭。
- 小間物屋 — 針仕事用品，ザンザラ（髪飾り），くし，髪油等。
- アメ売り — 頭の上ののせて売り歩いた。
- ゴゼ — 5人位が組になって来た。Tさんの実家は大きい家だったので宿になり，近所の人たちが皆聞きに来た。
- アンマ — 三本木（Uさん宅）を宿にしてあちこち回った。

○Tさんの実家は製糸場で村山大島の糸を作っていた。

○結婚当時家賃は月額6円，地代は3銭。

日 時 — S62年9月21日

話し手 — T. Mさん 79才 （S6年結婚）（五日市町養沢）

聞き手 — T. Mさん

話 題 — 昭和初期の食生活

主 食

- 押し麦2合，米8合の割合。
- 家で小麦をひいて茹でまんじゅうやのしこみにして食べた。ヒエをついてもち米とませ餅にキビ，粟，モロコシも作ってみな餅にして食べた。
- 家族がとてもお餅が好きだったので家でウスをひいてはつき餅を作るので，その仕事が大変だった。
- バクメシは食べなかった。

朝 — ご飯に味噌汁，野菜の煮付けなど。

昼 — ご飯に魚など，五日市入野の人が10日目位に売りに来た。塩マス，めざし，ひらき。

夜 — 麺類，夏は茹であげ，冬はのしこみで。

間食

- 家でとれたもの、お餅をよく食べた。
- 子供は芋類、とくにさつま芋をよく食べた。

保存食

- たくあん漬け、味噌漬け、梅漬け、こんにゃくも家で作った。

もの日の食事

- 赤飯、五目めし、うどん、その他、よく餅をついたりした。とにかく女の人はいそがしかった。

共同飲食

- お日待ち（女日待ち）
2月の初午にまわり番で米をウスでひいてダンゴを作って食べた。4月には草餅（日は決めないで）
9月にもやはり日を決めないで皆の都合のよい日にダンゴ日待ちをした。
昭和15年位までやっていたが食糧難などで自然にやめてしまった。
- 男性は杉きりが一山終わると仲間たちで大福餅を作って一杯やった。
Yさん宅はよく宿をした。

調味料

- 味噌は自家製（大豆は家で作った。）
- 醤油は買った。

調理の道具

- いろり、かまど、（フク釜というのを売りにきたので買って使った。薪を使う。）

食事の道具

- 箱膳を使った。
チャブ台は昭和8年ごろ。子供ができて一緒に食事をするようになってから使った。
おじいさん、おばあさんは箱膳を使っていた。

○山の‘さず’へ作物をつくる。

木を伐採したあとを燃やして、植林した苗の間へキビ、粟、小豆などをつくる。植林した苗が大きくなるまでの2～3年で畑よりも良いものができた。

○生家（日の出町三沢、現在は館谷）には水車があったのでらくだったが婚家ではなかったので、臼を引く仕事が一番辛かった。

日時 - S 62年 9月25日
話し手 - T. Sさん 79才 (戸倉)
聞き手 - Y. Tさん
話題 - 大正～昭和初期の食生活

主 食

- バクメシ — 麦をついて粒のまま豆などを入れて二日間煮る。
柔らかく (インゲン豆) とてもおいしかった。
麦味噌をつけた。ヒキ割10に対して1～2の米。ふだんはほとんど麦だけのもの。

副 食

- 味噌汁と漬物と季節でとれた野菜を生や煮たりして食べた。自給自足。
- 塩マス — たまに買って食べた。とても塩辛かった。
- 豆腐 — たまに食べた。今のようにではなく固く箸にさして持てた。
- 冬の味噌汁の中身は大根の葉をゆでて外で凍らせ干したものを入れた。

おこじゅ

- さつま芋, ジャガ芋, 梅干しに砂糖, いたどり (塩づけ)
あぜに (あざみ) 八つ葉, 三ッ葉をゆでみそあえ, おおぼこ, ままっこ, きいちご, とどめ, つばな (みご)。
ヒエ, 粟, えぞっぺい, きびは粉にして餅にししたりダンゴにした。

保存食

- つけもの, うめぼし。

もの日の食事

- うどん — 真っ黒いもの, 煮込み。
- 正月 — もち米, あわ, とうもろこし, きびの餅を作った。煮物, 人参, ごぼう, こんにゃく, 芋。
- お盆 — まんじゅうを作った。

衷 講

○一年中で一番楽しい食事

- 丸ざんま — さんまの目と尾を串でさし, 丸く焼いて食べた。
一回で食べるのがもったいなく何回にも分けて食べた。
- 煮物 — 人参, ゴボウ, 芋, 大根。
- 小豆ご飯 — この日だけ麦の入らないごはんが食べられた。

調味料

- 醤油, 味噌は自家製

- 砂糖，黒砂糖，玉砂糖は砂糖のない時，てっぼう玉を変わりに入れた。5厚で2個。
塩 —— かますで買った。

調理の道具

- いろり（ヒジロ）いつも鉄なべがかかっていた。

食事の道具

- 箱膳 — 10日に一度くらいしか洗わなかった。

その他

- よもぎ — ゆでてほしたものを風邪をひくと米に混ぜて食べた。（風邪に良いということで）
- 梅干し — 頭の痛いとき額にはった。
- きゅうり — 輪切りにしあつけの時に，頭や足やお腹にのせた。

あつけまじない

あつけまじない師がきて傘に水をかける。洩る傘で身体が濡れそれが乾くとあつけがなおる。傘のない時は衣類に水をかけそれを身につけ乾かす。

夷講

夷様にあげたものを親が一口食べて釜に戻しそれから皆に食べさせた。
嫁に行って出戻らないように。

お産のお祝い

米，かつおぶし，いもがら。いもがらは女の人の血の道によく効き産後の悪い血を全部だしきれいに
するということから祝いの品とした。

日 時 — S 62年10月22日
話し手 — T. Tさん 81才（盆堀）
聞き手 — A. Hさん
話 題 — 大正～昭和初期の食生活

Tさんは小宮の寺岡に生まれ，昭和3年23才の時に結婚。ご主人は盆堀で当時炭焼きをしていた。小姑が6人もいた。お産の後も2,3日休んだだけで山にたきぎを取りにいっ程よく働いた。子供は8人。

主 食

- 麦8，米2か麦7，米3の割合。麦はヒキ割。

うどんは毎日ではなく、たまに煮込みうどんにして食べる。

バクメシもおいしかった。

- 冷や汁 — 味噌とゴマをすって水でのばし、バクメシにかけたり味噌汁のように飲む。

副食

- 塩につけたマスをかますで買って置く。

おこうこや梅干し。

その他畑でとれたもの。

もの日には

- きんぴらや煮物、こんにゃくを作る。魚太のめざしなどを買った。
うどん。

- だんご — ひえだんご、さつまだんご、小麦だんご、米だんごと種類がある。

- マユ玉 — (お蚕神様)

1月14日に米だんごをつくりつげの木にさし(16個だけはあんを入れる。)引き臼の穴にさし、15日にお膳をつくり16日に下げる。

- えびす講 — 1月20日茶わんにごはんを高く盛り付け煮物とけんちん汁、おかしら付きの魚(本当は鯛であるがサンマなどで代用する)のお膳をつくる。

調味料

- 味噌は今でも作っている。あとの調味料は購入。

大家族だったので一ヵ月に醤油樽1本使った。

保存食

- たくあん、山東菜など、川の水で洗い100株も漬け保存した。梅干しも。

〇いろいろには、自在かぎがある。(おかまさまと呼ぶ)

膳棚があり、そこに各自の箱膳をしまっておく。時々洗う。

ちゃぶ台は檜原で買って背負ってきた。普段は使わず接客時や近所に貸したりした。

大病したとき、山羊の乳をしぼって含んだ。

日時 — S62年11月2日

話し手—M. Yさん 86才(五日市)

聞き手—O. Tさん

話題 — 昭和初期の食生活

昭和4年11月、東京、本郷より転入。五日市町小和田に約6ヵ月後五日市町に移る。公務員だったの

ですべて食物は購入した。

主 食

- 米9，麦1の割合。3食米飯でうどんなどは自分で打てなかったのほとんど干しうどんを買って食べた。後の戦争中は習って自分でも作った。

副 食

- 味噌汁と漬物，魚（魚屋は現在いなげやあたりに魚又商店があった。）は毎日買って食べた。
ライスカレー（肉は長瀬屋で10～20銭位で買った。）

おやつ

- ビスケット，せんべい，芋類。

保存食

- 大根の切干，梅干し，さつま芋の切り干し。

もの日

- 五目めし（ちらし）

調味料

- 醤油，味噌，砂糖。他に副食（おかず）は生鮭のカツ。じゃが芋のコロッケ，じゃが芋のオムレツ。

調理の道具

- “へっつい”で米を炊いた。
風呂の消し炭で七輪で炭，練炭はいつもおこしていた。

食事の道具

- 丸いお膳で（おりたためる）食べた。

上記の買物は五日市町東町の石川屋でほとんどを購入した。現金でなく帳面で買い適当に分割して支払った。

毎日のように御用聞きが来たので，現在のようにでかけることがあまりなかった。

日 時 - S62年12月16日

話し手 - T. Kさん 76才（星竹）

聞き手 - A. Hさん

話 題 - 昭和初期の食生活

明治45年小宮生まれ。昭和16年に結婚。子供7人。当時しっかりしたお姑さんがいて大百姓だった。その前は，使用人が50人もいた。材木の仕事だった。

主 食

- 麦一升到米2合の割合。

バクメシは五升釜で半日煮る。

小豆やいんげんなどを入れ、味噌をそえて食べる。麦は皮つきのまま、30俵くらい入る木の箱に保存し家の下の水車で6升くらいずつついた。

今日のは(な)めっこくつけたからバクメシにしようと作った。

副 食

- かつ節味噌、漬物、にんじん、ゴボウ、大根、芋などの野菜類。
めざし、さんまも時々買う。

保存食

- たくあんは1年中食べるくらい漬けた。
梅干し、大根、さつま芋の切り干し。

もの日

- 米飯、赤飯、さつま芋赤飯、きびもち、うどん、ちくわ、生揚げ、まんじゅう。

調味料

- 味噌、今でも作る。
- 醤油、昭和30年頃まで作っていた。
星竹では5、6軒作る家があった。
小麦を6～9斗位八王子の麴屋に持っていく。小麦麴と塩をませ樽に入れ1年ねかせる。
平井から道具を持ってしぼりにくる。
- 樽 → ふねに移す→麻の袋にいれる→きりんというしぼり機にかけ上下から押す→釜で煮る→一晩
さまして保存瓶に入れる。(今も樽と瓶がのこっている。)
- 塩はたくさん買った。(かますで)
- 砂糖、玉砂糖。

調理の道具

- 水 瓶 — 雨が降りそうなときは急いでくみおきした。
- 流し台 — 20年くらい前まで低い木のワクの流し台でかしこまって皿など洗った。

食事の道具

- 箱膳 — それぞれのお膳に茶碗、汁椀、小皿、箸など入れておく。
味噌とおこうこなど自分用に入れておく。

間 食

- おこじゅ
さつま芋、じゃが芋。

鍋に山盛りにして蒸かすので鍋の蓋の変わりにおけをかぶせて蒸かした。そのころ畑には今と違っ

て何千本もさつま苗をさした。

その他の食物

- せり — 佃煮にして食べた。

星竹には今もせりがでて、よそからも摘みにくる。

たんぼぼ、ままっこ、八つ葉、わらび、ふき。

途中からこの聞き取りに加わった隣のY. Uさん（大正10年生）の話。

私がか子供の頃玉砂糖を新聞紙にくるんでなめながら遊んだ。

お日待ち

- 天神講 1月25日に地区の集会場で行う。

当番の人が米を集めウスで粉にし餡の入ったダンゴにして人数分に分ける。

（女性のみ参加）

T家では昔から茄子だけは作らない。今でも。

ナス — 私市姓

きゅうり — 荒井姓，^{ドシダ}土土田姓

五日市地区－食物調査聞き取り集計(合計20例)

主 食

A ひきわりめしが基準

イ) 米と大麦の混合割合

米	—	0	1 * ¹	2 * ²	2	3	5	7	8	9
麦	—	10	10	10	8	7	5	3	2	1
頻度	—	2	1	1	2	4	4	1	1	1

*¹ 1 : 10とは麦1升到米1合の割合

*² 2 : 10とは麦1升到米2合の割合

米3麦7および米5麦5を中心として放物線を描く。

ロ) 混合割合と地区

五日市の周辺盆堀地区は麦が多く、五日市市街地又の非農家は米が多い。

ハ) 麦飯の変せん

バクメシ — 丸麦を煮る(豆やさつまを混ぜることが多い) 3例。

↓

ひきわり — 臼であらびきする(自宅で引く例が多い)。

↓

押し麦 — 押しして平たくする。つき屋にたのむ。大正5, 6年から、一般には昭和初期から。

B 米麦以外の主食

3食のうち1回くらいは米麦(めし)以外のものを食べるが多い。

イ) うどん(煮込み) すいとん(煮団子)

ロ) 芋類(蒸かしたさつま芋, 里芋, 八つ頭) → 弁当にもする。

ハ) そばがき(そば粉が比較的安かった。)

ニ) 餅, 粟餅

ホ) 雑穀(飯のなかに入れる) ヒエ, アワ, キビ, モロコシ等。

C もの日の主食

米だけの飯, 赤飯, 小豆飯, 五目めし, 餅, うどん(煮込まない), そば。

(葬式にうどん 祝儀にそば)

D その他

イ) かて飯として混ぜるのも干葉(ひばだいこん) ずいき, 豆, 芋など。

ロ) 3時のおこじゅに主食に近いものを食べる。

副食

味噌汁と漬物が基準

A 頻度の多い順に書くと

- イ) 野菜類 (菜, 大根, 茄子など) 芋の煮たもの, 豆.
- ロ) 味噌 (なめみそ) ねぎ, 時にかつぶしなどを入れる.
- ハ) 豆腐とがんもどき.
- 二) 魚 (マス, サケ, めざし, さんま, にしん, など).

豆腐や魚はご馳走の部類でたまに食べる。町内の非農家の方がよく食べる。農家は自給自足意識が徹底していて副食に金をだしたがない。(養蚕農家ではお手伝いの食事もあってマスなどを買った)

その他

- イ) 野草 いたどり, たんぼぼ, ままっこ (はないかだ)
よもぎ, あざみ, 八つ葉, 三つ葉.
- ロ) 野鳥 やまどりなど (まれに) 野兎
- ハ) 梅干し
- 二) 山羊乳

B もの日のご馳走

きんぴら, 豆腐, こんにゃく, 煮しめ (人参, ごぼう, 里芋, こんにゃく).

煮しめは人寄せの基本的なご馳走.

老人のいる家では人参とゴボウを畑の一隅に必ず作ったといわれる。(葬式に備えて)

(集計責任 石井道郎)

多摩川流域における魚類民俗に関する研究

〔研究組織〕

代表研究者 秋篠宮 文 仁

(財)山階鳥類研究所総裁 (アジア魚類研究会)

共同研究者 秋 道 智 彌

国立民族学博物館教授 (アジア魚類研究会)

安 藤 達 彦

東京農業大学助教授 (アジア魚類研究会)

石 井 道 郎

アジア魚類研究会

漆 戸 登宇世

(財)進化生物学研究所 (アジア魚類研究会)

緒 方 喜 雄

アジア魚類研究会

多 紀 保 彦

東京水産大学名誉教授 (アジア魚類研究会)

宮 田 満

アジア魚類研究会

「^{たまがわりゅういし}多摩川流域における^{ぎょいみんぞく}魚類民俗に関する^{けんきゅう}研究」
(研究助成・A類NO. 172)

著者 ^{あきしのみや ふみひと}秋篠宮 文 仁
発行日 1997年3月31日
発行 財団法人 とうきゅう環境浄化財団
〒150 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)
TEL (03)3400-9142
FAX (03)3400-9141
